

秋田県文化財調査報告書第108集

東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅸ

——妻の神Ⅲ遺跡——

1984・3

秋田県教育委員会

東北縦貫自動車道発掘調査報告書IX

——妻の神Ⅲ遺跡——

秋田県教育委員会

序

東北縦貫自動車道建設に伴う発掘調査は、秋田県教育委員会が日本道路公団の委託を受けて記録保存を目的に実施しているものであります。昭和54年度から昭和56年度までは鹿角市が対象でしたが、昭和57年度からは小坂町を対象として発掘調査を行っております。

鹿角市ではこれまで34ヶ所の遺跡、発掘総面積 154,435 m² におよぶ調査を行いました。本報告書は昭和56年度に実施した妻の神Ⅲ遺跡の調査結果を収録したものです。この報告書が鹿角地方の歴史解明と文化財保護に広く活用されることを望むものであります。

最後にこの調査に御協力いただきました顧問、専門指導員、日本道路公団、鹿角市、同教育委員会ははじめ関係各位に心から感謝の意を表します。

昭和59年3月

秋田県教育委員会

教育長 齋藤 長

例 言

- 1 本書は、東北縦貫自動車道建設に伴い消滅する遺跡の記録保存のため、秋田県教育委員会が昭和56年度に発掘調査を実施した10遺跡のうち、鹿角市花輪字妻の神6番地他に所在する妻の神Ⅲ遺跡の記録である。
- 2 妻の神Ⅲ遺跡については、現地説明会や埋蔵文化財報告会等で発表してきたが、本報告書を正式のものとする。
- 3 本遺跡の発掘調査に際し、次の諸氏から御教示を賜わった。記して謝意を表する。
秋田大学教育学部助教授 遠藤 巖 奈良教育大学教授 三辻 利一
岩手県北上市立博物館学芸員 本堂 寿一 秋田県鹿角市立十和田中学校長 安村 二郎
青森県立郷土館研究員 木村鉄次郎 (助)千葉埋蔵文化財センター 西川 博孝
(助)岩手県埋蔵文化財センター技師 中川 重紀 高橋与右衛門
(助)茨城県教育財団調査員 川井 正一 桜井 二郎
秋田県大館市企画室市史編さん係主事 板橋 範芳
岩手県平泉町教育委員会主事 本澤 慎輔
- 4 本遺跡の資料整理に際し、次の諸氏から資料の提示、御教示を賜わった。記して謝意を表する。
青森県八戸市教育委員会指導主事 栗村 知弘 同学芸員 工藤 竹久
秋田県鹿角市教育委員会主事 秋元 信夫 青森県浪岡町教育委員会主事 工藤 清泰
(助)岩手県埋蔵文化財センター技師 佐々木清文
- 5 本報告書のⅡの1、「地形・地質」は、秋田県立能代北高等学校教諭 藤本幸雄氏の執筆である。
- 6 本遺跡S K(S)53、S K(S)54の両土壌墓から出土した人骨の鑑定は、国立科学博物館人類研究部長 山口 敏氏にお願いした。
- 7 出土した石器、剥片、岩片の石質同定は、秋田県立博物館学芸主事 嵯峨二郎氏にお願いした。
- 8 遺構内から出土した炭化材を試料とする¹⁴Cによる年代測定は、日本アイソトープ協会に依頼した。
- 9 本書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行20万分の1地形図、5万分の1地形図、2万5千分の1地形図と、鹿角市作成2500分の1都市計画図、日本道路公団作成1000分の1地形図である。
- 10 遺跡・遺構内の土層、出土遺物の色調の記載には、農林省農林水産技術会議事務局監修、

財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』を使用した。

- 11 遺物の実測には、画像工学研究所製スケッチグラフ卓上型を活用した。
- 12 本書に使用した写真のうち、昭和47年10月当時の航空写真は日本道路公団仙台建設局鹿角工事事務所の提供による。その他の現場写真は主として桜田が撮影し、細部の写真は主として神田、安保、児玉が撮影した。発掘調査中の航空写真は、アジア航測株式会社に依頼した。出土遺物の写真は、渋谷志と桜田が撮影した。
- 13 本遺跡は、乳牛館と呼ばれる中世の館跡の一郭であり、北側に隣接する乳牛平遺跡（東北縦貫自動車道発掘調査報告書VIII収載）、南側に隣接する妻の神II遺跡（昭和55年度調査）及び妻の神I遺跡（東北縦貫自動車道発掘調査報告書VIII収載）と併せ、乳牛館として検討されるべき性格をもっており、本書では発掘調査時の記録類を整図、表化するにとどめている。
- 14 本遺跡の発掘調査と整理作業には下記の調査員、調査補佐員、整理作業員が従事した。

発掘調査

調査員 桜田 隆

調査補佐員 神田公男 安保 廣 児玉昭彦 児玉悦郎 奈良義博

畠山 圭 米田 哲 池田洋一 福本雅治 鈴木秋良

整理作業

調査員 桜田 隆

調査補佐員 池田洋一 児玉昭彦 三嶋隆儀 佐藤雅子

整理作業員 竹村純子 藤倉寿枝 山崎敬子 長沢廣子 大西英子

越後谷晴美 後藤正子 新田律子 佐々木アイ子 新田光晴

長瀬優子 山田美喜子 岡本龍子 佐藤仁美 熊谷 安

高橋れい子

目 次

序

例 言

I はじめに	1
1 発掘調査に至るまで	1
2 調査の組織と構成	3
II 遺跡の立地と環境	4
1 地形と地質	4
(1) 地形・地質の概要	4
(2) 発掘地点の地質	6
2 環境と周辺の遺跡	8
III 調査の記録	11
1 遺跡の概観	11
2 調査の方法	14
3 調査の経過	17
4 遺跡の層位	21
5 遺構と遺物	26
(1) 検出遺構と検出遺物	26
(2) 遺構外出土遺物	256
6 まとめ	276
IV 秋田県鹿角市妻の神 I・IIIおよび案内III遺跡出土の 炭化穀類と豆の同定	287

挿 図 目 次

第1図 地形分類図……………5	第33図 S I 39実測図……………74
第3図 グリッド配置図……………15	第34図 S I 40実測図……………75
第4図 遺跡の層位……………18	第35図 S I 41実測図……………77
第5図 Fライン土層堆積断面図……………23	第36図 S I 42実測図……………78
第6図 S I 01実測図……………28	第37図 S I 42炉実測……………80
第7図 S I 02実測図……………29	第38図 S I 43実測図……………80
第8図 S I 03実測図……………31	第39図 S I 43炉実測図……………81
第9図 S I 04実測図……………32	第40図 S I 44実測図……………82
第10図 S I 05実測図……………34	第41図 S B 001～S B 036配置図……………83
第11図 S I 06・S I 07実測図……………35	第42図 S B 001・S B 007実測図……………85
第12図 S I 08・S I 14実測図……………38	第43図 S B 001・S B 007実測図……………86
第13図 S I 09実測図……………39	第44図 S B 010・S B 011実測図……………87
第14図 S I 10・S I 11実測図……………41	第45図 S B 012・S B 014実測図……………88
第15図 S I 12実測図……………43	第46図 S B 016・S B 018実測図……………89
第16図 S I 13実測図……………44	第47図 S B 021・S B 022実測図……………90
第17図 S I 15実測図……………46	第48図 S B 023・S B 025実測図……………91
第18図 S I 16・S I 17・S I 18実測図……………48	第49図 S B 027・S B 028実測図……………92
第19図 S I 19・S I 20・S I 21・S I 22・ S I 23実測図……………51	第50図 S B 030・S B 031実測図……………93
第20図 S I 24実測図……………53	第51図 S B 033・S B 036実測図……………94
第21図 S I 25実測図……………55	第52図 S B 037～S B 062配置図……………95
第22図 S I 26・S I 27実測図……………56	第53図 S B 063～S B 065配置図……………95
第23図 S I 28実測図……………58	第54図 S B 038～S B 042実測図……………97
第24図 S I 29実測図……………60	第55図 S B 043～S B 044実測図……………98
第25図 S I 30実測図……………61	第56図 S B 045～S B 046実測図……………99
第26図 S I 31・S I 32実測図……………63	第57図 S B 048～S B 049実測図……………100
第27図 S I 33実測図……………65	第58図 S B 053～S B 054実測図……………101
第28図 S I 34実測図……………66	第59図 S B 055～S B 056実測図……………102
第29図 S I 34・35実測図……………68	第60図 S B 057～S B 058実測図……………103
第30図 S I 36実測図……………69	第61図 S B 059～S B 066実測図……………104
第31図 S I 37実測図……………71	第62図 S B 066～S B 089配置図……………105
第32図 S I 38実測図……………72	第63図 S B 068・S B 071実測図……………107
	第64図 S B 077・S B 078実測図……………108
	第65図 S B 079・S B 080実測図……………109

第66図	S B 081・S B 082実測図	110	第100図	S X(F)41実測図	181
第67図	S B 085・S B 086実測図	111	第101図	S X(F)42実測図	183
第68図	S B 088・S B 093実測図	112	第102図	S X(F)45実測図	185
第69図	S B 090～S B 100配置図	113	第103図	S X(F)46実測図	189
第70図	S B 096・S B 097実測図	115	第104図	S X(F)48実測図	191
第71図	S B 098・S B 104実測図	116	第105図	S X(F)50・S X(F)51実測図	193
第72図	S B 101～S B 109配置図	117	第106図	S X(F)52実測図	195
第73図	S B 107 実測図	119	第107図	S X(F)54実測図	197
第74図	S X(F)01・S X(F)02実測図	121	第108図	S X(F)55実測図	199
第75図	S X(F)03・S X(F)04・S X(F)05・S K06 実測図	113	第109図	S X(F)56実測図	201
第76図	S X(F)06実測図	125	第110図	S X(F)57実測図	203
第77図	S X(F)07・S X(F)09・S X(F)43実測図 ……………	127	第111図	S K(T)01・S K(T)02・S K01・S K03 実測図	205
第78図	S X(F)10実測図	129	第112図	S K(T)04・S K(T)05・S K(T)06実測図 ……………	207
第79図	S X(F)11実測図	131	第113図	S K(T)07・S K(T)08実測図	209
第80図	S X(F)12実測図	135	第114図	S K(T)09・S K(T)10・S K(T)11実測図 ……………	210
第81図	S X(F)13実測図	139	第115図	S K(T)12・S K(T)13・S K(T)14実測図 ……………	212
第82図	S X(F)53・S X(F)14実測図	141	第116図	S K02・S K05・S K06・S K07・ S K08・S K09実測図	214
第83図	S X(F)15実測図	143	第117図	S K10・S K11・S K14・S K15・ S K17実測図	217
第84図	S X(F)16実測図	147	第118図	S K19・S K21・S K22・S K24・ S K25実測図	219
第85図	S X(F)19・S X(F)49実測図	149	第119図	S K26・S K27・S K28・S K66・ S K29・S K34実測図	221
第86図	S X(F)24実測図	151	第120図	S K35・S K63・S K37・S K38実測 図	223
第87図	S X(F)25実測図	153	第121図	S K39・S K40・S K42・S K43・ S K44実測図	225
第88図	S X(F)27実測図	155	第122図	S K45・S K46・S K48・S K52・ S K55実測図	227
第89図	S X(F)28実測図	157	第123図	S K13・S K56・S K57・S K58実測 図	229
第90図	S X(F)29実測図	159			
第91図	S X(F)30実測図	161			
第92図	S X(F)31実測図	163			
第93図	S X(F)32実測図	165			
第94図	S X(F)33実測図	169			
第95図	S X(F)34実測図	171			
第96図	S X(F)35実測図	173			
第97図	S X(F)36実測図	175			
第98図	S X(F)38実測図	177			
第99図	S X(F)39実測図	179			

第124図	S K 59・S K 60・S K 70・S K 72・ S K 86・S K 80実測図……………231	第137図	出土金属器実測図……………254
第125図	S K 81・S K 83・S K 86・S K 87・ S K 88・S K 89実測図……………233	第138図	出土貨幣拓影図……………255
第126図	S K 99・S K 100・S K 101実測図…235	第139図	出土土器拓影・実測図(1)……………257
第127図	S K(S)53・S K(S)54実測図……………236	第140図	出土土器拓影・実測図(2)……………258
第128図	S D 01・S D 09実測図……………239	第141図	遺構内出土土器拓影図(1)……………260
第129図	S D 03・S D 07・S D 08・S D 11・ S D 12実測図……………240	第142図	遺構内出土土器拓影図(2)……………261
第130図	S D 04・S D 05実測図……………241	第143図	遺構内出土土器拓影図(3)……………262
第131図	S D 06実測図……………244	第144図	遺構内出土土器拓影図(4)……………263
第132図	S D 13実測図……………245	第145図	遺構内出土土器拓影図(5)……………264
第133図	S A 01実測図……………247	第146図	遺構内出土土器拓影図(6)……………265
第134図	遺構内出土土器拓影図……………250	第147図	遺構外出土石器・剥片実測図(1)……272
第135図	遺構内出土石器・剥片実測図(1)……252	第148図	遺構外出土石器・剥片実測図(2)……273
第136図	遺構内出土石器・剥片実測図(2)……253	第149図	遺構外出土石器・剥片実測図(3)……274
			付図 1 妻の神Ⅲ遺跡地形図
			付図 2 妻の神Ⅲ遺跡遺構配置図

表 目 次

第2表 S I 01計測・説明表……………27	第35表 S I 34計測・説明表……………64
第3表 S I 02計測・説明表……………27	第36表 S I 35計測・説明表……………67
第4表 S I 03計測・説明表……………30	第37表 S I 36計測・説明表……………67
第5表 S I 04計測・説明表……………30	第38表 S I 37計測・説明表……………70
第6表 S I 05計測・説明表……………33	第39表 S I 38計測・説明表……………70
第7表 S I 06計測・説明表……………33	第40表 S I 39計測・説明表……………73
第8表 S I 07計測・説明表……………36	第41表 S I 40計測・説明表……………73
第9表 S I 08計測・説明表……………36	第42表 S I 41計測・説明表……………76
第10表 S I 14計測・説明表……………38	第43表 S I 42計測・説明表……………76
第11表 S I 09計測・説明表……………38	第44表 S I 43計測・説明表……………79
第12表 S I 10計測・説明表……………40	第45表 S I 44計測・説明表……………79
第13表 S I 11計測・説明表……………40	第46表 S B 001・S B 007計測表……………85
第14表 S I 12計測・説明表……………42	第47表 S B 008・S B 009計測表……………86
第15表 S I 13計測・説明表……………42	第48表 S B 010・S B 011計測表……………87
第16表 S I 15計測・説明表……………45	第49表 S B 012・S B 014計測表……………88
第17表 S I 16計測・説明表……………45	第50表 S B 016・S B 018計測表……………89
第18表 S I 17計測・説明表……………47	第51表 S B 021・S B 022計測表……………90
第19表 S I 18計測・説明表……………47	第52表 S B 023・S B 025計測表……………91
第20表 S I 19計測・説明表……………49	第53表 S B 027・S B 028計測表……………92
第21表 S I 20計測・説明表……………49	第54表 S B 030・S B 031計測表……………93
第22表 S I 21計測・説明表……………50	第55表 S B 033計測表……………94
第23表 S I 22計測・説明表……………50	第56表 S B 038・S B 042計測表……………97
第24表 S I 23計測・説明表……………52	第57表 S B 043・S B 044計測表……………98
第25表 S I 24計測・説明表……………52	第58表 S B 045・S B 046計測表……………99
第26表 S I 25計測・説明表……………54	第59表 S B 048・S B 049計測表……………100
第27表 S I 26計測・説明表……………54	第60表 S B 053・S B 054計測表……………101
第28表 S I 27計測・説明表……………57	第61表 S B 055・S B 056計測表……………102
第29表 S I 28計測・説明表……………57	第62表 S B 057・S B 058計測表……………103
第30表 S I 29計測・説明表……………59	第63表 S B 059・S B 066計測表……………104
第31表 S I 30計測・説明表……………59	第64表 S B 068・S B 071計測表……………107
第32表 S I 31計測・説明表……………62	第65表 S B 077・S B 078計測表……………108
第33表 S I 32計測・説明表……………62	第66表 S B 079・S B 080計測表……………109
第34表 S I 33計測・説明表……………64	第67表 S B 081・S B 082計測表……………110

第 68 表	S B 085 · S B 086計測表	111	第104表	S X(F)38計測表	177
第 69 表	S B 088 · S B 093計測表	112	第105表	S X(F)39計測表	179
第 70 表	S B 096 · S B 097計測表	115	第106表	S X(F)41計測表	181
第 71 表	S B 098 · S B 104計測表	116	第107表	S X(F)42計測表	183
第 72 表	S B 107計測表	119	第108表	S X(F)45計測表	185
第 73 表	S X(F)01計測表	120	第109表	S X(F)46計測表	189
第 74 表	S X(F)02計測表	120	第110表	S X(F)48計測表	191
第 75 表	S X(F)03計測表	123	第111表	S X(F)50計測表	191
第 76 表	S X(F)04計測表	123	第112表	S X(F)51計測表	195
第 77 表	S X(F)05計測表	123	第113表	S X(F)52計測表	195
第 78 表	S X(F)06計測表	125	第114表	S X(F)54計測表	197
第 79 表	S X(F)07計測表	127	第115表	S X(F)55計測表	199
第 80 表	S X(F)09計測表	129	第116表	S X(F)56計測表	201
第 81 表	S X(F)43計測表	129	第117表	S X(F)57計測表	203
第 82 表	S X(F)10計測表	129	第118表	S K(T)01計測表	204
第 83 表	S X(F)11計測表	131	第119表	S K 03計測表	204
第 84 表	S X(F)12計測表	135	第120表	S K(T)02計測表	204
第 85 表	S X(F)13計測表	139	第121表	S K 01計測表	204
第 86 表	S X(F)53計測表	141	第122表	S K(T)04計測表	206
第 87 表	S X(F)14計測表	141	第123表	S K(T)05計測表	206
第 88 表	S X(F)15計測表	143	第124表	S K(T)06計測表	206
第 89 表	S X(F)16計測表	147	第125表	S K(T)07計測表	206
第 90 表	S X(F)19計測表	149	第126表	S K(T)08計測表	208
第 91 表	S X(F)49計測表	149	第127表	S K(T)09計測表	208
第 92 表	S X(F)24計測表	151	第128表	S K(T)10計測表	208
第 93 表	S X(F)25計測表	153	第129表	S K(T)11計測表	208
第 94 表	S X(F)27計測表	155	第130表	S K(T)12計測表	211
第 95 表	S X(F)28計測表	157	第131表	S K(T)13計測表	211
第 96 表	S X(F)29計測表	159	第132表	S K(T)14計測表	211
第 97 表	S X(F)30計測表	161	第133表	S K 02計測表	211
第 98 表	S X(F)31計測表	163	第134表	S K 05計測表	213
第 99 表	S X(F)32計測表	165	第135表	S K 06計測表	213
第100表	S X(F)33計測表	169	第136表	S K 07計測表	215
第101表	S X(F)34計測表	171	第137表	S K 08計測表	215
第102表	S X(F)35計測表	173	第138表	S K 09計測表	215
第103表	S X(F)36計測表	175	第139表	S K 10計測表	215

第140表	S K 11計測表	216	第175表	S K 60計測表	228
第141表	S K 12計測表	216	第176表	S K 70計測表	230
第142表	S K 14計測表	216	第177表	S K 72計測表	230
第143表	S K 15計測表	216	第178表	S K 76計測表	230
第144表	S K 17計測表	216	第179表	S K 80計測表	230
第145表	S K 19計測表	216	第180表	S K 81計測表	232
第146表	S K 20計測表	218	第181表	S K 83計測表	232
第147表	S K 21計測表	218	第182表	S K 86計測表	232
第148表	S K 22計測表	218	第183表	S K 87計測表	232
第149表	S K 24計測表	218	第184表	S K 88計測表	232
第150表	S K 25計測表	218	第185表	S K 89計測表	232
第151表	S K 26計測表	218	第186表	S K 99計測表	234
第152表	S K 27計測表	220	第187表	S K 100計測表	234
第153表	S K 28計測表	220	第188表	S K 101計測表	234
第154表	S K 66計測表	220	第189表	S K(S)53計測表	234
第155表	S K 29計測表	220	第190表	S K(S)54計測表	234
第156表	S K 34計測表	222	第191表	S D 01計測表	237
第157表	S K 35計測表	222	第192表	S D 09計測表	237
第158表	S K 63計測表	222	第193表	S D 03計測表	237
第159表	S K 37計測表	222	第194表	S D 07計測表	237
第160表	S K 38計測表	222	第195表	S D 08計測表	238
第161表	S K 39計測表	222	第196表	S D 11計測表	238
第162表	S K 40計測表	224	第197表	S D 12計測表	238
第163表	S K 42計測表	224	第198表	S D 04計測表	238
第164表	S K 43・S K 44計測表	226	第199表	S D 05計測表	243
第165表	S K 45計測表	226	第200表	S D 06計測表	243
第166表	S K 46計測表	226	第201表	S D 13計測表	243
第167表	S K 48計測表	226	第202表	遺構内出土土器拓影・説明表	249
第168表	S K 52計測表	226	第203表	遺構内出土土器類計測・説明表	251
第169表	S K 55計測表	226	第204表	出土金属器計測・説明表	253
第170表	S K 13計測表	228	第205表	出土貨幣拓影・説明表	256
第171表	S K 57計測表	228	第206表	出土土器拓影・実測・説明表	259
第172表	S K 56計測表	228	第207表	遺構外出土土器拓影説明表	266
第173表	S K 58計測表	228	第208表	遺構外出土土器類計測・説明表	275
第174表	S K 59計測表	228			

図 版 目 次

図版 1 航空写真(1)……………301	図版34 焼土遺構(1)……………334
図版 2 航空写真(2)……………302	図版35 焼土遺構(2)……………335
図版 3 粗掘り作業状況……………303	図版36 焼土遺構(3)……………336
図版 4 竪穴遺構(1)……………304	図版37 焼土遺構(4)……………337
図版 5 竪穴遺構(2)……………305	図版38 焼土遺構(5)……………338
図版 6 竪穴遺構(3)……………306	図版39 焼土遺構(6)……………339
図版 7 竪穴遺構(4)……………307	図版40 焼土遺構(7)……………340
図版 8 竪穴遺構(5)……………308	図版41 焼土遺構(8)……………341
図版 9 竪穴遺構(6)……………309	図版42 焼土遺構(9)……………342
図版10 竪穴遺構(7)……………310	図版43 焼土遺構(10)……………343
図版11 竪穴遺構(8)……………311	図版44 焼土遺構(11)……………344
図版12 竪穴遺構(9)……………312	図版45 焼土遺構(12)……………345
図版13 竪穴遺構(10)……………313	図版46 焼土遺構(13)……………346
図版14 竪穴遺構(11)……………314	図版47 焼土遺構(14)……………347
図版15 竪穴遺構(12)……………315	図版48 焼土遺構(15)……………348
図版16 竪穴遺構(13)……………316	図版49 焼土遺構(16)……………349
図版17 竪穴遺構(14)……………317	図版50 焼土遺構(17)……………350
図版18 竪穴遺構(15)……………318	図版51 溝状遺構(1)……………351
図版19 竪穴遺構(16)……………319	図版52 溝状遺構(2)……………352
図版20 竪穴遺構(17)……………320	図版53 溝状遺構(3)……………353
図版21 竪穴遺構(18)……………321	図版54 柵列跡……………354
図版22 竪穴遺構(19)……………322	図版55 Tピット(1)……………355
図版23 竪穴遺構(20)……………323	図版56 Tピット(2)……………356
図版24 竪穴遺構(21)……………324	図版57 Tピット(3)……………357
図版25 竪穴住居跡(1)……………325	図版58 Tピット(4)……………358
図版26 竪穴住居跡(2)……………326	図版59 Tピット(5)……………359
図版27 掘立柱建物跡(1)……………327	図版60 土壇(1)……………360
図版28 掘立柱建物跡(2)……………328	図版61 土壇(2)……………361
図版29 掘立柱建物跡(3)……………329	図版62 土壇(3)……………362
図版30 掘立柱建物跡(4)……………330	図版63 土壇墓(1)……………363
図版31 掘立柱建物跡(5)……………331	図版64 土壇墓(2)……………364
図版32 掘立柱建物跡(6)……………332	図版65 遺構内出土石器……………365
図版33 掘立柱建物跡(7)……………333	図版66 遺構内出土石器類……………366

図版67	出土金属器	357
図版68	出土土器(1)	368
図版69	出土土器(2)	369
図版70	出土土器(3)	370
図版71	出土土器(4)	371

図版72	出土土器(5)	372
図版73	出土土器(6)	373
図版74	出土土器(7)	374
図版75	遺構外出土石器類	375

『秋田県鹿角市妻の神Ⅰ・Ⅲおよび案内Ⅲ遺跡出土の炭化穀類と豆の同定』写真目次

カラー1図	妻の神Ⅰ出土炭化粒 a 焼粳米 b 焼玄米	c 焼粳米とアワ粒塊 d 焼アワ粒と茎葉(稗)塊
カラー2図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a 焼アズキ	カラー4図 案内Ⅲ出土 a 焼米塊 b 全左 c 烧豆 膨張粒、大粒、中粒、小粒 d 烧米の篩別け 4mm以上 2.5-4mm
カラー3図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a 焼アワ粒塊 b 烧稻穂塊	
第1図	妻の神Ⅰ出土炭化粒 a 粳(×10) b 粳穀片(×100) c 粳と玄米(×10)	第12図 案内Ⅲ出土炭化粒 a アズキ(幼芽と子葉)(×10) b 全左(子葉)(×250)
第2図	妻の神Ⅰ出土炭化粒 a 玄米(丸)(×10) b 全(細長)(×10) c 全(普通)(×10) d 全横断面(×10)	第13図 案内Ⅲ出土炭化粒 a アズキ(膨張粒)(×10) b 全左(大粒)(×2,500) c 全(中粒)(×10) d 全(?) (×10)
第3図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a 粳片のある膨張粒(×10) b 全左(×100)	第14図 案内Ⅲ出土炭化粒 a マメ類(小粒)(×10) b 全左(×5,000) c マメ類(小粒)(×10) d 全左(×500)
第4図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a 穂軸と粳米(×10) b 全左の粳片(×100)	第15図 案内Ⅲ出土炭化粒 a マメ数の種皮の内側(×1,500) b 全左(×500) c マメ数の(中粒)やや不正型(×10) d 全左(アズキ?)(×1,500)
第5図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a 玄米と粳片(×10) b 全左の粳片(×100) c 全粳片(×100) d 全玄米の一部分(×200)	第16図 現生アズキ (×10)(×500) (×1,000)(×2,000)
第6図	案内Ⅲ出土炭化粒 a 玄米と粳片(×10) b 全左(×500) c 玄米(×10) d 膨張玄米(×10)	第17図 現生リュクトウ種子 (×10)(×200) (×1,000)(×2,500)
第7図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a アワ(×25) b 全左(×500) c 全上(×150) d 全左(×500)	第18図 現生ケツルアズキ種子 (×20)(×1,000) (×250)(×2,500)
第8図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a アワ(×50) b 全(×250) c アワ塊(×10) d 炭化木片(×200)	第19図 現生雑草アズキ種子 (×10)(×2,500)
第9図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a シソ類の粒片の表面(×50) b 全左(×50) c シソ類粒の内果皮片(×50) d 全左(×250)	第20図 現生アカマミ種子 (×20)(×1,500)
第10図	案内Ⅲ出土炭化粒 a アズキ(小粒)(×10) b 全(中粒)(×10) c 全(膨張粒)(×10) d ダイズ?(膨張粒)(×10)	第21図 現生ヤブツルアズキ種子 (×10)(×150)
第11図	妻の神Ⅲ出土炭化粒 a アズキ(大粒)(×10) b 全左(×1,000)	第22図 現生焼畑ダイズ種子 (×10)(×100)
		第23図 現生ダイズ種子 (×10)(×250)
		第24図 案内Ⅲ出土炭化粒 a ダイズ膨張粒(1)(×10) b ダイズ膨張粒(2)(×10)
		第25図 現生ツルアズキ種子 (×10)(×1,000) (×2,000)

妻の神 III 遺跡

遺跡番号	No. 24
所在地	鹿角市花輪字妻の神 6 他
調査期間	昭和56年 4 月20日～ 8 月31日
発掘調査予定面積	4,901m ²
発掘調査面積	7,200m ²

I はじめに

1 発掘調査に至るまで

昭和32年4月16日付けで公布された『国土開発幹線自動車道建設法』に基き、埼玉県川口市を起点に青森県青森市に至る東北縦貫自動車道川口—青森線の建設計画が策定され、昭和40年11月1日^(註1)に鹿角市—青森市間、昭和42年11月22日に盛岡市—鹿角市間の基本計画が公表され、高速自動車国道の路線指定を受けている。

翌昭和43年4月1日に鹿角市—青森市間約81kmの第2次施行命令が建設大臣から日本道路公団総裁あてにあったのをうけ、秋田県教育委員会では、埋蔵文化財保護の立場から、文化庁と日本道路公団が交わした覚書『日本道路公団の建設事業等工事施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書』に基き昭和44年8月鹿角市十和田地区から鹿角郡小坂町の青森県境まで幅4km、延長25kmにわたって遺跡の分布調査を行い67遺跡を確認、その成果を公表した。^(註2)

昭和46年6月1日に岩手県二戸郡安代町—鹿角市十和田錦木間約37kmの第5次施行命令が出され、昭和47年11月27日には鹿角市十和田錦木—小坂町小坂間の路線発表も行われた。

秋田県教育委員会では、昭和48年8月に鹿角市八幡平、花輪、尾去沢地内約20kmを4km幅で遺跡分布調査と試掘調査を実施し、46遺跡を確認した。^(註3)この結果をふまえ昭和51年2月12日に日本道路公団仙台建設局から鹿角市八幡平—鹿角市十和田錦木間21.1kmの路線発表が行われ、昭和52年10月に日本道路公団仙台建設局鹿角工事事務所の依頼により秋田県教育委員会ではこの発表路線上の遺跡分布調査を実施し、32遺跡〔縄文時代17(古代重複3を含む)、古代10(縄文重複3を含む)、中世5(館跡が多い)、その他3(調査不可能であって遺跡のありそうな所)]の存在を確認した。^(註4)

この結果にもとづき、路線上の遺跡への対処や調査方針について日本道路公団仙台建設局と秋田県教育委員会との間に協議がもたれ、これら31遺跡は記録保存することに決定された。

(昭和55年に路線上に新たに2遺跡が発見され、また工事用道路建設に伴い1遺跡が記録保存されることになり、最終的にはこの区間で34遺跡が記録保存されることになった。)

昭和54年2月に日本道路公団仙台建設局から発掘調査依頼が出され、秋田県教育委員会では昭和54年度7遺跡(居熊井、湯瀬館、上山田、大地平、堂の上、歌内、上葛岡Ⅲ)、昭和55年度19遺跡(歌内、鳥居平、飛鳥平、北の林Ⅰ、北の林Ⅱ、上葛岡Ⅰ、上葛岡Ⅱ、上葛岡Ⅳ、駒林、中の崎、孫右エ門館、案内Ⅰ、案内Ⅱ、猿ヶ平Ⅰ、妻の神Ⅱ、下乳牛、西町Ⅰ、西町Ⅱ、小豆沢館)、昭和56年度10遺跡(中の崎、猿ヶ平Ⅱ、妻の神Ⅰ、妻の神Ⅲ、乳牛平、室田、案内Ⅲ、柏木森、明堂長根、一本杉)の発掘調査を実施した。

本報告書に収載する妻の神Ⅲ遺跡は、昭和46年に実施された分布調査では発見されておらず道路予定中心杭が打設後に実施された昭和52年の分布調査で「遺跡No.24 縄文時代? 要再調査」とされた遺跡である。

註1 昭和47年に旧鹿角郡十和田町、花輪町、尾去沢町、八幡平村が合併して鹿角市となっており、本来ならば当時の町名を用いるべきであろうが、便宜上現地名表示にした。

註2 秋田県教育委員会 『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書—十和田町・小坂町地区—』
秋田県文化財調査報告書第20集 1970（昭和45）年

註3 秋田県教育委員会 『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書—花輪町・尾去沢町・八幡平村地区—』 秋田県文化財調査報告書第24集 1972（昭和47）年

註4 秋田県教育委員会 『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書—八幡平～十和田錦木—』 秋田県文化財調査報告書第56集 1978（昭和53）年

補註

昭和54年度調査の7遺跡のうち6遺跡については、1981（昭和56）年3月に『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰ—居熊井遺跡・湯瀬館遺跡・大地平遺跡・上山田遺跡・堂の上遺跡・上葛岡Ⅲ遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第78集）として公表され、昭和55年度調査の遺跡についても1982（昭和57）年3月に『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅱ—歌内遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第88集）、『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅲ—鳥居平遺跡・飛鳥平遺跡・北の林Ⅰ遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第89集）、『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅳ—北の林Ⅱ遺跡・上葛岡Ⅰ遺跡・上葛岡Ⅱ遺跡・小豆沢館遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第90集）、『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅴ—上葛岡Ⅳ遺跡・駒林遺跡・案内Ⅱ遺跡・猿ヶ平Ⅰ遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第91集）として12遺跡が公表されている。昭和56年度調査の遺跡についても1983（昭和58）年3月に『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅵ—猿ヶ平Ⅱ遺跡・室田遺跡・一本杉遺跡・案内Ⅲ遺跡—』（秋田県文化財調査報告書第99集）として公表されている。

2 調査の組織と構成

(職名は発掘調査時)

調査主体	秋田県教育委員会	
調査顧問	坪井 清足	奈良国立文化財研究所所長
	芹沢 長介	東北大学文学部教授
専門指導員	小林 達雄	国学院大学文学部助教授
	林 謙作	北海道大学文学部助教授
	須藤 隆	東北大学文学部助教授
	藤沼 邦彦	東北歴史資料館考古研究科長
	進藤 秋輝	宮城県多賀城跡調査研究所研究第一・第二科長
調査担当者	岩見 誠夫	秋田県教育庁文化課社会教育主事 猿ヶ平Ⅱ (Ⅵ収載)、柏木森 (Ⅶ収載)
	桜田 隆	秋田県教育庁文化課文化財主事 妻の神Ⅲ (本書)、一本杉 (Ⅵ収載)
	小玉 準	秋田県教育庁文化課文化財主事 乳牛平 (Ⅷ収載)、明堂長根 (Ⅶ収載)
	橋本 高史	秋田県教育庁文化課文化財主事 妻の神Ⅰ (Ⅷ収載)、中の崎 (Ⅸ収載)
	小林 克	秋田県教育庁文化課文化財主事 室田・案内Ⅲ (Ⅵ収載)、柏木森 (Ⅶ収載)
調査補佐員	〈岩見班〉 藤井安正、高橋 学、松岡忠仁、児玉悦郎、奈良義博	
	〈桜田班〉 神田公男、安保 廣、児玉昭彦、池田洋一	
	〈小玉班〉 阿部明人、畠山 圭、高橋 修、米田 哲	
	〈橋本班〉 安保 徹、鈴木秋良、鈴木 功、福本雅治	
	〈小林班〉 関 直、阿部義行、花田孝夫	
事務補助員	佐藤 順子	金沢万里子
調査協力機関	鹿角市教育委員会	秋田県東北縦貫自動車道対策事務所
	鹿角市建設部建設課高速道路対策室	鹿角市花輪乳牛部落自治会

II 遺跡の立地と環境

1 地形と地質

(1) 地形と地質の概要

本地域の地形は大きく見て東西の山地、盆地内の段丘地形、沖積低地の三つに区分される。これらについて秋田県（1973）、内藤（1966、1970）および日本道路公団の東北自動車道土性縦断図表（日本道路公団仙台建設局：昭和53年）等を参考にしてまとめると次のようになる。山地：東側は花輪越以北で800～700 mと北にゆくほど高度を下げるが、以南では100 m以上の標高で満壮年期のけわしい地形を示し、特に皮投岳(1,122.4 m)、五の宮嶽(1,115.0 m)など起伏量の大きい山塊が連なっている。

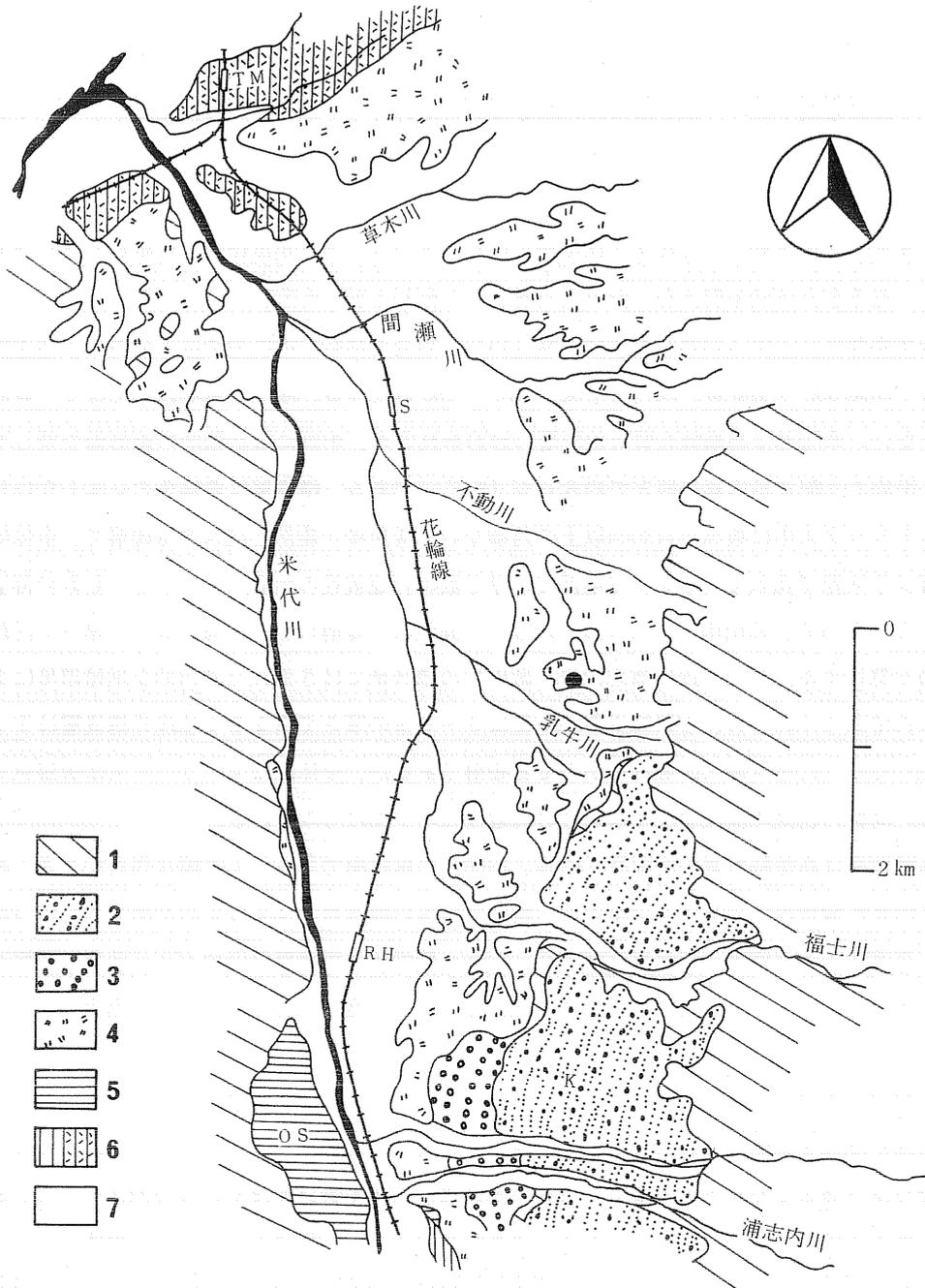
地質は主として新第三紀中新世の火山碎屑岩よりなるが、それらを貫ぬいて石英安山岩や安山岩も分布している。また、富士川上流には南部の谷内、湯瀬と同様に粘板岩を主とする古生層の露出も知られている。これらの東側山地の山列は南部でほぼ南北に連なっているが、花輪越以北では北東方向にのびている。これは新第三紀層の走向に大略一致している。

一方、西側山地は南部で400 m—600 m、北部で250～300 mで山容も東側山地ほどのけわしさは見られない。地質は東側山地と同様に新第三紀中新世の火山碎屑岩を主とするが、大葛層、大滝層などでは砂岩、泥岩などの碎屑岩が広く発達している。

段丘地形：花輪盆地南部の段丘面は、花輪高位段丘、花輪中位段丘（内藤、1970）、鳥越段丘（秋田県、1973）、松館段丘、大里段丘の5段に区別できる。このうち、鳥越段丘は秋田県（1973）では鳥越段丘、関上段丘の二つに区別されたものであるが、後者は火砕流堆積物からなる前者の二次堆積物の上面であり両者を区別する段丘崖の発達も局所的であって連続性に乏しいことから一括して使用する。また、松館、大里の各段丘は内藤（1970）の花輪低位段丘群とされたものである。

一方花輪盆地の中～北部の段丘面は、高位段丘、鳥越段丘、毛馬内段丘、中間段丘などが見られる。次にそれぞれについて簡単に記載する。

高位段丘は、南部では東側山地の末端部からなだらかな斜面をもって扇状地状に広く分布する。かなり開折されているものの明らかに平坦面を残している。標高は1/2.5万地形図から、浦志内川左岸の扇頂部で350 m、葛岡北東の末端部で240 mである。また、歌内川流域でも320 mから250 mまでの高度差をもつ、一方、富士川左岸では350 m～250 mあるが、左岸では花輪スキー場北東の300 mから女森西方の200 mまでと明らかに低い。また、平均こう配も富士川以北では約4.4%(2.5°)と小さくなる。盆地の中～北部では南部ほど分布は広くなく、散在



第1図 地形分類図

凡例

- 1 : 山地斜面 2 : 高位段丘 3 : 中位段丘 4 : 鳥越段丘 5 : 毛馬内段丘・大里段丘
 7 : 沖積地 TM : 十和田南駅 S : 柴平駅 RH : 陸中花輪駅 K : 葛岡 OS : 尾去
 黒丸 : 妻の神III遺跡

的で面の高度も 230 ~ 240 m と低い。構成層は径数cmから50cm前後までの亜角礫が雑然と混入した不淘汰礫層であり、地表面に近い部分は数mにわたって風化が進み、礫はくさってマトリックスと大して変わらないかたさになることが多い。段丘面の分布範囲のほか、葛岡西方では火砕流堆積物の下位に見られたりする。全体的に扇状地堆積物としての層相をよく残している。また、上部は数mが赤褐色の粘土質土になっており、中に未風化の亜角礫もしばしばみられる。最上部には粘土質になった火山灰層がみられることもある。

中位段丘は、上田（1965）および内藤（1970）の産土神断以南にやや広く分布し、浦志内川下流で標高 230 ~ 180 m、歌内川下流で 270 - 200 m である。産土神断層以北ではまだ確認していない。末端部は鳥越軽石質火山灰層におおわれるが、明瞭に扇状地状の地形面を残しており、平均こう配は柏木森の西方で約 6.0 % (3.5°) である。構成層は黄褐色のシルトないし砂のマトリックス中に数cmから30cm以上の角礫ないし亜角礫が雑然と混入する礫層で、全体的に層理は不明瞭で塊状であるが、末端部では厚さ数cmの連続性のわるいシルトないし砂の薄層を含むこともある。葛岡南方ではN値が70以上の高位段丘礫層の上に、最大 6 m の厚さで泥炭質粘層が発達する。この付近は浦志内川と歌内川の扇状地にはさまれた湖沼的な堆積環境にあったものであろう。なお、この粘土層の上位に 5 ~ 6 m の厚さで重なる中位段丘構成層はすでに記載したように不良淘汰の亜角礫からなる礫層であるが、全体的にマトリックスは灰緑色を呈する。同様の色調の構成層は花輪東方の鳥越段丘の下部にもみられる。

鳥越段丘は鳥越軽石質火山灰層（内藤、1966）の堆積面であり、大湯環状列石など多くの遺跡をのせて盆地内に最も広く分布する。特に大湯川の両岸および小坂川の左岸、米代川右岸によく発達する。高度は、花輪東方で 170 ~ 180 m 柴内から根市戸付近で 150 m 前後、腰廻から一本木にかけて 180 m 前後と盆地の周辺部にむかって高度をあげるが、特に大湯川沿いでは風張付近を扇頂部とする扇状地様の形態を示す。全域にわたって灰白色~乳白色の火山灰中に白色の軽石が多量に含まれる層相を示すが大湯川と小坂川の合流点に近いほど層理の明瞭な二次堆積物が発達する傾向がみられる。火砕流台地としての形態をよく示しており、段丘面は平坦で段丘崖は急崖をなすことが多い。なお、小枝指から申ヶ野にかけては部分的により古い高市軽石質火山灰層が見られることがあり、埋没段丘面の存在が指摘されている（内藤、1966）。

松館段丘は南部で米代川左岸に沿い尾去から松館、荒町にかけて広く分布している。標高は 160 ~ 170 m で、夜明島川、黒沢川等の扇状地の解析された段丘とみられる。構成層は未確認である。盆地中部の東側に、草木川、佐比内沢、間瀬川等による扇状地が発達するが、これらは松館段丘と同時期の可能性がある。大里段丘は南部で米代川右岸沿いに大里付近まで分布する。標高は 150 ~ 155 m と低く、構成層は上部はくずれやすい河床性の礫層を主とし、田泥質の砂礫層が重なっている。河床性の礫層の上には大湯軽石質火山礫層があり、さらに部分的に

軽石質の二次堆積物がその上に見られたりすることから北部の毛馬内段丘に対比できるものと思われる。

毛馬内段丘は大湯川兩岸と松の木以西の米代川沿いに発達する最低位の段丘で、東能代付近まで連続して分布する。標高は毛馬内付近で110～120 m、松の木では112 mである。構成層は大湯川沿いでは下部から大湯軽石質火山礫層、毛馬内軽石質火山灰層、不淘汰砂礫層の順に重なるが、米代川沿いでは毛馬内軽石質火山灰層が主となる。毛馬内軽石質火山灰層は米代川沿いでいくつかの遺跡を埋没させており、特に鷹巣盆地における胡桃館埋没遺跡（平安時代中～末期）はよく知られている（秋田県教委、1968、1969、1970 平山、市川、1966）。

ところで、この地域の第四紀地質と地形を特徴づけるものに花輪断層と十和田火山起源の火山碎屑物層があげられる。

花輪段層はほぼ直線的に米代川沿いに北上しており、東西の山地の起伏量、山容のちがひ、段丘の非対称的分布等は、断層の東側の山地が第四紀を通じて上昇傾向がより強かったことを物語っており、注目に値する。一方火山碎屑物層については内藤(1966、1970)、中川ほか(1972)等によりくわしく知られており古い方から小坂軽石質火山灰層、高石軽石質火山灰層（ ^{14}C 年代で $25,850 \pm 1,360$ 年前）、鳥越軽石質火山灰層（ $12,000 \pm 250$ 年前）、申ヶ野軽石質火山灰層（ $8,600 \pm 250$ 年前）、大湯軽石質火山礫層（ $3,680 \pm 130$ 年前）、毛馬内軽石質火山灰層（ $1,280 \pm 90$ 年前）区分されている。このうち大湯軽石質火山礫層の ^{14}C 年代値は同層の下位の炭質物についての値であり、同層の降下時期より古い年代値と考えられる。また、毛馬内軽石質火山灰層は前述のように埋没遺跡との関係から平安時代中～末期とみられており、大湯軽石質火山礫層の降下にひきつづいて流下した同一火山活動にともなう火砕流堆積物であるとの指摘もなされている。（大池、1974；藤本、1980）。

(2) 発掘地点の地質

No.24

標高161～163 mで平坦な鳥越段丘上にある。黒色腐植土層、鳥越軽石層中には径0.5～2.0 cmの軽石を含む大湯軽石質火山礫層が5～12 cmでみられる。鳥越軽石質火山灰層は上部の5～7 mが水中の二次堆積物となっており、明瞭な斜交ラミナがみられる。

参考文献

- 秋田県教育委員会 1968 『胡桃館埋没建物発掘調査概報』 秋田県文化財調査報告書第14集
秋田県教育委員会 1969 『胡桃館埋没建物遺跡第2次発掘調査概報』 秋田県文化財調査報告書第19集
秋田県教育委員会 1970 『胡桃館埋没建物遺跡第3次発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告

書第22集

- 秋田県 1973 『秋田県総合地質図幅』 「花輪」
- 藤本幸雄 1980 「十和田火山起源の火山灰層の重鉱物組成(その1) 大館、花輪盆地における火山灰層」 『大館工業高校研究紀要』
- 藤原健蔵 1960 「米代川流域の河岸段丘と十和田火山噴出物との関係」 『東北地理』 12・2
- 内藤博夫 1966 「秋田県米代川流域の第四紀火山碎屑物と段丘地形」 『地理学評論』 第39巻第7号
- 内藤博夫 1970 「秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史」 『地理学評論』 第43巻10号
- 中川久夫、ほか 1972 「十和田火山発達史概要」 『東北大地質古生物研邦報』 第73号
- 大池昭二 1972 「十和田火山は生きている」 『国土と教育』 第26号
- 上田良一 1965 「秋田県北部の第三系の層位と造構造運動について」 『秋田大地下資源開発研究所報告』 第32号

2 環境と周辺の遺跡

秋田県の最北東部に位置する鹿角盆地は「青垣山をめぐるす鹿角の地」と詠まれたように、東側を大森、五の宮嶽、北の林、皮投岳、中岳などの急峻な奥羽脊梁山地に、西側を高森、水晶山、三ノ岳、大森山、土筆森などのややなだらかな高森山地に囲まれた南北に細長い盆地である。この盆地の西縁寄りを南側から流下する米代川は、岩手県四角岳に源を発し、湯瀬溪谷を曲流したあと八幡平から流れくる熊沢川や夜明島川、五ノ宮嶽から流れくる歌内川、浦志内川を合流させながら北流を続け、花輪・柴平地区で富士川、乳牛川、不動川、間瀬川、草木川を、毛馬内地区で十和田湖のあたりから流れくる大湯川、青森県境坂梨峠のあたりから流れくる小坂川を合流させたあと、流れを西にかえ大館盆地へ流れ去る。

この米代川と米代川に流入する水系と盆地の周縁には数段の段丘が発達しているが、鹿角盆地の形成は、①隆起する脊梁山地からの渾大な砂礫の供給による段丘形成。②十和田火山による大量の軽石流の流入。③現在の河川による浸食と砂礫の供給。によるとされており、高位段丘面以外は十和田火山噴出物の流入堆積と盆地内の大小河川の浸食・開析・下刻作用を受けて現在の段丘地形を形成している。また盆地中部の菩提野と東南部の大里付近では扇状地堆積があり、段丘の一部を被覆している。

これら段丘上には、未だ旧石器時代の遺構・遺物が確認されていないが、縄文時代早期から中・近世までの遺跡が407カ所確認されている。遺跡は盆地東側の段丘・台地上に多く立地しているが、これは地形発達上の要因ばかりでなく、冬期間の積雪量と日照時間の多寡、早春の

融雪速度の差等の盆地内の気象要因にも関係すると推測される。

縄文時代の遺跡では、早期の遺跡として、貝殻文土器を出土した一本杉遺跡、複節縄文の施文された尖底土器を出土した上葛岡IV・大地平・柏木森の各遺跡が、前期の遺跡として円筒土器下層式土器を出土する2棟の竪穴住居跡が検出された清水向遺跡、上山田遺跡があげられ、中期の遺跡として、所謂複式炉を具備する竪穴住居跡を多数検出した黒森山・北の林I・北の林II・飛鳥平・天戸森・猿ヶ平IIの各遺跡が、後期の遺跡として、配石遺構を検出し国特別史跡に指定されている大湯環状列石の野中堂・万座の両遺跡、埋設された土器棺を検出した飛鳥平遺跡があげられる。晩期の遺跡として、配石遺構を検出した玉内遺跡、土壌を多く検出した明堂長根・柏木森・猿ヶ平Iの各遺跡があげられる。

弥生時代の遺跡としては、遺構の検出がなく、遺物のみであるが、湯瀬館、大地平、上葛岡III、猿ヶ平I、新斗米館の各遺跡が知られている。

小規模なマウンドを築いている墳墓群がこの盆地内にもいくつかあり、枯草坂古墳群、三光塚古墳群などと命名されている。日本史上にいう時代区分としての古墳時代の所産ではなく、奈良・平安時代の所産であるが、東北地方の末期古墳の影響を受けた遺跡である。

奈良・平安時代の遺跡としては、鳥野、源田平、小平、菩提野、歌内、北の林I、北の林II、一本杉、中の崎、案内III、御休堂、高市尚館などの各集落遺跡があり、歌内遺跡から硯が、一本杉、小平両遺跡からは墨書土器が出土している。

鹿角の地がこの時代に律令体制下にあったかどうか論のわかれるところであるが、秋田城を焼失させた所謂元慶の乱には、反乱夷俘12カ所の中に「上津野」として史書にも記されており秋田城に対し朝貢的服属関係にあったとされるが順化の程度は浅かったと推測される。

「元慶の乱」時にあらわれた「上津野」はその後鎌倉期まで記録から姿を消すが、中世の遺跡として、盆地内の台地縁辺部の自然地形を巧みに利用して構築された館跡群がある。

これら館跡は、鎌倉時代後期に関東から移住してきたとされる成田、安保、秋元、奈良の所謂鹿角四氏とその庶流が住んだとされている。鹿角盆地という小地域に群在する一村一館形式の館が、広大で防禦施設としての空堀が深く、柵列、腰郭を備えているのは奇異な感もするが中には古代の多郭連続式の「要塞」に手を加えたものがあると推定されている。確認されている館跡は50数館にのぼり、調査された小枝指館、湯瀬館、新斗米館、小豆沢館、長牛館からは中国陶磁器も多数出土しており、日本海を渡ってきた中国陶磁器が米代川上流域の、この山奥の地まで運ばれてきていることは、館跡の年代を知る手がかりにもなり注目されている。

鹿角盆地は、ケッペンの気候分類で区分すると温帯多雨気候区(Cf)に極めて近い亜寒帯多雨気候区(Df)に属するとされている。山間盆地の内陸的気候を示すが、夏季にオホーツク高気圧の影響で東北地方北部の沿岸一帯に小雨混じりの冷涼な天候が続くと冷たいやませ(偏東

風)が内陸の鹿角盆地まで入り込み、しばしば強い影響を受け冷害となる。このやませ(偏東風)は、また北日本の降下火山灰が偏西風の影響を受けて噴出源の東側地域に降下・堆積するという常識をはずれ、十和田火山噴火・所謂大湯浮石層噴出の際、西側地域に降下・堆積させる原因ともなったものであり、夏季の噴火・降灰は冷涼な気候とともに鹿角盆地に壊滅的打撃を与えたものと考えられる。

気候的には恵まれないこの鹿角盆地は、東西を山地に囲まれながらも東西連絡の要衝として四通八達の状況にあり、近世においてはこのことから浅利、南部、秋田による争奪の対象となっている。

III 調査の記録

1 遺跡の概観

秋田県北東部に位置し南北に細長い鹿角盆地には、中央を南北に流れる米代川と肋骨状に流入する諸河川の浸食作用を受けて形成された段丘と舌状台地が発達しており、縄文時代早期から中世に至るまで407カ所の遺跡が確認されている。

古代には、狭布^{けふ}、紫根^{しこん}などの生産物として知られているが、安村二郎氏は古代貴族たちがこの特殊所産物を所官物として組織的に徴収できるように郡を立てて、郡司にその調達納入を担当させ、狭布^{けふ}『毛布の細布』の所官布指定郡として鹿角郡が建郡されたのではないかと推定している。そしてその時期について、『吾妻鏡』文治五年9月3日の条に、鹿角と隣り合う東の糠部郡と西の比内郡が記載されていることから、単一の生活ブロックである鹿角にも単一の郡が建てられていたであろうとして12世紀の初め頃でなかったかと推定している。^(註1)

時代は遡るが、弘仁2年7月に文室綿麻呂が幣伊村の蝦夷を討伐するために出羽、陸奥両軍の俘軍でこれを挾撃しているが、その攻撃目標の位置と出羽方の俘軍の進軍経路を考えると山間を縫うように流れる米代川によって開けた鹿角盆地を通過したと考えることは妥当であるし、秋田県北部のどこかの地と考えられている^{おの}良志間村の降俘、^{きよ}吉弥侯部都留岐が^に爾薩^さ体村の伊加古^{いかこ}を討たんとして米を出羽国府から給せられるが、^あ新野直吉氏はこれを鹿角盆地をめぐる領域争奪戦であろうと考えられており、東西交通の要路であり、出羽と陸奥の境界線上にある鹿角盆地の特異な位置が鮮明に浮びあがる。^(註2)^(註3)^(註4)

史書には、元慶2年の所謂元慶の乱で秋田城を攻め落した夷俘12カ村のうち、米代川流域にその拠点をもつ4カ村（能代、^の榎^し、^す榎^き、^ぶ、^ち、^ひ、^な、^い、^か、^づ、^の）の一つ、上津野として初めてあらわれるが、鎮守将軍小野春風が秋田城救援のため陸奥国から急行する際、最初に上津野に入り、教諭し降服させていることは、順化の浅い夷俘ではあっても、それ以前から官軍と接触交流があったことを想像させるし、この鹿角地方が奥羽北部における征夷行動、陸奥と出羽の協同作戦には欠くべからざる軍事上の要路として重視されていたと考えられる。^(註5)^(註6)

この東西交通路としての特殊事情は、その後も前九年の役の後、安倍貞任の遺児高星丸が鹿角に隠屯後、津軽藤崎へ落ちて安東氏の祖となったという^い伝承や、源頼朝の奥州征伐により平泉から落ちた藤原泰衡も鹿角を通り、西隣の地、比内贄の柵で郎従に殺されている史実もあることからもうかがい知ることができる。^(註7)^(註8)

元慶の乱で正史に現われた上津野（鹿角）地方もそれ以後鎌倉時代末期まで姿を消してしまい、その間の状況は不明である。鹿角盆地の戦国時代後期の実態を示しているものに、江戸時

代に記録された『鹿角由来集』^(註9)がある。この中には、鎌倉時代初期の奥州合戦後に関東御家人の安保、成田、奈良、秋元の四氏^(註10)がその勲功により地頭として任命されて鹿角に入部したあと四氏を出自とする庶流の独立化に伴い、既存の村に定着し、地縁的結合を強めて支配権を確立したと考えられる記述がある。本姓よりも村落名を姓として名乗り、集落を見下ろす高台に居館を構えたさまを「京都四拾二郷に侍四拾貳人住居之事」と表現している。

四氏の一族は、既存村落に館を構築し鹿角盆地を分割支配している。成田一族は、惣領が毛馬内^(註11)を所領とし、庶子らは佐比内、湯瀬、長嶺、谷内、高市、神田、大地、荒川、高清水、関神^(註12)(上)を、安保氏は惣領が大里を、庶子らが田山、三ヶ田、夏井、石鳥谷、松館、尾去、玉内、花輪、柴内、乳牛、中柴内、折加内を、秋元氏は惣領が高瀬、久保田、用ノ目、花軒田、松山、川原館を、庶子らが長牛、小豆沢、黒土、高屋、小坂、濁川、八幡館(砂子沢)、高梨を、奈良氏は惣領が大湯、庶子らが新斗米、小枝指、小平、瀬田石、芦名沢、草木(寺坂、室田、丸館)を所領としている。

各館を概観すると、単郭形式のものもあるが、大多数が舌状台地や段丘先端を数本の堀割で区画した連続多郭式のもので、中には古代に構築された「館」を利用して二次的に使用したのもみられる。また、所領域及び館規模をみると一族の惣領よりも大規模な館を所有する例、兄弟とされている中にも弟が兄より大規模な館に居を構える例があることや、各氏一族の所領が各地に点在することが知られるが、この根底には、在地の有力農民が農民層の階級分化により指導的地位に立つと同時に集落を見下ろす高台に居館を構築し、関東御家人の入部によって四氏とのつながりができ、それぞれ上級領主の被官となって家臣団に編成されたものがあることによるものかも知れない。

建武新政開始と共に鹿角国代に任命された成田頼時は、弟の成田泰次と共に宮方として仕え曾我貞光、浅利清連ら武家方から攻撃を受けている^(註11)。

その後、南北朝時代には鹿角地方は南部氏の影響下に入ったが、成田氏の一族は逆に独立性を強めていっている。

この所謂中世豪族の小範囲分割支配地である鹿角盆地にもその版図拡大を計る南部氏と浅利氏・秋田氏の抗争で侵略、占拠が続いたが、天文5年に南部氏の優位支配が定着し、天正19年の奥州仕置軍の九戸平定の後、鹿角に所領を得ていた四氏の所替えと故地離散が続き、明治4年まで鹿角盆地は南部氏の版図に吸収されている。

鹿角盆地内の館跡群のうち湯瀬、大里、谷内、長嶺、小豆沢、黒土の6館は天正19年に破却された記録が残っている^(註12)。その他の館の使用年代の下限については記録がないが、昭和30年の小枝指七ツ館^(註13)に始まる館跡の発掘調査で得られた年代観^(註14)に大差がないことから安村二郎氏が指摘するように鹿角42(48)館と言われている館跡群の大半の使用年代がほぼ近いものである

ことを推測させる。

鹿角盆地の西側を北に流れる米代川へ盆地東側の山地に源を発し、数段の段丘を浸食・開析しながら流下し、肋骨状に流入する乳牛川が沖積低地に入るあたりの右岸に一段高く広がる関上段丘面が連なる。この段丘面上に「一、血牛村、血牛六郎領知本名阿保館有」と記された『乳牛館』が構築されている。

この乳牛川右岸の段丘面には、随所に堀割状の凹地が認められるが、乳牛館の範囲、北側に隣接する柴内館との境界線が定かではない。

乳牛館の範囲と推定されている段丘面上には、妻の神Ⅰ、妻の神Ⅱ、妻の神Ⅲ、乳牛平の4遺跡が存在する。妻の神Ⅰ遺跡は堀割が巡らされており、館跡と推定されている。また乳牛平遺跡も堀割によりいくつかの郭が形成されていることから館跡とされている。妻の神Ⅱと妻の神Ⅲの各遺跡は、深い自然地形の沢目に分断されているが広大な平坦面に立地していることから、妻の神Ⅱは妻の神Ⅰの館跡と妻の神Ⅲは乳牛平の館跡との関係が取り沙汰されている。

妻の神Ⅱ、妻の神Ⅲの2遺跡は、妻の神Ⅰ、乳牛平の各郭面が狭小すぎることからこれら館郭の日常生活の場ではないかと言われている。

この説に従えば、安保氏の庶氏である柴内、血牛両氏が居を構えたとする柴内館、乳牛館の各館及び文献に載らない妻の神Ⅰの館跡の日常生活の場には厳密な区画（境界線）をする必要がなく、一連の館群とその日常生活の場と理解することも可能である。

この連続する館群、遺跡群の中でも最大面積をもつ妻の神Ⅲ遺跡の占める位置は、相当重かったものと考えられる。

註1 安村二郎 1982 「鹿角の建郡」 『別冊教育秋田』No.5

註2 日本後紀 弘仁二年七月十四日条

註3 日本後紀 弘仁二年七月二十九日条

註4 新野直吉 『古代東北史の人々』

註5 日本三代実録 元慶二年七月十日条

註6 日本三代実録 元慶二年十月十二日条

註7 東日流外三郡誌 東日流二祖安倍安東抄「大里方之祖安倍十郎貞義事」

註8 吾妻鏡 文治五年九月三日条

註9 延享5年(1748年)写本。米田勇氏所蔵

註10 4氏は関東御家人の庶流・地頭代が出自であろうと考えられている。地頭についても諸説があり今後の課題である。地頭職に関しては『鹿角市史』第1巻に安村二郎氏が詳述している。安村二郎 1982 「第四章 中世の鹿角」 『鹿角市史』第1巻

註11 「建武四年八月二十三日曾我貞光軍忠状」 『遠野南部文書』

なお、鹿角地方の館跡に関する資料は、秋田県文化財調査報告書第78集 東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰの湯瀬館付篇として掲載されている。

註12 伊藤祐清 「祐清私記一内山肋右衛門奥北の館破却之事一」 『南部叢書』第3冊

註13 江上波夫他 1958 『館址』によれば、第Ⅰ郭で9棟の住居跡が確認され、南宋青磁片や古銭（祥符元宝、嘉祐通宝、無銘銭）等が出土している。第Ⅲ郭では、5棟の住居跡が検出され、南宋青磁片、明末陶器片、桃山期陶器片、古銭（皇宋通宝、聖宋通宝、洪武通宝他）、石臼等が出土している。この他Ⅳ～Ⅶ郭も調査され、出土遺物から戦国・織豊期まで使用されていたことが判明し、鹿角の中世館の大半がこの時期のものであろうと推測されている。

註14 小枝指七ツ館の調査以降に湯瀬館(昭和53年)、新斗米館(昭和54・55年)、小豆沢館(昭和55年)、高市向館(昭和56年)の調査が実施された。その出土品は、湯瀬館：中国製蓮弁文青磁碗片(13～14C)、美濃灰釉皿(16C前半)、古銭(開元通宝、元祐通宝、永樂通宝)、新斗米館：陶磁器(青磁、白磁、染付、褐釉、美濃、志野)鉄製品(武具、建築具)、無銘銭。陶磁器の年代は12～17C前半。小豆沢館：美濃灰釉皿(16C前半)、唐津皿(16C前半)、高市向館：白磁碗(12～13C)。ここは新斗米館の一部か。

この他に大里館に隣接する歌内遺跡(集落跡)から灰釉皿1点を含む14点の陶磁器(昭和54・55年)、北の林Ⅱ遺跡から灰釉皿1点(昭和55年)が出土しており大里館との関連について注目される。

これら調査例のうち湯瀬館と小豆沢館、大里館の3館は天正19年(1591年)に破却されており、出土品の年代観とも一致する。

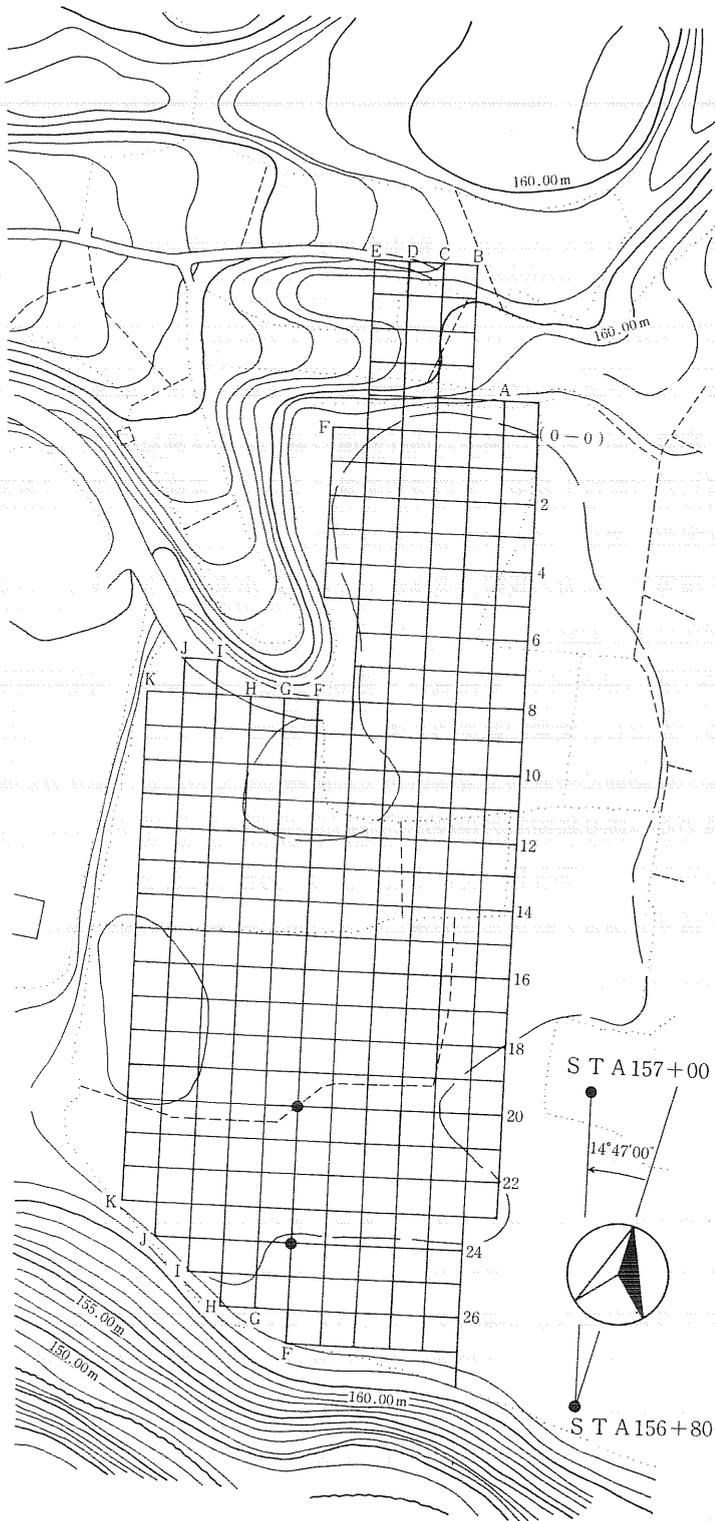
2 調査の方法

調査は、日本道路公団の打設した中心杭のうちSTA 156+80とその北方に20m隔てて打設されているSTA 157+00を結んで縦の基準線とし、STA 157++00を交点としてこの縦の基準線と直交する横の基準線を設定したあと、調査対象区域の平坦面全域に5m×5mの方眼をつくりその交点に杭を打設することから始まった。その後、測量原点を北東隅部に移動させ(0、0)とし、みかけの東西方向(横方向)にアルファベット、南北方向(縦方向)にアラビア数字を付し、各グリッドの南西隅部の方眼杭で両者を組み合わせてグリッド名とした。

アラビア数字を付した縦基準線は、磁北に対してSTA 156+80の位置上で14°47'00"西に偏している。また、このSTA 156+80は、北緯40°12'22"424、東経140°48'32"072である。

その後、北東側地区の乳牛平遺跡との間の空間地帯となる一段低い畑地、草地にもグリッドを設定した。この地区はアラビア数字にマイナス記号を冠している。

調査区域のうち北側に一見舌状に張り出す形となった0ラインから8ラインまでを最初に調



第3図 グリッド配置図

査することにした。この区画は、旧耕作者によると「何の作物を播種しても出来が悪い」程に耕作土（腐食土）が薄く地山面も一部露出していることから短時間で調査が終了できると予想し、終了後は8ラインから南側の調査で排出される土の置場として利用する計画を立てた。

8ラインから南側全域の土層堆積状況を把握するため、調査区中央を南北に走るFラインと東西方向の8、12、16、20、24ラインに沿って幅1mのトレンチを設定することにし、黄褐色浮石質火山灰層の層厚、広がり の把握と遺構の確認に努めることとした。

旧年、山ゴボウ、長芋の植栽されていた区域は地中深くまで耕作されていることからトレンチでの結果によっては、バックホー、ブルドーザ等重機による除・排土も実施することも考慮した。この場合でも、重機の除・排土作業は大湯浮石層の直上までに限定する。

遺構の実測は、設置した方眼杭を利用したの遺方測量によるが、遺構内の埋土（あるいは覆土）の堆積状況の断面実測に関しては、次の基準を設けた。

- ① 竪穴住居跡、土壇等で、断面の観察、実測が十分容易に出来る広さを持っている時は必ず採録する。（図化による記録）
- ② 土壇、T-pit等で開口部が狭く、断面観察・実測が困難である場合、図化の可否は記録担当者が判断する。ただし、文章記録をのこす。
- ③ 柱穴等の場合は、確認面での表面土層観察を文章記録としてのこし、掘り方、据え方、柱あたり等が明確でない限り断面図の作成はしない。
- ④ 上記の基準にかかわらず、調査員が特に必要と認めた場合は記録をのこす。

実測図の作成には、遺り方測量と航空写真測量に依ったが、遺構の実測図は縮尺1/20を原則としたが、SX(F)(焼土遺構)は1/10とした。また、住居跡内の炉の平面・断面は1/10とした。

遺物の収納にあたってはその遺物の出土状況によって取り扱いを区分した。遺構内出土の遺物については、その出土位置、レベルを実測図に記入後、出土地区、出土層位、レベル、遺物番号、出土年月日を記入した遺物カードを付して1点1袋、1括1袋として収納した。遺構外出土遺物については、各グリッド毎に層位区分し、重要と思われるものについてはその出土状況等を実測図に略記するが、その他は位置の図化、レベル計測は行わないこととし、出土グリッド、出土層位、出土年月日を記入した遺物カードを付して1括1袋で収納した。

遺構・遺物の記号化については、昭和53年度に東北縦貫自動車道関係の遺跡発掘調査を担当した調査員・調査補佐員が協議して決定したものを使用することにしたが、遺跡南端で検出された柱穴列とその北側に隣接する溝を併せて柵列跡と解釈してSAを付したこと。出入口と思われる張出部を持つ方形竪穴遺構を中世館跡の郭上からの検出が多いことなどから中世の竪穴住居あるいはそれに類するものと解釈してSIを付した。

写真撮影には35ミリサイズのカメラ2台と、6×4.5サイズのカメラ1台を使用し、モノクローム、カラーリバーサル各フィルムを装填して撮影するが、モノクロームフィルムによる撮影時には、撮影データ（被写体、撮影方向、撮影日等）を撮影後に一方向につき露出・絞りをかけて3枚の撮影を原則とした。

妻の神Ⅲ遺跡で使用した遺構・遺物の略記号は次の通りである。

SA 柵列 SB 掘立柱建物跡 SD 溝・濠・堀 SI 竪穴住居跡 SK(F)
フラスコ状ピット SK(I) 竪穴状遺構 SK(P) ピット SK(S) 墓
SK(T) T-pit SX(F) 焼土遺構（屋外炉・屋外かまど） RC 炭化物 RM
金属製品・鉄滓 RP 土器 RQ 石製品 RU 人骨・獣骨

3 調査の経過

妻の神Ⅲ遺跡は、昭和52年度に実施された分布調査で「遺跡No.24 縄文時代？ 要再調査」とされている遺跡であることから、昭和56年度の本調査に先立ち昭和55年秋に短期間ながら試掘調査が実施されている。

この試掘調査では、縄文土器片がわずかに出土したにとどまるが、遺跡の中央部と南側にかけては黒土層が厚く堆積し、その中に黄褐色浮石質火山灰層が堆積していることが確認されている。北側は表土が薄く、土取り穴が多いため遺構、遺物の検出は期待できず、中央部と南側に遺構、遺物の検出が期待できるとの報告であった。

この段階では、このあたりが『鹿角由来記』に「一、血牛村 血牛六郎領知 本名阿保 館有」と記載されている「乳牛館」^{おしだて}であろうという一応の認識があったものの、北に隣接する乳牛平遺跡（No.25）が所謂多郭連続式館跡の形態を呈することから、乳牛平遺跡の範囲が乳牛館の範囲であろうと考えていたのである。（昭和55年に妻の神Ⅰ遺跡と妻の神Ⅱ遺跡の1/500縮尺地形図作成する際、妻の神Ⅰ遺跡はその範囲を拡大し、新たに「妻の神館」と仮称して実施したもの、隣接する妻の神Ⅱ、妻の神Ⅲの両遺跡は、乳牛館、妻の神館に直接的な関係はもたない遺跡と考えられていたのである。

昭和53年秋から昭和55年に実施された中世城館遺跡詳細分布調査の結果をまとめた『秋田県の中世城館』が昭和56年3月に発刊された。安村二郎氏が執筆した「鹿角市・鹿角郡」の章中に「乳牛館」が記載され、その位置が口碑では現在の乳牛稻荷神社境内付近をさし、添付地形図では、乳牛平遺跡ばかりでなく南に隣接する妻の神Ⅱ、さらには妻の神Ⅰ遺跡もその範囲とされている（第4図）。

そこで詳細な地形図で検討することにし、鹿角市建設課が作成した1/2500縮尺の都市計画

図をもとに広範に検討した結果、乳牛館は多郭連続式の館で、『秋田県の中世城館』に示された範囲よりも更に東側に拡大される可能性があるかと判断され、妻の神Ⅲ遺跡とされている地区が乳牛館の主要な郭をなすのではないかとの認識をもつに至ったのである。ただし、「乳牛館」の範囲を「妻の神館」、妻の神Ⅱ遺跡地区までも包括させるかについては、考古学的調査の結果を詳細に検討してから判断することにした。

前年8月に実施した「妻の神館」に続き、昭和56年度に乳牛館の地形図を作成するに際し、妻の神Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、乳牛平の4遺跡とその周辺を網羅できるようにした。

昭和56年4月4日に、妻の神Ⅲ遺跡の担当調査員となった桜田と調査補佐員の神田、兎玉の3名が現地を踏査し、グリッド設定基準線、プレハブ建設地等について決定した。

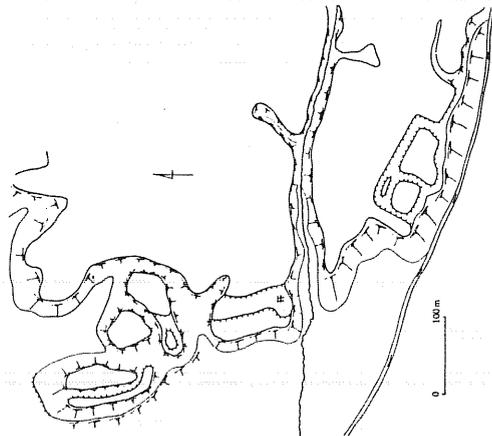
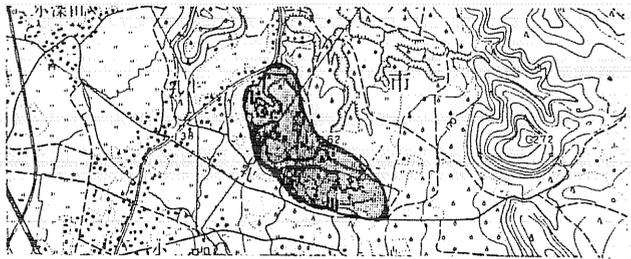
4月7日に日本道路公団仙台北建設局鹿角工事事務所草刈副所長、二藤庶務課長、前田工事長と、遺跡内（調査対象区域内）の農道、水路、立木、プレハブ建設予定地となる乳牛部落所有地借上げ、排土地、公道から遺跡に至るまでの私道の通行等について現地にて打ち合せした。

乳牛館 鹿角市花輪字乳牛平字妻の神
乳牛川右岸に広がる台地の、西南端に位置する。口碑では、現在の稲荷神社境内付近を乳牛館としているが、後背台地を区切る空堀等の遺構は認め難い。その北側に、高低不整の空堀にかこまれた比高10数m、面積1,500㎡前後の3つの郭が並び、細長い2つの小郭が付設される。

稲荷神社境内の南側をきる深い浸蝕谷と100m隔て、字妻の神地区に、南は乳牛川に面し、三方には空堀をめぐるした面積約1,200㎡、1,800㎡の2つの郭が整然と並んだ一区画がみられる。

いわゆる鹿角四十二館の一つで、『鹿角由来記』に「一、血牛村 血牛六郎領知名本阿保館有」とある。一説には、乳牛六郎は柴内氏の一門とも伝えられる。現在乳牛部落は乳牛川に沿う低地に立地するが、伝承によると古い集落は乳牛平の台地上にあったという。

これらの館は東北縦貫自動車道の予定地に大部分含まれるので、消滅の日が近い。



第4図 「秋田県の中世城館」に示された「乳牛館」の範囲

4月11日から13日までプレハブを建設し、発掘器材を搬入した。

4月20日から発掘を開始するが、この日は遺跡南西に隣接して鎮座する乳牛稲荷神社の春季例祭日にあたり、神社境内の一部が調査対象区域でもあることから、全員で参拝したあと調査

対象区域内の雑物の焼却・除去、立木（りんごの幼木）の移植等を実施し、本格的な作業は業者によるグリッド杭打設の終了した23日からとなった。

日本道路公団の打設した中心杭のうちSTA 156+80とSTA 157+00を結んで縦基準線とし、STA 157+00を交点とする直交ラインを設定して横基準線としたあと5 m×5 mの方眼でその交点に杭を打設させた。

調査区の最北部（0ライン）から南側の8ラインまでの粗掘りを開始した。この区域は表土が薄く、土取り穴や抜根穴が多くあり、遺構の存在する可能性が少なくとされ、調査後は排土地として使用する予定の区域である。5月1日にこの8ラインまでの粗掘りが終了したのでFラインの東側、8ライン、12ライン、16ライン、20ライン、24ラインの各南側に幅1 mのトレンチを設定し土層堆積状態と遺構検出のため掘り下げた。

8ラインまでのプラン確認を5月6日まで行ったところ、当初の予想を覆えし、張り出し部を持つ方形竪穴遺構12、焼土遺構9、掘立柱建物跡35の他、T-pit、土壌が多数確認されたことにより調査計画の一部手直しをすることにした。

8ラインより南側に設定したトレンチでの観察によれば、①大湯浮石層が層厚の大小差はあってもほぼ全域に分布すること。②この火山灰を掘り込んで構築される遺構が多いこと。③12ライン～24ラインまでの中央部付近が地山面まで深く、現地形で北西部に入り込んでいる沢目が深さを減じつつ続いており、そのくぼみに火山灰が堆積しているのではないか。という判断をした。

5月7日から0ラインと8ライン間の区域の遺構精査を開始する。遺構内からの遺物は僅少である。トレンチの土層堆積状態を図化したあと5月14日から19日まで8ラインから24ラインまでのうちFライン西側部分について、耕作土の剝土・除土に機械を投入することにした。この区域が、近年の山ごぼう栽培により深く耕起されていることから遺構の存在はないとの判断によるもので、Fラインから西側の0ラインから8ラインに至るまでと、0ラインの北側、DラインからFラインに至るまでの斜面の表土剝離もあわせて指示した。

5月15日 「地形・地質」を担当する秋田県立能代北高等学校教諭藤本幸雄氏が来跡する。

5月20日 池田洋一調査補佐員が雄勝町桐木田遺跡の調査終了に伴い、本遺跡に編入。

5月22日 調査区の南側下方の沢目水路に排土が流入しないように土留め柵を設置する。助岩手塁埋蔵文化財センター技師本澤慎輔、中川重紀両氏が来跡され、張り出し部のある竪穴遺構について、中世の竪穴住居跡と考えられていること等教示される。

6月1日 梶原文化課長、藤原庶務係長、富樫学芸主事、川越主事が来跡する。

6月2日 南側下方の水路側壁の崩壊が続出したためその補修をする。

6月3日 S I 003の南側地山面で銅鏡小破片出土する。

6月6日 5月に北西側沢目に重機で盛土した耕作土が昼すぎからの豪雨のため夜間に流出し、下方の畑に被害を与える。6月8日に被災地の復旧と土留め柵を設置する。

北側に隣接する乳牛平遺跡との境界部分（分布調査による遺跡範囲を示す図面では両遺跡から漏れている）に両遺跡からトレンチを入れ調査することにしてトレンチを設定する。トレンチによる観察により、現地形で土塁状に残る小山は版築等で創出されたものではなく、旧地形時に平坦であった土地に、乳牛平側と妻の神Ⅲ側にそれぞれ堀割したため、その間が土塁状に残されたものであることが判明した。

6月12日 弘田柵跡発掘調査事務所船木義勝学芸主事、佐藤 健主事が来跡し、焼土遺構について教示を受ける。

24ラインまで粗掘りを終了し、プラン確認作業を進めた結果、大湯浮石層が、以前トレンチで確認・予想した通り、現地形の沢目の延長線上のくぼみに堆積しており、その火山灰層を掘り込み構築された張り出し部のある方形竪穴遺構、掘立柱建物跡、焼土遺構群、溝状遺構、土壙が多数検出された。S I 005竪穴遺構中から咸平元宝、永樂通宝等銅銭6枚と馬金具が出土した。

6月26日 S K(S)53、S K(S)54から人骨が出土し土壙墓と判明した。S K(S)53は北側頭位・西向きの横臥屈葬で、ひざの上であわせたてのひらの中には2枚の薄い木片（円形）の間に挟んだ6枚の銅銭が検出された。S K(S)54も同じ形態を呈するが、銅銭は骨盤のあたりから1枚検出されたのみである。

6月30日 助千葉県埋蔵文化財センター西川博孝氏来跡。

7月2日 朝日新聞杉本記者来跡し、土壙墓について取材する。

7月3日 県警鹿角署員及び鹿角市福祉事務所職員が出土人骨の取扱い等の件で来跡する。

7月14日 県教育次長視察のため来跡。

7月14日 林 謙作専門指導員が来跡。指導・助言を得る。

遺跡の最南端で、溝状遺構とその南側に隣接して柱穴がほぼ等間に並ぶ遺構が検出された。

この遺構は南側縁辺部に沿って検出されていることから「柵列跡」ではないかと考えられ、これが柵列跡であるとすればその南の地区（妻の神Ⅰ、妻の神Ⅱ）とは地形上ばかりでなく構造上も区画されることになる。つまり二つの館跡の存在を想起させるのである。妻の神Ⅰ、妻の神Ⅱ両遺跡での検出遺構の種類及び年代と、妻の神Ⅲ、乳牛平両遺跡でのそれに差があることから少くとも「乳牛館」の範囲を決める資料となり得る。ただし、このことが4遺跡2館分離の可能性の決め手となっても、2館の同時存在、新旧2時期説の否定材料となると速断することはできない。

7月22日 茨城県教育財団調査課の桜井、川井両氏が来跡され、焼土遺構について教示を受

ける。

7月25日の午後から現地説明会を開催する。

7月29日 奈良教育大学三辻利一教授が来距され、昨年度の調査で出土し、分析を依頼していた須恵器・珠洲系土器と産地について、最終的結論ではないとしながらも、県内・外の窯跡から搬入されたものがあるという分析結果を知らされる。

7月30日 長福寺住職による土壙墓人骨供養が執り行われる。

8月19日には、日本道路公団鹿角工事事務所前田工事長、鹿島建設・戸田建設共同企業体柴平工事事務所所長他20名が参列し、工事関係者による土壙墓人骨供養が執り行われる。

柵列跡の近くで縄文時代中期末葉～後期初頭の竪穴住居跡が2棟検出された。

8月29日 A K T秋田テレビ「県政の窓」番組担当者取材のため来跡。

8月31日 縄文時代竪穴住居跡2棟、T-pit 基、中世の張出し部のある方形竪穴遺構42棟、掘立柱建物跡109棟、焼土遺構62基、土壙墓3基、土壙101基、溝状遺構12条、柵列跡1基、堀1条を検出して妻の神Ⅲ遺跡の発掘調査を終了し、次の調査遺跡である一本杉遺跡へ資材を搬送する。

9月5日 図面整理、遺物（僅少）の梱包、私道部分の改修等をしたあと撤収する。

4 遺跡の層位

本遺跡は関上段丘面上に立地している。この関上段丘面は、鹿角盆地全体に広く分布している鳥越軽石流の堆積した所謂鳥越段丘面上に水の作用で生じた二次堆積物が堆積したもので、この堆積物の上面を関上面と呼んでいる。関上面の乗る鳥越段丘の形成時期については、佐藤博之氏が¹⁴C年代測定法により、 $10,400 \pm 200$ 年と $12,000 \pm 250$ 年(yr.B.P.) が与えられているが、湯瀬館遺跡と飛鳥平遺跡の鳥越火山灰層中から発見された炭化木の¹⁴C年代測定ではそれより古く、 $13,100 \pm 185$ 年、 $13,000 \pm 180$ 年、 $12,800 \pm 110$ 年(yr.B.P.)を測定している。^(註1)

関上面は、鳥越面と区別されたものであるが、両者を区別する段丘崖の発達も局所的で連続性が乏しいということで鳥越段丘面に包括されている場合もある。関上面は、鳥越段丘面よりも新しい時期に堆積・形成されたものであり、上記年代より新しい。

遺跡内（調査対象区域内）では、中央部分が鞍部となって南東側から北西方向に緩やかに傾斜し、深さを増している。現地表面では全域ほぼ平坦であるが、北東区域（0～8ライン）は地山面も平坦で褐色土を15～20cm堆積させているのに対し、中央部から南部区域は地山面の凹凸もあり黒色系土を60～120cm堆積させている。

8ライン以南では、現地表面から40～60cmの深さに大湯浮石層が10～20cmの層厚堆積してい

る。この大湯浮石層の面的な広がりを観ると地山面の凹部の範囲にほぼ一致する。

この大湯浮石層は、大湯軽石質火山礫層、などとも呼ばれており、渡辺直経氏による大湯軽石質火山礫層の下位の炭質物の¹⁴C年代測定では $3,680 \pm 130$ 年(yr.B.P.) (渡辺直経1966)が与えられている。しかし、その後の研究により約1,000年前の噴火による降下軽石とする説が多数を占めている。^(註2)

地山面の上に堆積した土層を観察すると、大略6層に区分できる。

I層 耕作土 土層断面図1層

II層 黒褐色土 土層断面図2・10層

III層 黄褐色浮石質火山灰 11・15層が純層。3・6・7・8・12・14・23・33が混土層。
37が再堆積層

IV層 黒～黒褐色土 黄褐色浮石質火山灰粒を含む 4・17・27層

V層 黒～黒褐色土 黄褐色浮石質火山灰粒を含む 5・16・25・30層

VI層 黒～暗褐色土 黄褐色浮石質火山灰粒を含む 9・18・22層

このうちIII層の黄褐色浮石質火山灰が大湯浮石層でIV～VI層の含有物としての黄褐色浮石質火山灰粒とは関上面を形成する軽石粒である。

註

- 1 両遺跡の測定データは次の通りである。半減期5730年。()内は半減期5568年。

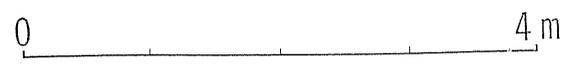
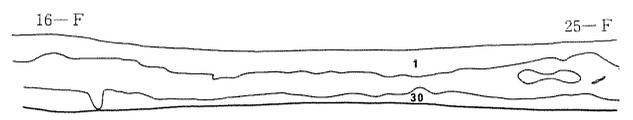
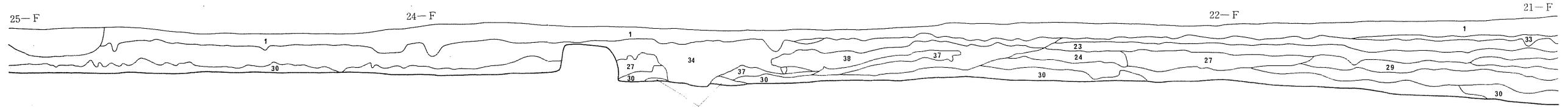
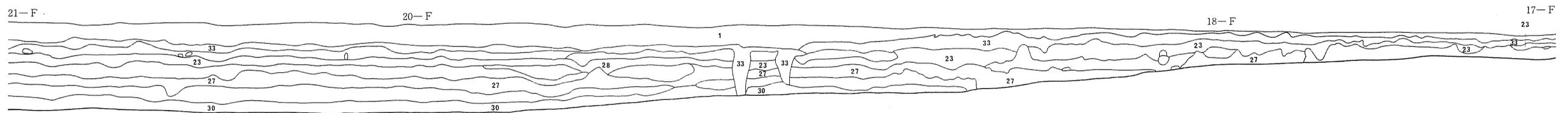
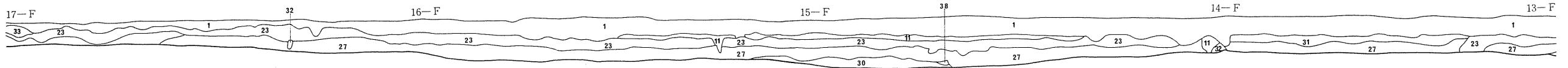
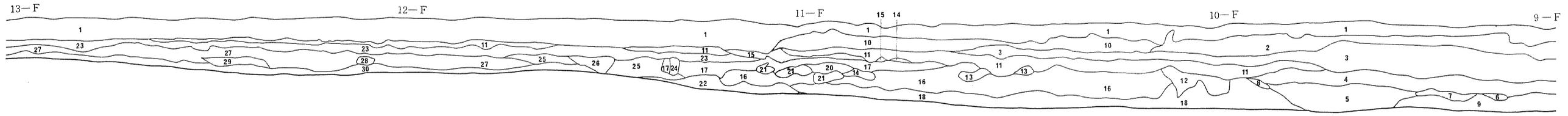
湯瀬館Dトレンチ出土炭化木：測定コード N-3734 採取者 桜田 隆 採取日
昭和54年(1979年)10月 測定値 $13,500 \pm 190$ ($13,100 \pm 185$) yr.B.P.

飛鳥平S I 002床面下出土炭化木：測定コード N-4142 採取者 橋本高史 採取日
昭和55年(1980年)6月 測定値 $13,100 \pm 115$ ($12,800 \pm 110$) yr.B.P.

飛鳥平S I 003床面下出土炭化木：測定コード N-3946 採取者 橋本高史 採取日
昭和55年(1980年)6月 測定値 $13,400 \pm 185$ ($13,000 \pm 180$) yr.B.P.

- 2 大湯環状列石を調査した藤岡一男・佐藤久両氏は菩提野竪穴遺跡の調査も併せ、大湯浮石層の降下時期を縄文時代後期から奈良時代の間としたのであるが、小坂町の弥生時代の遺跡を調査した奥山 潤氏は弥生時代後期を少し下った時期とした。その後、平山次郎・市川賢一両氏は、鷹巣町胡桃館遺跡の調査により、大湯軽石噴出直後に流下した毛馬内火砕流が胡桃館の家屋を埋没させ、その出土品の考古年代観と火砕流に押し倒された木片の¹⁴C年代測定で $1,280 \pm 90$ 年(yr.B.P.)が得られたことから今から1,000年前としている。

また、富樫泰時氏は、特別史跡大湯環状列石の範囲確認調査で大湯浮石層に覆われた平安時代の竪穴住居跡を確認し、その噴出・降下年代を平安時代後半(11世紀半ば)と位置づけている。更に大池昭二氏は青森県の十和田a降下火山灰層が大湯浮石層と一連のものであり、約1,000年前の噴火による降下軽石であるとし、町田 洋氏らも同様の見解を示している。



第5図 Fライン土層堆積断面図

庄子貞雄氏は、大湯浮石層と十和田 a 降下火山灰が一連のものであるということには同意しているが、大湯浮石層と毛馬内火砕流の関係については、平山・市川両氏と見解を異にし、大湯浮石層、十和田 a 降下火山灰層の噴出・堆積後に長期間を経てから毛馬内火砕流が流下したとの見解を述べている。

近年の発掘調査成果によれば、明確に大湯浮石層の降下・堆積後に構築された竪穴住居跡出土の炭化遺材の¹⁴C測定では1,100±100年(yr.B.P.)の範囲内に集中し、それらの竪穴住居跡から出土する環形土師器はロクロで成形され、回転糸切技法で切り離されたあと何ら調整を加えないもので、甕形土師器も器表面を粗いヘラケズリしたものである。これに対して大湯浮石層が覆土(埋土)中にレンズ状堆積している竪穴住居跡のうち、出土土器が編年上、前述の堆積後構築した竪穴住居跡出土土器の直前に位置すると考えられている静止糸切後あるいは回転糸切後底辺部にヘラケズリ調整されている環形土師器や、器表面をヘラナデする甕形土師器を出土する竪穴住居跡の炭化遺材は、平山・市川両氏の¹⁴C年代とほぼ同じ値を測定している。

参考文献

- 佐藤博之 1966 「秋田県小坂附近における十和田カルデラの軽石流堆積物」『Journal of Geo. Soc. of Japan』22巻
- 藤岡一男・佐藤 久 1953 「地学より見たる大湯環状列石」『大湯町環状列石』埋蔵文化財調査報告2 文化財保護委員会
- 奥山 潤・安保 彰 1969 「十和田湖西南部(小坂鉱山)の弥生式文化その後続形態(上)」『考古学雑誌』第49巻2号
- 平山次郎・市川賢一 1966 「1000年前のシラス洪水」『地質ニュース』140号
- 富樫泰時 1978 「大湯浮石層と鹿角盆地の遺跡」『どるめん』19号
- 大池昭二 1972 「十和田火山東麓における完新世テフラの編年」『第四紀研究』11-4
- 町田 洋・他 1981 「日本海をわたってきたテフラ」『科学』51-9
- 庄司貞雄・山田一郎 1983 「秋田県はりま館・大岱II・案内V・払田柵および平鹿の各古代遺跡中の火山灰の鉱物化学的分析」『昭和57年度埋蔵文化財センター研修会資料』秋田県埋蔵文化財センター
- 秋田県 1973 「花輪」「十和田」『秋田県総合地質図幅』
- 秋田県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書IV』秋田県文化財調査報告書第94集
- 鹿角市教育委員会 1982 『高市向館発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料22
- 富樫泰時 1977 『大湯環状列石周辺遺跡分布調査報告書(昭和51年度)』鹿角市教育委員会

5 遺構と遺物

(1) 検出遺構と検出遺物

本遺跡発掘調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡、フラスコ状ピット、Tーピット、中世の張り出し部のある方形竪穴遺構、掘立柱建物跡、焼土遺構、土壇、土壇墓、柵列、溝状遺構、堀、張り出し部のない方形竪穴遺構、楕円形竪穴遺構、柱穴様ピットである。

このうち、所謂大湯浮石層上面では、張り出し部のある方形竪穴遺構、掘立柱建物跡、焼土遺構、土壇、溝状遺構の多くが、その存在を確認されている。大湯浮石層直下の土層よりも下部でその存在が確認された遺構としてTーピットがある。

張り出し部のある方形竪穴遺構は、張り出し部底面が傾斜面となっており、本体部分では壁面に沿うように柱穴が穿たれている。大多数の張り出し部のある方形竪穴遺構からは遺物の出土が皆無であったが、S I 005からは例外とも言える程に銅銭6枚、馬金具1点が出土した。

焼土遺構は、おたまじゃくしの頭部のまわりに馬蹄形に粘土を巡らしたような形で確認されたものが多く、胴部と尾にあたる部分は、炭化物、焼土が重層している。内部から鉄滓が出土した遺構もある。

掘立柱建物跡は、桁行方向、規模、間尺に規則性を認めないが、その配置を観るといくつかのブロックに区分できる程、同一地区での重複（あるいは建て替え）がある。

土壇は、円筒状を呈するものや、平面形が方形を呈するものなどいくつかの種類の土壇が検出された。土壇覆土（埋土）の堆積状態を観察すると、掘り上げた土（軽石層）が再び埋め戻されている例はなく、黒褐色～褐色系の壤土であることから廃棄後の自然営力による埋没と考えられる。

土壇墓のうち人骨が遺存していたのは2基のみであるが、一緒に埋納したと思われる銅銭が出土している他の土壇墓では、精査時に屍体の痕跡と思われる湿った灰のような堆積が底面に検出されている。

柵列は、調査区南端で検出されている。ほぼ等間隔に同規模の柱穴が一行に地形にあわせて並んでおり、その北側に隣接するように溝が走っている。調査区の西側半分ではそれらがセツトとなって平行して存在するが、東側は地面の崩落があったためか溝のみ検出されている。

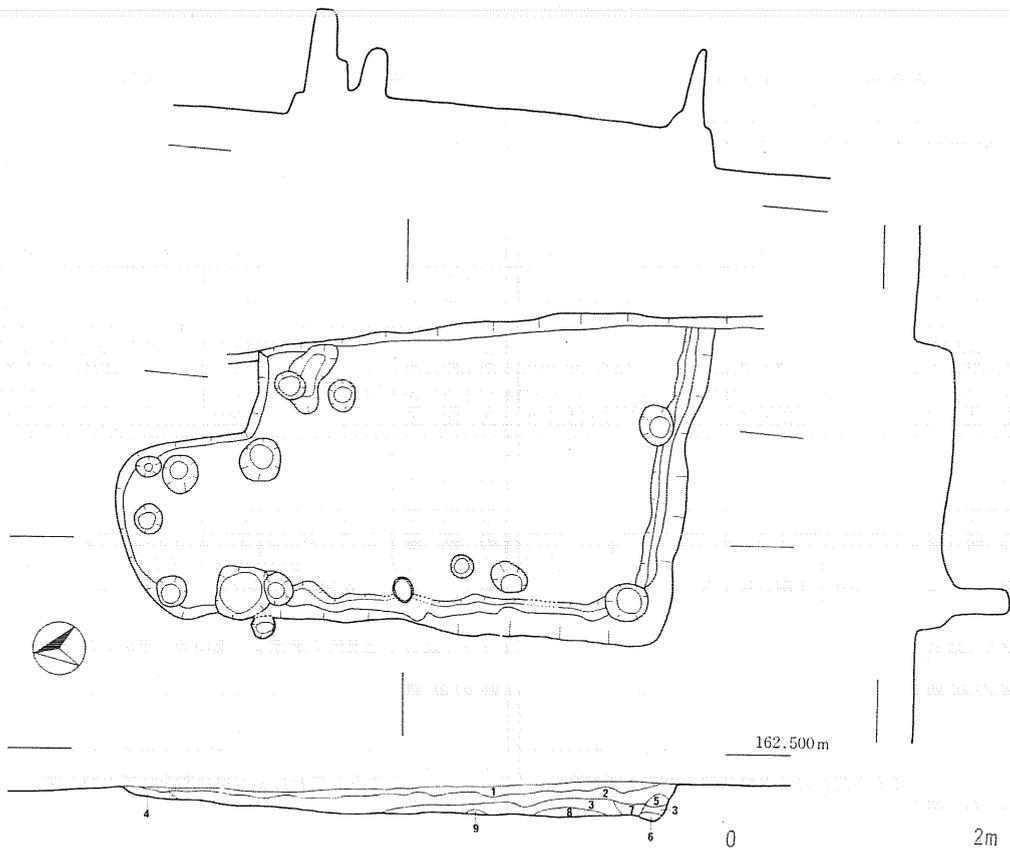
縄文時代の竪穴住居跡は、2棟とも調査区南側の縁辺部に位置する。略円形プランを呈し、床面中央部近くに円形に川原石を組んだ炉を有する。住居跡内からの遺物の出土は少ないが、壺形（釣手付）土器、深鉢形土器、磨製（擦切）石斧等がみられる。

第2表 S I 01計測・説明表

検出地区	1-0、A 2-0、A			
図版番号	4			
	壁	長	壁	高
北側壁		(205)cm		16.5~17.9cm
東側壁		(345)cm		18.9~22.5cm
南側壁		(255)cm		23.4~26.4cm
西側壁		(322)cm		21.9~23.9cm
張り出し部の位置	北側壁の西隅	長さ	102cm	幅 148cm
面積	9.5m ²	主軸方位	N-20°-E	
プラン確認時の状態	地山面で確認した。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。			
張り出し部	床面が主体部に向って緩やかに傾斜している。			
出土遺物	自然石(1点)、土器片(2点)			
備考				

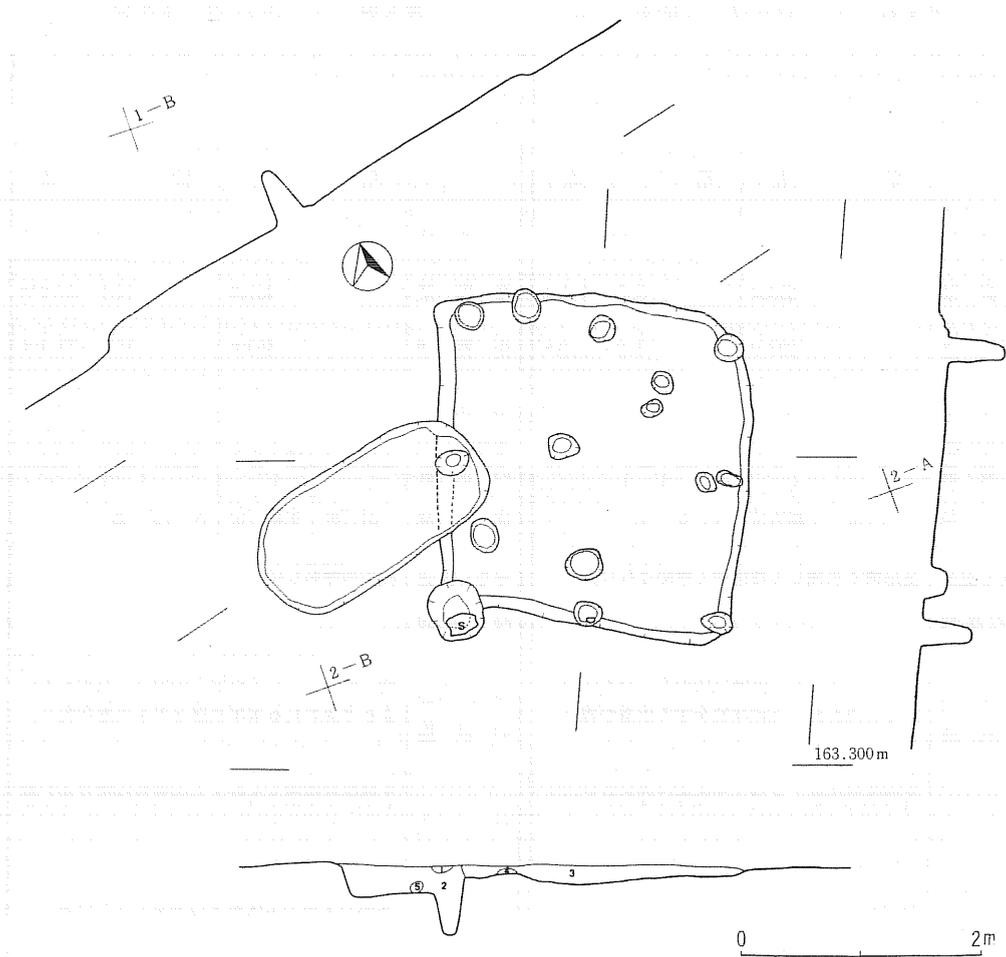
第3表 S I 02計測・説明表

検出地区	2-B、C			
図版番号	5			
	壁	長	壁	高
北側壁		282cm		3.7~8.4cm
東側壁		282cm		3.2~3.7cm
南側壁		255cm		3.9~5.0cm
西側壁		276cm		4.9~11.9cm
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅 cm
面積	6.9m ²	主軸方位	N-72°-W	
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方下面に穿たれている			
張り出し部	なし			
出土遺物	土器片(2点)			
備考				



- 1 5 Y R_{2/6} 黒褐色土 粒子は非常に細かい 1mm前後の小粒子が点在する褐色土(10 Y R_{2/6})が少量混入
- 2 5 Y R_{1・2/6} 黒色土 粒子は細かくさらさらしている褐色土(10 Y R_{2/6})粒子と炭化物が若干混入している
- 3 7.5 Y R_{2/6} 黒色土 粒子はやや細かい 黄褐色土は(10 Y R_{2/6})と暗褐色(10 Y R_{2/6})が点在
- 4 7.5 Y R_{1・2/6} 黒色土 粒子は非常に細かい
- 5 7.5 Y R_{1・2/6} 赤黒色土 粒子は最も細かく混入物は認められない
- 6 10 Y R_{2/6} 褐色土と黒色土(7.5 Y R_{2/6})が攪乱されて形成される
- 7 5 Y R_{2/6} 黒褐色土 褐色土(10 Y R_{2/6})と明黄褐色(10 Y R_{2/6})がまじって少量混入
- 8 10 Y R_{2/6} 黄褐色土 粒子は荒い橙(7.5 Y R_{2/6})が微量混入
- 9 10 Y R_{2/6} 黄褐色土 明黄褐色(10 Y R_{2/6})がわずかに混入

第6図 SI01実測図



- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|------|-----------|--------------|------|---|---------|------|--------|--------------|------|
| 1 | 7.5Y R% | 黒色土 | 粒子は割合細かい | 黄褐色土(10Y R%) | 少量混入 | 2 | 5Y R% | 黒褐色土 | 粒子は細かい | 黄褐色土(10Y R%) | 少量混入 |
| 3 | 10Y R% | 黒褐色土 | 粒子細かい | | | 4 | 7.5Y R% | 黒褐色土 | 粒子は細かい | 暗褐色土(10Y R%) | 少量混入 |
| 5 | 10Y R ¹ ・% | | 粒子は非常に細かい | 混入物なし | | | | | | 黄褐色土(10Y R%) | 少量混入 |

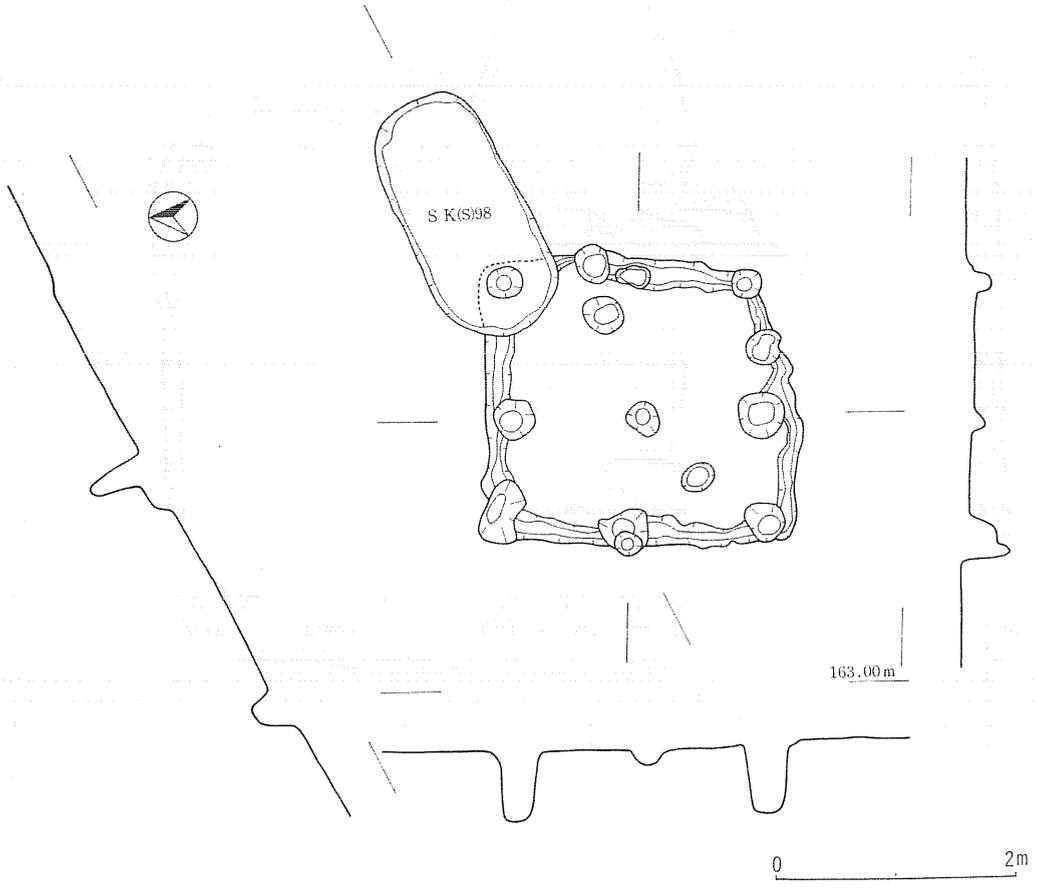
第7図 S I 02実測図

第4表 S I 03計測・説明表

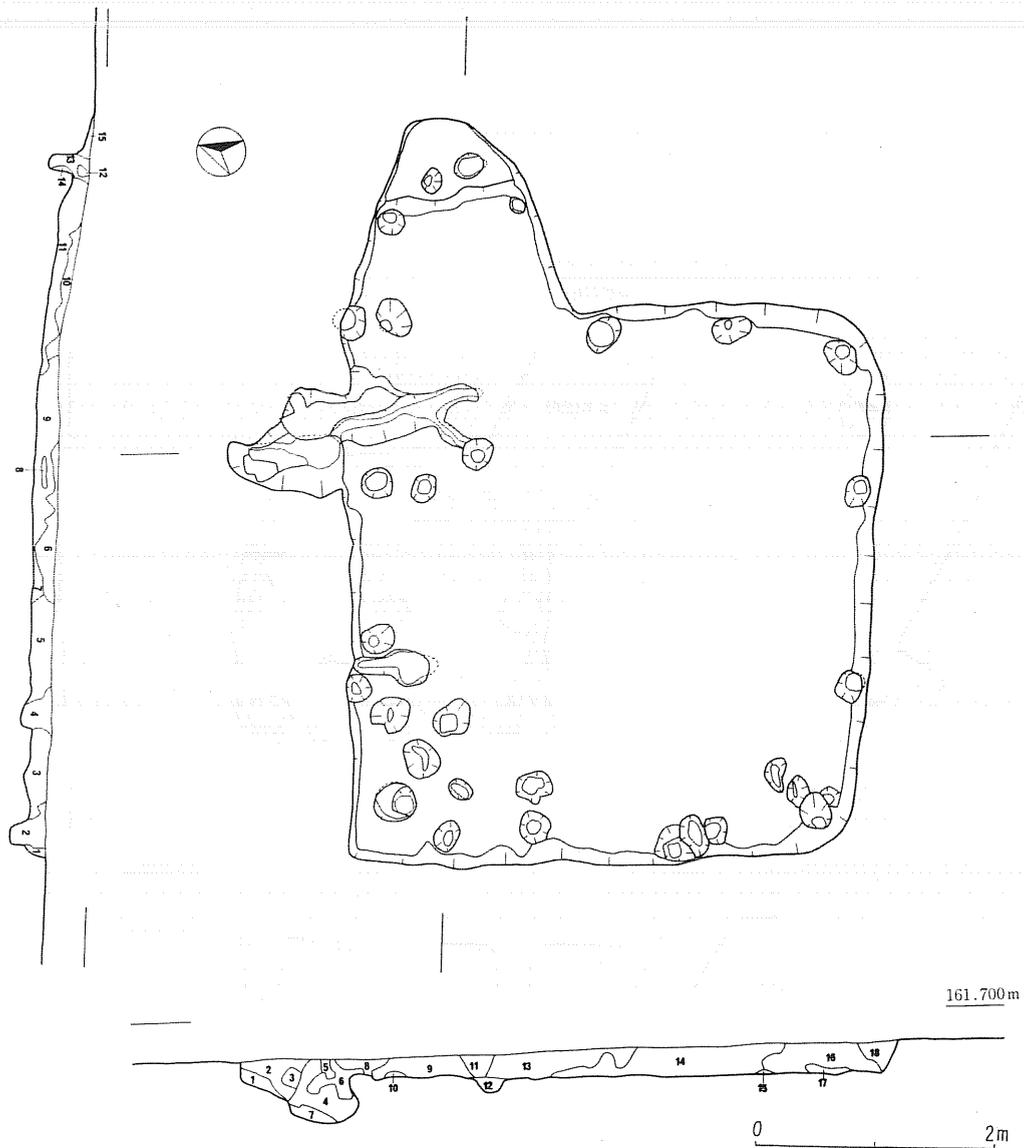
検出地区	2-B、C 3-B、C			
図版番号	5、6			
	壁	長	壁	高
北側壁		234cm		0.9~6.1cm
東側壁		250cm		3.5~4.4cm
南側壁		228cm		1.2~3.2cm
西側壁		278cm		2.5~3.0cm
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅
			cm	cm
面積	6.0㎡	主軸方位	N-6°-E	
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている			
張り出し部	なし			
出土遺物	なし			
備考	S K(S)98が新しい。			

第5表 S I 04計測・説明表

検出地区	14-A、B 15-A、B			
図版番号	6			
	壁	長	壁	高
北側壁		461cm		8.0~16.2cm
東側壁		461cm		14.0~30.6cm
南側壁		469cm		16.1~33.4cm
西側壁		430cm		7.8~16.0cm
張り出し部の位置	東側壁の北隅	長さ	165cm	幅
			195cm	
面積	21.7㎡	主軸方位	N-73°-E	
プラン確認時の状態	地山面確認した。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。			
張り出し部	底面が平坦で主体部と段差をもっている。			
出土遺物	なし			
備考				



第 8 図 S I 03実測図



- | | | | | | | | |
|----|-------------------------|-----|--------------|----|----------|------|----------------|
| 1 | 7.5 Y R ¹ ・㉔ | 黒色 | 黄褐色土粒子少量混入 | 2 | 7.5 Y R% | 黒褐色 | 黄褐色土粒子少量混入 |
| 3 | 7.5 Y R% | 黄橙色 | 軽石少量含む | 4 | 10 Y R% | 黒褐色 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 5 | 7.5 Y R% | 黒褐色 | | 6 | 10 Y R% | 明黄褐色 | 浮石少量含む |
| 7 | 7.5 Y R ¹ ・㉔ | 黒色 | 浮石少量混入 | 8 | 7.5 Y R% | 黒褐色 | |
| 9 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子多量混入 | 10 | 10 Y R% | 明黄褐色 | 浮石多量に含む |
| 11 | 10 Y R% | 黒褐色 | 黄褐色粒子と浮石少量含む | 12 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子多量、浮石少量含む |
| 13 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子少量混入 | 14 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 15 | 10 Y R% | 黒色 | 砂粒少量含む | 16 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 17 | 7.5 Y R ¹ ・㉔ | 黒色 | 黄褐色粒子少量混入 | 18 | 7.5 Y R% | 黒色 | 黄褐色粒子混入 |

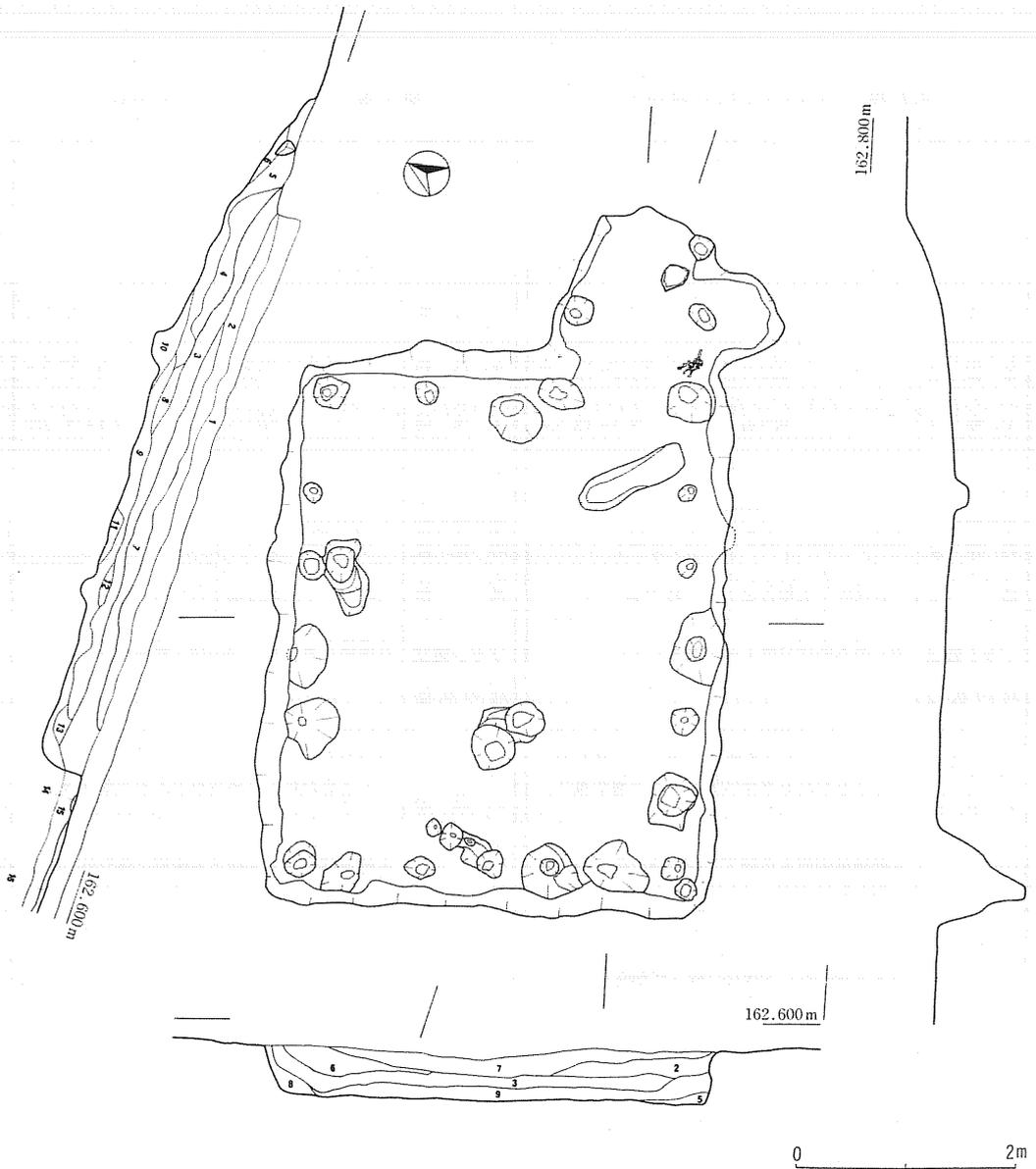
第9図 S I 04実測図

第6表 S I 05計測・説明表

検出地区	16-0、A 17-0、A				
図版番号	7				
	壁	長	壁	高	
北側壁		512cm		27.3~53.9cm	
東側壁		399cm		51.2~54.6cm	
南側壁		509cm		28.1~43.5cm	
西側壁		415cm		25.1~37.3cm	
張り出し部の位置	東側壁の南隅	長さ	132cm	幅	160cm
面積	23.8m ²	主軸方位	N-68°-E		
プラン確認時の状態	第3層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が緩やかに主体部に向って傾斜している。				
出土遺物	馬具・貨幣(6点)				
備考					

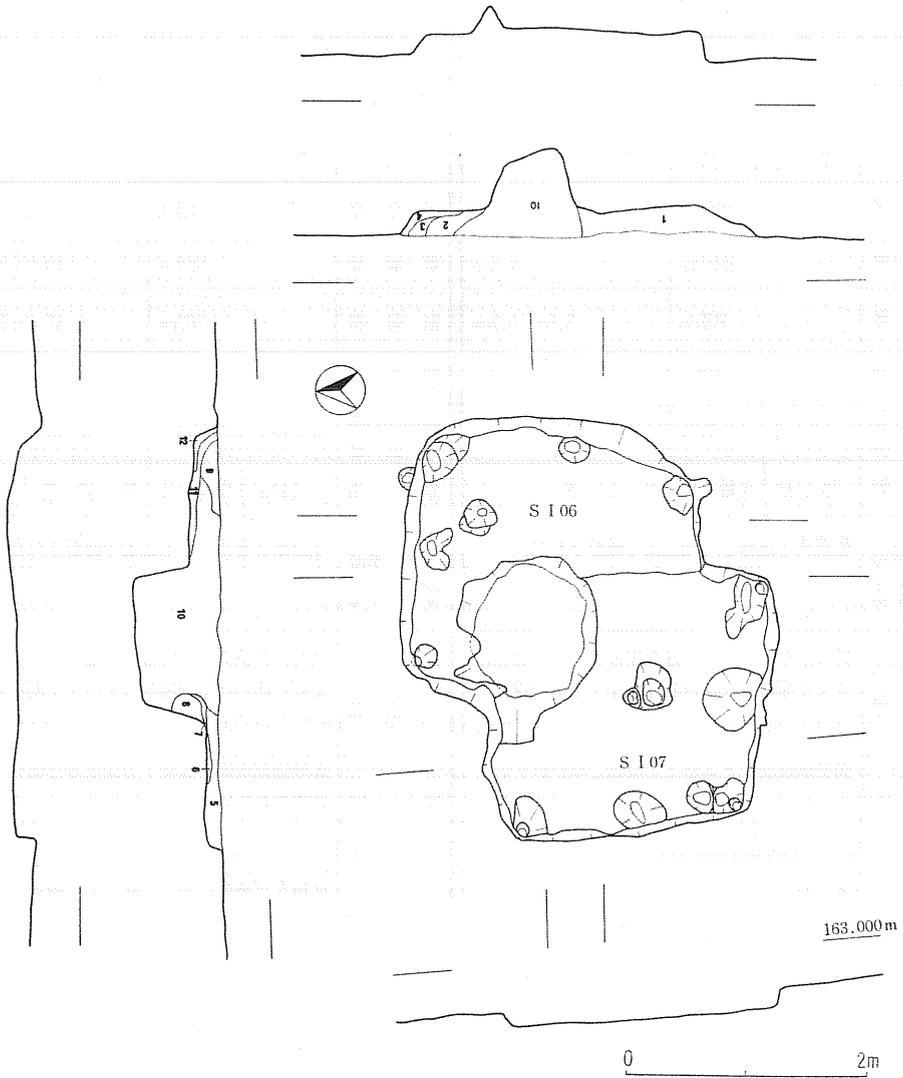
第7表 S I 06計測・説明表

検出地区	3-D 4-D				
図版番号	7、8				
	壁	長	壁	高	
北側壁		240cm		16.4~18.5cm	
東側壁		236cm		17.9~27.3cm	
南側壁		(252)cm		25.4~26.3cm	
西側壁		(241)cm		15.6~19.2cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(5.7)m ²	主軸方位	N-82°-W		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | | | |
|----|---------------------------|-------|-----------|----|--------------------------------|------|------------------|
| 1 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黒褐色土 | 軽石少量混入 | 2 | 10Y R $^{1-1}$ ・ $\frac{1}{5}$ | 黒色土 | 浮石少量混入 |
| 3 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 4 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 5 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 6 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 7 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 8 | 7.5Y R | 黒褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 9 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒褐色土 | 黄褐色粒子多量混入 | 10 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黒褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 11 | 10Y R $\frac{6}{5}$ | 明黄褐色土 | | 12 | 10Y R $^{1-1}$ ・ $\frac{1}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子少量混入、浮石少量混入 |
| 13 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 14 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 浮石混入 |
| 15 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ より暗い | 黒色土 | | 16 | 7.5Y R $\frac{2}{5}$ | 黒色土 | 浮石混入 |

第10図 S I 05実測図



- | | | | | | | | |
|----|----------------------|------|-------------------------|----|----------------------|------|-------------------------|
| 1 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色 (φ 5~20mm) が少量混入 | 2 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色 (φ 5~20mm) の粒子が少量混入 |
| 3 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色 (φ 5~20mm) の粒子が少量混入 | 4 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色80%前後混入 |
| 5 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色 (φ 1~30mm) 少量混入 | 6 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色 (φ 1~30mm) 少量混入 |
| 7 | 10Y R _{2/2} | 暗褐色土 | 黄褐色 (小さな粒子) 多量混入 | 8 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 褐色及び黄褐色がブロック状に多量混入 |
| 9 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色が多量混入 | 10 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色 (φ 5~40mm) が多量混入 |
| 11 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | | 12 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 層状黄褐色が多量混入 |

第11図 S I 06・S I 07実測図

第8表 S I 07計測・説明表

検出地区	3-D 4-D				
図版番号	7、8				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(233)cm		10.3~11.4cm	
東側壁		(259)cm		9.6cm	
南側壁		202cm		3.9~16.2cm	
西側壁		207cm		12.9~14.5cm	
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	(5.1)m ²	主軸方位	N-1°-E		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備考					

第9表 S I 08計測・説明表

検出地区	4-B、C 5-B、C				
図版番号	8、9				
	壁	長	壁	高	
北側壁		383cm		9.5~11.7cm	
東側壁		302cm		13.3~23.4cm	
南側壁		362cm		17.6~24.6cm	
西側壁		418cm		8.6~26.5cm	
張り出し部の位置	北側壁の西隅	長さ	52cm	幅	147cm
面積	143m ²	主軸方位	N-6°-E		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	石皿(1点)、土器片(4点)、土製紡垂車(1点)、砥石(1点)、自然石(1点)				
備考					



- | | | | | | | | |
|----|---------------------|------|-----------------|----|----------------------|------|-----------|
| 1 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 2 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 3 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 4 | 7.5Y R $\frac{2}{2}$ | 黑色土 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 5 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 6 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 7 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 8 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 9 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色微量混入 | 10 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色微量混入 |
| 11 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 12 | 7.5Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 浮石微量混入 |
| 13 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色微量混入 | 14 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 褐色土 | |
| 15 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子多量、炭化物微量混入 | 16 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子多量混入 |
| 17 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 18 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 |

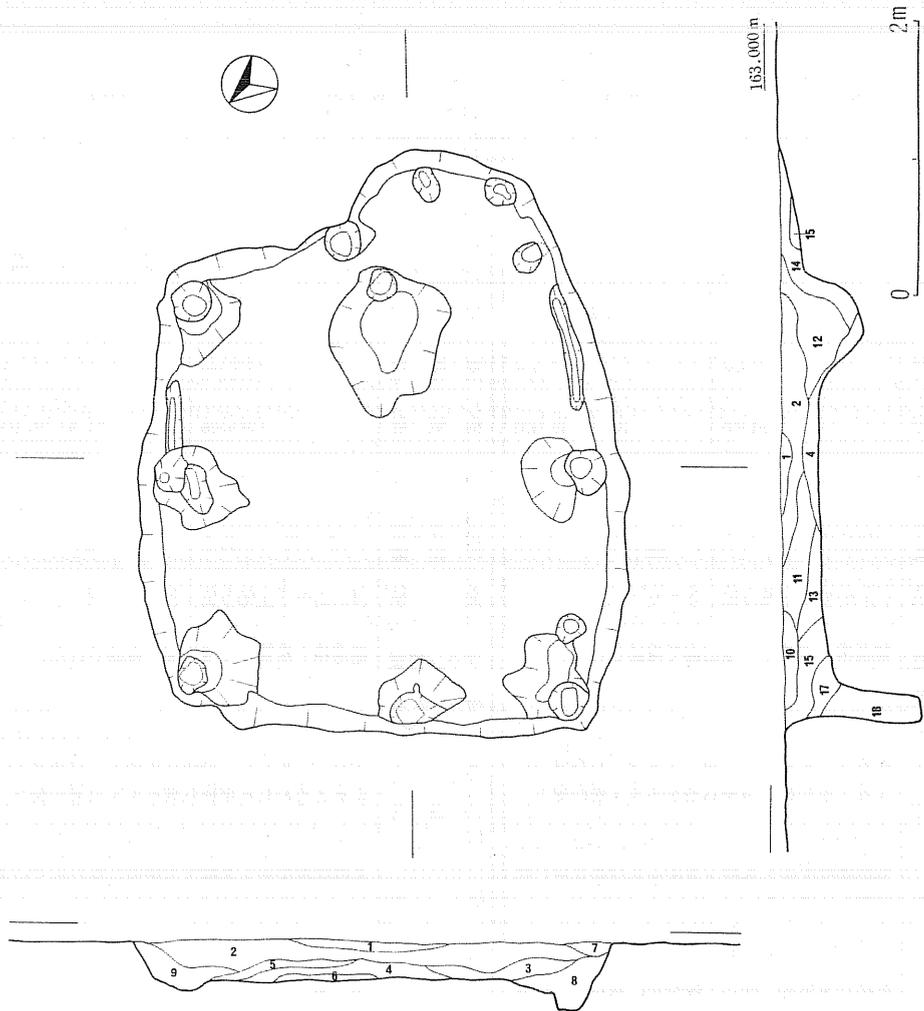
第12图 S I 08 · S I 14实测图

第10表 S I 14計測・説明表

検出地区	4-A、B				
図版番号	8、9				
	壁	長	壁	高	
北側壁		393cm		(0.2~2.0)cm	
東側壁		333cm		(0.5)cm	
南側壁		(402)cm		(0.4~0.7)cm	
西側壁		(323)cm		(3.3~10.9)cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(12.7)㎡	主軸方位	N-80°-E		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考	溝が巡っているので古代の竪穴住居跡かとも考えられるが、かまど、炉の痕跡が皆無である。				

第11表 S I 09計測・説明表

検出地区	6-B				
図版番号	10、11				
	壁	長	壁	高	
北側壁		325cm		25.7~30.5cm	
東側壁		307cm		18.5~19.8cm	
南側壁		380cm		22.7~29.1cm	
西側壁		335cm		28.3~30.5cm	
張り出し部の位置	南東側壁の西隅	長さ	50cm	幅	145cm
面積	12.4㎡	主軸方位	S-52°-E		
プラン確認時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | | | |
|----|------------------------|------|----------------------------|----|----------------------|------|------------------|
| 1 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土少量混入、白石浮石多量混入 | 2 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土少量混入 |
| 3 | 10Y R _{1·5/1} | 黑色土 | 黄褐色土少量混入、炭化物微量混入
細根多数混入 | 4 | 10Y R _{2/1} | 褐色土 | 黑色土少量混入 |
| 5 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土多量混入 | 6 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土少量混入 |
| 7 | 10Y R _{2/1} | 黑褐色土 | | 8 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土多量混入、木根多数混入 |
| 9 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土多量混入 | 10 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土少量混入、炭化物微量混入 |
| 11 | 10Y R _{2/1} | 黑褐色土 | 黄褐色土多量混入 | 12 | 10Y R _{2/1} | 黑褐色土 | 黄褐色土多量混入、浮石少量混入 |
| 13 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | 黄褐色土多量混入 | 14 | 10Y R _{2/1} | 黑色土 | |
| 15 | 10Y R _{1·5/1} | 黑色土 | | 16 | 10Y R _{2/1} | 黑褐色土 | 黄褐色土、浮石多量混入 |
| 17 | 10Y R _{1·5/1} | 黑色土 | 黄褐色土、浮石多量混入 | 18 | 10Y R _{2/1} | 黄褐色土 | 浮石多量混入 |

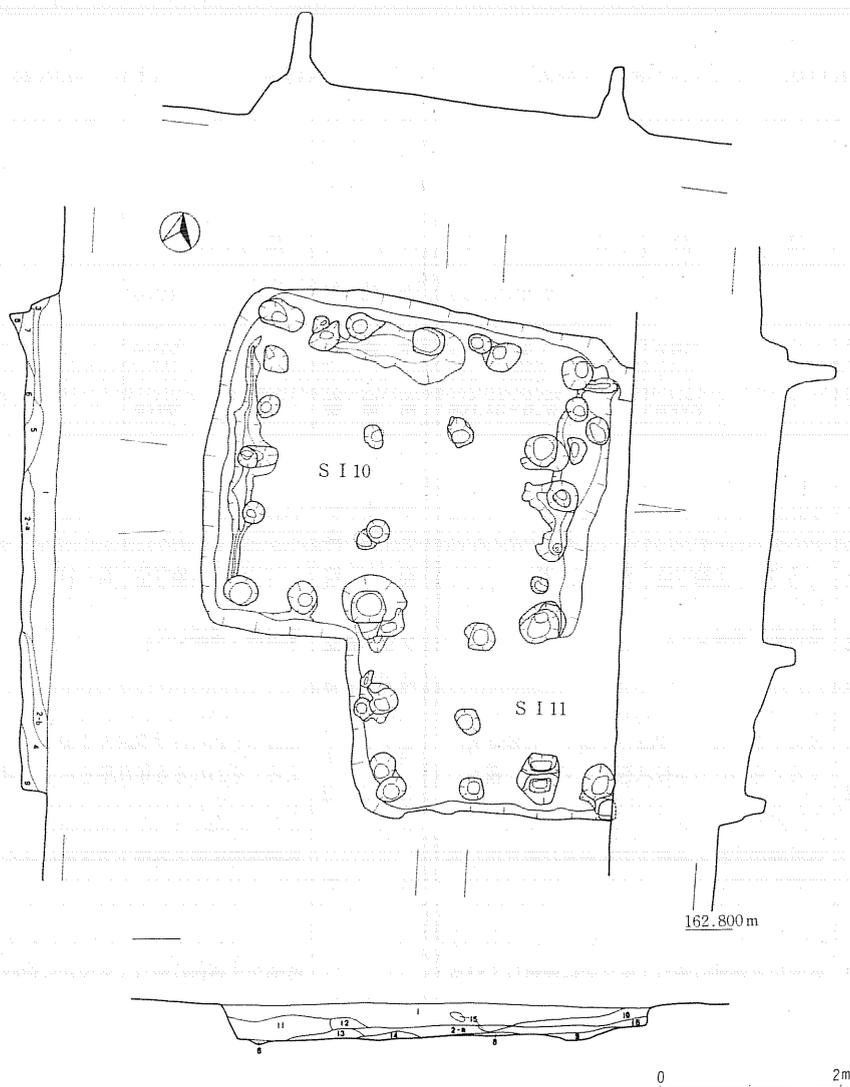
第13图 S I 09実測図

第12表 S I 10計測・説明表

検出地区	6-0、A 7-0、A				
図版番号	11				
	壁	長	壁	高	
北側壁		401cm		26.4~31.6cm	
東側壁		334cm		5.9cm	
南側壁		(391)cm		31.1~35.6cm	
西側壁		(384)cm		36.4~37.7cm	
張り出し部の位置	南側壁の東隅	長さ	(150)cm	幅	(130)cm
面積	(15.6)m ²	主軸方位	S-0°-E		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					

第13表 S I 11計測・説明表

検出地区	6-0、A 7-0、A				
図版番号	11				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(270)cm		cm	
東側壁		(475)cm		cm	
南側壁		(265)cm		21.4~26.6cm	
西側壁		(475)cm		30.3~30.9cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(13.2)m ²	主軸方位	N-5°-W		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | |
|------|--|------|---|
| 1 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色土粒子が少量混入 | 2(a) | 10Y R 黑色土 黄褐色土が少量混入 |
| 2(b) | 10Y R ¹ ・ ² 黑色土 小粒子の浮石多量混入 | 3 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色が小さいブロック状に2、3カ所混入 |
| 4 | 10Y R ² 黑色土 黒褐色土少量混入 | 5 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色の粒子少量混入 |
| 6 | 10Y R ² 黄褐色土 黒褐色土が層状に少量混入 | 7 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色の大小の粒子が少量混入 |
| 8 | 10Y R ² 黒褐色土 黄褐色土が全体的に多量混入 | 9 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色の粒子が少量混入 |
| 10 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色土の粒子が少量混入、浮石少量混入 | 11 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色土の粒子が少量混入、浮石少量混入 |
| 12 | 10Y R ¹ ・ ² 黑色土 | 13 | 10Y R ² 黑色土 黄褐色土が少量混入 |
| 14 | 10Y R ² 黒褐色土 黄褐色土が多量混入 | 15 | 10Y R ¹ ・ ² 黑色土 浮石が少量混入 |
| 16 | 10Y R ² 黒褐色土 黄褐色土多量混入、浮石も少量混入 | | |

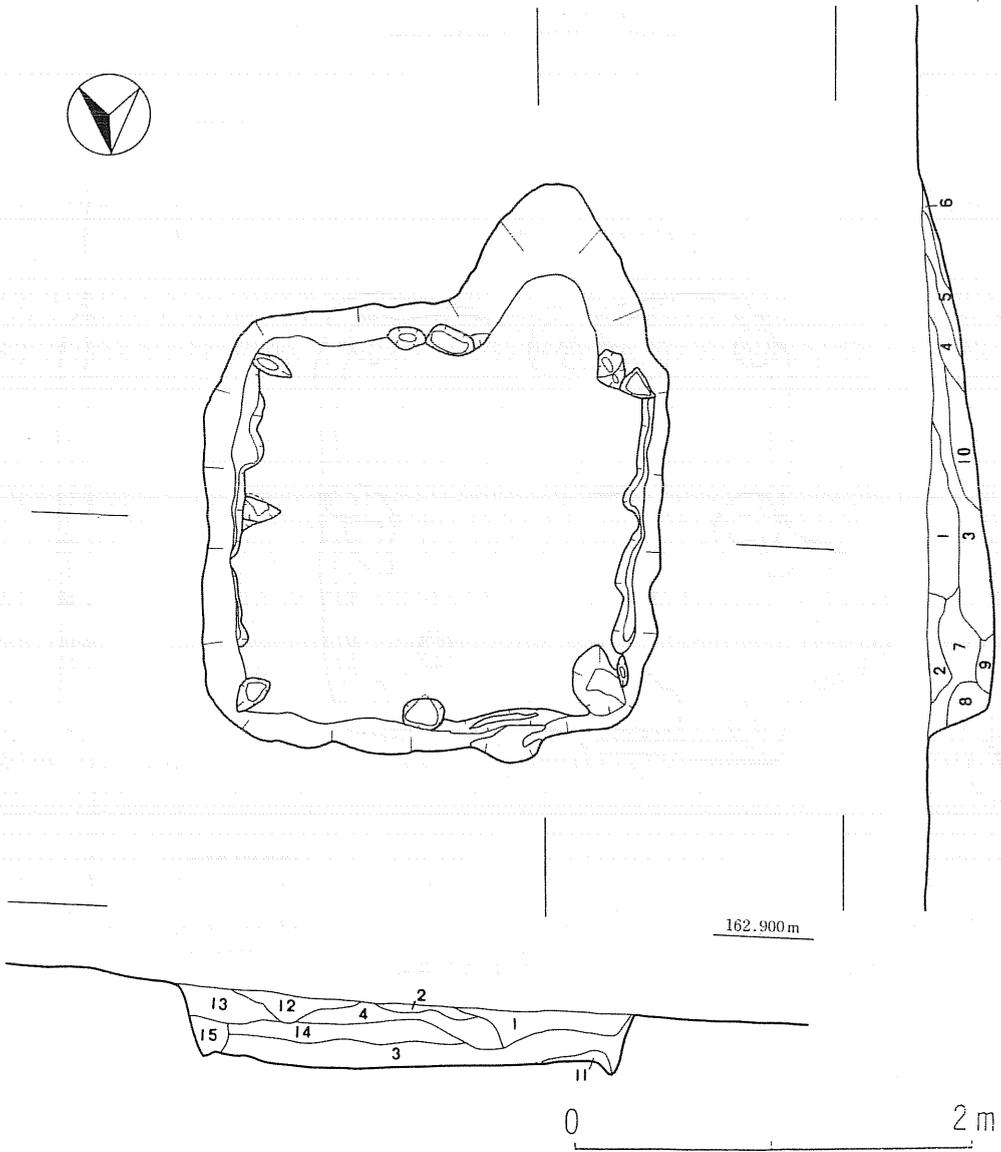
第14図 S I 10・S I 11実測図

第14表 S I 12計測・説明表

検出地区	4-E				
図版番号	12				
	壁	長	壁	高	
北側壁		225cm		28.3~30.9cm	
東側壁		218cm		32.9~38.3cm	
南側壁		230cm		32.6~33.0cm	
西側壁		183cm		14.8~28.2cm	
張り出し部の位置	南側壁の西隅	長さ	75cm	幅	105cm
面積	5.3m ²	主軸方位	S-7°-W		
プラン確認時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					

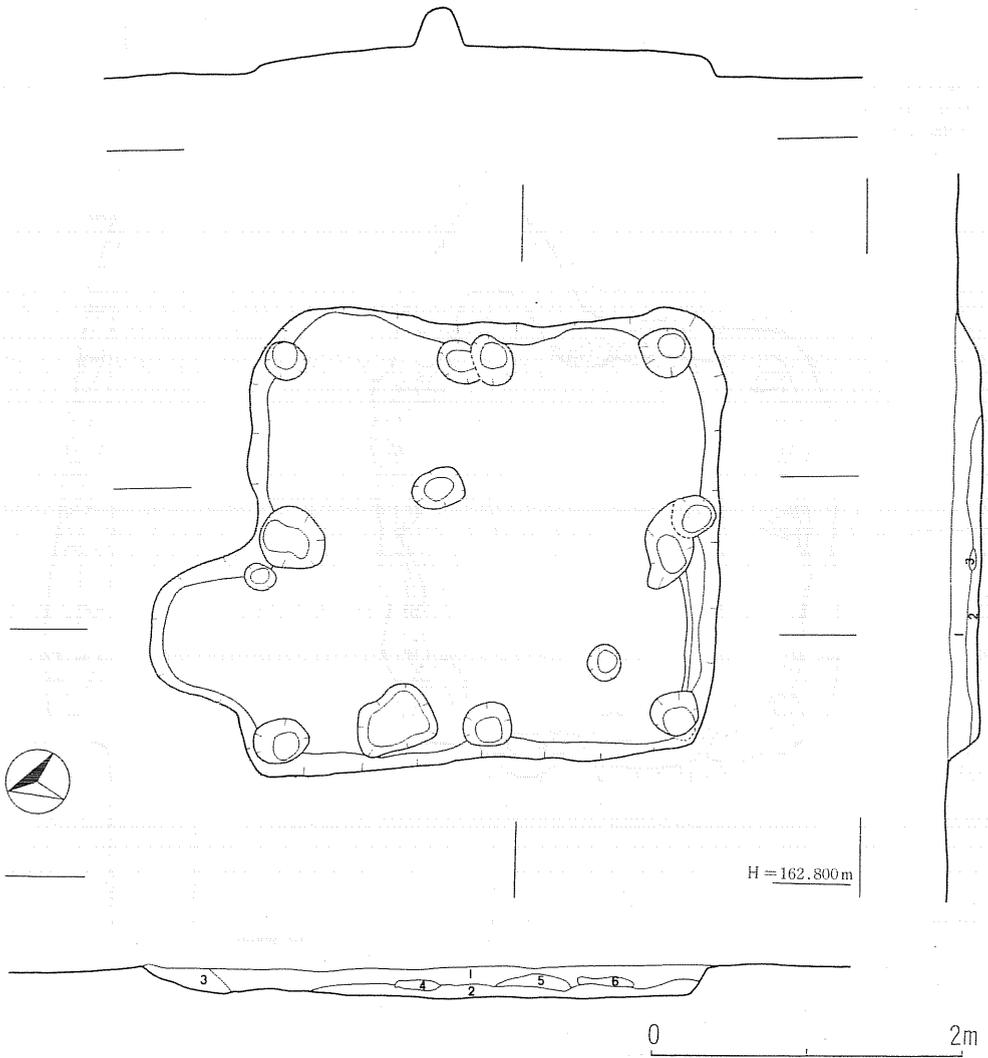
第15表 S I 13計測・説明表

検出地区	2-A、B 3-A、B				
図版番号	13				
	壁	長	壁	高	
北側壁		307cm		6.8~7.4cm	
東側壁		302cm		8.5~14.0cm	
南側壁		286cm		12.7~22.4cm	
西側壁		304cm		13.6~20.9cm	
張り出し部の位置	北側壁の西隅	長さ	62cm	幅	113cm
面積	9.1m ²	主軸方位	N-11°-E		
プラン確認時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | | | |
|----|---------|------|----------------------|----|---------|------|-------------------------------------|
| 1 | 10Y R ㊦ | 褐色土 | 黄褐色土がブロック状に少量混入 | 2 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | 黄褐色土がブロック状に少量混入 |
| 3 | 10Y R ㊦ | 暗褐色土 | 黄褐色土が5~40mmの粒子状に少量混入 | 4 | 10Y R ㊦ | 褐色土 | 黄褐色土が20~30mmの粒子状少量混入、浮石5~25mmが2~3つぶ |
| 5 | 10Y R ㊦ | 黄褐色土 | | 6 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | |
| 7 | 10Y R ㊦ | 褐色土 | | 8 | 10Y R ㊦ | 暗褐色土 | 黄褐色土がブロック状に少量混入 |
| 9 | 10Y R ㊦ | 暗褐色土 | | 10 | 10Y R ㊦ | 黄褐色土 | 明黄褐色土が少量混入 |
| 11 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | | 12 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | 黄褐色土の粒子が少量混入 |
| 13 | 10Y R ㊦ | 暗褐色土 | 黄褐色土が5~40mmの粒子状に少量混入 | 14 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | 明黄褐色及び黄褐色土が粒状に少量混入 |
| 15 | 10Y R ㊦ | 黒褐色土 | 黄褐色土が小さな粒状に少量混入 | | | | |

第15図 S I 12実測図



- | | |
|--|--|
| <p>1 7.5Y R$\frac{2}{2}$ 黒褐色土 粒子は細かい。10Y R$\frac{2}{2}$ 暗褐色及び10Y R$\frac{2}{2}$ 褐色が少量混入</p> <p>3 10Y R$\frac{2}{2}$ 黒褐色土 粒子は割合細かい炭化物混入</p> <p>5 10Y R$\frac{2}{2}$ 黄褐色土 粒子は比較的小さい</p> | <p>2 7.5Y R$\frac{2}{2}$ 黒褐色土 粒子は細かい</p> <p>4 7.5Y R$\frac{1}{1}$ 黒色土 粒子は大きい</p> <p>6 10Y R$\frac{2}{2}$ 褐色土 粒子は割合大きい</p> |
|--|--|

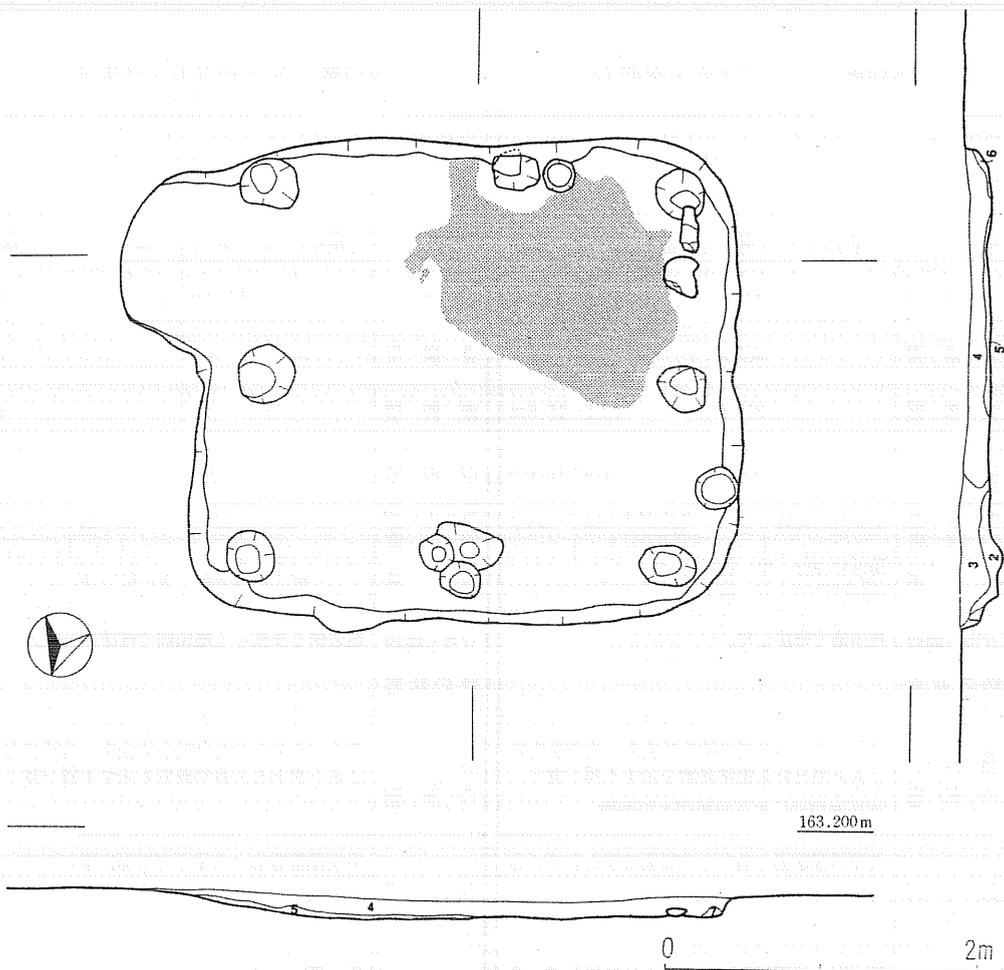
第16図 S I 13実測図

第16表 S I 15計測・説明表

検出地区	8-0、A 9-0、A				
図版番号	14				
	壁	長	壁	高	
北側壁		349cm		13.0~22.2cm	
東側壁		305cm		15.8~21.9cm	
南側壁		318cm		13.2~15.6cm	
西側壁		313cm		11.3~13.7cm	
張り出し部 の位置	東側壁の西隅	長さ	現状46cm (推定83)	幅	143cm
面積	現状10.8㎡ (推定11.0)	主軸 方位	E-14°-N		
プラン確認 時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。床面南西部に禾本科植物灰が堆積。				
柱 穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	床面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	自然石2個				
備考					

第17表 S I 16計測・説明表

検出地区	9-0、A 10-0、A				
図版番号	15				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(260)cm		2.5~6.6cm	
東側壁		cm		cm	
南側壁		cm		cm	
西側壁		cm		cm	
張り出し部 の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	㎡	主軸方位	N-57°-E		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱 穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | | | |
|---|---------|------|-----------------------------|---|---------|-----|-----------|
| 1 | 10Y R | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 2 | 7.5Y R% | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 3 | 7.5Y R% | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 | 4 | 7.5Y R% | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 5 | 10Y R% | 黑褐色土 | 黄褐色粒子少量混入、7.5Y R% 褐灰色の灰多量混入 | 6 | 10Y R% | 黑色土 | 黄褐色粒子少量混入 |
| 7 | 7.5Y R% | 黑色土 | 黄褐色粒子多量混入 | | | | |

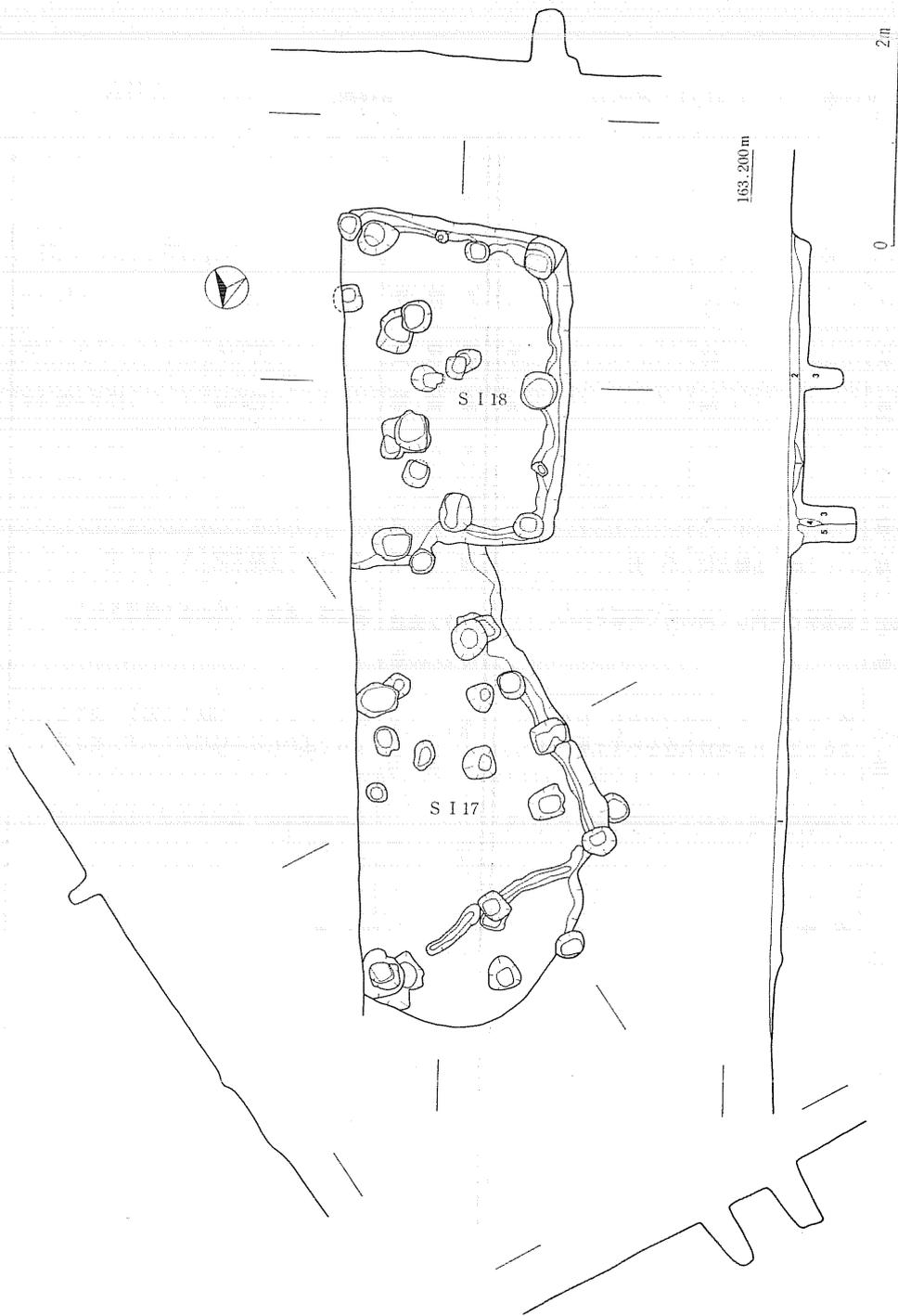
第17図 S I 15実測図

第18表 S I 17計測・説明表

検出地区	9-0、A 10-0、A			
図版番号	15			
	壁	長	壁	高
北側壁		(290)cm		cm
東側壁		cm		cm
南側壁		cm		cm
西側壁		(325)cm		6.1~8.2cm
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅
			cm	cm
面積	? m ²	主軸方位	不明	
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている			
張り出し部	不明			
出土遺物	なし			
備考				

第19表 S I 18計測・説明表

検出地区	10-0、A 11-0、A			
図版番号	15、16			
	壁	長	壁	高
北側壁		(199)cm		9.7~14.5cm
東側壁		(335)cm		? ~ ? cm
南側壁		(224)cm		17.9~20.4cm
西側壁		(295)cm		15.2~18.4cm
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅
			cm	cm
面積	(6.7)m ²	主軸方位	N-1°-E	
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	各壁隅部床面と各壁中央部下方床面に穿たれている。			
張り出し部	不明			
出土遺物	土器片(1点)			
備考				



- | | |
|--|--|
| <p>1 10Y R% 黒褐色土 粒子は非常に細かい、10Y R% 褐色が少量混入</p> <p>3 10Y R% 黒褐色土 10Y R% 細かい明黄褐色粒子が少量混入</p> <p>5 10Y R% 黒褐色土 粒子はやや粗い、10Y R% 黄褐色粒子が斑点状に多量混入、なお下部は非常にしまりがない</p> | <p>2 7.5Y R% 黒褐色土 粒子は細かい、10Y R% 黄褐色粒子が少量混入</p> <p>4 7.5Y R% 黒褐色土 粒子は細かく、10Y R% 明黄褐色粒子が少量混入</p> |
|--|--|

第18図 S I 16・S I 17・S I 18実測図

第20表 S I 19計測・説明表

検出地区	11-0、A 12-0、A				
図版番号	16				
	壁	長	壁	高	
北側壁		現状325 (推定400)cm		15.5~27.7cm	
東側壁		現状160 (推定388)cm		9.4cm	
南側壁		355cm		19.9~28.2cm	
西側壁		395cm		27.2~30.4cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	現状14.3㎡ (推定15.0)	主軸方位	N-79°-W		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	RM(不明)→2個、陶磁器(1点)				
備考					

第21表 S I 20計測・説明表

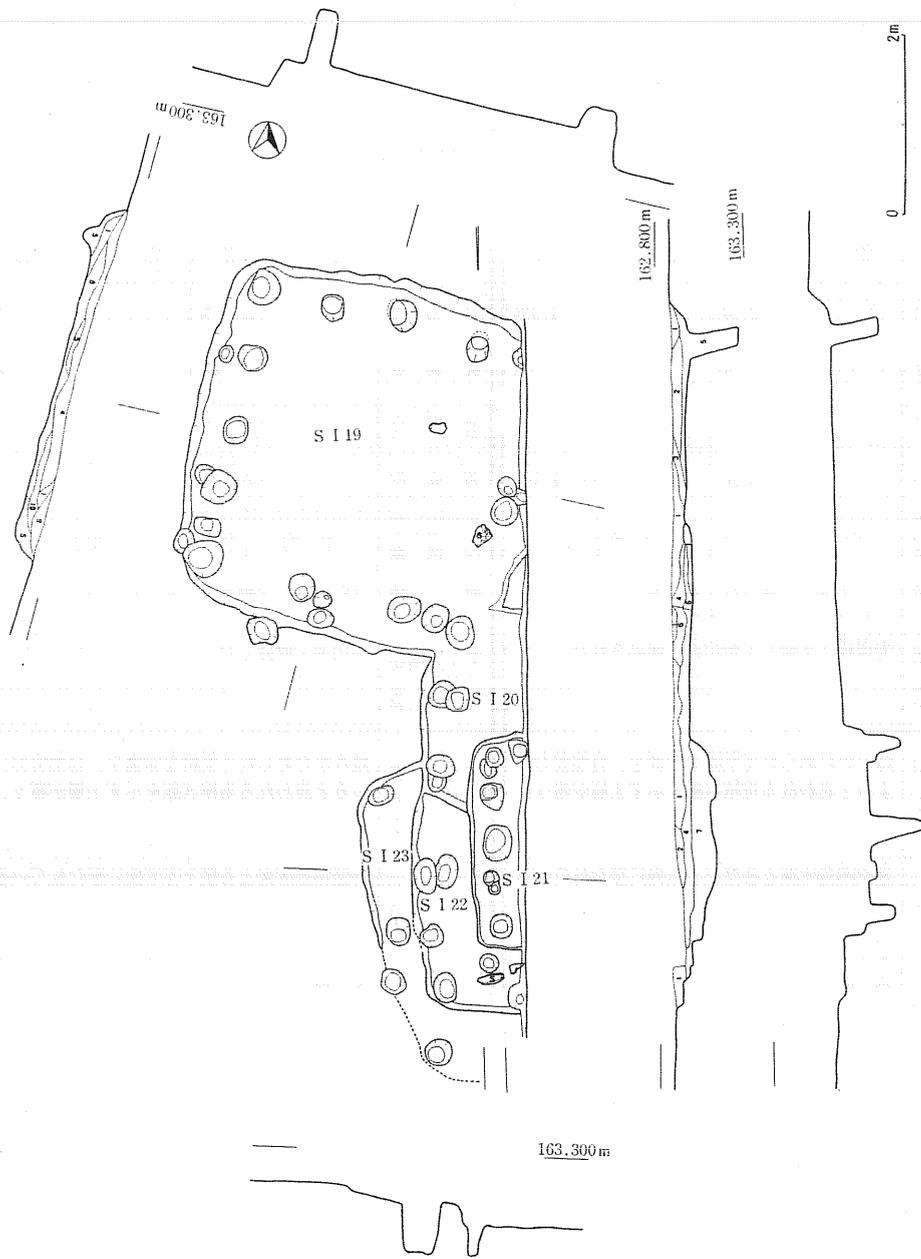
検出地区	12-0、A 13-0、A				
図版番号	17				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(105)cm		? cm	
東側壁		(250)cm		? cm	
南側壁		(115)cm		3.6cm	
西側壁		(217)cm		19.6cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(2.6)㎡	主軸方位	不明		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					

第22表 S I 21計測・説明表

検出地区	12-0 13-0				
図版番号	17				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(63)cm		222cm	
東側壁		(246)cm		cm	
南側壁		(56)cm		20.8~22.7cm	
西側壁		233cm		19.7~29.5cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(1.4)m ²	主軸方位	不明		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					

第23表 S I 22計測・説明表

検出地区	12-0、A 13-0、A				
図版番号	17				
	壁	長	壁	高	
北側壁		cm		cm	
東側壁		cm		cm	
南側壁		(110)cm		8.3cm	
西側壁		(248)cm		6.3~6.5cm	
張り出し部の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	m ²	主軸方位	不明		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | |
|---|-----------------------------|---|----|---------------------------|--|
| 1 | 7.5Y R _{2/6} 黒褐色土 | 粒子はさほど細くない、10Y R _{2/6} 黄褐色土が微量混入 | 2 | 5 Y R _{2/6} 黒褐色土 | 10Y R _{2/6} 明黄褐色、10Y R _{2/6} 黄褐色土、10Y R _{2/6} 黄褐色土が少量混入 |
| 3 | 10Y R _{2/6} 黒色土 | 粒子は細かい、10Y R _{2/6} 黄褐色土が少量混入 | 4 | 10Y R _{2/6} 黒褐色土 | 粒子は細かい、10Y R _{2/6} 黄褐色土が少量混入 |
| 5 | 7.5Y R _{2/6} 極暗褐色土 | 粒子は割合細かい | 6 | 10Y R _{2/6} 黒褐色土 | 粒子は荒い、10Y R _{2/6} 黄褐色土が微量混入 |
| 7 | 10Y R _{2/6} 黒色土 | 粒子は細かい、10Y R _{2/6} 褐色土が少量混入 | 8 | 10Y R _{2/6} 黒褐色土 | 細かく、10Y R _{2/6} 褐色土が少量混入 |
| 9 | 5 Y R _{2/6} 暗赤褐色土 | 粒子は細かい、10Y R _{2/6} 、 _{2/6} 明黄褐色土が少量混入 | 10 | 5 Y R _{2/6} 黒褐色土 | 粒子は細かい、10Y R _{2/6} 黄褐色土が少量混入 |

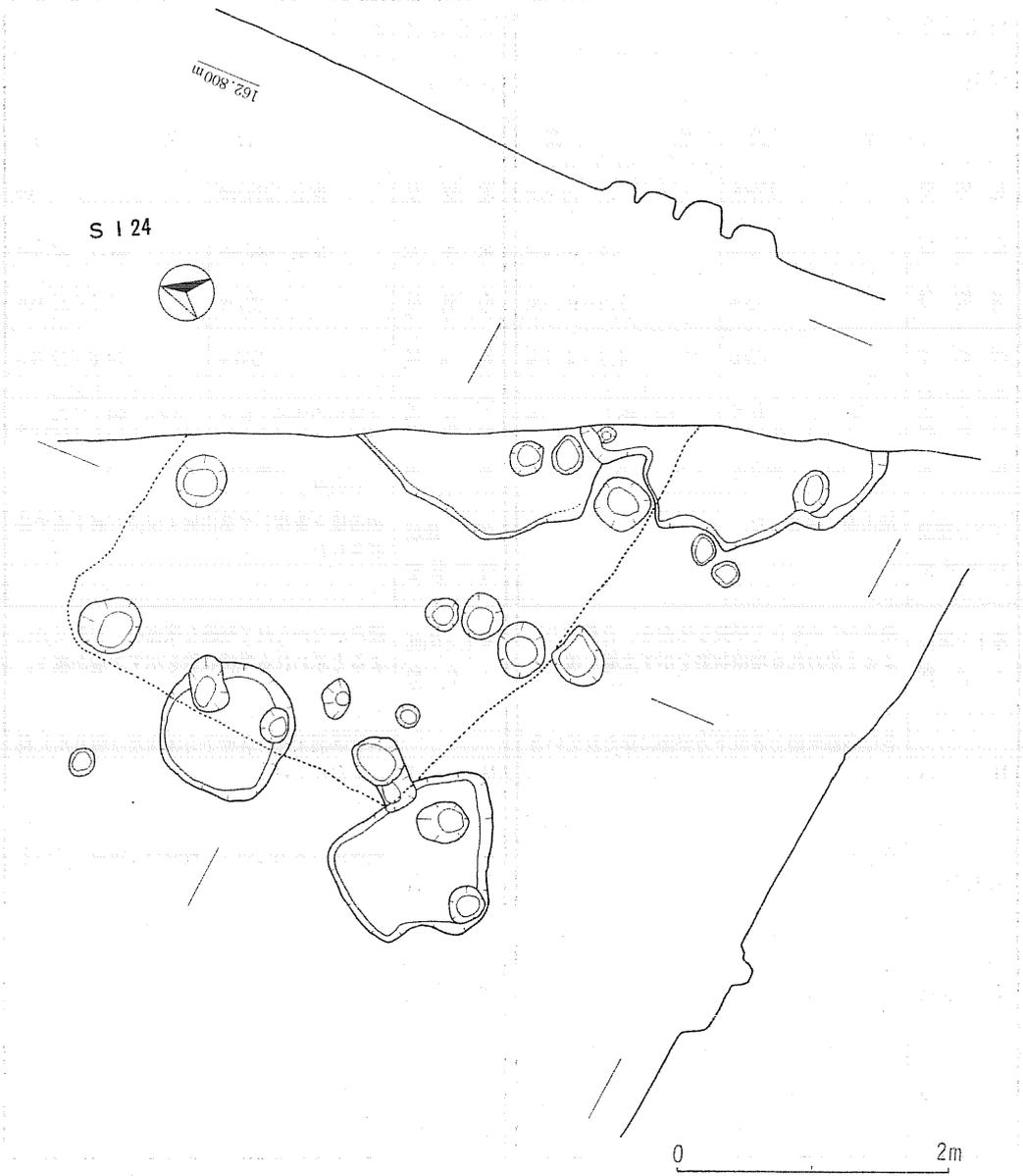
第19図 S I 19・S I 20・S I 21・S I 22・S I 23実測図

第24表 S I 23計測・説明表

検出地区	12-0、A 13-0、A				
図版番号	17				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(83)cm		4.0cm	
東側壁		cm		? cm	
南側壁		(109)cm		? cm	
西側壁		(335)cm		4.6~7.1cm	
張り出し位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	? m ²	主軸方位	不明		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して地山面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					

第25表 S I 24計測・説明表

検出地区	3-0、A 4-0				
図版番号	1				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(177)cm		cm	
東側壁		cm		cm	
南側壁		(365)cm		cm	
西側壁		(295)cm		cm	
張り出し位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	(8.3)m ²	主軸方位	E-41°-S		
プラン確認時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考					



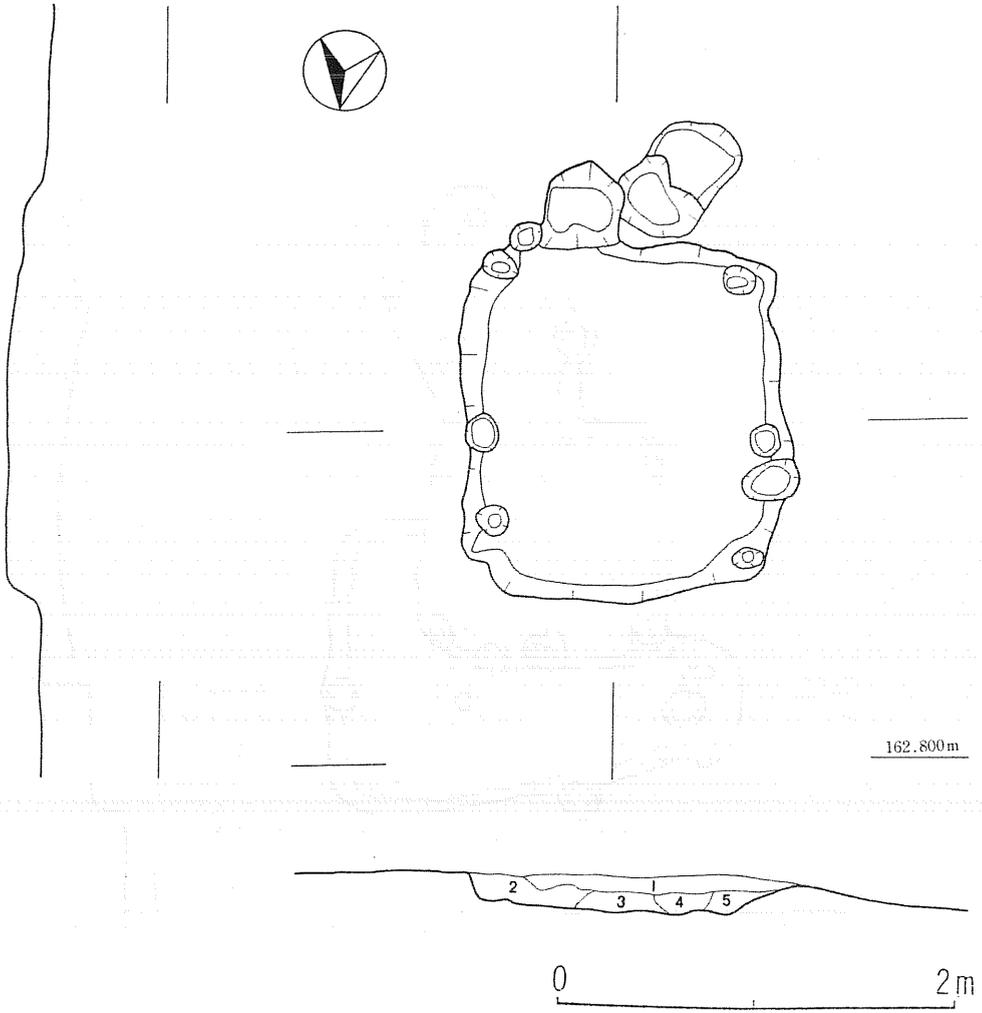
第20图 S I 24实测图

第26表 S I 25計測・説明表

検出地区	5-F				
図版番号					
	壁	長	壁	高	
北側壁		159cm		15.3~16.6cm	
東側壁		185cm		9.8~18.1cm	
南側壁		162cm		7.9~10.0cm	
西側壁		165cm		4.9~8.7cm	
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	2.8m ²	主軸方位	N-7°-E		
プラン確認時の状態	地山面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方堅面に穿たれている				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備考					

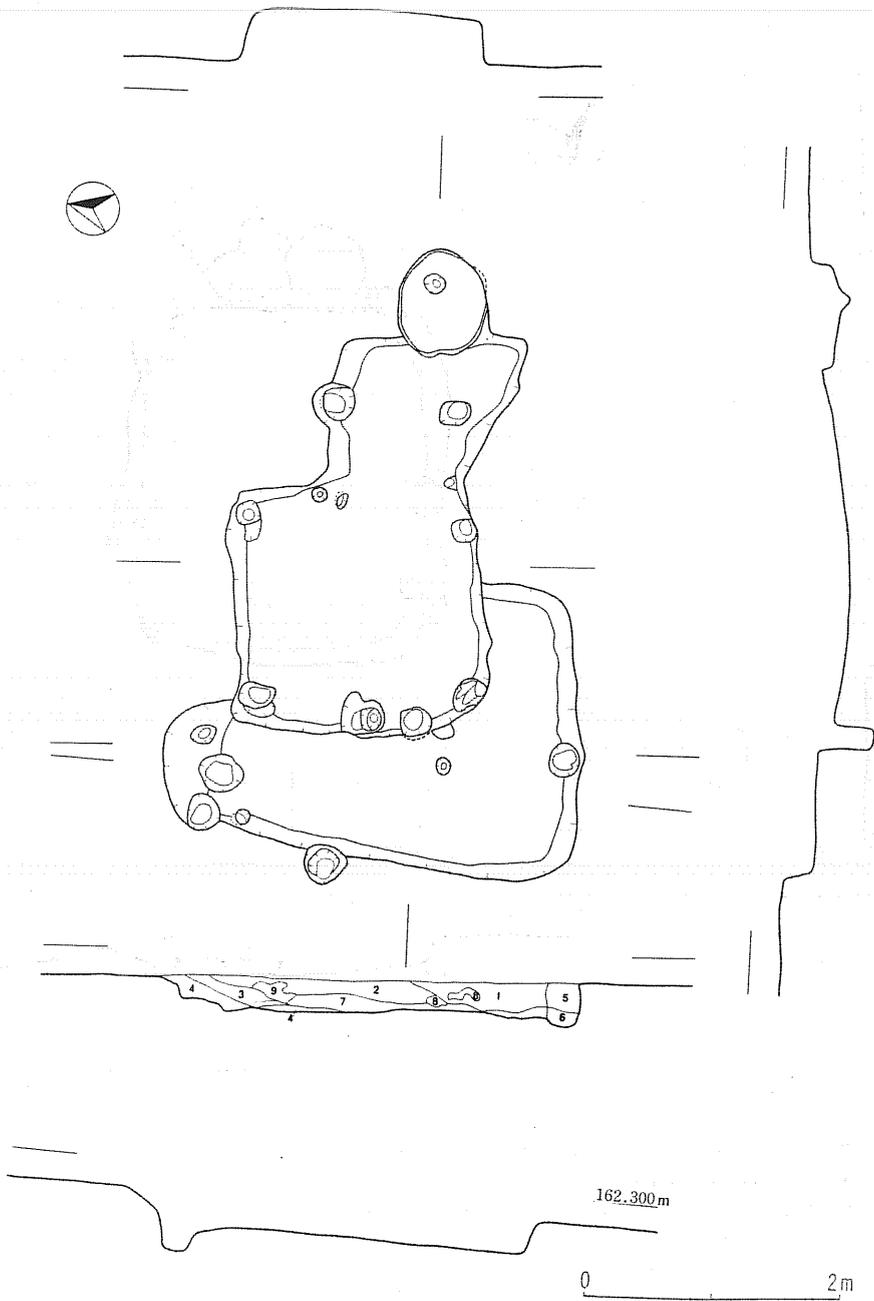
第27表 S I 26計測・説明表

検出地区	23-E				
図版番号	18				
	壁	長	壁	高	
北側壁		推定(216)cm		cm	
東側壁		推定(232)cm		21.4~22.5cm	
南側壁		227cm		25.5~27.9cm	
西側壁		266cm		18.8~22.6cm	
張り出し部の位置	北側壁の西隅	長さ	69cm	幅	推定(114)cm
面積	推定(6.2)m ²	主軸方位	E-11°-S		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					



- | | |
|---|---|
| <p>1 10Y R% 黒褐色土 粒子は非常に細かい、10Y R% 黄褐色と10Y R% 明黄褐色が少量混入している</p> <p>3 7.5Y R% 黒色土 粒子は細かい、10Y R% 黄橙色が少量混入</p> <p>5 10Y R% 黒色土 粒子は細かい、10Y R% 黄褐色が微量混入</p> | <p>2 7.5Y R% 黒褐色土 粒子は細かい、10Y R% 明黄褐色が少量混入</p> <p>4 7.5Y R% 黒色土 粒子は細かい、10Y R% 黄褐色が少量混入</p> |
|---|---|

第21図 S I 25実測図



- | | |
|--|--|
| 1 10Y R ₂ 黒褐色土 黄褐色土が少量混入 | 2 10Y R ₂ 黒色土 浮石が少量混入 |
| 3 10Y R ₁ ・ ₂ 黒色土 浮石が層下面に多量混入 | 4 10Y R ₂ 黒褐色土 浮石が少量混入 |
| 5 10Y R ₁ ・ ₂ 黒褐色土 黄褐色土がブロック状に少量混入 | 6 10Y R ₂ 黒色土 黄褐色土が多量混入 |
| 7 10Y R ₂ 黒色土 | 8 10Y R ₁ ・ ₂ 黒色土 浮石が全体に（粒子の細かい）多量混入 |
| 9 10Y R ₂ 黒色土 褐色土が多量混入、粒子の細かい浮石が混入 | |

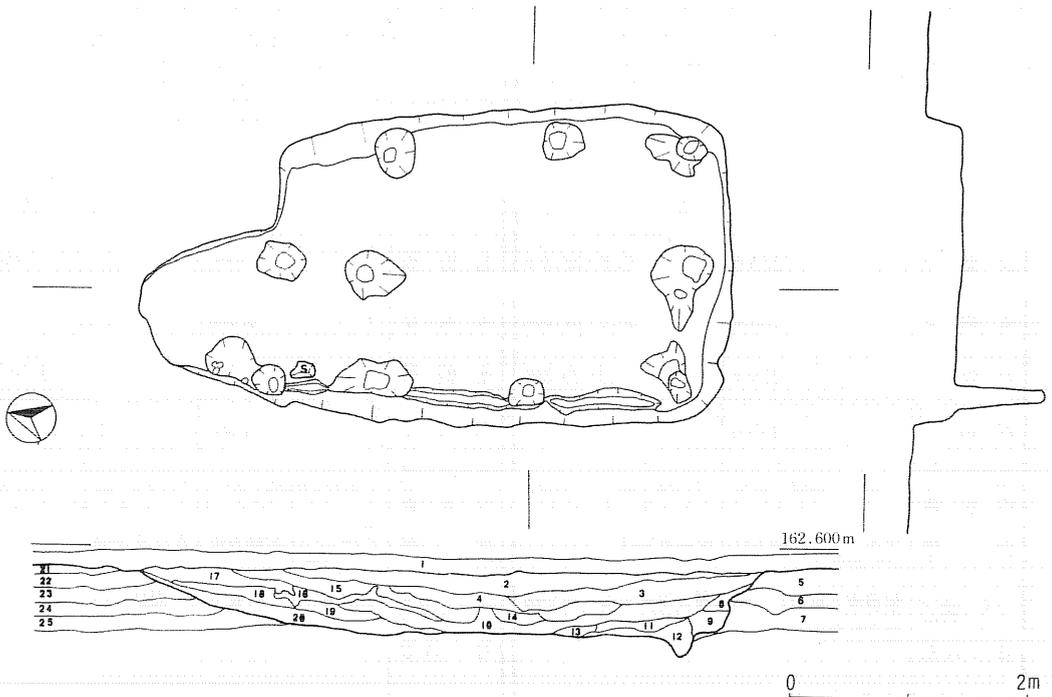
第22図 S I 26・S I 27実測図

第28表 S I 27計測・説明表

検出地区	23-E				
図版番号	18				
	壁	長	壁	高	
北側壁		189cm		35.6~36.3cm	
東側壁		188cm		35.8~37.2cm	
南側壁		195cm		11.9~29.3cm	
西側壁		197cm		10.4~15.9cm	
張り出し部の位置	東側壁の南隅	長さ	112cm	幅	114cm
面積	推定 (4.9)㎡	主軸方位	N-0°-E		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					

第29表 S I 28計測・説明表

検出地区	23-F、G 24-F、G				
図版番号	18				
	壁	長	壁	高	
北側壁		240cm		cm	
東側壁		372cm		27.8~31.5cm	
南側壁		271cm		26.8~31.1cm	
西側壁		383cm		32.5~37.5cm	
張り出し部の位置	北側壁の西隅	長さ	113cm	幅	150cm
面積	推定 10.7㎡	主軸方位	N-5°-W		
プラン確認時の状態	第III層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向かって緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					



- | | | | | | | | |
|----|-------------------------------------|------|--------------------------|----|-------------------------------------|------|-------------------------|
| 1 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 白色及び黄褐色の浮石が少量混入 | 2 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色土が少量、浮石が少量混入 |
| 3 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 褐色土がブロック状に少量混入、黄褐色土が少量混入 | 4 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 暗褐色土がブロック状に少量、黄褐色土が少量混入 |
| 5 | 10Y R ¹ ・ _{2/2} | 黒色土 | | 6 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黒褐色土が多量混入 |
| 7 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | にぶい黄褐色土が多量混入 | 8 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 暗褐色土が少量混入 |
| 9 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | にぶい黄褐色土がブロック状に少量混入 | 10 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 褐色土がブロック状に少量混入 |
| 11 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 褐色土が少量混入 | 12 | 10Y R ¹ ・ _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色土が少量混入 |
| 13 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 暗褐色土が少量混入 | 14 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 暗褐色土が少量混入 |
| 15 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 暗褐色土が少量混入 | 16 | 10Y R _{2/2} | 暗褐色土 | 黒褐色土が少量混入 |
| 17 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 浮石が少量混入 | 18 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色の浮石が少量混入 |
| 19 | 10Y R _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色土が少量混入 | 20 | 10Y R ¹ ・ _{2/2} | 黒色土 | 黄褐色の浮石が少量混入 |
| 21 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色の浮石が多量混入 | 22 | 10Y R ¹ ・ _{2/2} | 黒色土 | 浮石が微量混入 |
| 23 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 暗褐色土がブロック状に少量混入 | 24 | 10Y R _{2/2} | 黒褐色土 | 黄褐色土が微量混入 |
| 25 | 10Y R _{2/2} | 暗褐色土 | 明黄褐色土が少量ブロック状に混入 | | | | |

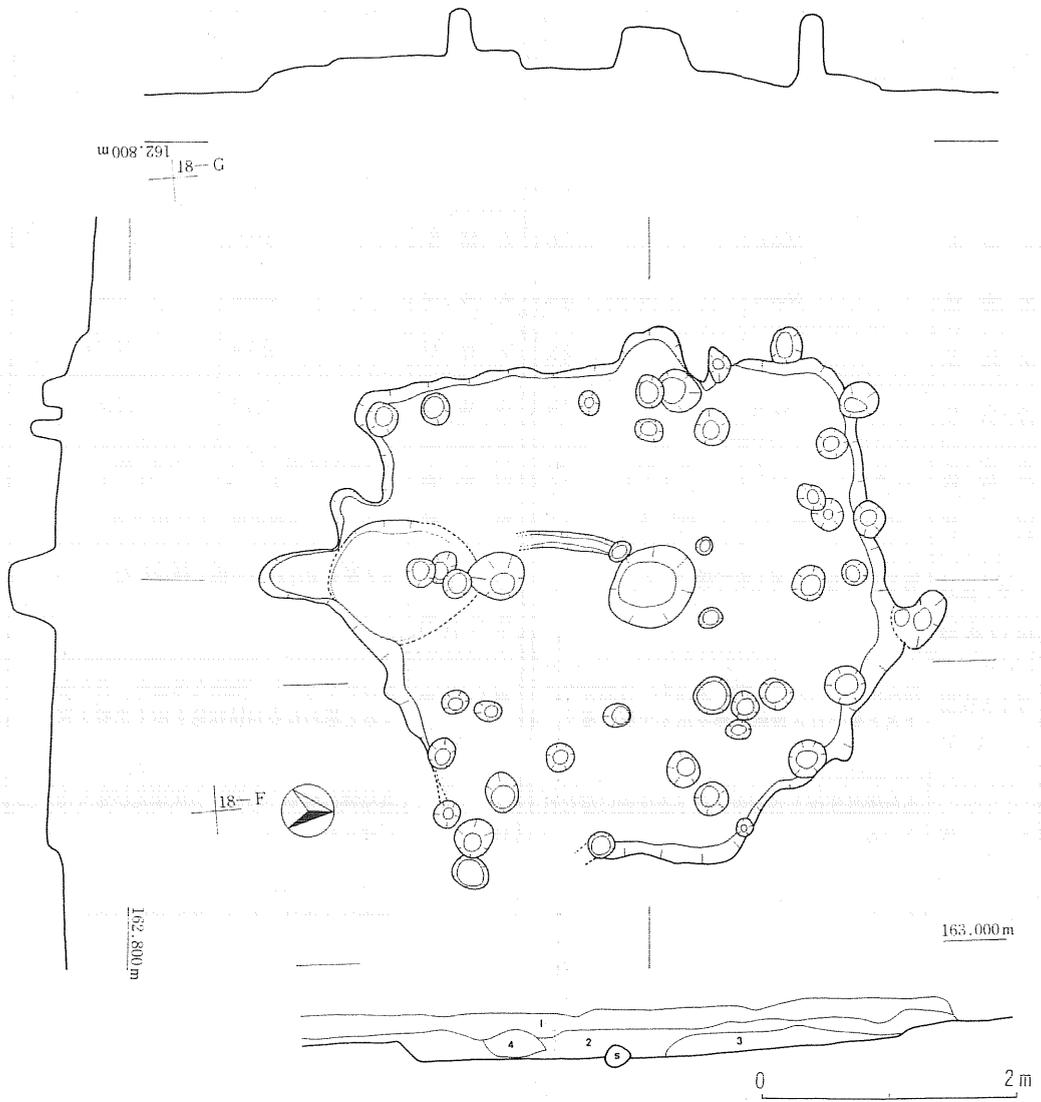
第23図 S I 28実測図

第30表 S I 29計測・説明表

検出地区	17-G 18-F、G				
図版番号	19				
	壁	長	壁	高	
北側壁		394cm		5.0~8.7cm	
東側壁		368cm		6.5~7.8cm	
南側壁		393cm		9.7~17.2cm	
西側壁		388cm		8.3~16.2cm	
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	17.9m ²	主軸方位	N-85°-E		
プラン確認時の状態	第3層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁中央部下方床面に穿たれている。				
張り出し部	なし				
出土遺物	炭化材(覆土下)				
備考					

第31表 S I 30計測・説明表

検出地区	16-G、H 17-G、H				
図版番号	19				
	壁	長	壁	高	
北側壁		200cm		20.7~21.5cm	
東側壁		234cm		6.2~9.1cm	
南側壁		256cm		24.0~29.2cm	
西側壁		228cm		27.8~31.5cm	
張り出し部の位置	東側壁の北隅	長さ	96cm	幅	147cm
面積	6.2m ²	主軸方位	E-20°-N		
プラン確認時の状態	第3層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					



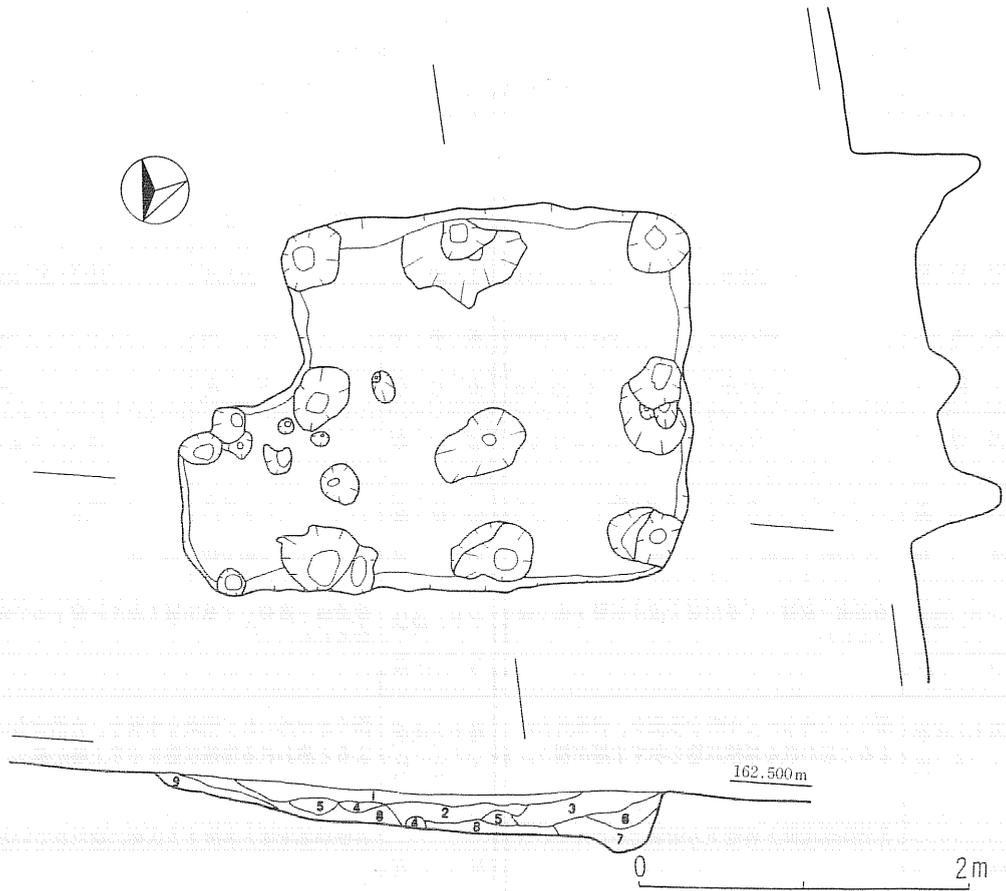
1 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 2~8mm) 少量混入

2 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 3~5mm) 少量、黄色口
一△ (φ 5~10mm) 少量混入

3 5Y R% 橙色土 炭化物多量に含む

4 5Y R 橙色土

第24図 S I 29実測図



- | | | | | | | | |
|---|---------|-----|---|---|---------|-----|------------------------------------|
| 1 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 10~20mm) 多量混入
白色浮石粒子 (φ 3~10mm) 少量混入、粘性あり | 2 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 3~5mm) 少量混入
腐食のため間隙大 |
| 3 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 10~25mm) 多量混入
白色浮石粒子 (φ 2~3mm) 少量混入 | 4 | 10Y R ㊦ | | |
| 5 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 3~10mm)、白色浮石
粒子 (φ 1~3mm) 少量混入、腐食のため間隙大 | 6 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 5~25mm) 少量混入 |
| 7 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 20~50mm) 少量混入 | 8 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 2~5mm) 少量混入 |
| 9 | 10Y R ㊦ | 黄褐色 | ロームブロック (φ 5~10mm) 少量混入
非常によくしまっている | | | | |

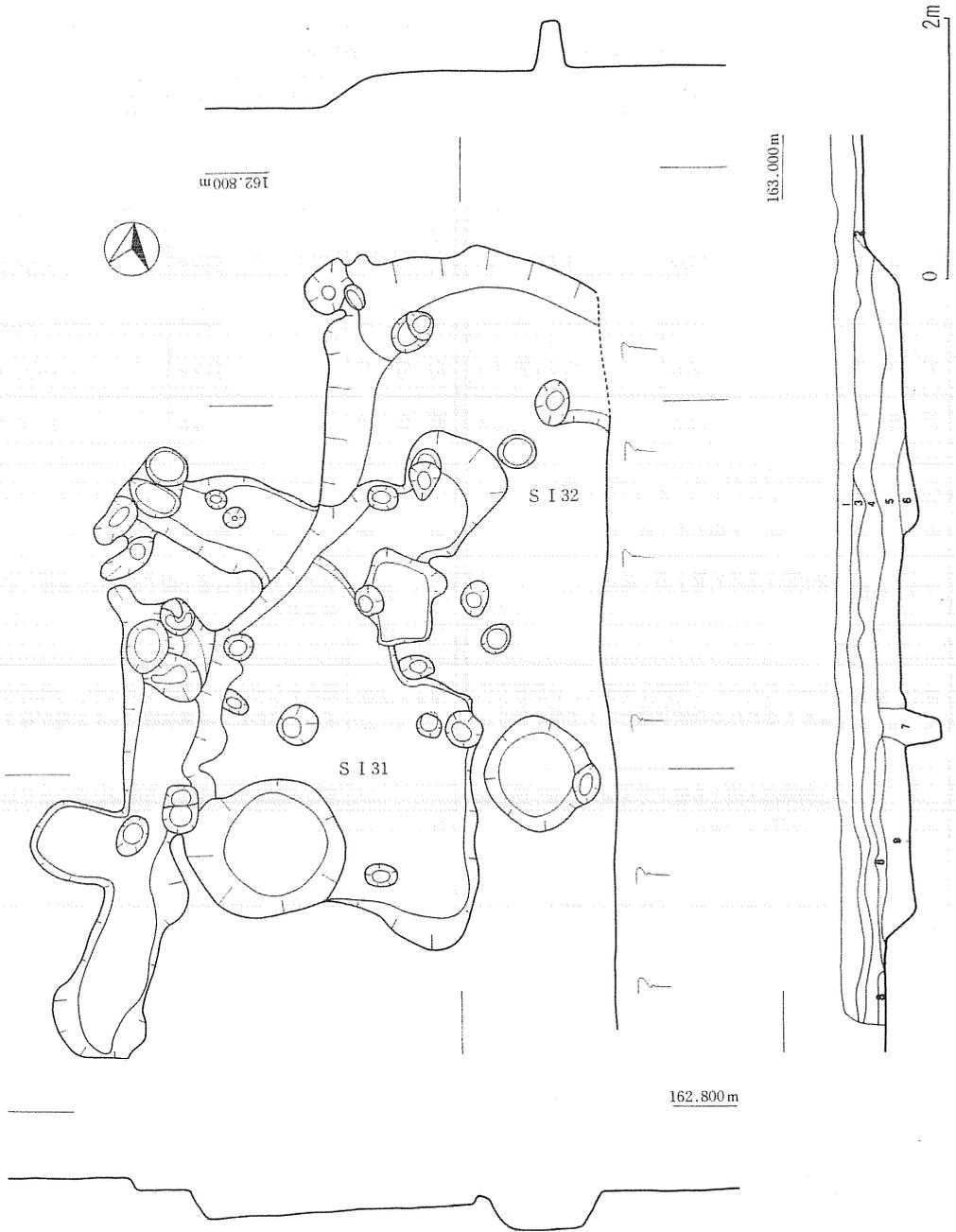
第25図 S I 30実測図

第32表 S I 31計測・説明表

検出地区	19-F、G 20-F、G				
図版番号	20				
	壁	長	壁	高	
北側壁		194cm		2.4~7.0cm	
東側壁		(285)cm		8.2~16.4cm	
南側壁		239cm		19.3~20.7cm	
西側壁		273cm		20.9~27.3cm	
張り出し部 の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	(5.6)m ²	主軸方位	不明		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱 穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	なし				
出土遺物	炭化材、土器片(1点)				
備考	重複の新旧関係は明確にできなかった。				

第33表 S I 32計測・説明表

検出地区	19-F、G				
図版番号	20				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(210)cm		12.2~25.4cm	
東側壁		不明		cm	
南側壁		不明		cm	
西側壁		(190)cm		15.4~29.4cm	
張り出し部 の位置	不明	長さ	cm	幅	cm
面積	不明	主軸方位	不明		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱 穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	不明				
出土遺物	なし				
備考	S I 31に同じ。				



- | | |
|---|---|
| 1 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 2 ~ 8mm) 少量混入 | 2 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 3 ~ 5mm) 少量混入、黄色ローム (φ 5 ~ 10mm) 少量混入 |
| 3 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 3 ~ 7mm) 少量混入 | 4 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 2 ~ 8mm) 少量混入 |
| 5 10Y R% 黒褐色土 白色浮石 (φ 3 ~ 5mm) 少量、黄色ローム (φ 5 ~ 10mm) 少量混入 | |
| 6 10Y R% 褐色土 | 7 10Y R% 黒褐色土 非常にやわらかい |
| 8 大湯浮石層 | 9 非常に粘性がある |

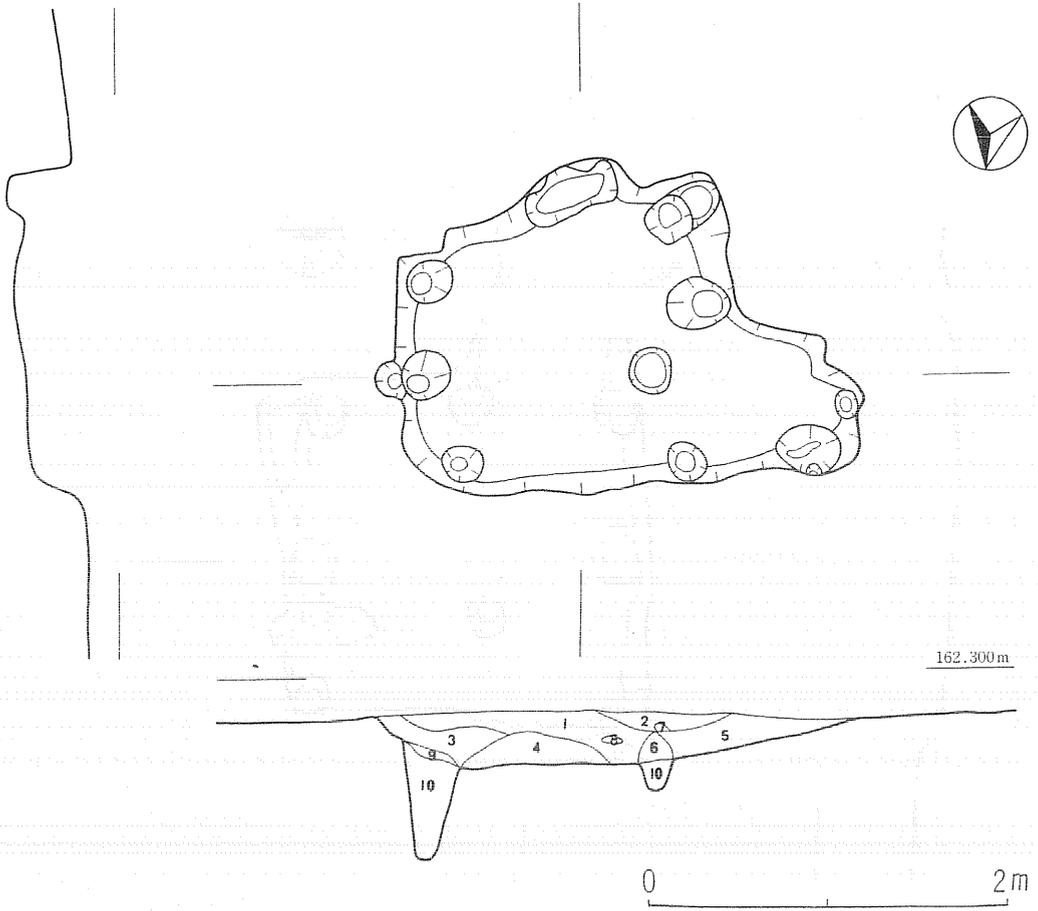
第26図 S I 31・S I 32実測図

第34表 S I 33計測・説明表

検出地区	23-D 24-D				
図版番号					
	壁	長	壁	高	
北側壁		177cm		1.1~18.5cm	
東側壁		138cm		21.1~22.2cm	
南側壁		188cm		23.8~25.6cm	
西側壁		173cm		21.0~22.0cm	
張り出し部の位置	西側壁の北隅	長さ	62cm	幅	95cm
面積	3.5m ²	主軸方位	W-12°-N		
プラン確認時の状態	第III層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					

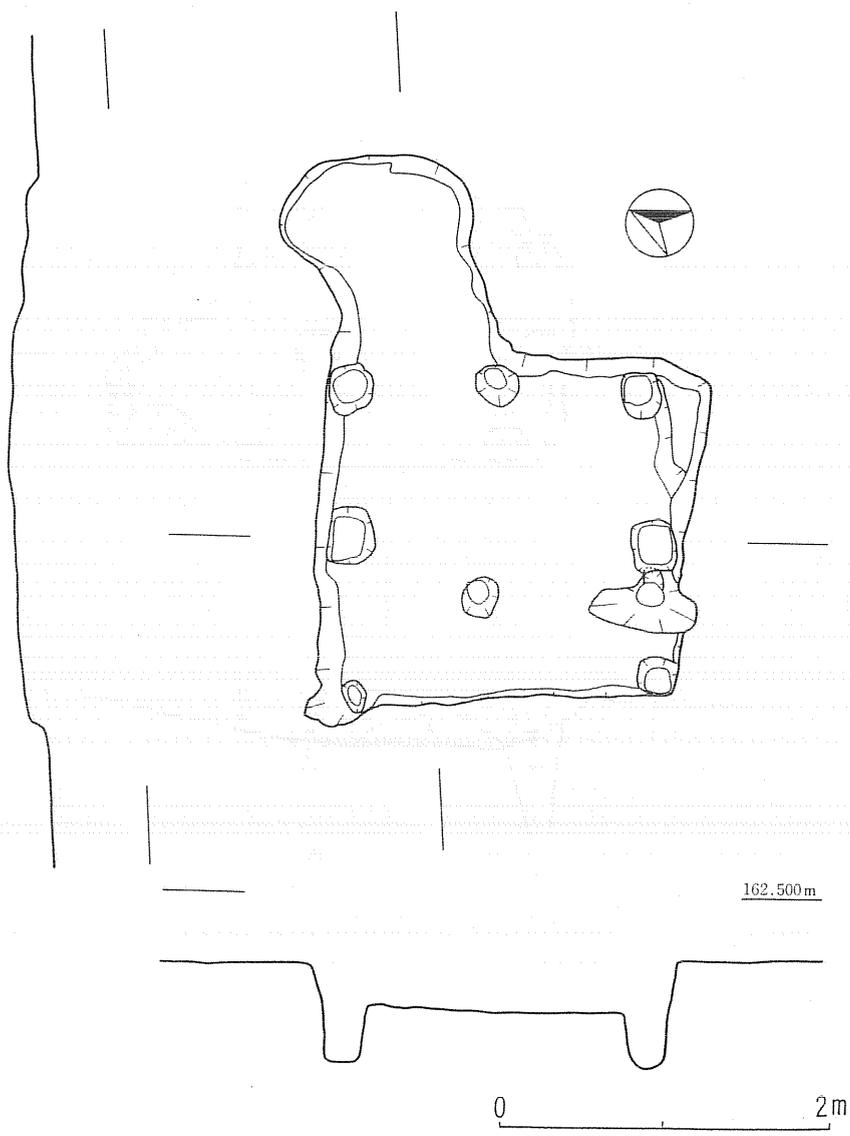
第35表 S I 34計測・説明表

図出地区	24-D、E 25-D、E				
図版番号	20、21				
	壁	長	壁	高	
北側壁		220cm		17.0~23.1cm	
東側壁		235cm		26.1~29.6cm	
南側壁		210cm		4.6~22.0cm	
西側壁		220cm		2.8~6.9cm	
張り出し部の位置	東側壁の北隅	長さ	120cm	幅	113cm
面積	6.0m ²	主軸方位	E-13°-N		
プラン確認時の状態	第III層大湯浮石層上面でS I 35と重複して確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	火打ち金(1点)				
備考					



- | | | | | | | | |
|---|--------|------|-------------------|----|--------|------|----------------------------|
| 1 | 10Y R% | 黒色土 | 細(0.5cm以下) 浮石少量混入 | 2 | 10Y R% | 黒褐色土 | 褐色土少量 |
| 3 | 10Y R% | 黒色土 | 細浮石少量混入、褐色土少量混入 | 4 | 10Y R% | 黒色土 | 褐色土少量混入 |
| 5 | 10Y R% | 黒色土 | 細浮石少量混入 | 6 | 10Y R% | 黒色土 | 褐色土少量混入、にぶい黄橙色土がブロック状に多量混入 |
| 7 | 10Y R% | 黒褐色土 | 粗砂状の層 | 8 | 10Y R% | 黒褐色土 | 浮石少量混入 |
| 9 | 10Y R% | 黒褐色土 | 黄褐色土少量混入 | 10 | 10Y R% | 黒褐色土 | 黄褐色土多量混入 |

第27図 S I 33実測図



- | | |
|--|---|
| 1 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土 焼土、浮石多量混入 | 2 炭化物 |
| 3 7.5Y R ^{5/6} 黒色土 浮石多量混入 | 4 7.5Y R ^{5/6} 黒褐色土 浮石多量混入 |
| 5 7.5Y R ^{1・2} 黒色土と7.5Y R ^{5/6} 明褐色土（焼土）との混
合 3 : 7 | 6 7.5Y R ^{5/6} 黒褐色土 炭化物中量、焼土少量、炭少量混入 |
| 7 炭火物 | 8 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土 焼土、浮石多量混入 |
| 9 7.5Y R ^{5/6} 黒色土 浮石多量 | 10 7.5Y R ^{1・2} 黒色土と7.5Y R ^{5/6} 明褐色土（焼土）との混
合 3 : 7 |
| 11 7.5Y R 黒色土 浮石多量混入 | 12 7.5Y R ^{5/6} 黒色土 焼土多量混入 |
| 13 7.5Y R ^{5/6} 黒色土 浮石多量混入 | |

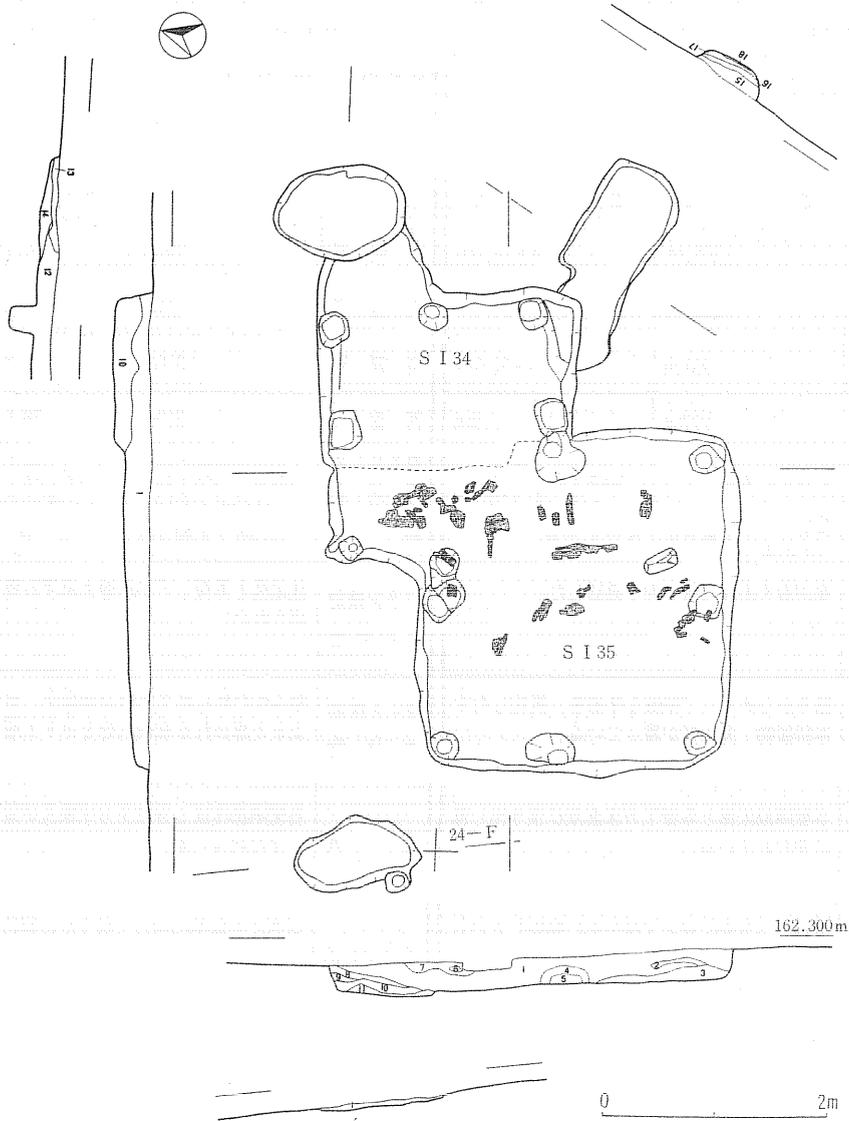
第28図 S I 34実測図

第36表 S I 35計測・説明表

検出地区	24-E 25-E				
図版番号	20、21、22				
	壁	長	壁	高	
北側壁		(305)cm		13.8~18.4cm	
東側壁		(270)cm		20.9~24.4cm	
南側壁		301cm		17.8~31.1cm	
西側壁		277cm		13.8~15.9cm	
張り出し部の位置	北側壁の東隅	長さ	95cm	幅	推定(135)cm
面積	推定(9.3)m ²	主軸方位	N-9°-W		
プラン確認時の状態	第Ⅲ層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、炭化した禾本科植物・丸太材が覆っている。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考					

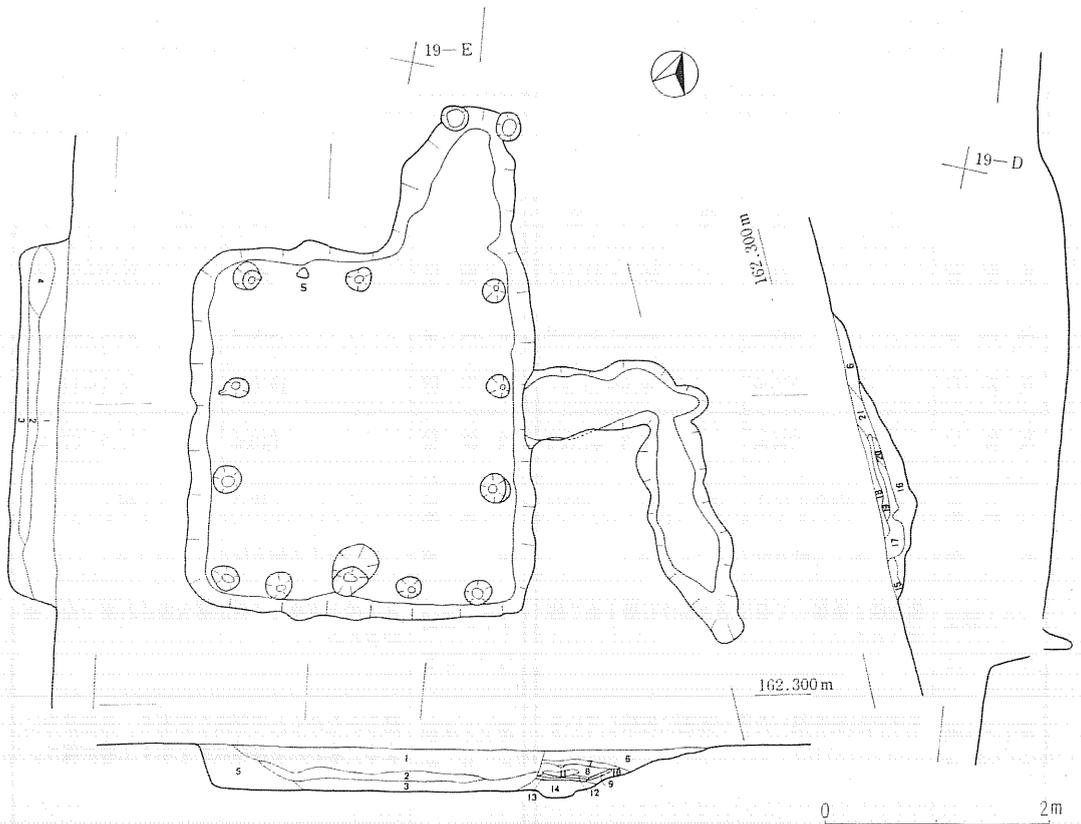
第37表 S I 36計測・説明表

検出地区	20-E、F				
図版番号	22				
	壁	長	壁	高	
北側壁		294cm		36.4~40.8cm	
東側壁		324cm		38.2~40.5cm	
南側壁		316cm		32.8~42.4cm	
西側壁		317cm		38.6~42.6cm	
張り出し部の位置	北側壁の東隅	長さ	134cm	幅	124cm
面積	11.0m ²	主軸方位	N-22°-W		
プラン確認時の状態	他遺構と重複して第Ⅲ層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が主体部に向って緩やかに傾斜している。				
出土遺物	なし				
備考	S I 36が他遺構(焼土遺構)より新しい。				



- | | | | | | |
|----|----------------------------|-------------------------|----|----------------------------|---------------------|
| 1 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | 軽石多量、黄褐色土粒子少量、炭化物多量混入 | 2 | 10Y Rㄱ | 黑色土に5Y Rㄱ 橙の焼土多量混入 |
| 3 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | 炭化物多量混入 | 4 | 10Y Rㄱ | 黑色土に5Y Rㄱ 橙の焼土多量混入 |
| 5 | 5Y Rㄱ | 明赤褐色の焼土 | 6 | | 炭化物 |
| 7 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | ㄱ橙の焼土多量混入、炭化物多量混入 | 8 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | 軽石少量混入 |
| 9 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | 軽石多量混入 | 10 | 7.5Y Rㄱ | 黑色土 黄褐色土粒子多量、軽石少量混入 |
| 11 | 7.5Y Rㄱ | 黑色土 黄褐色土粒子多量混入 | 12 | 7.5Y R ¹ ・ㄱ 黑色土 | 浮石多量に混入 |
| 13 | 7.5Y Rㄱ | 黒褐色土 浮石少量 | 14 | 10Y Rㄱ | 黒褐色土 |
| 15 | 7.5Y Rㄱ | 黑色土 炭化物少量、浮石多量、黄褐色土粒子少量 | 16 | 7.5Y Rㄱ | 明褐色焼土 |
| | | | 17 | 7.5Y Rㄱ | 黒褐色土 浮石多量混入 |

第29図 S I 34・35実測図



- | | | | | | | | |
|----|------------------------|---------|--|----|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 浮石少量混入 | 2 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 粒子の細かい浮石少量混入 |
| 3 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 浮石少量、炭化物微量混入 | 4 | 10Y R ^㉔ | 黒色土 | 明褐色の浮石が多量混入 |
| 5 | 10Y R ^㉔ | 黒色土 | 明褐色の浮石が多量混入 | 6 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 浮石少量混入 |
| 7 | 7.5Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | | 8 | 7.5Y R ^㉔ | 明褐色土 | 全体的に浮石が焼けた層である |
| 9 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 細かい浮石が混入 | 10 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | |
| 11 | 10Y R ^㉔ | にぶい黄褐色土 | N ^㉔ 黒色が少量混入 | 12 | 10Y R ^㉔ | にぶい黄褐色土 | 炭化物微量混入 |
| 13 | N ¹ ・㉔ | 黒色土 | もみからが焼けた層である | 14 | 10Y R ^㉔ | にぶい黄褐色土 | 黒褐色粒子が多量混入 |
| 15 | 10Y R ^㉔ | 黒褐色土 | 明黄褐色が少量混入 | 16 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 浮石が少量混入 |
| 17 | 7.5Y R ^㉔ | 明褐色土 | この層は7.5Y R ^㉔ ~10Y R ^㉔ 褐色変化した浮石が焼けた層である | 18 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 焼けた浮石が少量混入 |
| 19 | 7.5Y R ^㉔ | 褐色土 | 浮石の焼けた層である、黒色土が少量混入 | 20 | 7.5Y R ^㉔ | 褐色土 | 浮石が焼けた層である、黒色土が少量混入 |
| 21 | 10Y R ¹ ・㉔ | 黒色土 | 浮石が微量混入 | | | | |

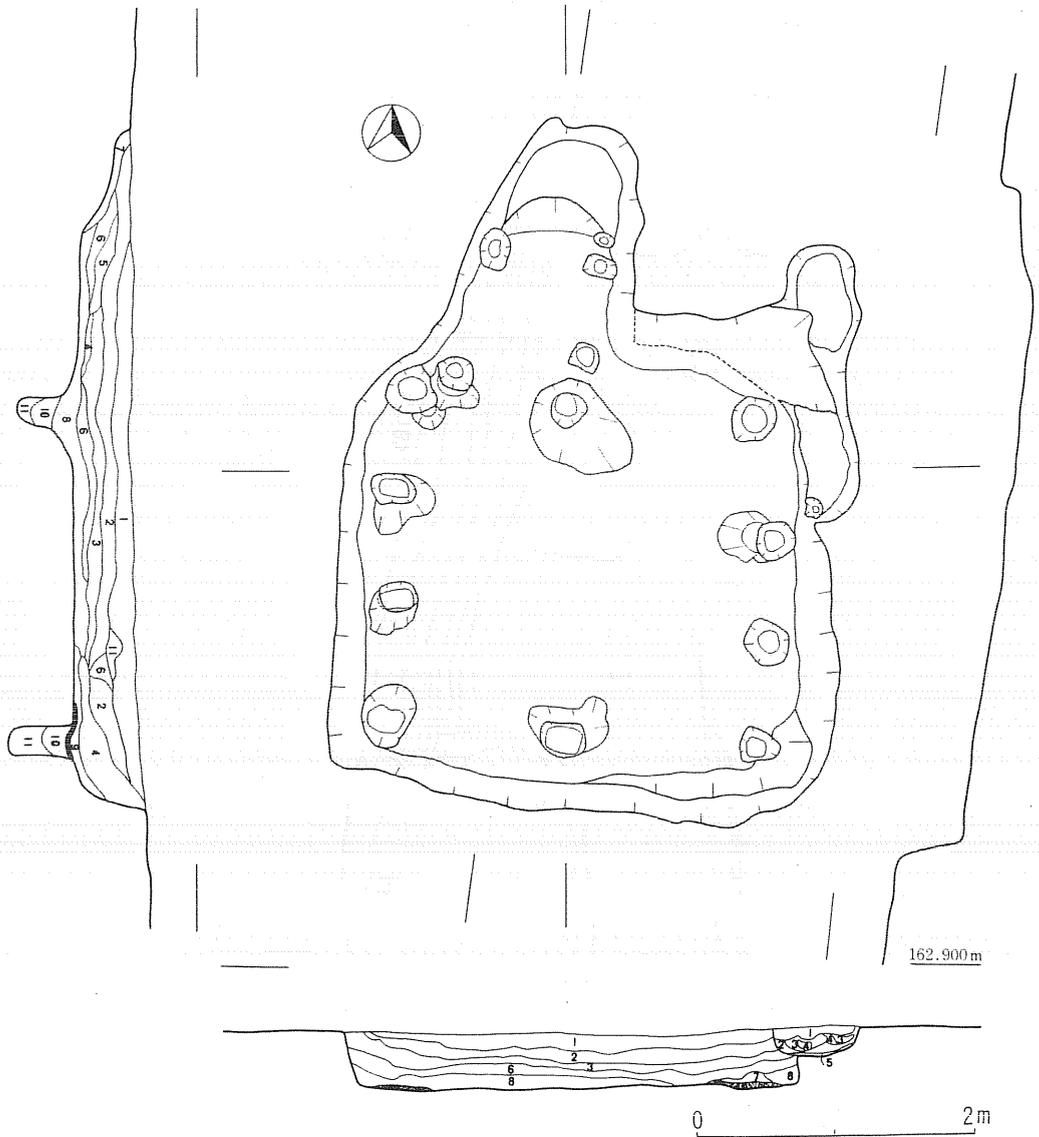
第30図 S I 36実測図

第38表 S I 37計測・説明表

検出地区	19-H、I 20-H、I				
図版番号	23				
	壁	長	壁	高	
北側壁		321cm		40.0~41.6cm	
東側壁		349cm		22.3~46.6cm	
南側壁		372cm		39.9~45.5cm	
西側壁		294cm		37.8~40.8cm	
張り出し部 の位置	北側壁の西隅	長さ	165cm	幅	158cm
面積	13.1m ²	主軸方位	N-1°-W		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面 の状態	禾本科植物を焼いた灰が床面に堆積している				
柱 穴	各壁隅部床面と各壁下方床面及び張り出し部に穿たれている。				
張り出し部	底面が平坦で主体部と段差をもっている。				
出土遺物	フレーク(7片)、土器片(1点)				
備 考	埋没後に主体部北東隅部に焼土遺構が構築されている。				

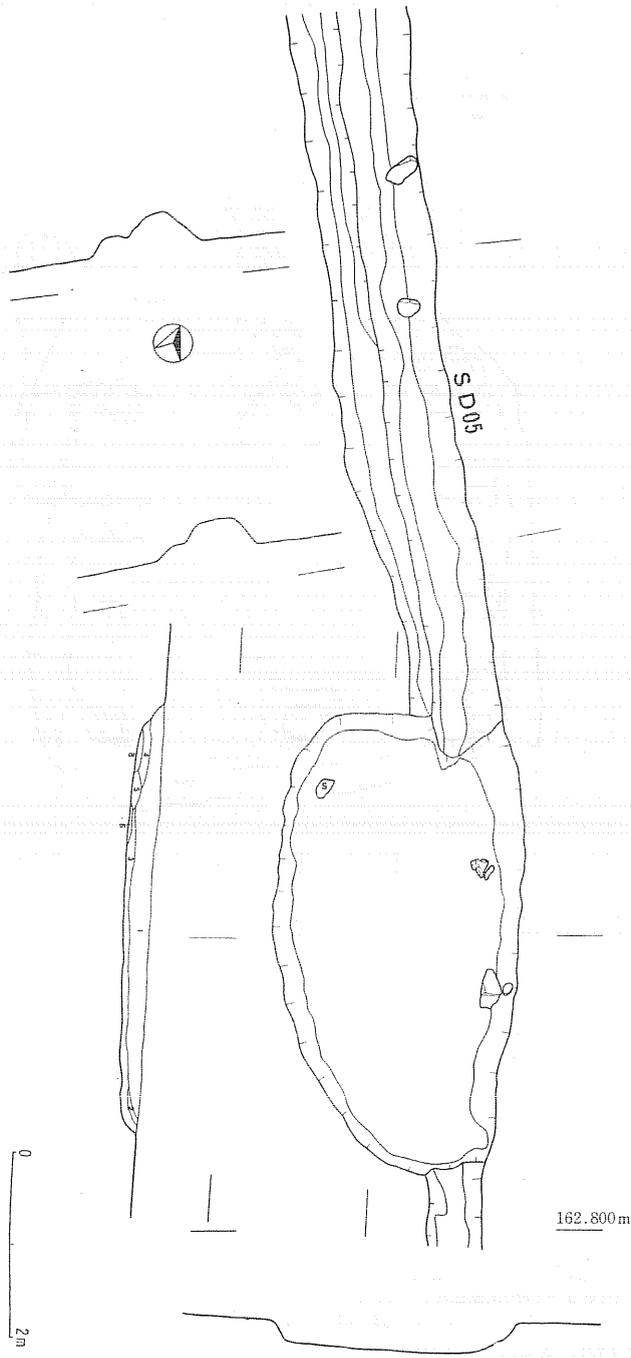
第39表 S I 38計測・説明表

検出地区	22-B 23-B				
図版番号	23				
	壁	長	壁	高	
北側壁		280cm		20.0~20.4cm	
東側壁		470cm		24.5~28.5cm	
南側壁		18.0cm		14.3~14.9cm	
西側壁		540cm		15.9~27.4cm	
張り出し部 の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	10.9m ²	主軸方位	N-29°-W		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱 穴	柱穴は検出されなかった。				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備 考	S D05との新旧関係は明確にできなかった。				



- | | | | | | | | |
|----|-----------|---------|--|----|-----------|------|--|
| 1 | 10Y R 7/8 | 黒褐色土 | 白色浮石 ((ϕ 3 ~ 5 mm)少量、(ϕ 10 ~ 12mm) 少量混入 | 2 | 10Y R 7/8 | 暗褐色土 | 白色浮石(ϕ 2 ~ 5 mm)少量、(ϕ 10 ~ 13 mm) 少量混入 |
| 3 | 10Y R 7/8 | 暗褐色土 | 白色浮石(ϕ 2 ~ 4 mm)少量、ローム粒子(ϕ 5 ~ 8 mm)少量混入 | 4 | 10Y R 7/8 | 暗褐色土 | (ϕ 3 ~ 5 mm)少量、炭化粒微量含む |
| 5 | 5 Y R 7/8 | 橙色土 | 10Y R 7/8 黄橙色土、10Y R 7/8 浅黄橙色粘土含む、灰含む | 6 | 10Y R 7/8 | 黒褐色土 | ローム粒子(ϕ 5 ~ 10mm)少量混入 |
| 7 | 10Y R 7/8 | にぶい黄橙色土 | 灰及び焼土 | 8 | 10Y R 7/8 | 暗褐色土 | 10Y R 7/8 黄橙色 粘土を含む、炭化粒多量混入 |
| 9 | 10Y R 7/8 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子(ϕ 3 ~ 8 mm)少量混入 | 10 | 10Y R 7/8 | 黒褐色土 | |
| 11 | 10Y R 7/8 | 黒色土 | | | | | |

第31図 S I 37実測図



- | | | | | | | | |
|---|-----------|-----|-----------------|---|-----------|-----|--------|
| 1 | 10Y R 6/1 | 黑色土 | 浮石多量混入、黄褐色土少量混入 | 2 | 7.5Y R | 黑色土 | 浮石多量混入 |
| 3 | 7.5Y R | 黑色土 | 浮石少量混入 | 4 | 10Y R 6/1 | 黑色土 | 浮石少量混入 |

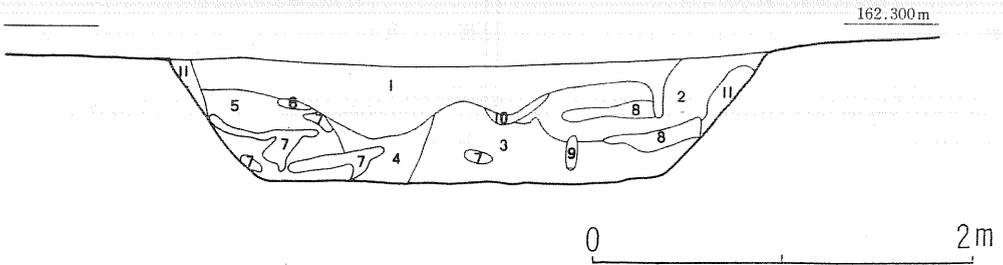
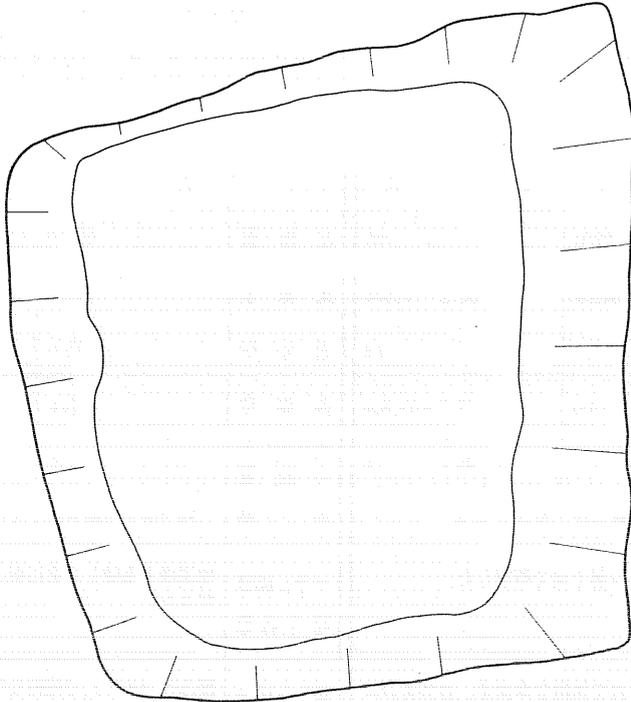
第32图 S I 38实测图

第40表 S I 39計測・説明表

検出地区	14-E 15-E				
図版番号					
	壁	長	壁	高	
北側壁		328cm			cm
東側壁		342cm		60.2~70.5cm	
南側壁		276cm			cm
西側壁		313cm		57.7~69.8cm	
張り出し部 の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	10.6m ²	主軸方位	N-6°-W		
プラン確認 時の状態	第III層大湯浮石層上面で確認した。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	柱穴は検出されなかった。				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備考					

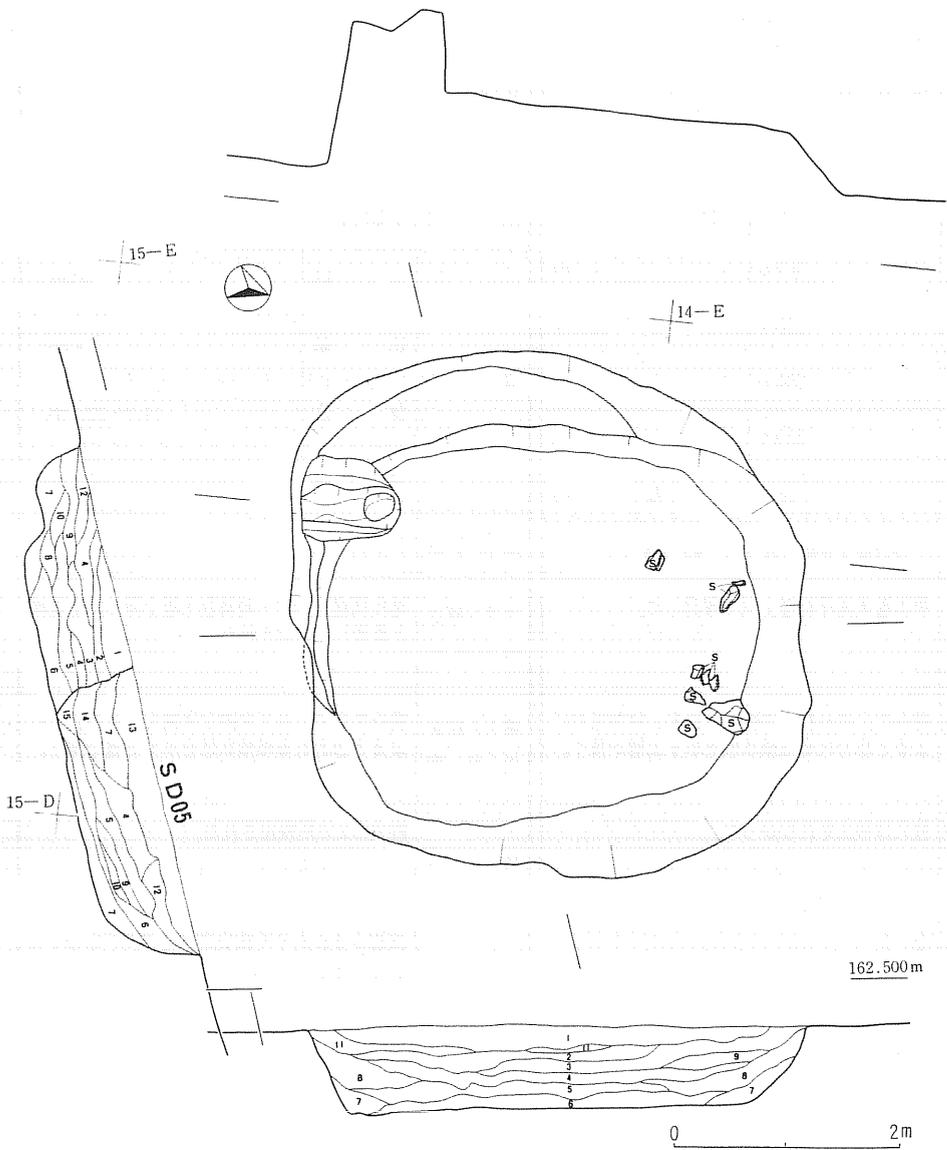
第41表 S I 40計測・説明表

検出地区	18-C、D 19-C、D				
図版番号	24				
	壁	長	壁	高	
北側壁		402cm			cm
東側壁		400cm			cm
南側壁		395cm			cm
西側壁		450cm		68.5~74.2cm	
張り出し部 の位置	なし	長さ	cm	幅	cm
面積	18.1m ²	主軸方位	N-60°-E		
プラン確認 時の状態	他遺構と重複して第III層大湯浮石層上面で確認された。				
覆土と床面 の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。				
柱穴	柱穴は検出されなかった。				
張り出し部	なし				
出土遺物	なし				
備考	S D05より古い。				



- | | | | | | | | |
|----|------------------------|------|-----------------|----|------------------------|------|--------------------|
| 1 | 7.5Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土粒子少量混入 | 2 | 7.5Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土粒子少量混入 |
| 3 | 7.5Y R ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土粒子少量混入 | 4 | 10Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土少量混入 |
| 5 | 7.5Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土少量混入 | 6 | 10Y R ㄥ | 黑褐色土 | 浮石多量、黄褐色土粒子(大)多量混入 |
| 7 | 10Y R ㄥ | 黑褐色土 | | 8 | 10Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 浮石多量、黄褐色土多量混入 |
| 9 | 7.5Y R ㄥ | 黑褐色土 | 浮石少量、黄褐色土粒子多量混入 | 10 | 10Y R ㄥ | 黑褐色土 | 砂粒である |
| 11 | 10Y R ¹ ・ㄥ | 黑色土 | 黄褐色土粒子微量 | | | | |

第33図 S I 39実測図



- | | | | | | | | |
|----|----------------------|----------------------------|---------------------------------|----|----------------------|------|--|
| 1 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 白色浮石 (φ 3~5mm) 少量混入 | 2 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | やや粘性のある層 |
| 3 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 暗褐色土 | やや粘性のある黄色ローム粒 (φ 2~3mm) 少量混入 | 4 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 間隙あり |
| 5 | 2.5Y R | 極暗赤褐色土~10Y R $\frac{2}{2}$ | 暗褐色土粘性のある層 | 6 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 強粘性 |
| 7 | 2.5Y $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 軟かい間隙あり | 8 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 白色粒子 (φ 2~8mm) 少量、黄色ローム粒 (φ 3~10mm) 少量混入 |
| 9 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 間隙ありザラザラしている | 10 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | 間隙あり、ザラザラしている黄色ローム粒 (φ 2~5mm) 少量混入 |
| 11 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | ザラザラしている白色粒子(浮石) (φ 1~3mm) 少量混入 | 12 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒褐色土 | ザラザラしている白色粒子(浮石) (φ 1~3mm) 少量混入 |
| 13 | 10Y R $\frac{2}{2}$ | 黒色土 | 粘性のある層 | 14 | 7.5Y R $\frac{1}{2}$ | 黒色土 | 軟かい |
| 15 | 7.5Y R $\frac{1}{2}$ | 黒色土 | 強粘性 | | | | |

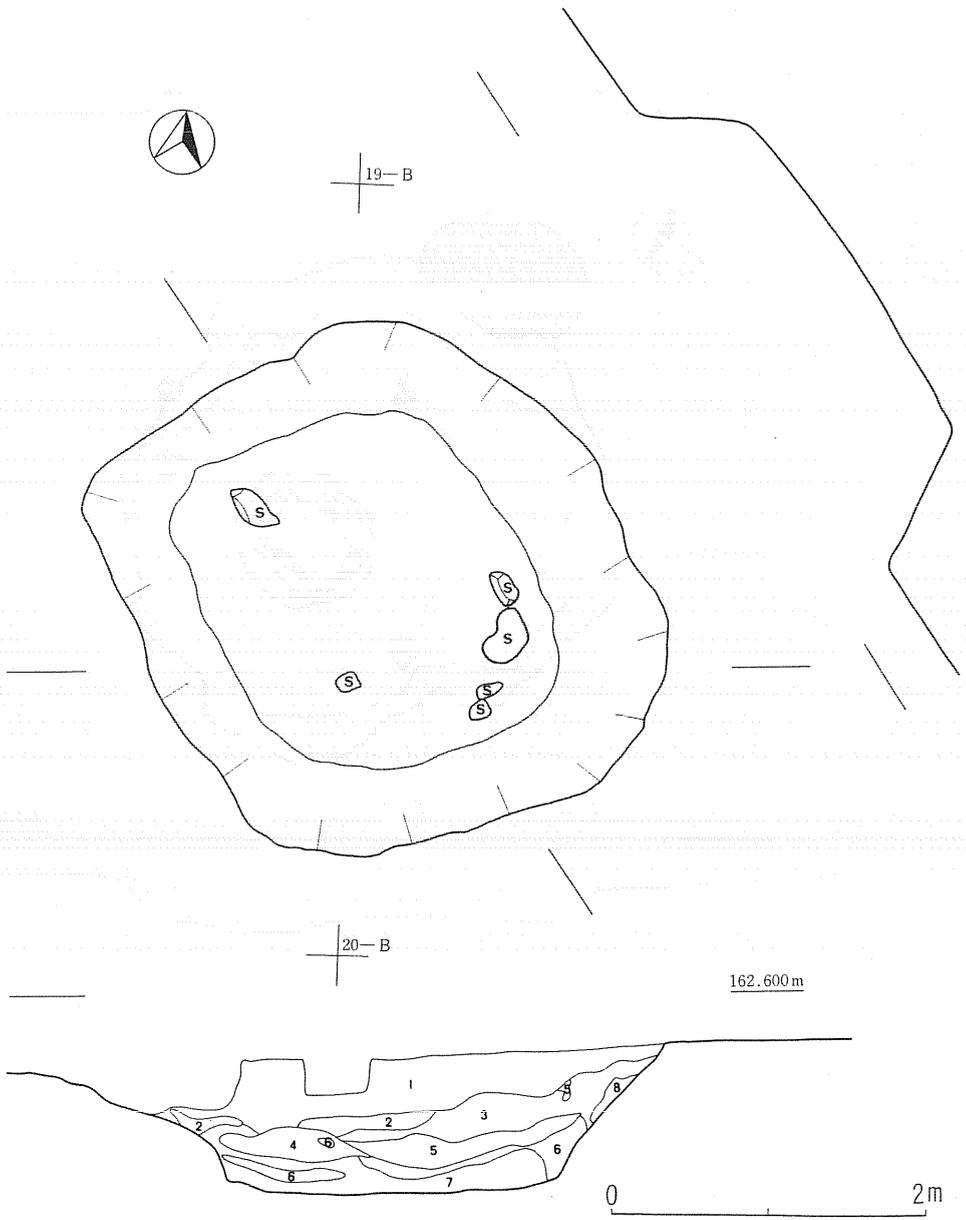
第34図 S I 40実測図

第42表 S I 41計測・説明表

検出地区	20-B、C			
図版番号	24			
	壁	長	壁	高
北側壁		287cm		cm
東側壁		325cm		89.7~91.0cm
南側壁		284cm		cm
西側壁		308cm		cm
張り出し部の位置		長さ	cm	幅
			cm	cm
面積	9.1㎡	主軸方位	N-43°-W	
プラン確認時の状態	第III層大湯浮石層上面で確認した。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	柱穴は検出されなかった。			
張り出し部	なし			
出土遺物	鉄滓			
備考				

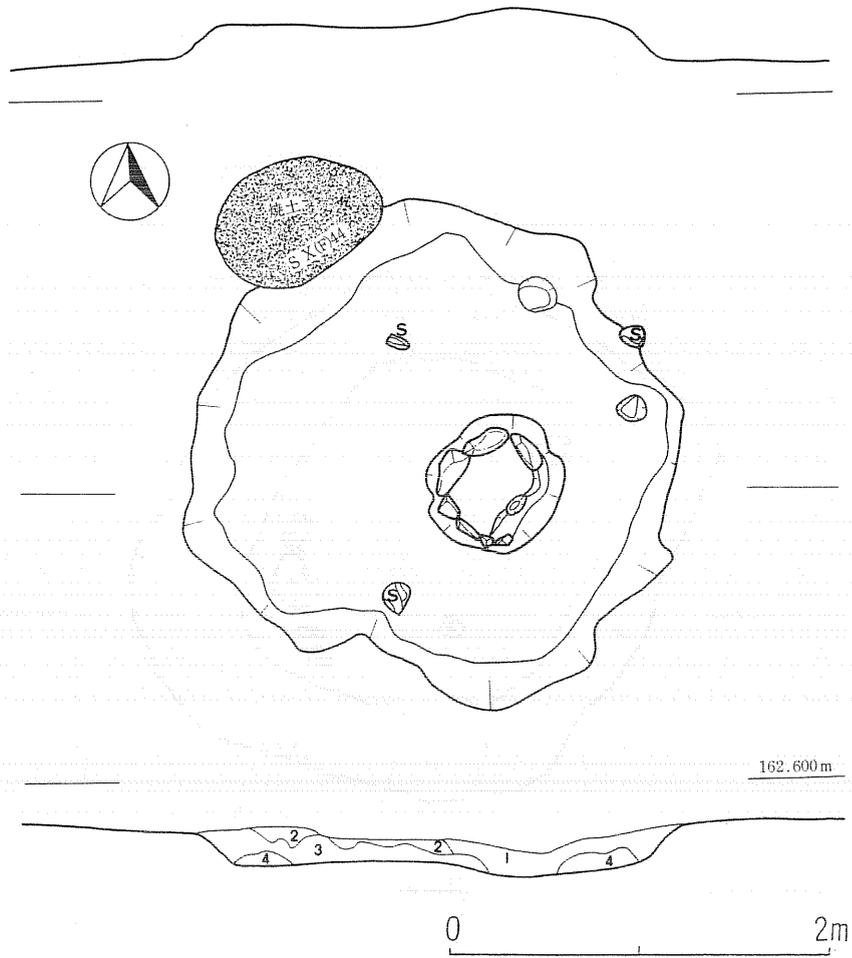
第43表 S I 42計測・説明表

検出地区	26-H、I		
図版番号	25		
形態	不整円形		
規模	長軸	243cm	
	短軸	197cm	
	壁高	14.9~22.5cm	
	面積	5.1㎡	
主軸方位	N-45°-W		
プラン確認時の状態	地山面直上の黒~暗褐色土層上面で焼土遺構と重複して確認された。		
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。		
柱穴	柱穴は2カ所検出された。		
炉	床面中央からやや南東寄りに石囲炉がつくられている。		
出土遺物	土器片(8点)、フレーク(1片)、自然石(2点)		
備考	焼土遺構より古い。		

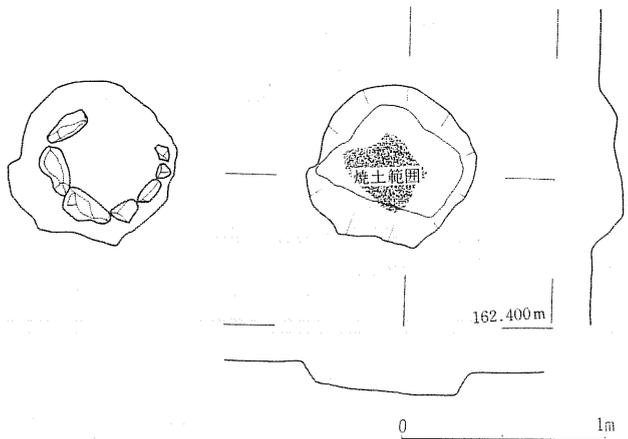


- | | | | | | | | |
|---|---------------------|------|---------------|---|---------------------|------|---------------|
| 1 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 浮石少量、黄褐色土少量混入 | 2 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 浮石少量、黄褐色土微量混入 |
| 3 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 黄褐色土少量混入 | 4 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 浮石少量、黄褐色土少量混入 |
| 5 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 浮石微量、黄褐色土少量混入 | 6 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 暗褐色土 | 浮石少量、黄褐色土多量混入 |
| 7 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 黑褐色土 | 浮石少量、黄褐色土少量混入 | 8 | 10Y R $\frac{2}{5}$ | 褐色土 | |

第35图 S I 41实测图



- 1 10Y R 2/6 黒褐色土 褐色土が少量、炭化物少量混入
- 2 10Y R 2/6 黒褐色土 褐色土が微量、炭化物少量混入
- 3 10Y R 2/6 暗褐色土 褐色土が少量、炭化物少量混入
- 4 10Y R 2/6 黒褐色土 褐色土が微量、炭化物少量混入



第36図 S I 42実測図

第37図 S I 42炉実測図

第44表 S I 43計測・説明表

検出地区	27-E、F 28-E、F		
図版番号	26		
形態	略円形		
規模	東西軸長	425cm	
	南北軸長	435cm	
	壁高	10~29.5cm	
	面積	15.5㎡	
主軸方位	N-28°-W		
プラン確認時の状態	地山面直上の暗褐色土上面で黒褐色の「しみ」が確認された。		
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。		
柱穴	各壁隅部床面と各壁下方床面に穿たれている		
炉	床面中央部からやや南東寄りに石囲炉が検出された。		
出土遺物	フレイク(5片)、深鉢形土器、壺形土器、擦切磨製石斧		
備考			

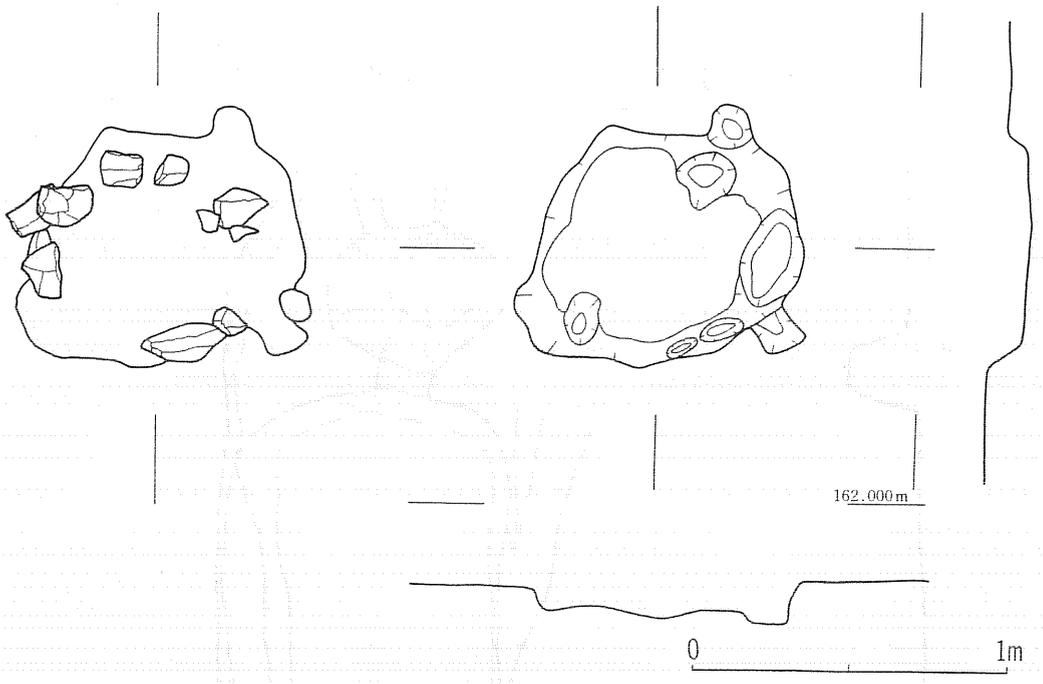
第45表 S I 44計測・説明表

検出地区	19-C、D			
図版番号				
	壁	長	壁	高
北側壁		133cm		42.0cm
東側壁		266cm		12.0~15.0cm
南側壁		149cm		39.6~47.0cm
西側壁		263cm		45.3~58.3cm
張り出し部の位置	なし	長さ	cm	幅
			cm	cm
面積	3.9㎡	主軸方位	N-21°-W	
プラン確認時の状態	第III層大湯浮石層上面で確認した。			
覆土と床面の状態	踏みかためられて堅緻な床面を、自然営力によると思われる堆積状態を示す土層が覆う。			
柱穴	柱穴は検出されなかった。			
張り出し部	なし			
出土遺物	なし			
備考				

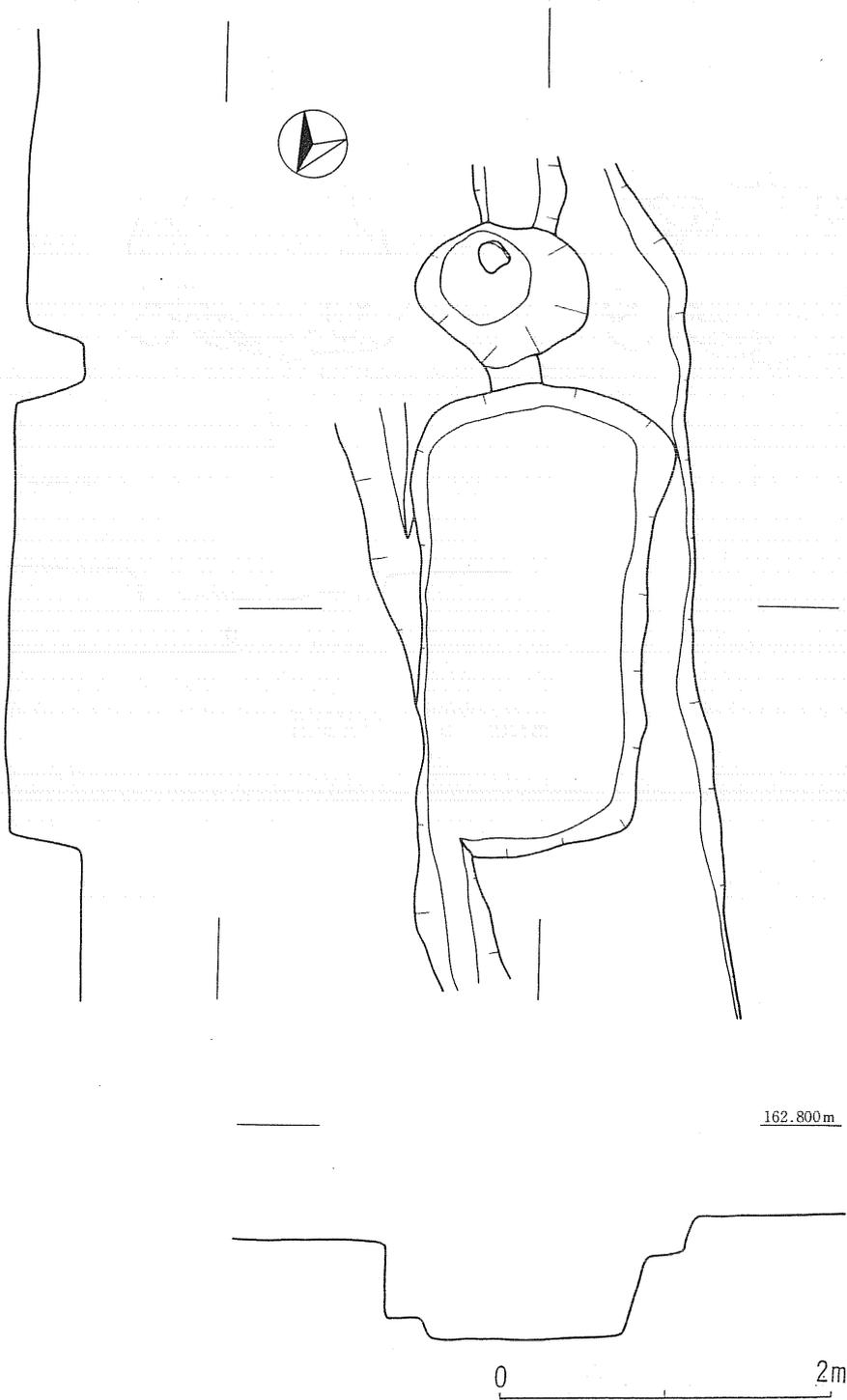


- | | | | | | | | |
|----|---------|------|-------------------|----|---------|------|-------------------------------|
| 1 | 10Y R% | 黒褐色土 | 黄褐色 (10Y R%) 少量混入 | 2 | 10Y R% | 暗褐色土 | 橙色(7.5Y R%)が微量、黄褐色粒子が
多量混入 |
| 3 | 10Y R% | 黒褐色土 | 明褐色及び炭化物微量混入 | 4 | 10Y R% | 黒褐色土 | 灰白色の浮石が多量、黄褐色が少量混
入 |
| 5 | 10Y R% | 暗褐色土 | | 6 | 7.5Y R% | 黒色土 | |
| 7 | 7.5Y R% | 褐色土 | 黄褐色が多量混入 | 8 | 7.5Y R% | 橙色土 | 褐色多量混入 |
| 9 | 10Y R% | 褐色土 | 明褐色粒子多量混入 | 10 | | 炭化物 | |
| 11 | 7.5Y R% | 褐色土 | 黄褐色粒子及び炭化物少量混入 | 12 | 10Y R% | 黒色土 | 浮石若干混入 |
| 13 | 7.5Y R% | 褐色土 | 炭化物及び黄褐色粒子微量混入 | 14 | | 炭化物 | |
| 15 | 7.5Y R% | 褐色土 | 黄褐色粒子多量、明褐色少量混入 | | | | |

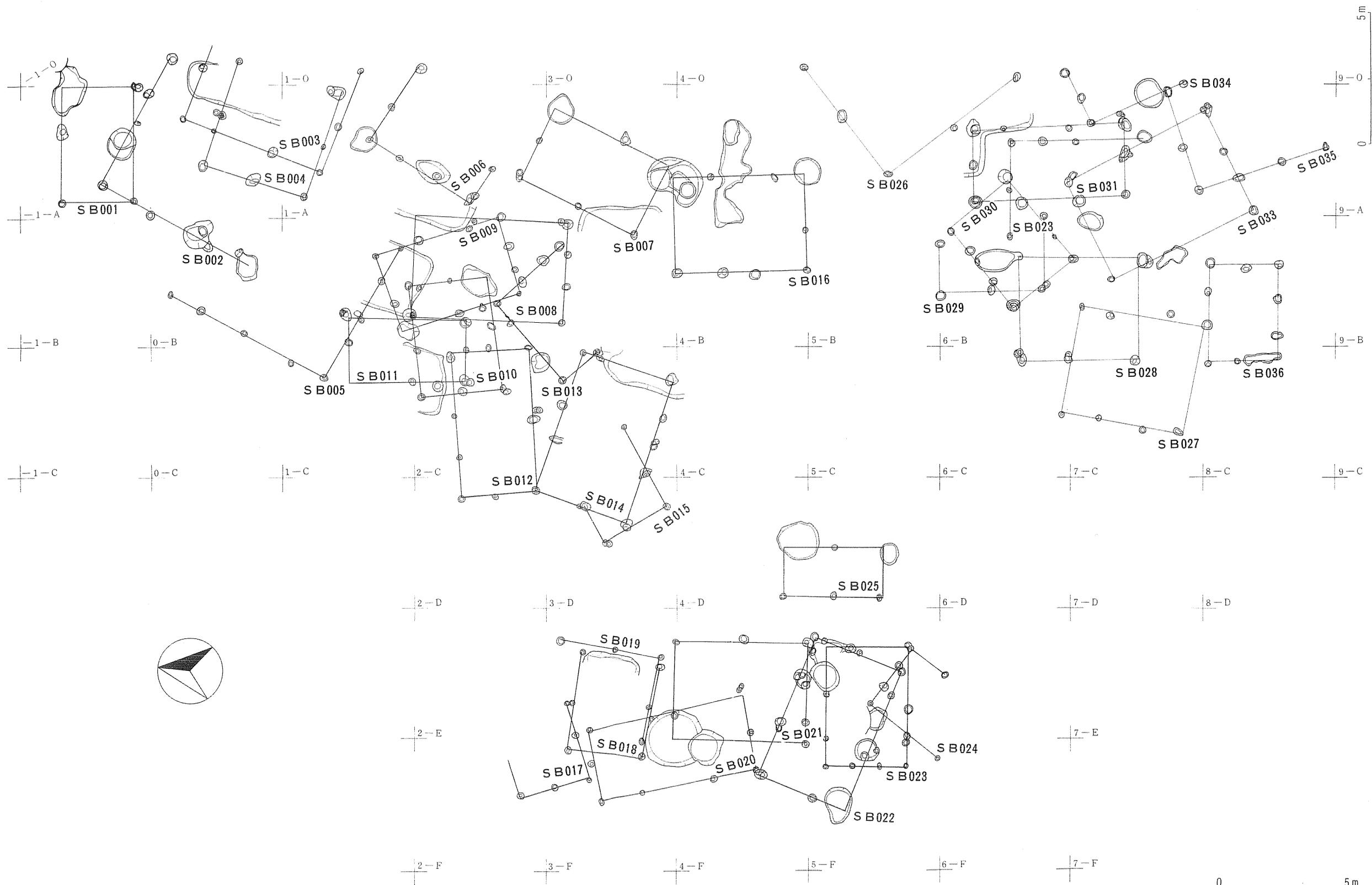
第38図 S I 43実測図



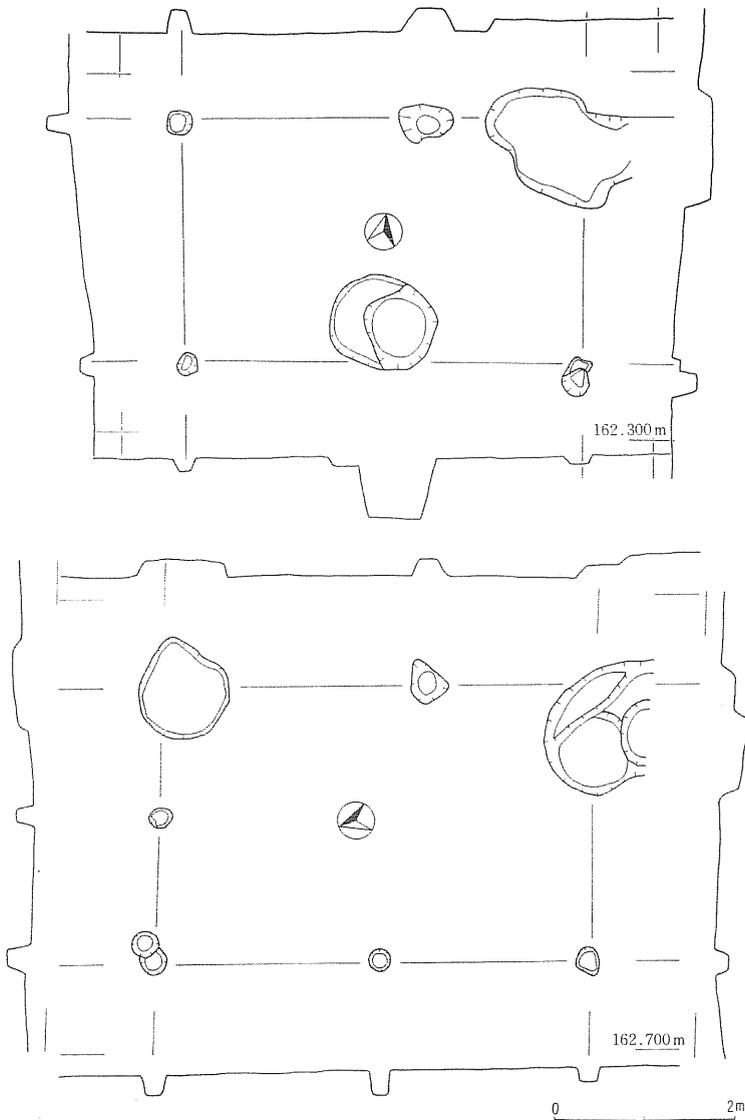
第39图 S I 43炉实测图



第40图 S I 44实测图



第41图 SB001~SB036配置图

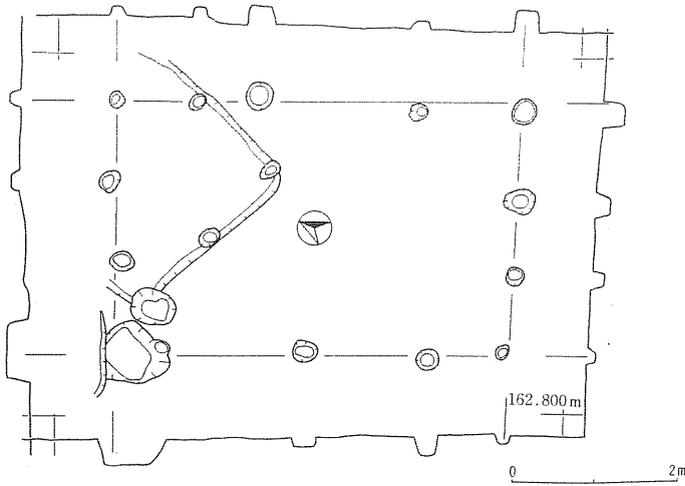
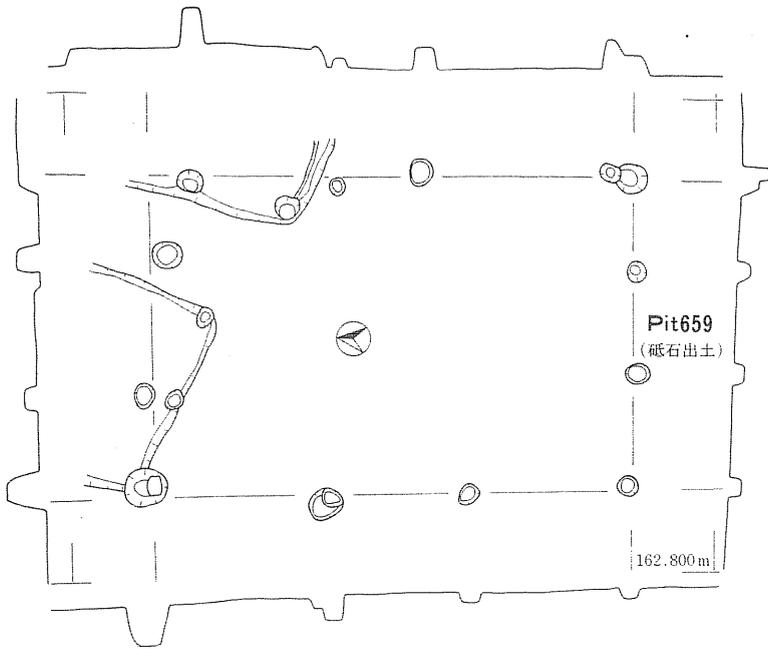


第42図 S B 001・S B 007実測図

第46表 S B 001・S B 007計測表

遺構番号	S B 001		検出地区	0-A	
主軸方位	N-83°-E		規 模	446 cm × 275 cm	
身 舎	桁 行	2間	NE→NW 186 + 260	SE→SW 220 + 225	cm
	梁 行	1間	EN→ES 275	WN→WS 273	cm
庇	位 置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 007		検出地区	3-A 4-A、B	
主軸方位	N-19°-E		規 模	481 cm × 310 cm	
身 舎	桁 行	2間	EN→ES 295 + 186	WN→WS 246 + 235	cm
	梁 行	2間	NE→NW 145 + 165	SE→SW 310	cm
庇	位 置	なし	幅	cm	

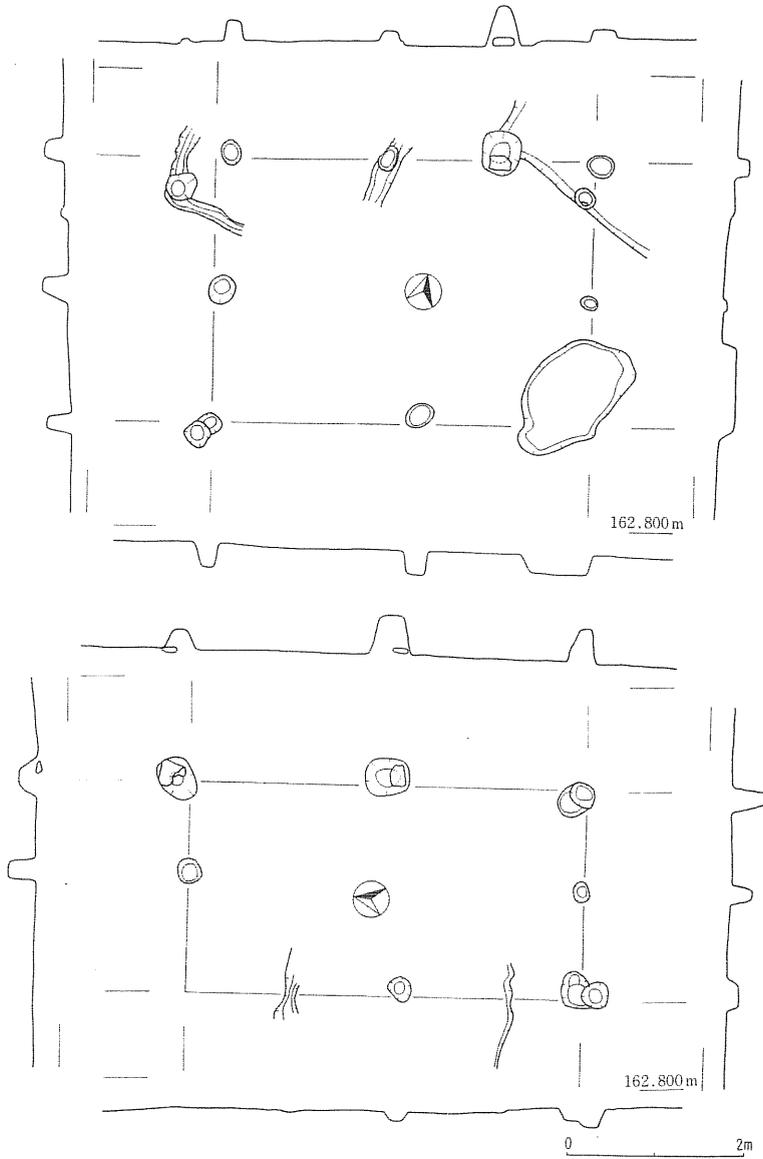


第43図 S B001・S B007実測図

第47表 S B008・S B009計測表

遺構番号	S B 008		検出地区	2-B、3-A、B、4-B	
主軸方位	N-4°-W		規 模	585 cm × 392 cm	
身 舎	桁 行	3間	EN→ES	225+100+260	WN→WS 205+170+200 cm
	梁 行	3間	NE→NW	92+175+125	SE→SW 140+130+110 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 009		検出地区	2-B、3-B	
主軸方位	N-25°-W		規 模	486 cm × 309 cm 486 × 309 cm	
身 舎	桁 行	3間	EN→ES	170+197+119	WN→WS 232+145+100 cm
	梁 行	3間	NE→NW	100+100+109	SE→SW 120+90+99 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

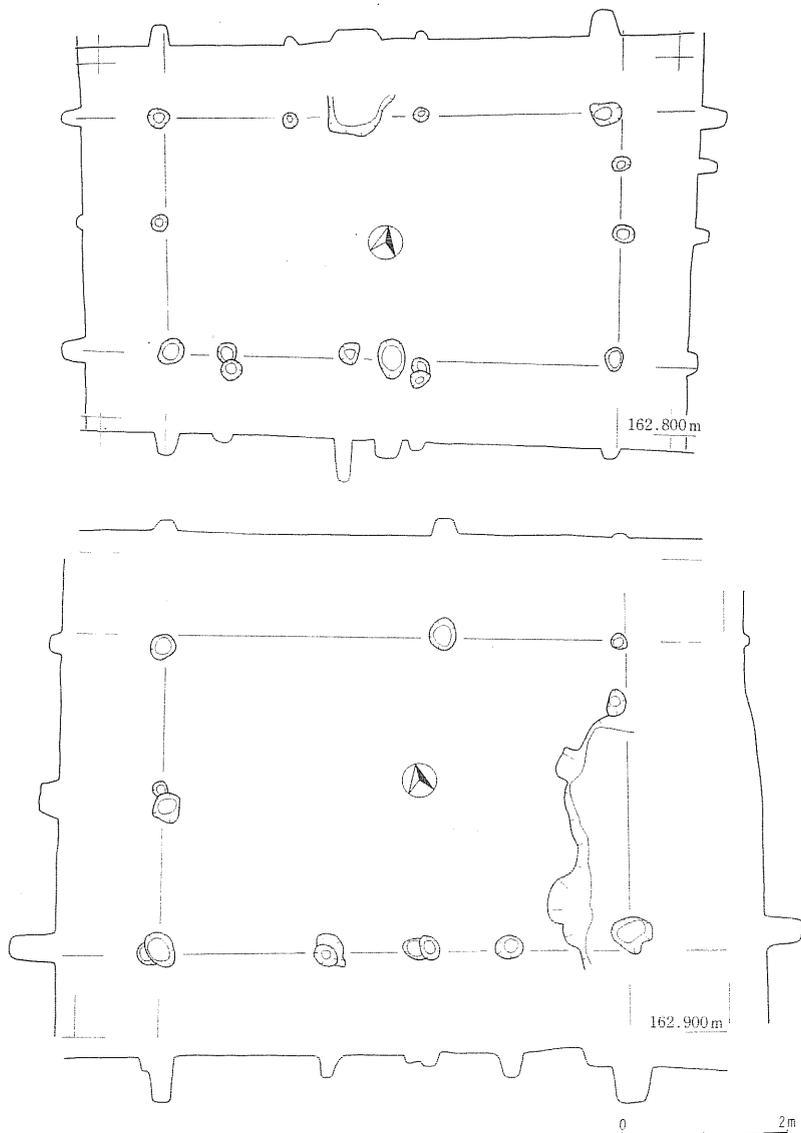


第44図 SB010・SB011実測図

第48表 SB010・SB011計測表

遺構番号	SB 010		検出地区	2-B、3-B、C		
主軸方位	N-76°-E		規模	430 cm × 305 cm		
身舎	桁行	3間	NE→NW	110+130+185	SE→SW	195+235 cm
	梁行	2間	EN→ES	163+142	WN→WS	155+150 cm
庇	位置	なし	幅	cm		

遺構番号	SB 011		検出地区	2-B、C 3-B、C		
主軸方位	N-5°-W		規模	450 cm × 242 cm		
身舎	桁行	2間	EN→ES	225+225	WN→WS	245+205 cm
	梁行	2間	SE→SW	115+127	NE→NW	102+140 cm
庇	位置	なし	幅	cm		

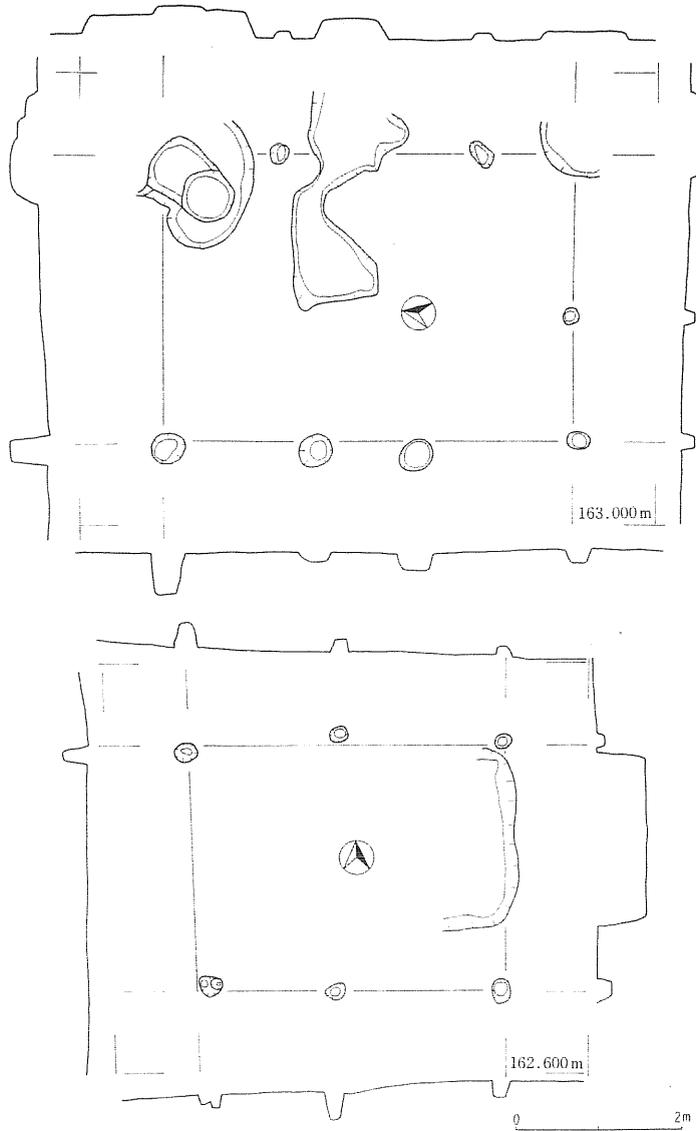


第45図 S B012・S B014実測図

第49表 S B012・S B014計測表

遺構番号	S B 012		検出地区	3-C、D		
主軸方位	N-79°-E		規模	550 cm × 310 cm		
身舎	桁行	3間	NE→NW	240+160+150	SE→SW	240+310 cm
	梁行	2間	EN→ES	150+160	WN→WS	125+160 cm
庇	位置	なし	幅	cm		

遺構番号	S B 014		検出地区	3-C、D 4-C、D		
主軸方位	N-77°-W		規模	568 cm × 390 cm		
身舎	桁行	4間	SE→SW	145+115+110+198	NE→NW	215+135+215cm
	梁行	2間	WN→WS	180+210	EN→ES	278 cm
庇	位置	なし	幅	cm		

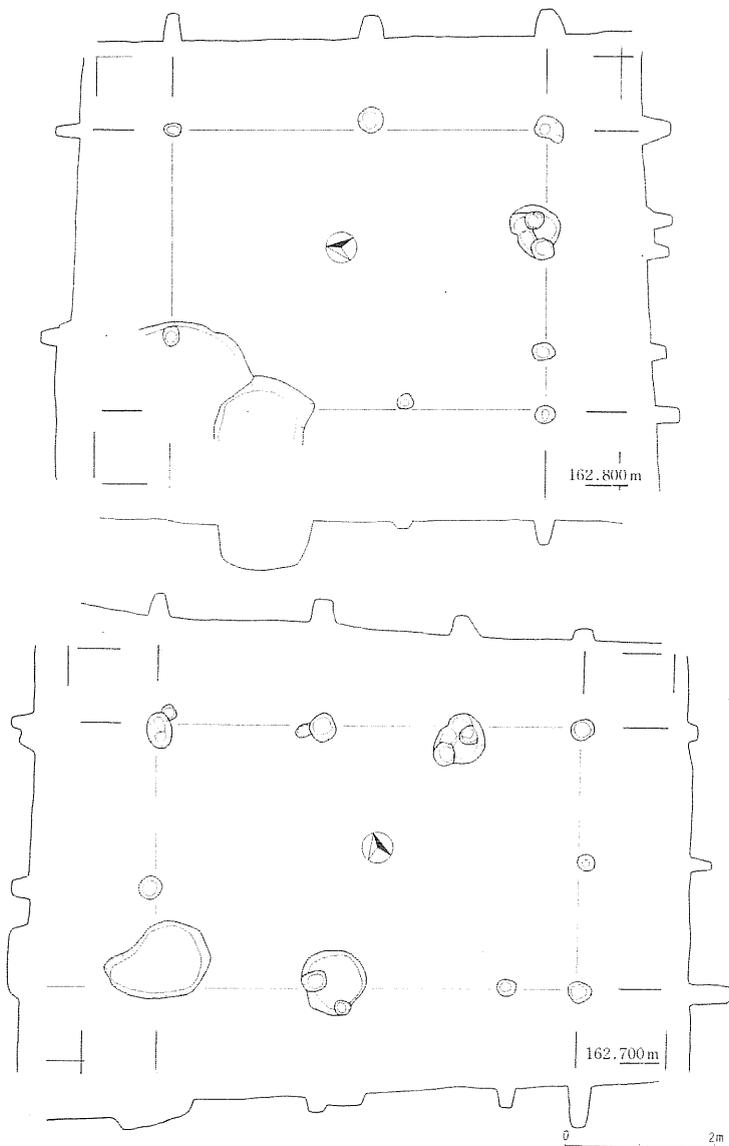


第46図 S B 016・S B 018実測図

第50表 S B 016・S B 018計測表

遺構番号	S B 016		検出地区	4-A、B 5-A、B
主軸方位	N-9°-W		規模	494 cm × 350 cm
身舎	桁行	3間	EN→E S 143+190+161	WN→W S 185+120+186 cm
	梁行	2間	SE→SW 195+155	NE→NW 350 cm
庇	位置	なし	幅	

遺構番号	S B 018		検出地区	4-D、E
主軸方位	N-86°-W		規模	370 cm × 300 cm
身舎	桁行	2間	NE→NW 190+180	SE→SW 205+165 cm
	梁行	1間	EN→E S 300	WN→W S 300 cm
庇	位置	なし		cm

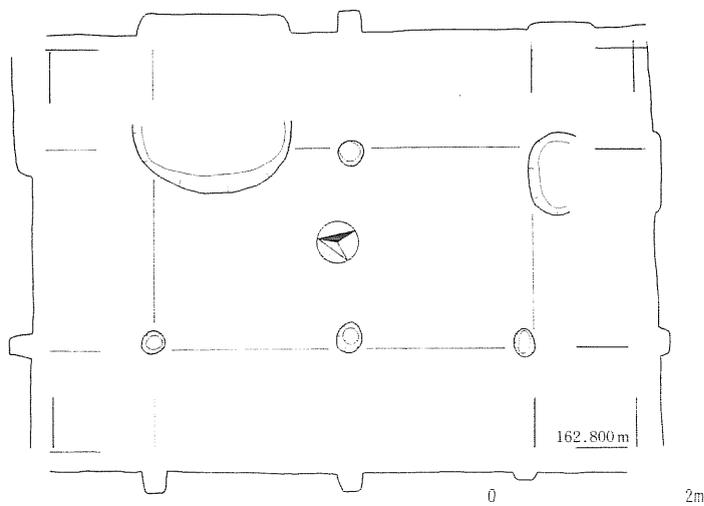
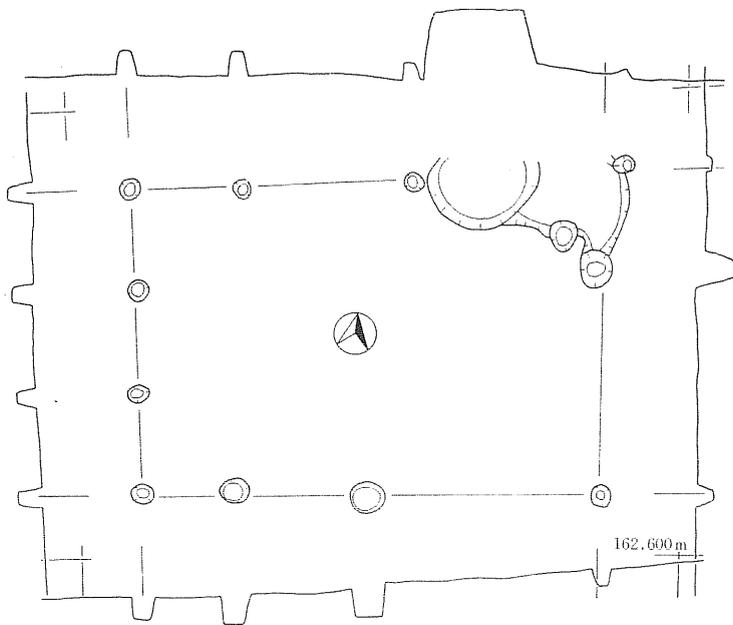


第47図 S B 021・S B 022実測図

第51表 S B 021・S B 022計測表

遺構番号	S B 021		検出地区	4-D、E	5-D、E
主軸方位	N-6°-W		規模	500 cm × 385 cm	
身舎	桁行	2間	EN→ES 265+235	WN→WS 310+190	cm
	梁行	3間	SE→SW 120+180+85	NE→NW 275+110	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 022		検出地区	5-E、F	6-E、F
主軸方位	N-75°-E		規模	566 cm × 356 cm	
身舎	桁行	3間	NE→NW 156+190+220	SE→SW 98+227+238	cm
	梁行	2間	EN→ES 169+185	WN→WS 221+135	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

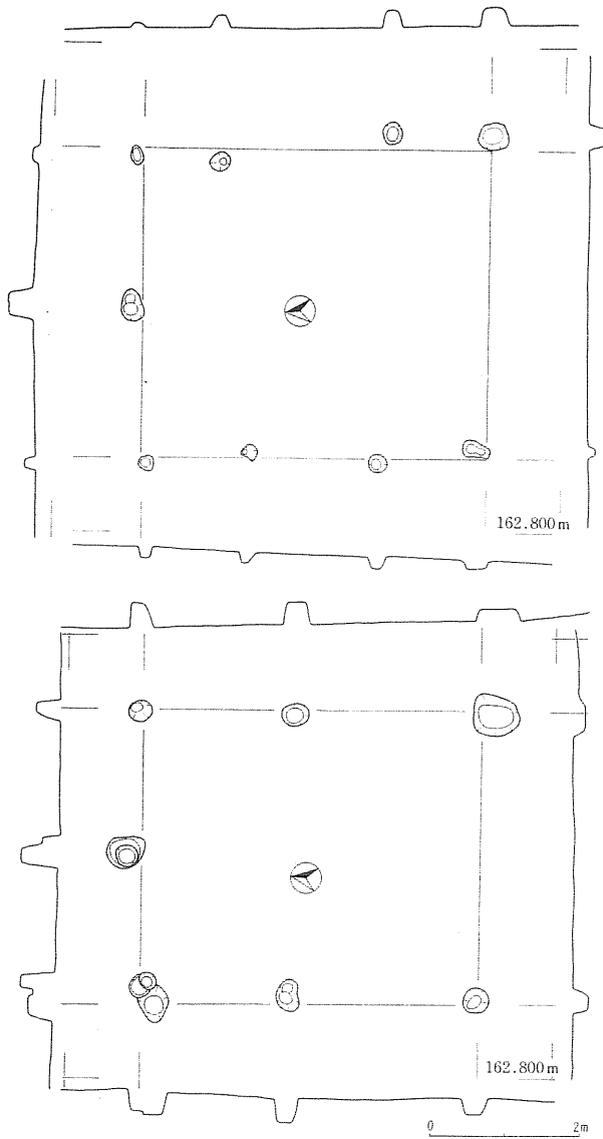


第48図 S B 023・S B 025実測図

第52表 S B 023・S B 025計測表

遺構番号	S B 023		検出地区	6-E、F
主軸方位	N-83°-E		規模	467 cm × 321 cm
身舎	桁行	3間	NE→NW 192+165+110	SE→SW 230+130+90 cm
	梁行	3間	WN→WS 100+102+103	EN→ES 96+225 cm
庇	位置	なし	幅	cm

遺構番号	S B 025		検出地区	5-D 6-D
主軸方位	N-7°-W		規模	372 cm × 198 cm
身舎	桁行	2間	EN→ES 194+178	WN→WS 192+180 cm
	梁行	1間	NE→NW 198	SE→SW 198 cm
庇	位置	なし	幅	cm

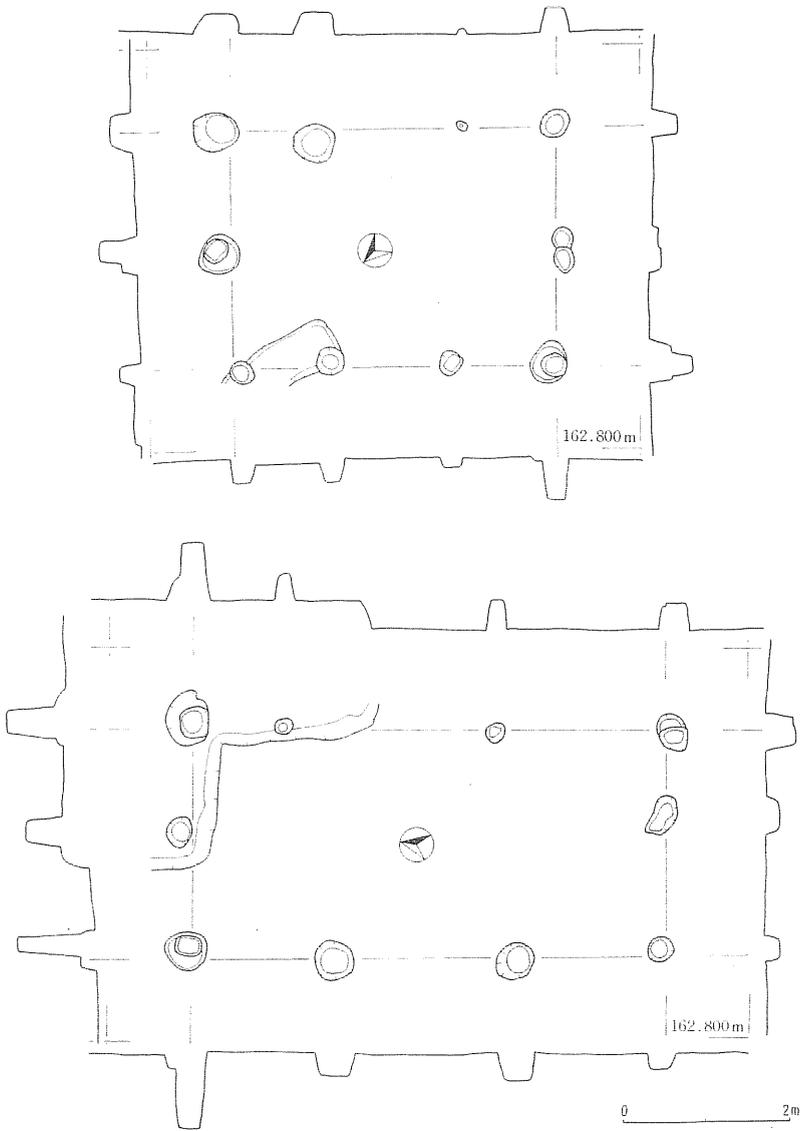


第49図 S B 027・S B 028実測図

第53表 S B 027・S B 028計測表

遺構番号	S B 027		検出地区	7-C 8-B、C
主軸方位	N-5°-E		規模	465 cm × 420 cm
身舎	桁行	3間	WN→WS 146+169+146	EN→ES 105+225+135 cm
	梁行	2間	NE→NW 200+220	SE→SW 420 cm
庇	位置	なし	幅	cm

遺構番号	S B 028		検出地区	7-B、C 8-B、C
主軸方位	N-8°-W		規模	452 cm × 398 cm
身舎	桁行	2間	EN→ES 195+255	WN→WS 202+250 cm
	梁行	2間	NE→NW 198+200	SE→SW 397 cm
庇	位置	なし	幅	cm

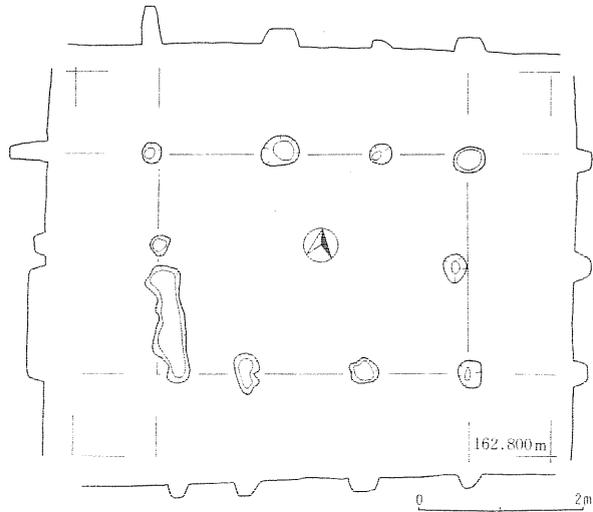
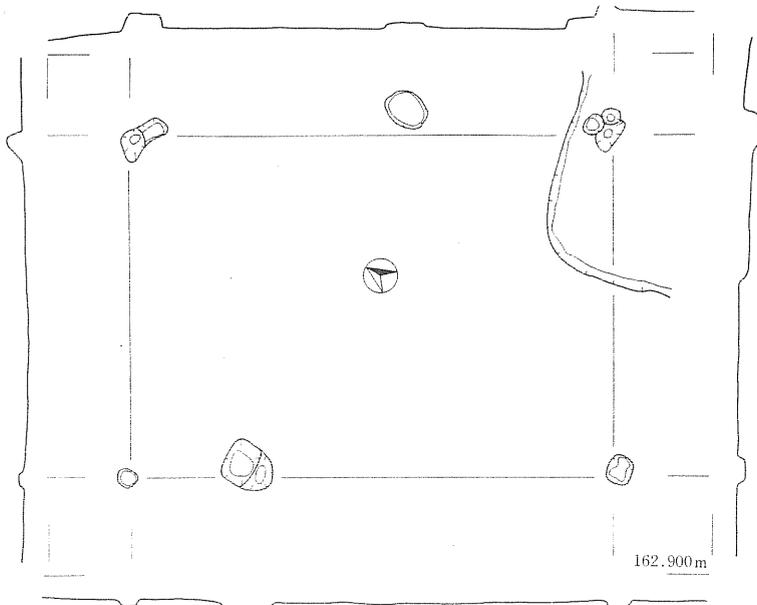


第50図 S B 030・S B 031実測図

第54表 S B 030・S B 031計測表

遺構番号	S B 030		検出地区	7-A、B	8-B	
主軸方位	N-44°-E		規模	390 cm × 290 cm		
身舎	桁行	3間	SE→SW	105+175+110	NE→NW	120+140+130 cm
	梁行	2間	EN→ES	140+150	WN→WS	160+130 cm
庇	位置	なし	幅	cm		

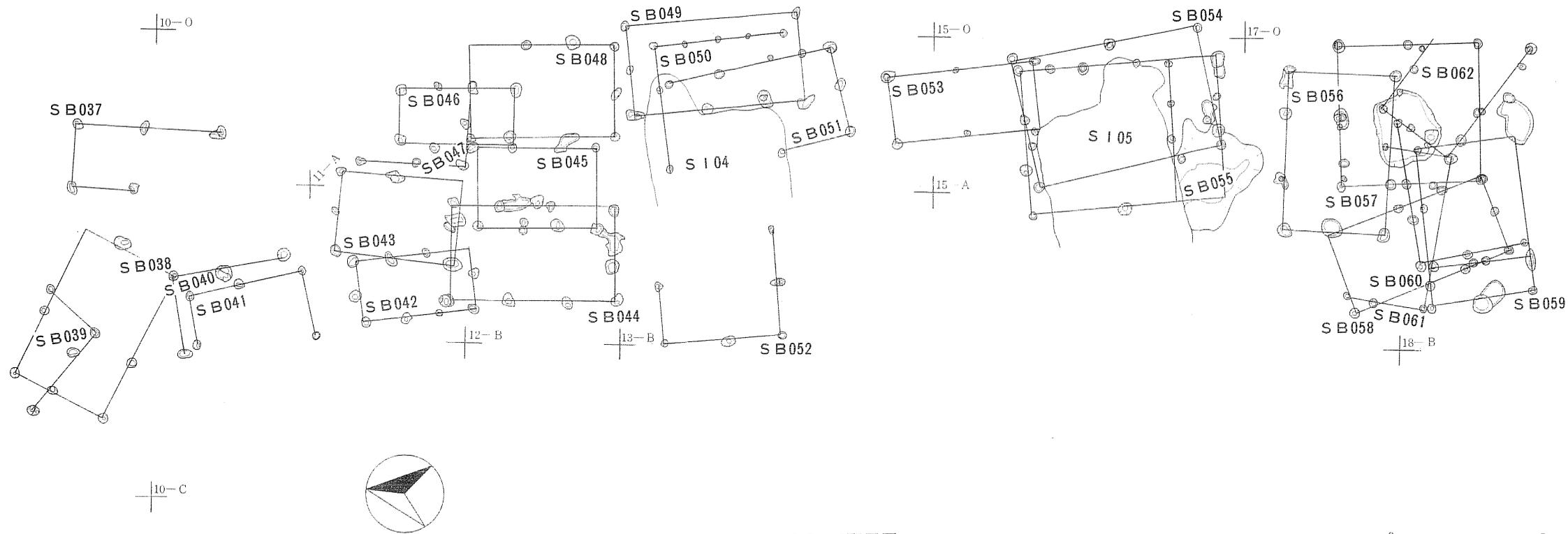
遺構番号	S B 031		検出地区	7-A	8-A	
主軸方位	N-9°-W		規模	570 cm × 279 cm		
身舎	桁行	3間	EN→ES	110+254+206	WN→WS	180+220+170 cm
	梁行	2間	NE→NW	119+160	SE→SW	110+165 cm
庇	位置	なし	幅	cm		



第51図 S B 033・S B 036実測図

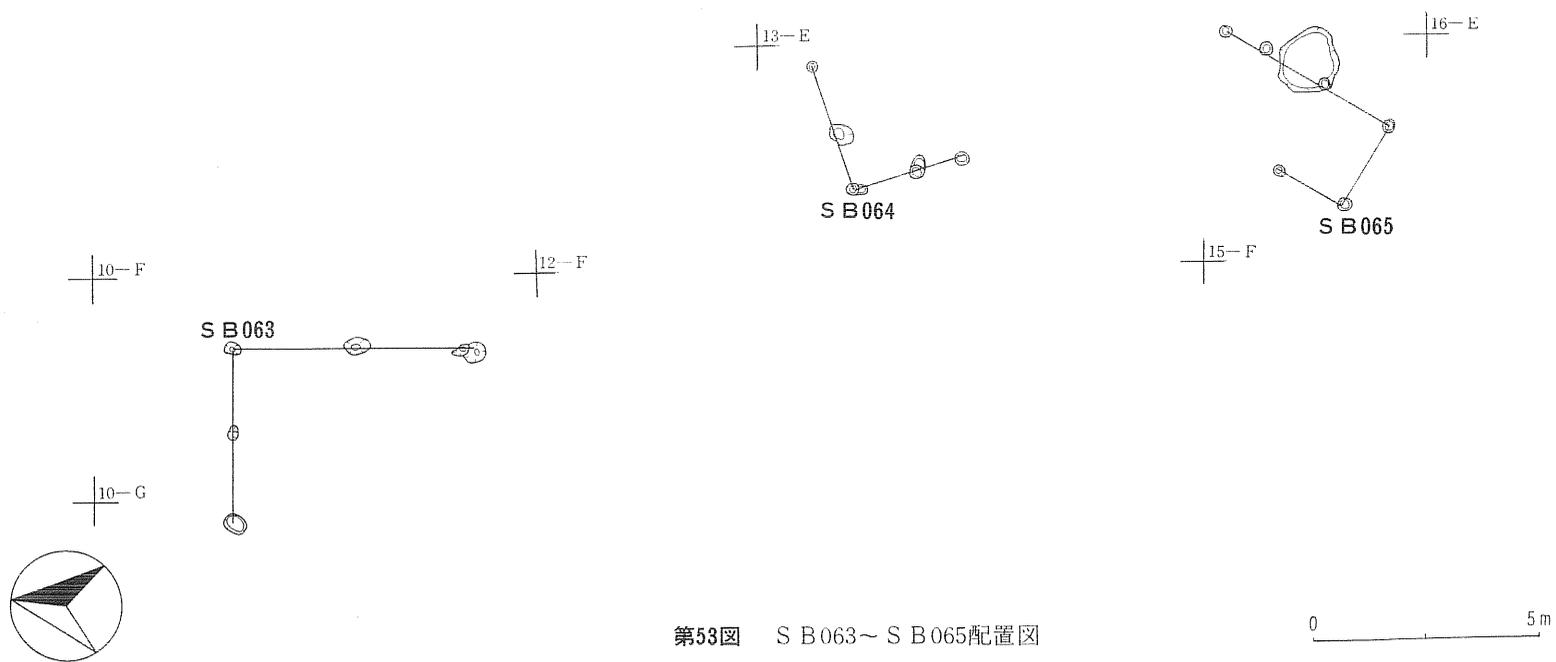
第55表 S B 033 計測表

遺構番号	S B 033		検出地区	7-A、8-A、B、9-A、B	
主軸方位	N-32°-W		規 模	580 cm × 415 cm	
身 舎	桁 行	2 間	E N → E S 340 + 250	W N → W S 250 + 330	cm
	梁 行	2 間	N E → N W 170 + 230	S E → S W 180 + 235	cm
庇	位置	なし	幅	cm	



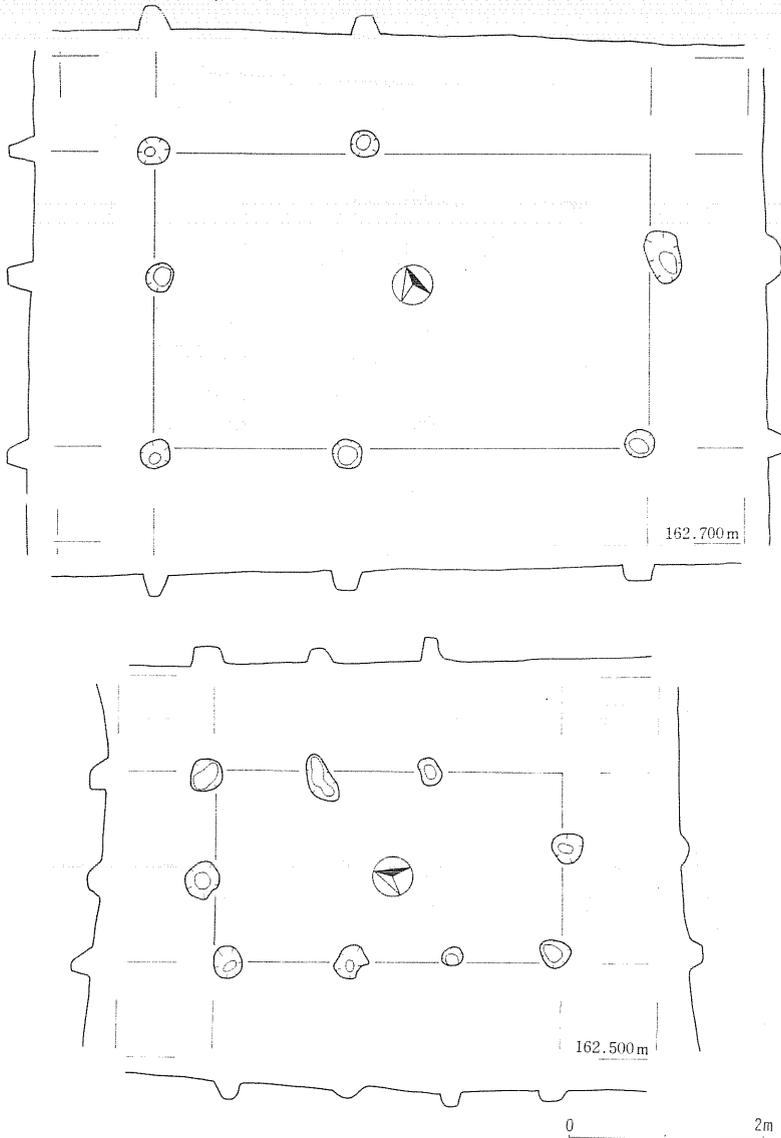
第52图 SB037~SB062配置图

0 5m



第53图 SB063~SB065配置图

0 5m

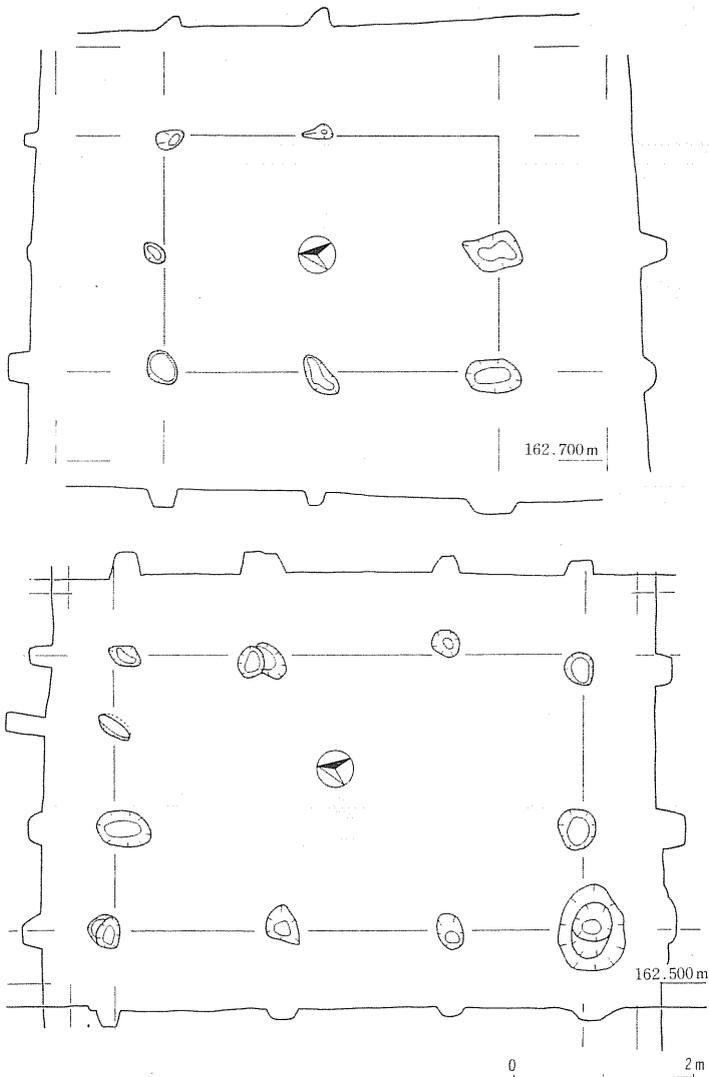


第54図 SB038・SB042実測図

第56表 SB038・SB042計測表

遺構番号	SB 038		検出地区	10-B、C	11-B
主軸方位	N-75°-W		規模	510 cm × 314 cm	
身舎	桁行	2間	SE→SW312+198	NE→NW290+220	cm
	梁行	2間	EN→ES114+200	WN→WS130+184	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	SB 042		検出地区	12-B	13-B
主軸方位	N-15°-W		規模	360 cm × 200 cm	
身舎	桁行	3間	EN→ES105+120+135	WN→WS140+105+115	cm
	梁行	2間	NE→NW115+85	SE→SW80+120	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

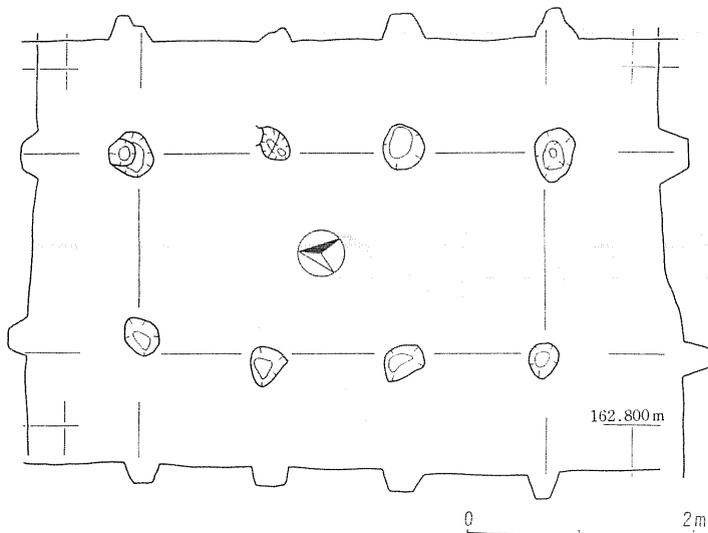
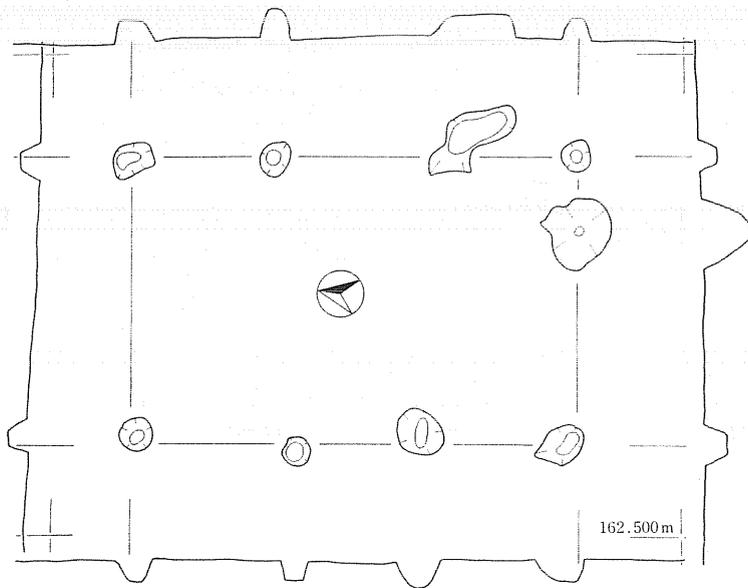


第55図 SB043・SB044実測図

第57表 SB043・SB044計測表

遺構番号	SB 043		検出地区	12-A	12-B
主軸方位	N-1°-W		規模	380 cm × 265 cm	
身舎	桁行	2間	EN→ES 169+205	WN→WS 177+203	cm
	梁行	2間	NE→NW 130+135	SE→SW 130+135	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	SB 044		検出地区	12-B	13-B
主軸方位	N-7°-W		規模	524 cm × 309 cm	
身舎	桁行	3間	EN→ES 154+195+175	WN→WS 187+187+148	cm
	梁行	3間	NE→NW 81+113+115	SE→SW 109+90+100	cm
庇	位置	なし	幅	cm	

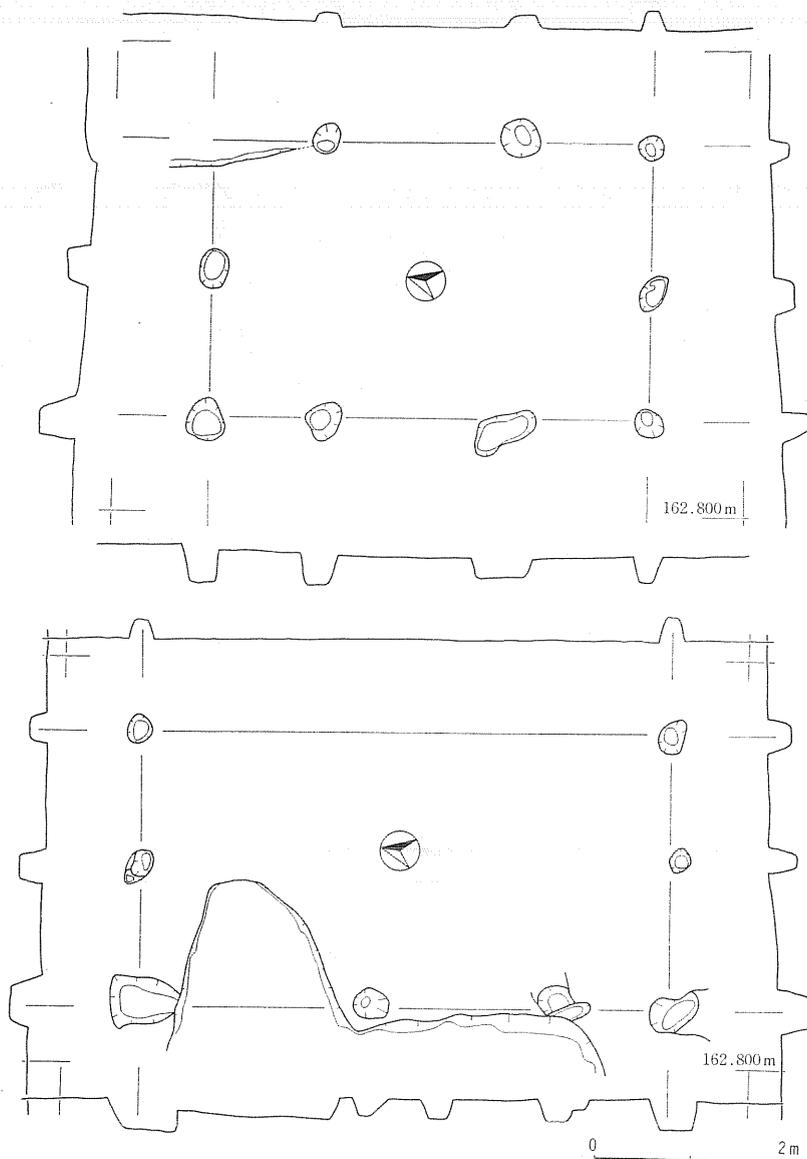


第56図 SB045・SB046実測図

第58表 SB045・SB046計測表

遺構番号	SB 045		検出地区	13-A	13-B
主軸方位	N-8°-W		規 模	398 cm × 258 cm	
身 舎	桁 行	3間	EN→ES 125+155+115	WN→WS 145+110+140 cm	
	梁 行	1間	NE→NW 258	SE→SW 258 cm	
庇	位 置	なし	幅	cm	

遺構番号	SB 046		検出地区	12-A	13-A
主軸方位	N-7°-W		規 模	360 cm × 180 cm	
身 舎	桁 行	3間	EN→ES 120+110+130	WN→WS 110+125+125 cm	
	梁 行	1間	NE→NW 180	SE→SW 180 cm	
庇	位 置	なし	幅	cm	

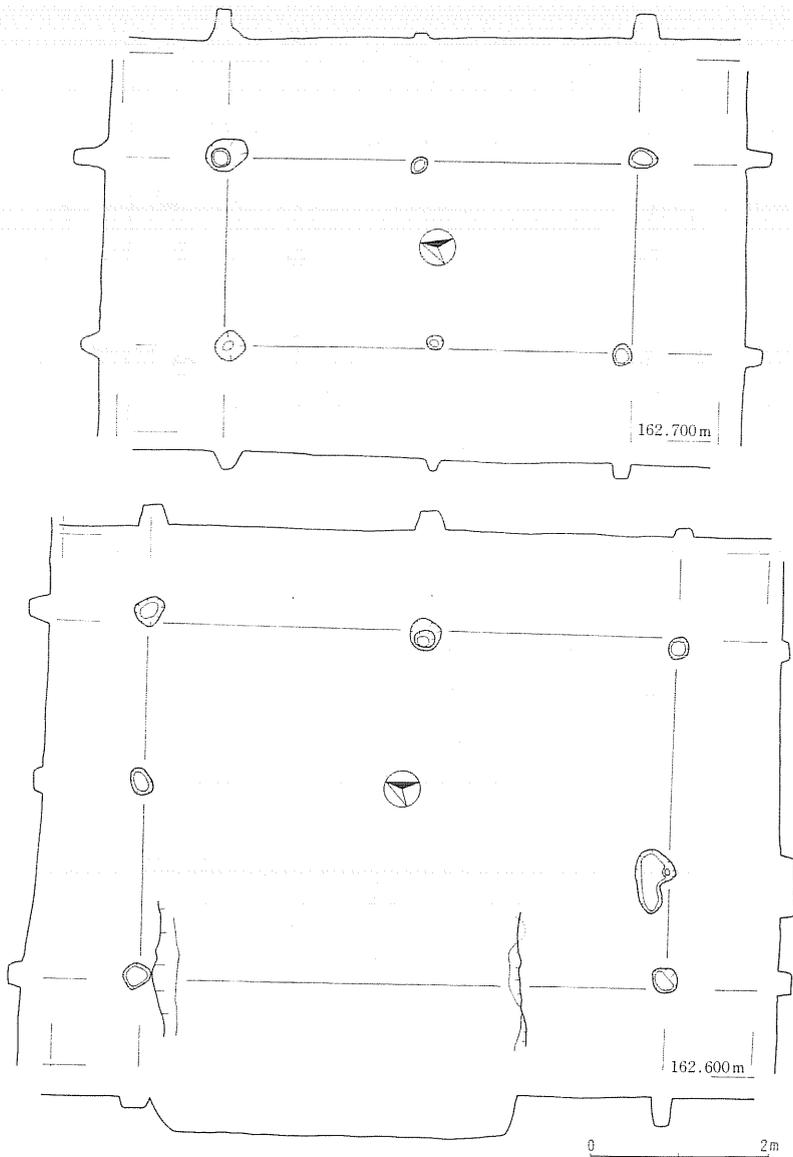


第57図 S B 048・S B 049実測図

第59表 S B 048・S B 049計測表

遺構番号	S B 048		検出地区	13-A
主軸方位	N-6°-W		規模	460 cm × 290 cm
身舎	桁行	3間	EN → ES 175 → 150 + 135	WN → WS 115 + 205 + 130 cm
	梁行	2間	NE → NW 130 + 160	SE → SW 160 + 130 cm
庇	位置	なし	幅	cm

遺構番号	S B 049		検出地区	14-O、A 15-O、A
主軸方位	N-13°-W		規模	550 cm × 290 cm
身舎	桁行	3間	WN → WS 235 + 200 + 115	EN → ES 550 cm
	梁行	2間	NE → NW 140 + 150	SE → SW 130 + 160 cm
庇	位置	なし	幅	cm

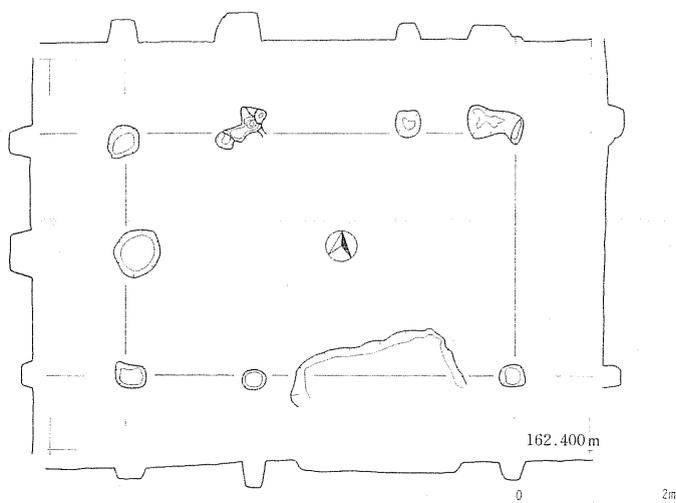
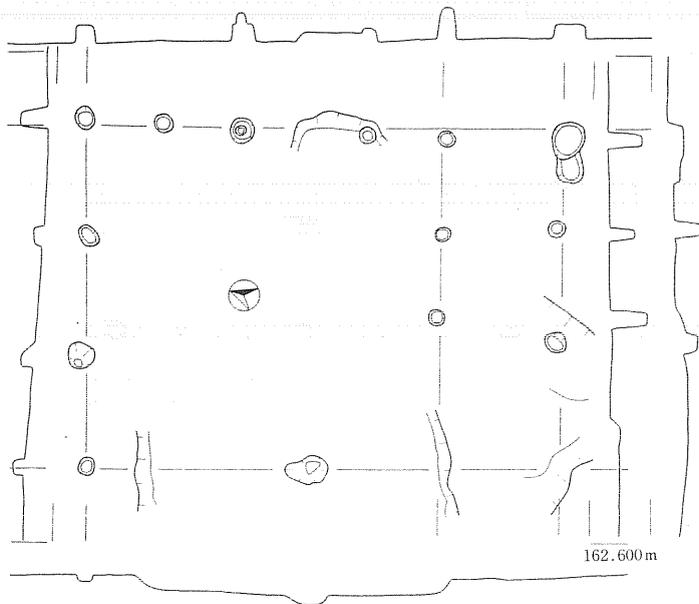


第58図 S B 053・S B 054実測図

第60表 S B 053・S B 054計測表

遺構番号	S B 053		検出地区	15-A	16-A
主軸方位	N-14°-W		規 模	463 cm × 215 cm	
身 舎	桁 行	2 間	EN → ES 217 + 246	WN → WS 225 + 238	cm
	梁 行	1 間	NE → NW 215	SE → SW 215	cm
庇	位 置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 054		検出地区	16-A	17-O、A
主軸方位	N-20°-W		規 模	603 cm × 410 cm	
身 舎	桁 行	2 間	EN → ES 315 + 288	WN → WS 598	cm
	梁 行	2 間	NE → NW 225 + 185	SE → SW 265 + 135	cm
庇	位 置	なし		cm	

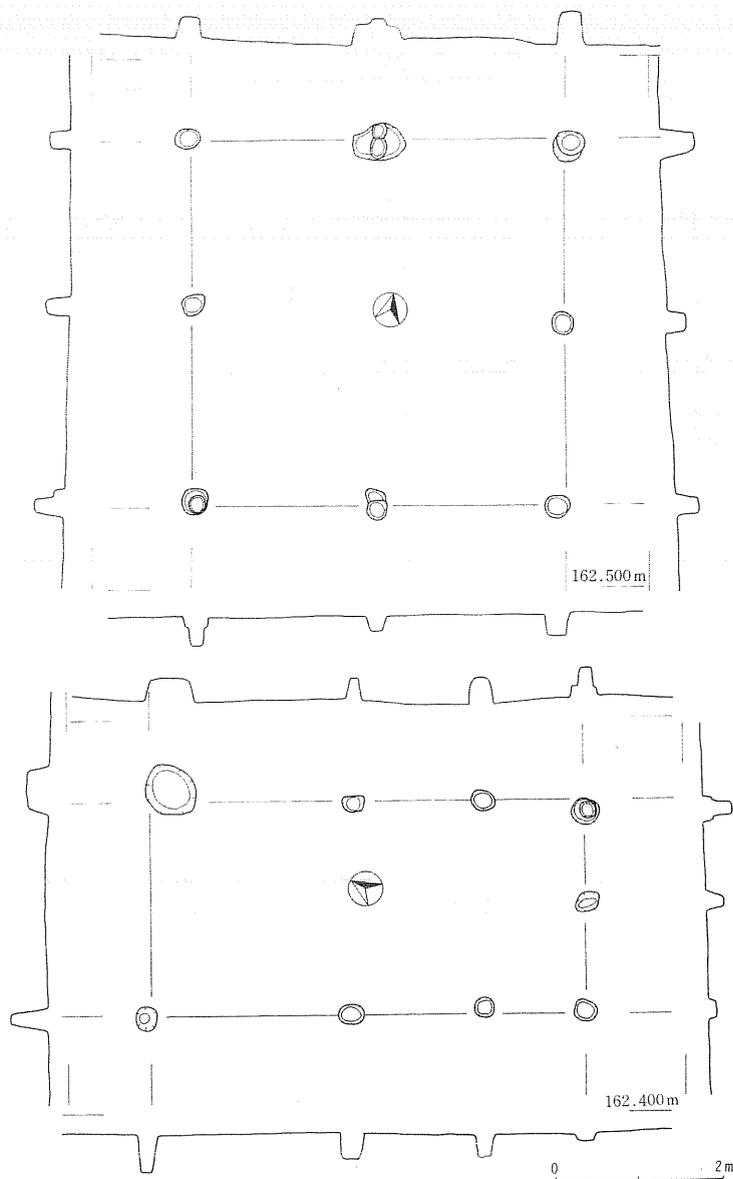


第59図 S B 055・S B 056実測図

第61表 S B 055・S B 056計測表

遺構番号	S B 055		検出地区	16-A、B	17-A、B
主軸方位	N-12°-W		規模	635 cm × 470 cm	
身舎	桁行	4間	EN→ES	100+100+170+105	WN→WS 470 cm
	梁行	3間	NE→NW	160+160+150	SE→SW 130+115+200 cm
庇	位置	南側	幅	160 cm	

遺構番号	S B 056		検出地区	18-A、B	
主軸方位	N-85°-E		規模	520 cm × 326 cm	
身舎	桁行	3間	NE→NW	140+210+170	SE→SW 165+(150+150) cm
	梁行	2間	WN→WS	161+165	EN→ES 326 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

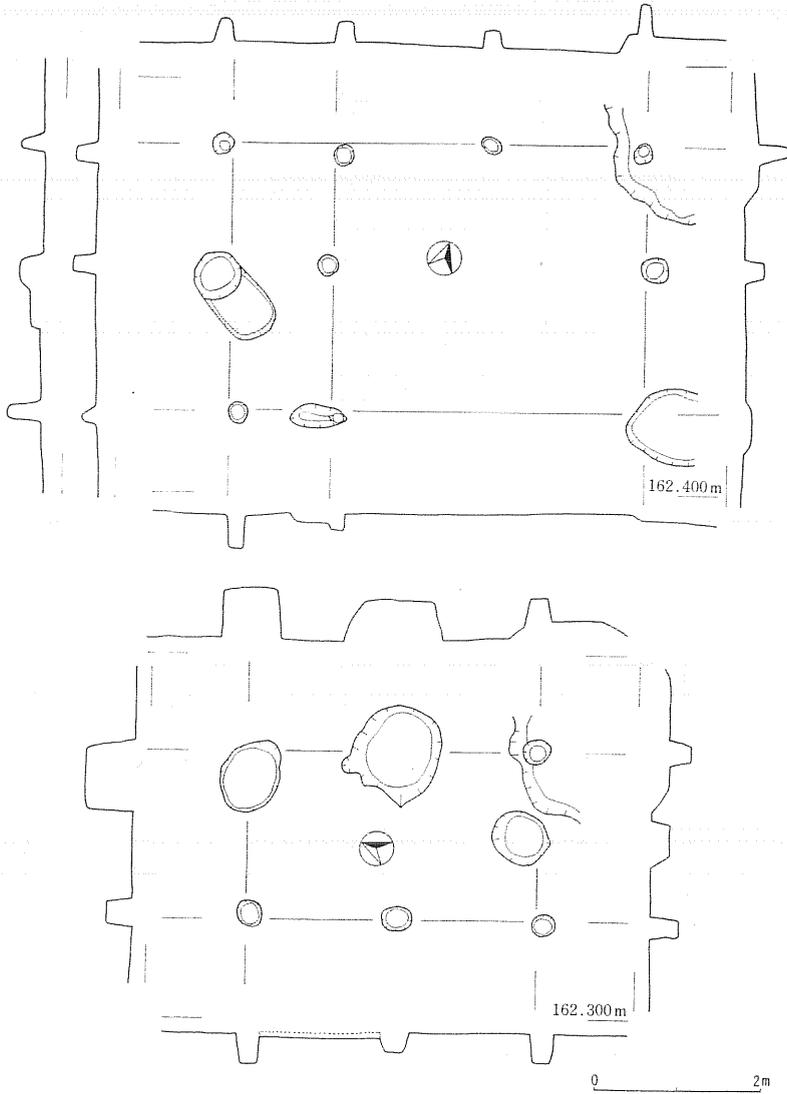


第60図 S B 057・S B 058実測図

第62表 S B 057・S B 058計測表

遺構番号	S B 057			検出地区	18-A 19-A
主軸方位	N-81°-E			規模	449 cm × 444 cm
身舎	桁行	2間	NE→NW 224+225	SE→SW	219+230 cm
	梁行	2間	EN→ES 219+230	WN→WS	219+225 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S E 058			検出地区	18-B 19-A、B
主軸方位	N-27°-W			規模	522 cm × 266 cm
身舎	桁行	3間	EN→ES 232+145+145	WN→WS	250+130+150 cm
	梁行	2間	SE→SW 130+130	NE→NW	260 cm
庇	位置	なし	幅	cm	



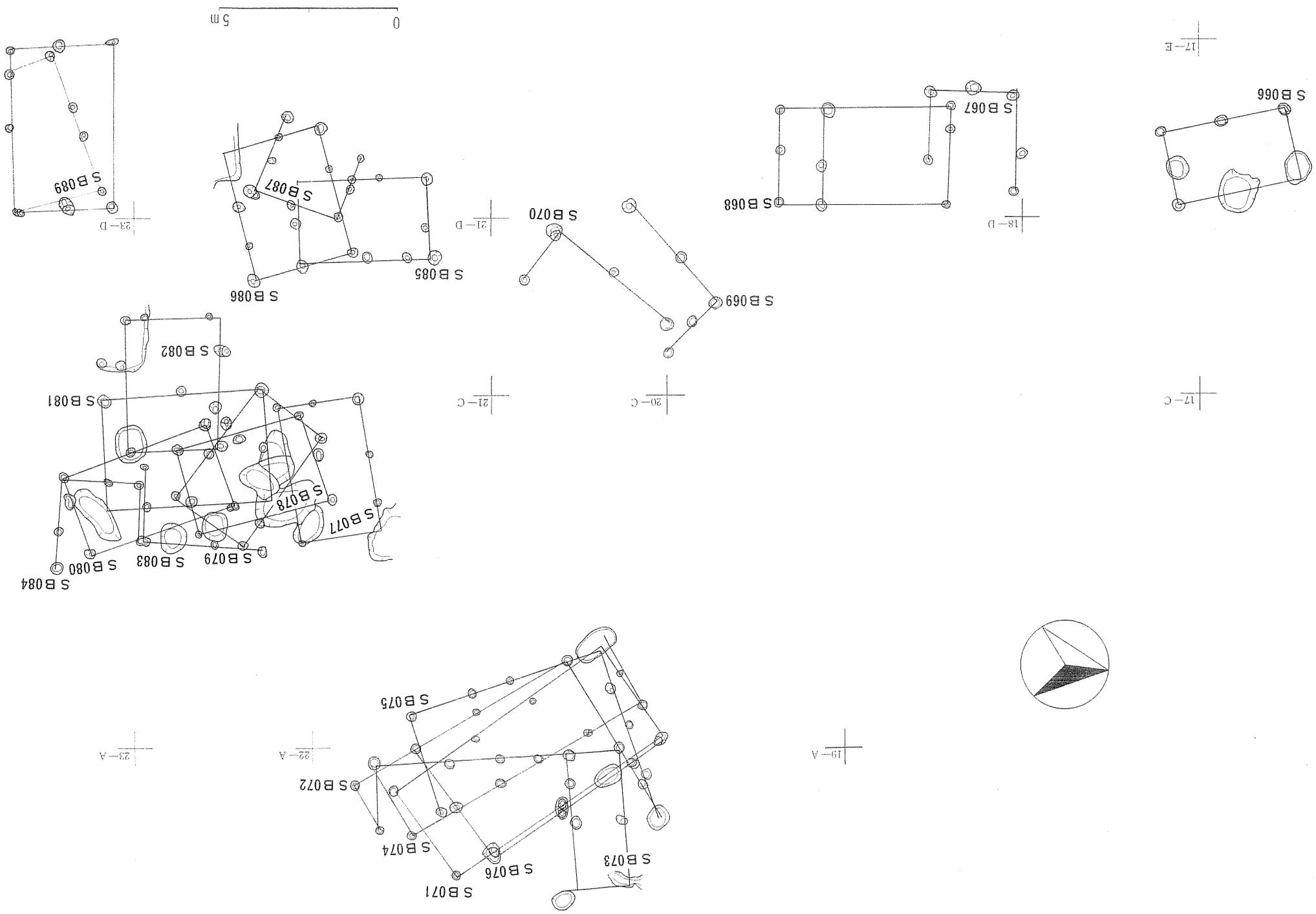
第61図 S B 059・S B 066実測図

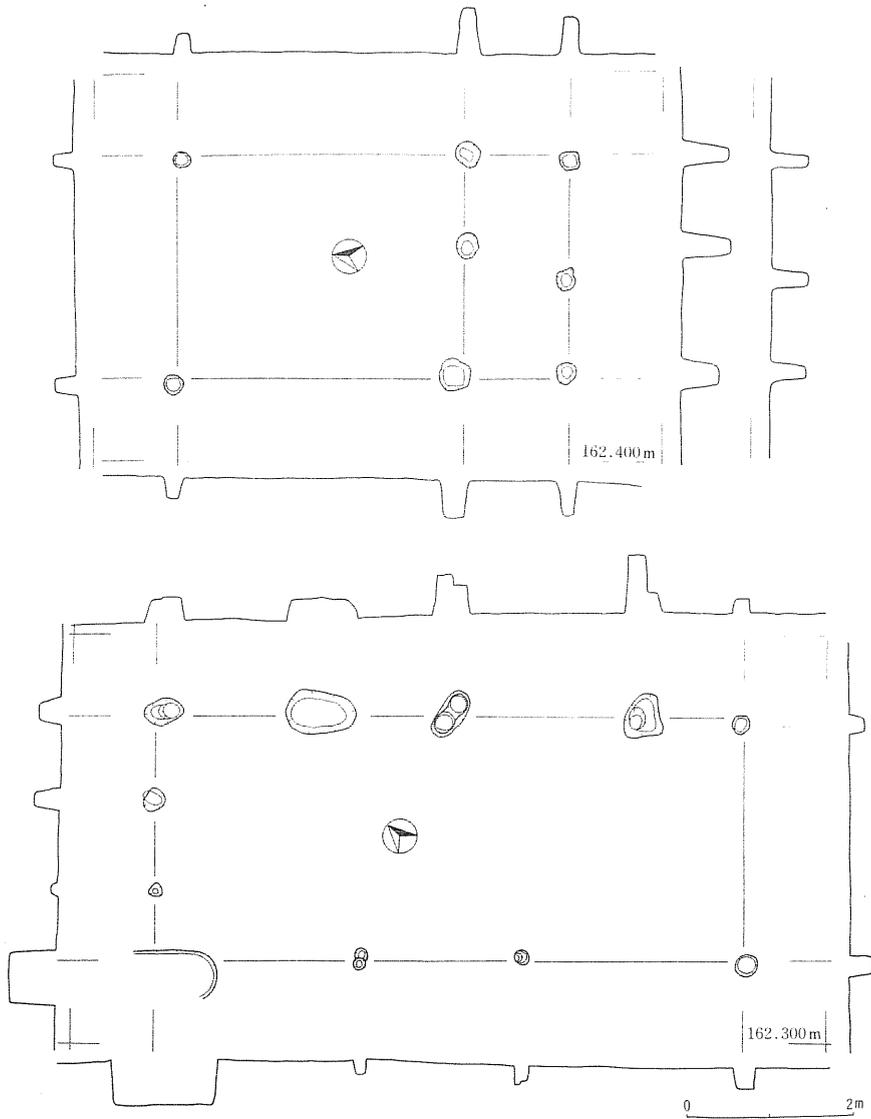
第63表 S B 059・S B 066計測表

遺構番号	S B 059		検出地区	19-A、B
主軸方位	N-76°-E		規模	501 cm × 326 cm
身舎	桁行	2間 NE→NW180+196	SE→SW376	cm
	梁行	2間 EN→ES150+175	WN→WS150+176	cm
庇	位置	西側	幅	125 cm

遺構番号	S B 066		検出地区	17-E 18-E
主軸方位	N-19°-W		規模	350 cm × 210 cm
身舎	桁行	2間 EN→ES170+180	WN→WS170+180	cm
	梁行	2間 SE→SW110+100	NE→NW206	cm
庇	位置	なし	幅	cm

第62图 S B 066 ~ S B 089配置图



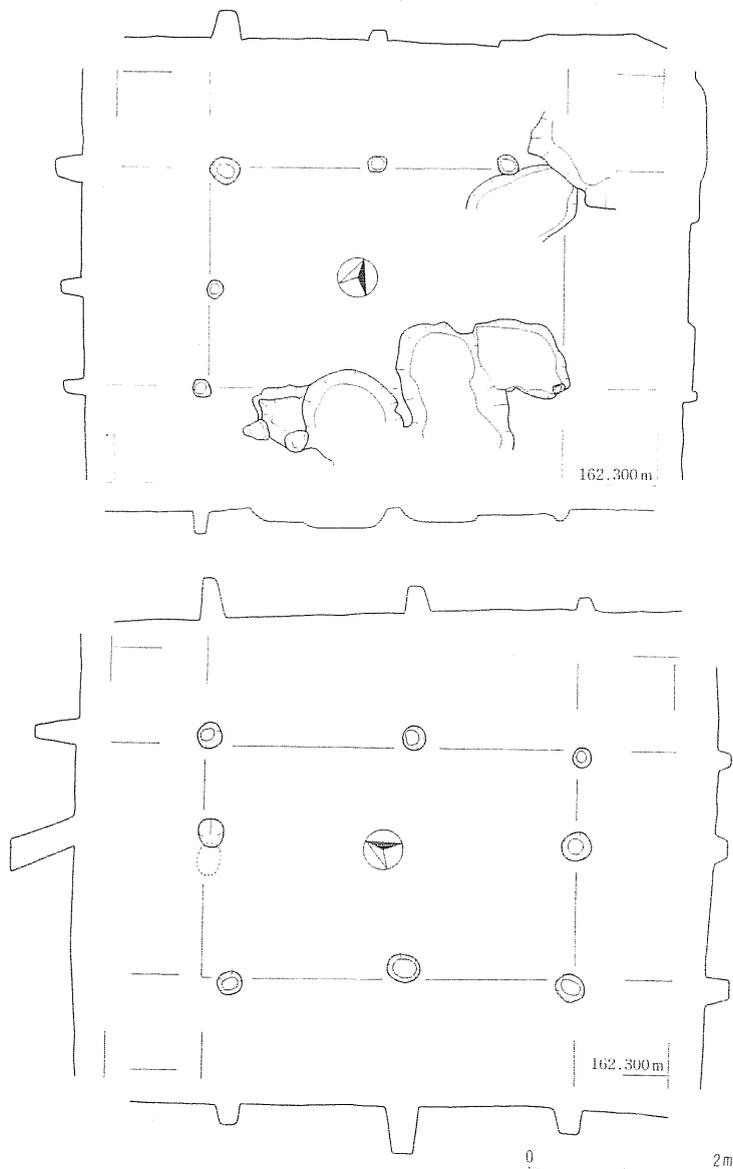


第63図 S B 068・S B 071実測図

第64表 S B 068・S B 071計測表

遺構番号	S B 068		検出地区	19-E 20-E
主軸方位	N-7°-W		規模	477 cm × 272 cm
身舎	桁行	1間	EN→ES 350	WN→WS 350 cm
	梁行	2間	NE→NW 272	SE→SW 115+157 cm
庇	位置	南側	幅	127 cm

遺構番号	S B 071		検出地区	21-A、B 22-A、B
主軸方位	N-41°-W		規模	706 cm × 296 cm
身舎	桁行	4間	WN→WS 240+190+100+165	EN→ES 116+240+150+200 cm
	梁行	3間	NE→NW 101+112+83	SE→SW 296 cm
庇	位置	なし	幅	cm

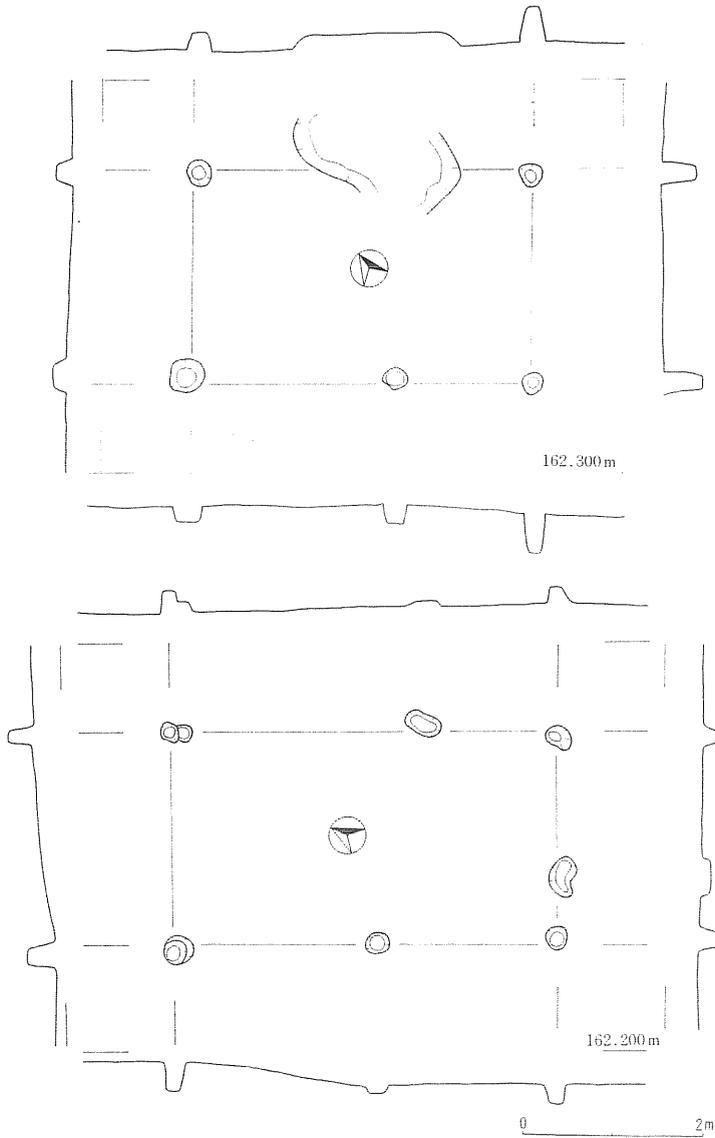


第64図 S B 077・S B 078実測図

第65表 S B 077・S B 078計測表

遺構番号	S B 077		検出地区	22-C	23-C
主軸方位	N-73°-E		規模	370 cm × 230 cm	
身舎	桁行	3間	NE → NW 60 + 135 + 175	SE → SW (120) + (120) + (130) cm	
	梁行	2間	WN → WS 125 + 105	EN → ES 230 cm	
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 078		検出地区	22-C	23-C
主軸方位	N-23°-W		規模	387 cm × 242 cm	
身舎	桁行	2間	EN → ES 215 + 172	WN → WS 212 + 175 cm	
	梁行	2間	NE → NW 142 + 100	SE → SW 150 + 92 cm	
庇	位置	なし	幅	cm	

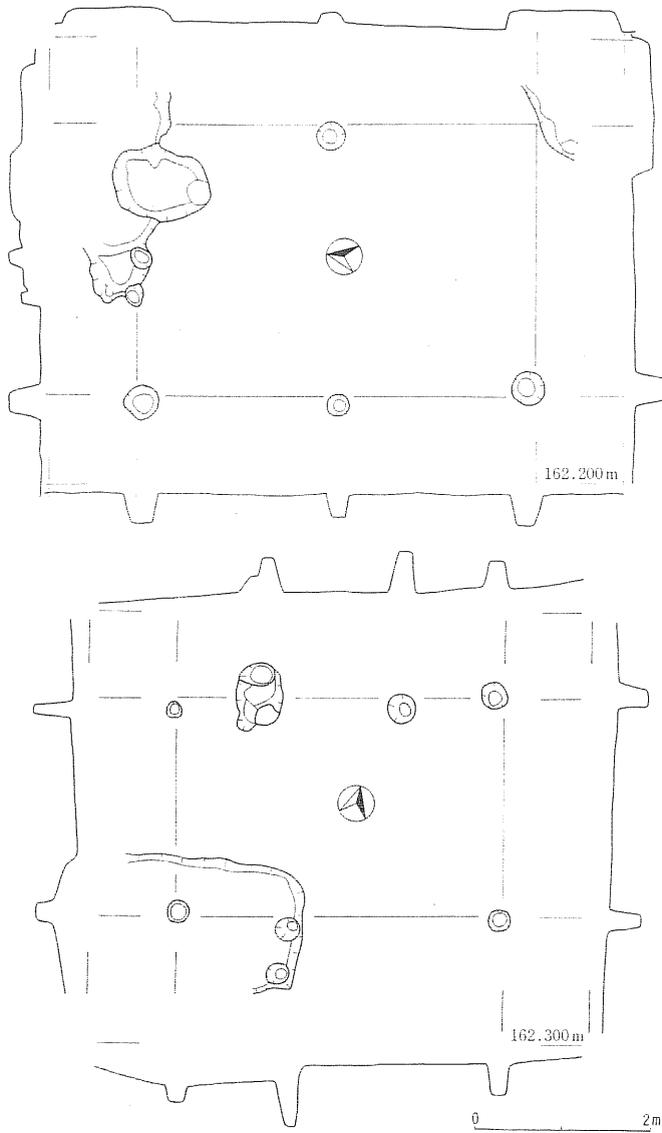


第65図 SB 079・SB 080実測図

第66表 SB 079・SB 080計測表

遺構番号	SB 079		検出地区	22-C	23-C、D
主軸方位	N-60°-W		規模	376 cm × 240 cm	
身舎	桁行	2間 SE→SW 226+150	NE→NW 160+210		cm
	梁行	1間 EN→ES 240	WN→WS 240		cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	SB 080		検出地区	23-C	24-C
主軸方位	N-27°-W		規模	430 cm × 235 cm	
身舎	桁行	2間 WN→WS 230+200	EN→ES 200+230		cm
	梁行	1間 NE→NW 235	SE→SW 235		cm
庇	位置	なし	幅	cm	

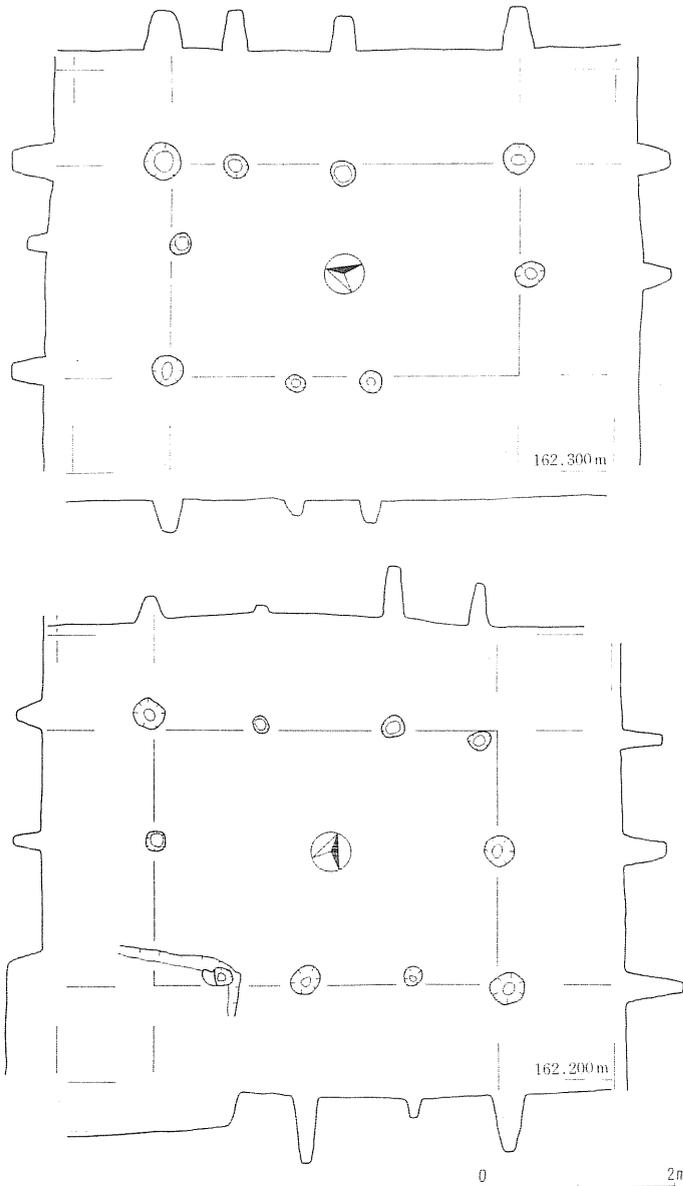


第66図 SB081・SB082実測図

第67表 SB081・SB082計測表

遺構番号	SB081		検出地区	23-C、D	23-C		
主軸方位	N-12°-W		規模	455 cm × 310 cm			
身舎	桁行	2間	EN→ES	220+235	WN→WS	230+225	cm
	梁行	2間	NE→NW	150+160	SE→SW	310	cm
庇	位置	なし				cm	

遺構番号	SB082		検出地区	23-C、D	24-C、D		
主軸方位	N-82°-E		規模	374 cm × 252 cm			
身舎	桁行	3間	NE→NW	114+160+100	SE→SW	240+134	cm
	梁行	2間	EN→ES	110+140	WN→WS	252	cm
庇	位置	なし		幅		cm	

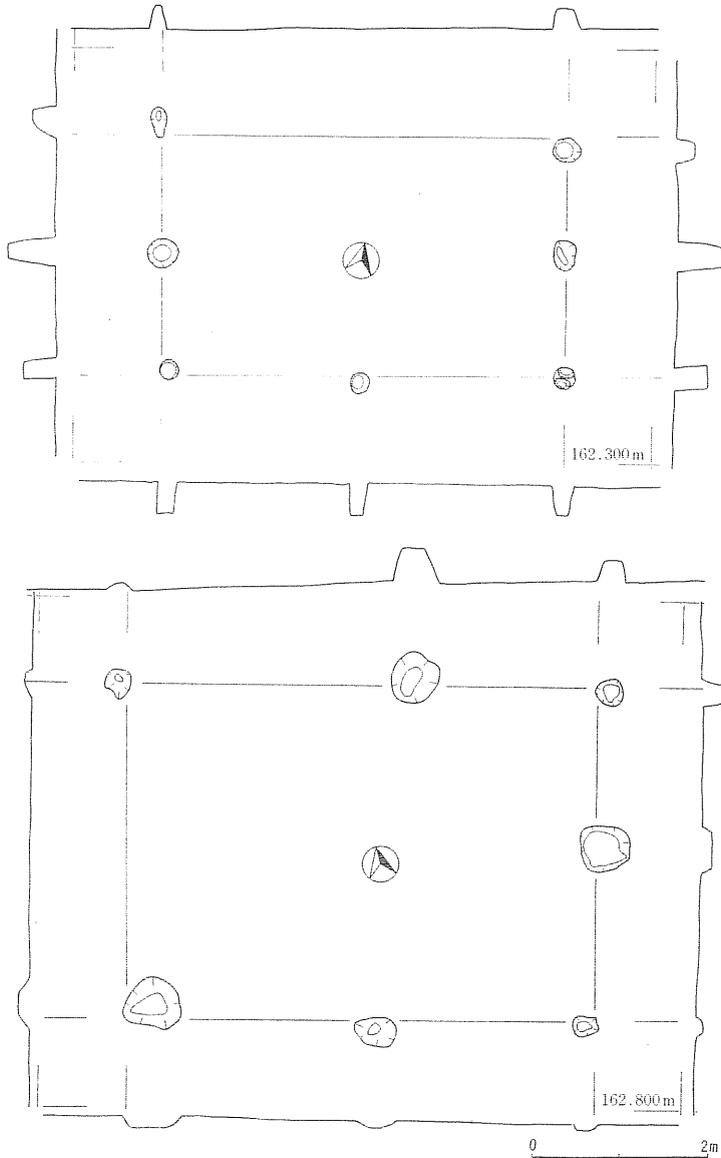


第67図 S B 085・S B 086実測図

第68表 S B 085・S B 086計測表

遺構番号	S B 085		検出地区	22-D、E	23-D、E
主軸方位	N-9°-W		規模	360 cm × 220 cm	
身舎	桁行	3間	EN→ES	65+110+185	WN→WS 130+77+153 cm
	梁行	2間	NE→NW	80+140	SE→SW 105+115 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 086		検出地区	22-D、E	23-D、E
主軸方位	N-68°-E		規模	355 cm × 267 cm	
身舎	桁行	3間	NE→NW	110+135+110	SE→SW 88+112+155 cm
	梁行	2間	EN→ES	140+125	WN→WS 125+140 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

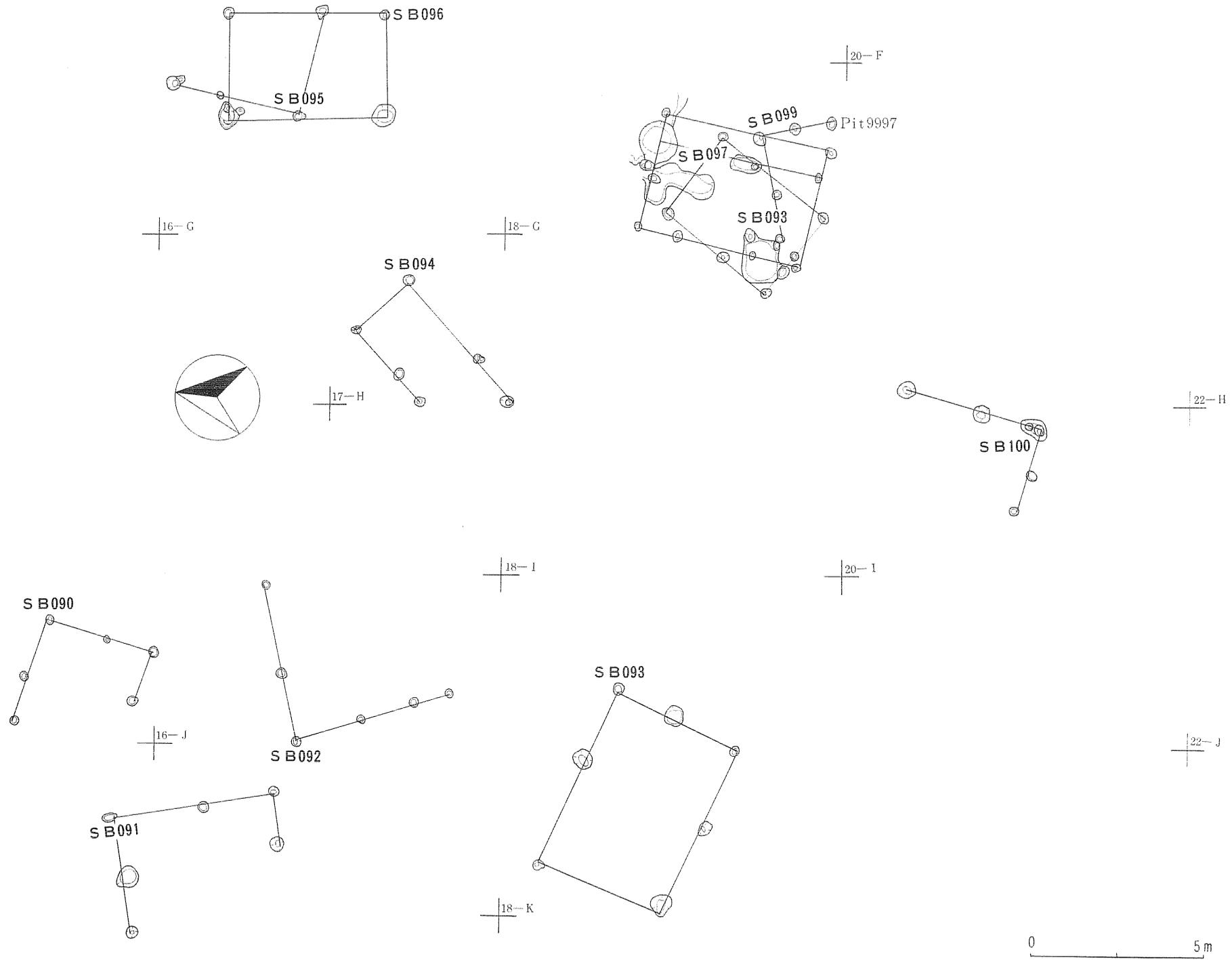


第68図 S B 088・S B 093実測図

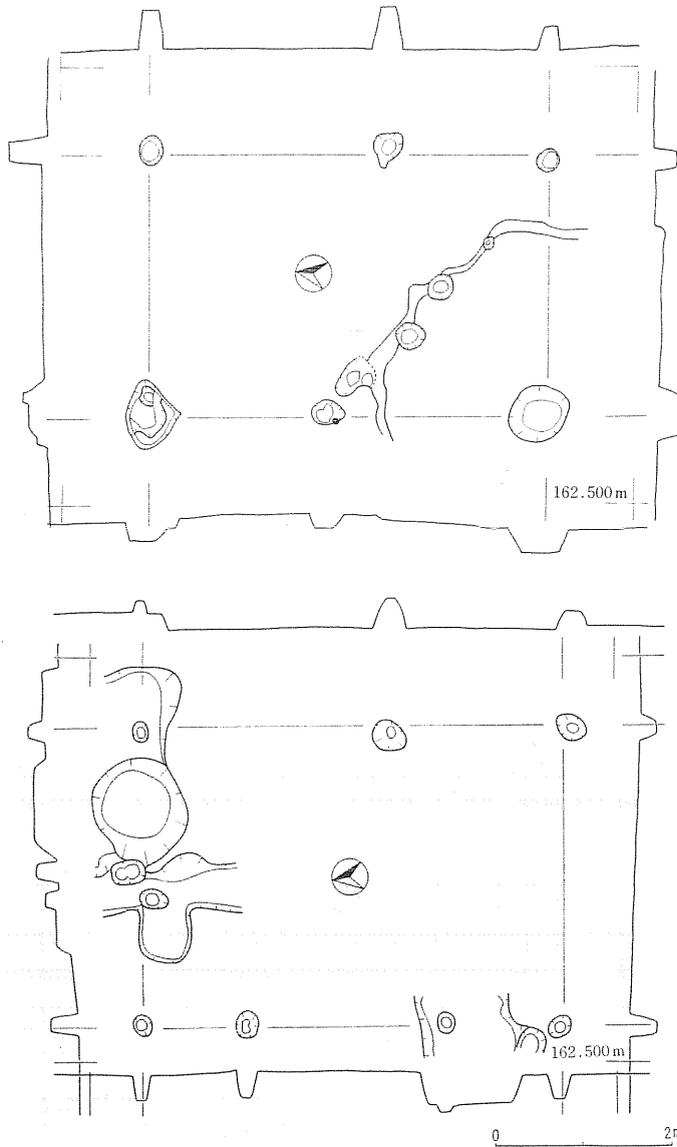
第69表 S B 088・S B 093計測表

遺構番号	S B 088		検出地区	24-E	
主軸方位	N-83°-E		規模	460 cm × 275 cm	
身舎	桁行	2間	SE → SW	235 + 225	NE → NW 460 cm
	梁行	2間	EN → ES	135 + 140	WN → WS 140 + 135 cm
庇	位置	なし	幅	cm	

遺構番号	S B 093		検出地区	19-J、K 20-J、K	
主軸方位	N-82°-W		規模	536 cm × 385 cm	
身舎	桁行	2間	NE → NW	216 + 320	SE → SW 250 + 284 cm
	梁行	2間	EN → ES	180 + 203	WN → WS 385 cm
庇	位置	なし		cm	



第69图 SB090~SB100配置图

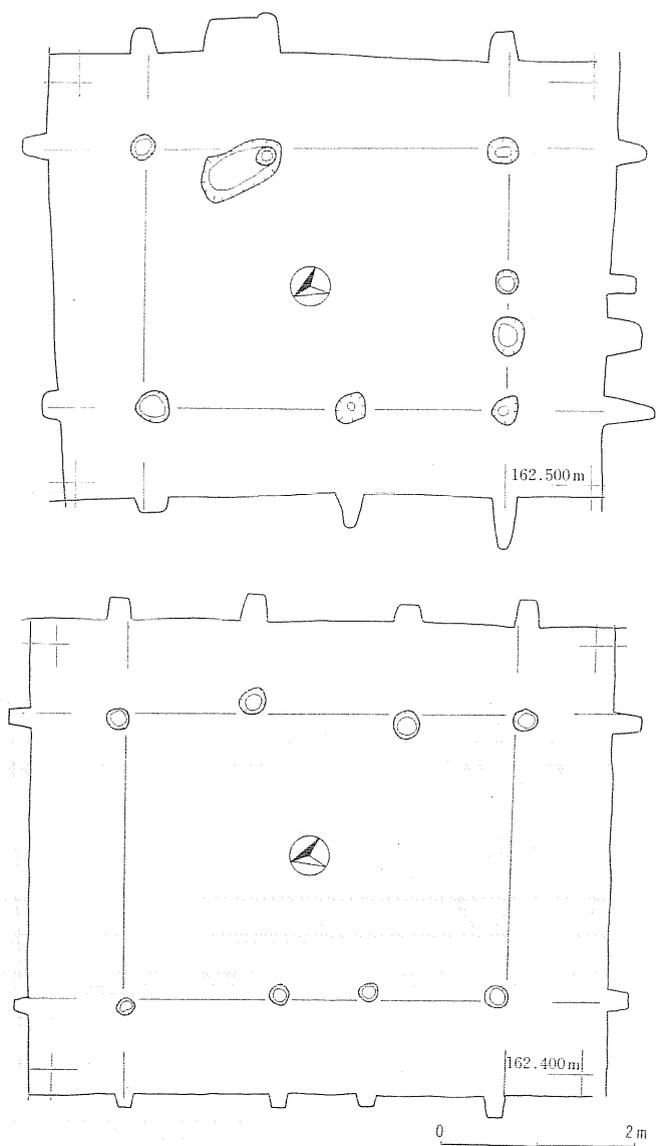


第70図 S B096・S B097実測図

第70表 S B096・S B097計測表

遺構番号	S B 096		検出地区	17-F、G	18-F、G
主軸方位	N-7°-W		規模	454 cm × 302 cm	
身舎	桁行	2間	EN→E S 270+184	WN→W S 204+250	cm
	梁行	1間	NE→NW302	SE→S W299	cm
底位置	なし		幅	cm	

遺構番号	S B 097		検出地区	19-G、H	20-G、H
主軸方位	N-7°-E		規模	480 cm × 347 cm	
身舎	桁行	3間	EN→E S 250+230	cm	
	梁行	2間	SE→S W262	NE→NW110+148	cm
底位置	東側		幅	85 cm	

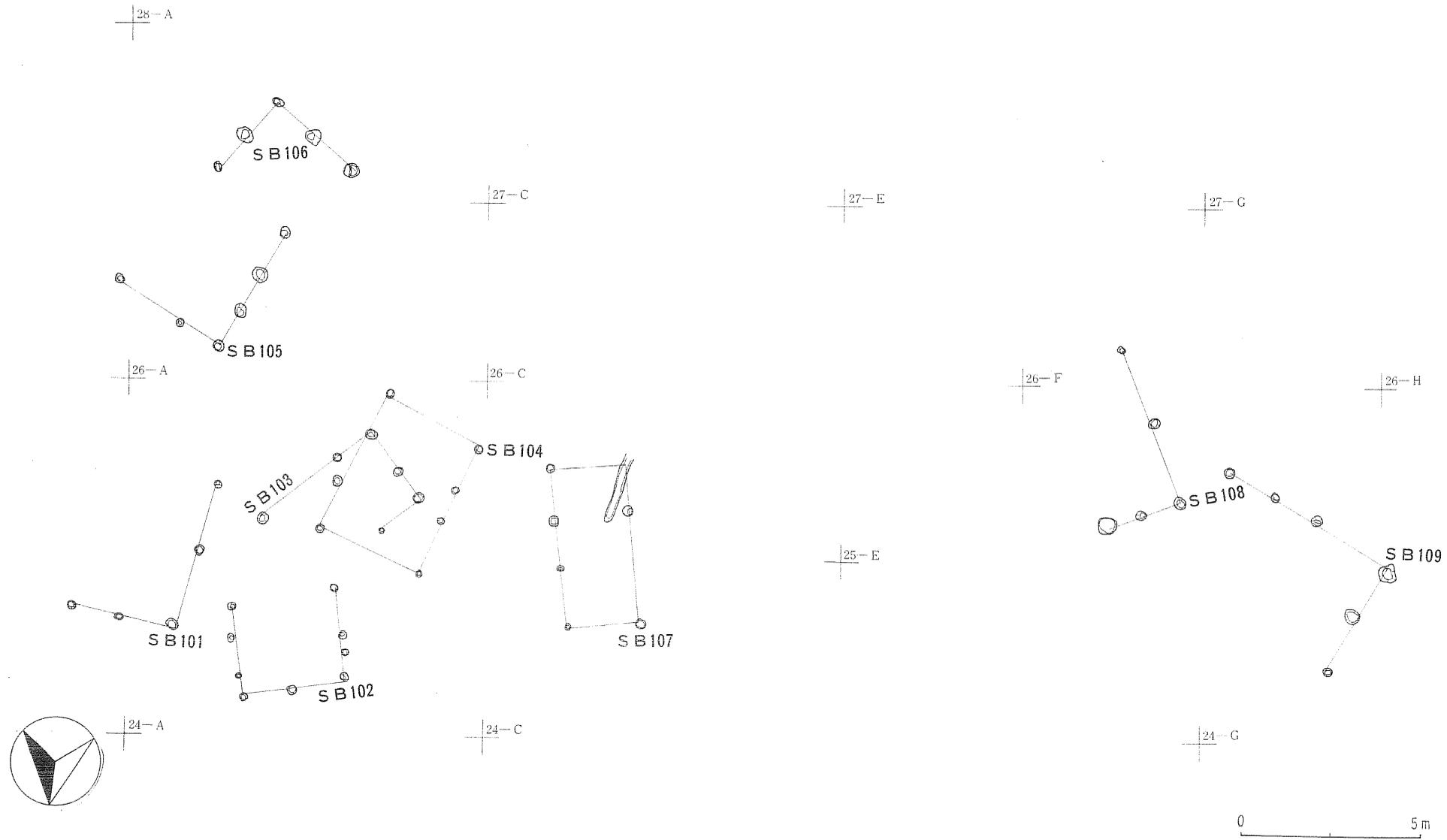


第71図 S B 098・S B 104実測図

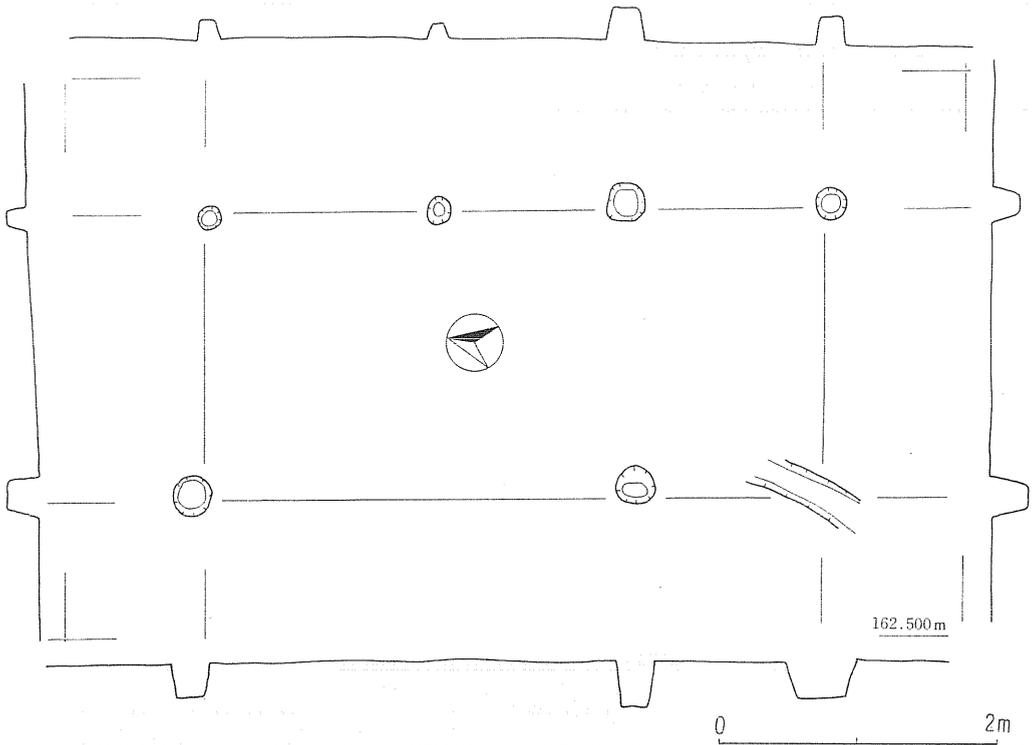
第71表 S B 098・S B 104計測表

遺構番号	S B 098		検出地区	19-G 20-G、H
主軸方位	N-32°-E		規模	378 cm × 274 cm
身舎	桁行	2間	EN→ES 378	WN→WS 160+218 cm
	梁行	2間	NE→NW 120+152	SE→SW 140+134 cm
庇	位置	なし	幅	cm

遺構番号	S B 104		検出地区	25-C 26-C
主軸方位	N-18°-E		規模	405 cm × 302 cm
身舎	桁行	3間	EN→ES 130+160+115	WN→WS 163+92+143 cm
	梁行	1間	NE→NW 302	SE→SW 300 cm
庇	位置	なし	幅	cm



第72図 S B101～S B109配置図



第73図 SB 107実測図

第72表 SB 107 計測表

遺構番号	SB 107		検出地区	25-D、26-D	
主軸方位	N-12°-W		規模	448 cm × 210 cm	
身舎	桁行	3間	EN→ES 170+133+145	WN→WS 313+135	cm
	梁行	1間	NE→NW 210	SE→SW 210	cm
庇	位置	なし	幅		

第73表 S X(F)01計測・説明表

検出地区	0-0	実測図番号	74	図版番号	34	
法	長さ	(176cm)	幅	60cm	方向	N-81°-W
量	平面形状	長靴形	深さ	27cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	東側が調査対象区域外に続いているように観察される。 プランは明確ではなかった。					
出土遺物	炭化材					

土層註記

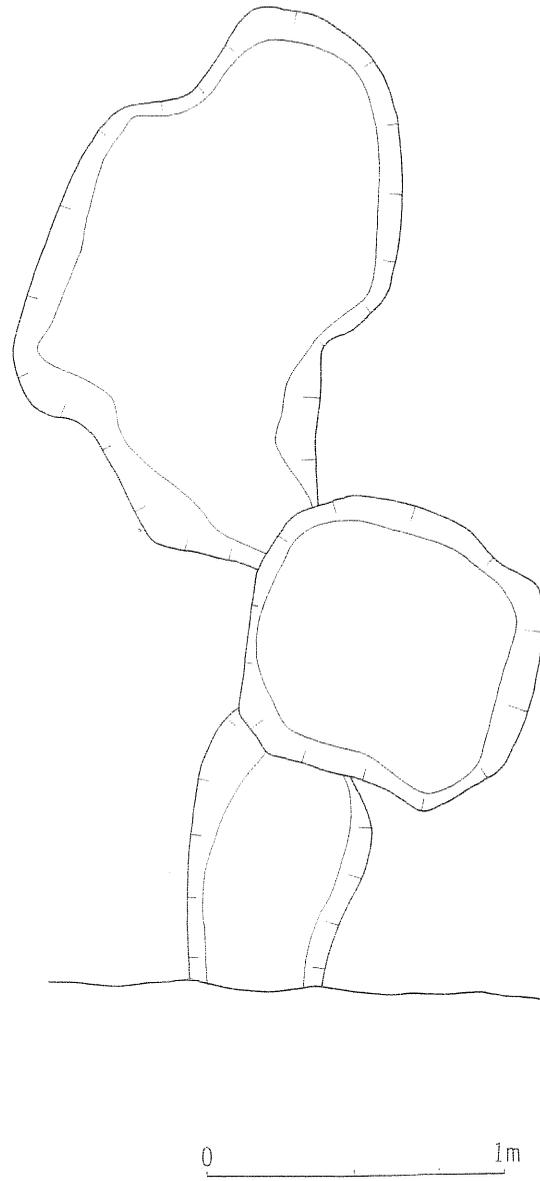
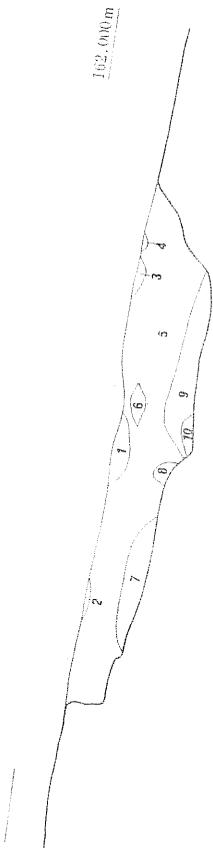
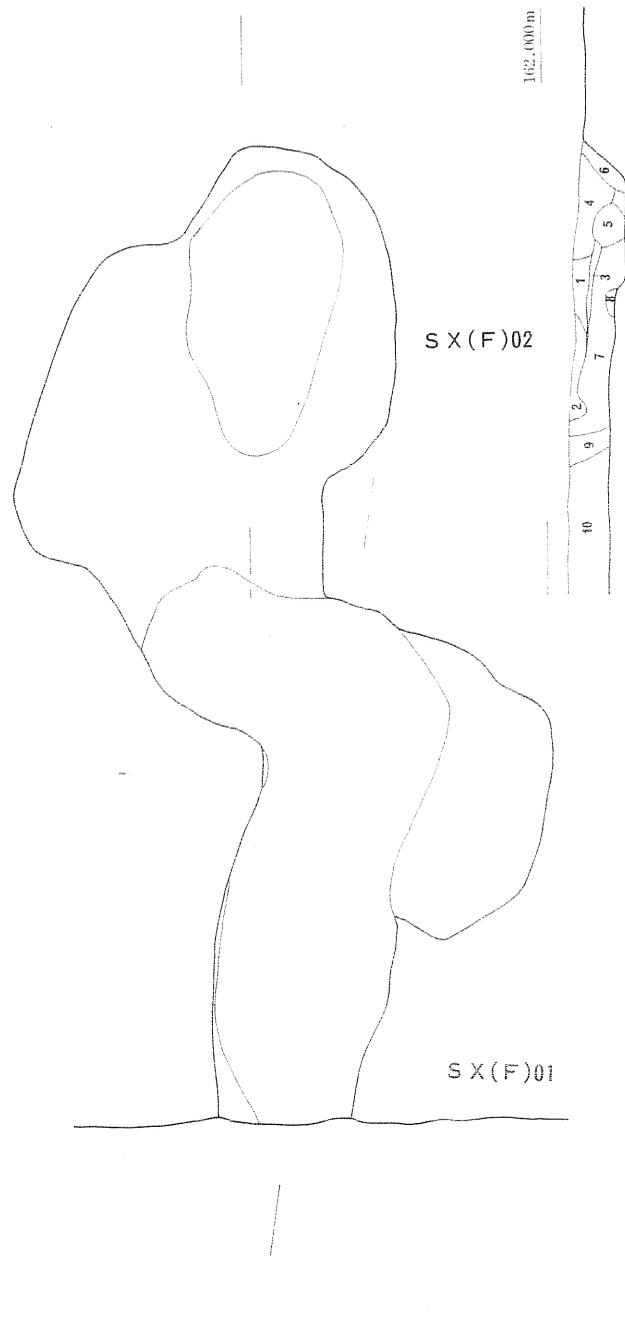
- | | |
|--|---|
| <p>1 10Y R¹・㊦ 黒色土 炭化物の層 φ10.0mm～5.0mmの炭化物が敷きつめられたように入っている。各々の炭化物の間には粒子の細かい若干の浮石(φ3.0mm)が混入。炭化物(7.5Y R¹・㊦)が入り込んでいる。</p> <p>3 7.5Y R⁵ 明褐色土(焼土) 粒子は粗い。φ2.0mm程度の浮石が多量に混入。10Y R⁵ 黄褐色土が下部に混入。</p> <p>5 5Y R⁵ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい。7.5Y R⁵ 橙色土(焼土)が微量混入。</p> <p>9 2.5Y R¹・㊦ 赤黒色土 粘性なし 粒子はやや細かい。混入物なし。</p> <p>9 7.5Y R¹・㊦ 黒色土 粘性なし 粒子粗い 混入物なし。</p> | <p>2 7.5Y R⁵ 黄褐色土(焼土) 粒子は粗い。粒子の細かい炭化物(10Y R¹・㊦)が多量に入り込んでいる。</p> <p>4 7.5Y R⁵ 橙色土(焼土) 粒子は細かい。</p> <p>6 10Y R⁵ 黒褐色土 粘性なし 粒子はやや細かい。10Y R⁵ 明褐色土が少量混入。</p> <p>8 10Y R⁵ 褐色土 粘性なし 粒子やや粗い。10Y R⁵ 黄褐色土が少量混入。</p> <p>10 10Y R⁵ 暗褐色土 粘性なし 粒子は細かい。10Y R⁵ 黄褐色土と7.5Y R¹・㊦ 黒色土が多量混入。</p> |
|--|---|

第74表 S X(F)02計測・説明表

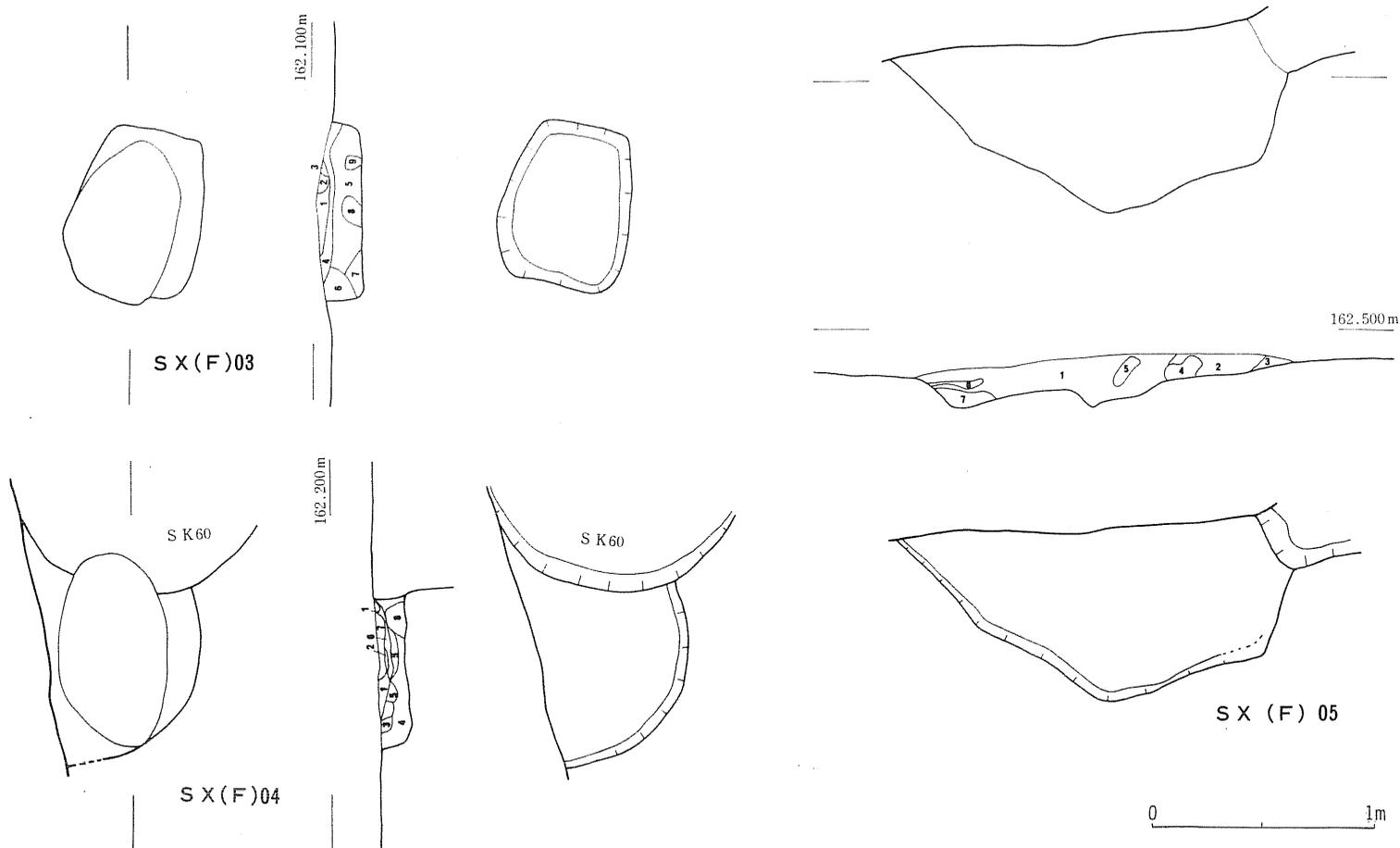
検出地区	0-A	実測図番号	74	図版番号	34、35	
法	長さ	96cm	幅	54cm	方向	N-85°-W
量	平面形状	たまご形	深さ	18cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S X(F)01の西側に位置しており、連続するものと推定された。					
出土遺物	サイドスクレーパー(1)					

土層註記

- | | |
|---|--|
| <p>1 7.5Y R⁵ 明褐色土(焼土) 粒子は細かい。7.5Y R¹・㊦ 黒色土が混入。</p> <p>3 7.5Y R¹・㊦ 黒色土 粘性あり 粒子細かい。混入物なし。</p> <p>5 10Y R⁵ 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R⁵ 黄褐色土が多量混入。</p> <p>7 10Y R⁵ 暗褐色土 粘性かなりある。粒子細かい 10Y R⁵ 黄褐色土と7.5Y R⁵ 黒色土が少量混入。</p> <p>9 10Y R⁵ 暗褐色土 粘性なし 粒子やや粗い 10Y R⁵ 暗褐色と10Y R⁵ 黄褐色土が多量混入。</p> | <p>2 10Y R⁵ 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R⁵ 黄褐色土が少量混入。</p> <p>4 10Y R⁵ 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい。7.5Y R⁵ 黄褐色土(焼土)が局部的に少量混入。</p> <p>6 7.5Y R⁵ 明褐色土(焼土) 粒子やや細かい。10Y R⁵ 黒褐色土と10Y R⁵ 黒褐色と10Y R⁵ 明黄褐色が少量混入。</p> <p>8 10Y R⁵ 明褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R⁵ 褐色土が少量混入。</p> <p>10 7.5Y R⁵ 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R⁵ 黄褐色土が少量混入。</p> |
|---|--|



第74图 SX(F)01 · SX(F)02实测图



第75図 SX(F)03・SX(F)04・SX(F)05・SK60実測図

第75表 SX(F)03計測・説明表

検出地区	0-A	実測図番号	75	図版番号	34、35	
法量	長さ	73cm	幅	57cm	方向	N-87°-W
	平面形状	方形	深さ	20cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	ぼんやりと焼土の堆積が認められたにすぎない。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|---|--|
| 1 7.5YR% 棕色土(焼土)浮石(φ3.0mm程度)が上部に多量に入っている。 | 2 2.5YR ¹ ・灰 赤黒色土 粘性ない 粒子は細かい。浮石(φ3.0mm程度)と10YR% 黄褐色土が点在。 |
| 3 10YR% 明黄褐色土(焼土)10YR ¹ ・灰 黒色土が若干混入。 | 4 5YR ¹ ・灰 黒色土(焼土)粒子細かい。混入物なし。 |
| 5 10YR% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい。混入物ない。 | 6 10YR% 黒褐色土 粘性なし 粒子やや粗い 10YR% 褐色土が微量混入。 |
| 7 10YR% 褐色土 粘性なし 粒子細かい。10YR% 黒褐色土が微量混入。 | 8 10YR% 褐色土 粘性あり 粒子粗い。10YR% 明黄褐色土と10YR% 褐色土が多量混入。 |

第76表 SX(F)04計測・説明表

検出地区	0-0	実測図番号	75	図版番号	34、36	
法量	長さ	(117cm)	幅	(69cm)	方向	N-3°-W
	平面形状	長円形	深さ	20cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SK60の上にもるように焼土が堆積していた。					
出土遺物	なし					

土層註記

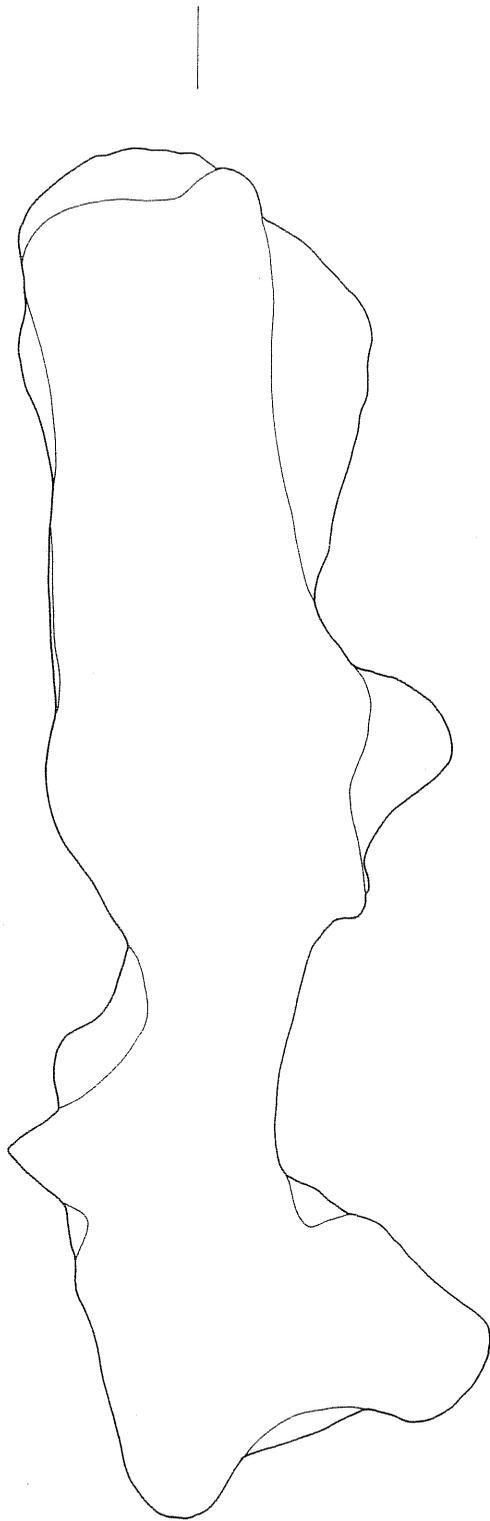
- | | |
|---|---|
| 1 7.5YR% 明褐色土(焼土)浮石 10YR% 黒褐色土が集中的に混入。 | 2 2.5YR% 暗オリーブ褐色土(焼土)炭化物が多量に混入。 |
| 3 7.5YR% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい。7.5YR% 褐色土(焼土)が微量混入。 | 4 10YR% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 2.5YR% 黄褐色土と10YR% 明黄褐色土が少量混入。 |
| 5 10YR% 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 第一層の焼土若干混入。 | 6 5YR ¹ ・灰 黒色土 粘性なし 粒子非常に細かい。混入物ない。 |
| 7 10YR% 黒色土 粘性あり 粒子粗い 第一層の焼土と炭化物が多量に混入。 | 8 10YR% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい。10YR% 黒褐色土が少量混入。 |
| 9 10YR% 黒褐色 粘性あり 粒子が細かい。10YR% 黄橙色土が微量混入。 | |

第77表 SX(F)05計測・説明表

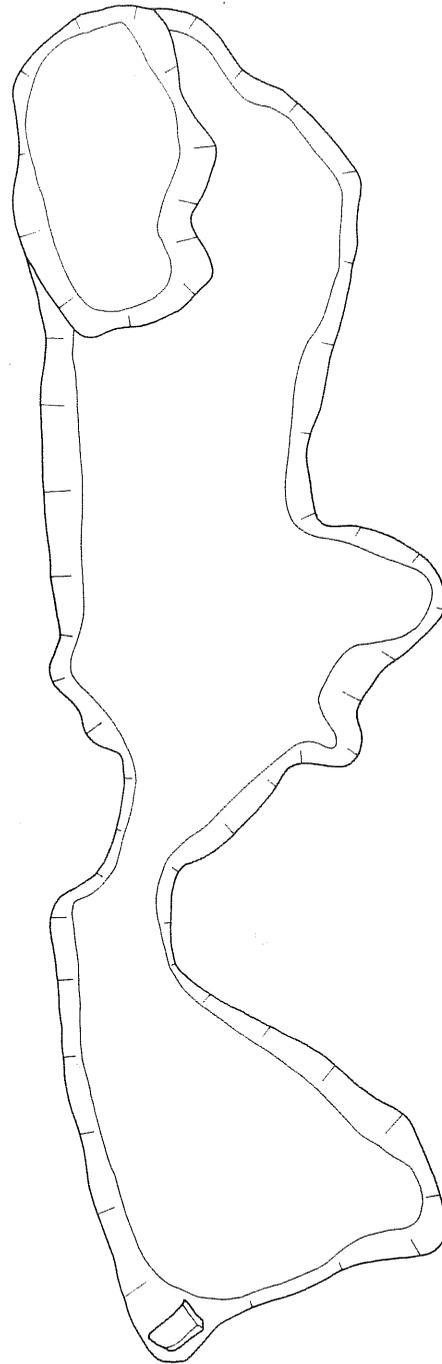
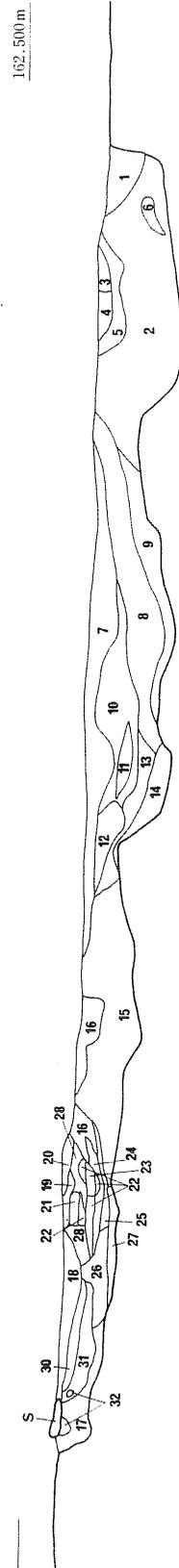
検出地区	3-0	実測図番号	75	図版番号	36	
法量	長さ	(165cm)	幅	(78cm)	方向	N-13°-E
	平面形状	半円形	深さ	22cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SI24の覆土(埋土)の上に厚く堆積しており、SI24より新しい時期のものである。東側は調査対象区域外で検出不可。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|--|--|
| 1 5YR ¹ ・灰 黒色(焼土)炭化物多量 10YR% 黄褐色土が微量混入。 | 2 10YR% 黒褐色 粘性なし 粒子細かい 7.5YR ¹ ・灰 黒色土と5YR% 黄橙色土が微量混入。 |
| 3 10YR% 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 10YR% 明黄褐色土(50.0mm×20.0mm)がブロック状に混入。 | 4 7.5YR% 明褐色土(焼土)5YR% 黒褐色土が多量混入。 |
| 5 7.5YR% 明褐色土(焼土)炭化物が多量 7.5YR ¹ ・灰 黒色土が多量混入。 | 6 10YR% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 10YR% 明黄褐色土が微量混入。 |
| 7 10YR% 黒褐色土 粘性あり 粒子粗い 10YR% 明黄褐色土と7.5YR% 黒色土が少量混入。 | |



第76図 SX(F)06実測図

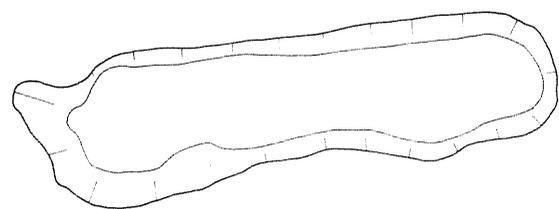


第78表 SX(F)06計測・説明表

検出地区	5-A、B	実測図番号	76	図版番号	37	
法	長さ	435cm	幅	102cm	方向	N-85°-W
	平面形状	不整長楕円形	深さ	24cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)07・SX(F)40・SX(F)44と共にS I 08の東側に続くように位置していることから、S I 08の「かまど」かとも考えられた。					
出土遺物	炭化禾本科植物遺体及び炭化材					

土層註記

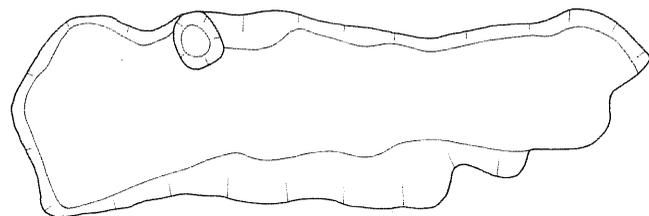
- | | |
|--|--|
| <p>1 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい。</p> <p>3 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い 浮石混入。</p> <p>5 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 粒子粗い。φ10.0mm程度の礫混入。</p> <p>7 5Y R 黒色土(焼土) 粒子細かい。φ4.0mm程度の浮石 10Y R% 明褐色土がわずか 10Y R% にぶい黄褐色土(焼土)が集中的に混入。</p> <p>9 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子粗い。10Y R% 黄褐色土と 7.5Y R¹・% 黒色土が少量混入。炭化物少量混入。</p> <p>11 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい。炭化物が多量混入。</p> <p>13 5Y R¹・% 黒色土 粘性なし 粒子細かい。炭化物が多量混入。</p> <p>15 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい。10Y R% 黄褐色土と 10Y R% 明黄褐色土が少量混入。</p> <p>17 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい。炭化物が多量混入。</p> <p>19 7.5Y R% 褐色土(焼土) 粒子粗い 浮石混入。</p> <p>21 7.5Y R¹・% 黒色土 粘性なし 粒子細かい 炭化物が多量混入。</p> <p>23 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物多量混入。</p> <p>25 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子粗い 10Y R% 褐色土と 10Y R% 黒褐色土混入。</p> <p>27 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 2.5Y R% 明褐色土が微量混入。</p> <p>29 10Y R¹・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物混入。</p> <p>31 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子やや細かい 炭化物混入。</p> | <p>2 10Y R% 褐色土 粘性あり 粒子粗い 黄褐色土 10Y R% (焼土)が微量混入。</p> <p>4 10Y R% にぶい黄褐色土(焼土) 粒子粗い 浮石 10Y R¹・% 黒色土(φ10.0mm) 1ヶ混入。</p> <p>6 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい。</p> <p>8 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子やや粗い。7.5Y R% 明褐色土(焼土)と 7.5Y R% にぶい褐色土(焼土)が少量混入。</p> <p>10 7.5Y R% 黄褐色土(焼土) 粒子粗い。7.5Y R% にぶい褐色土(焼土)が少量混入。</p> <p>12 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い。</p> <p>14 10Y R% 黄褐色土 粘性なし 粒子粗い。10Y R% 明黄褐色土が少量混入。</p> <p>16 10Y R% 黒色土 粘性なし 粒子細かい。10Y R% 黒褐色土が少量 炭化物が混入。</p> <p>18 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい。7.5Y R% 褐色土(焼土)が微量混入。</p> <p>20 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子粗い 10Y R% 黄褐色土が少量 炭化物混入。</p> <p>22 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。</p> <p>24 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い。5Y R% 明赤褐色土(焼土)が若干 7.5Y R¹・% 黒色土が微量混入。</p> <p>26 7.5Y R¹・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物が多量混入。</p> <p>28 5Y R% 黒色土(焼土) 粒子やや粗い 炭化物混入。</p> <p>30 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い 炭化物多量混入。</p> <p>32 7.5Y R% にぶい褐色土(焼土) 粒子やや粗い 混入物なし。</p> |
|--|--|



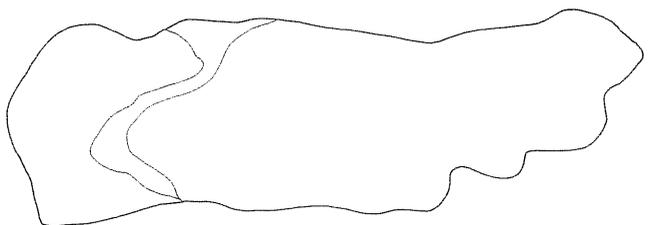
162.550m



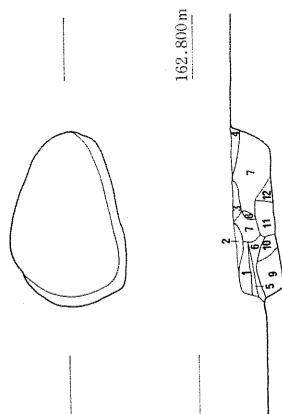
SX(F)43



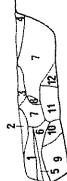
162.300m



SX(F)09



162.800m



SX(F)07



0 1m

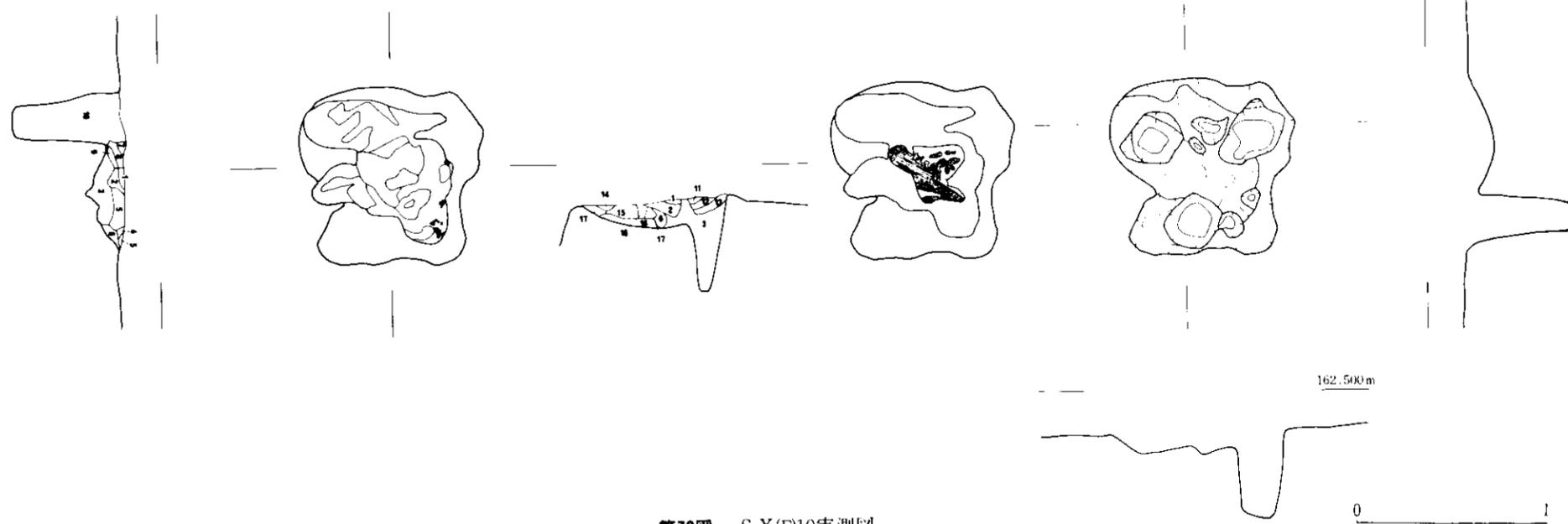
第79表 SX(F)07計測・説明表

検出地区	5-A、B	実測図番号	77	図版番号	37	
法	長さ	69cm	幅	44cm	方向	N-2°-E
	平面形状	たまご形	深さ	19cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)06の北側に位置しており、当初明確なプランをつかめなかった。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | | | |
|----|--|----|--|
| 1 | 5YR% 橙色土(焼土) 粒子やや粗い 7.5YR% 黒色土 5YR% 明褐色土(焼土)が少量混入 炭化物少量混入。 | 2 | 10YR ¹ % 赤黒色土 粘性なし 粒子やや粗い 10YR% 黒色土が少量混入。 |
| 3 | 5YR% 黒褐色土(焼土) 粒子細かい 炭化物混入。 | 4 | 7.5YR% 黒色土 粘性なし 粒子細かい 5YR% 橙色土(焼土)が少量混入。 |
| 5 | 5YR ¹ % 黒色土 粘性あり 粒子非常に細かい。 | 6 | 5YR% 黒褐色土(焼土) 粒子細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が少量混入。 |
| 7 | 7.5YR% 黒褐色土(焼土) 粒子非常に細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が微量混入。 | 8 | 7.5YR% 黒色土 粘性なし 粒子細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が微量混入。 |
| 9 | 10YR% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が微量混入。 | 10 | 10YR% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 2.5YR% 赤褐色土(焼土)が微量混入。 |
| 11 | 10YR% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が微量混入。 | 12 | 10YR% 黄褐色土(焼土) 粒子非常に細かい 10YR% 黄褐色土(焼土)が微量混入。 |

第77図 SX(F)07・SX(F)09・SX(F)43実測図



第78図 SX(F)10実測図

第80表 SX(F)09計測・説明表

検出地区	25-D、E	実測図番号	77	図版番号	38
法長	235cm	幅	75cm	方向	N-71°-W
量平面形状	不整長楕円形	深さ	20cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S I 34の東南隅部に、S I 34の覆土(埋土)と壁面を振り込んでつくられていた。				
出土遺物	なし				

土層註記

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 7.5YR 明褐色土(焼土) 浮石を多量に含む。 | 2 炭化物の層 |
| 3 7.5YR% 黒色土 浮石を多量に含む。 | 4 7.5YR% 黒褐色土 浮石を多量に含む。 |
| 5 7.5YR% 明褐色土(焼土) 10YR% 黒色土を多量に含む。 | 6 7.5YR% 黒褐色土 炭化物・焼土 浮石を含む。 |
| 7 7.5YR% 黒色土 浮石を多量に含む。 | 8 7.5YR% 黒色土 浮石を多量に含む。 |
| 9 7.5YR% 黒色土 粘性なし 焼土を多量に含む。 | 10 7.5YR% 黒色土 浮石を多量に含む。 |

第81表 SX(F)43計測・説明表

検出地区	19-H、20-H	実測図番号	77	図版番号	
法長	204cm	幅	58cm	方向	N-7°-W
量平面形状	突起付長楕円形	深さ	20cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S I 37の東壁外側にS I 37の覆土(埋土)と壁面を掘り込んでつくられていた。				
出土遺物	なし				

土層註記

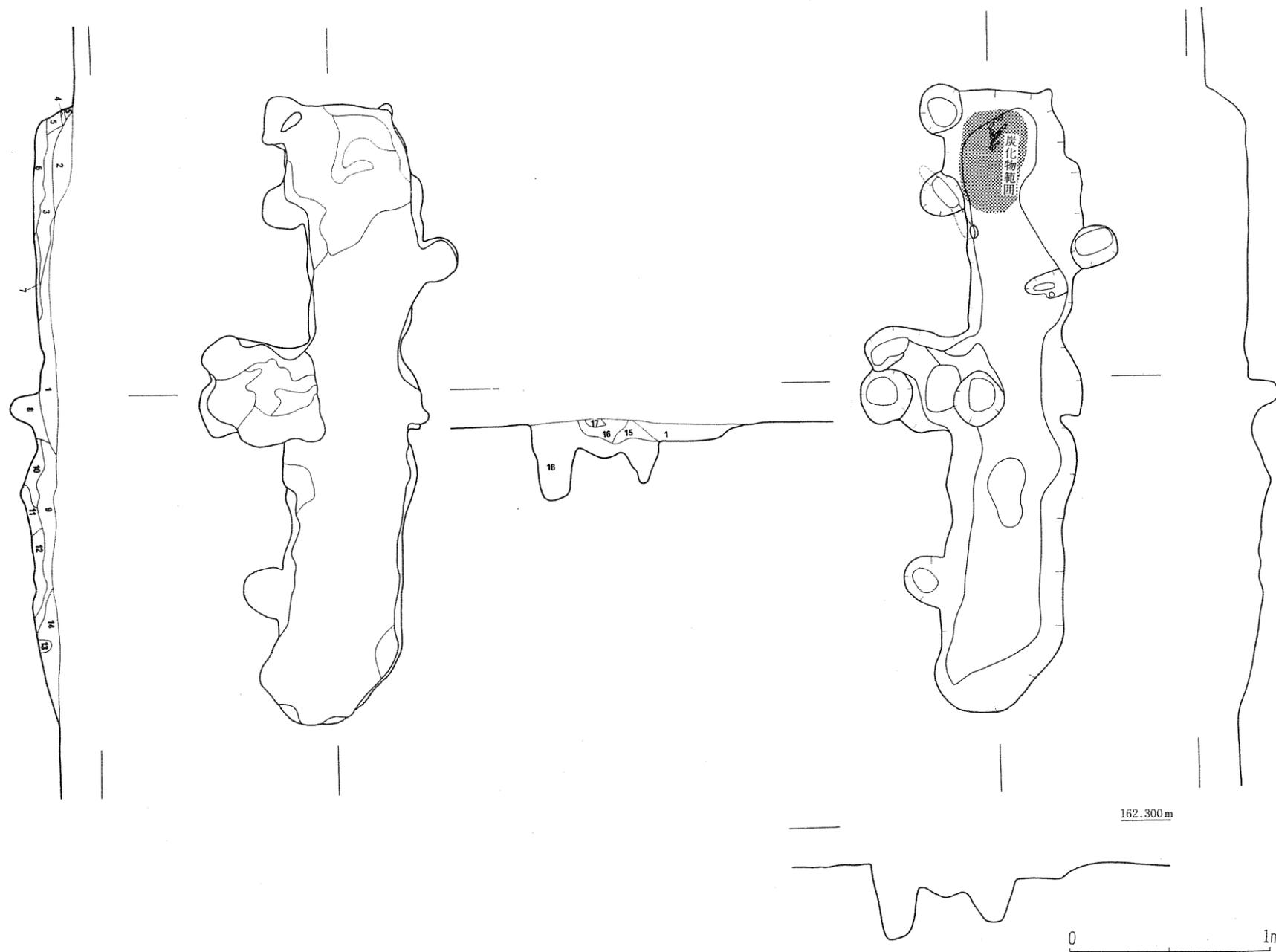
- | | |
|--------------------------------|---|
| 1 10YR% 黒褐色土 白色浮石(φ2-5mm)少量混入。 | 2 7.5YR% 橙色土 砂質粘土の熱変化。 |
| 3 10YR% 黒褐色土 白色浮石(φ1-3mm)少量混入。 | 4 10YR% に近い黄褐色土 粘土ブロック状に混入 5YR% 焼土ブロック状に混入。 |
| 5 炭化物の層。 | |

第82表 SX(F)10計測・説明表

検出地区	24-D	実測図番号	78	図版番号	39
法長	95cm	幅	91cm	方向	N-7°-W
量平面形状	不整隅丸方形	深さ	13cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S I 33の南東隅部に構築されているのが検出された。新旧関係は不明。				
出土遺物	炭化材・砥石(1)				

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 浮石の層 7.5YR% 黒褐色土 多量混入 | 2 7.5YR% 明褐色土(焼土) 褐色土が多量混入。 |
| 3 10YR% 黒褐色土 粘性あり 黒色土がブロック状に多量混入 炭化物底面もあり。 | 4 7.5YR% 明褐色土 粘性あり 焼土多量混入。 |
| 5 浮石の層 7.5YR% 明褐色土(焼土) 多量混入 | 6 10YR% 黒色土 粘性あり 焼土少量混入。 |
| 7 浮石の層 7.5YR% 橙色土(焼土) 多量混入 | 8 7.5YR% 黒褐色土 粘性あり |
| 9 7.5YR% 明褐色土(焼土) 浮石が多量混入 | 10 10YR% 黒褐色土 粘性あり 焼土少量混入 黒色土が中心部に多量混入。 |
| 11 浮石の層 10YR% 黄褐色土(焼土) 多量混入 | 12 炭化物の層 10YR% に近い黒色土が多量混入 |
| 13 10YR% 黄褐色土(焼土) 炭化物微量混入 | 14 10YR% 黒褐色土 粘性なし 浮石少量混入。 |
| 15 浮石の層 7.5YR% 明褐色土(焼土) 多量混入 | 16 10YR% 黒褐色土 粘性なし 浮石少量混入。 |
| 17 10YR% に近い黄褐色土 粘性なし 黒色土少量混入 | 18 10YR% 黒色土 粘性あり 炭化物多量混入。 |



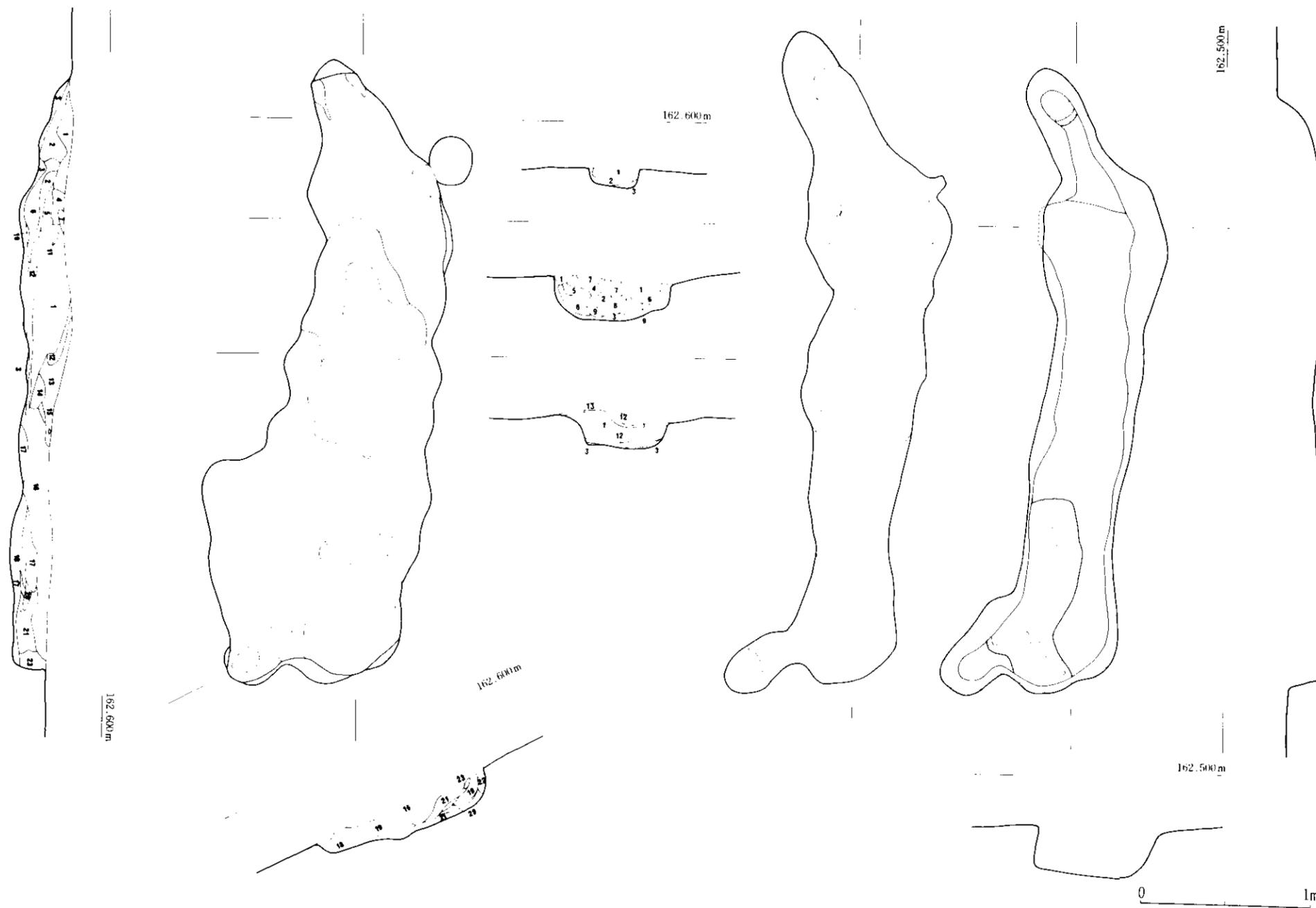
第79図 S X(F)11実測図

第83表 S X(F)11計測・説明表

検出地区	23-D	実測図番号	79	図版番号	40	
法	長さ	31.4cm	幅	62cm	方向	N-70°-E
	平面形状	突起付隅丸長方形	深さ	16cm	横断面形状	逆凹形
プラン確認時の状況	大湯浮石層を掘り込んでつくられていたのが確認された。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 10Y R% 黒色土 粘性なし 浮石少量混入 | 2 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮石多量 黄褐色土及び焼土少量混入。 |
| 3 浮石の層 焼土多量 暗褐色土少量 炭化物微量混入。 | 4 10Y R% 黒色土 粘性なし 焼土多量 浮石少量 炭化物微量混入。 |
| 5 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 炭化物少量混入。 | 6 7.5Y R% 灰オリーブ色土~10Y R% におい黄褐色土しまりあり 粘性なし 浮石及び砂粒多量 炭化物が底面に少量混入 |
| 7 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 混入物なし | 8 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮石微量混入 |
| 9 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 浮石少量混入。 | 10 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 黄褐色土多量 浮石少量 炭化物少量混入。 |
| 11 7.5Y % オリーブ黒色土~10Y R% におい黄褐色土しまりあり 粘性なし 焼土及び炭化物多量混入 | 12 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 浮石多量 炭化物上部面に少量混入。 |
| 13 粗砂~細砂の層 黄褐色土が少量混入。 | 14 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮石及び黄褐色土少量混入。 |
| 15 浮石の層 焼土多量 炭化物少量混入。 | 16 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 黒褐色土少量 焼土多量 浮石少量混入。 |
| 17 10Y R% におい黄褐色土(焼土) | 18 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 焼土及び黄褐色土が少量 浮石少量混入。 |



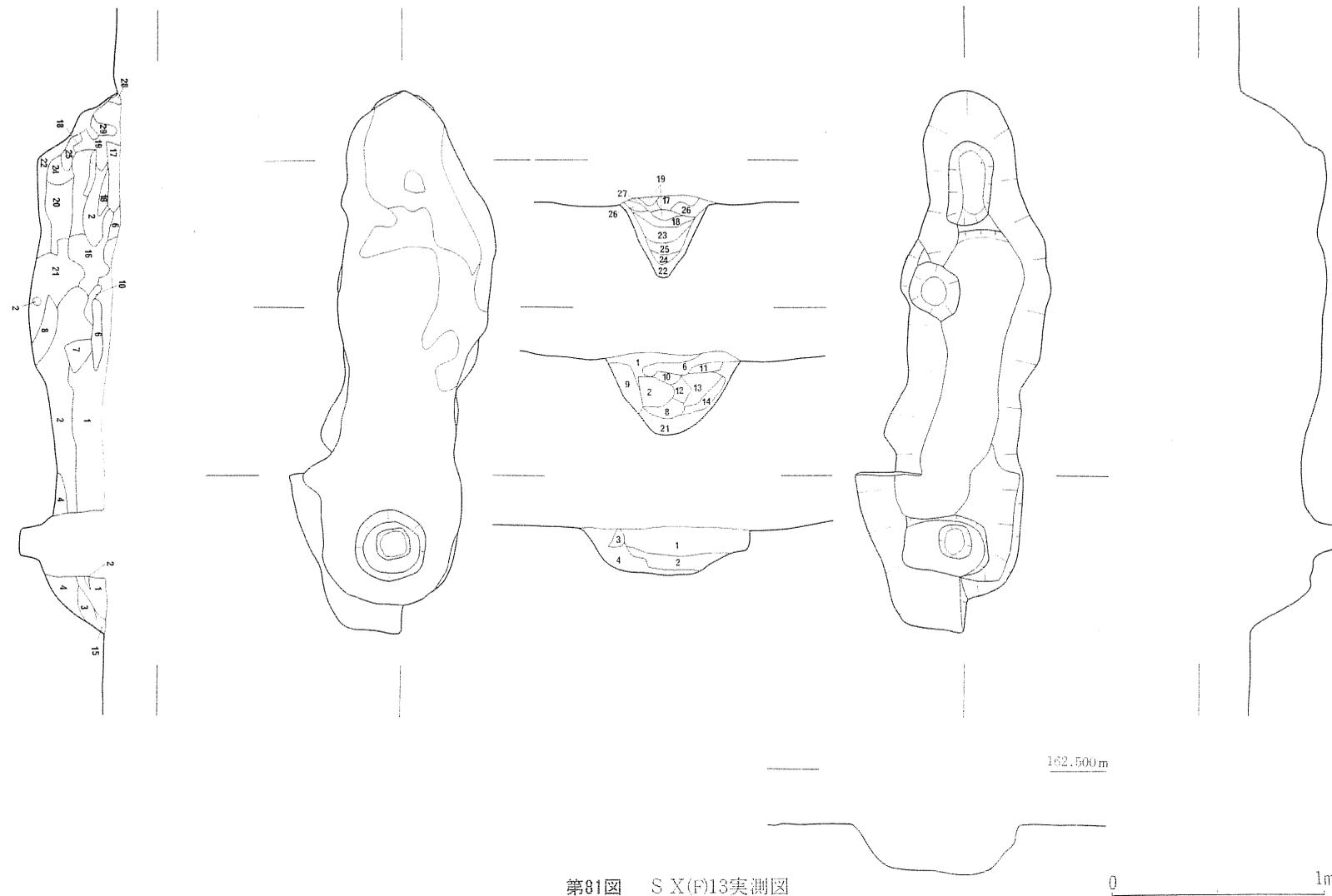
第80図 SX(F)12実測図

第84表 SX(F)12計測・説明表

検出地区	18-E	実測図番号	80	図版番号	40
長さ	360cm	幅	74cm	方向	N-75°-E
平面形状	突起付三日月形	深さ	24cm	横断面形状	不整逆台形
プラン確認時の状況	大湯浮石層の上面で確認された。				
出土遺物	炭化物				

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 10YR% 黒色土 粘性あり 浮石若土混入。 | 2 7.5YR% 褐色土(焼土) 焼けた浮石混入。 |
| 3 7.5YR ¹⁻² % 黒色土 粘性あり 炭混入。 | 4 10YR% 濃い黄褐色土 粘性あり 粘土。 |
| 5 10YR ¹⁻² % 黒色土 粘性あり 浮石混入。 | 6 5YR% 明赤褐色土(焼土) 粘土が熱変化。 |
| 7 10YR% 黒褐色土 粘性あり 浮石を含む。 | 8 10YR% 褐色土(焼土) 浮石 炭化物混入。 |
| 9 10YR% 褐色土 粘性あり 浮石混入 粘土が熱変化。 | 10 10YR ¹⁻² % 黒色土 炭化物の層 |
| 11 2.5YR% 淡黄色土(焼土) 粘土が熱変化したもの。 | 12 7.5YR% 明褐色土(焼土) 浮石混入。 |
| 13 10YR% 黒褐色土 粘性あり 焼土 浮石混入。 | 14 10YR% 暗褐色土 粘性あり 浮石混入。 |
| 15 10YR% 褐色土(焼土) 浮石混入 | 16 10YR ¹⁻² % 黒色土 粘性あり 浮石混入。 |
| 17 10YR% 褐色土 粘性なし 浮石混入 | 18 10YR ¹⁻² % 黒色土 粘性あり やわらかくさらさらしている |
| 19 7.5YR% 褐色土(焼土) 浮石混入。 | 20 10YR% 褐色土(焼土) 熱変化したもの |
| 21 10YR ¹⁻² % 黒色土 層全体に多量の炭化物混入。 | 22 10YR% 黒色土 粘性なし さらさらしている |
| 23 7.5YR% 明褐色土(焼土) 粘土が熱変化 | |



第81図 S X(F)13実測図

第85表 S X(F)13計測・説明表

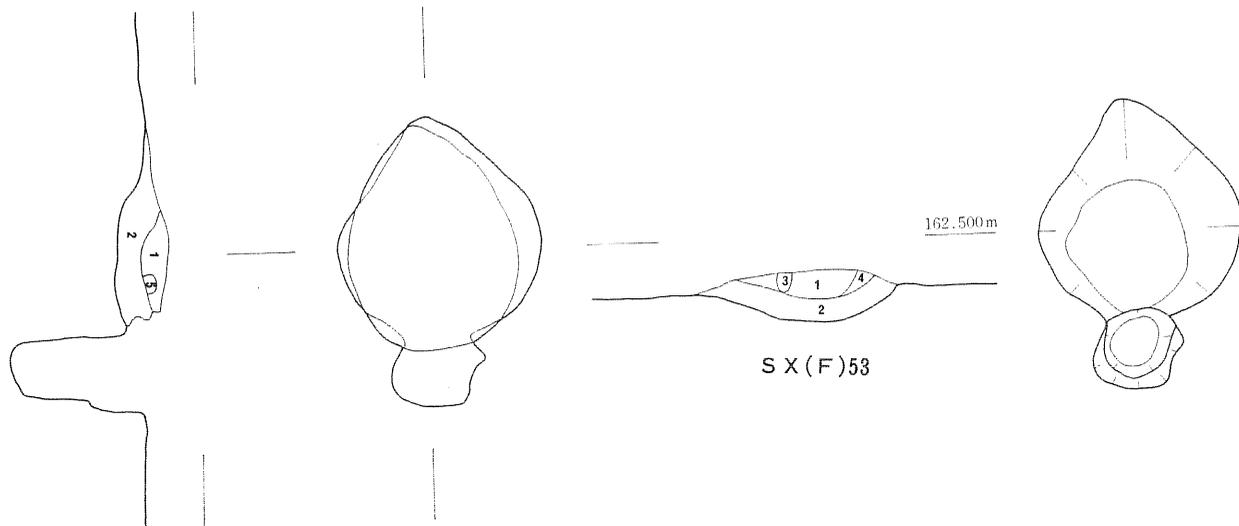
検出地区	18-F	実測図番号	81	図版番号		
法量	長さ	256cm	幅	63cm	方向	N-67°-E
	平面形状	不整長楕円形	深さ	37cm	横断面形状	U字形
プラン確認時の状況	大湯浮石層上面で黒色土・焼土のプランが検出された。					
出土遺物	炭化物					

土層註記

- | | |
|--|--|
| 1 10Y R _{2/2} 黒色土 粘性あり 浮石若干混入。 | 2 5 Y R _{8/6} 明褐色土(焼土) 大湯浮石層が熱変化したもの。 |
| 3 10Y R _{2/2} にぶい黄褐色土 粘性あり 大湯浮石層。 | 4 10Y R _{1/1} 黒色土 粘性あり。 |
| 5 10Y R _{2/2} 黒色土 粘性あり 第1層との違いは浮石が見 | 6 10Y R _{2/2} にぶい黄褐色土 粘性あり 粘土層である。 |

られない。

- | | |
|--|---|
| 7 7.5Y R _{8/6} 明褐色土(焼土) 浮石が熱変化したもの。 | 8 10Y R _{1/1} 黒色土 粘性あり 炭化物が若干混入。 |
| 9 10Y R _{2/2} 黒色土 粘性なし 粘土質が塊状に散乱している。 | 10 10Y R _{2/2} 黒褐色土 粘性なし |
| 11 5 Y R _{8/6} 明赤褐色土(焼土) 粘土が熱変化したもの。 | 12 10Y R _{2/2} 褐色土 粘性あり 炭化物が混入。 |
| 13 7.5Y R _{8/6} 明褐色土(焼土) | 14 7.5Y R _{8/6} 明褐色土(焼土) 粘土が熱変化したもの。 |
| 15 5 Y R _{8/6} 黒色土 粘性あり 炭化物混入。 | 16 10Y R _{2/2} 暗褐色土 粘性あり 焼土混入。 |
| 17 5 Y R _{8/6} 明赤褐色土 埴質焼土 | 18 10Y R _{2/2} にぶい黄褐色土 埴質焼土 |
| 19 5 Y R _{8/6} 橙色土 埴質焼土 | 20 7.5Y R _{8/6} 橙色土(焼土) やわらかい。 |
| 21 7.5Y R _{1/1} 黒色土 粘性あり やわらかい。 | 22 7.5Y R _{1/1} 黒色土 粘性あり 炭化物混入。 |
| 23 10Y R _{2/2} 黄褐色土 粘性なし ざらざらしている。 | 24 10Y R _{2/2} 明黄褐色土(焼土) 大湯浮石混入。 |
| 25 10Y R _{2/2} 褐色土 粘性なし ざらざらしている。 | 26 7.5Y R _{8/6} 明褐色土(焼土) 粒子が粗い。 |
| 27 5 Y R _{8/6} 黒褐色土 粘性なし やや粗い。 | 28 7.5Y R _{8/6} 黄褐色土(焼土) 粒子細かい。 |
| 29 10Y R _{2/2} 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 焼土混入。 | |



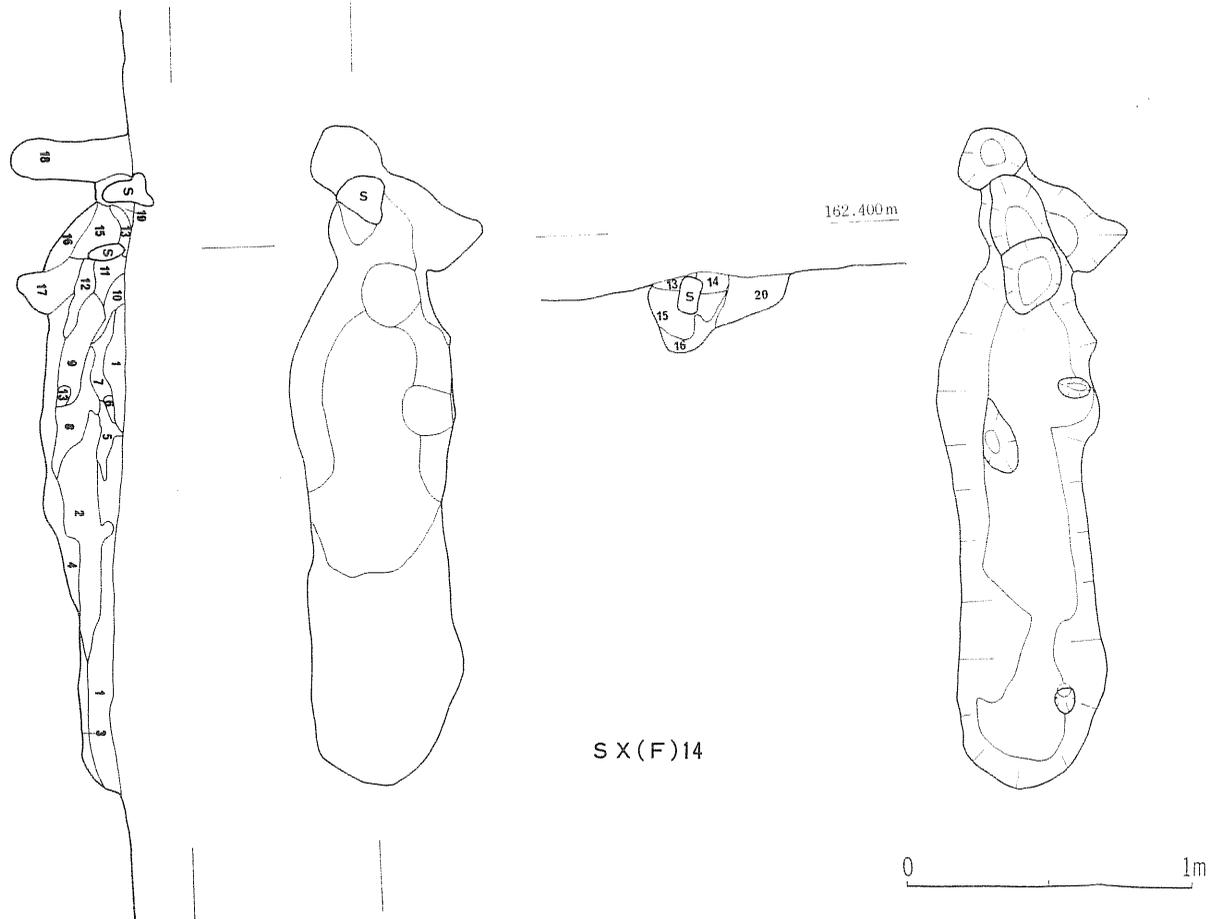
SX(F)53

第86表 SX(F)53計測・説明表

検出地区	16-B	実測図番号	82	図版番号		
法長量	長さ	80cm	幅	71cm	方向	N-7°-W
	平面形状	不整卵形	深さ	18cm	横断面形状	鍋底形
プラン確認時の状況	SX(F)48の南西側に確認された。					
出土遺物	なし					

土 層 註 記

- | | |
|---|--|
| 1 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土(焼土) 表面に若干浮石あり。 | 2 10Y R ^{5/6} 黒褐色土 粘性あり 焼土まじりの褐色土がブロック状に少量混入。 |
| 3 10Y R ^{5/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 4 7.5Y R ^{5/6} 褐色土(焼土) |
| 5 7.5Y R ^{5/6} 黒褐色土(焼土) | |



SX(F)14

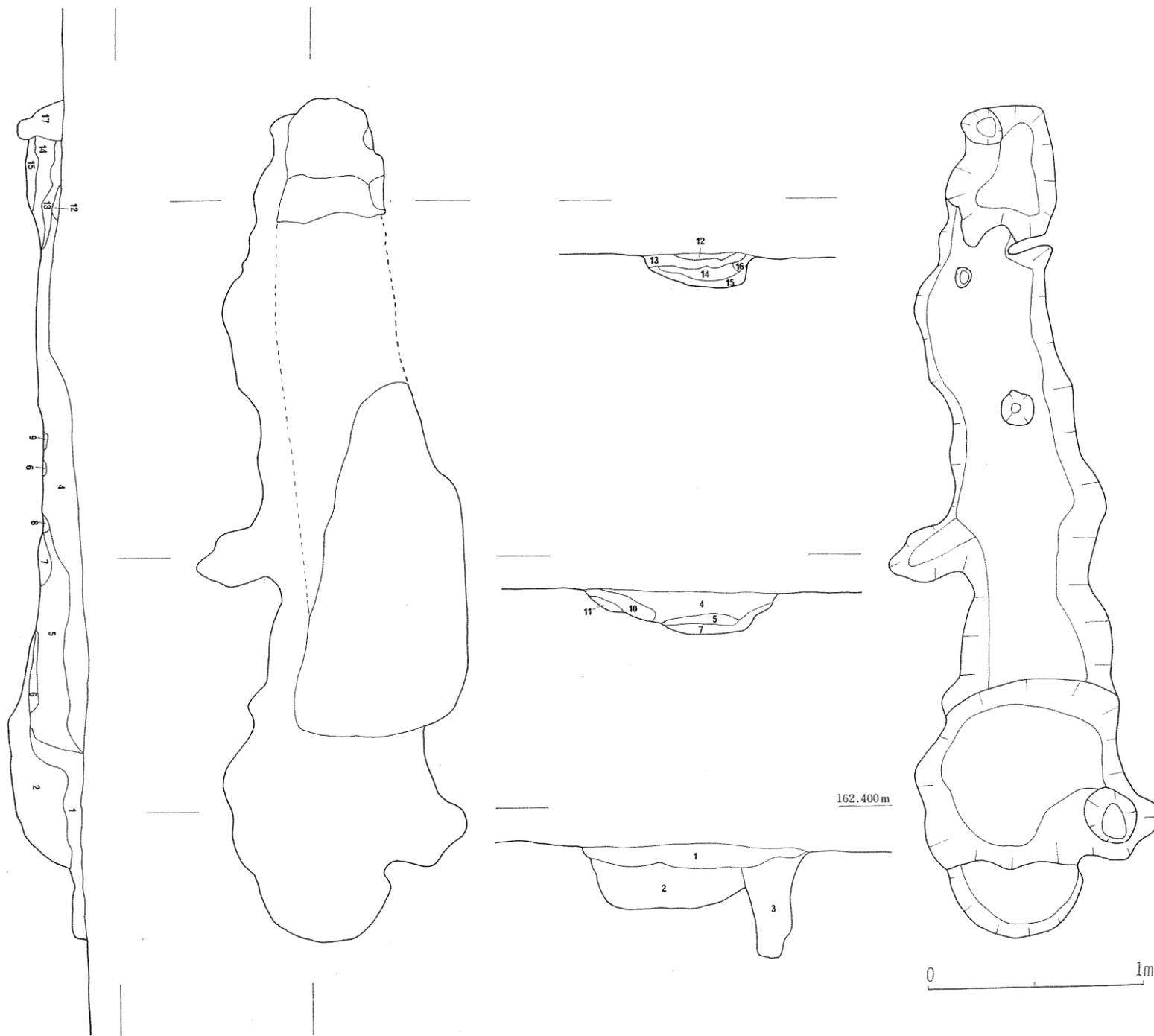
第87表 SX(F)14計測・説明表

検出地区	16-F	実測図番号	82	図版番号	41	
法長量	長さ	210cm	幅	47cm	方向	N-84°-E
	平面形状	突起付先丸棒形	深さ	26cm	横断面形状	下整逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)15を一部掘り込んでつくられていた。					
出土遺物	炭化物					

土 層 註 記

- | | |
|--|--|
| 1 7.5Y R ^{1.5/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 2 浮石の層 焼土多量混入。 |
| 3 7.5Y R ^{5/6} 褐色土(焼土) 黒色土少量混入。 | 4 10Y R ^{5/6} 黒色土 粘性なし 焼土及び黄褐色土少量混入。 |
| 5 7.5Y R ^{5/6} 褐色土 粘性なし 黒褐色土が層状に多量 黒色土が層状に少量混入。 | 6 10Y R ^{5/6} 黄褐色土 粘性なし。 |
| 7 N ^{1.5} 黒色土 粘性なし 炭化物少量混入。 | 8 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土~ 10Y R ^{5/6} にぶい黄褐色土(焼土) |
| 9 10B G ^{1.5} 青黒色土 粘性なし 黒色土少量混入。 | 10 浮石の層 焼土多量混入。 |
| 11 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土(焼土) 黒色土少量混入。 | 12 7.5Y R ^{5/6} 黒色土 粘性あり 焼土及び炭化物少量混入。 |
| 13 浮石の層 焼土多量 黒褐色土少量混入。 | 14 浮石の層 暗褐色土多量混入。 |
| 15 7.5Y R ^{5/6} 明褐色土(焼土) 底面に浮石多量 黒褐色土少量混入。 | 16 10Y R ^{5/6} 黒色土 粘性あり |
| 17 7.5Y R ^{5/6} 黒褐色土 粘性あり 暗褐色土及び黒色土少量混入。 | 18 7.5Y R ^{1.5/6} 黒色土粘性なし 浮石多量 柱穴中より下黄褐色土混入。 |
| 19 10Y R ^{5/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量 焼土及び黒褐色土多量混入。 | 20 10Y R ^{5/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量 焼土及び黄褐色土多量混入。 |

第82図 SX(F)53・SX(F)14実測図



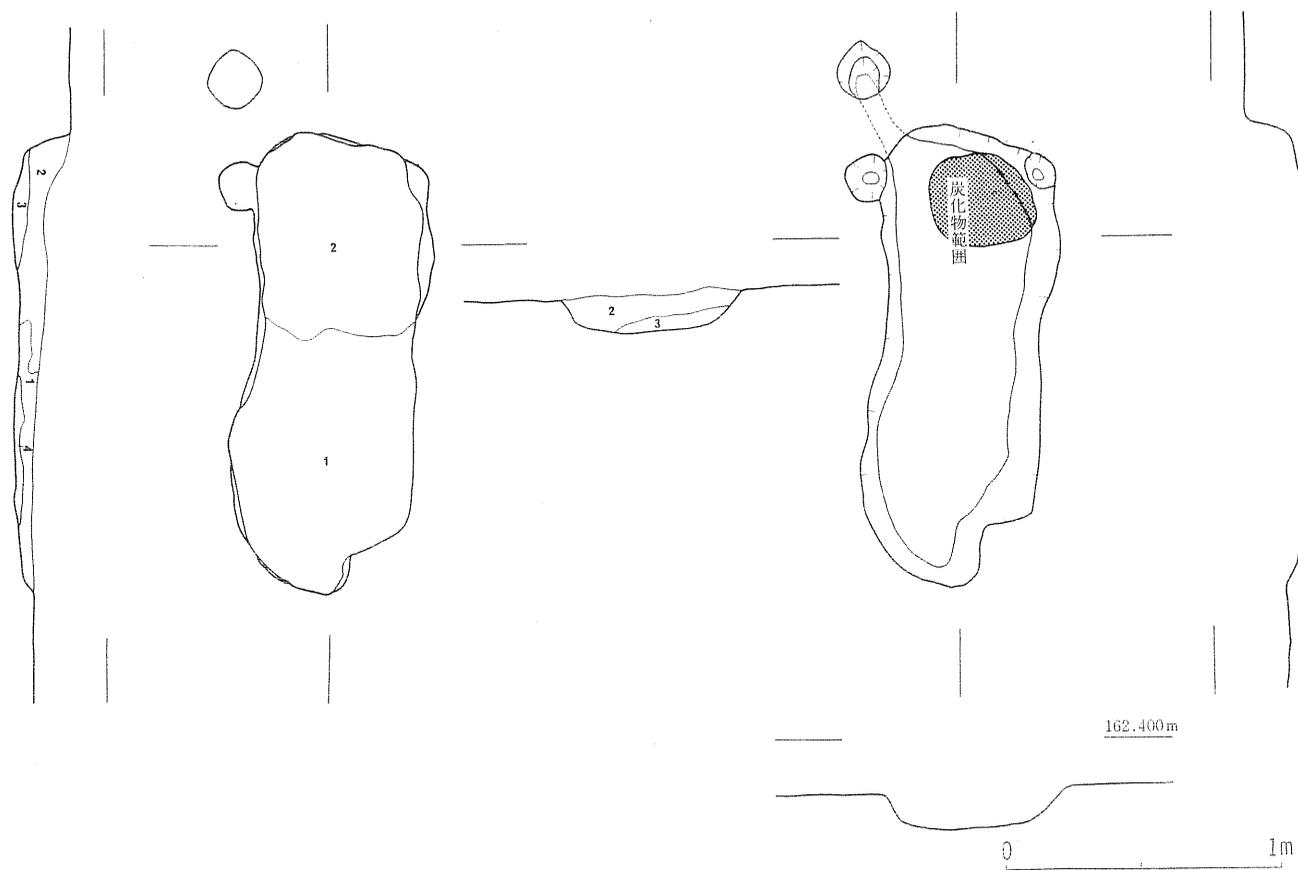
第88表 SX(F)15計測・説明表

検出地区	16-F、17-F	実測図番号	83	図版番号	41
法長	450cm	幅	70cm	方向	N-11°-W
量平面形状	突起付両先丸棒形	深さ	20cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	当初SX(F)14とは重複しないと思われたが、黒色系土の範囲が明確化するにつれ、北側に延び、SX(F)14に掘り込まれているのが確認された。				
出土遺物	なし				

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 10Y R% 黒色土 粘性なし 浮石少量 炭化物微量 褐色土少量 細根多数混入。 | 2 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮少量 炭化物微量 褐色土少量混入 |
| 3 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 黄褐色土少量混入。 | 4 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 明黄褐色土 黄褐色土 焼土少量混入 |
| 5 浮石の層 7.5Y R% 明褐色土(焼土)多量 炭化物少量混入。 | 6 5 B G ¹ ・% 青黒色土 粘性なし 黒褐色土少量混入。 |
| 7 7.5Y R% 黒色土 粘性あり N ¹ ・% 黒色土が少量混入。 | 8 7.5Y R% 黒褐色土 粘性あり 焼土 浮石多量混入。 |
| 9 7.5Y R% 褐色土(焼土) | 10 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 焼土多量 浮石多量混入。 |
| 11 7.5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 焼土少量混入。 | 12 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 浮石多量混入。 |
| 13 7.5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 14 浮石の層 7.5Y R% 明褐色土~ 10Y R% に多い黄褐色土(焼土)多量 炭化物少量混入。 |
| 15 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 炭化物多量混入。 | 16 7.5Y R% 明褐色土(焼土)炭化物少量混入。 |
| 17 7.5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 浮石少量混入。 | |

第83図 SX(F)15実測図



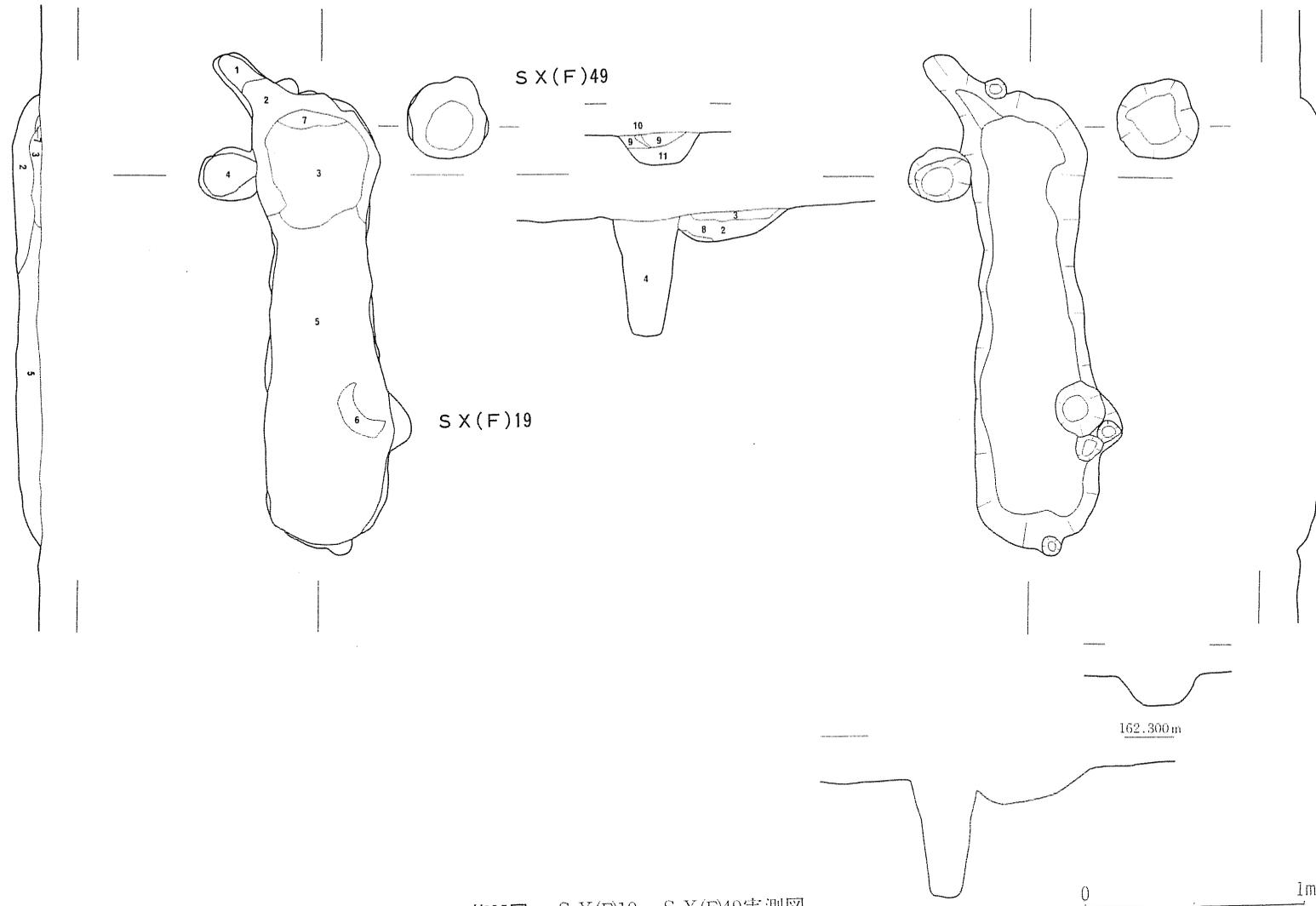
第84図 SX(F)16実測図

第89表 SX(F)16計測・説明表

検出地区	17-F	実測図番号	84	図版番号	41	
法量	長さ	168cm	幅	61cm	方向	N-80°-E
	平面形状	長楕円形	深さ	14cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S X(F)14と平行するように、大湯浮石層の上面でプラン確認された。					
出土遺物	炭化材					

土層註記

- 1 7.5YR₇ 黒色土(焼土) 浮石少量混入。炭化物少量混入。 2 浮石の層 7.5YR₆ 明褐色土(焼土) 少量混入。黒褐色土少量混入。
- 3 5B₁-₇ 青黒色土 粘性あり 炭化物多量 焼土少量混入。 4 7.5YR₆ 黒褐色土(焼土)



第85図 SX(F)19・SX(F)49実測図

第90表 SX(F)19計測・説明表

検出地区	20-D、E、21-D、E	実測図番号	85	図版番号		
法	長さ	212cm	幅	67cm	方向	N-7°-W
量	平面形状	突起付両先丸棒形	深さ	13cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	大湯浮石層の上面で焼土と黒色土のプランが検出された。					
出土遺物	なし					

土層註記

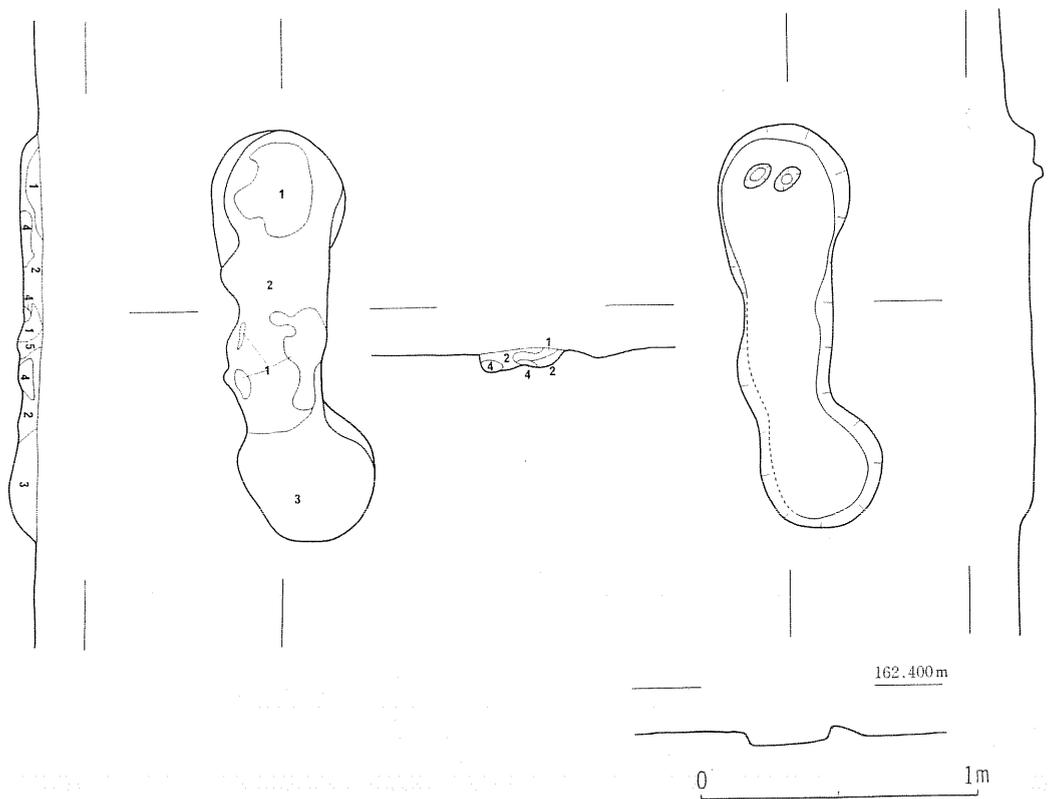
- | | |
|--|--|
| 1 7.5Y R _{2/2} 黒色土 粘性なし | 2 浮石の層 7.5Y R _{2/2} 明褐色土(焼土)少量 黒褐色土少量混入。 |
| 3 7.5Y R _{2/2} 黒色土 粘性なし 浮石多量 焼土少量混入。 | 4 10Y R _{2/2} 黒褐色土 粘性なし 浮石少量 黄褐色土少量 細根多数混入。 |
| 5 7.5Y R _{2/2} 黒色土 粘性なし 浮石多量 炭化物少量混入。 | 6 7.5Y R _{2/2} 黒色土 粘性なし 浮石若干混入。 |
| 7 10Y R _{2/2} 明褐色土(焼土) | 8 2.5Y _{2/2} 暗灰黄色土 粘性なし。 |

第91表 SX(F)49計測・説明表

検出地区	21-E	実測図番号	85	図版番号		
法	長さ	36cm	幅	37cm	方向	N-7°-W
量	平面形状	円形	深さ	15cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	大湯浮石層の上面でプランが検出された。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|--|--|
| 1 10Y R _{2/2} 暗褐色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 2 5Y R _{2/2} 暗褐色土(焼土) 暗褐色土多量混入。 |
| 3 10Y R _{2/2} 黒褐色土 粘性なし 浮石若干混入。 | |



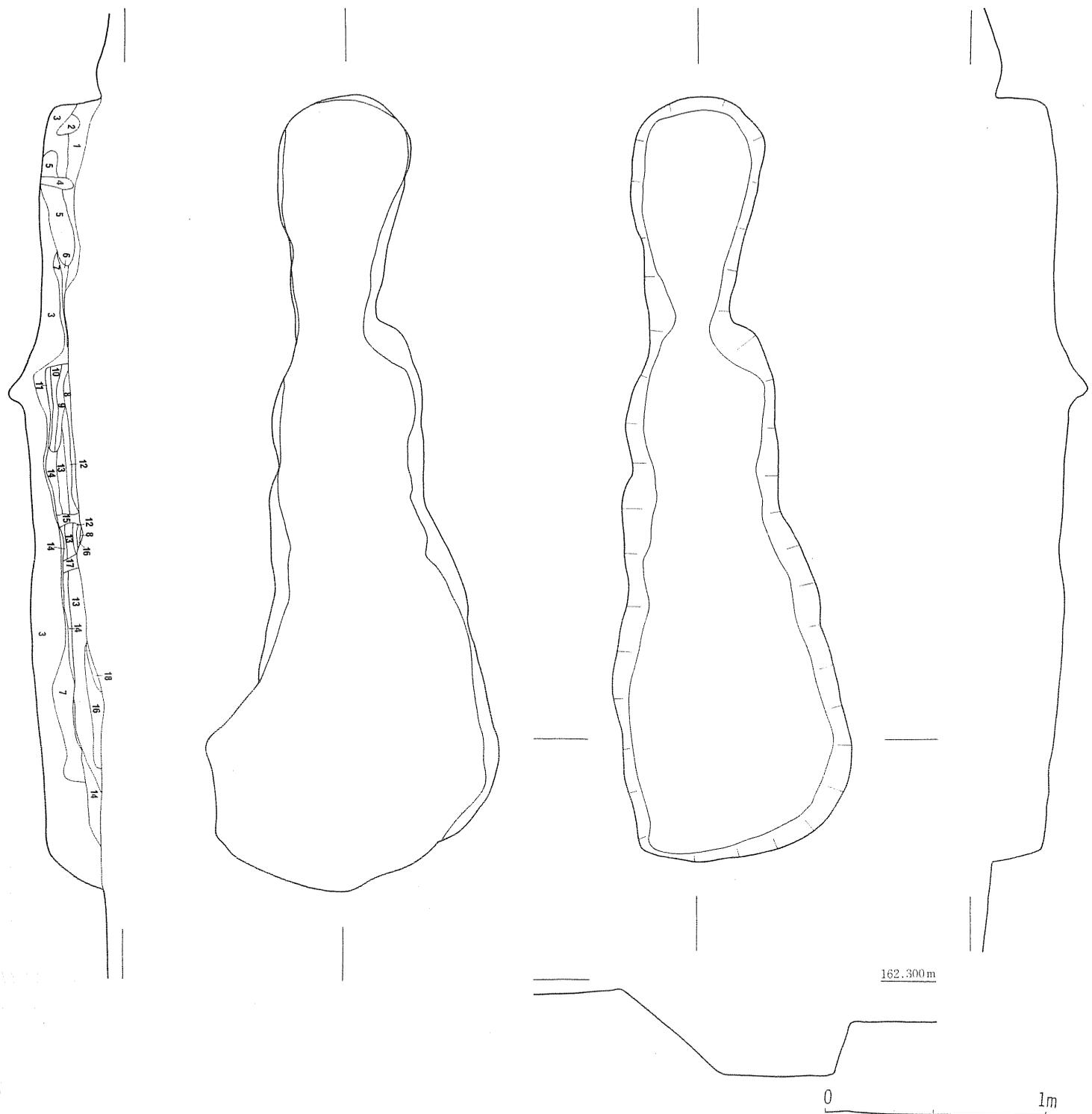
第86図 SX(F)24実測図

第92表 SX(F)24計測・説明表

検出地区	19-F	実測図番号	86	図版番号		
法量	長さ	149cm	幅	48cm	方向	N-83°-E
	平面形状	長楕円形	深さ	7cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)46の西側に連続するように大湯浮石層の上面で検出された。					
出土遺物	なし					

土 層 註 記

- | | |
|---|---|
| <p>1 7.5Y R% 明褐色土（焼土）</p> <p>3 10Y R% 黒色土 粘性あり 浮石 微量の炭化物混入。</p> <p>5 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 明褐色土多量混入。</p> | <p>2 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 浮石 炭化物 黄褐色土粒子を含む。</p> <p>4 7.5Y R% 橙色土（焼土）多量の浮石を含む。</p> |
|---|---|



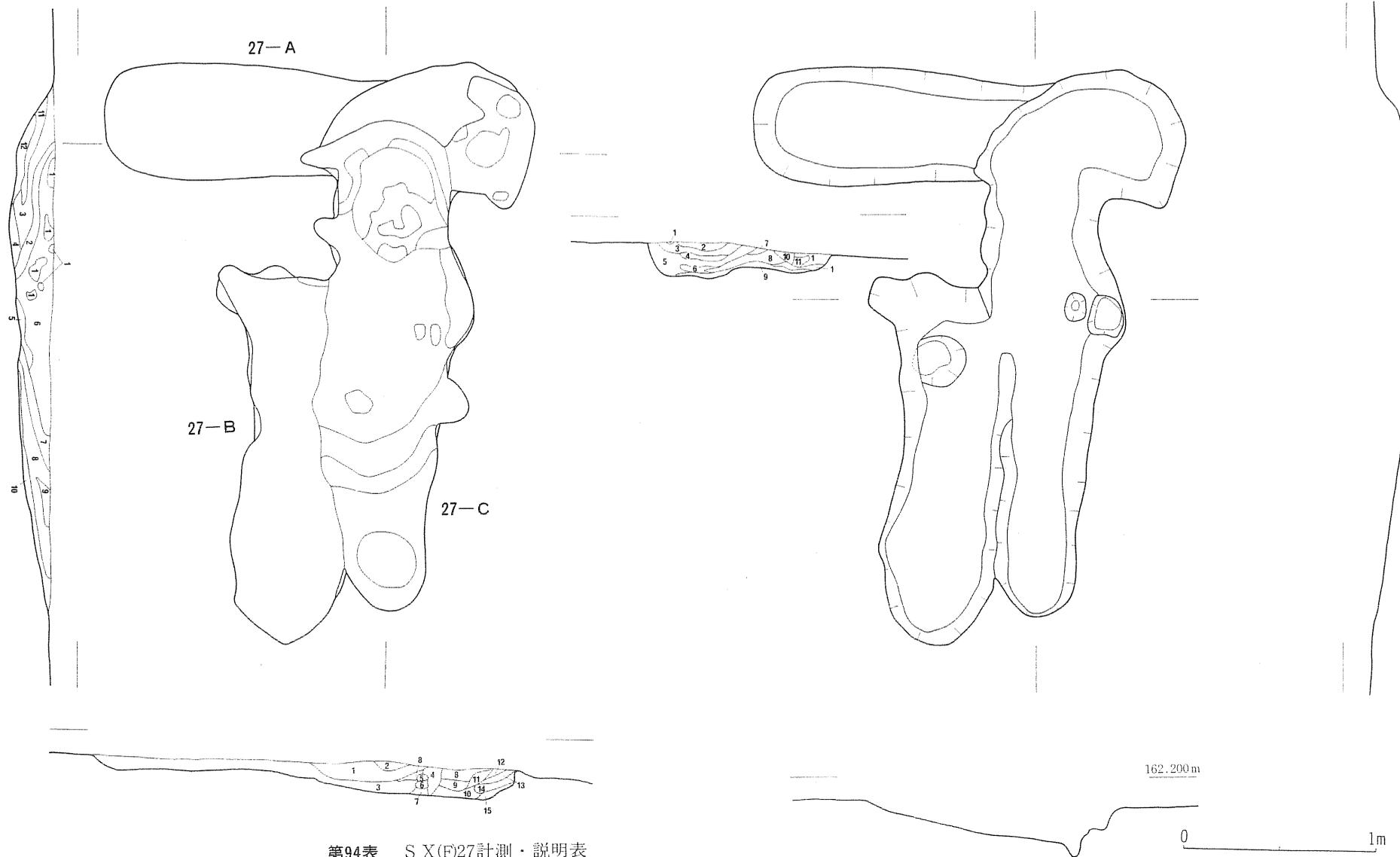
第87図 SX(F)25実測図

第93表 SX(F)25計測・説明表

検出地区	17-E、18-E	実測図番号	87	図版番号	41、42	
法量	長さ	347cm	幅	104cm	方向	N-27°-W
	平面形状	不整両先丸棒形	深さ	33cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	大湯浮石層上面で確認された。					
出土遺物	炭化材(覆土中)					

土層註記

- | | | | |
|----|---|----|---|
| 1 | 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 粒子細かい。 | 2 | 7.5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。 |
| 3 | 5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい。 | 4 | 7.5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い 7.5Y R% 黒色土若干混入。 |
| 5 | 7.5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い 2.5Y R% 橙色土 5Y R% 橙色土 炭化物混入。 | 6 | 5Y R% 明赤褐色土(焼土) 粒子粗い 2.5Y R% 橙色土 炭化物混入。 |
| 7 | 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい | 8 | 7.5Y R% 黒色土 しまりあり 粘性なし 粒子粗い 5Y R% 橙色土(焼土) 10Y R% 明黄褐色土(焼土) 炭化物混入。 |
| 9 | 7.5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。 | 10 | 7.5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。 |
| 11 | 7.5Y R% にぶい橙色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。 | 12 | 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い。 |
| 13 | 5Y R% 橙色土(焼土) 粒子粗い | 14 | 7.5Y R% 黄褐色土(焼土) 粒子粗い。 |
| 15 | 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 粒子粗い 炭化物混入。 | 16 | 10Y R% 明黄褐色土(焼土) 粒子粗い。 |
| 17 | 10Y R% 黒色土 粘性なし 粒子やや細かい 炭化物混入。 | 18 | 5Y R% 明赤褐色(焼土) 粒子粗い。 |



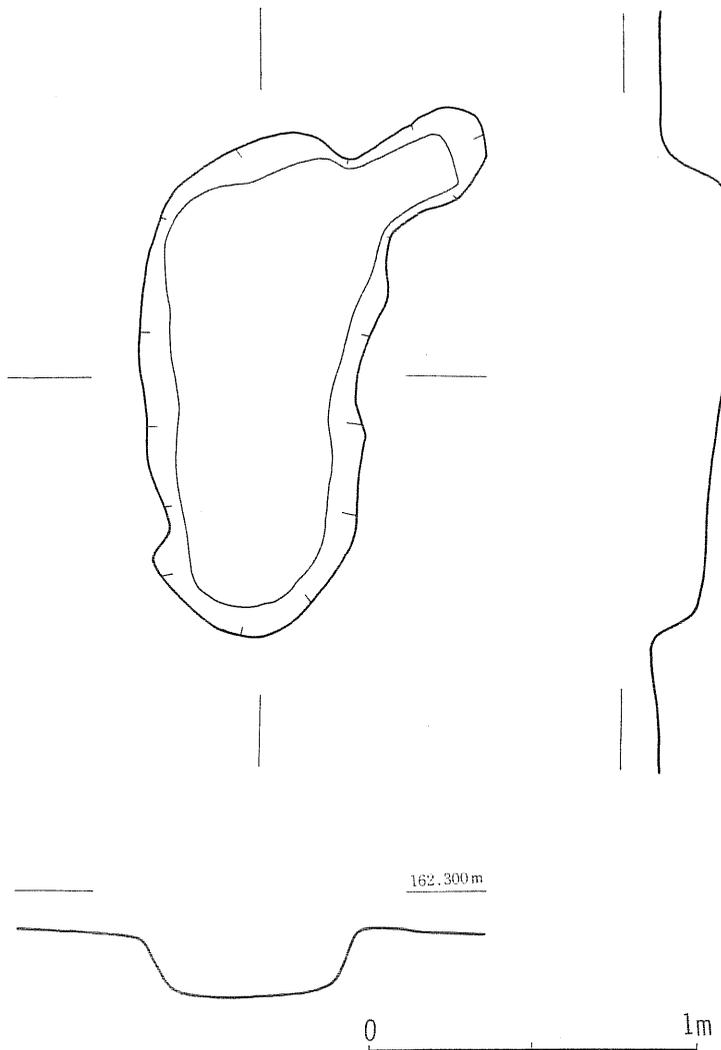
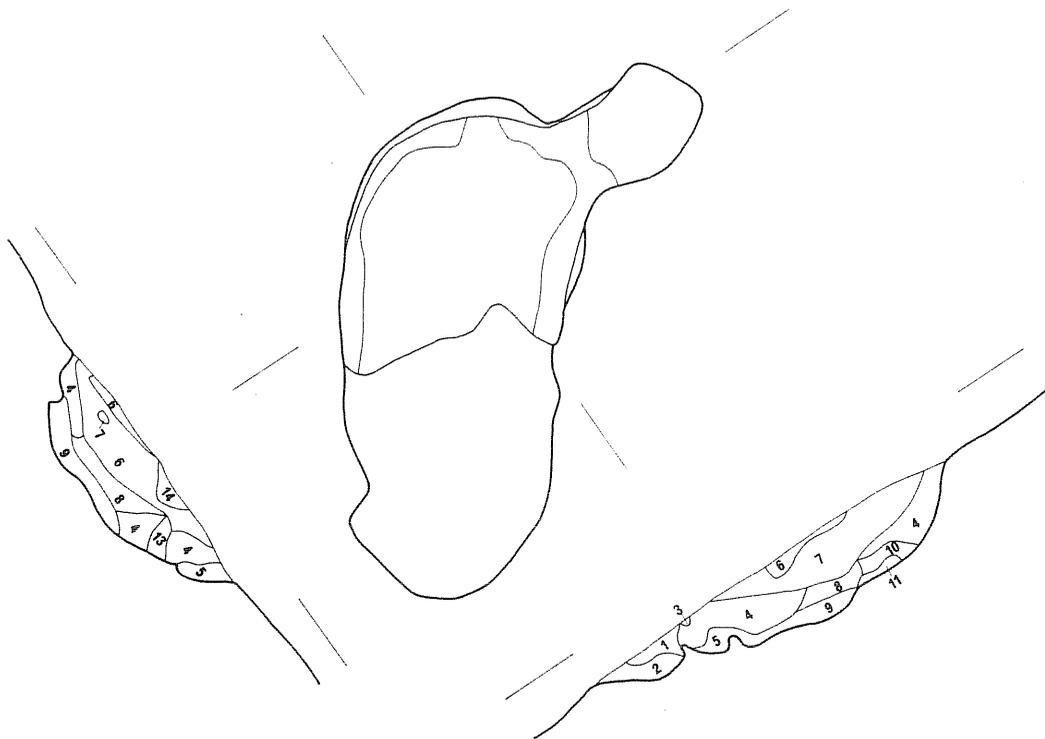
第94表 S X(F)27計測・説明表

検出地区	25-D	実測図番号	88	図版番号	43	
法	長さ	280cm	幅	130cm	方向	N-83°-E
	平面形状	両先丸棒形	深さ	18cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S X(F)27は3つの焼土遺構が存在することに気付くのが遅れ、一つとして精査してしまった。S X(F)27-A、27-B、27-Cとした。27-Aは27-CとS X(F)09に破壊されている。					
出土遺物	炭化材					

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 10Y R% 黄棕色土(焼土)粘土が熱変化したもの。 | 2 10Y R% 暗褐色土 浮石多量混入。 |
| 3 7.5Y R% 明褐色土(焼土)炭化物少量混入。 | 4 7.5Y R ¹⁻² % 黒色土 粘性あり 炭化物少量混入。 |
| 5 浮石と炭化物の層 黒色土多量混入。 | 6 浮石の層 黒色土多量 炭化物少量混入。 |
| 7 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 浮石少量 炭化物少量混入。 | 8 7.5Y R% 黒色土(焼土)炭化物少量 黒色土多量混入。 |
| 9 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 浮石多量 炭化物少量混入。 | 10 10Y R% 黒色土 粘性あり 浮石多量 炭化物少量混入。 |
| 11 10Y R ¹⁻² % 黒色土 粘性あり 浮石 炭化物多量混入。 | 12 10Y R ¹⁻² % 黒色土 炭化物の層。 |

第88図 S X(F)27実測図



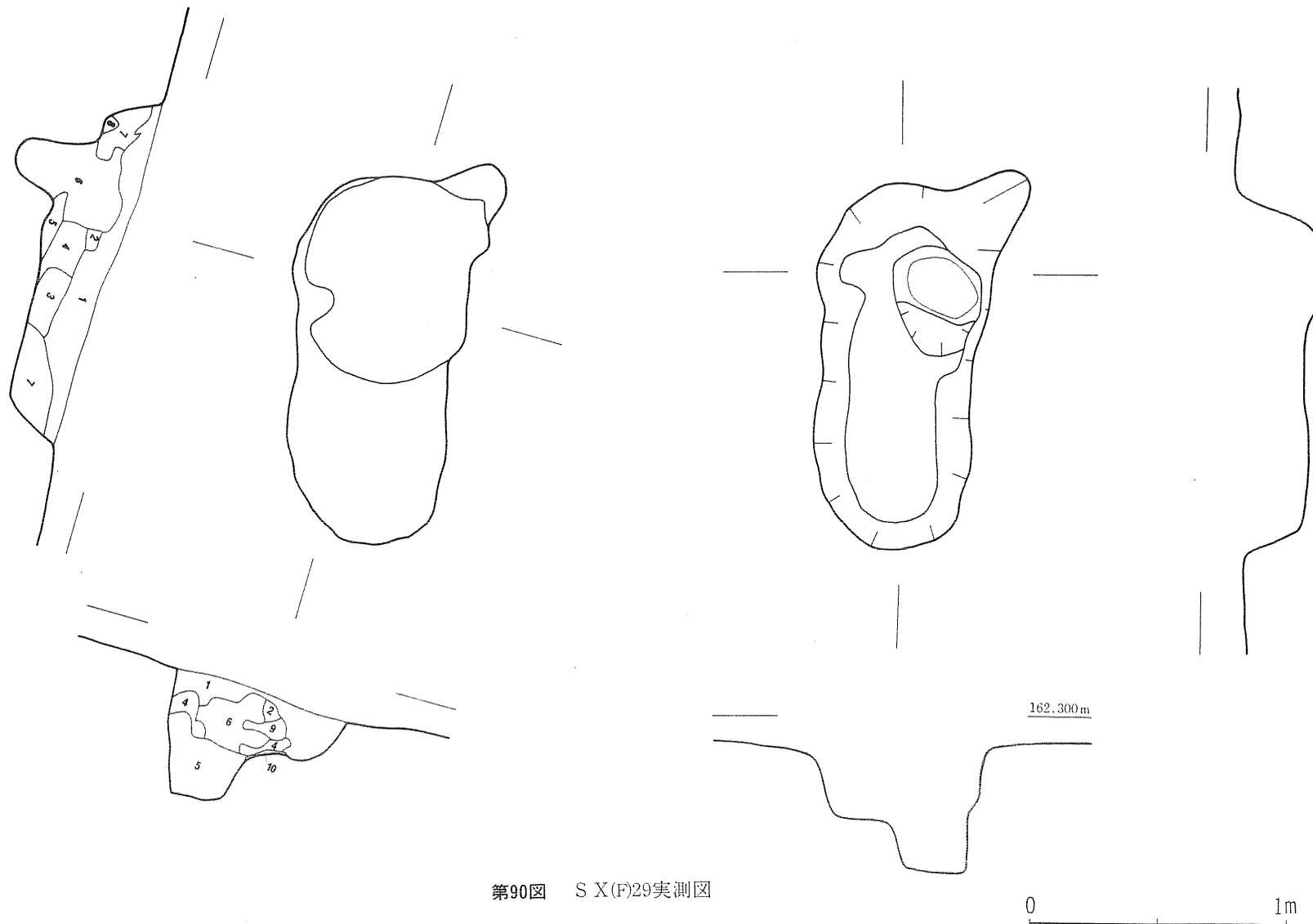
第95表 SX(F)28計測・説明表

検出地区	25-C、26-C	実測図番号	89	図版番号	44	
法量	長さ	154cm	幅	73cm	方向	N-67°-W
	平面形状	突起付長楕円形	深さ	24cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)28とSX(F)29は、当初焼土プランだけの確認であったため、点在する焼土と思われたが黒色系上部分も検出され、プランが明確となった。					
出土遺物	炭化物					

第89図 SX(F)28実測図

土層註記

- | | |
|---|---|
| 1 7.5Y R 暗褐色土(焼土) 浮石多量混入。 | 2 7.5Y R 明褐色土(焼土) 浮石多量 炭化物少量混入。 |
| 3 7.5Y R 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 4 7.5Y R 明褐色土(焼土) 浮石多量混入。 |
| 5 5Y R 明赤褐色土(焼土) 浮石少量混入。 | 6 10Y R 明黄褐色土(焼土) |
| 7 10Y R 黒色(土) 粘性あり 浮石少量混入。 | 8 10Y R 灰黄褐色土(焼土) 浮石多量 炭化物多量(4)の焼土多量混入。 |
| 9 炭化物 | 10 10Y R 灰褐色土(灰の層) 炭化物少量 10Y R 灰黄褐色土多量混入。 |
| 11 10Y R 黒色土 粘性あり 炭化物多量混入。 | 12 10Y R 明黄褐色土(焼土) |
| 13 10Y R 黒色土 粘性あり 浮石少量 7.5Y R 明褐色の焼土少量混入。 | |



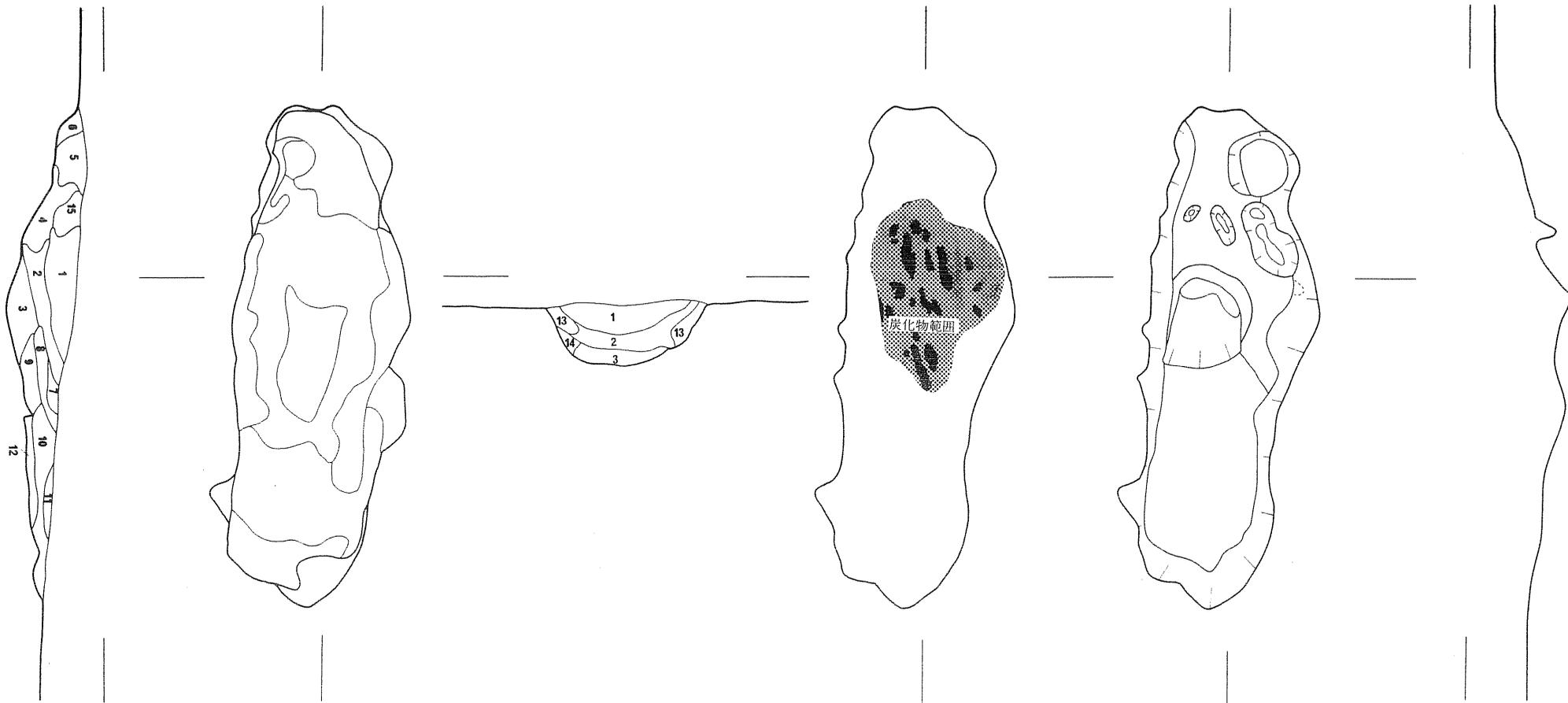
第90図 S X(F)29実測図

第96表 S X(F)29計測・説明表

検出地区	25-C	実測図番号	90	図版番号	44	
法量	長さ	143cm	幅	70cm	方向	N-71°-F
	平面形状	突起付長楕円形	深さ	30cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S I 34の南東隅部に位置するS X(F)09からS X(F)27・S X(F)28・S X(F)29の連続しており、プランが把えにくかった。					
出土遺物	炭化材					

土層註記

- | | |
|---|--|
| 1 10Y R ₂ 黒色土 粘性あり 浮石少量 炭化物少量混入。 | 2 10Y R ₂ 明黄褐色土(焼土) |
| 3 7.5Y R ₂ 黒色土 粘性あり 4の焼土少量混入。 | 4 7.5Y R ₂ 明褐色土(焼土) 浮石少量混入。 |
| 5 7.5Y R ₂ 黒褐色土(焼土) 浮石少量混入。 | 6 10Y R ₂ 黄褐色土(焼土) 4の焼土少量 浮石多量混入。 |
| 7 7.5Y R ₂ 明褐色土(焼土) 浮石多量混入。 | 8 7.5Y R ₁ 黒色土 粘性あり 7の焼土少量混入。 |
| 9 7.5Y R ₂ 黒色土 粘性あり 浮石少量混入 | 10 炭化物の層。 |



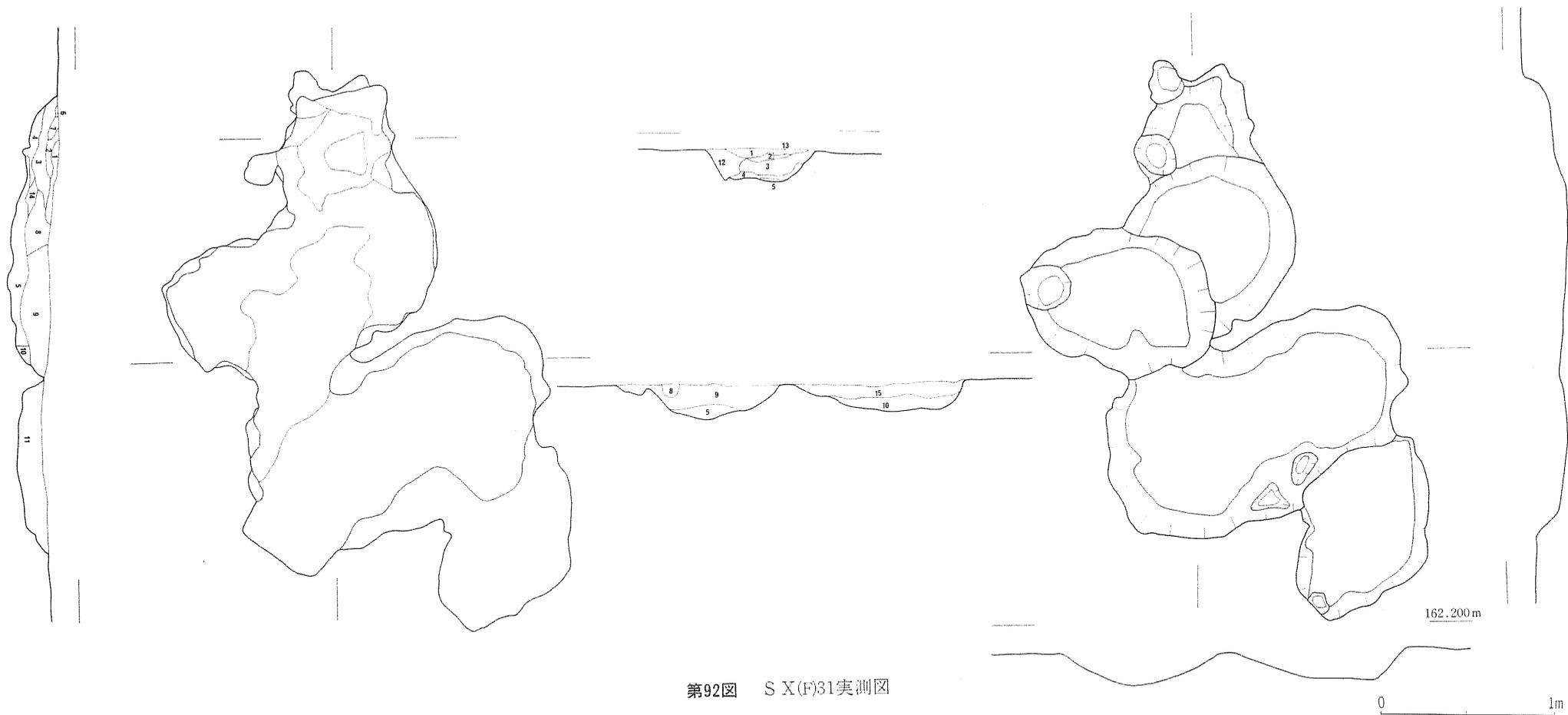
第91図 S X(F)30実測図

第97表 S X(F)30計測・説明表

検出地区	24-C	実測図番号	91	図版番号	45
長さ	194cm	幅	69cm	方向	N-44°-E
平面形状	長楕円形	深さ	23cm	横断面形状	U字形
プラン確認時の状況	黒色土系の広がりや焼土の堆積が大湯浮石層上面で検出された。				
出土遺物	炭化材(覆土中)				

土層註記

- | | |
|---|--|
| 1 10Y R ² 黒色土 粘性なし 浮石少量 炭化物少量 黄褐色土少量混入。 | 2 炭化物の層 焼土 浮石多量混入。 |
| 3 7.5Y R ¹ ・2 黒色土 粘性なし 黒色土多量 焼土少量混入。 | 4 7.5Y R ² 明褐色土(焼土) 上部に浮石が多量混入。 |
| 5 7.5Y R ² 黒褐色土 粘性なし 焼土が多量混入。 | 6 10Y R ² 黒褐色土 粘性あり。 |
| 7 7.5Y R ² 黒褐色土 粘性なし 浮石多量 焼土少量混入。 | 8 浮石の層 焼土少量 褐色土多量混入。 |
| 9 10Y R ² 黒褐色土 粘性なし 細かい黄褐色土が少量 浮石多量混入。 | 10 浮石の層 焼土多量 炭化物少量混入。 |
| 11 7.5Y R ² 黒褐色土 粘性なし 浮石多量 炭化物少量混入。 | 12 10Y R ² 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 |
| 13 7.5Y R ² 明褐色土(焼土) 浮石多量混入 炭化物少量混入。 | 14 10Y R ² 暗褐色土 粘性なし。 |
| 15 7.5Y R ² 褐色土(焼土) 浮石多量 黒褐色土少量 炭化物少量混入。 | |



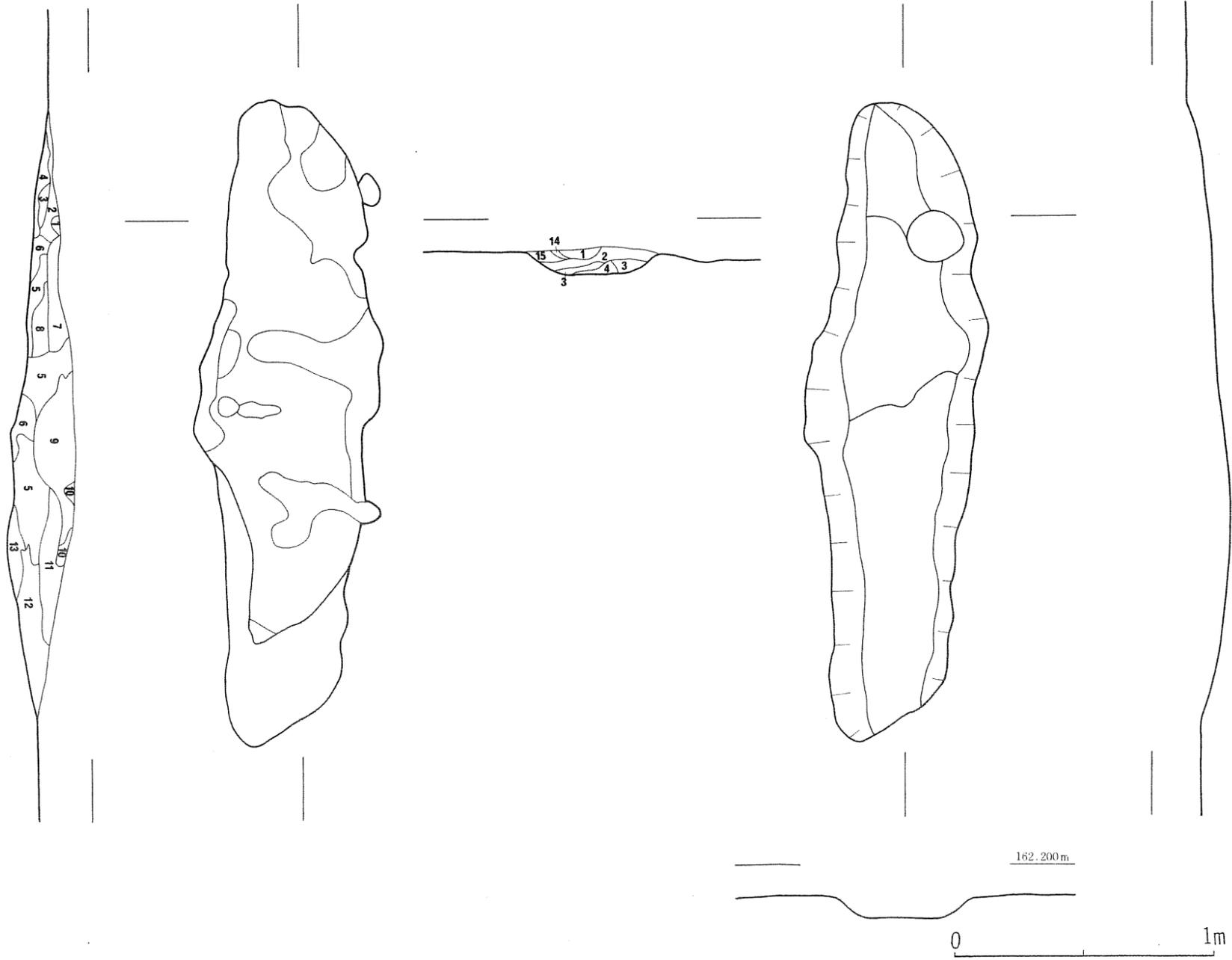
第92図 S X(F)31実測図

第98表 S X(F)31計測・説明表

検出地区	23-C	実測図番号	92	図版番号	
長さ	282cm	幅	166cm	方向	N-81°-W
平面形状	不整形	深さ	20cm	横断面形状	鍋底形
プラン確認時の状況	焼土・粘土・黒色土が斑状に大湯浮石層上面で確認された。				
出土遺物	なし				

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 10Y R 5/6 黒色土 粘性なし 明黄褐色土が少量 浮石が多量混入。 | 2 砂の層 明黄褐色土(焼土)多量混入。 |
| 3 7.5Y R 5/6 (焼土) 浮石多量混入。 | 4 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし。 |
| 5 10Y R 1/2 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 6 7.5Y R 5/6 (焼土) |
| 7 10Y R 5/6 暗褐色土 粘性なし 浮石多量 濃い黄褐色土(焼土)ブロック状に少量混入。 | 8 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土及び炭化物少量混入 浮石少量混入。 |
| 9 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土が少量 浮石が少量混入。 | 10 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし 濃い黄褐色土多量混入。 |
| 11 10Y R 5/6 黒色土 粘性なし 浮石少量混入。 | 12 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし。 |
| 13 7.5Y R 5/6 (焼土) 浮石多量混入。 | 14 10Y R 5/6 黒褐色土 粘性なし 濃い黄褐色土(焼土)少量混入。 |
| 15 10Y R 5/6 黒色土 粘性なし 浮石少量混入。 | |



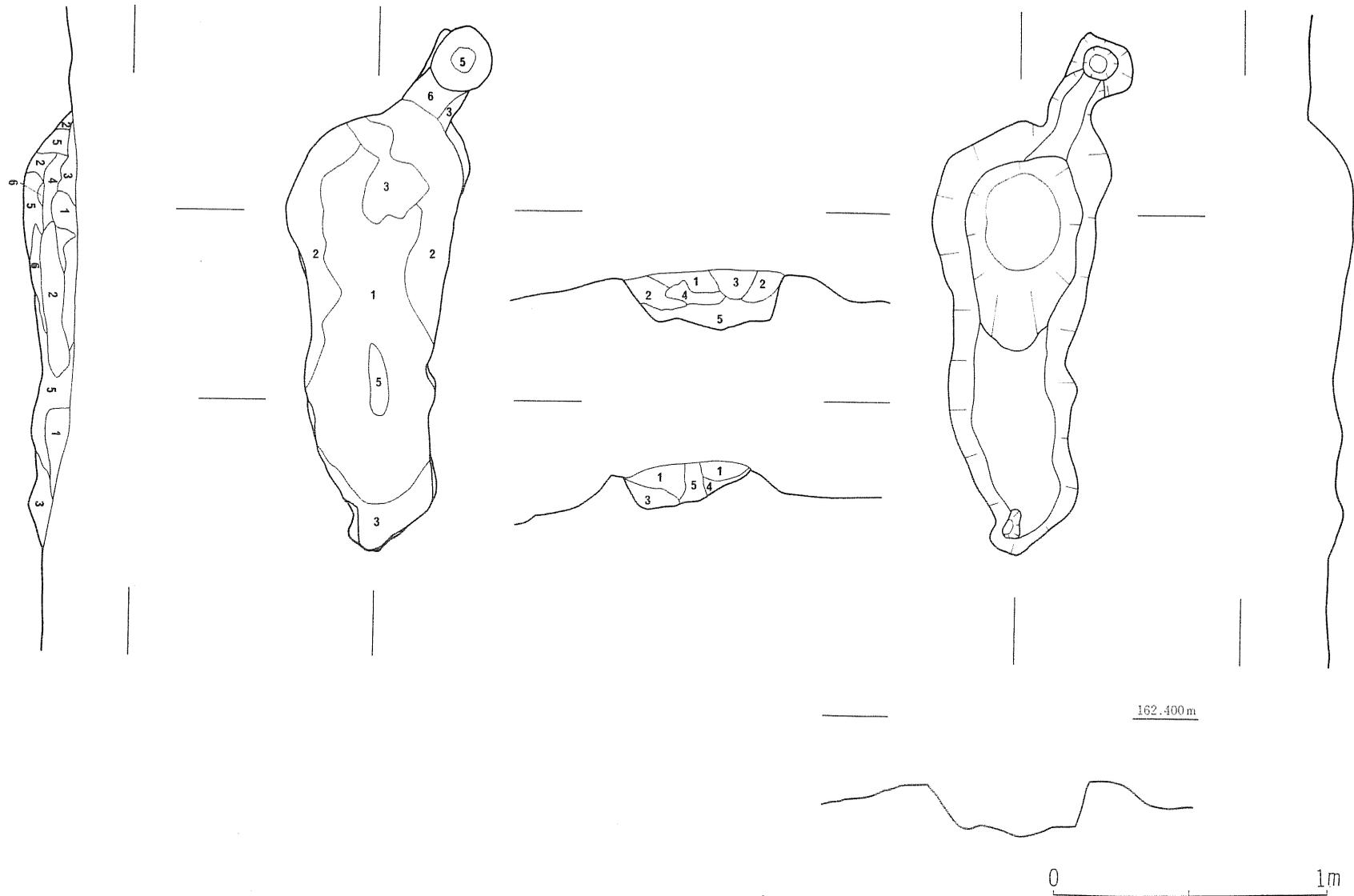
第99表 S X(F)32計測・説明表

検出地区	23-B	実測図番号	93	図版番号	46	
法量	長さ	250cm	幅	65cm	方向	N-22°-W
	平面形状	両先丸棒形	深さ	11cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	焼土と粘土が斑状を呈していた。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 7.5Y R 黑色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 2 浮石の層 7.5Y R 褐色の焼土多量混入。 |
| 3 10Y R 黑色土 粘性あり 浮石多量 黄褐色土少量混入。 | 4 浮石の層 明褐色土が多量混入 炭化物少量 黒褐色土少量混入。 |
| 5 7.5Y R 明褐色土(焼土) 浮石多量 炭化物少量混入。 | 6 7.5Y R 黑色土 粘性なし 明褐色土が少量 浮石多量混入。 |
| 7 7.5Y R 黑色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 8 10Y R ¹ 黑色土 粘性なし 浮石多量混入。 |
| 9 7.5Y R 黑色土 粘性なし 浮石多量 黄褐色土少量混入。 | 10 10Y R 黄褐色土(焼土) 浮石多量 黒褐色土少量混入。 |
| 11 10Y R ¹ 黑色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 12 7.5Y R 黑色土 粘性なし。 |
| 13 10Y R 黒褐色土 粘性なし 炭化物少量混入。 | 14 10Y R 黑色土 粘性なし。 |
| 15 7.5Y R 褐色土(焼土) 浮石多量混入。 | |

第93図 S X(F)32実測図



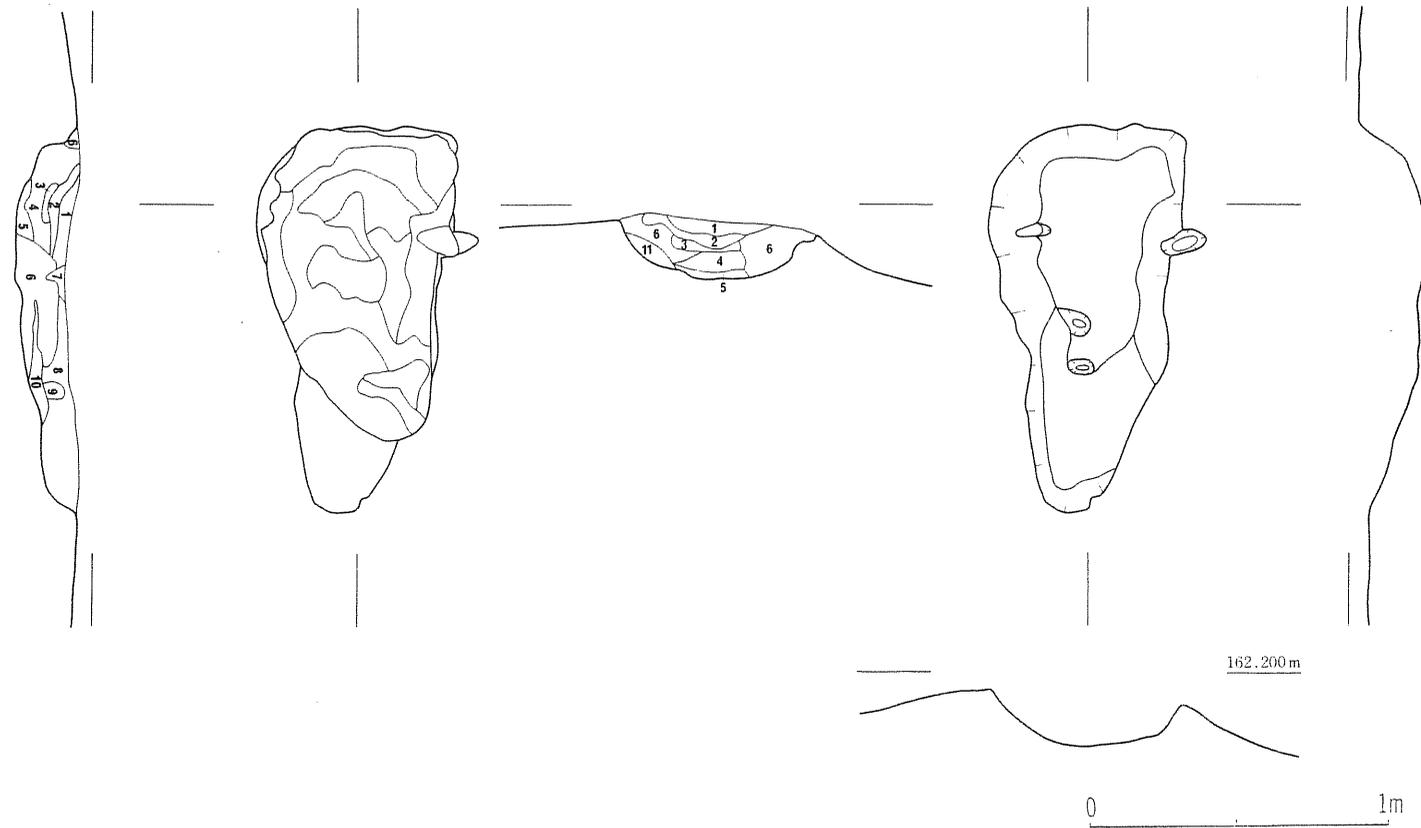
第94図 S X(F)33実測図

第100表 S X(F)33計測・説明表

検出地区	23-B	実測図番号	94	図版番号	46	
法量	長さ	160cm	幅	60cm	方向	N-42°-W
	平面形状	突起付長卵形	深さ	22cm	横断面形状	不整逆台形
プラン確認時の状況	焼土と粘土が複雑な斑状を呈しており、重複・改築も考えられたので平面プランを確認するのに手間どった。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 7.5Y R% 浅黄橙色(粘土) | 2 7.5Y R% 浮石の焼けたもの。 |
| 3 7.5Y R% 黒褐色土 焼土混入。 | 4 10Y R% 黒褐色土 炭化物浮石混入。 |
| 5 10Y R% 黒褐色土。 | 6 10Y R% 黒褐色土 焼土混入(浮石混入) |



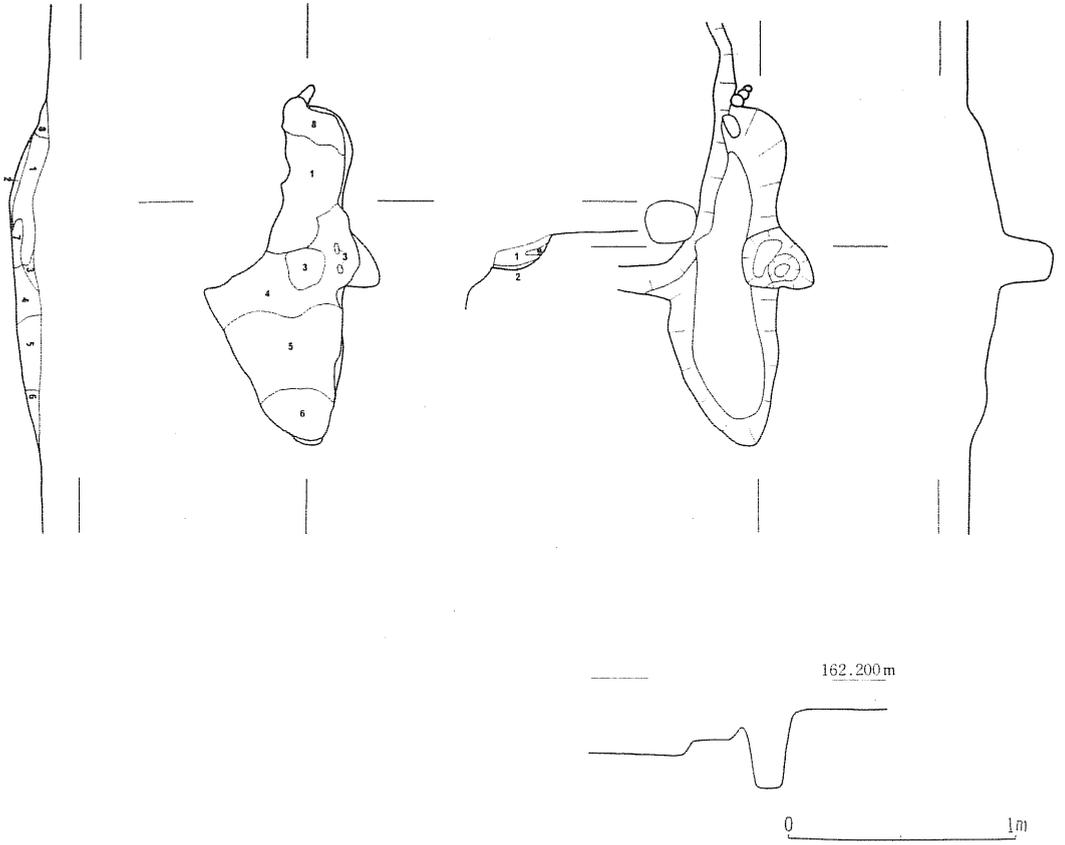
第95図 S X(F)34実測図

第101表 S X(F)34計測・説明表

検出地区	24-B	実測図番号	95	図版番号	47	
法量	長さ	131cm	幅	66cm	方向	N-66°-E
	平面形状	半円形	深さ	20cm	横断面形状	U字形
プラン確認時の状況	粘土と焼土の堆積として扱われたが、その後黒色土部分も確認された。					
出土遺物	炭化材(第4層)					

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 7.5Y R% 橙～10Y R% 浅黄橙(焼土)層状に黒褐色土が少量混入 浮石少量混入。 | 2 7.5Y R% 黒色土 粘性あり。 |
| 3 10Y R% にぶい黄褐色土(焼土)浮石多量混入。 | 4 10Y R% にぶい黄褐色土 粘性なし 浮石多量混入 黒褐色土が少量混入。 |
| 5 10Y R% にぶい黄褐色土(焼土)浮石多量混入 炭化物少量混入。 | 6 7.5Y R% 明褐色土(焼土)浮石多量混入。 |
| 7 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 浮石多量混入。 | 8 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。 |
| 9 10Y R% 黒色土 粘性なし。浮石多量混入。 | 10 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 浮石少量混入。 |



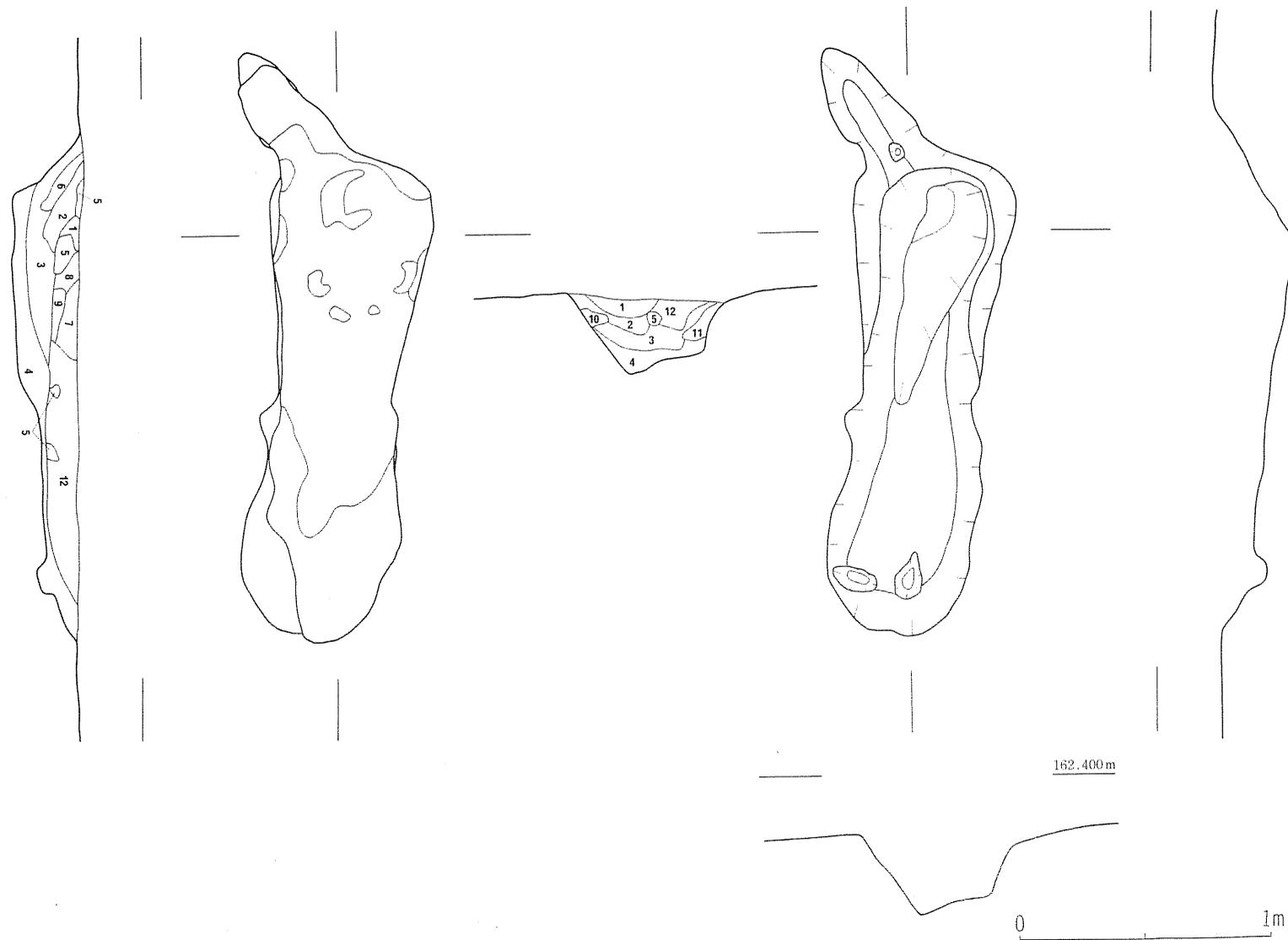
第96図 S X(F)35実測図

第102表 S X(F)35計測・説明表

検出地区	23-D	実測図番号	96	図版番号	
法	長さ	155cm	幅	61cm	方向
量	平面形状	長卵形	深さ	10cm	横断面形状
プラン確認時の状況	S I 33の北東壁隅部外側に検出された。S I 33より古い。				
出土遺物	なし				

土層註記

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 7.5Y R 8 (明褐色)~ 7.5Y R 7 褐色土(焼土)浮石混入
暗褐色土少量混入。 | 2 7.5Y R 7 黒色土 粘性なし 炭化物多量混入。 |
| 3 10Y R 7 黒褐色土 粘性なし | 4 7.5Y R 7 黒褐色土 粘性なし 浮石多量混入。 |
| 5 10Y R 7 黒褐色土 粘性なし 浮石多量混入 黄褐色土少量混入。 | 6 10Y R 7 黒褐色土 粘性なし 浮石多量混入。 |
| 7 10Y R 7 黒褐色土 粘性なし 浮石多量混入 焼土及び暗褐色土(7.5Y R)少量混入。 | 8 7.5Y R 7 褐色土(焼土)浮石多量混入 黒褐色土少量混入。 |
| 9 10Y R 7 黒色土 粘性なし 焼土微量混入。 | |



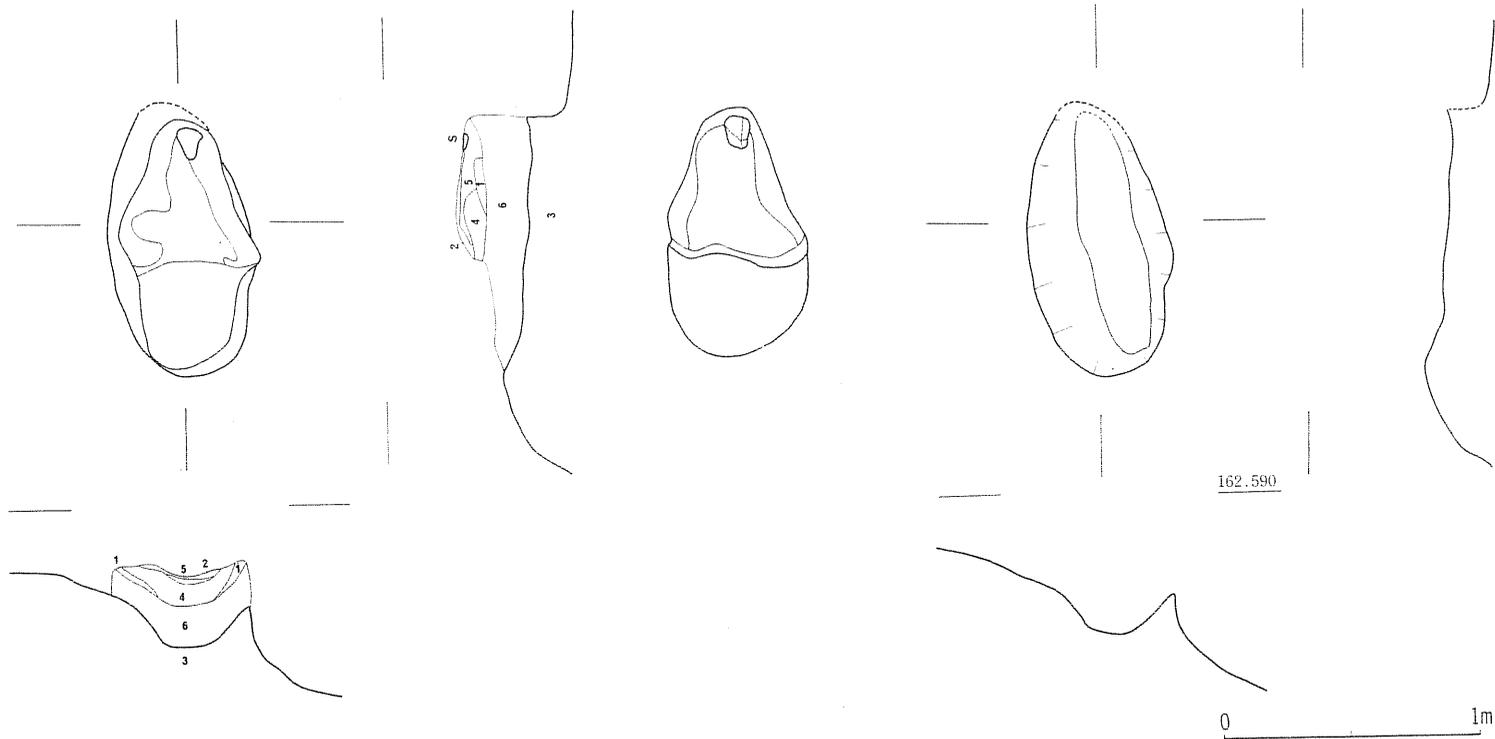
第97図 SX(F)36実測図

第103表 SX(F)36計測・説明表

検出地区	22-D	実測図番号	97	図版番号	47、48	
法長量	長さ	194cm	幅	65cm	方向	N-77°-E
	平面形状	突起付先丸棒形	深さ	30cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	焼土と粘土の堆積プランは明確であったが、それにつづく黒色土部分は明確でなかった。					
出土遺物	なし					

土 層 註 記

- 1 10Y R_{2/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。
- 2 浮石の層 7.5Y R_{2/6} 褐色土(焼土)混入。
- 3 7.5Y R_{2/6} 明褐色~10Y R_{2/6} にぶい黄褐色土(焼土)浮石多量混入 部分的に浮石の入っていない焼土は全体に少量混入。
- 4 10Y R₁₋₂ 黒色土 粘性なし 浮石入っていない。
- 5 7.5Y R_{2/6} にぶい褐色~10Y R_{2/6} 灰黄褐色土(焼土)粘土が焼けたものである。
- 6 浮石の層 7.5Y R_{2/6} 明褐色土(焼土)多量混入 炭化物微量混入。
- 7 10Y R_{2/6} 黒色土 粘性なし 浮石多量混入 黄褐色土が少量混入。
- 8 10Y R_{2/6} 暗褐色土 粘性なし 浮石多量 黒褐色土少量混入。
- 9 浮石の層 7.5Y R_{2/6} 褐色土(焼土)多量混入。
- 10 7.5Y R_{2/6} 黒褐色土 粘性あり 浮石入っていない。
- 11 7.5Y R_{2/6} 明褐色土(焼土)浮石入っていない。
- 12 10Y R₁₋₂ 黒色土 粘性なし 浮石多量混入。



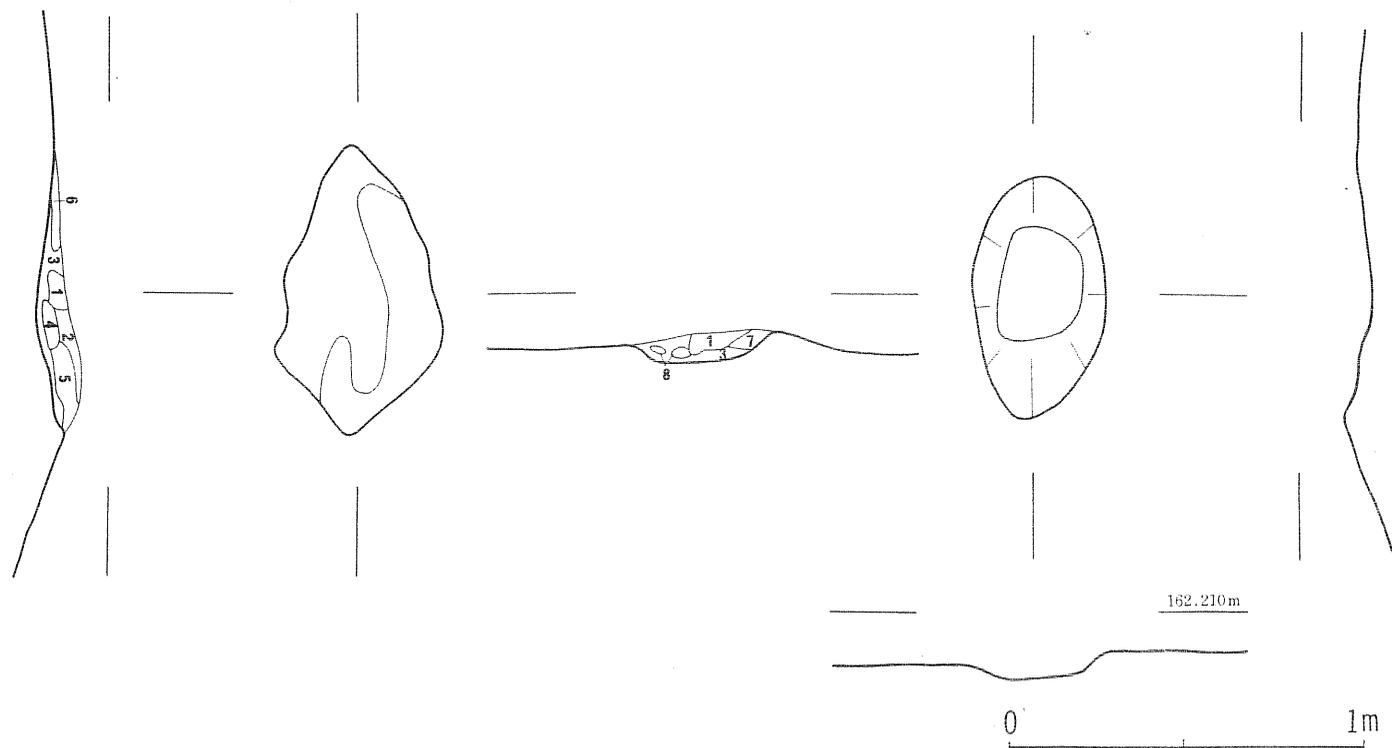
第98図 S X(F)38実測図

第104表 S X(F)38計測・説明表

検出地区	15-D	実測図番号	98	図版番号	
法	長さ	108cm	幅	57cm	方向
量	平面形状	不整長卵形	深さ	29cm	横断面形状
プラン確認時の状況	SD 4 と SD 5 に挟まれた大湯浮石層上面で確認された。				
出土遺物	炭化材				

土層註記

- 1 7.5Y R₆ 褐色土 ~ 7.5Y R₈ 明褐色土 (焼土) 浮石 (1mm ~ 0.5mm) 混入。
- 2 10Y R₇ 黒褐色土 浮石混入。
- 3 10Y R₁・牙 黒色土
- 4 10Y R₇ におい褐色土 砂、礫層熱変化したものである。
- 5 7.5Y R₆ 褐色土 砂礫層 10Y R₇ におい黄褐色土混入。
- 6 10Y R₁・牙 黒色土 炭化物 浮石混入。



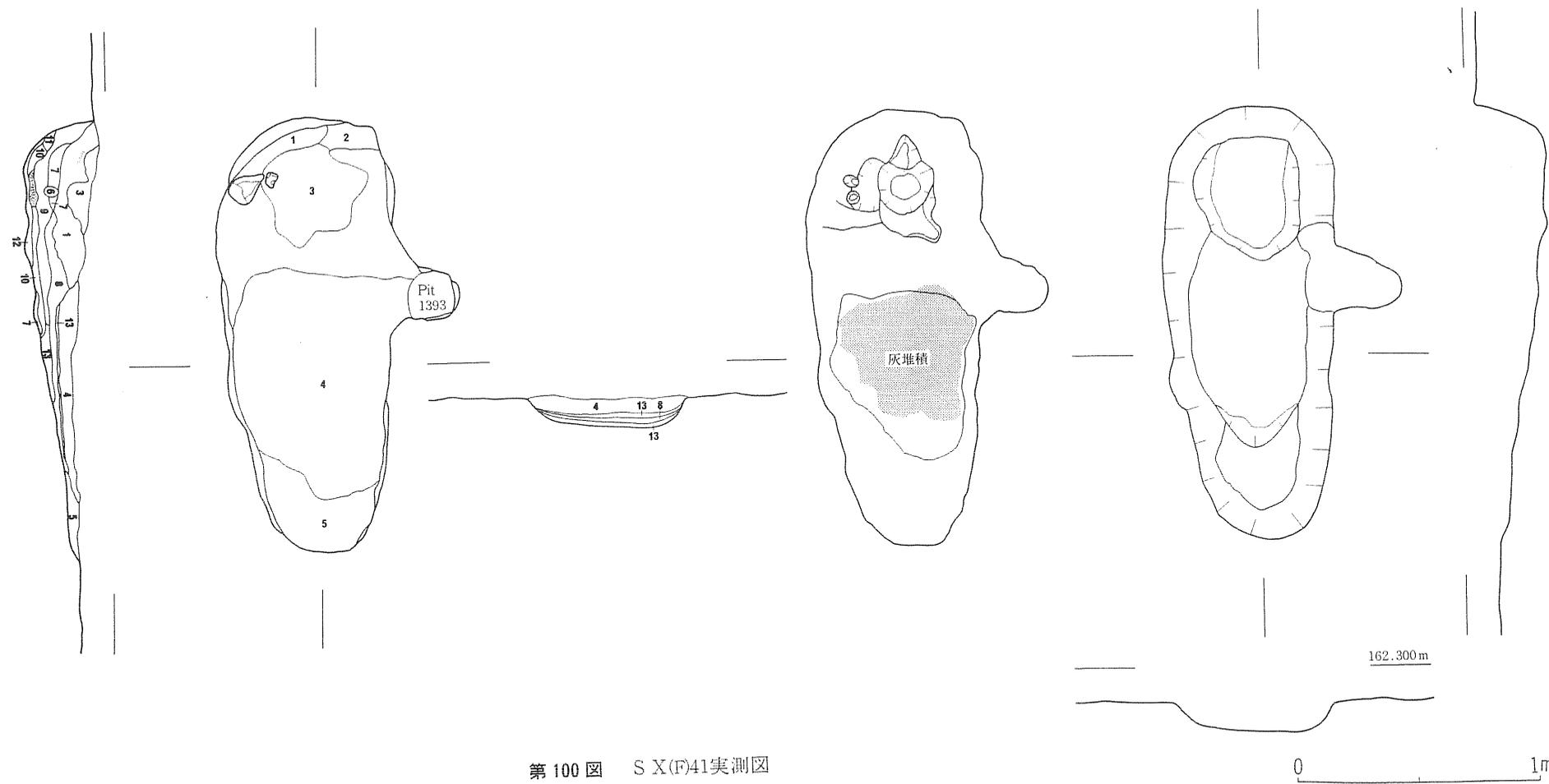
第99図 S X(F)39実測図

第105表 S X(F)39計測・説明表

検出地区	22-A	実測図番号	99	図版番号		
法量	長さ	63cm	幅	38cm	方向	N-15°-E
	平面形状	不整菱形	深さ	8cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	不明確なプランを呈する焼土堆積であった。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 10Y R 6/2 黒色土 粘性あり 焼土若干混入。 | 2 10Y R 1/1 黒色土 粘性なし 層全体に浮石を含む。 |
| 3 10Y R 1/1 黒色土 粘性なし 層全体に浮石を含む 炭化物を含んでいる。 | 4 10Y R 1/1 黒色土 粘性あり 炭化物を含む。 |
| 5 10Y R 6/2 明黄褐色土 10Y R 6/2 (焼土) 浮石を含む。 | 6 10Y R 6/2 褐色土 (焼土) |
| 7 7.5Y R 6/2 明褐色土 (焼土) | 8 10Y R 1/1 黒色土 粘性あり 炭化物混入。 |



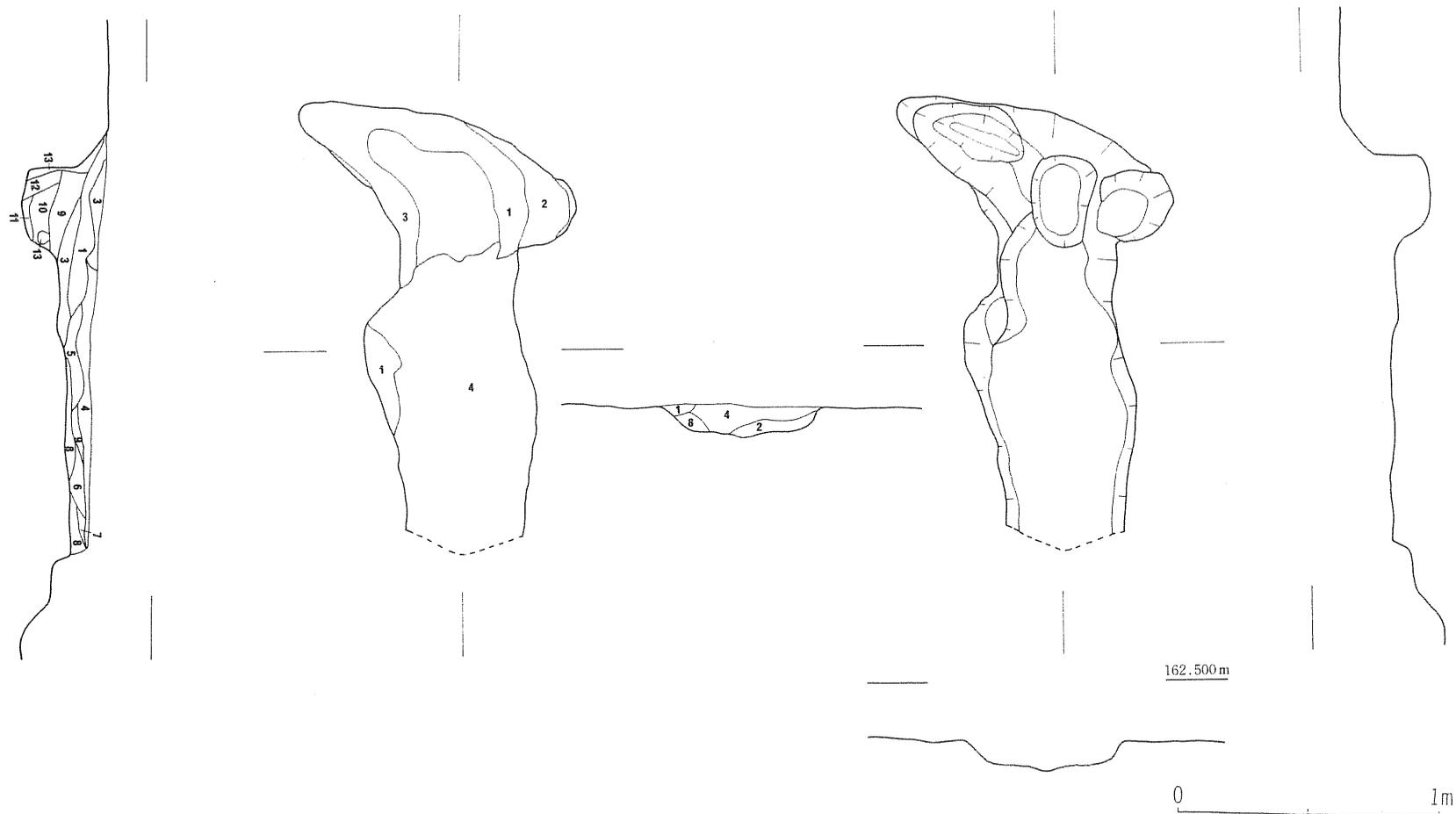
第100図 S X(F)41実測図

第106表 S X(F)41計測・説明表

検出地区	19-B	実測図番号	100	図版番号	48、49
法	長さ	幅	73cm	方向	N-83°-E
量	平面形状	深さ	7cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	熱変化した粘土と黒色系土の範囲が暗茶褐色系土層上に明確に検出された。				
出土遺物	炭化材、鉄滓				

土層註記

- | | |
|--|---|
| 1 7.5Y R% 橙色~% 浅黄橙色 熱変化 粘土が砂質土。 | 2 10Y R% 黒褐色土 かくしまっている。 |
| 3 10Y R% 黒褐色土 白色浮石(φ5~12mm)(φ1~2mm)少量混入 軟かい。 | 4 10Y R% 黒色土 白色浮石(φ5~12mm)少量(φ1~2mm)少量混入 軟かい。 |
| 5 10Y R% 黄褐色土 黄色ロームブロックを多量に含む かくしまっている。 | 6 5Y R% 橙色~7.5Y R% 浅黄橙色 砂質熱変化粘土。 |
| 7 10Y R% 黒色土 | 8 10Y R% にふい黄褐色土 炭化粒含む。 |
| 9 10Y R% 黒褐色土。 | 10 7.5Y R% 明褐色土。 |
| 11 5G% 緑灰色土 | 12 7.5Y R% 橙色土。 |
| 13 5G% 緑灰色土 | |



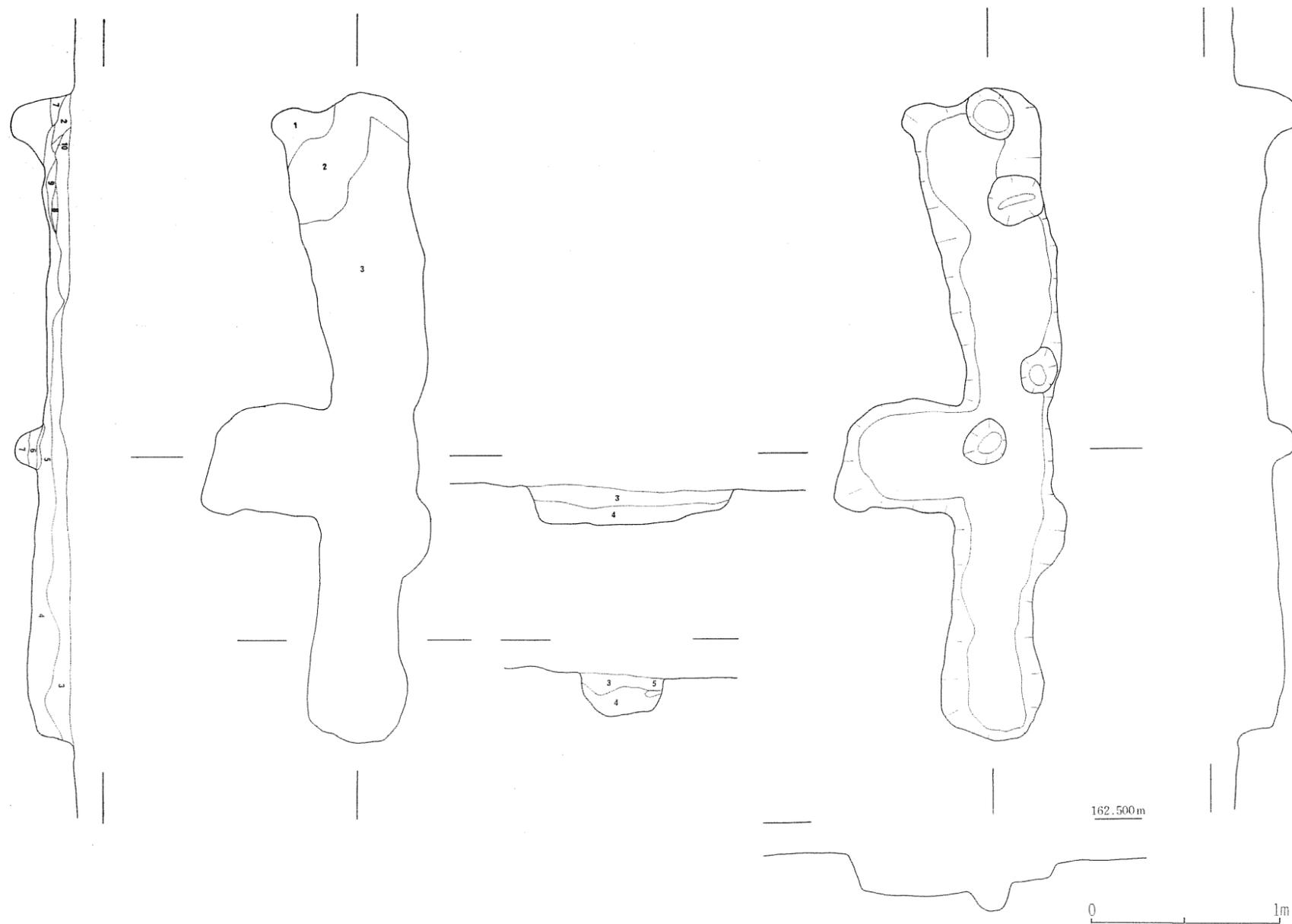
第101図 SX(F)42実測図

第107表 SX(F)42計測・説明表

検出地区	19-G	実測図番号	101	図版番号	50
法	長さ	幅	75cm	方向	N-82°-W
量	平面形状	深さ	11cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S I 32の北側に確認され、S I 31の西壁まで続いているが、その新旧関係は不明である。				
出土遺物	炭化材				

土層註記

- | | |
|---|---|
| 1 7.5YR ^{5/6} 黄橙色土 砂質熱変化粘質土 砂質ロームか。 | 2 10YR ^{1-2/1} 黒色土 ザラザラした黒色化した浮石。 |
| 3 10YR ^{2/2} 黒褐色土 焼土粒 炭化粒 浮石混入。 | 4 10YR ^{2/2} 黒褐色土 ロームブロック(φ20~30mm)混入。 |
| 5 10YR ^{2/2} 黒褐色土 ロームブロック(φ1~3mm)少量混入。 | 6 7.5YR ^{5/6} 黄橙色土 砂質熱変化粘質土 砂質ロームか。 |
| 7 10YR ^{2/2} 灰黄褐色土 灰混入 焼土混入。 | 8 10YR ^{2/2} 黒褐色土 弱粘性。 |
| 9 禾本科植物及び木材の炭化層。 | 10 10YR ^{2/2} 黒褐色土 ローム粒(1~2mm)少量混入 ザラザラ。 |
| 11 10YR ^{2/2} 黒色土 ザラザラ。 | 12 10YR ^{2/2} 黒褐色土 ローム粒(1~2mm)多量混入 間隙あり。 |
| 13 10YR ^{2/2} 暗褐色土 強粘性。 | |



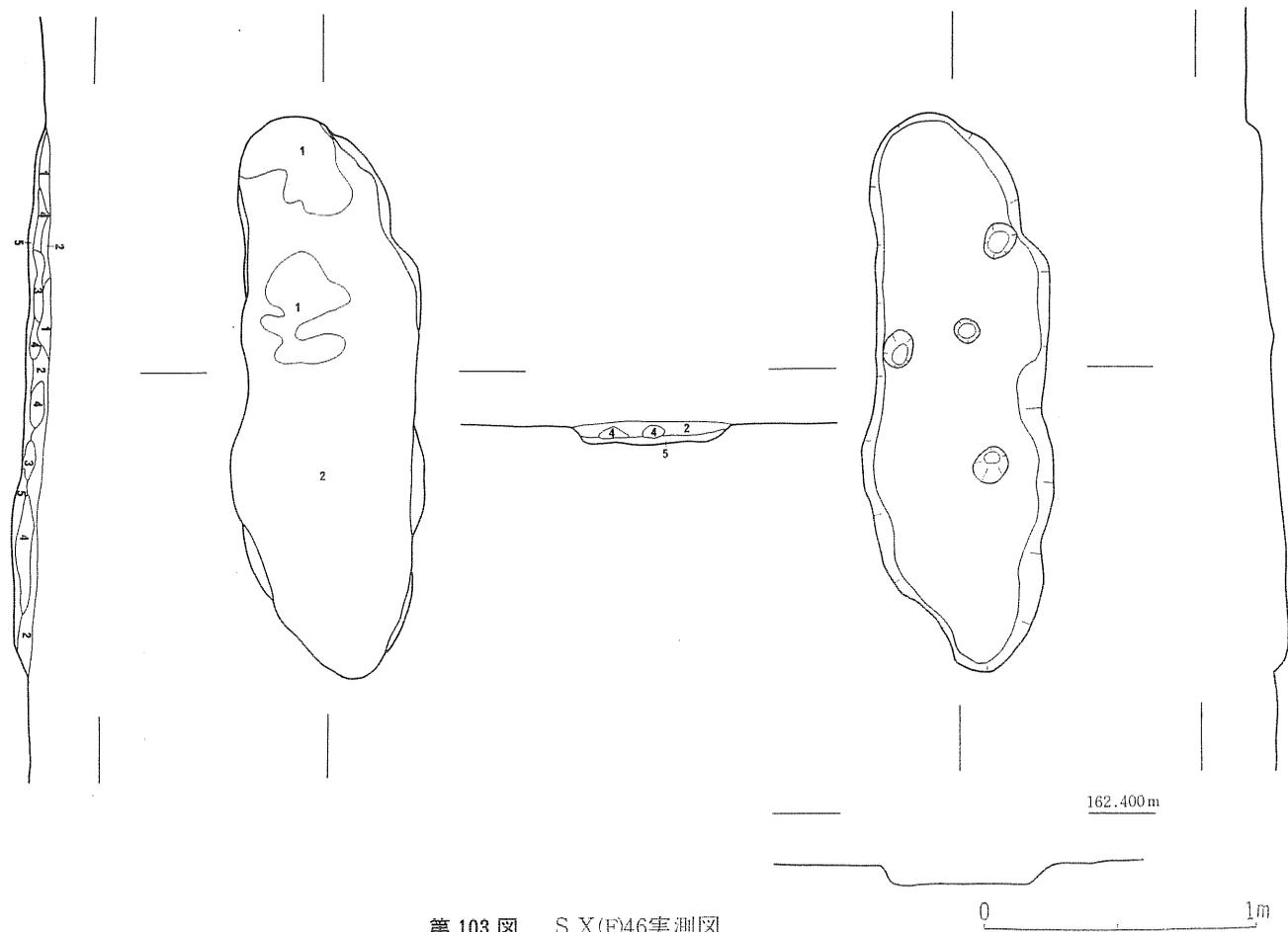
第102図 SX(F)45実測図

第108表 SX(F)45計測・説明表

検出地区	19-G、20-G	実測図番号	102	図版番号	50	
法量	長さ	350cm	幅	61cm	方向	N-4°-E
	平面形状	突起付棒形	深さ	20cm	横断面形状	U字形
プラン確認時の状況	S I 32の西壁に接するように平行してつくられている。S I 32との新旧関係は不明。					
出土遺物	なし					

土層注記

- | | |
|--|---|
| 1 7.5Y R% 黄橙色土 砂質熱変化 粘質土 (砂質ロームの熱変化か) | 2 7.5Y R% 黄橙色土~ 7.5Y R% 黒褐色土 砂質熱変化 粘質土 炭化粒浮石混入。 |
| 3 10Y R% 灰黄褐色土 炭化物 浮石混入。 | 4 10Y R% 黒褐色土 間隙あり。 |
| 5 7.5Y R% 黄橙色土 砂質熱変化 粘質土。 | 6 10Y R% 黒褐色土 ローム粒 (φ1~2mm) 少量混入 やや軟。 |
| 7 10Y R% 黒褐色土 ローム粒 (φ1~2mm) 少量混入 間隙あり。 | 8 7.5Y R% 黄橙色土+10Y R% 黒褐色土。 |
| 9 10Y R+% 黒色土+ 7.5Y R% 黄橙色土 | 10 10Y R% 黒褐色土。 |



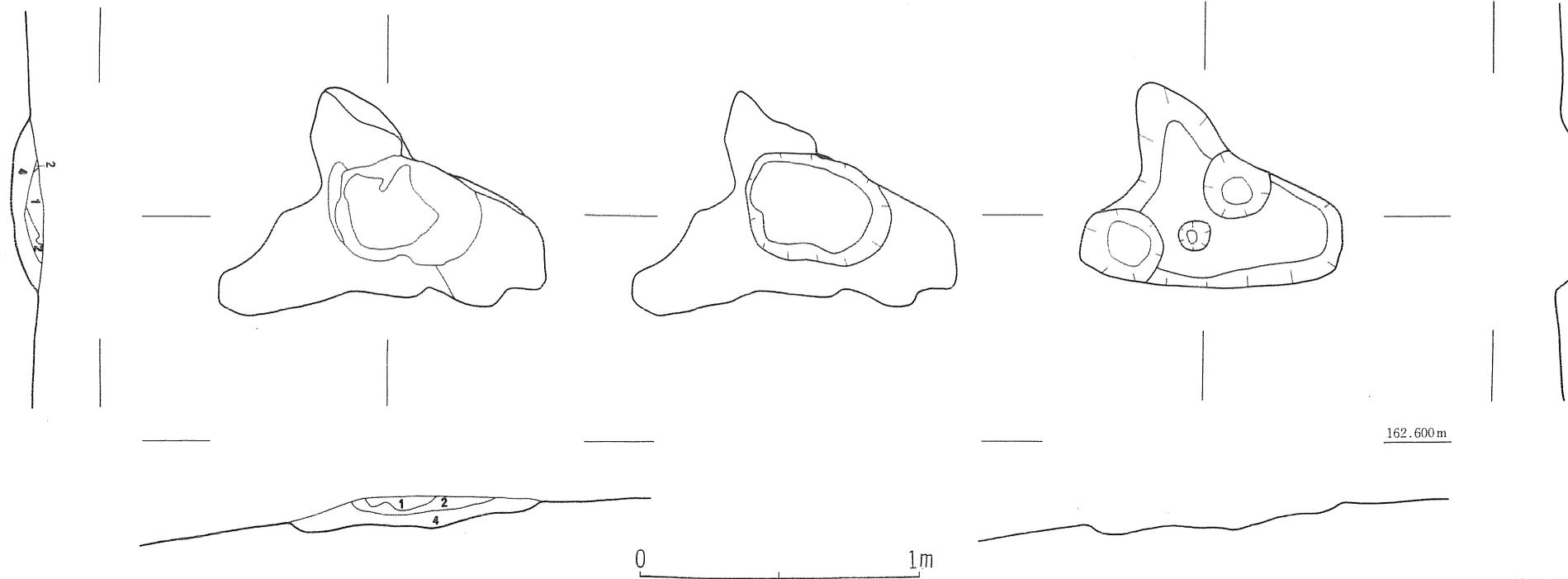
第103図 SX(F)46実測図

第109表 SX(F)46計測・説明表

検出地区	19-E	実測図番号	103	図版番号		
法量	長さ	207cm	幅	70cm	方向	N-74°-W
	平面形状	長楕円形	深さ	8cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	S K(F)24の東側に接続するように大湯浮石層上面に構築されている。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 7.5Y R% 明褐色土 焼土 | 2 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 浮石及び黄褐色土 粒子を含む。 |
| 3 5Y R% 橙色土(焼土) 浮石多量混入。 | 4 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 浮石及び黄褐色土 粒子混入。 |
| 5 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり。 | |



第104図 SX(F)48実測図

第110表 SX(F)48計測・説明表

検出地区	15-B	実測図番号	104	図版番号		
法	長さ	93cm	幅	71cm	方向	N-71°-E
	平面形状	三脚形	深さ	10cm	横断面形状	鍋底形
プラン確認時の状況	大湯浮石層の上面で検出された。					
出土遺物	なし					

土層註記

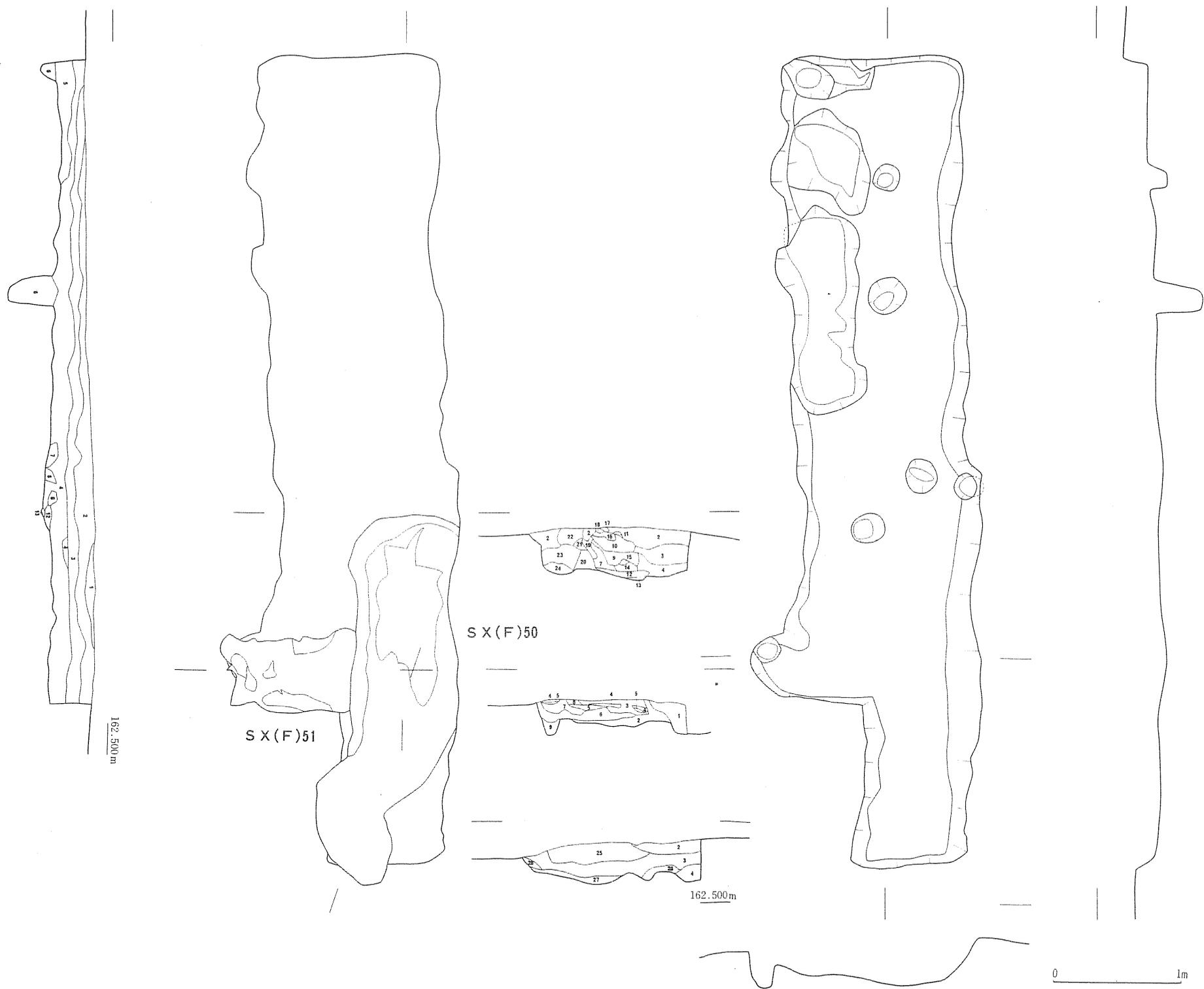
- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 10Y R% 黒色土 0.5mm~1mmの浮石混入。 | 2 7.5Y R% 明褐色土~7.5Y R% 橙色土(焼土) |
| 3 10Y R ¹ ・% 黒色土 炭化物多量に混入。 | 4 10Y R ¹ ・% 黒色土 暗褐色土が混じる。 |
| 5 10Y R ¹ ・% 黒色土 0.5mm~1mmの浮石混入。 | 6 10Y R% 暗褐色土。 |

第111表 SX(F)50計測・説明表

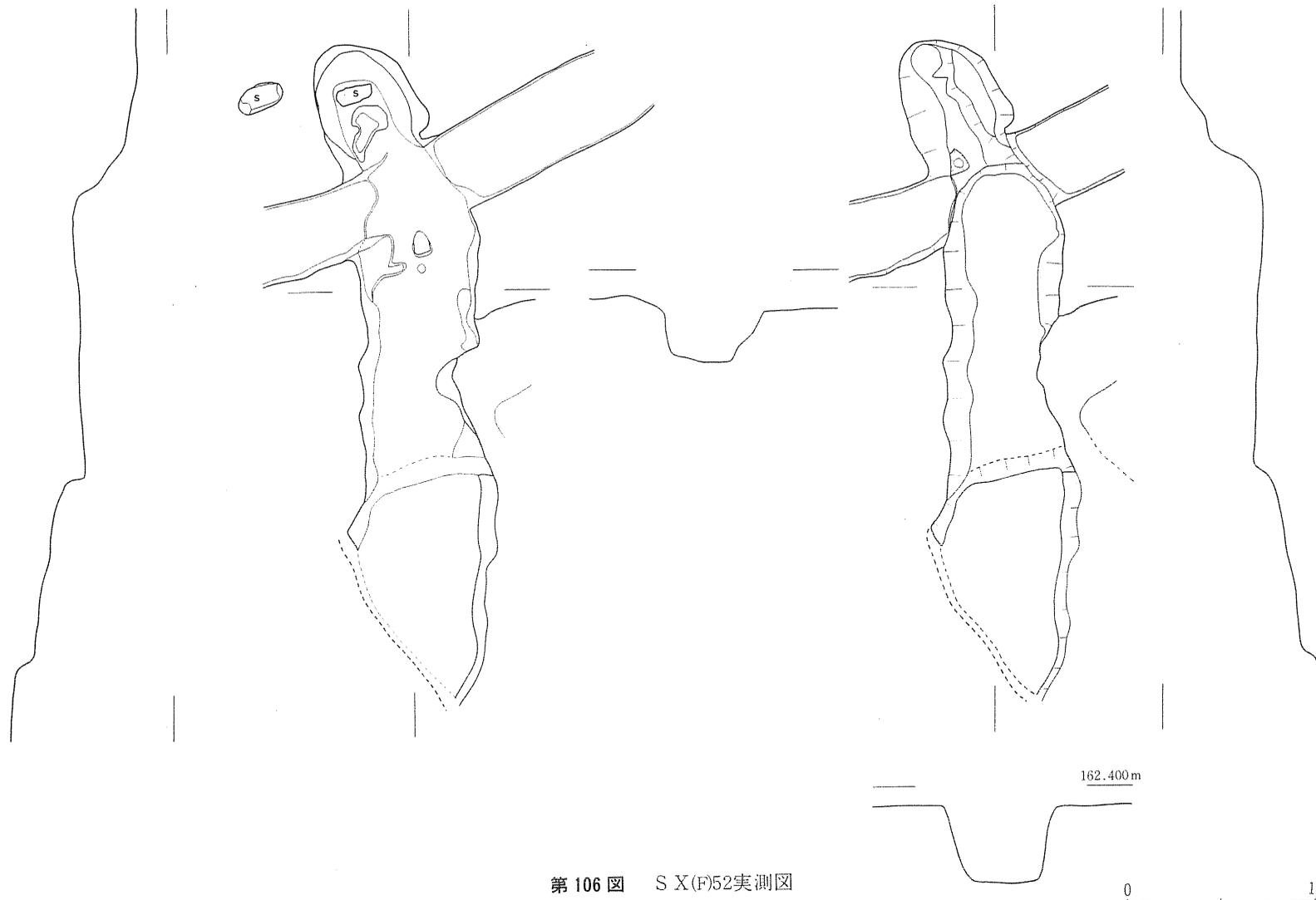
検出地区	20-B	実測図番号	105	図版番号		
法	長さ	634cm	幅	135cm	方向	N-79°-E
	平面形状	長方形	深さ	38cm	横断面形状	長方形
プラン確認時の状況	SX(F)51を破壊し、SX(F)50と直交するようにつくられている。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|---|--|
| 1 10Y R% 明黄褐色土(焼土) 粒子粗い。 | 2 5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 粒子細かい 焼土混入 浮石混入 明黄褐色土混入。 |
| 3 10Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい焼土混入 暗黄褐色土混入。 | 4 7.5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性あり 粒子細かい焼土混入 黄褐色土混入。 |
| 5 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 明黄褐色土混入。 | 6 10Y R% (焼土) 粒子粗い 暗褐色土混入。 |
| 7 5Y R% 明赤褐色土(焼土) 炭化物混入。 | 8 7.5Y R% 明褐色土(焼土) 炭化物混入。 |
| 9 2.5Y R ¹ ・% 赤黒色土 粘性なし 粒子粗い。 | 10 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子やや細かい 焼土炭化物混入。 |
| 11 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 焼土混入。 | 12 炭化物の層。 |
| 13 7.5Y R% 褐色土(焼土) 炭化物混入。 | 14 7.5Y R% 褐色土(焼土) 炭化物混入。 |
| 15 7.5Y R% 褐色土(焼土) 炭化物混入。 | 16 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子やや粗い 焼土多量混入。 |
| 17 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 粒子細かい。 | 18 2.5Y R ¹ ・% 赤黒色土 粘性なし 粒子粗い 焼土多量混入。 |
| 19 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 焼土多量に混入。 | 20 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 黄褐色土わずかに混入。 |
| 21 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 焼土わずかに混入。 | 22 2.5Y R ¹ ・% 赤黒色土 粘性あり 粒子細かい 焼土浮石混入。 |
| 23 2.5Y R ¹ ・% 赤黒色土 粘性あり 粒子粗い。 | 24 5Y R ¹ ・% 黒色土 粘性なし 粒子細かい 焼土 黒褐色土混入。 |
| 25 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 黒色土 明褐色土多量混入。 | 26 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 黄褐色土混入。 |
| 27 10Y R% 褐色土 粘性あり 粒子細かい 黒色土混入。 | 28 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子粗い 褐色土混入。 |



第 105 图 SX(F)50 · SX(F)51 实测图



第 106 図 SX(F)52実測図

第 112 表 SX(F)51計測・説明表

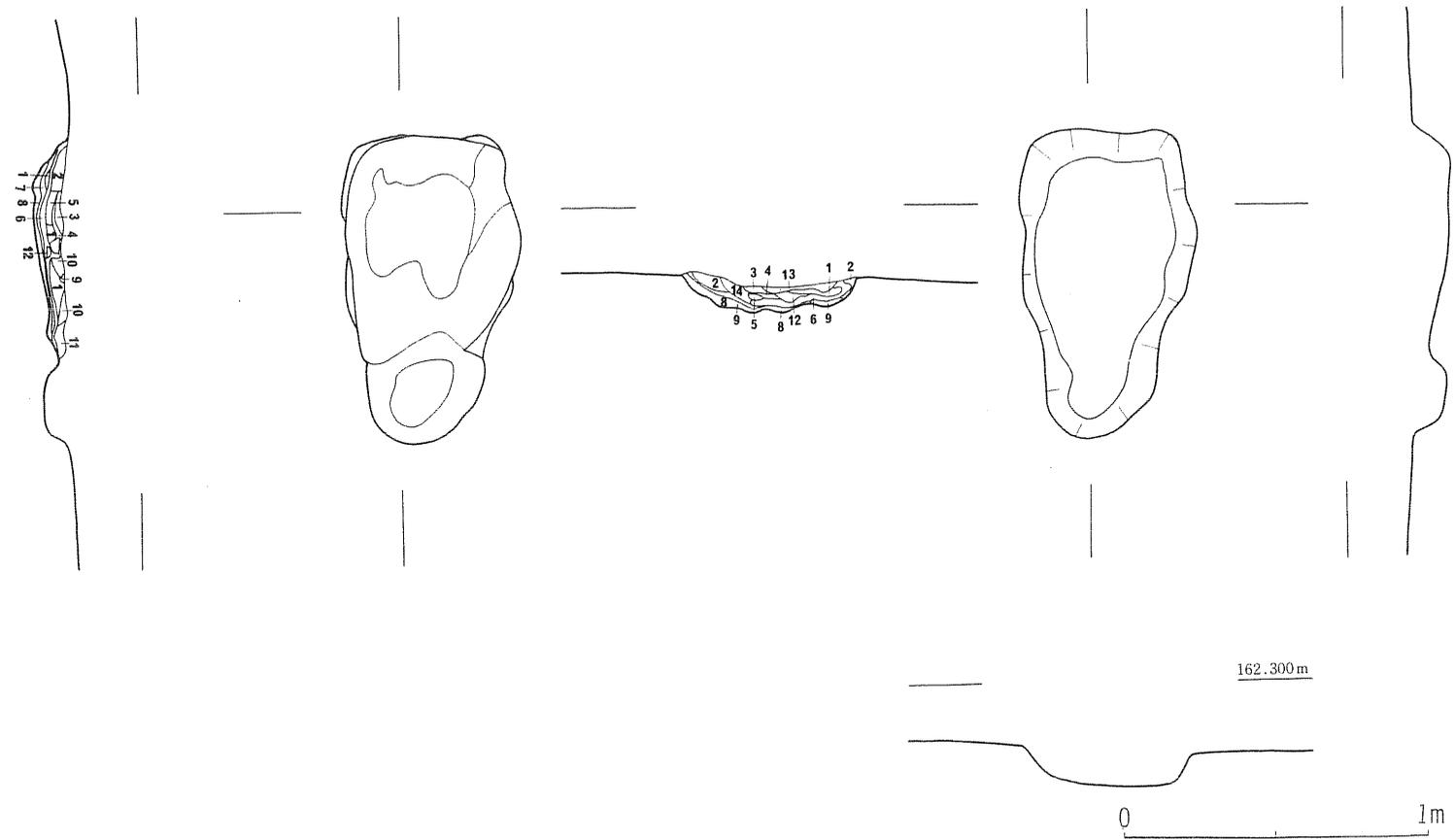
検出地区	20-B	実測図番号	105	図版番号	
法 量	長さ	(102)cm	幅	59cm	方 向 N-7°-W
	平面形状	棒形	深 さ	40cm	横断面形状 逆台形
プラン確認時の状況	SX(F)50と重複しているが、SX(F)51が古く、50に南半部を破壊されている				
出土遺物	なし				

土 層 註 記

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子粗い 暗褐色土混入。 | 2 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 黄褐色土混入。 |
| 3 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子粗い 炭化物少量混入。 | 4 7.5Y R% 明褐色土(焼土) |
| 5 炭化物の層 | 6 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 黄褐色粒子混入。 |
| 7 10Y R% 黒色土 粘性あり 粒子細かい 黄褐色粒子混入。 | 8 7.5Y R% 明褐色土の焼土と炭化物との混合層。 |
| 9 10Y R% 褐色土 粘性あり 粒子粗い。 | |

第 113 表 SX(F)52計測・説明表

検出地区	18-C、D	実測図番号	106	図版番号	
法 量	長さ	345cm	幅	60cm	方 向 N-64°-E
	平面形状	弓形	深 さ	27cm	横断面形状 逆台形
プラン確認時の状況	SD4とSD5の埋設後にSX(F)52がつくられたように観察された。				
出土遺物	炭化材・鉄滓				



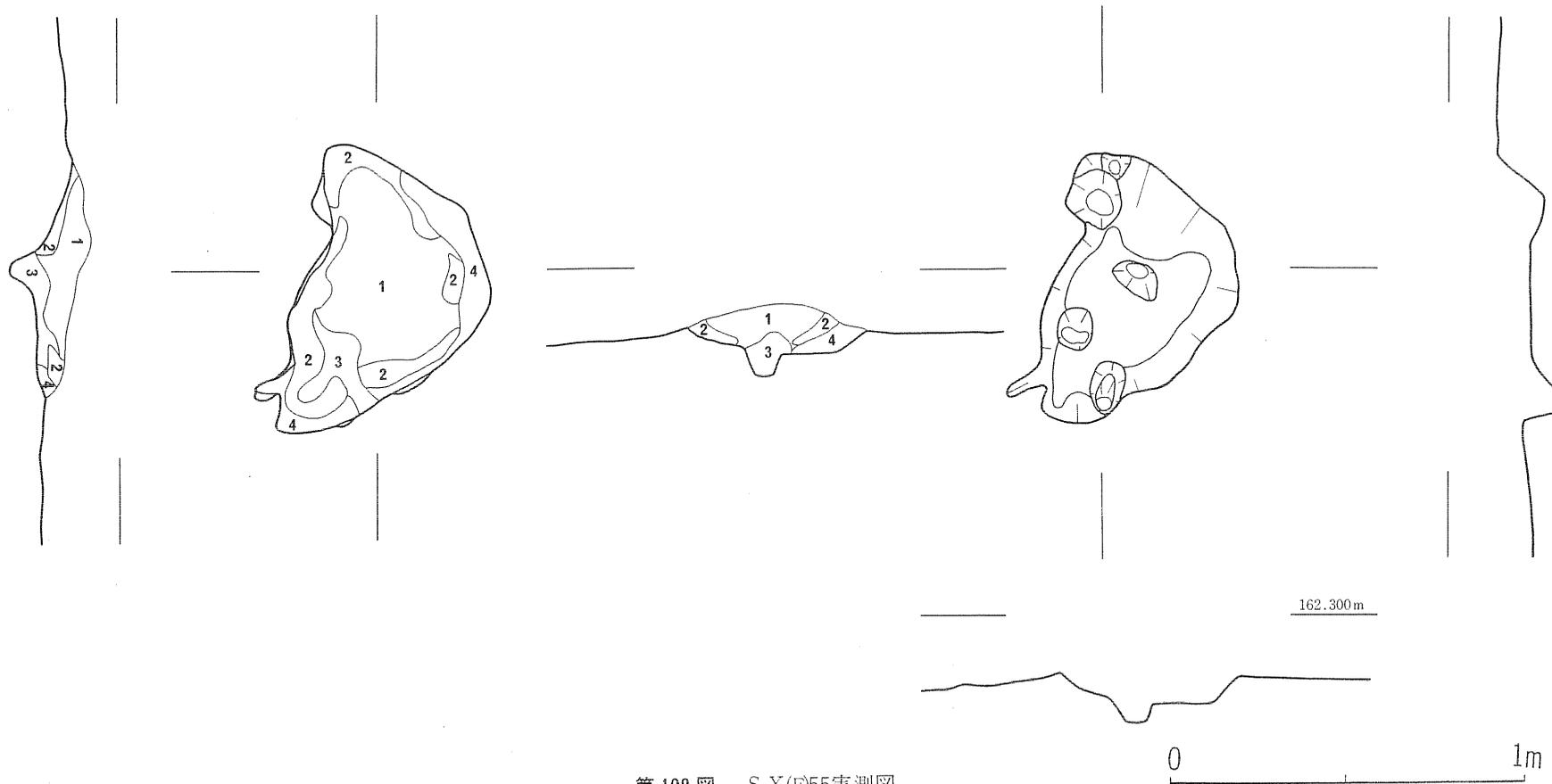
第 107 図 S X(F)54実測図

第 114 表 S X(F)54計測・説明表

検出地区	21-C、22-C	実測図番号	107	図版番号		
法量	長さ	102cm	幅	57cm	方向	N-7°-W
	平面形状	洋梨形	深さ	9cm	横断面形状	逆台形
プラン確認時の状況	焼土と黒色系土の堆積が大湯浮石層上面で検出された。					
出土遺物	なし					

土 層 註 記

- | | |
|---|--|
| 1 7.5Y R _{6/2} 明褐色土 (焼土) | 2 7.5Y R _{6/2} 褐色土 (焼土) |
| 3 7.5Y R _{6/2} 褐色土 (灰) の層 炭化物混入。 | 4 10Y R ¹ ・ ₂ 黒色土 (炭化物) |
| 5 2.5Y ₆ 暗オリーブ褐色土 (灰) の層。 | 6 10Y R ¹ ・ ₂ 黒色土 (炭化物) |
| 7 7.5Y R _{6/2} 極暗褐色土 粘性なし 粒子非常に細かい。 | 8 10Y R _{6/2} 褐色土 粘性なし 粒子細かい。 |
| 9 10Y R _{6/2} 黄褐色土 粘性なし 粒子非常に細かい。 | 10 7.5Y R _{6/2} 褐色土 (焼土) |
| 11 7.5Y R ¹ ・ ₂ 黒色土 (炭化物) | 12 2.5Y ₆ 暗灰黄色土 (灰) |
| 13 5Y R ¹ ・ ₂ 黒色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物混入。 | 14 7.5Y R ¹ ・ ₂ 黒色土 粘性あり 粒子細かい 浮石混入。 |



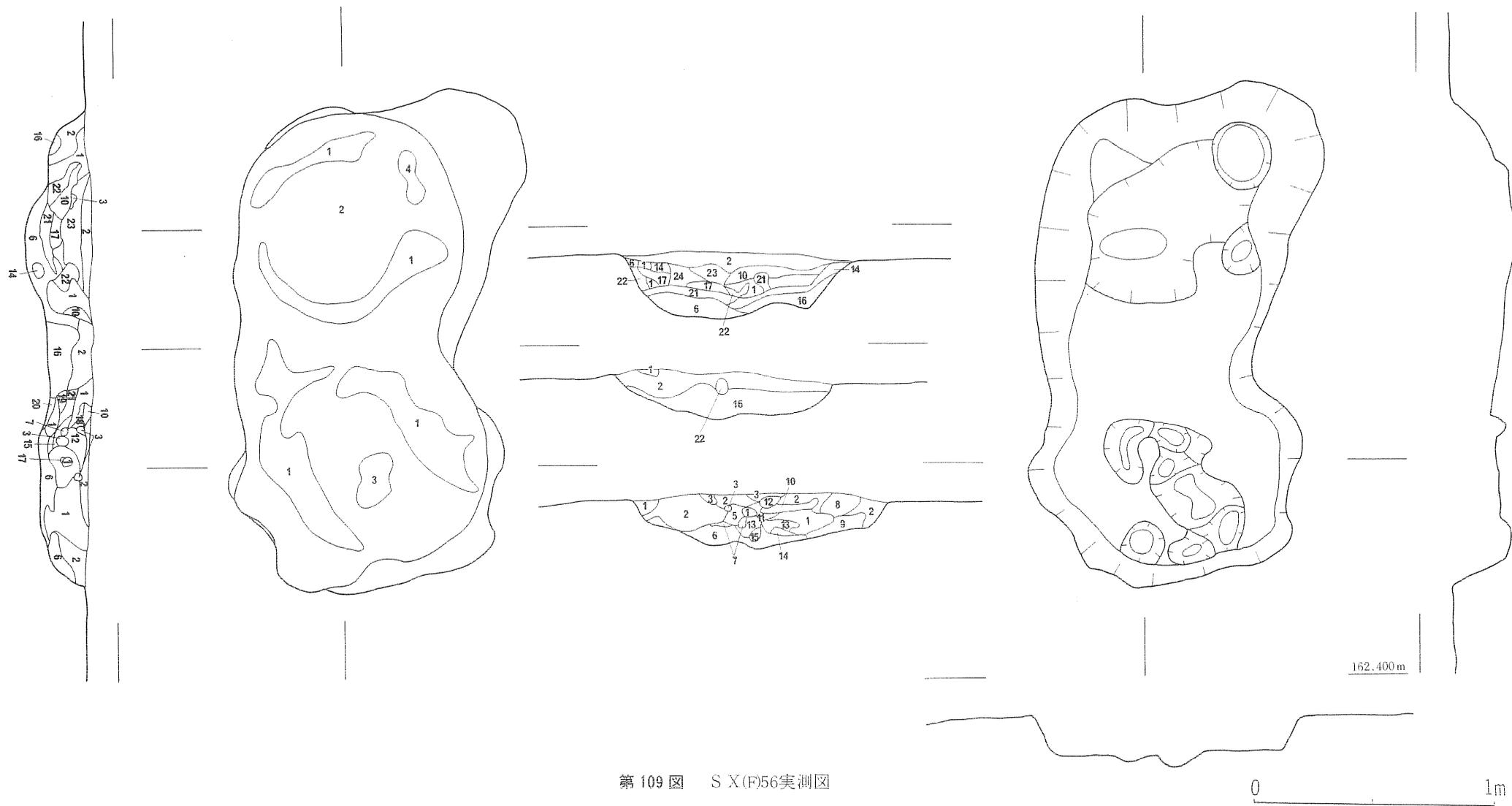
第108図 S X(F)55実測図

第115表 S X(F)55計測・説明表

検出地区	18-F	実測図番号	108	図版番号		
法量	長さ	76cm	幅	50cm	方向	N-67°-W
	平面形状	不整半円形	深さ	20cm	横断面形状	2段逆台形
プラン確認時の状況	大湯浮石層の上面で検出されたが、プランが不明確であった。					
出土遺物	なし					

土層註記

- 1 10Y R¹/2 黒色土 粘性なし。
- 2 5Y R⁵ 明褐色土 焼土。
- 3 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 浮石及び炭化物微量混入。
- 4 10Y R¹/2 黒色土 粘性あり。



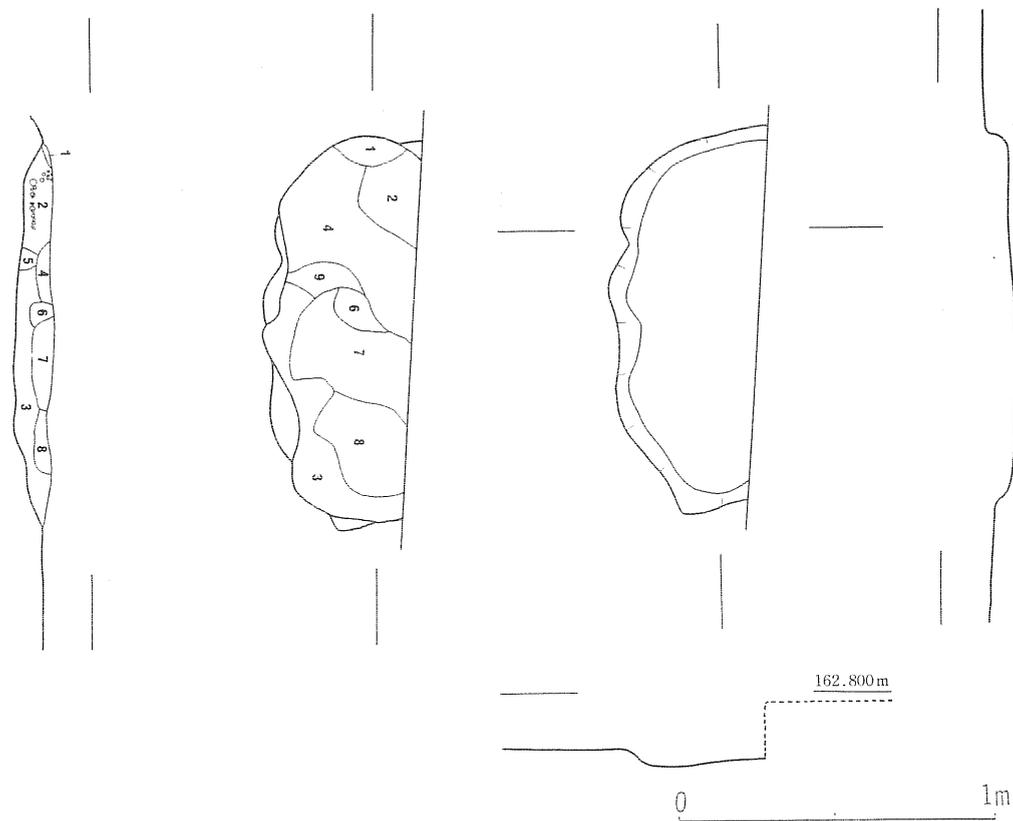
第109図 S X(F)56実測図

第116表 S X(F)56計測・説明表

検出地区	20-A	実測図番号	109	図版番号		
法量	長さ	204cm	幅	112cm	方向	N-15°-E
	平面形状	双円形	深さ	28cm	横断面形状	鍋底形
プラン確認時の状況	焼土と黒色土のプランが検出されたが、双円形を呈するので、円形の焼土が2個と思われた。					
出土遺物	なし					

土層註記

- | | |
|--|--|
| 1 7.5Y R _{5/2} 明褐色土 焼土。 | 2 7.5Y R ¹ -7 ₂ 黒色土 粘性あり 浮石混入。 |
| 3 10Y R _{5/2} 明黄褐色土(焼土) 黒褐色土多量混入。 | 4 10Y R _{5/2} 褐色土(焼土) 浮石微量 黒褐色土多量混入。 |
| 5 10Y R _{5/2} 黒褐色土 粘性あり 浮石及び黄褐色土粒子混入。 | 6 10Y R ¹ -7 ₂ 黒色土 粘性あり。 |
| 7 10Y R _{5/2} 黄褐色土(焼土) 1mm前後の礫多量混入。 | 8 10Y R _{5/2} 黒褐色土 粘性あり 焼土多量 浮石微量混入。 |
| 9 10Y R _{5/2} 暗褐色土 粘性あり 黒色土及び浮石混入。 | 10 7.5Y R _{5/2} 明褐色土 焼土。 |
| 11 10Y R _{5/2} 褐色土 粘性あり 黒色土及び浮石混入。 | 12 10Y R _{5/2} 黒褐色土 粘性あり 明黄褐色土 浮石混入。 |
| 13 10Y R _{5/2} にぶい黄褐色土(焼土) 浮石及び炭化物を含む。 | 14 10Y R ¹ -7 ₂ 黒色土 粘性なし にぶい黄褐色土及び黄褐色土 粒子混入。 |
| 15 10Y R _{5/2} 褐色土 粘性あり 黒色土及び黄褐色土 粒子混入。 | 16 10Y R _{5/2} 暗褐色土 粘性あり 黄褐色土 粒子混入。 |
| 17 10Y R _{5/2} 灰黄褐色土 粘性あり 灰か? | 18 10Y R _{5/2} 黄褐色土(焼土) 浮石及び黒色土混入。 |
| 19 炭化物の層。 | 20 10Y R _{5/2} 明黄褐色土 粘性あり。 |
| 21 10Y R _{5/2} 黒色土 粘性あり 炭化物多量混入。 | 22 10Y R _{5/2} 黒褐色土 粘性あり 焼土 黄褐色土及び暗褐色土混入。 |
| 23 10Y R _{5/2} 黒色土 粘性あり 黄褐色土及び黄褐色土 粒子を含む。 | |



第110図 SX(F)57実測図

第117表 SX(F)57計測・説明表

検出地区	9-0	実測図番号	110	図版番号	
法	長さ	幅	(48cm)	方向	N-2°-E
量	平面形状	深さ	6cm	横断面形状	現況逆台形
プラン確認時の状況	S I 15の覆土(埋土)の上に焼土・黒色土の堆積が認められた。S I 15より新しい。東側は調査対象区域外に続く。				
出土遺物	炭化材				

土層註記

- | | |
|---|---|
| 1 10Y R 5/6 褐色土(焼土) 粒子荒い 炭化物多量混入。 | 2 10Y R 1/2 黒色土 粘性なし 粒子非常に細かい 炭化物多量混入。 |
| 3 7.5Y R 1/2 黒色土 粘性あり 粒子細かい 焼土若干混入。 | 4 10Y R 5/6 灰黄褐色土 粘性なし 粒子非常に細かい 炭化物混入(灰)混入。 |
| 5 10Y R 1/2 黒褐色土 粘性あり 粒子非常に細かい 褐色土若干混入。 | 6 10Y R 5/6 黒色土 焼土 粘性なし 粒子粗い 炭化物混入。 |
| 7 7.5Y R 5/6 明褐色(焼土) 粒子粗い 炭化物 灰混入。 | 8 7.5Y R 5/6 褐色土(焼土) 粒子粗い 炭化物 灰混入。 |

開口部長軸	243cm
開口部短軸	65cm
壙底部長軸	230cm
壙底部短軸	47cm
深 さ	49～55cm
長軸方向	N-45°-W
平面形状	鷹羽状
断面形状	U字状
出土遺物	なし
備考	SK03と重複 検出地区1-E、F

開口部長軸	122cm
開口部短軸	80cm
壙底部長軸	127cm
壙底部短軸	110cm
深 さ	65～75cm
長軸方向	N-53°-E
平面形状	不整長円形
断面形状	一部袋状
出土遺物	なし
備考	検出地区2-E

SK(T)01・SK03 土層註記

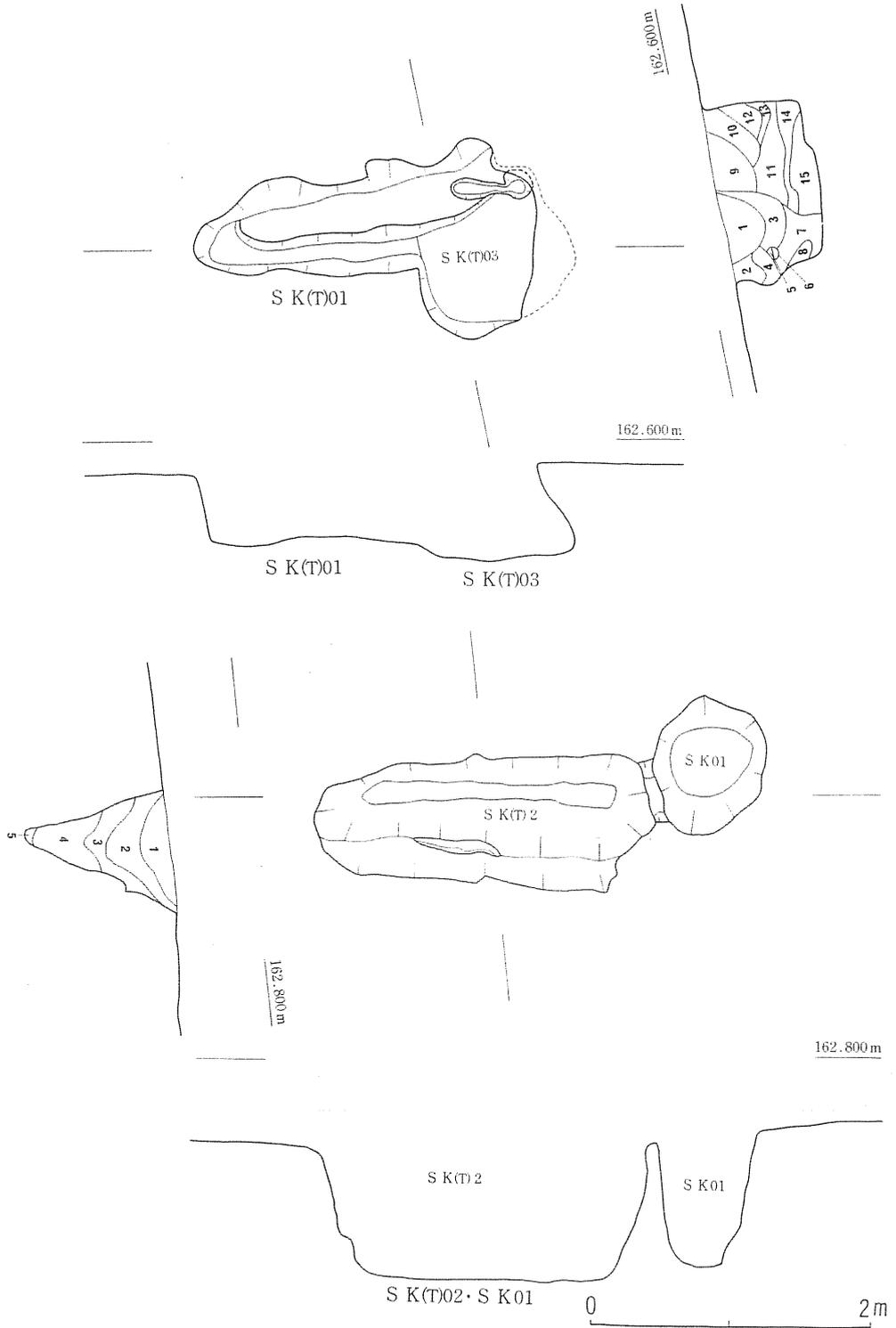
- | | |
|--|--|
| 1 10Y R ¹ /s 黒色土 上層部に黄褐色の浮石少量混入 | 2 10Y R ² 黒褐色土 明黄褐色の細砂が多量混入 |
| 3 10Y R ³ 黒褐色土 明黄褐色の浮石が少量混入 | 4 10Y R ⁴ 土に黄褐色土 黄褐色の浮石が少量混入 |
| 5 10Y R ⁵ 明黄褐色土 | 6 10Y R ⁶ 黒色土 |
| 7 10Y R ⁷ 黒褐色土 黄褐色土及び明黄褐色土が多量混入 | 8 10Y R ⁸ 明黄色土 |
| 9 10Y R ⁹ 黒褐色土 黄褐色土(浮石まじり)が少量混入 | 10 10Y R ¹⁰ 黄褐色土 黒褐色土が層状に多量混入 |
| 11 10Y R ¹¹ 黒褐色土 黄褐色土が多量混入 | 12 10Y R ¹² 暗褐色土 |
| 13 10Y R ¹³ 黄褐色土 壁際に土に黄褐色土が少量混入 | 14 10Y R ¹⁴ 黄褐色土 土に黄褐色土が少量混入 |
| 15 10Y R ¹⁵ 黒褐色土 | |

開口部長軸	243cm
開口部短軸	92cm
壙底部長軸	182cm
壙底部短軸	18cm
深 さ	93～98cm
長軸方向	N-39°-W
平面形状	鷹羽状
断面形状	V字状
出土遺物	なし
備考	SK01と重複 検出地区0-D、1-D

開口部長軸	101cm
開口部短軸	80cm
壙底部長軸	60cm
壙底部短軸	50cm
深 さ	88～90cm
長軸方向	N-71°-E
平面形状	不整円形
断面形状	U字形
出土遺物	なし
備考	検出地区1-D

SK(T)02 土層註記

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1 10Y R ¹ 黒褐色土 黄褐色土少量混入 | 2 10Y R ² 黒色土 黒褐色土少量混入 |
| 3 10Y R ³ 暗褐色土 黄褐色土多量混入 | 4 10Y R ⁴ 黄褐色土 明黄褐色土がブロック状に多量混入 |
| 5 10Y R ⁵ 土に黄褐色土 | |



第 111 図 S K(T)01 · S K(T)02 · S K01 · S K03 実測図

開口部長軸	150cm
開口部短軸	40cm
壙底部長軸	140cm
壙底部短軸	7cm
深 さ	16cm
長軸方向	N—41°—W
平面形状	葉 卷 状
断面形状	偏 V 字 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 1—E

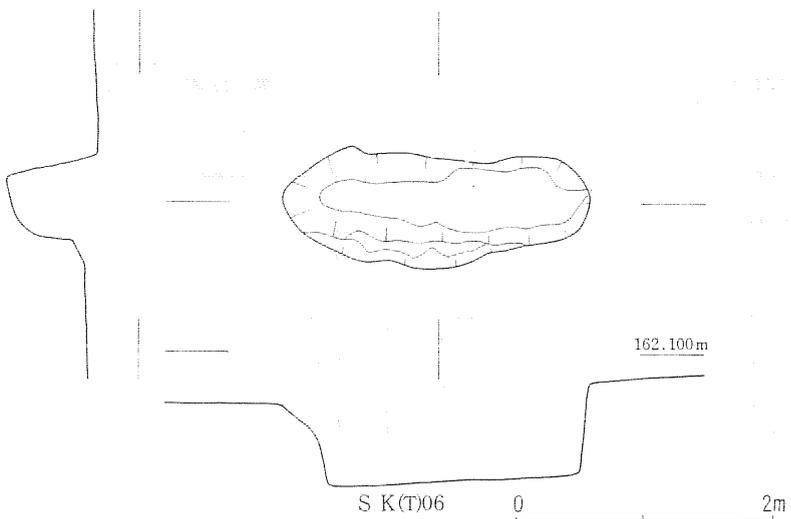
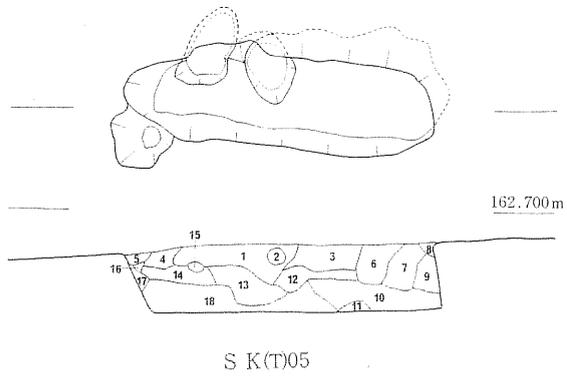
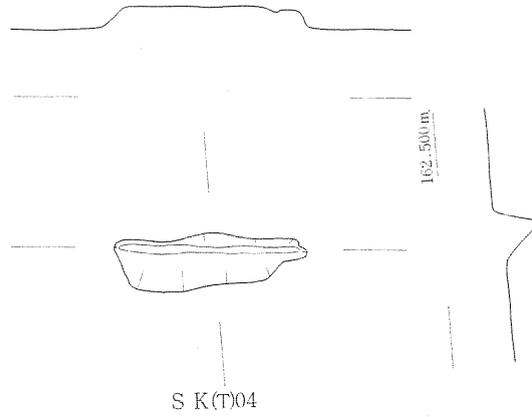
開口部長軸	240cm
開口部短軸	70cm
壙底部長軸	230cm
壙底部短軸	80cm
深 さ	9.9~93cm
長軸方向	N—20°—W
平面形状	鷹 羽 状
断面形状	偏 U 字 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 2—F、3—F

S K(T)05 土層註記

- 1 7.5Y R¹/2 黒色土 粘性あり 粒子非常に細かい 7.5Y R²/3 褐色土 10Y R²~10Y R³ 明黄褐色土若干混入
- 3 5Y R¹/2 黒色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 7.5Y R² 橙色土 5Y S² 黄褐色土少量混入
- 5 10Y R² 暗褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土微量混入
- 7 10Y R² 黒褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R²~10Y R³ 明黄褐色土 7.5Y R² 黒色土多量混入
- 9 10Y R² 褐色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R² 黄褐色土 10Y R² 明黄褐色土 10Y R² 黒褐色土が斑点状に混入
- 11 10Y R² 黄褐色土 粘性なし 粒子粗い 10Y R² 黒色土 10Y R² 明黄褐色土が点在
- 13 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 黄褐色土 7.5Y R² 橙色土 10Y R² 黄褐色土 7.5Y R² 黒色土 2.5Y² オリーブ褐色土が多量混入
- 15 7.5Y R² 黒色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土微量混入
- 17 10Y R² 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R²~10Y R³ 明黄褐色土 10Y R¹/2 黒色土が多量混入
- 2 7.5Y R² 黒色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土若干混入
- 4 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土 10Y R¹/2 赤黒色土多量混入
- 6 10Y R² 黒色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 7.5Y R² 黄褐色土 10Y R² 黄褐色土少量混入
- 8 10Y R² 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土若干混入
- 10 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土 7.5Y R² 黒色土 10Y R² 黄褐色土多量混入
- 12 7.5Y R² 黒色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 明黄褐色土 7.5Y R² 橙色土 10Y R² 明黄褐色土多量混入
- 14 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 黄褐色土 10Y R² 黄褐色土 10Y R² 黄褐色土少量混入
- 16 10Y R² 黄褐色土 粘性なし 粒子粗い浮石混入
- 18 10Y R² 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R² 黄褐色土 10Y R² 暗褐色土 10Y R² 黄褐色土 10Y R² 黒色土多量混入

開口部長軸	240cm
開口部短軸	90cm
壙底部長軸	212cm
壙底部短軸	50cm
深 さ	70cm
長軸方向	N—18°—W
平面形状	鷹 羽 状
断面形状	偏 U 字 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 3—G

開口部長軸	266cm
開口部短軸	73cm
壙底部長軸	160cm
壙底部短軸	17cm
深 さ	84~91cm
長軸方向	N—9°—W
平面形状	鷹 羽 状
断面形状	Y 字 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 15—B



第 112 図 S K(T)04 · S K(T)05 · S K(T)06実測図

第126表 S K(T)08計測・説明書	
開口部長軸	210cm
開口部短軸	82cm
壙底部長軸	214cm
壙底部短軸	20cm
深 さ	55~105cm
長軸方向	N-17°-W
平面形状	鷹羽状
断面形状	2段U字状
出土遺物	なし
備考	SI40より古い 検出地区15-E

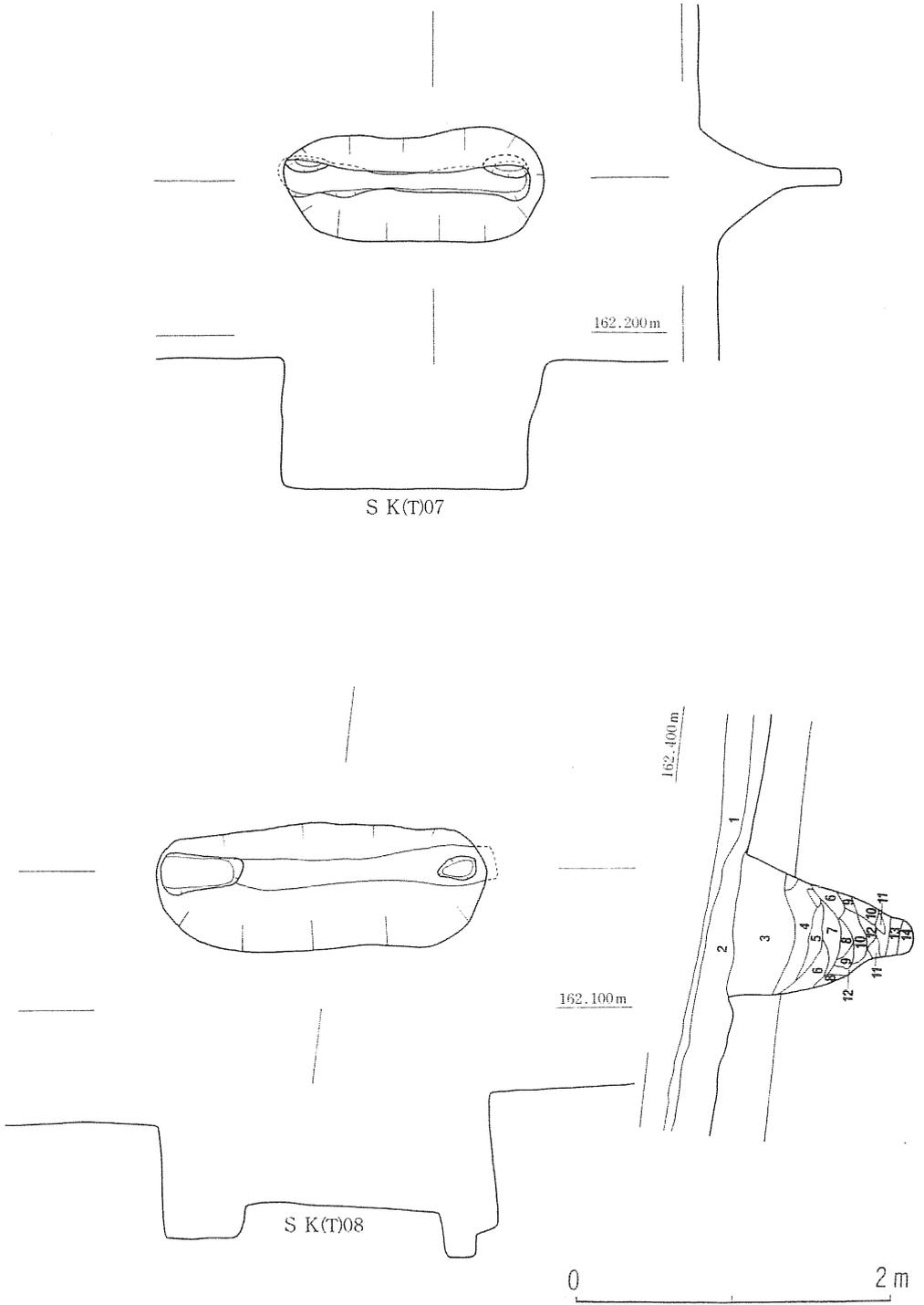
第127表 S K(T)09計測・説明表	
開口部長軸	180cm
開口部短軸	45cm
壙底部長軸	173cm
壙底部短軸	18cm
深 さ	69~80cm
長軸方向	N-16°-W
平面形状	不整葉巻状
断面形状	Y字状
出土遺物	なし
備考	検出地区15-D

S K(T)08 土層註記

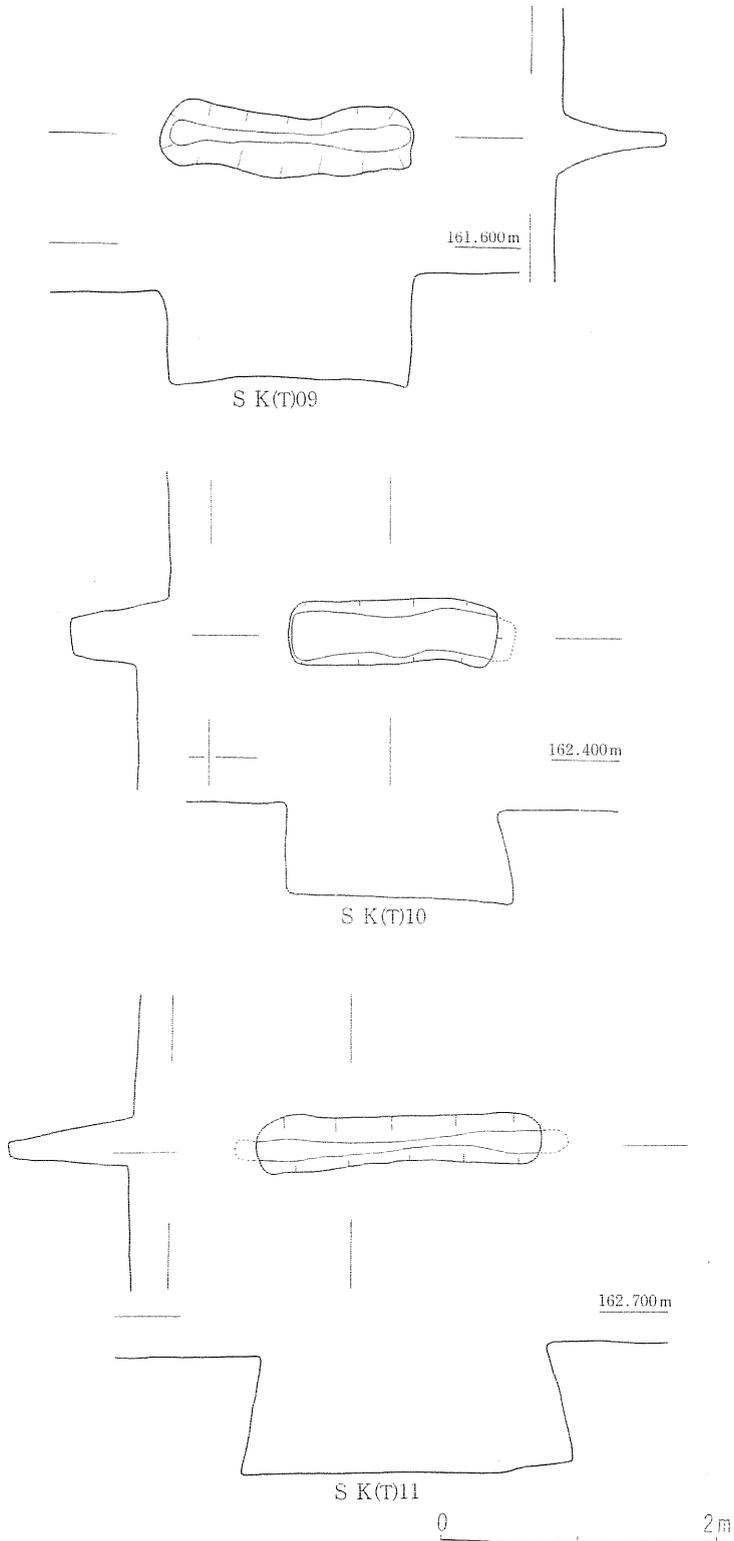
- | | |
|--|--|
| 1 大湯浮石層 | 2 10Y R _{6/2} 黒褐色土 やや硬 |
| 3 10Y R _{6/2} 黒褐色土 やや軟 | 4 10Y R _{6/2} 黒褐色土 |
| 5 10Y R _{6/2} 黒色土 やや硬 | 6 10Y R _{6/2} 褐色土 軟 ロームブロック少量混入 |
| 7 10Y R _{6/2} 黒褐色土 軟 | 8 10Y R _{6/2} 暗褐色土 硬 |
| 9 10Y R _{6/2} 濃い黄褐色土 硬 ロームブロック少量混入 | 10 10Y R _{6/2} 濃い黄褐色土 やや硬 ロームブロック少量混入 |
| 11 10Y R _{6/2} 明褐色土 やや軟 ロームブロック少量混入 | 12 10Y R _{6/2} 濃い黄褐色土 軟 ロームブロック少量混入 |
| 13 10Y R _{6/2} 黒色土 軟 ロームブロック多量混入 | 14 10Y R _{6/2} 褐色土 軟 ロームブロック少量混入 |
| 15 10Y R _{6/2} 濃い黄褐色土 軟 ロームブロック少量混入 | |

第128表 S K(T)10計測・説明表	
開口部長軸	151cm
開口部短軸	47cm
壙底部長軸	161cm
壙底部短軸	30cm
深 さ	66~68cm
長軸方向	N-4°-W
平面形状	葉巻状
断面形状	U字状
出土遺物	なし
備考	検出地区 15-H

第129表 S K(T)11計測・説明表	
開口部長軸	206cm
開口部短軸	33cm
壙底部長軸	240cm
壙底部短軸	15cm
深 さ	87~92cm
長軸方向	N-9°-E
平面形状	葉巻状
断面形状	V字状
出土遺物	なし
備考	検出地区15-J



第 113 图 S K(T)07 · S K(T)08 实测图



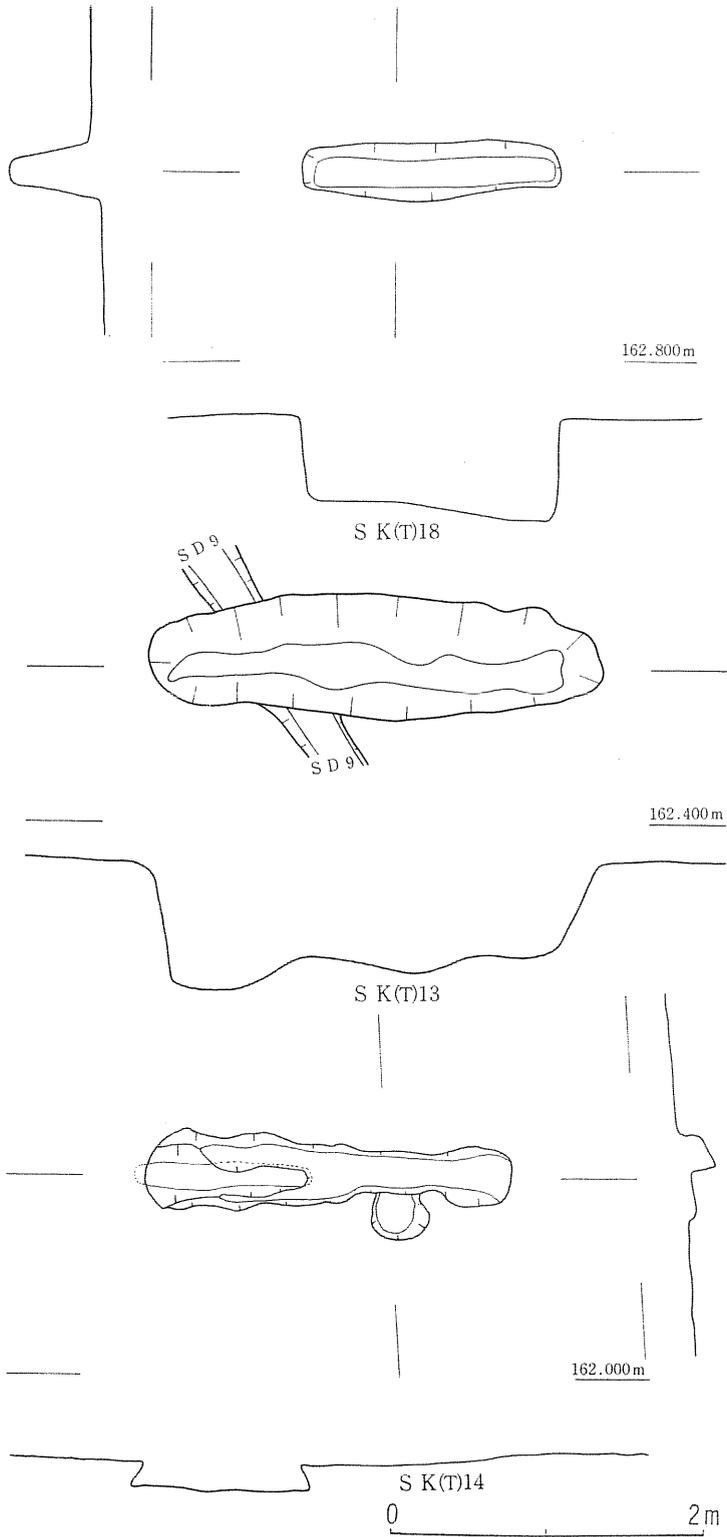
第 114 図 S K(T)09・S K(T)10・S K(T)11実測図

第130表 SK(T)12計測・説明表	
開口部長軸	165cm
開口部短軸	38cm
壙底部長軸	154cm
壙底部短軸	17cm
深 さ	54~65cm
長軸方向	N-5°-E
平面形状	葉巻状
断面形状	U字状
出土遺物	なし
備考	検出地区 15-K

第131表 SK(T)13計測・説明表	
開口部長軸	290cm
開口部短軸	80cm
壙底部長軸	250cm
壙底部短軸	30cm
深 さ	60~83cm
長軸方向	N-42°-E
平面形状	鷹羽状
断面形状	U字状
出土遺物	なし
備考	検出地区 28-B、29-B

第132表 SK(T)14計測・説明表	
開口部長軸	233cm
開口部短軸	50cm
壙底部長軸	240cm
壙底部短軸	36cm
深 さ	1~20cm
長軸方向	N-8°-E
平面形状	葉巻状
断面形状	U字状
出土遺物	なし
備考	検出地区 27-G

第133表 SK02計測・説明表	
開口部長軸	86cm
開口部短軸	72cm
壙底部長軸	60cm
壙底部短軸	52cm
深 さ	6~10cm
長軸方向	N-44°-E
平面形状	円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 6-B



第 115 図 SK(T)12・SK(T)13・SK(T)14実測図

開口部長軸	85cm
開口部短軸	76cm
壙底部長軸	54cm
壙底部短軸	54cm
深 さ	93～98cm
長 軸 方 向	N—83°—E
平 面 形 状	円 形
断 面 形 状	円 筒 状
出 土 遺 物	な し
備 考	検出地区 1—D

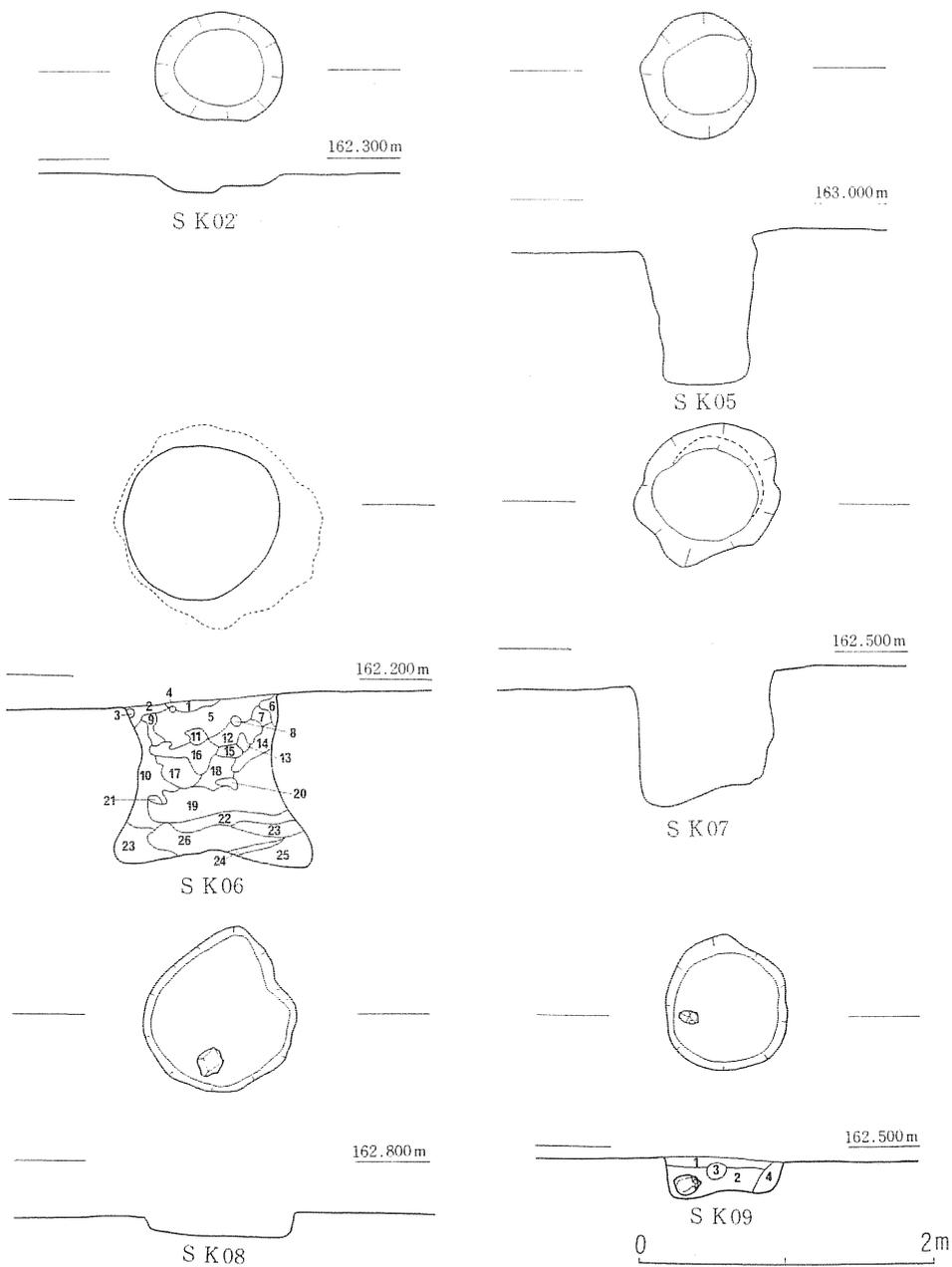
開口部長軸	105cm
開口部短軸	102cm
壙底部長軸	139cm
壙底部短軸	125cm
深 さ	103～118cm
長 軸 方 向	N—24°—E
平 面 形 状	円 形
断 面 形 状	フ ラ ス コ 状
出 土 遺 物	な し
備 考	検出地区 1—C

S K 06 土層註記

- | | |
|---|---|
| <p>1 10Y R₅ 黒色土 粘性なし 粒子は非常に細かい 10Y R₅ 黄褐色土がわずかに混入</p> <p>3 10Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土が一部に集中して混入</p> <p>5 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は非常に細かい 10Y R₅ 黄褐色土がわずかに混入</p> <p>7 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土が微量混入</p> <p>9 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土が微量混入</p> <p>11 7.5Y R 黒色土 粘性あり 粒子は細かくφ2.0mmの小石少量混入 10Y R₅ 明黄褐色土が微量混入</p> <p>13 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅</p> <p>15 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄橙色土が少量混入</p> <p>17 10Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かいφ3mmの小石少量混入</p> <p>19 10Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土 10Y R₅～10Y R₅ 明黄褐色土が少量混入</p> <p>21 10Y R₅ 黄褐色土 粘性なし 粒子は粗い 混入物なし</p> <p>23 10Y R₅ 黄褐色土 粘性なし 粒子は粗い 10Y R₅ 黒褐色土が若干混入</p> <p>25 10Y R₅ 黒色土 粘性なし 粒子は細かい 混入物なし</p> | <p>2 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 混入物なし</p> <p>4 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい</p> <p>6 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい</p> <p>8 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かいφ5.0mmの小石が若干混入</p> <p>10 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土が多量混入し攪乱されている</p> <p>12 5Y R₁ 黒色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 暗褐色土が斑点状に分布する</p> <p>14 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 7.5Y R₅ 明褐色土 10Y R₅ 黄褐色土が少量混入</p> <p>16 10Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R₅～10Y R₅ 明黄褐色土(φ10mm)が若干混入</p> <p>18 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土少量混入</p> <p>20 木の根</p> <p>22 10Y R₅ 明黄褐色土 粘性なし 粒子は粗い 7.5Y R₅ 橙色土が若干混入</p> <p>24 10Y R₅ にぶい黄褐色土 粘性あり 10Y R₅ 黄橙色土が微量混入</p> <p>26 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 明黄褐色土が微量混入</p> |
|---|---|

S K 09 土層註記

- | | |
|---|--|
| <p>1 10Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は粗い 10Y R₅ にぶい黄褐色土と 10Y R₅ 黄褐色土少量混入</p> <p>3 5Y R₁ 黒褐色土 粘性なし 粒子は粗い 10Y R₅ 明黄褐色土がわずかに混入</p> | <p>2 10Y R₅ 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土と 10Y R₁ 黒色土が各所に点在する</p> <p>4 7.5Y R₅ 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R₅ 黄褐色土が微量混入</p> |
|---|--|



第 116 图 S K02 · S K05 · S K06 · S K07 · S K08 · S K09 实测图

第 136 表 S K 07計測・説明表	
開口部長軸	102cm
開口部短軸	92cm
壙底部長軸	72cm
壙底部短軸	61cm
深 さ	73~84cm
長軸方向	N-85°-W
平面形状	不 整 円 形
断面形状	不 整 円 筒 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 0-B、1-B

第 137 表 S K 08計測・説明表	
開口部長軸	110cm
開口部短軸	103cm
壙底部長軸	103cm
壙底部短軸	93cm
深 さ	8~17cm
長軸方向	N-89°-W
平面形状	不 整 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	磔
備 考	検出地区 4-A

第 138 表 S K 09計測・説明表	
開口部長軸	92cm
開口部短軸	84cm
壙底部長軸	74cm
壙底部短軸	71cm
深 さ	22~30cm
長軸方向	N-13°-E
平面形状	不 整 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	磔
備 考	検出地区 4-O、4-A

第 139 表 S K 10計測・説明表	
開口部長軸	99cm
開口部短軸	96cm
壙底部長軸	85cm
壙底部短軸	85cm
深 さ	10~13cm
長軸方向	N-83°-E
平面形状	不 整 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 4-A

S K 10 土層註記

- | | |
|--|---|
| <p>1 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 10Y R% 褐色土と 10Y R% 褐灰色土 2.5Y R% 黄灰色土 10Y R% におい黄褐色土が多量に混入し 7.5Y R% 明褐色土が微量混入</p> <p>3 7.5Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子はやや細かい</p> <p>5 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は粗い浮石若干混入</p> | <p>2 5Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は若干細かい 10Y R% 褐色土が若干混入</p> <p>4 5Y R¹・% 黒色土 粘性なし 粒子は非常に細かい 混入物なし</p> <p>6 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 黄褐色土若干混入</p> |
|--|---|

S K 11 土層註記

- 1 10Y R% 黒褐色土 浮石が少量混入

S K 12 土層註記

- 1 10Y R% 暗褐色土 におい黄褐色土が多量混入

開口部長軸	102cm
開口部短軸	90cm
壙底部長軸	90cm
壙底部短軸	77cm
深 さ	24~27cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	不整円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 □□□

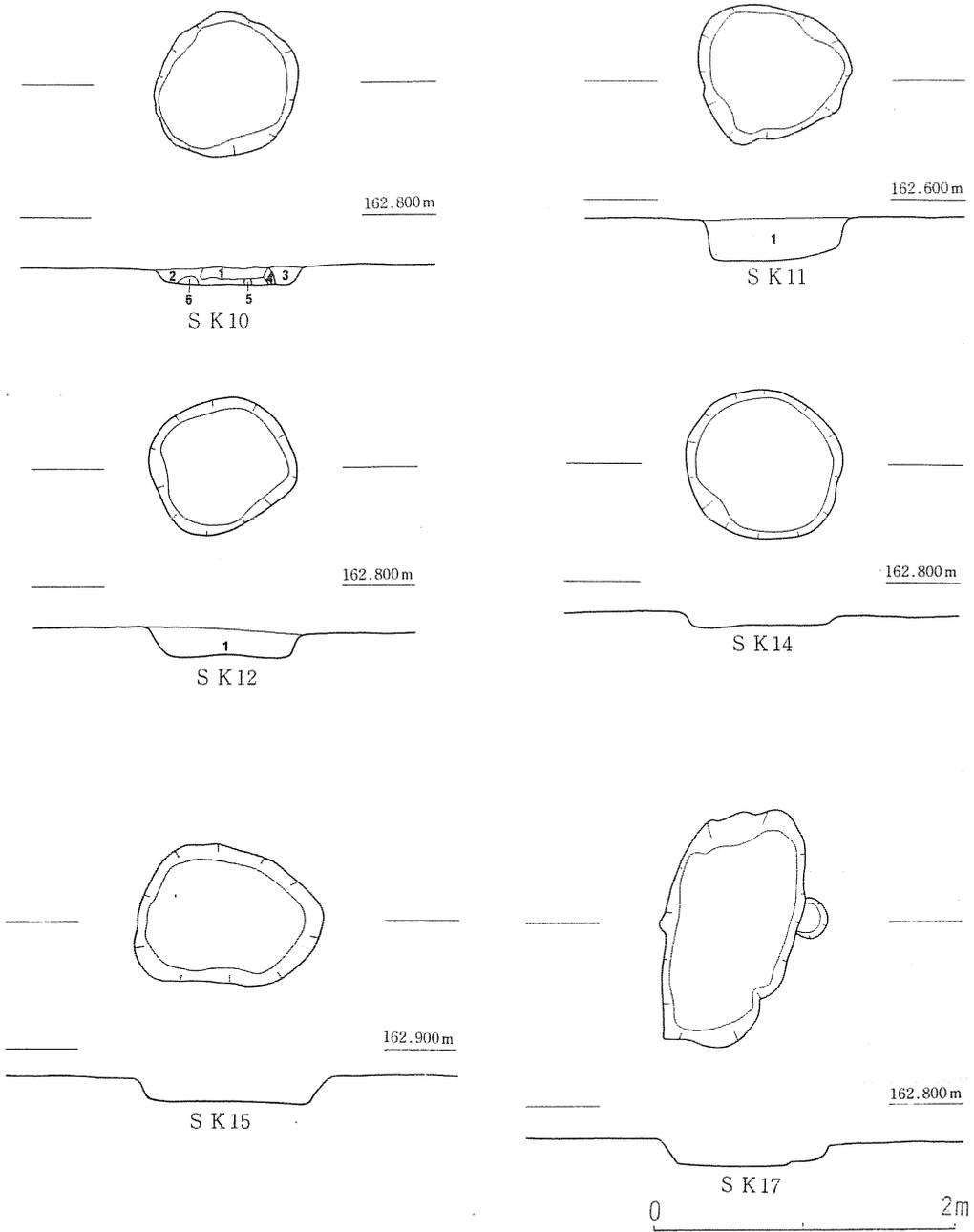
開口部長軸	100cm
開口部短軸	100cm
壙底部長軸	85cm
壙底部短軸	85cm
深 さ	17~19cm
長軸方向	N-3°-E
平面形状	不整円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 5-A

開口部長軸	105cm
開口部短軸	100cm
壙底部長軸	90cm
壙底部短軸	90cm
深 さ	7~11cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	不整円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 5-A、6-A

開口部長軸	117cm
開口部短軸	90cm
壙底部長軸	98cm
壙底部短軸	72cm
深 さ	16~19cm
長軸方向	N-77°-W
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 5-C

開口部長軸	165cm
開口部短軸	90cm
壙底部長軸	140cm
壙底部短軸	75cm
深 さ	11~17cm
長軸方向	N-20°-E
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 3-C

開口部長軸	132cm
開口部短軸	120cm
壙底部長軸	89cm
壙底部短軸	72cm
深 さ	13~30cm
長軸方向	N-7°-E
平面形状	長方形
断面形状	2段逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 1-F、G



第 117 図 S K10・S K11・S K14・S K15・S K17実測図

開口部長軸	162cm
開口部短軸	96cm
壙底部長軸	147cm
壙底部短軸	77cm
深 さ	13~14cm
長軸方向	N-5°-E
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 1-G、2-G

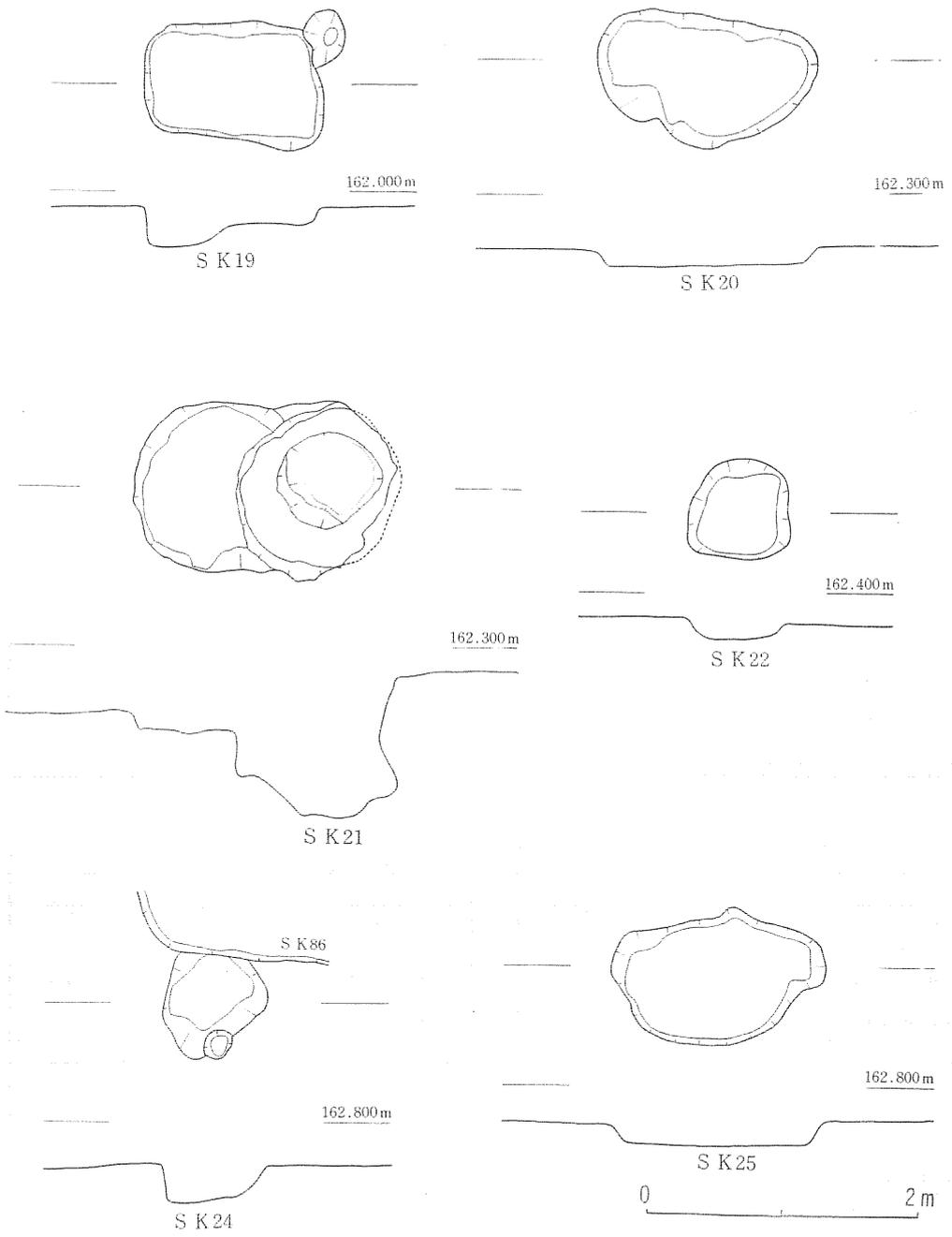
開口部長軸	129cm
開口部短軸	100cm
壙底部長軸	120cm
壙底部短軸	96cm
深 さ	87~95cm
長軸方向	N-74°-E
平面形状	双円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 4-G

開口部長軸	75cm
開口部短軸	73cm
壙底部長軸	56cm
壙底部短軸	54cm
深 さ	12~17cm
長軸方向	N-58°-E
平面形状	隅丸方形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 5-F

開口部長軸	82cm
開口部短軸	71cm
壙底部長軸	56cm
壙底部短軸	43cm
深 さ	24~28cm
長軸方向	N-27°-E
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 2-B

開口部長軸	160cm
開口部短軸	95cm
壙底部長軸	137cm
壙底部短軸	84cm
深 さ	14~18cm
長軸方向	N-32°-E
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 3-B

開口部長軸	108cm
開口部短軸	75cm
壙底部長軸	90cm
壙底部短軸	65cm
深 さ	70~74cm
長軸方向	N-24°-E
平面形状	不整円形
断面形状	2段逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 7-D



第118図 S K19・S K21・S K22・S K24・S K25実測図

S K 26 土層註記

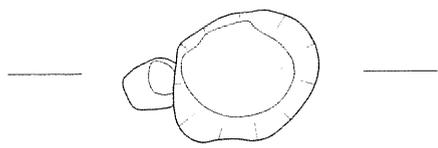
- | | |
|--|---|
| <p>1 10Y R^{5/2} 黒色土 粘性なし 粒子はやや粗い 10Y R^{5/2} 黄褐色土が少量混入</p> <p>3 10Y R^{5/2} 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 10Y R^{5/2} 黄褐色土が少量混入</p> <p>5 7.5Y R^{5/2} 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 10Y R^{5/2} 明黄褐色土と 7.5Y R^{5/2} 明褐色土が少量混入</p> <p>7 10Y R^{5/2} 暗褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R^{5/2} - 10Y R^{5/2} 明黄褐色土が少量混入</p> <p>9 10Y R^{5/2} 黄褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R^{5/2} 黒褐色土(φ50.0mmくらいのかたまり)がブロック状に混入</p> | <p>2 10Y R^{5/2} 暗褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R^{5/2} 明黄褐色土が少量混入</p> <p>4 10Y R^{5/2} 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R^{5/2} 黄褐色土(φ20.0mm)が点在</p> <p>6 10Y R^{5/2} 暗褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R^{5/2} 褐色土が少量混入</p> <p>8 10Y R^{5/2} 黄褐色土 粘性なし 粒子は粗い 10Y R^{5/2} 黒褐色土が少量混入</p> <p>10 10Y R^{5/2} 暗褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R^{5/2} 明黄褐色土と 10Y R^{5/2} 黄褐色土が多量混入</p> |
|--|---|

第 152 表 S K 27計測・説明表	
開口部長軸	120cm
開口部短軸	105cm
壙底部長軸	109cm
壙底部短軸	95cm
深 さ	15~24cm
長 軸 方 向	N-89°-W
平面形状	長 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 6-D、E

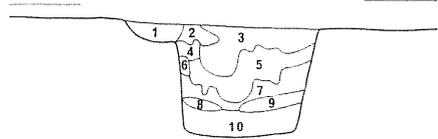
第 153 表 S K 28計測・説明表	
開口部長軸	80cm
開口部短軸	65cm
壙底部長軸	60cm
壙底部短軸	50cm
深 さ	25~55cm
長 軸 方 向	N-53°-E
平面形状	不 整 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 5-E

第 154 表 S K 66計測・説明表	
開口部長軸	110cm
開口部短軸	90cm
壙底部長軸	88cm
壙底部短軸	79cm
深 さ	60~70cm
長 軸 方 向	N-44°-E
平面形状	不 整 楕 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 6-E

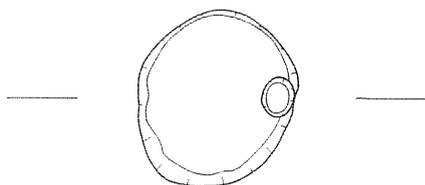
第 155 表 S K 29計測・説明表	
開口部長軸	92cm
開口部短軸	84cm
壙底部長軸	79cm
壙底部短軸	65cm
深 さ	9~20cm
長 軸 方 向	N-3°-W
平面形状	不 整 円 形
断面形状	2 段 逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 6-F



162.700m



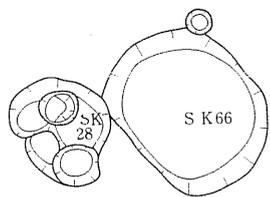
S K 26



162.800m



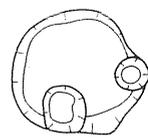
S K 27



162.600m



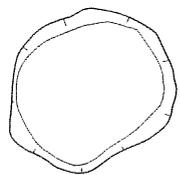
S K 28



162.400m



S K 29



162.800m



S K 34



第 119 表 S K 26 · S K 27 · S K 28 · S K 66 · S K 29 · S K 34 実測図

第156表 S K34計測・説明表	
開口部長軸	112cm
開口部短軸	110cm
壙底部長軸	98cm
壙底部短軸	95cm
深 さ	9～11cm
長軸方向	N-7°-E
平面形状	不整円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 8-O、A

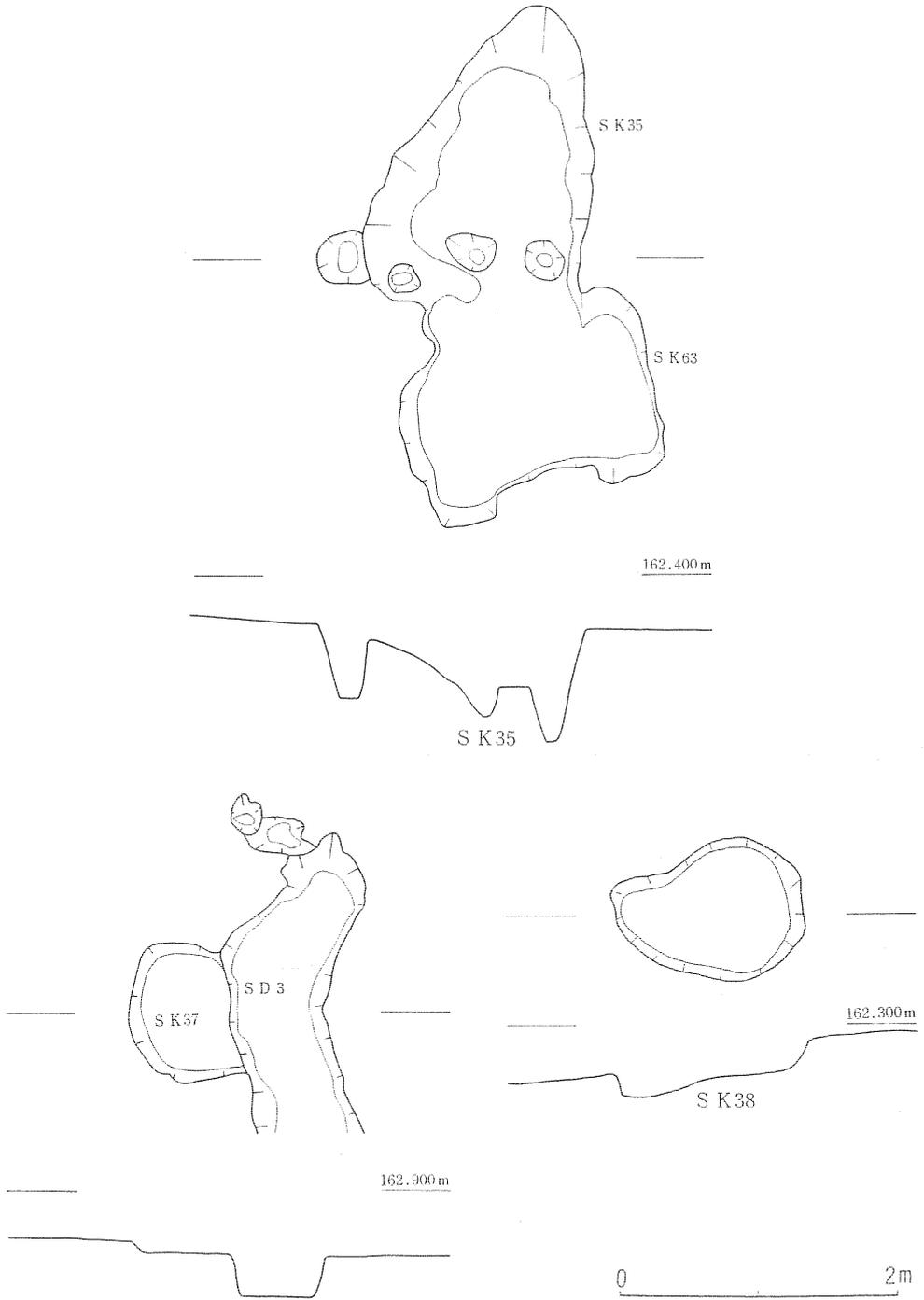
第157表 S K35計測・説明表	
開口部長軸	(220)cm
開口部短軸	(170)cm
壙底部長軸	156cm
壙底部短軸	115cm
深 さ	11～83cm
長軸方向	N-69°-W
平面形状	二等辺三角形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 0-F、1-F

第158表 S K63計測・説明表	
開口部長軸	185cm
開口部短軸	(110)cm
壙底部長軸	166cm
壙底部短軸	(90)cm
深 さ	26～46cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	長方形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 1-G、2-G

第159表 S K37計測・説明表	
開口部長軸	103cm
開口部短軸	73cm
壙底部長軸	85cm
壙底部短軸	65cm
深 さ	5～8cm
長軸方向	N-69°-W
平面形状	(円形)
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 7-D

第161表 S K38計測・説明表	
開口部長軸	135cm
開口部短軸	105cm
壙底部長軸	120cm
壙底部短軸	90cm
深 さ	16～20cm
長軸方向	N-89°-E
平面形状	洋梨形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 6-F

第161表 S K39計測・説明表	
開口部長軸	94cm
開口部短軸	80cm
壙底部長軸	70cm
壙底部短軸	55cm
深 さ	85～87cm
長軸方向	N-56°-E
平面形状	隅丸方形
断面形状	円筒形
出土遺物	なし
備考	検出地区 7-D



第 120 图 S K35 · S K63 · S K37 · S K38 实测图

S K 39 土層註記

- | | |
|---|---|
| <p>1 10Y R% 黄褐色土 粘性なし 粒子は粗い 10Y R% 黒褐色土と 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>3 7.5Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R% ~ 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>5 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 黄橙色土が少量混入</p> <p>7 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R% 明黄褐色土と 10Y R% 黄褐色土が少量混入</p> | <p>2 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% ~ 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>4 7.5Y R% 極暗褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>6 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R 明黄褐色と 10Y R% 黄橙色土が少量混入</p> <p>8 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R% 黄褐色土と 7.5Y R% 橙色土が少量混入</p> |
|---|---|

第 162 表 S K 40計測・説明表

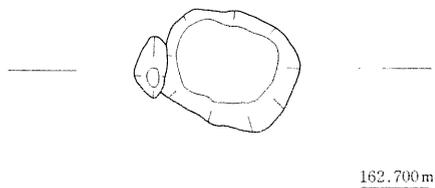
開口部長軸	123cm
開口部短軸	120cm
壙底部長軸	160cm
壙底部短軸	157cm
深 さ	75~88cm
長 軸 方 向	N—5°—E
平面形状	不 整 円 形
断面形状	フ ラ ス コ 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 7—E

第 163 表 S K 42計測・説明表

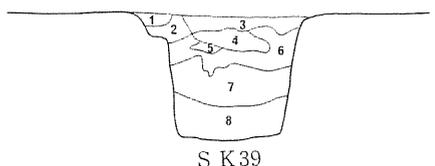
開口部長軸	166cm
開口部短軸	150cm
壙底部長軸	145cm
壙底部短軸	140cm
深 さ	94~96cm
長 軸 方 向	N—7°—W
平面形状	不 整 円 形
断面形状	フ ラ ス コ 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 0—A、1—A

S K 40 土層註記

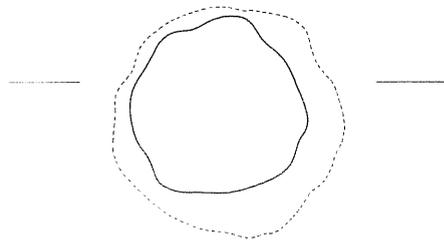
- | | |
|---|--|
| <p>1 7.5Y R% 黒色土 粘性あり 粒子粗い 10Y R% 黄橙色土 10Y R%~10Y R% 黄褐色土が若干点在する</p> <p>3 5 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 黄褐色土が微量混入</p> <p>5 7.5Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子粗い 混入物なし</p> <p>7 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子粗い 10Y R% 褐色土が若干混入</p> <p>9 10Y R% 墨 色 土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 黄褐色土が微量混入</p> <p>11 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 黄褐色土が少量混入</p> <p>13 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>15 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 黄褐色土が多量混入</p> <p>17 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 混入物なし</p> <p>19 5 Y R¹・Y 黒色土 粘性あり 粒子細かい 混入物なし</p> <p>21 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子粗い 10Y R% 明黄褐色土と 10Y R% 褐色土が多量混入</p> | <p>2 2.5Y R% 赤黒色土 粘性あり 粒子細かい 混入物なし</p> <p>4 7.5Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 混入物なし</p> <p>6 5 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 混入物なし</p> <p>8 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 明黄褐色土 2.5Y% オリーブ褐色土 10Y R% 黄褐色土 7.5Y R% 明褐色土がわずかに混入</p> <p>10 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>12 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10Y R% 暗褐色土が若干混入</p> <p>14 5 Y R¹・Y 黒色土 粘性なし 粒子細かい 10Y R% 黄褐色土と 10Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>16 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 粒子粗い 7.5Y R% 橙色土 10Y R% 黄褐色土が多量混入</p> <p>18 10Y R% 褐色土 粘性あり 粒子粗い 10Y R% 黒褐色土 10Y R% 褐色土が多量混入</p> <p>20 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子粗い 10Y R% 褐色土わずかに混入</p> |
|---|--|



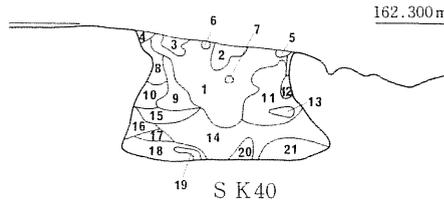
162.700m



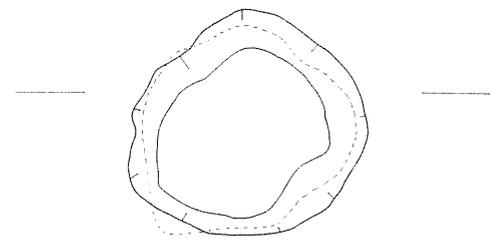
S K 39



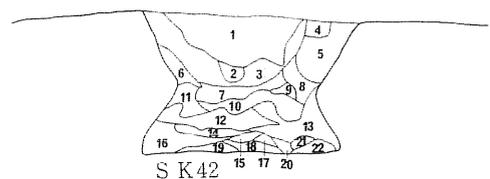
162.300m



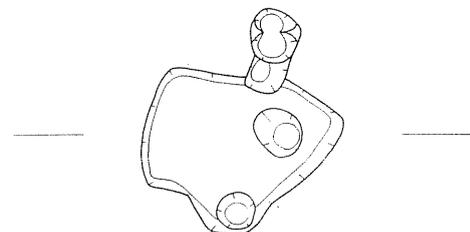
19 S K 40



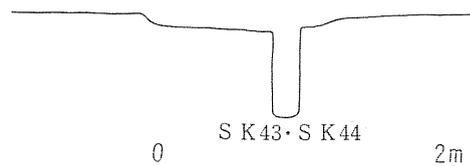
162.600m



S K 42



162.800m



S K 43・S K 44

第121図 S K 39・S K 40・S K 42・S K 43・S K 44実測図

S K 42 土層註記

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 褐色土少量混入にふい黄褐色の浮石少量混入 | 2 10Y R% 暗褐色土 粘性あり 黄褐色の浮石少量混入 |
| 3 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 黄褐色土がブロック状に少量混入 黄褐色の浮石少量混入 | 4 10Y R% 黒褐色土 粘性あり |
| 5 10Y R% 褐色土 粘性なし 黄色土がブロック状に少量混入 黄褐色浮石少量混入 | 6 10Y R% 褐色土 粘性あり 暗褐色土少量混入 |
| 7 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 黄褐色の浮石少量混入 | 8 10Y R% 褐色土 粘性あり 明黄褐色の浮石少量混入 |
| 9 10Y R% 黄褐色土 粘性あり 明黄褐色の浮石少量混入 | 10 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 黄褐色土少量混入 |
| 11 10Y R% 褐色土 粘性あり 黄褐色土が全体に多量混入 | 12 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 黄褐色土(浮石まじり)多量混入 |
| 13 10Y R% 明黄褐色土 粘性あり | 14 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土少量混入 |
| 15 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土(浮石まじり)少量混入 | 16 10Y R% 褐色土 粘性なし 暗褐色土が全体に多量混入 |
| 17 10Y R% 黄褐色土 粘性あり 黒褐色土少量混入 | 18 10Y R% 黒褐色土 粘性あり |
| 19 10Y R% 黒褐色土 粘性あり | 20 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 黄褐色土少量混入 |
| 21 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 黄褐色土少量混入 | 22 10Y R% 黄褐色土 粘性あり 黒褐色土が少量混入 |

第164表 S K43・44計測・説明表	
開口部長軸	125cm
開口部短軸	110cm
壙底部長軸	110cm
壙底部短軸	95cm
深 さ	8～70cm
長軸方向	N-59°-W
平面形状	方 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 3-A

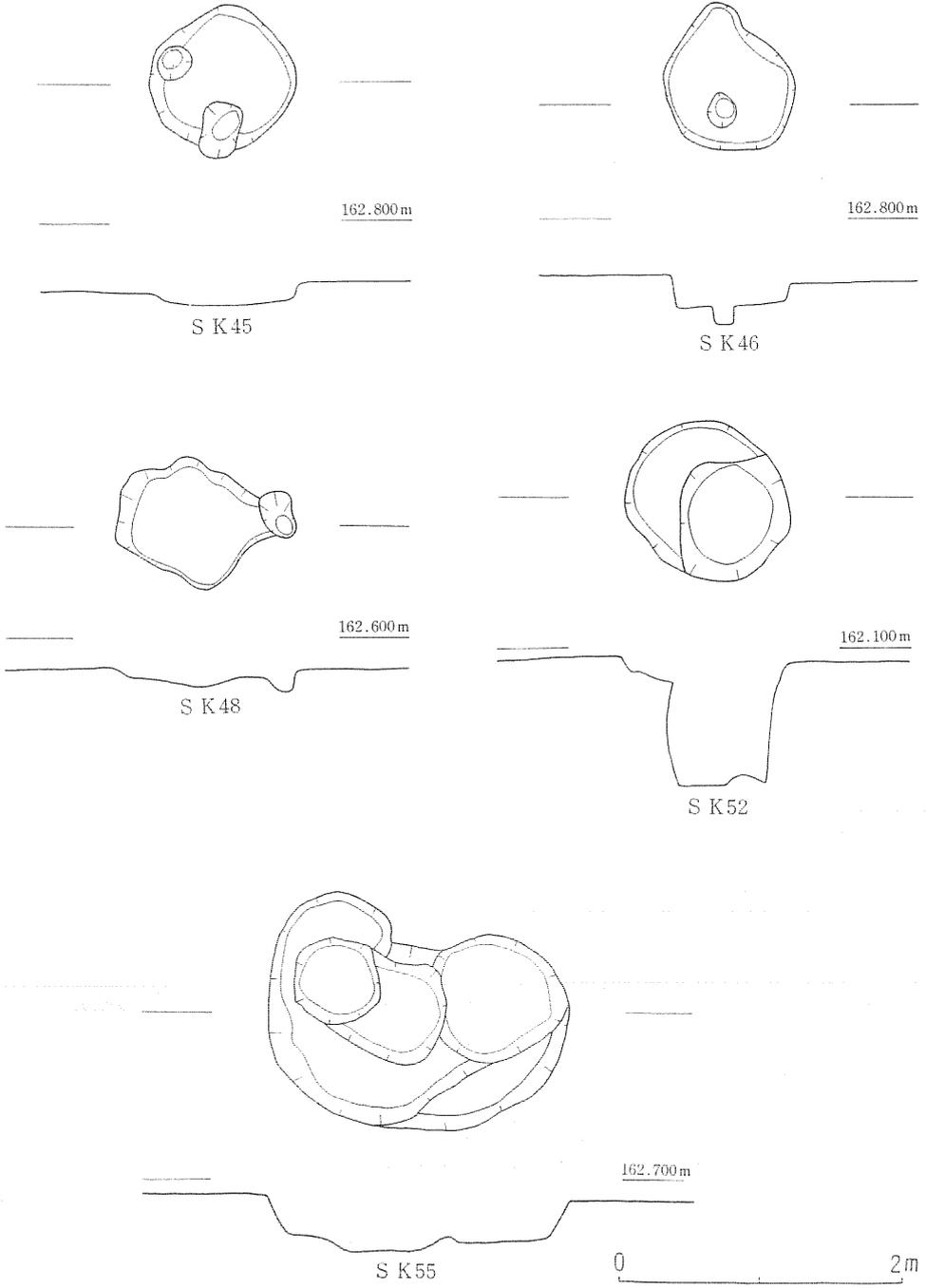
第165表 S K45計測・説明表	
開口部長軸	110cm
開口部短軸	102cm
壙底部長軸	90cm
壙底部短軸	83cm
深 さ	10～13cm
長軸方向	N-7°-E
平面形状	円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 3-A

第166表 S K46計測・説明表	
開口部長軸	105cm
開口部短軸	92cm
壙底部長軸	94cm
壙底部短軸	83cm
深 さ	15～35cm
長軸方向	N-4°-E
平面形状	洋 梨 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 2-A

第167表 S K48計測・説明表	
開口部長軸	100cm
開口部短軸	80cm
壙底部長軸	80cm
壙底部短軸	67cm
深 さ	8～18cm
長軸方向	N-86°-E
平面形状	不 整 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 1-B

第168表 S K52計測・説明表	
開口部長軸	118cm
開口部短軸	105cm
壙底部長軸	101cm
壙底部短軸	91cm
深 さ	11～91cm
長軸方向	N-30°-E
平面形状	円 形
断面形状	円 筒 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 0-A

第169表 S K55計測・説明表	
開口部長軸	210cm
開口部短軸	130cm
壙底部長軸	193cm
壙底部短軸	104cm
深 さ	30～40cm
長軸方向	N-14°-E
平面形状	不 整 楕 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 4-A、5-A



第 122 图 SK45 · SK46 · SK48 · SK52 · SK55 实测图

第 170 表 S K 13計測・説明表	
開口部長軸	124cm
開口部短軸	(98)cm
壙底部長軸	105cm
壙底部短軸	(88)cm
深 さ	12~17cm
長軸方向	N-89°-E
平面形状	不整楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 4-A

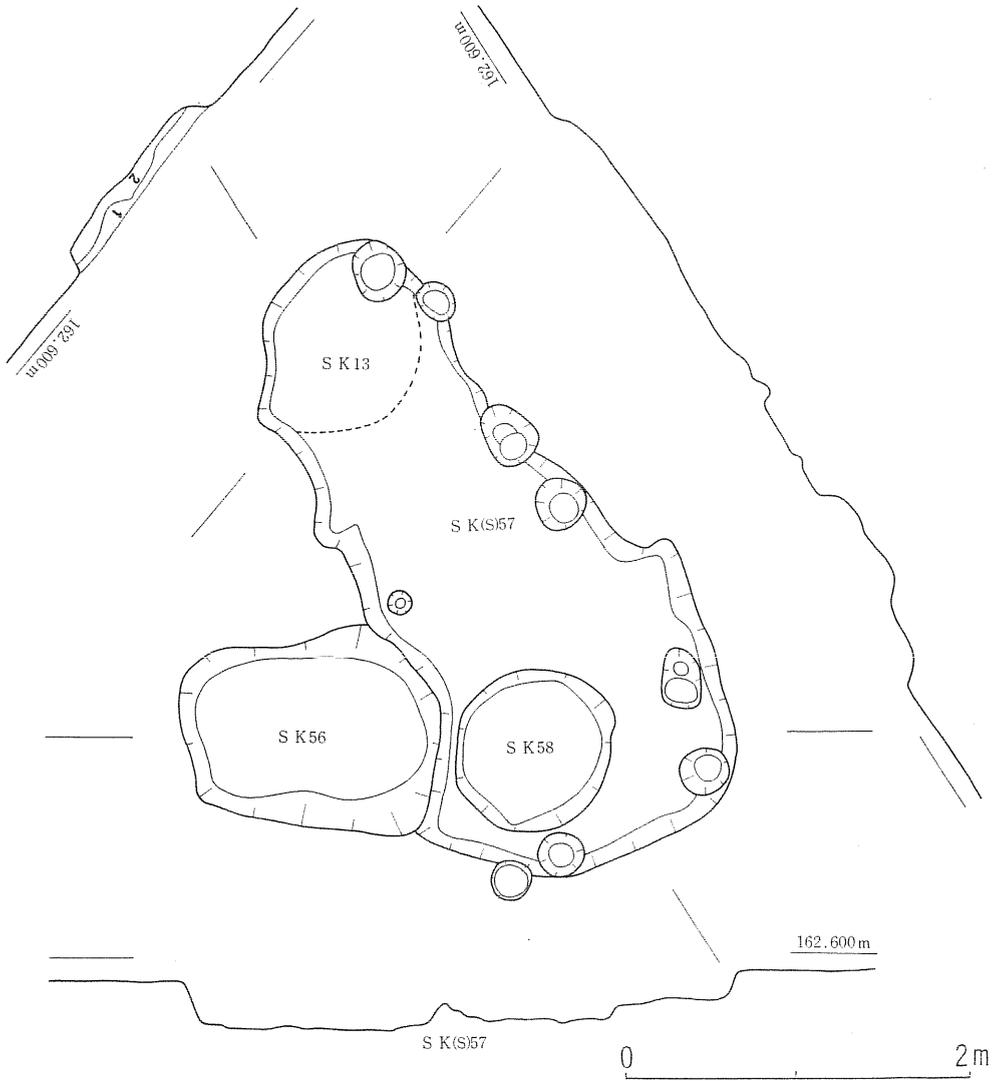
第 171 表 S K(S)57計測・説明表	
開口部長軸	400cm
開口部短軸	150cm
壙底部長軸	377cm
壙底部短軸	126cm
深 さ	13~30cm
長軸方向	N-16°-E
平面形状	長楕円形
断面形状	逆台形
出土遺物	貨幣 6 枚
備考	検出地区 3-A、4-A

第 172 表 S K 56計測・説明表	
開口部長軸	150cm
開口部短軸	115cm
壙底部長軸	133cm
壙底部短軸	82cm
深 さ	26~33cm
長軸方向	N-41°-W
平面形状	不整長方形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 4-A

第 173 表 S K 58計測・説明表	
開口部長軸	100cm
開口部短軸	89cm
壙底部長軸	90cm
壙底部短軸	77cm
深 さ	27~30cm
長軸方向	N-67°-E
平面形状	円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 4-A

第 174 表 S K 59計測・説明表	
開口部長軸	130cm
開口部短軸	95cm
壙底部長軸	80cm
壙底部短軸	50cm
深 さ	50~80cm
長軸方向	N-54°-W
平面形状	不整円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 1-B

第 175 表 S K 60計測・説明表	
開口部長軸	124cm
開口部短軸	120cm
壙底部長軸	112cm
壙底部短軸	101cm
深 さ	79~89cm
長軸方向	N-32°-E
平面形状	円形
断面形状	円筒状
出土遺物	なし
備考	検出地区 0-0



第 123 図 S K13・S K56・S K57・S K58実測図

S K13 土層註記

- | | |
|--|---|
| <p>1 7.5YR^{2/6} 黒色土 粘性なし 粒子細かい 7.5YR^{2/6} 褐色土がわずかに混入</p> | <p>2 5YR^{1/2} 黒色土 粘性あり 粒子細かい 10YR^{2/6} 褐色土がわずかに混入</p> |
|--|---|

S K 60 土層註記

- | | |
|--|--|
| <p>1 5 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 混入物なし</p> <p>3 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 黄橙色土が微量混入</p> <p>5 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 明黄褐色土少量混入</p> <p>7 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 黄褐色土少量混入</p> <p>9 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 明黄褐色土少量混入</p> <p>11 10 Y R% 黄褐色土 粘性あり 粒子細かい</p> | <p>2 7.5 Y R% 黒色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 10 Y R% 黄橙色土少量混入</p> <p>4 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は非常に細かい 10 Y R% 黄橙色土が微量混入</p> <p>6 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 黄褐色土 7.5 Y R% 黒色土 7.5 Y R% 黄褐色土が少量混入</p> <p>8 10 Y R% 褐色土 粘性あり 粒子粗い 7.5 Y R% 橙色土 10 Y R% 暗褐色土 10 Y R% 明黄褐色土が少量混入</p> <p>10 10 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 明黄褐色土少量混入</p> <p>12 5 Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子細かい 10 Y R% 黒褐色土少量混入</p> |
|--|--|

第 176 表 S K 70計測・説明表

開口部長軸	60cm
開口部短軸	55cm
壙底部長軸	45cm
壙底部短軸	27cm
深 さ	10~20cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	不整方形
断面形状	2段逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 8-B

第 177 表 S K 72計測・説明表

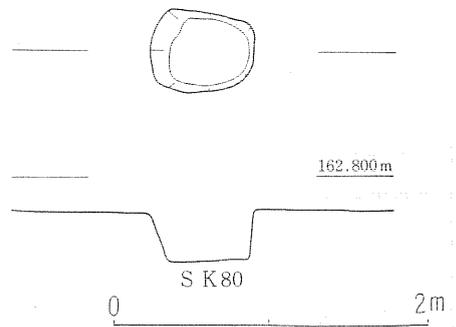
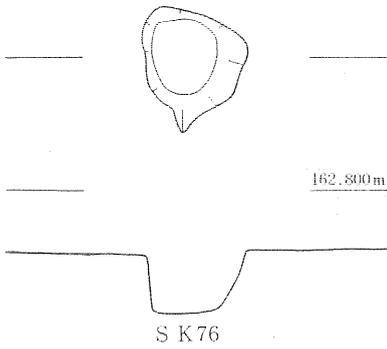
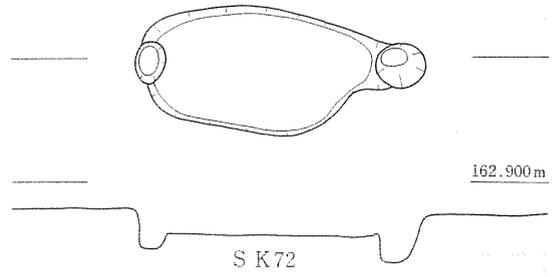
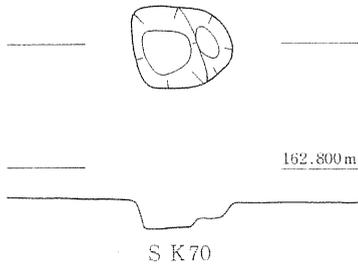
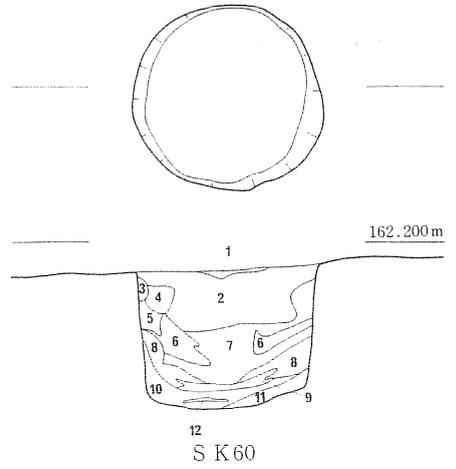
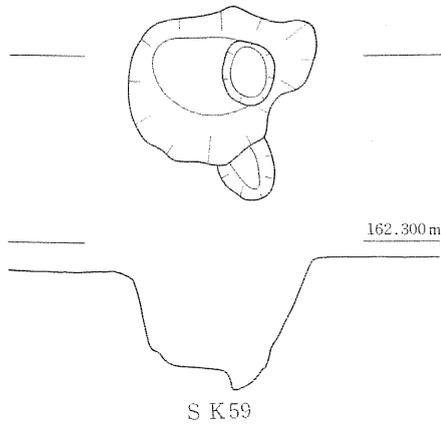
開口部長軸	186cm
開口部短軸	82cm
壙底部長軸	171cm
壙底部短軸	74cm
深 さ	15~30cm
長軸方向	N-11°-W
平面形状	長円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 7-B

第 178 表 S K 76計測・説明表

開口部長軸	72cm
開口部短軸	60cm
壙底部長軸	49cm
壙底部短軸	40cm
深 さ	37~39cm
長軸方向	N-49°-W
平面形状	不整長円形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 8-C、D

第 179 表 S K 80計測・説明表

開口部長軸	67cm
開口部短軸	53cm
壙底部長軸	51cm
壙底部短軸	43cm
深 さ	31~33cm
長軸方向	N-12°-W
平面形状	隅丸長方形
断面形状	逆台形
出土遺物	なし
備考	検出地区 2-E、3-E



第 124 图 S K 59 · S K 60 · S K 70 · S K 72 · S K 86 · S K 80 実測図

第 180 表 S K81計測・説明表	
開口部長軸	237cm
開口部短軸	130cm
壙底部長軸	228cm
壙底部短軸	110cm
深 さ	21~22cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	不 整 形
断面形状	偏 逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 3-D、4-D

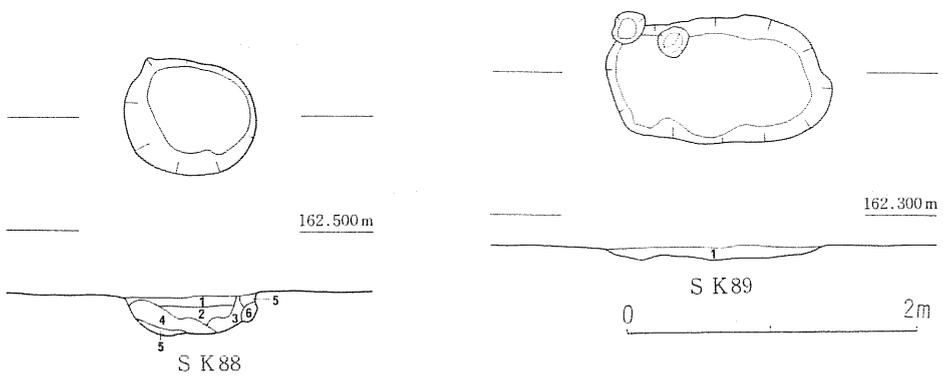
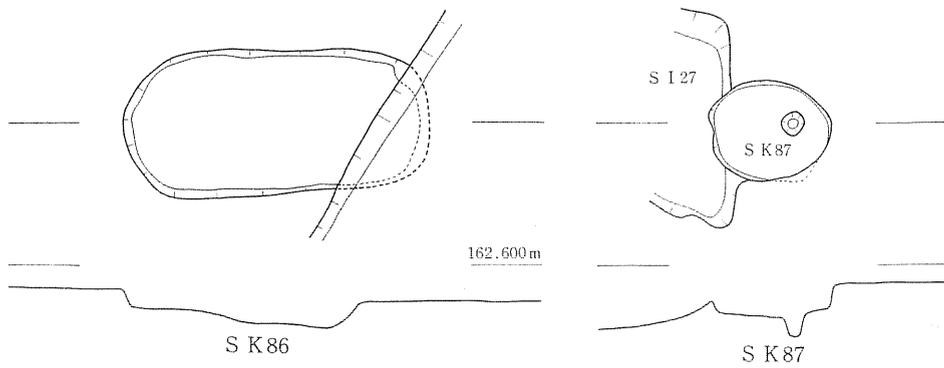
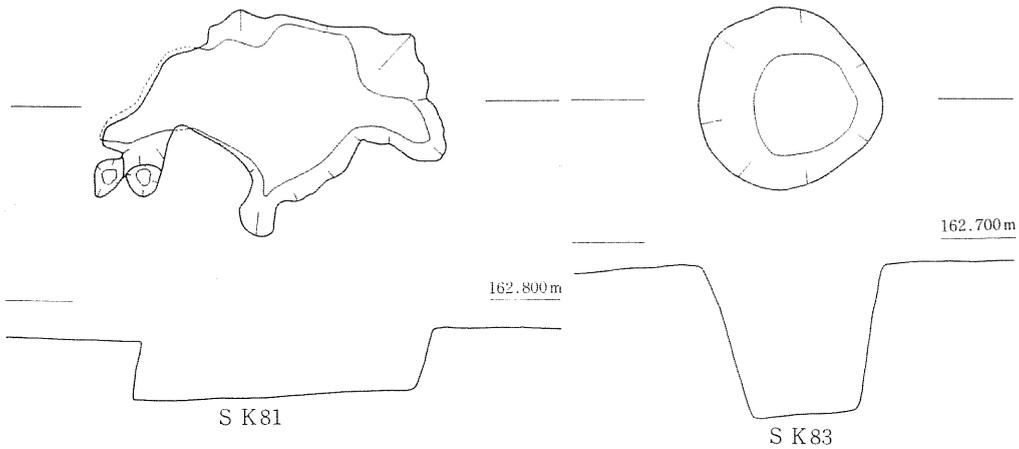
第 181 表 S K83計測・説明表	
開口部長軸	127cm
開口部短軸	126cm
壙底部長軸	71cm
壙底部短軸	70cm
深 さ	103~108cm
長軸方向	N-12°-E
平面形状	円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 5-A、6-A

第 182 表 S K86計測・説明表	
開口部長軸	(211)cm
開口部短軸	100cm
壙底部長軸	(198)cm
壙底部短軸	91cm
深 さ	13~21cm
長軸方向	N-65°-E
平面形状	長 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 2-B、3-B

第 183 表 S K87計測・説明表	
開口部長軸	85cm
開口部短軸	71cm
壙底部長軸	77cm
壙底部短軸	66cm
深 さ	16~37cm
長軸方向	N-83°-E
平面形状	円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 23-D

第 184 表 S K88計測・説明表	
開口部長軸	92cm
開口部短軸	79cm
壙底部長軸	74cm
壙底部短軸	59cm
深 さ	14~16cm
長軸方向	N-78°-W
平面形状	円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 23-E、F

第 185 表 S K89計測・説明表	
開口部長軸	153cm
開口部短軸	86cm
壙底部長軸	131cm
壙底部短軸	68cm
深 さ	5~9cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	長 円 形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 23-F



S K 89 土層註記

- 1 10Y R 6/1 黒色土 粘性なし 黄褐色土少量混入 浮石
(0.2~4mm) 少量混入

S K 100 土層註記

- 1 10Y R 1/1 黒色土 粘性なし 黒褐色土が少量混入
2 10Y R 4/1 褐色土 粘性なし 黄褐色の浮石少量混入
3 10Y R 6/1 黄褐色土 粘性なし 浮石少量混入

第 186 表 S K 99 計測・説明表

開口部長軸	64cm
開口部短軸	54cm
壙底部長軸	54cm
壙底部短軸	48cm
深 さ	46~47cm
長軸方向	N-45°-E
平面形状	円 形
断面形状	円 筒 状
出土遺物	な し
備 考	検出地区 0-E、1-E

第 187 表 S K 100 計測・説明表

開口部長軸	236cm
開口部短軸	190cm
壙底部長軸	212cm
壙底部短軸	160cm
深 さ	13~57cm
長軸方向	N-68°-E
平面形状	不整長方形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	炭化物多い 検出地区 18-A、19-A

第 188 表 S K 101 計測・説明表

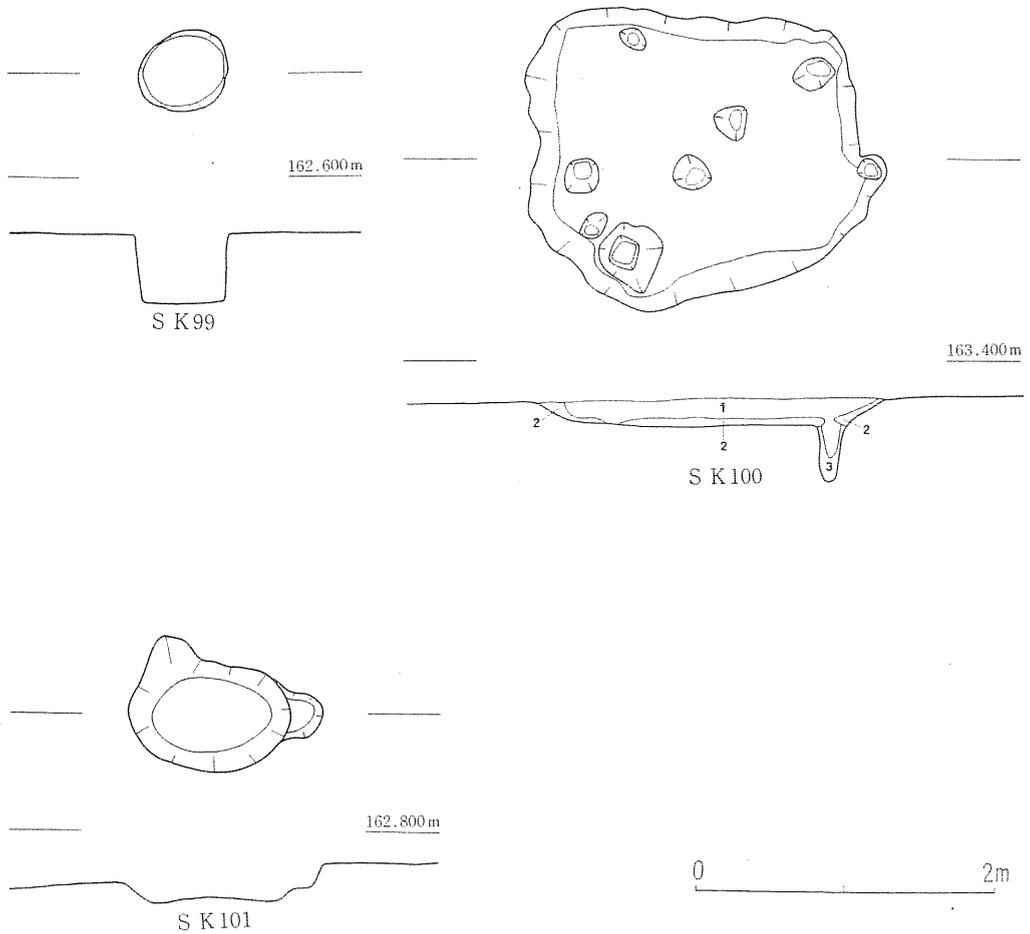
開口部長軸	130cm
開口部短軸	73cm
壙底部長軸	107cm
壙底部短軸	49cm
深 さ	16~24cm
長軸方向	N-80°-E
平面形状	不整長円形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	な し
備 考	検出地区 14-A

第 189 表 S K(S)53 計測・説明表

開口部長軸	285cm
開口部短軸	164cm
壙底部長軸	250cm
壙底部短軸	145cm
深 さ	111~121cm
長軸方向	N-6°-W
平面形状	隅丸長方形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	人骨1体・貨幣1枚
備 考	検出地区 12-I

第 190 表 S K(S)54 計測・説明表

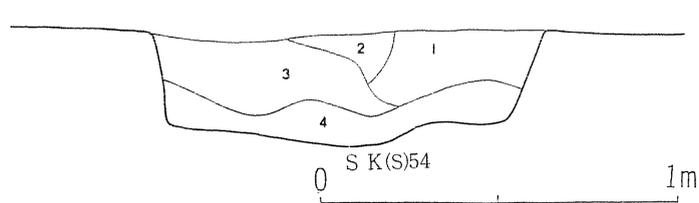
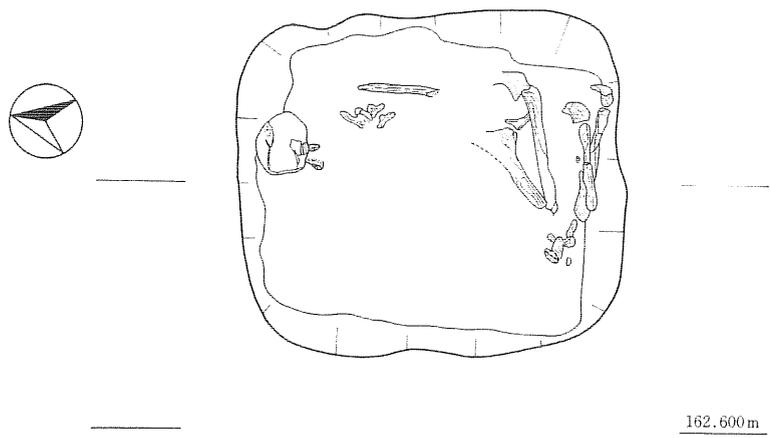
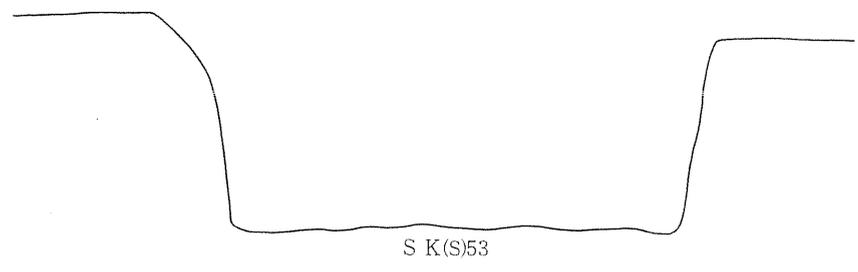
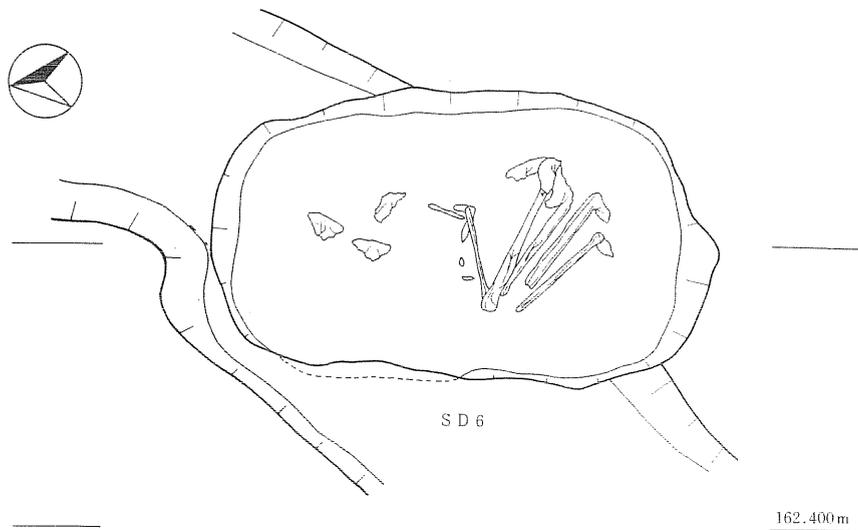
開口部長軸	215cm
開口部短軸	195cm
壙底部長軸	180cm
壙底部短軸	170cm
深 さ	50~62cm
長軸方向	N-7°-W
平面形状	隅丸方形
断面形状	逆 台 形
出土遺物	人骨1本・貨幣6枚
備 考	検出地区 13-K



第126図 SK99・SK100・SK101実測図

SK(S)54 土層註記

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1 10Y R 5/6 黄褐色土 粘性なし 暗褐色土少量混入 | 2 10Y R 7/8 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土多量混入 |
| 3 10Y R 1/1 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土が小さいブロック状に少量混入 | 4 10Y R 6/8 黒褐色土 粘性なし 黄褐色土が全体に多量混入 |



第 127 图 S K(S)53 · S K(S)54実測図

第 191 表 S D01計測・説明表	
検出地区	0-G、1-G、2-G、 3-G、4-G
長さ	(23.5)m
上幅	50~190cm
底幅	28~180cm
深さ	42cm
方向	N-6°-W
プラン確認 状況	
出土遺物	なし
備考	

第 192 表 S D09計測・説明表	
検出地区	28-A、B、C、D、E
長さ	23.5m
上幅	30~44cm
底幅	12~28cm
深さ	14cm
方向	N-82°-W
プラン確認 状況	
出土遺物	なし
備考	

第 193 表 S D03計測・説明表	
検出地区	7-D、E、F
長さ	(8.20)m
上幅	40~74cm
底幅	22~44cm
深さ	24cm
方向	N-81°-E
プラン確認 状況	
出土遺物	なし
備考	

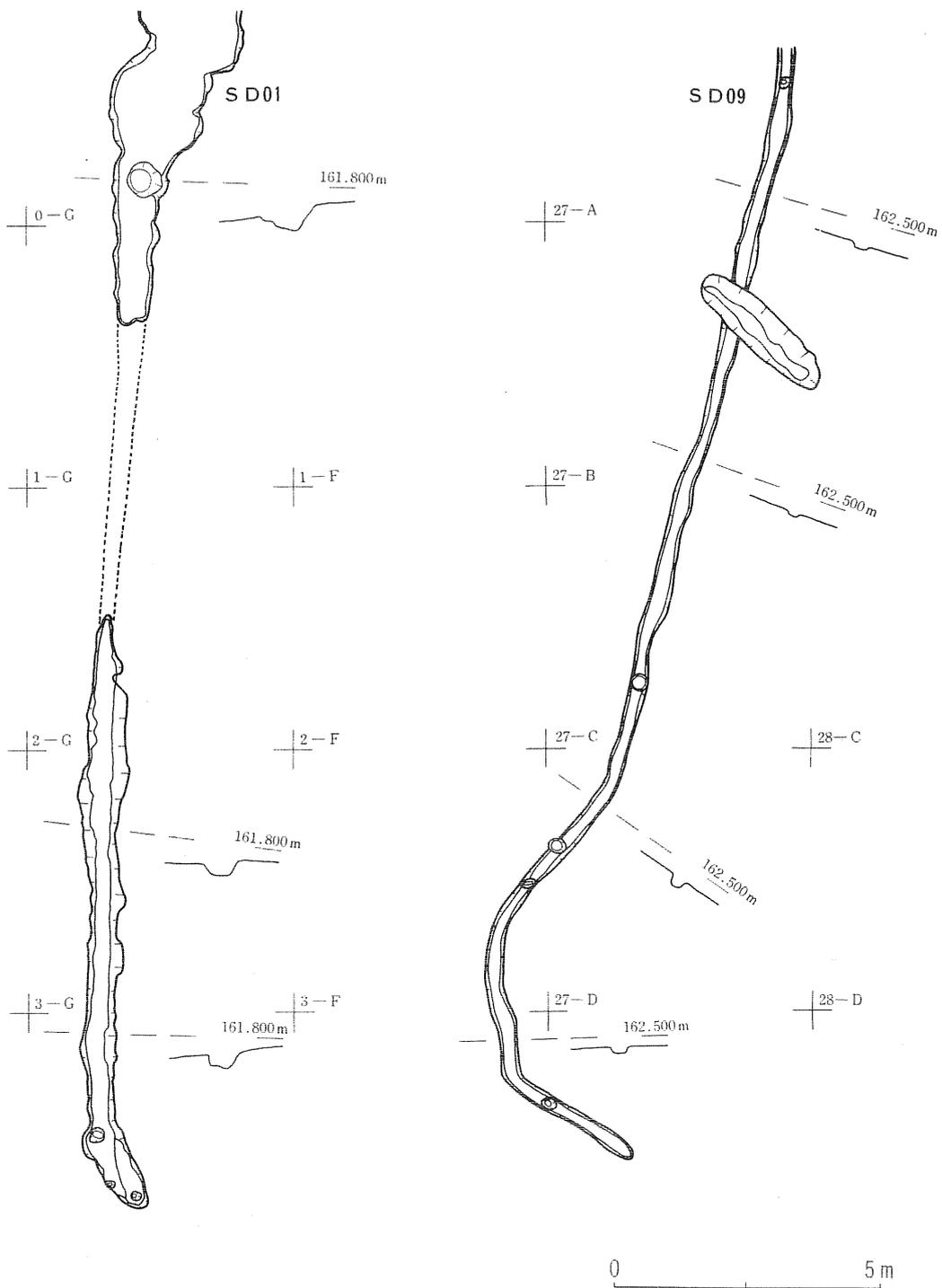
第 194 表 S D07計測・説明表	
検出地区	14-L、15-L
長さ	5.90m
上幅	40~66cm
底幅	20~28cm
深さ	26cm
方向	N-6°-W
プラン確認 状況	
出土遺物	なし
備考	

検出地区	26-D、27-D、E
長さ	7.9cm
上幅	26~36cm
底幅	12~20cm
深さ	24cm
方向	N-12°-E
プラン確認状況	
出土遺物	なし
備考	

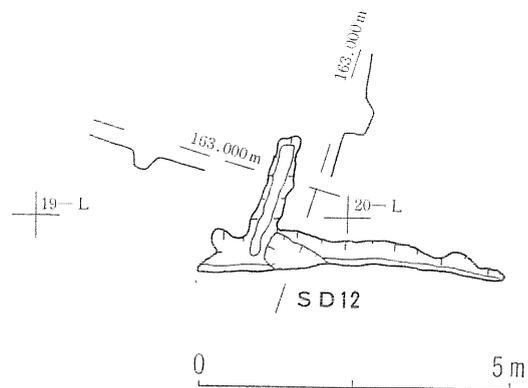
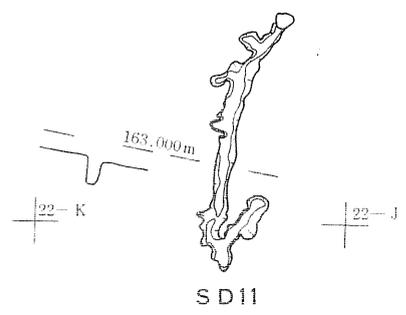
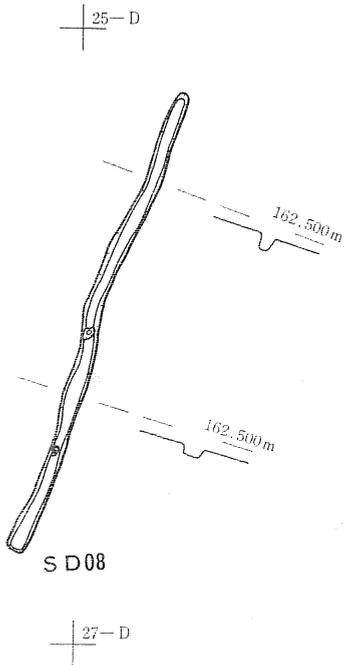
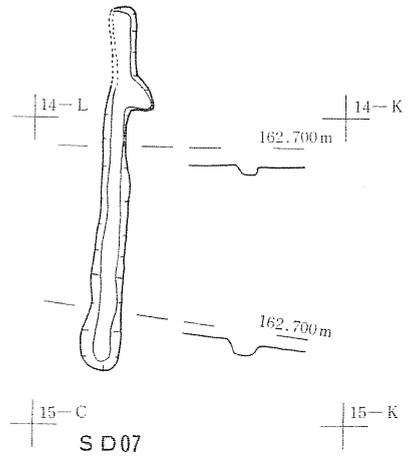
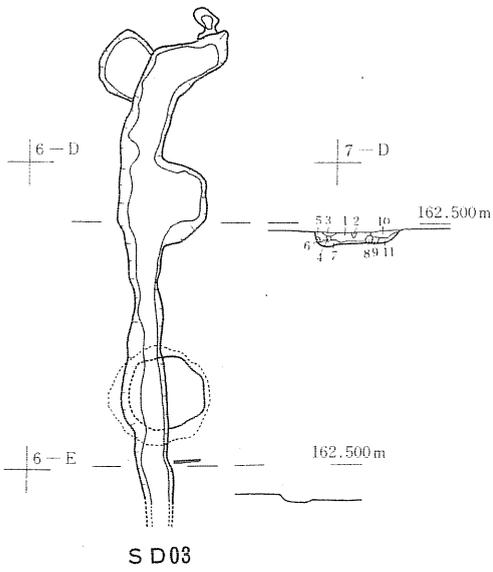
検出地区	22-K、23-K
長さ	4.91m
上幅	20~34cm
底幅	10~24cm
深さ	44cm
方向	東弦の弧状を呈し南北方向
プラン確認状況	
出土遺物	なし
備考	

検出地区	20-M、21-M
長さ	()m
上幅	()cm
底幅	不明
深さ	()cm
方向	(南北方向)
プラン確認状況	
出土遺物	なし
備考	

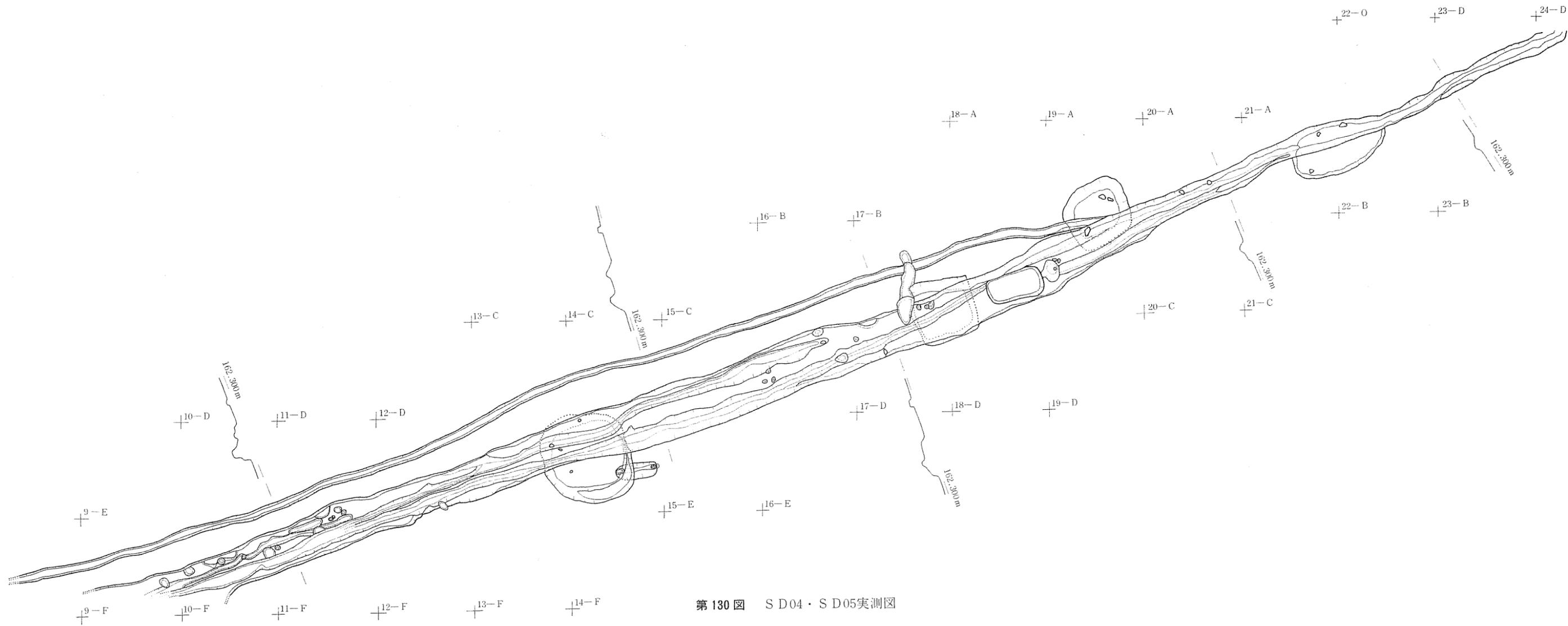
検出地区	9-F、10-F、11-E、F、 12-E、13-E、14-D、 15-D、16-D、17-C、 18-C、19-C、20-C
長さ	59m
上幅	40~50cm
底幅	10~40cm
深さ	25cm
方向	N-28°-W
プラン確認状況	
出土遺物	なし
備考	



第 128 图 S D01 · S D09 实测图



第129图 SD03 · SD07 · SD08 · SD11 · SD12実測図



第130図 S D04・S D05実測図

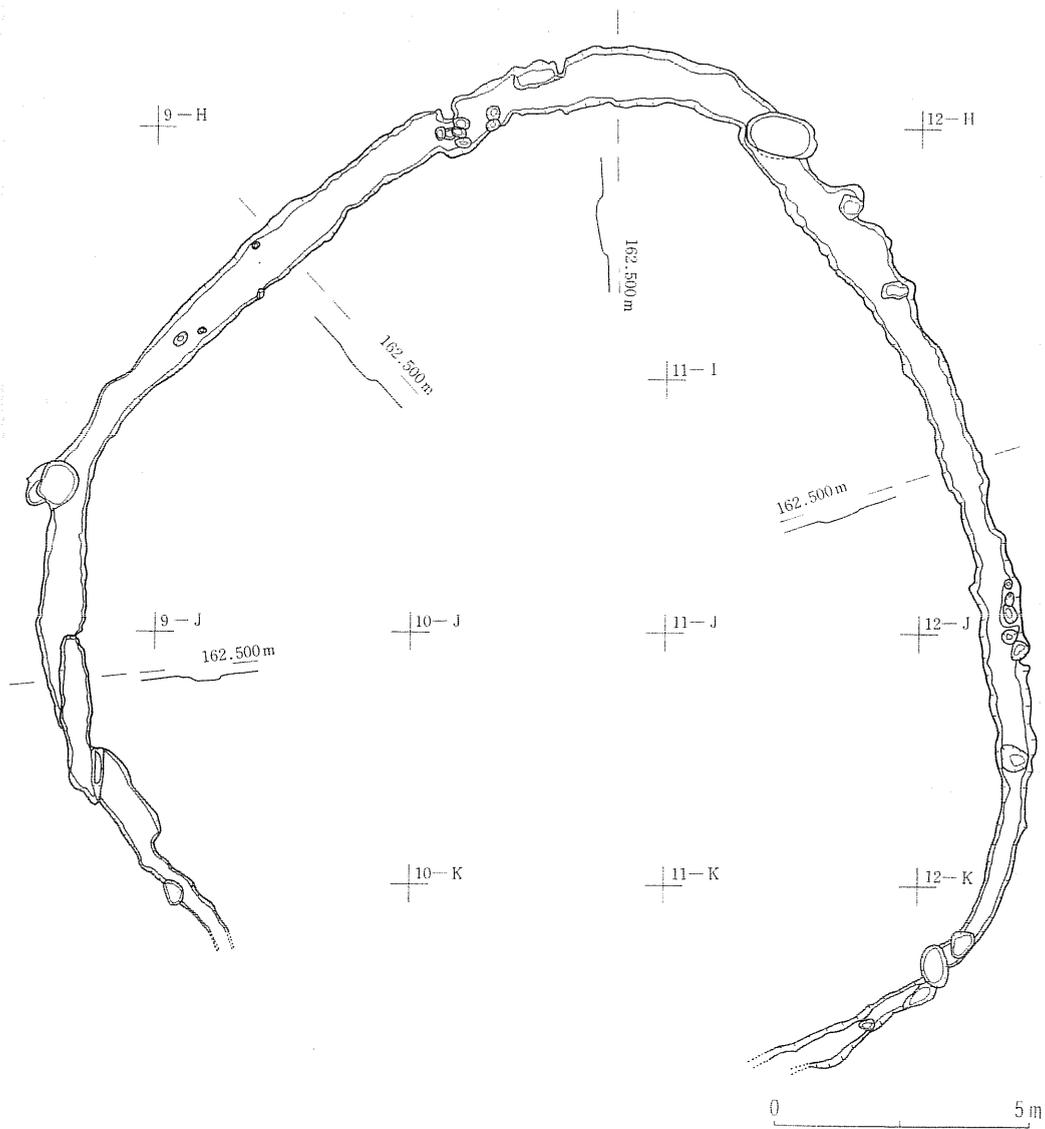
SD03 土層註記

- | | |
|---|---|
| 1 10Y R% 黒色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 黄橙色土 10Y R% 褐色土が少量混入 | 2 7.5Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は非常に細かい 10Y R% 黄褐色土が少量混入 |
| 3 7.5Y R% 黒色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 明黄褐色土が微量に混入 | 4 7.5Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 明黄褐色土が微量に混入 |
| 5 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 褐色土が少量混入 | 6 10Y R% 暗褐色土 粘性なし 粒子はやや粗い 10Y R% 暗褐色土がφ2.5mm大の斑点1ヶ |
| 7 10Y R% 黄褐色土 粘性あり 粒子は粗い 7.5Y R% 黒色土と 10Y R% 褐色土が少量混入 | 8 5Y R% 黒褐色土 粘性若干あり 粒子は細かい 7.5Y R% 明褐色土が微量混入 |
| 9 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい 10Y R% 黄橙色土が微量混入 | 10 10Y R% 黒褐色土 粘性なし 粒子は細かい 10Y R% 細かい黄褐色土と 10Y R% 黄褐色土が微量混入 |
| 11 10Y R% 黒褐色土 粘性あり 粒子は細かい φ2.0mmの礫が若干混入 10Y R% 褐色土と 10Y R% 暗褐色土が少量混入 | |

検出地区	10-F、11-F、12-E、F、 13-E、14-D、E、15-D、E、 16-D、E、17-C、D、 18-C、D、19-C、20-B、C、 21-B、22-B、23-A、B、 24-A、25-A
長さ	77.5m
上幅	50~280cm
底幅	40~205cm
深さ	70cm
方向	N-28°-W
プラン確認状況	
出土遺物	磨製石斧
備考	

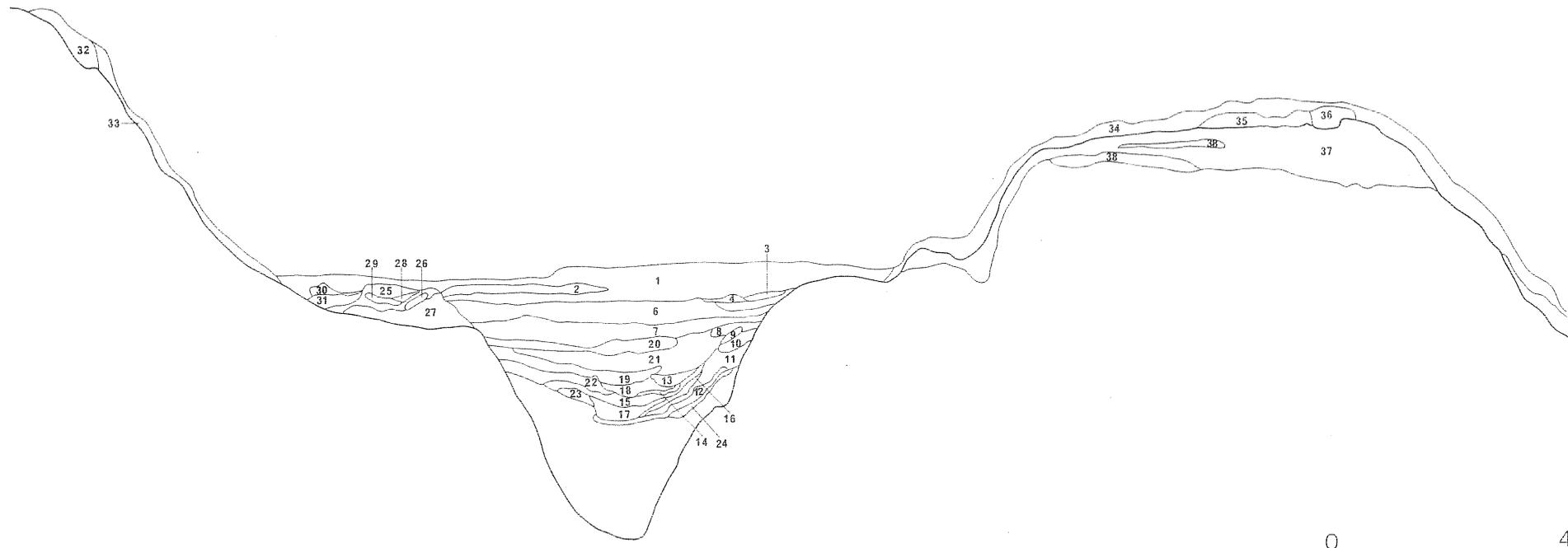
検出地区	10-J、9-K、9-J、 9-I、10-I、11-H、I、 12-H、I、13-J、13-K、 12-J、13-J
長さ	49.80m
上幅	54~120cm
底幅	20~88cm
深さ	18cm
方向	
プラン確認状況	
出土遺物	なし
備考	

検出地区	-2-D、-3-D、-4-D
長さ	不明
上幅	640cm
底幅	40cm
深さ	424cm
方向	N-67°-E
プラン確認状況	現地形で堀割りではないかと考えられた。
出土遺物	なし
備考	堀跡か



第 131 图 S D06 实测图

162.500m

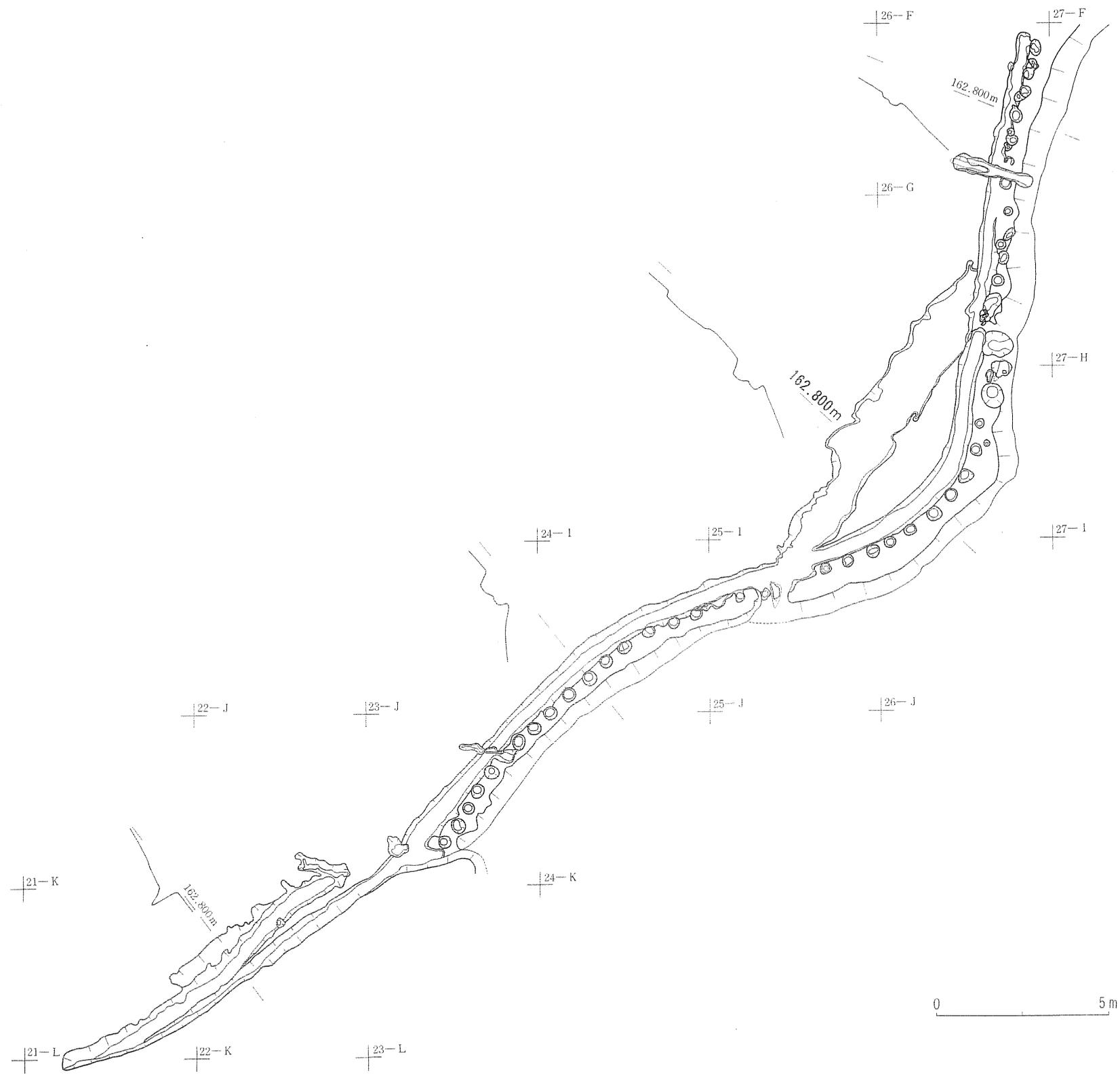


0 4 m

第 132 図 S D13実測図

S D13 土層註記

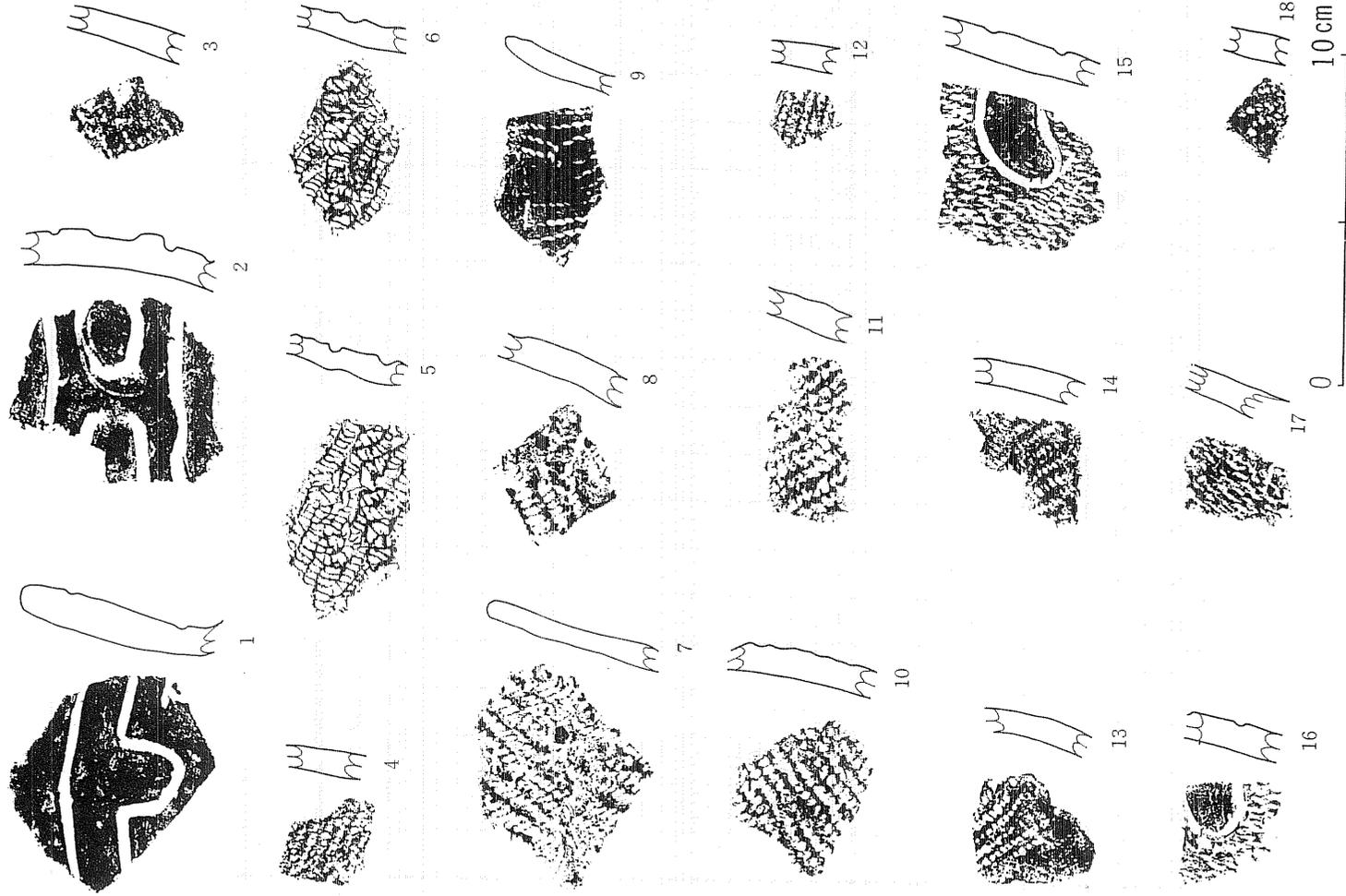
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 1 10Y R 弱 灰黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 20 10Y R 弱 黒褐色土 粘性あり 軽石少量混入 |
| 2 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 21 10Y R 弱 灰黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 |
| 3 10Y R 弱 黒褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 22 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 |
| 4 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 23 2.5Y 弱 灰白色土 粘性あり 軽石多量混入 |
| 5 10Y R 弱 黒褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 24 10Y R 弱 灰白色土 粘性あり 軽石少量混入 |
| 6 10Y R 弱 黒褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 25 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 |
| 7 10Y R 弱 灰黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 26 10Y R 弱 灰黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 |
| 8 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 27 7.5Y R 弱 にぶい橙色土 粘性なし 軽石多量混入 |
| 9 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 28 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 |
| 10 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 29 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性なし 木根少量混入 |
| 11 10Y R 弱 灰黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 30 10Y R 弱 黒色土 粘性あり 木根多量混入 |
| 12 2.5Y 弱 灰白色土 粘性あり 軽石多量混入 | 31 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石多量混入 |
| 13 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 32 10Y R 弱 明黄褐色土 粘性あり 木根少量混入 |
| 14 2Y R 弱 浅黄色土 粘性あり 軽石少量混入 | 33 10Y R 弱 黒褐色土 粘性なし 木根少量混入 |
| 15 10Y R 弱 灰白色土 粘性あり 軽石多量混入 | 34 7.5Y R 弱 黒褐色土 粘性あり 木根少量混入 |
| 16 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 35 7.5Y R 弱 暗褐色土 粘性あり 黄褐色粒子多量混入 |
| 17 10Y R 弱 褐色土 粘性あり 軽石多量混入 | 36 10Y R 弱 黒色土 粘性あり 白色粒子 黄褐色粒子多量混入 |
| 18 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 37 10Y R 弱 黄褐色土 粘性あり 軽石少量 木根少量混入 |
| 19 10Y R 弱 暗褐色土 粘性あり 軽石少量混入 | 38 10Y R 弱 にぶい黄褐色土 粘性あり 軽石少量 砂粒多量混入 |



第 133 图 S A 01 实测图

第 202 表 遺構内出土土器拓影説明表

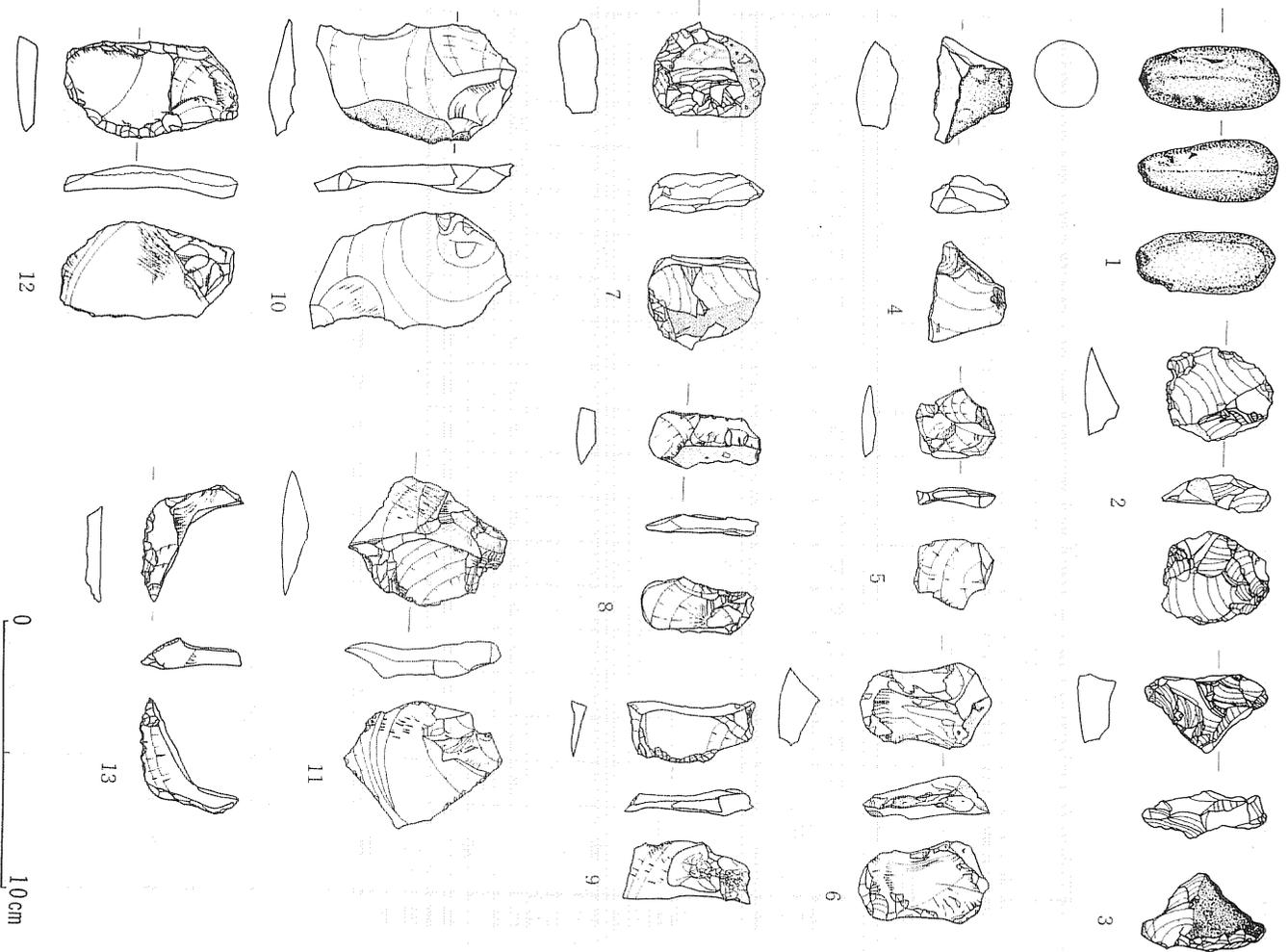
拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
134-1	S I 01	覆土中	口縁部	沈線	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 7/2 にぶい黄橙色
134-2	S I 01	覆土中	胴部	隆帯沈線	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 8/3 浅黄橙色
134-3	S I 02	覆土中	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	5 Y R 5/3 にぶい赤褐色
134-4	S I 02	覆土中	胴部	RL	ミガキ	砂粒少量	10Y R 4/3 にぶい黄褐色
134-5	S I 08	覆土中	胴部	RL結節	ナデ	砂粒少量	7.5Y R 4/1 褐灰色
134-6	S I 08	覆土中	胴部	RL結節	ナデ	砂粒少量	7.5Y R 4/1 褐灰色
134-7	S I 08	覆土中	口縁部	LR	ナデ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 7/2 にぶい黄橙色
134-8	S I 08	覆土中	胴部	LR	ナデ	砂粒少量	7.5Y R 5/2 灰褐色
134-9	S I 08	覆土中	口縁部	Rの撚糸文	ミガキ	—	10Y R 7/2 にぶい黄橙色
134-10	S I 31	覆土中	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	5 Y R 5/4 にぶい赤褐色
134-11	S I 37	確認面	胴部	RL	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	2.5Y R 5/4 にぶい赤褐色
134-12	S I 42	覆土中	胴部	RL	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R 5/6 明褐色
134-13	S I 42	覆土中	胴部	RL	ナデ	砂粒少量	10Y R 8/3 にぶい黄橙色
134-14	S I 42	覆土中	胴部	RL	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 8/3 浅黄橙色
134-15	S I 42	覆土中	胴部	前々段多条LR(ℓ3本) 沈線	ナデ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 7/4 にぶい橙色
134-16	S I 42	覆土中	胴部	前々段多条LR(ℓ3本) 沈線	ナデ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 7/4 にぶい橙色
134-17	S I 42	覆土中	胴部	前々段多条LR(ℓ3本)	ナデ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 7/4 にぶい橙色
134-18	S I 42	覆土中	胴部	LR	ナデ	砂粒少量 小礫少量	10Y R 4/1 褐灰色



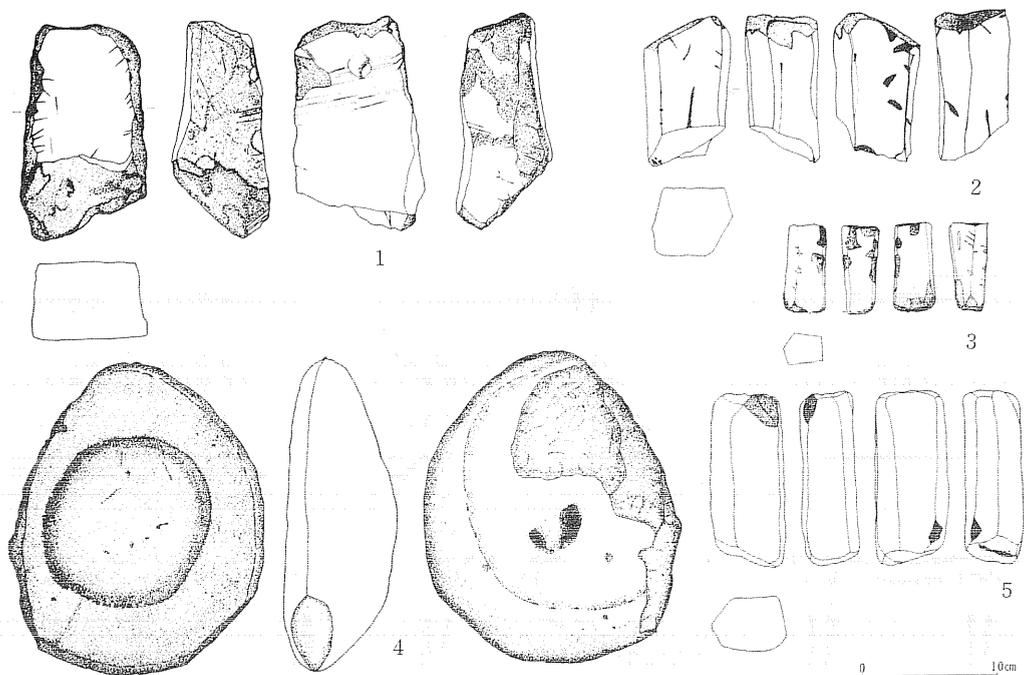
第 134 图 遺構内出土土器拓影图

第 203 表 遺構内出土石器類計測・説明表

実測図番号	出 土 地 区	出 土 層 位	名 称	大 き さ (単位 mm)				石 質
				長 さ	幅	厚 さ	重さ (g)	
135-1	S I 08	床 面	自 然 石	52	24	23	35.6	安山岩
135-2	S I 37	覆 土 中	剥 片	40	34	13	15.2	鉄石英
135-3	S I 37	覆 土 中	剥 片	45	28	14	12.2	鉄石英
135-4	S I 37	覆 土 中	剥 片	27	38	14	17.4	鉄石英
135-5	S I 37	覆 土 中	剥 片	29	26	5	3.9	鉄石英
135-6	S I 38	覆 土 中	剥 片	49	31	15	21.0	鉄石英
135-7	S I 37	覆 土 中	剥 片	43	34	14	25.7	鉄石英
135-8	S I 43	覆 土 中	剥 片	41	20	7	6.3	頁 岩
135-9	S I 43	覆 土 中	剥 片	48	20	5	5.6	頁 岩
135-10	S X(F)52	底 面	剥 片	51	47	10	35.1	安山岩
135-11	S I 43	覆 土 中	剥 片	58	45	10	27.3	頁 岩
135-12	S X(F) 2	覆 土 中	サイドスクレーパー	64	35	7	21.2	頁 岩
135-13	S I 43	覆 土 中	剥 片	33	36	5	7.0	頁 岩
136-1	S I 08	床 面	砥 石	160	92	55	1,260.0	流紋岩
136-2	Pit 912 (5-F、6-F)	底 面	砥 石	102	57	50	445.0	石英安山岩
136-3	Pit 179 (3-C)	覆 土 中	砥 石	66	31	23	71.5	安山岩(気胞の出たもの)
136-4	S I 08	床 面	石 皿	234	190	76	4,366.0	安山岩
136-5	S X(F)10	焼 土 中	砥 石	123	45	34	480.0	流紋岩



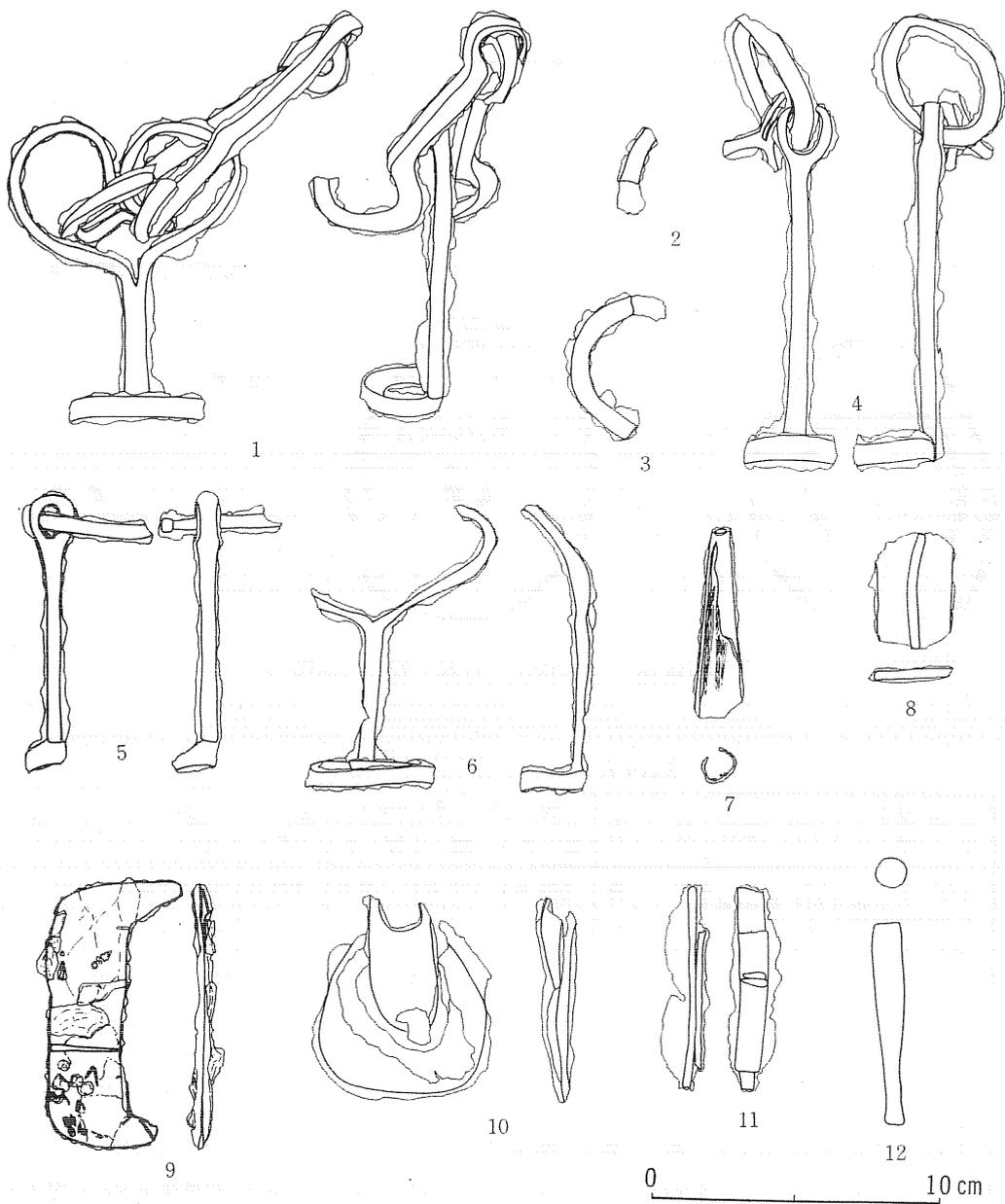
第 135 图 遺構内出土石器・剥片実測図(1)



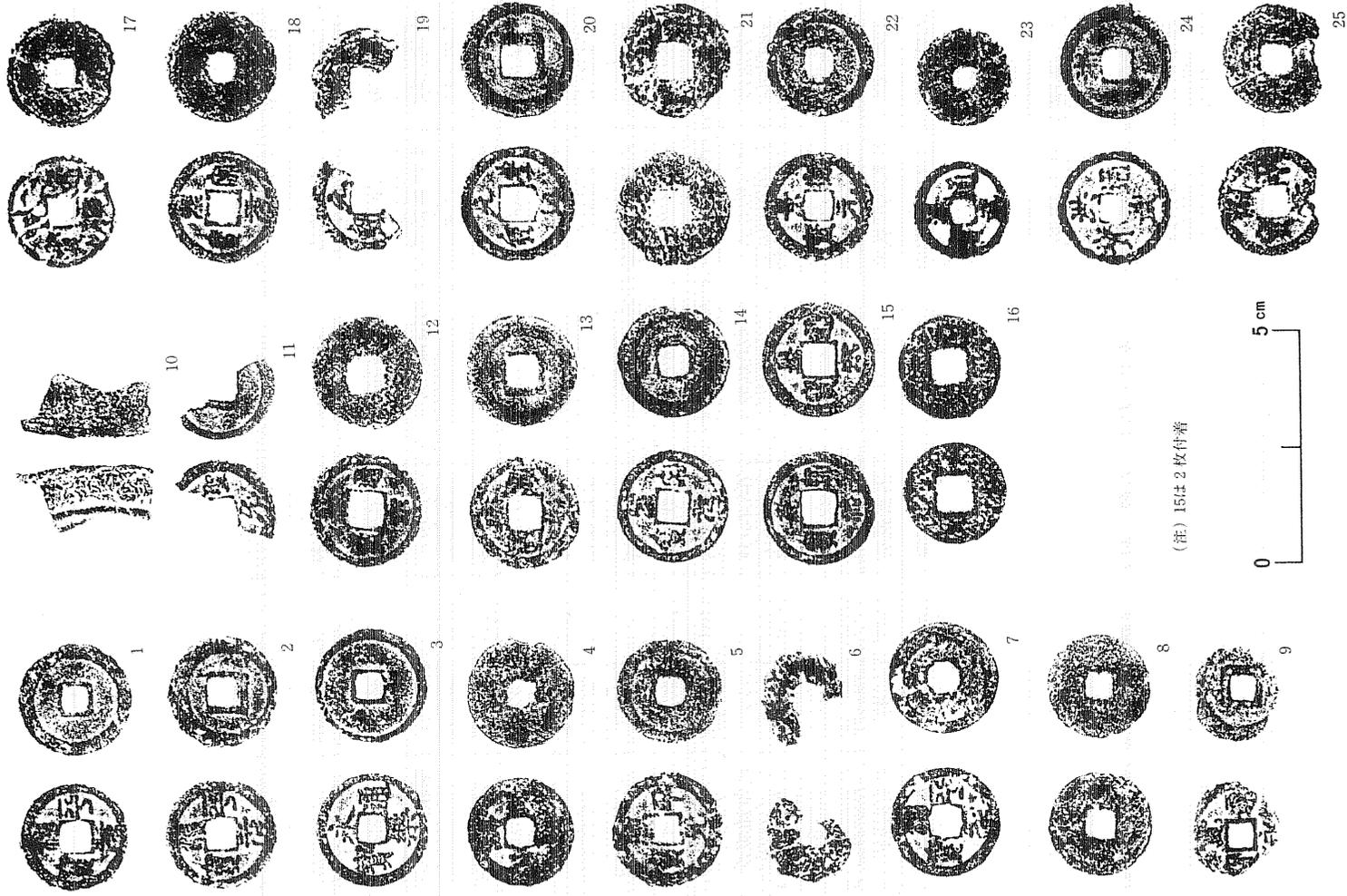
第 136 図 遺構内出土石器・剥片実測図(2)

第 204 表 出土金属器計測・説明表

実測図番 号	出土地区・層位	種別	大 き さ (mm)			重 さ (g)	備 考
			長 さ	幅	厚 さ		
137-1	S I 05 張り出し部床面	馬 具	143.6	121.6	9.0	195.8	くつわ金具
137-2	S I 05 張り出し部床面	馬 具	30.7	13.2	6.5	3.9	1と同一個体
137-3	S I 05 張り出し部床面	馬 具	50.1	32.3	6.5	15.6	1と同一個体
137-4	S I 05 張り出し部床面	馬 具	156.4	49.5	6.5	71.6	1と同一個体
137-5	S I 05 張り出し部床面	馬 具	98.5	44.7	6.0	40.1	1と同一個体
137-6	S I 05 張り出し部床面	馬 具	98.5	65.8	6.2	35.3	1と同一個体
137-7	S I 19	不 明	65.9	16.3	16.1	8.7	円錐状を呈し、中空であるが内部に木質付着
137-8	S I 19	不 明	40.9	27.6	3.9	14.9	
137-9	S I 34	火うち金	92.3	46.6	4.9	28.3	
137-10	Pit 1375中	不 明	69.0	57.5	14.4	139.3	
137-11	9-G	不 明	70.5	9.1	3.4	29.8	
137-12	9-F	煙管吸口	71.1	11.0	10.4	6.5	



第 137 图 出土金属器实测图



(注) 15は2枚付着



第 138 図 出土貨幣拓影図 (10の銅鏡片を除く)

第 205 表 出土貨幣拓影説明表

拓影図番号	出土地区・層位	銭銘	初鑄年	時代	備考
138-1	S I 05覆土上層	治平元寶	1064	北宋	S I 05-1
138-2	S I 05覆土6層	治平元寶	1064	北宋	S I 05-3
138-3	S I 05床面	永樂通寶	1408	室町	S I 05-5
138-4	S I 05床面	不詳			S I 05-4
138-5	S I 05床面	咸平元寶	998	北宋	S I 05-6
138-6	S I 05覆土2層				S I 05-2
138-7	S I 38覆土中	治平元寶	1064	北宋	
138-8	S I 15床面	皇宋通寶	1039	北宋	
138-9	3-A グリッド地山面				
138-10	4-E グリッド地山面				銅鏡片
138-11	12-C グリッド	紹聖元寶	1094	北宋	
138-12	S K(S)53	皇宋通寶	1039	北宋	
138-13	S K(S)53	不詳			
138-14	S K(S)53	聖宋元寶	1101	北宋	
138-15	S K(S)53	嘉祐通寶	1056	北宋	
138-16	S K(S)54腰骨付近	不詳			
138-17	18-B グリッド大湯浮石層上	大観通寶	1107	北宋	
138-18	18-E グリッド大湯浮石層上	聖宋元寶	1101	北宋	
138-19	14-B グリッド大湯浮石層上	元〇〇寶			元豊通寶か
138-20	S K(S)57底面	元豊通寶	1078	北宋	S K(S)57-1
138-21	S K(S)57底面	不詳			S K(S)57-2
138-22	S K(S)57底面	景德元寶	1004	北宋	S K(S)57-3
138-23	S K(S)57底面	洪武通寶	1367	明	S K(S)57-4
138-24	S K(S)57底面	洪武通寶	1367	明	S K(S)57-5
138-25	S K(S)57底面	治平元寶	1064	北宋	S K(S)57-6

(2) 遺構外出土遺物

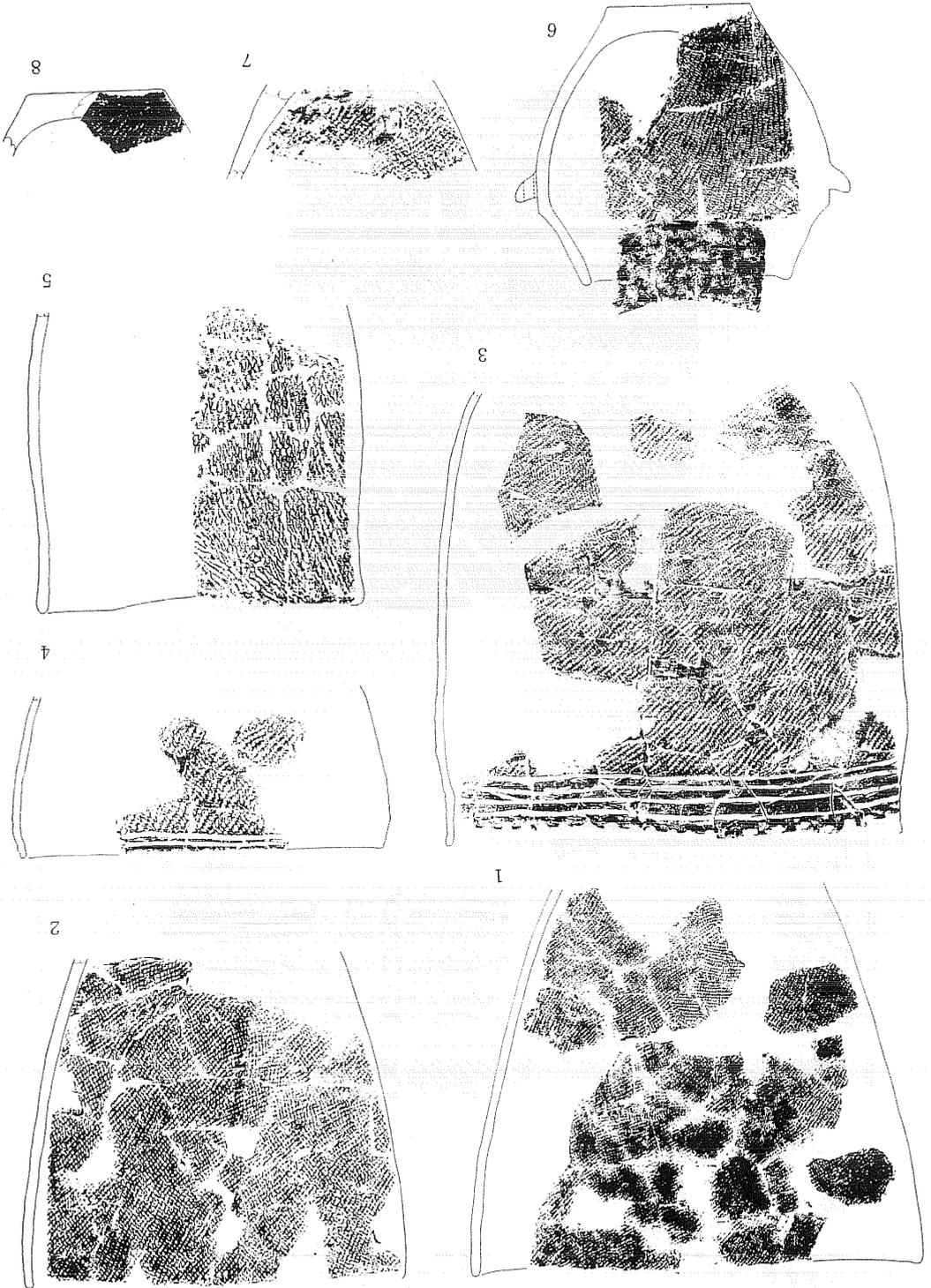
遺構外から出土した遺物として、縄文土器片、石器、剥片、貨幣、銅鏡、鉄製品、鉄滓があげられるが、量的には極めて少ない。

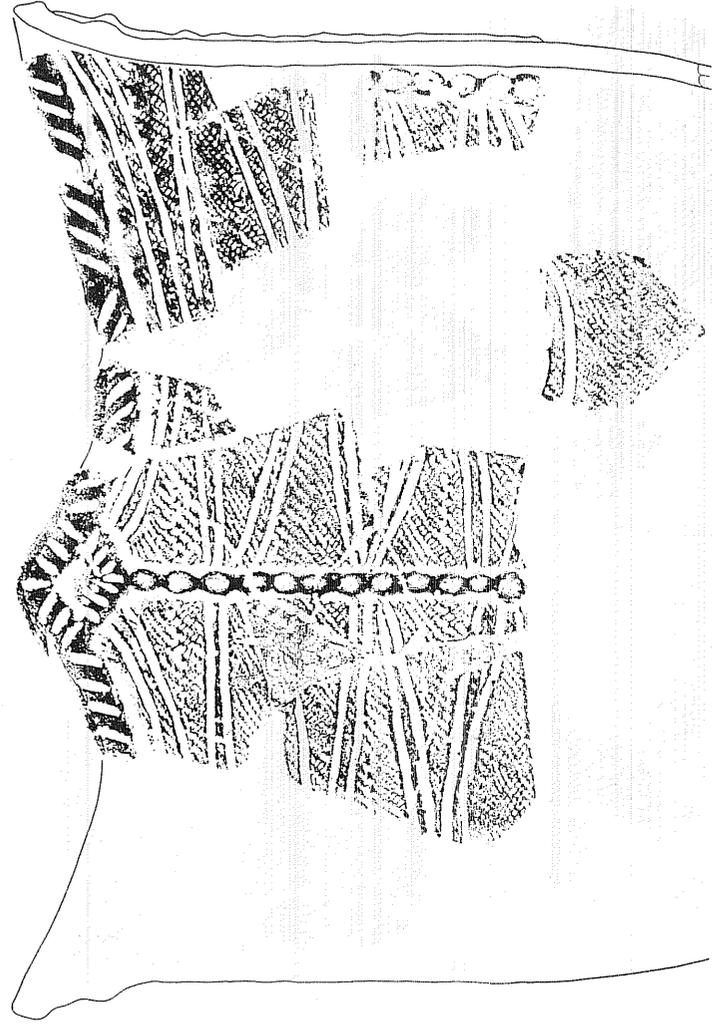
縄文土器片は、前期、中期、後期のものが多いが復原及び図上復原できたものは6点である。

石器には、縄文時代所産の磨製石斧、石皿等の他に、古代～中世所産の砥石が出土しているが、数量的には僅少である。

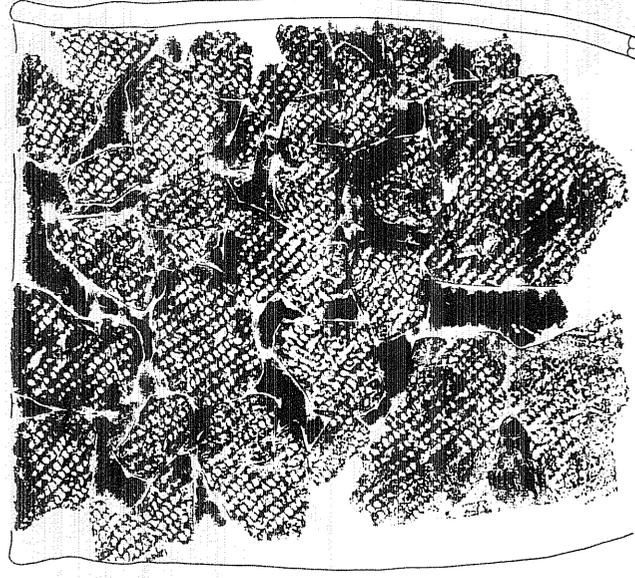
銅鏡は、4-EグリッドのS I 12の張り出し部外側（東側）から出土したもので、小破片のため、紋様構成等は不明である。

第 139 图 出土土器拓影·实测图(1)





9



10

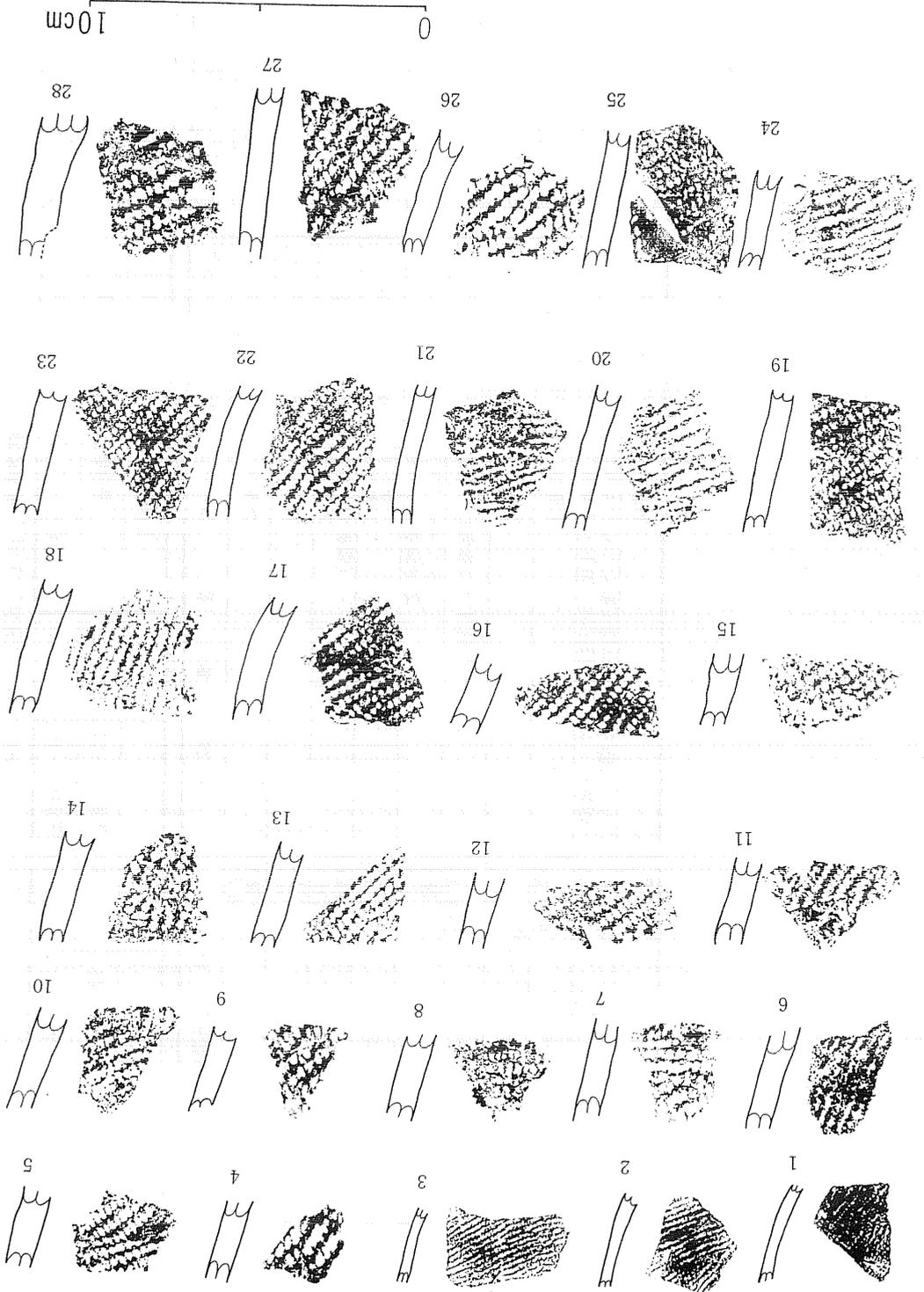
第 140 图 出土土器拓影·实测图(2)

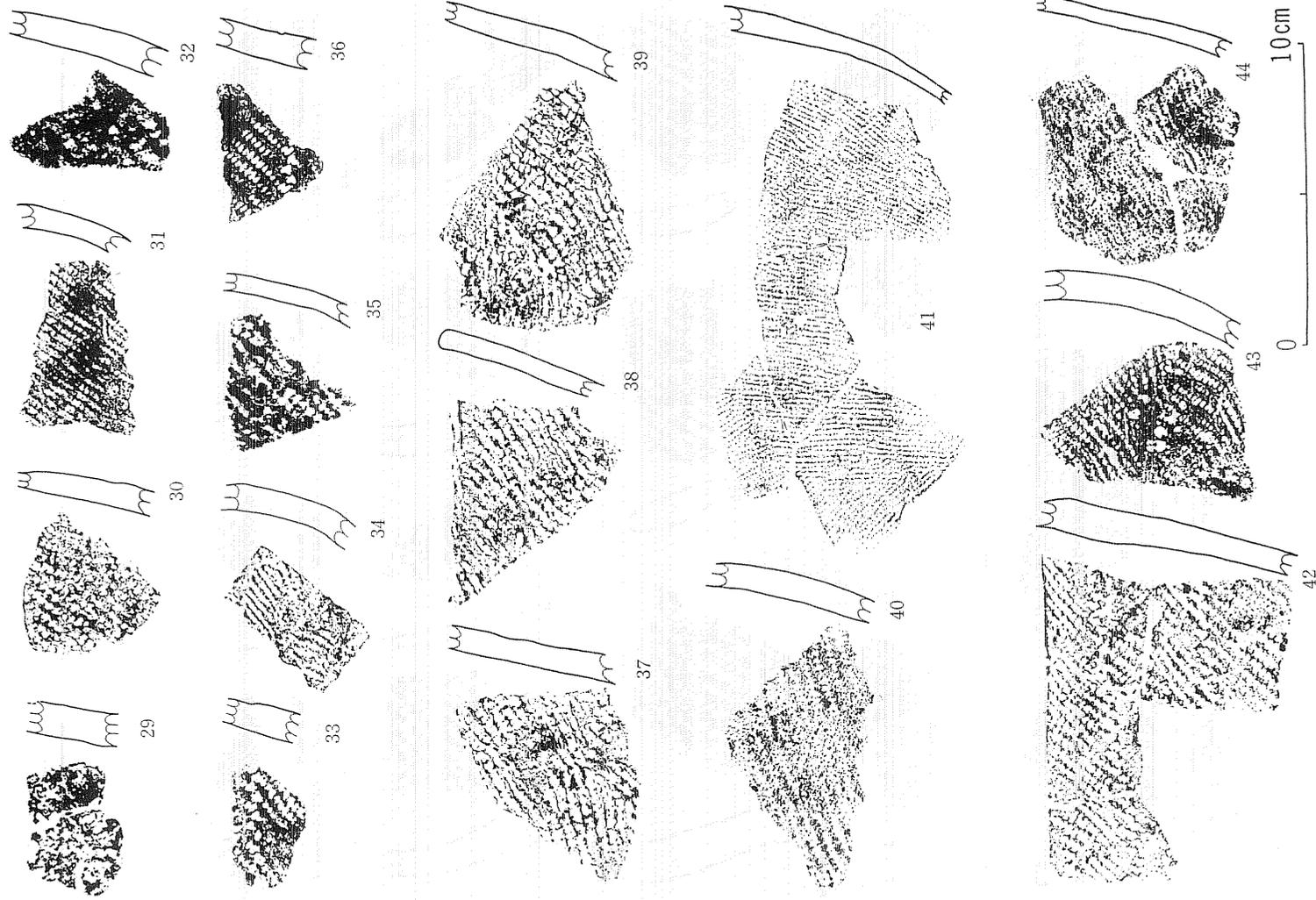
第 206 表 出土土器拓影・実測説明表

139-1	0-O 確認面 I	139-2	9-FRP 一括	139-3	0-O 確認面 I	139-4	9-FRP 一括
139-5	S I 43 覆土中	139-6	S I 43 床面	139-7	27-C 確認面 I	139-8	9-C 確認面 I
139-9	27-C 確認面 I	140-10	27-C 確認面 I				

拓影番号	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	厚さ(mm)	文 様 構 成	色 調	内面調整	焼 成	胎 土
139-1	34.8		29.6	8	LR 縄文	7.5YR ^{8/4} 浅黄橙色	ナ デ	良 好	砂粒少量
139-2	29.1		25.5	8.5	LR 縄文	10YR ^{8/4} 浅黄橙色	ナ デ	良 好	砂粒少量
139-3	35.3		35.4	8	LR 縄文 沈線(口縁部)	10YR ^{8/3} 浅黄橙色	ミガキ	良 好	砂粒少量
139-4	27.4		12.8	6	LR 縄文 沈線	7.5YR ^{8/4} にぶい橙色	ミガキ	良 好	砂粒少量
139-5	24.8		23.4	8.5	前々段多条捺糸文 (RL→r 3本)	10YR ^{8/4} 浅黄橙色	ナ デ	良 好	砂粒少量 小礫少量
139-6	15.9	10.9	26.3	9	磨消(口縁部) LR 縄文	7.5YR ^{7/6} 橙 色	ミガキ	良 好	砂粒少量
139-7			7.3	12	LR 縄文	5YR ^{8/4} にぶい赤褐色	ミガキ	良 好	砂粒少量
139-8		10.7	4.9	12	LR 縄文	7.5YR ^{9/6} 橙 色	ミガキ	良 好	砂粒少量 小礫少量
140-9	42.1		29.3	10.5	LR 縄文・沈線、粘土紐はりつけ、口縁部 は粘土はりつけ後半截竹管による削りとり	7.5YR ^{8/4} にぶい橙色	ミガキ	良 好	砂粒少量
140-10	23.6		26.3	10	LR 縄文	5YR ^{8/6} 赤 褐 色	ミガキ	良 好	砂粒少量

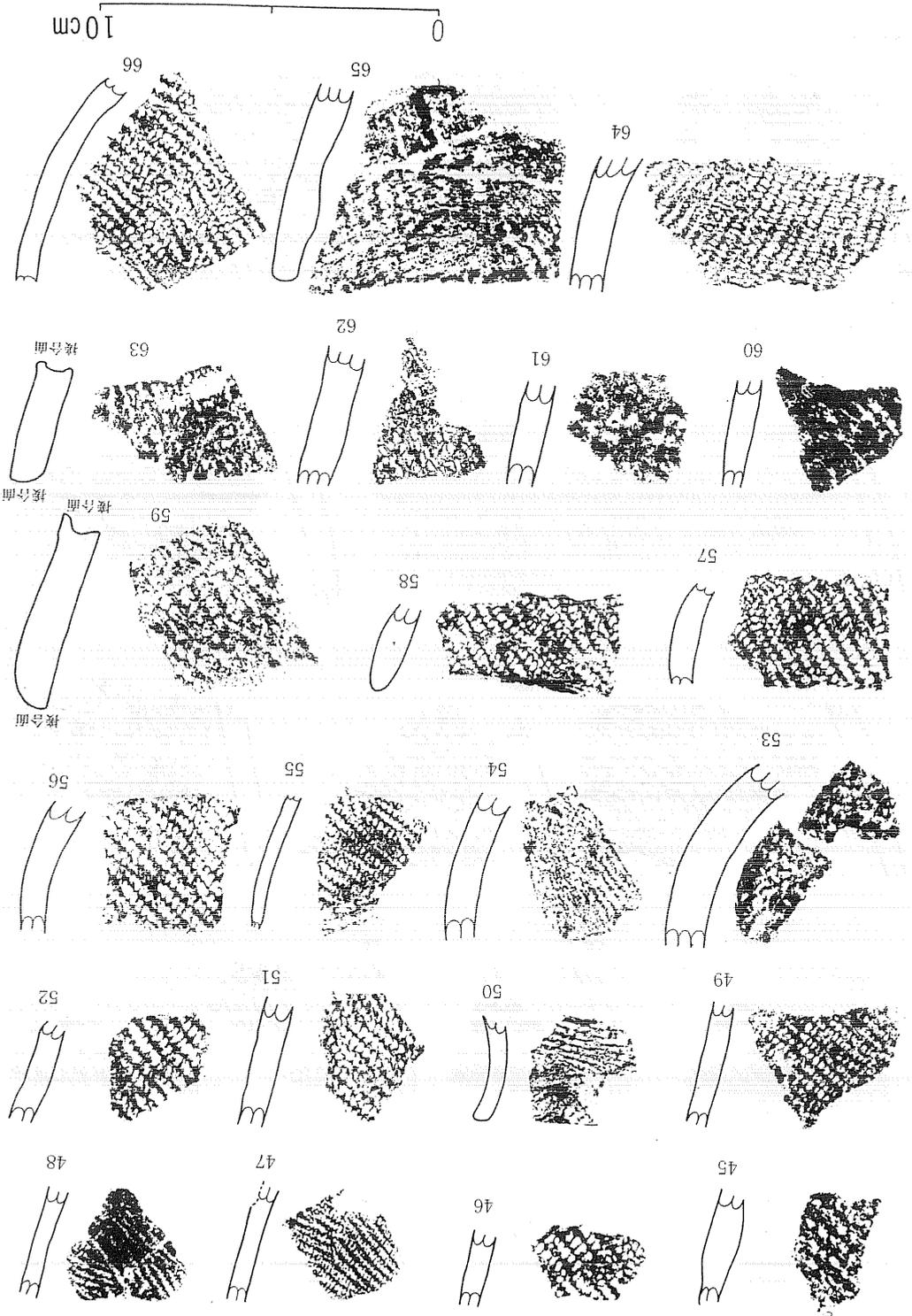
第141图 遺構内出土土器拓影图(1)



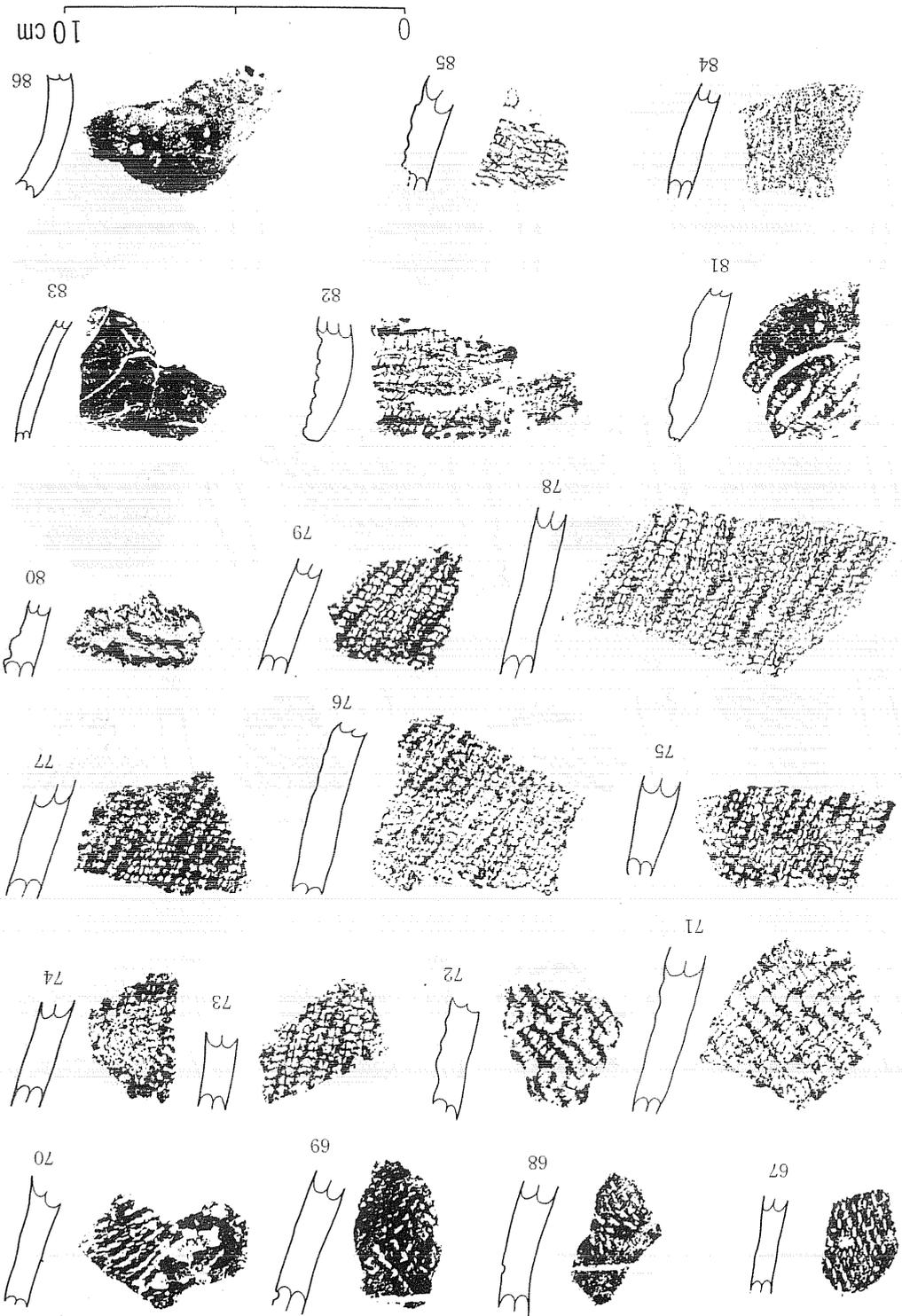


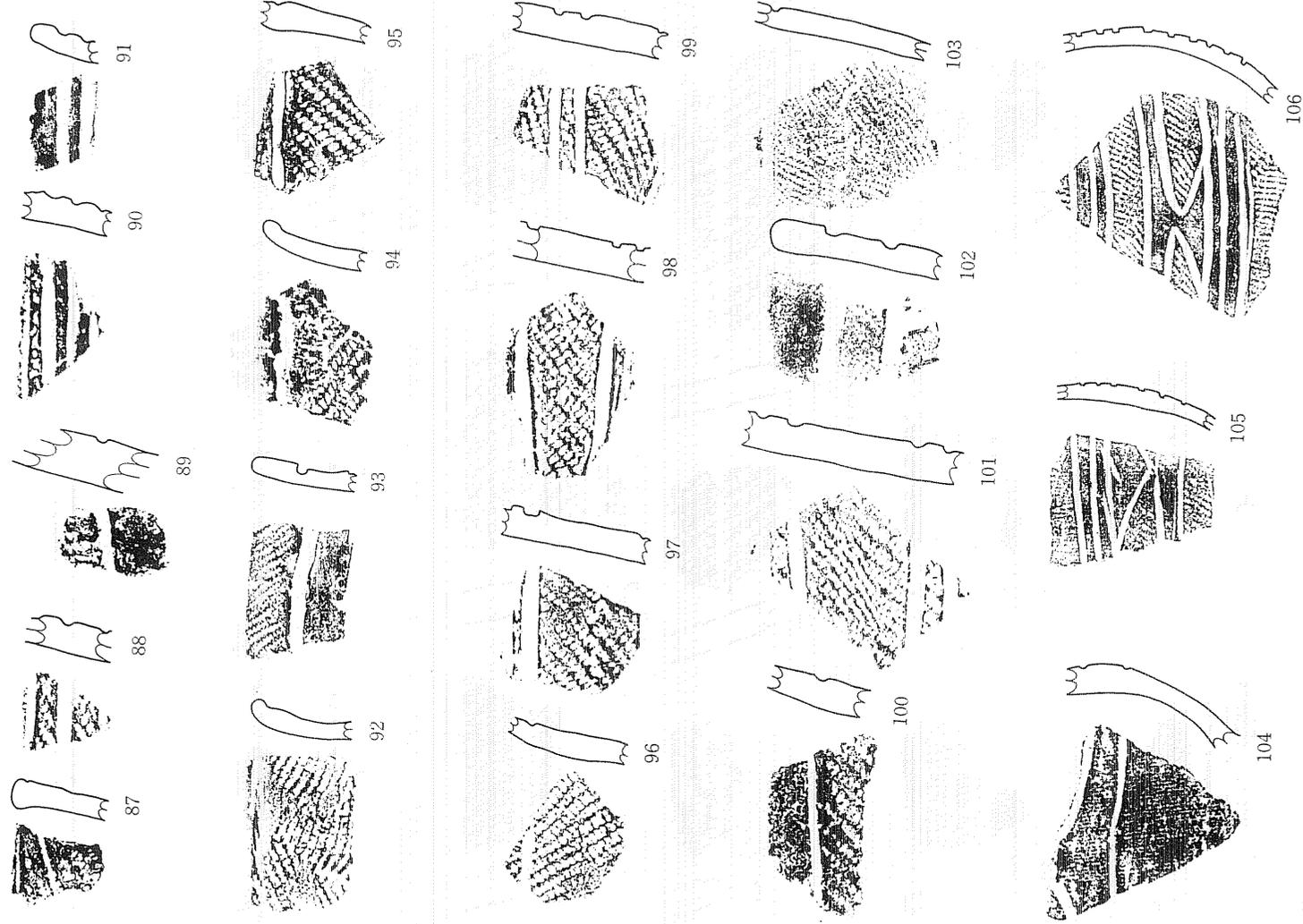
第 142 图 遗構内出土土器拓影图(2)

第 143 图 遺構内出土土器拓影图(3)



第144图 遺構内出土土器拓影图(4)

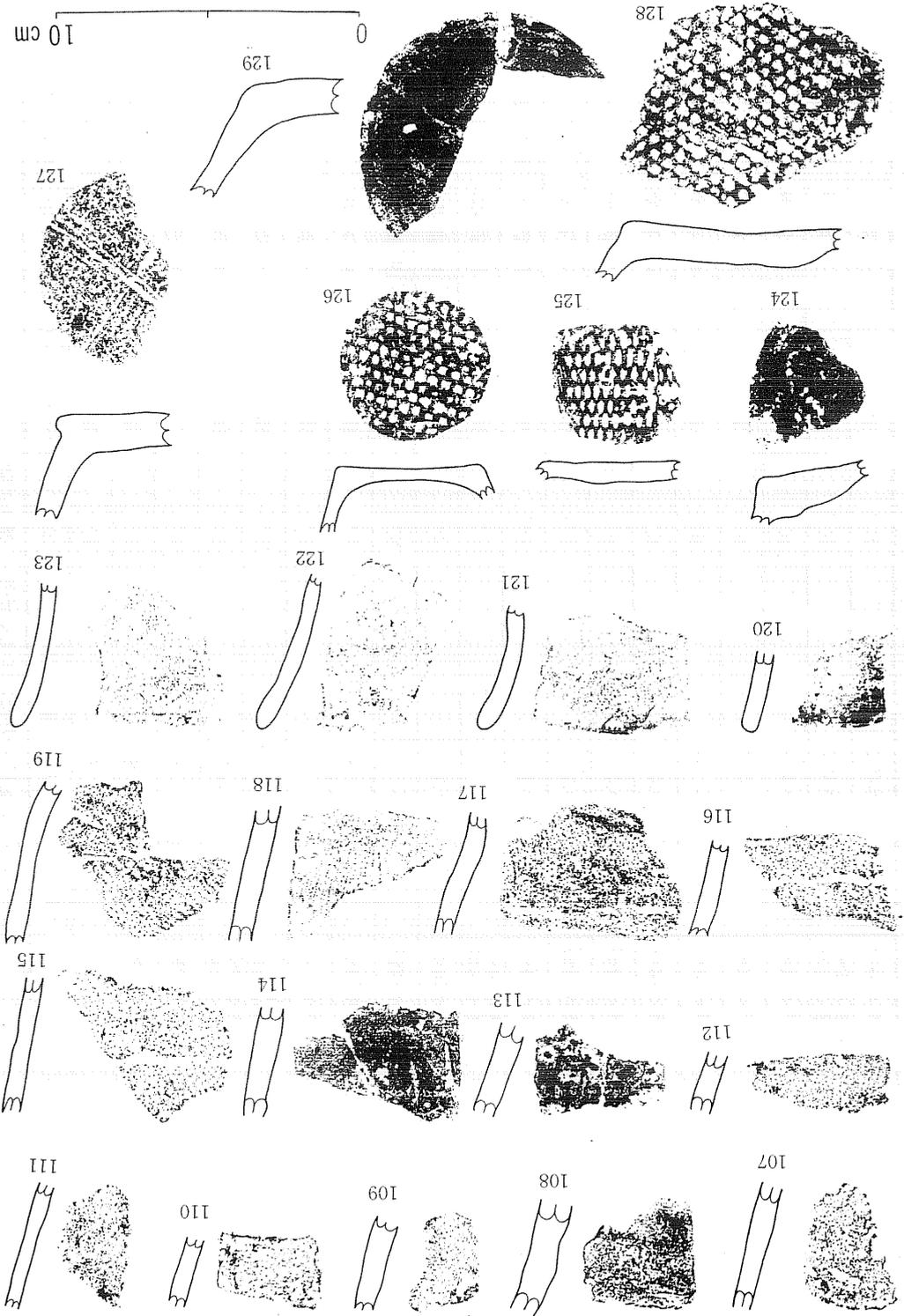




第 145 图 遗構内出土器拓影图(5)

第 146 图 遺構内出土土器拓影图(6)

0 10 cm



第 207 表 遺構外出土土器拓影説明表

拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
141-1	27-C	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	7.5YR $\frac{1}{2}$ 灰褐色
141-2	27-C	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	7.5YR $\frac{1}{2}$ 灰褐色
141-3	27-C	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	7.5YR $\frac{6}{4}$ にぶい橙
141-4	9-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	5YR $\frac{6}{6}$ 橙褐色
141-5	23-B	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10YR $\frac{6}{6}$ にぶい黄褐色
141-6	21-A	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	10YR $\frac{6}{4}$ にぶい黄橙
141-7	15-F	覆土中	胴部	LR	ナテ	小礫少量	10YR $\frac{6}{6}$ 浅黄橙色
141-8	22-K	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	10YR $\frac{6}{6}$ にぶい黄橙色
141-9	9-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	小礫少量	7.5YR $\frac{1}{2}$ 灰褐色
141-10	22-K	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量 小礫少量	5YR $\frac{6}{6}$ 橙褐色
141-11	SI04付近	確認面	胴部	LR	ミガキ	小礫少量	5YR $\frac{6}{6}$ 橙褐色
141-12	22-O	覆土上	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	7.5YR $\frac{6}{4}$ にぶい橙
141-13	9-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	7.5YR $\frac{8}{6}$ 浅黄橙色
141-14	15-F	覆土中	胴部	LR	ミガキ	小礫少量	7.5YR $\frac{8}{2}$ 灰白色
141-15	15-F	覆土中	胴部	LR	ナテ	小礫少量	10YR $\frac{8}{6}$ 浅黄橙色
141-16	23-J	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10YR $\frac{6}{4}$ 浅黄橙色
141-17	24-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10YR $\frac{6}{6}$ 浅黄橙
141-18	SI04付近	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	7.5YR $\frac{6}{6}$ 橙褐色
141-19	23-I	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10YR $\frac{6}{6}$ 浅黄橙色

拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
141-20	18-C	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10Y R ¹ / ₂ 褐灰色
141-21	21-A	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	10Y R ¹ / ₄ にぶい黄橙
141-22	25-F	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量 小礫少量	5Y R ¹ / ₄ にぶい赤褐色
141-23	23-I	確認面	胴部	LR	ミガキ	小礫少量	10Y R ³ / ₄ 浅黄橙色
141-24	S I 04付近	確認面	胴部	LR	ナテ	小礫少量	10Y R ² / ₂ 灰黄褐色
141-25	23-I	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10Y R ¹ / ₂ 褐灰色
141-26	9-F	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	2.5Y R ⁶ / ₆ 橙色
141-27	0-O	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	7.5Y R ¹ / ₄ にぶい橙色
141-28	23-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	7.5Y R ¹ / ₄ にぶい橙色
142-29	22-K	確認面	胴部	Lの撚糸	ミガキ	小礫少量	10Y R ¹ / ₄ 浅黄橙
142-30	15-F	覆土中	胴部	LR	ナテ	小礫少量	2.5Y ⁸ / ₆ 黄色
142-31	23-F	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	2.5Y ⁷ / ₆ 浅黄色
142-32	20-J	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	2.5Y ⁷ / ₆ 明黄褐色
142-33	9-F	確認面	胴部	LR	ナテ	砂粒少量	7.5Y R ¹ / ₂ 褐灰色
142-34	18-O	覆土中	胴部	LR	ナテ	砂粒少量 小礫少量	7.5Y R ⁶ / ₆ 橙色
142-35	20-J	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒多量	7.5Y R ⁵ / ₈ 明褐色
142-36	23-B	確認面	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁶ / ₃ にぶい黄橙
142-37	17-C	覆土中	胴部	LR	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R ⁵ / ₂ 灰黄褐色
142-38	18-C	確認面	口縁部	LR	ミガキ	小礫少量	10Y R ¹ / ₂ 灰黄褐色
142-39	18-C	確認面	胴部	LR	ミガキ	小礫少量	10Y R ¹ / ₂ 灰黄褐色

拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
142-40	18-I	覆土中	胴部	L R	ナテ	砂粒多量 小礫少量	2.5Y ⁸ / ₂ 浅黄色
142-41	27-C	確認面	胴部	L R	ナテ	砂粒少量	7.5Y R ³ / ₂ にぶい褐色
142-42	23-B	確認面	胴部	L R、沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ³ / ₂ にぶい橙色
142-43	27-C	確認面	胴部	L R	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁶ / ₂ 浅黄橙色
142-44	21-A	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒多量	10Y R ⁷ / ₄ にぶい黄橙色
143-45	9-F	確認面	胴部	Rの捺糸	ナテ	砂粒少量	5Y R ⁶ / ₂ 明赤褐色
143-46	18-B	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₂ にぶい橙
143-47	17-C	覆土中	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙
143-48	17-C	覆土中	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁶ / ₂ 明黄褐色
143-49	27-C	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁶ / ₂ 浅黄橙色
143-50	19-A	確認面	口縁部	R L	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁶ / ₂ 浅黄橙色
143-51	25-F	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙色
143-52	18-B	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₄ 浅黄橙色
143-53	22-K	確認面	胴部	Rの捺糸	ナテ	砂粒少量 小礫少量	10Y R ⁶ / ₂ 浅黄橙色
143-54	18-D	覆土中	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙色
143-55	23-I	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁶ / ₂ 浅黄橙色
143-56	27-C	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙色
143-57	18-B	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量	5Y R ⁶ / ₂ 橙色
143-58	S I 04付近	確認面	口縁部	R L	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙色
143-59	24-H	確認面	胴部	Rの捺糸	ナテ	砂粒少量 小礫少量	10Y R ⁷ / ₄ 浅黄橙色

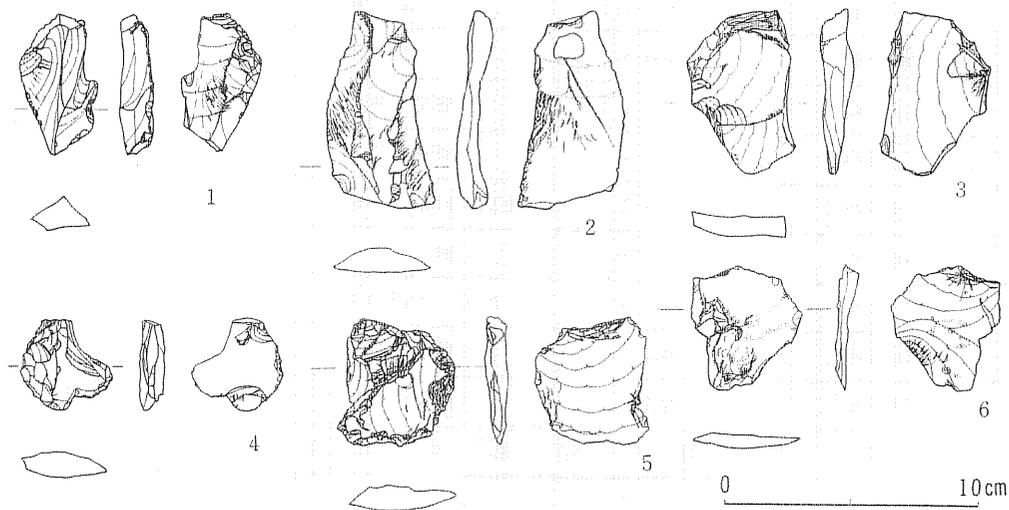
拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
143-60	20-J	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量 小礫少量	5 Y R $\frac{9}{6}$ 橙色
143-61	20-J	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量 小礫少量	7.5 Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
143-62	22-K	確認面	胴部	R L R	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	7.5 Y R $\frac{7}{6}$ 橙色
143-63	22-K	確認面	胴部	Rの撚糸	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{6}$ 浅黄橙色
143-64	9-C	確認面	胴部	R L	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	7. Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
143-65	22-K	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{4}$ 浅黄橙色
143-66	18-B	確認面	胴部	R L	ナテ	砂粒少量	5 Y R $\frac{9}{6}$ にぶい橙色
144-67	26-F	確認面	胴部	Rの撚糸	ミガキ	砂粒少量	7.5 Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-68	25-G	確認面	胴部	Rの撚糸・沈線	ミガキ	砂粒多量	7.5 Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-69	25-G	確認面	胴部	Rの撚糸・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5 Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-70	23-B	確認面	胴部	Rの撚糸	ナテ	砂粒少量	7.5 Y R $\frac{8}{2}$ 灰白色
144-71	9-C	確認面	胴部	第1種結束 上R L、下L Rの結束	ナテ	小礫少量	7.5 Y R $\frac{8}{6}$ 浅黄橙色
144-72	1-A	確認面	胴部	R Lの結節	ナテ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{2}$ 灰白色
144-73	22-O	覆土上	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-74	9-C	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-75	28-B	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	7.5 Y R $\frac{7}{4}$ 浅黄橙色
144-76	25-C	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	7.5 Y R $\frac{8}{4}$ 浅黄橙色
144-77	27-C	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{8}{6}$ 浅黄橙色
144-78	27-C	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
144-79	26-F	確認面	胴部	L R L	ミガキ	砂粒少量	10 Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色

拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
144-80	19-J	確認面	胴部	隆帯、LR	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
144-81	26-F	確認面	胴部	磨消、LR、沈線 半截竹管によるけずりとり	ナデ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
144-82	19-J	確認面	口縁部	竹管擦糸圧痕 巻紐の側面圧痕	ミガキ	植物繊維を含む 砂粒少量	5Y R $\frac{1}{2}$ 灰褐色
144-83	21-J	確認面	胴部	沈線	ミガキ	砂粒少量	2.5Y R $\frac{6}{6}$ 橙色
144-84	21-A	確認面	胴部	rの擦糸	ナデ	砂粒少量	5Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
144-85	24-H	確認面	胴部	前々段多条LR(ℓ3本)	ナデ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{6}{4}$ にぶい橙色
144-86	21-A	確認面	口縁部	RLR沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{8}{4}$ 浅橙色
145-87	18-C	確認面	口縁部	LR・沈線	ナデ	砂粒少量	10Y R $\frac{1}{1}$ 褐灰色
145-88	9-F	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{7}{4}$ にぶい橙色
145-89	1-A	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	7.5Y R $\frac{6}{3}$ にぶい褐色
145-90	23-B	確認面	胴部	?・沈線	ミガキ	砂粒少量	5Y R $\frac{7}{3}$ にぶい橙色
145-91	23-I	確認面	口縁部	沈線	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
145-92	27-C	確認面	口縁部	LR	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{7}{4}$
145-93	5-F	確認面	口縁部	RL・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{7}{3}$ にぶい橙色
145-94	24-H	確認面	口縁部	LR	ナデ	砂粒少量	10Y R $\frac{8}{1}$ 灰白色
145-95	26-F	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{8}{3}$ 浅黄橙色
145-96	27-C	確認面	胴部	RL・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{7}{3}$ にぶい橙色
145-97	22-O	覆土上	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	5Y R $\frac{6}{4}$ にぶい橙色
145-98	24-C	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	5Y R $\frac{5}{1}$ 褐灰色
145-99	9-F	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{1}{1}$ 褐灰色

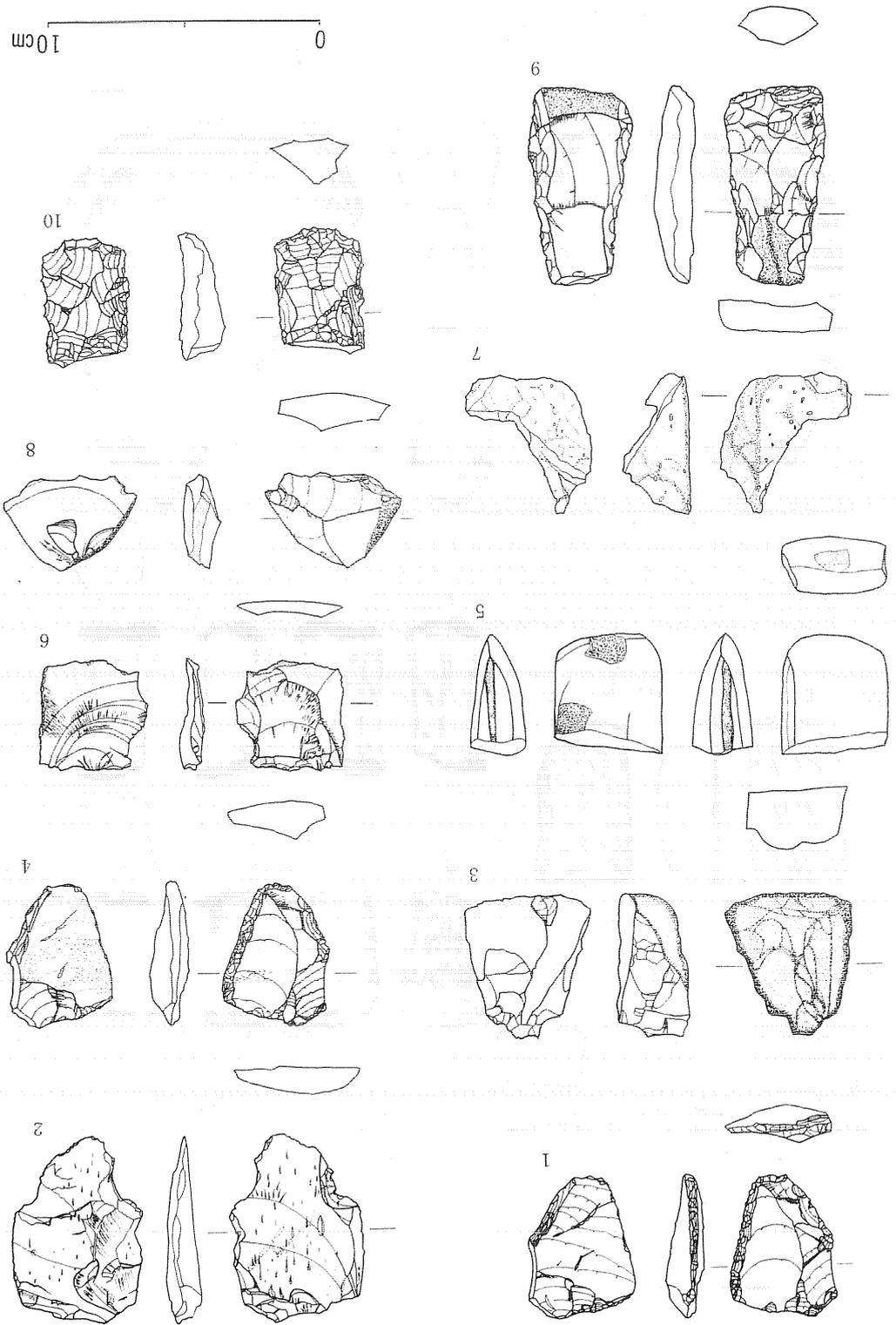
拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
145-100	18-B	確認面	胴部	RL・沈線	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁸ / ₃ 浅黄橙色
145-101	22-O	覆土上	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₄ にぶい褐色
145-102	20-F	覆土上	口縁部	ℓの撚糸・沈線	ナデ	砂粒少量	5Y R ⁸ / ₂ 灰褐色
145-103	7-E	確認面	胴部	LR・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₂ 灰白色
145-104	9-C	確認面	胴部	RL・磨消・沈線	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₃ 浅黄橙色
145-105	27-C	確認面	胴部	LR・沈線	ナデ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₄ にぶい橙色
145-106	27-C	確認面	胴部	LR・沈線	ナデ	砂粒少量	7.5Y R ⁷ / ₃ にぶい橙
146-107	13-F	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁵ / ₂ 灰黄褐色
146-108	20-A	確認面	胴部	無文	ナデ	砂粒少量	10Y R ⁸ / ₃ 浅黄橙色
146-109	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁷ / ₄ にぶい黄橙色
146-110	23-I	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁷ / ₃ にぶい黄橙色
146-111	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒多量	7.5Y R ⁷ / ₄ にぶい橙色
146-112	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒多量	10Y R ⁸ / ₄ 浅黄橙色
146-113	18-C	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R ⁸ / ₄ にぶい黄橙色
146-114	18-C	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁷ / ₃ にぶい黄橙色
146-115	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒多量	10Y R ⁷ / ₄ にぶい黄橙色
146-116	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量 小礫少量	10Y R ⁸ / ₄ 浅黄橙色
146-117	21-A	確認面	胴部	RLの押圧	ミガキ	砂粒多量	7.5Y R ⁸ / ₆ 浅黄橙色
146-118	19-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	7.5Y R ⁸ / ₄ にぶい橙色
146-119	21-A	確認面	胴部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R ⁷ / ₄ にぶい黄橙色

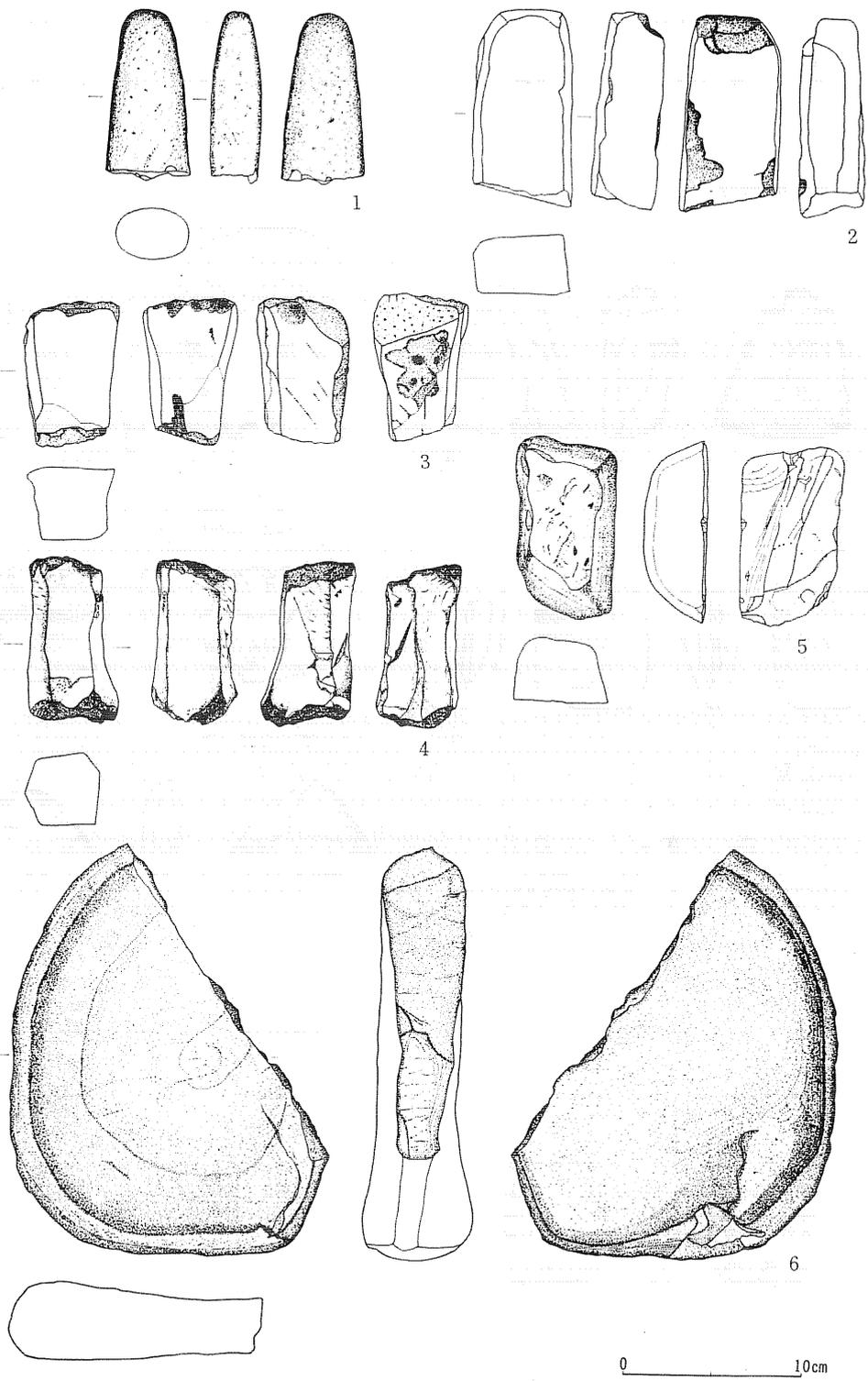
拓影番号	出土地区	出土層位	形態・部位	文様構成	内面調整	胎土	色調
146-120	25-C	確認面	口縁部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{3}{4}$ 褐灰色
146-121	25-F	確認面	口縁部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{3}{4}$ にぶい黄褐色
146-122	25-F	確認面	口縁部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{3}{4}$ 灰白色
146-123	25-F	確認面	口縁部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{3}{4}$ にぶい黄橙色
146-124	22-K	確認面	底部	無文	剥落	砂粒少量	5Y R $\frac{3}{4}$ 橙色
146-125	18-C	確認面	底部	あじろ痕	ナテ	砂粒少量	7.5Y R $\frac{3}{4}$ にぶい褐色
146-126	27-C	確認面	底部	あじろ痕	ナテ	砂粒少量	5Y R $\frac{3}{4}$ にぶい橙色
146-127	9-F	確認面	底部	笹葉の圧痕	ナテ	砂粒少量 小礫少量	7.5Y R $\frac{3}{4}$ 黒褐色
146-128	22-B	確認面	底部	あじろ痕	ナテ	砂粒少量	5Y R $\frac{3}{4}$ にぶい赤褐色
146-129	9-F	確認面	底部	無文	ミガキ	砂粒少量	10Y R $\frac{3}{4}$ にぶい黄橙色

第147図 遺構外出土石器・切片実測図(1)



第148图 遺構外出土石器・剥片実測图(2)





第 149 图 遺構外出土石器・剥片実測図(3)

第 208 表 遺構外出土石器類計測・説明表 (E-4 を除く)

実測図番号	出土地区	出土層位	名 称	大 き さ (単位 mm)				石 質
				長 さ	幅	厚 さ	重さ(g)	
147-1	19-G	V 層	剥片	54	28	12	16.0	頁岩
147-2	19-G	V 層	サイドスクレーパー	76	37	9	28.2	頁岩
147-3	20-A	V 層	剥片	62	40	8	28.0	頁岩
147-4	21-J	V 層	剥片	35	35	10	10.7	頁岩
147-5	26-F	V 層	剥片	49	42	10	21.3	頁岩
147-6	26-F	V 層	剥片	47	43	5	9.3	頁岩
148-1	6-F	V 層	サイドスクレーパー	53	36	14	23.3	頁岩
148-2	D-G	覆土中	剥片	67	47	9	38.0	石英安山岩
148-3	6-F	V 層	自然石	51	45	22	64.0	泥岩
148-4	6-F	V 層	自然石	28	22	11	5.9	泥岩
148-5	S D 5 (10-F)	覆土中	磨製石斧	43	38	21	61.9	緑色凝灰岩
148-6	16-F	覆土中	剥片	40	38	5	10.5	頁岩
148-7	16-F	覆土中	剥片	50	41	10	26.9	流紋岩(風化)
148-8	18-B	V 層	剥片	33	49	14	19.9	頁岩
149-1	16-D	V 層	磨製石斧	95	44	26	210.0	花崗岩
149-2	16-D	V 層	砥石	107	52	29	340.0	石英安山岩
149-3	16-E	V 層	砥石	79	48	38	250.0	流紋岩
149-4	Pit 659 (4-B)	覆土中	砥石	88	44	34	225.0	流紋岩 S B 008 柱穴
149-5	D-G	覆土中	剥片	103	55	35	285.0	泥岩
149-6	17-D	V 層	石皿	228	175	44	2,208.0	安山岩

6 ま と め

前項まで調査成果を羅列したが、各遺構・遺物について若干の考察を加え、まとめとしたい。

縄文時代の竪穴住居跡は調査区南端に2棟(SI 42・SI 43)検出されている。2棟とも壁面の一部を破壊されているが全容を知ることができる。

42は胴張りのある方形を呈し、床面中央からやや南東寄りに石組炉が存在する。43は円形プランを呈し、床面中央からやや南東寄りに石組炉が存在する。柱穴の配置をみると、住居の周壁に沿うように穿たれているが北西から北東部にかけては更に内側にも穿たれており、この部分は拡張があったと考えられる。2棟の竪穴住居跡は規模・平面プランに相違はあるが、住居内に占める炉の位置、つくり方は一致している。

この2棟の竪穴住居跡の時期については、43の床面上から出土した釣手形把手付壺形土器が与えてくれる。この壺形土器は、口縁部に広い磨消無文帯をもち胴部に斜行縄文の施文されている算盤王状の形状に紐通し状の穴が縦方向に穿たれた把手がつけられたものである。これと類似する土器の出土例は、小坂町鶴^{ときと}II遺跡竪穴住居跡^(註1)1点、青森市三内遺跡J-13号土壇1点、J-14号竪穴住居跡^(註2)3点があげられる。

この土器の形状・文様帯構成からは、最花式を強く想起させるものがあるが、刺突文・沈線文が施されていないことから、最花式と呼ばれている土器群の地域差・時間差に起因するものか速断できない。ここでは一応、最花式類似の土器として把え、中期末葉から後期初頭にしておきたい。

T-pit は、大湯浮石層よりも下の層で確認され、埋土にも大湯浮石を全く含まずに13基検出されているが、長軸方向を北西―南東とするもの3基、北東―南西とするもの1基で他は北―南とするものである。T-pit の分布を観察すると、北西―南東方向のものは調査区北側に各約3mの間隔をもって平行に3基並んでいる。北東―南西方向のものは調査区縁辺部に存在する。北―南方向のT-pit のうち6基が14ラインと15ラインの間に並んでいるが、全体的にはそれほど規則性を認めることができない。

T-pit は県内でも検出例が増加しつつあるが、鹿角盆地に検出例が集中し、他に秋田城跡^(註3)・^(註4)男鹿市大畑台遺跡^(註5)・能代市館下I遺跡^(註6)・能代市竹生遺跡^(註7)で数基検出されているのみである。

秋田城跡では内黒土師器を伴う竪穴住居跡によってT-pitが切られている。大畑台遺跡では、縄文時代中期後半の大木8b式土器伴出竪穴住居跡、大木8a式と円筒土器上層d式土器を伴出する竪穴住居跡を切っているT-pitがあり、館下I遺跡では縄文時代末葉の大木10式土器を伴出する竪穴住居跡によって切られている例が報告されている。

本遺跡ではその構築年代・用途を明確にする資料に乏しいが、少なくとも、回転するロクロの

上で成形され、回転糸切り技法によりロクロから切り離されたあと、底辺部を手持ちヘラ削りする環形土師器が出現後に降下した大湯浮石層より以前に構築されたものであることは明確である。用途については、現在では獣のおとし穴とする見解が優勢であるが、おとし穴説以外に便所および馬関係の遺構と考える研究者もいると福田友之氏は述べている（福田1981）。

中世の所産と思われる方形・長方形・円形・長円形の竪穴遺構について若干の考察を試みたい。

中世の時期と思われる竪穴遺構は42棟検出されているが、張り出し部のある方形竪穴遺構18棟、方形・長方形竪穴遺構21棟、円形竪穴遺構1棟、長円形竪穴遺構1棟である。

張り出し部のある方形竪穴遺構

規模の大小、張り出し部の付設される位置、張り出し部の底面形状などに違いが認められるが、方形に掘りくぼめた本体に小さな張り出し部を付設し、各壁隅部と壁面中央部の床面に柱穴を穿ち、炬・かまど等の施設はないというパターンが基本であり、共通点である。

張り出し部の付設される位置を観ると、みかけの方向（方角）であるが、

北側壁の北西隅部寄り……………01、08、13、26、28	5棟
北側壁の北東隅部寄り……………35	1棟
北側壁の南東隅部寄り……………04、05、09、15、19、27	6棟
東側壁の北東隅部寄り……………30、34	2棟
南側壁の南西隅部寄り……………12	1棟
南側壁の中央部……………10	1棟
西側壁の北西隅部寄り……………33	1棟

となっており、張り出し部を北側壁と東側壁に付設する例が圧倒的に多い。また、竪穴本体規模の大・小はあっても、張り出し部基部の幅がほぼ同じである。

この張り出し部のある竪穴遺構の構築時期は、大湯浮石の降下・堆積後であることは明確であるが、内部からの出土遺物が僅少であることから決定することが難しい。

05からは、馬金具とともに6枚の銅銭が出土しているが、銅銭のもつ特性（鑄造→移入→流通→蓄銭・紛失・廃棄・埋納）を考慮すれば、最も新しい初鑄年をもつ永樂通宝であっても、05に残されるまでの時間は相当長期に及ぶと考えられる。

同じ形態を呈する竪穴遺構は、県内では鹿角市新斗米館^(註8)・小平遺跡^(註9)・高市向館^(註10)・小豆沢館^(註11)・一本杉遺跡^(註12)・比内町真館^(註13)・谷地中館^(註14)・大館市片山館^(註15)から、青森県内では、大鰐町砂沢平遺跡^(註16)・平賀町富山遺跡^(註17)・浪岡町浪岡城跡^(註18)・八戸市根城跡^(註19)から、岩手県内では、二戸市長瀬C遺跡^(註20)・長瀬D遺跡^(註21)・沢内B遺跡^(註22)・上里遺跡^(註23)・安代町曲田I遺跡^(註24)・上ノ山館^(註25)・雫石町下平遺跡^(註26)・盛岡市繁田遺跡^(註27)・太田方八丁遺跡^(註28)・石鳥谷町大瀬川館^(註29)・花巻市古館^(註30)・北上市丸子館^(註31)・水沢市玉貫遺跡^(註32)か

らも検出されている。

秋田県北部での一本杉遺跡を除く他の検出例、青森県の砂沢平・浪岡城・根城の3例、岩手県の上ノ山館・太田方八丁・大瀬川館・古館・丸子館の5例はいずれも城・館跡とされている遺跡での検出であり、中世の城・館遺跡と密接な関連性をうかがうことができる。

一方、館状地形を呈していない場所に所在する遺跡あるいは館跡と認識されていない遺跡で検出している例もあり、これらの遺跡が周辺城・館跡とどのように関連するのか検討する必要がある。

各遺跡検出例を概観すると、本遺跡の基本パターンの他に僅少ではあるが床面中央部に柱穴が穿たれている例・炉を有する例・張り出し部に石を敷く例・壁溝を巡らす例がある。

張り出し部をもたない方形竪穴遺構として、03・06・07・14・25の5棟があげられる。各遺構とも壁下の床面に柱穴が穿たれているが、03・14の2棟は柱穴間をつなぐように壁溝が巡らされている。

長円形・円形・方形を呈する竪穴遺構（長円形：38、円形：40、方形：39・41・44）は、いずれも埋没後にS D 5溝に掘り込まれている。形態差はあるが内部に柱穴が穿たれておらず、外部にも検出されていない。

さて、これら中世所産の竪穴遺構のうち、張り出し部のある方形竪穴遺構の性格について、住居跡・倉庫・集会所・土壇・馬屋とする説もあるが、青森県浪岡城跡出土例について工藤清奈氏は「竪穴遺構を土倉的なものと考え、住居跡としなかったのは今回検出されたすべての竪穴遺構床面に人間生活の痕跡がないことによる。つまり遺構内床面より生活跡(炉・かまど)、生活用具(土器、陶磁器、金属器等)の出土がまったくないこと、遺構の構造自体が長期の耐久を考慮して造られていないこと、前述の掘立柱建物跡の存在もあわせ考えて、竪穴遺構の機能が住居跡としての性格を逸脱している結果とみられる」(工藤1980)として倉庫跡をとっている。また鹿角市新斗米館跡では、最近の調査成果・研究を踏まえて「住居、倉庫、簡易宿舎等種々の説があるが最近倉庫説が有力となってきているようである」(秋元1981)としている。しかし、本遺跡出土例について、次に述べる理由から工藤氏の述べる理由での倉庫説には同意できない。

東北地方北部の古代の竪穴住居跡における柱穴配置には、いくつかのパターンが認められているが、略述すると、住居の壁面から一定の距離をもった対角線上の床面に柱穴を4カ所配置するパターンから、そのパターンに加えて各壁隅部にも柱穴を穿つパターンになり、更に対角線上床面配置が消え、隅部と各壁中央部下方の床面に配置するパターンへと変遷している。

この柱穴配置と密接に関連したのが壁下を巡る溝であろう。壁下を巡る溝については、炭化板材の検出例から矢板状に板材を並べ建てた跡であることが判明している。この矢板状板材は

当初土留めのための短い腰壁材であったものが、それより長い外壁材へと変化したと考えられる。この長い外壁材の出現は、住居跡の土屋構造をそれまでの屋根が直接地表面につく形態から、住居内の有効面積を広くとれる軒高な住居の構造へと変化させるものであったろうし、このことが柱穴の配置を床面中央部から隅部へ変化させたものと考えられるのである。

これらの変化も鹿角地方においては、北の林Ⅱ遺跡・一本杉遺跡検出の古代の竪穴住居跡において認められており、本遺跡の張り出し部のある竪穴遺構と張り出し部はもたないが柱穴の配置が認められる竪穴遺構の柱穴配置は、北の林Ⅱ・一本杉遺跡の古代の竪穴住居跡の柱穴配置と何ら変わるものではないことから「長期の耐久を考慮していない」とする理由はあたらないと考える。壁溝の有無によって判断材料の一つにするとしても、本遺跡では、壁下を巡る溝のある竪穴遺構は、張り出し部のあるS I 01の他張り出し部があるかどうか不明な2棟(S I 16・18)を加えて5棟検出されており、外壁材の縦位置配列から横位置配列への変化や原材料のちがいを考慮すれば大きな問題とはならない。

また、遺構内床面に生活跡(炉・かまど)、生活用具(土器、陶磁器、金属器等)の出土がまったくないことと、掘立柱建物跡が存在することから住居跡ではないと結論しているが、生活用具の出土が少ないことは単に当該竪穴遺構だけではなく、東北地方北部の中世遺跡全体がその傾向をもっていることである。もし、炉・かまどを有することが住居としての機能を有することならば、掘立柱建物跡もその機能を具有していないことになる。

本遺跡では、後述するが屋外かまどと考えられる焼土遺構が多数検出されており、住居内施設としてのかまどが、屋外へその構築位置を変化させていることを考慮すれば、竪穴遺構にもまた掘立柱建物跡にも付属施設としてのかまどがなくとも「住まい」とすることができるのではないかと考える。

掘立柱建物跡は109棟分がその存在を確認されているが、建物規模が明確なものは53棟にすぎない。建物規模は2間×3間のものが多く、棟方向も北北西―南南東を中心に各30度の範囲のものが多い。柱穴寸法をみると2間×3間の建物規模であってもいくつかのグループに分類できる。

掘立柱建物跡の占地状態をみると、他に広い場所があるにもかかわらず、いくつかの地点で数回の建て替えが行われている。これは、他の遺構群の占地との関連があるためかも知れない。

掘立柱建物跡の所産時期について明確にすることはできないが、張り出し部のある方形竪穴遺構と重複するものがあるので竪穴遺構の時期が一つの目安となるかも知れない。

焼土遺構としたものは、長楕円あるいは長大な卵形の一部に突起をつけたような平面プランを呈する。このプランを観察すると卵形の幅広な部分には粘土等を馬蹄形に巡らし、その内部と幅狭な部分には黒褐色土が充填されている。縦断面を観察すると馬蹄形に巡らした部分が鍋

底状に一段深くなって熱変化しており、黒褐色土堆積部分の底は、鍋底部分に向って傾斜している。鍋底部分には粘土・焼土・炭化物が厚く堆積し、黒褐色土堆積部分には、炭化物・灰・焼土の薄層が互層状態で堆積している。

この焼土遺構は、0ラインから8ラインまでの粗掘り後のプラン確認作業では、単なる焼土・粘土の円～楕円形の堆積と認識されていたが8ラインより南側の大湯浮石層上部におけるプラン確認作業において焼土・粘土の範囲に黒褐色土の範囲が続く遺構であることが判明したもので、このことから馬蹄形に粘土等で囲んだ部分が燃焼部、黒褐色土の堆積部分が焚口部と考えられることから、この焼土遺構を屋外かまどと推定した。

この焼土遺構と類似する遺構は、北に隣接する乳牛平遺跡^(註33)の他に、青森県黒石市浅瀬石遺跡^(註34)・同県浪岡町浪岡城跡・同県八戸市根城跡でも検出されている。

浅瀬石遺跡は慶長2年(1597年)に大浦(津軽)為信により落城させられた千徳氏の居城・浅瀬石城の町屋敷とされている地区にあり、三和土状遺構とともに焼土遺構2基が検出されているが、遺物の出土はなく、その性格・構築年代は不明とされている。

浪岡城跡北館平場で検出されている焼土遺構について報告書は「焼土遺構は、かまどや炉というような遺構と認定できるものではなく、また落城時の火災跡としては範囲が狭すぎることから一種の性格不明遺構に属する」としながらも『小結』では、「城跡の建物跡を検出してゆく中で、日常の炊事をする場所あるいは遺構を明確に把握できない難点がある。今回の焼土遺構はその意味でも重要なものであるが、S F01・S F02・S F03はS E22(注：井戸)に隣接し、なおかつ3基が集中して位置することは重要な事と考えられる。城跡の中では建物別の炊事というよりは、決まった場所でまとめて炊事していた可能性が高く、かまどの構造とともに追求すべき点と思われる」と述べている(工藤1981)。

根城跡では、かまど状遺構として扱われているものは、形態的には粘土を馬蹄形に巡らす点では本遺跡と同じであるが、粘土の他に石を配している点が異っている。

このかまど状遺構・焼土遺構が、いずれも張り出し部のある竪穴遺構・掘立柱建物跡を検出する中世の城館跡から共に検出される事実は、城館内においては、個々の建物の中で炊事をするのではなく、特定の炊事場があったと考えられ、注目する必要がある。

土壙は61基検出されており、その平面及び・断面の形状からいくつかに分類することができるが、この61基の土壙のうち、いくつかは墓壙と考えられたが、明らかに墓壙と断定されたのはS K(S)53・S K(S)54・S K(S)57の3基である。

S K(S)53とS K(S)54には人骨が遺存し、S K(S)57には人骨が遺存しないものの融解した屍体の痕跡と副葬された貨幣が遺存していた。

3基の墓壙には、いずれも貨幣が副葬されており、S K(S)53では、2枚の小さい円形の紐目

の板の間に、皇宋通宝（初鑄1039年）・嘉祐通宝（同1056年）・聖宋元宝（同1101年）の他、銘不詳銭1枚、融解して判読不可2枚の6枚が挟みこまれ、両手の手のひらで持たせたかのような状態で出土している。S K(S)54では骨盤のあたりから1枚出土しているが、融解しており判読できない。S K(S)57では、壙底北東部に洪武通宝（初鑄1367年）が2枚、元豊通宝（同1078年）・治平元宝（同1064年）・景德元宝（同1004年）が各1枚の他、他の貨幣と密着しているため判読不可1枚の6枚が出土している。

これらの貨幣の鑄造・輸入・流通の期間を考慮すれば、3基とも中世の墓壙と考えるのが妥当であろう。

S K(S)53とS K(S)54から出土した人骨については、国立科学博物館人類研究部長 山口 敏博士から次のような鑑定所見をいただいている。

妻の神Ⅲ遺跡出土の中世人骨について

山口 敏

1 土壙墓S K(S)53の人骨

出土状態の実測図および写真によれば、埋葬位は頭部を北にし、体の右側を下にして股関節と膝関節を強く折り曲げた側臥屈葬である（図127、図版 63）。

骨の保存状態はきわめてわるい。頭部で採りあげられた骨片の中には、表面の剝離した頭蓋冠の破片10数点、左右の側頭骨錐体、齒冠エナメル質の小破片1点が認められるが、それ以外は微小な細片で部位を識別することができない。後頭鱗中央部の破片にやや発達した外後頭隆起を認めることができる。この部分の厚さから判断して成人であろうと考えられる。エナメル質は大臼歯歯冠の約4分の1に相当する破片であるが、咬耗はほとんど認められない。

上肢の部分で採りあげられた骨片はすべて微細で、部位を同定できるものはない。骨片の一部に銅銭によると思われる青緑色の着色がみられる。

下肢部分からは比較的多くの骨片が採りあげられているが、ほとんどは表面が剝離し、歪んでひび割れした中・小の脆い縦割片である。中に大腿骨骨幹部、同骨下関節面、脛骨上関節面、同骨骨幹部の各破片を認めることができるが、骨幹径などを計測できるような破片は1点もない。この個体は比較的若い成人と推測される。

なおこの人骨の左下腿付近から、人骨とは保存状態、色調をやや異にする骨片が数点採りあげられている。このうち、関節面の形態が部分的に保存されている1片は、ウシの右上腕骨遠位端の一部であると思われるが、そのほかの骨片はいずれも断片的で、同定が困難である。

2 土壙墓S K(S)54の人骨

埋葬位は北頭位、右下の側臥屈葬である。膝関節は完全に屈しているが、股関節の屈曲は約

90度、肘関節の状態は不明である（第127図、図版 64）。

頭蓋では頭蓋冠の破片千数点、右側頭骨、左側頭骨錐体の一部、右頬骨片、下顎骨前歯槽部の小片が残っている。頭蓋冠の破片の中に前頭骨の右頬骨突起があり、比較的強く発達した側頭線前端部が認められる。右側頭骨は鱗部と乳様突起の大部分を欠くが、錐体および外耳道周辺を比較的よく残している。右外耳孔上縁には道上棘が発達している。右外耳道におけるフシケ孔の有無は鼓室部の破損のための判断できない。骨腫の形成はない。内耳孔上方の錐体上縁には著明な骨隆起がみられる。錐体の大きさは現代人の平均よりやや小さい。右頬骨の前頭突起の前外側面は比較的幅広い。下顎骨の小片に3個の前歯の歯根が残っているが、歯冠は失われている。

一括して採りあげられている四肢骨片の中には、側不明の上腕骨近位端、仙骨、右腸骨、側不明の寛骨臼部、左右大腿骨、左右脛骨、側不明の腓骨、右距骨、および右踵骨の各破片が識別される。そのほかに識別も復元もできない長管骨の縦切片がかなり残っている。

上腕骨についてはとくに記すべき所見はえられない。仙骨の上関節突起と思われる小片の関節面上縁に骨縁堤が形成されている。

大腿骨では右の近位約5分の3の前面部分と左の骨幹上半の前面部分を復元することができた。緻密質が厚く、骨幹は比較的太い。骨幹径を計測できる箇所はないが、比較的保存状態のよい左骨幹上部の最大横径は、少なくとも33mmと推測される。この値は現代および中世の日本人男性の平均を上回っている。

脛骨では右骨幹の近位約3分の2を復元することができたが、その骨幹片の下半は前縁を欠くので、骨幹中央径の計測はできない。上ラメ筋線がよく発達して高い稜線を形成しており、その下に鉛直線（後脛骨筋線）が走るが、後者は6cm足らずで消えさる。栄養孔は鉛直線の外側に位置している。栄養孔位での矢状最大径は36mm。これは現代日本人および縄文時代人の男性平均よりもかなり大きい。横径はヴァロア法で22mm、最大径に直交する方向での投影幅法で21mm。したがって脛示数は61.1または58.3となり、現代日本人の平均より小さく、ほぼ北海道アイヌの平均に近い。骨幹中央横断面形の前部は破損のため不明であるが、後辺は後ろへ凸な軽度の湾曲を示す。左脛骨では骨幹中央部分の前縁だけが保存されている。前縁のS字状湾曲が著しい。

腓骨、距骨、踵骨はいずれも断片的で、とくに記すべき所見はえられない。

この個体も成人と考えられる。性別は明らかでないが、下肢骨骨幹の大きさから判断すると、男性である可能性がやや大きいと思われる。

3 ま と め

S K(S)53出土の人骨は保存状態がはなはだわるく、比較的若い成人と推測される以外、とく

に記すべき所見はえられなかった。しかしこの人骨の下腿付近から採りあげられた骨片の中にウシの骨が認められたことは注意すべきことと思われる。

S K(S)54出土の成人(男性?)骨格では、下肢骨の一部がかるうじて計測可能な程度に保存されており、脛骨骨幹の扁平性が認められた。わずか1例であるが、この地方の中世人の形質の一端を示すものとして重要である。

柵列は、調査区南端の緑辺郡に検出されている。本遺跡では等間隔に穿たれた柱穴の残と、それに並行するように内側に存在する溝状遺構はその機能上密接に関連するものであると考え一つの遺構としてとらえ、柵列として扱っている。12条検出された溝状遺構のうちSD12はSA1の溝状部分の延長部と考えられるし、SD1もまたその立地から柵列の一部をなすものとしてとらえることができよう。SA1は東側部分が地山の崩壊のため柱穴列を失い、西側のSD12のあたりは、運動場建設のため削りとられて失っている。このSD12の存在は、本遺跡の西側が、現地形での段丘西縁まで広がらないことを示している。

SD4とSD5は地山面の凹部に堆積した大湯浮石層を掘り込み、南東側から北西側に緩やかに傾斜し、現地形の沢目の部分に流れ込むような状況を呈することから1対の遺構としてとらえることができるかも知れない。SD6は環状を呈するものであるが、溝に囲まれた部分が山ごぼりの耕作のため深く攪乱されているためその性格は不明である。

さて、『鹿角由来集』に「一、血牛村。血牛六郎領知本名阿保館有」と記された『乳牛館』に比定されている段丘面には、面積199,080㎡で5郭から構成される『乳牛館』と面積91,900㎡^(註35)で4郭から構成される『妻の神館(仮称)』の2館が存在するという意見と、290,980㎡の面積で9郭からなる『乳牛館』1館のみとする意見がある。

段丘面上を4遺跡に分割して発掘調査が実施され、各遺跡の発掘調査成果は公表されているが、1館か2館かについては明言していない。

本遺跡の調査では、調査区が「郭」の西端であるにもかかわらず検出された遺構が多い。他の遺跡(妻の神Ⅰ、妻の神Ⅱ、乳牛平)と比較してみると、妻の神Ⅰ・妻の神Ⅱで検出されているかまどの付設された竪穴住居跡は、妻の神Ⅲ・乳牛平では皆無である。このことは、単純に考えれば妻の神Ⅲ・乳牛平が古代において生活の拠点として使用されなかったと理解され、中世においては、これが逆転する。(妻の神Ⅰ・妻の神Ⅱでも中世の遺構は検出されるがその数は僅かである。)

また、妻の神Ⅱと妻の神Ⅲとの間には、現地形でも深い沢目となっているが、妻の神Ⅲ側上端に柵列が構築されており、北西側にも柵列の一部らしきものが認められることから、この沢目と米代川の沖積平野を眺む方向に柵列が巡らされていたと考えられる。

これまで鹿角地方の館は、行政的性格が強かったと強調されているが、柵列の位置と他の館跡群との位置関係から妻の神Ⅱ遺跡側とは明確に区画されていたと考えるのが妥当なようであり、柵列は、軍事的色彩の非常に濃い遺構と考えられる。

しかし、2館が同時に存在したか、同じ機能をもつのか、本城一出城の関係なのかを知ることは未だ困難であるが、合計290,980㎡に及ぶ面積で堅固な軍事施設を備えた館を、100戸を越えることがない村力で構築して^(註36)おり、中世鹿角地方の至近距離で存在する一村一館形式の広大な館跡群を構築させた歴史的背景に注視する必要がある。

『乳牛館』『妻の神館』とも農林水産省東北農政局が計画している国営総合開発事業・鹿角北東地区内に位置することから、今後も調査される可能性があり解明されると思われる。

註

- 1 秋田県立大館鳳鳴高等学校社会部考古学班 1969『雉Ⅱ遺跡』
- 2 青森県教育委員会 1979『青森市三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第37集
- 3 鹿角盆地では、小平遺跡・北の林Ⅰ遺跡・北の林Ⅱ遺跡・一本杉遺跡・乳牛平遺跡・下乳牛遺跡・はりま館遺跡・大岱Ⅰ遺跡・高市向館・天戸森遺跡で検出されている。
- 4 秋田市教育委員会 1977『秋田城跡—昭和51年度秋田城跡発掘調査概報—』
- 5 磯村朝次郎・小玉準 1980『大畑台遺跡発掘調査報告書』日本鉱業株式会社船川製油所
- 6 秋田県教育委員会 1979『館下Ⅰ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第62集
- 7 秋田県教育委員会 1981『竹生遺跡』『杉沢台遺跡・竹生遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第83集
- 8 鹿角市教育委員会 1981『新斗米館跡—鹿角市新斗米館跡第2次発掘調査報告書—』鹿角市文化財調査資料16
- 9 鹿角市教育委員会 1979『小平遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料第10号
- 10 鹿角市教育委員会 1982『高市向館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料22
- 11 秋田県教育委員会 1982『小豆沢館』『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第90集
- 12 秋田県教育委員会 1983『一本杉遺跡』『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書99集
- 13 比内町教育委員会 1974『真館緊急調査報告書』
- 14 比内町教育委員会 1978『谷地中「館」遺跡・発掘調査報告書』
- 15 大館市史編さん委員会 1973『大館市片山館コ発掘調査報告書』大館市史編さん調査資料第5集
- 16 青森県教育委員会 1980『大鱈町砂沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第53集

- 17 青森県教育委員会 1975 『富山遺跡・永泉寺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書
第21集
- 18 浪岡町教育委員会 1981 『浪岡城跡IV—昭和55年度浪岡城跡発掘調査報告書一』
- 19 八戸市教育委員会 1982 『史跡根城跡発掘調査報告書III(昭和55年度)』八戸市埋蔵文化財調査
報告書第6集
- 20・21 助岩手県埋蔵文化財センター 1981 「長瀬C遺跡・長瀬D遺跡」『二戸バイパス関連遺跡発
掘調査報告書(昭和52年度)』岩手県埋文センター文化財
調査報告書第22集
- 22 助岩手県埋蔵文化財センター 1978 『二戸市沢内B遺跡(昭和53年度)』岩手県埋文センター文
化財調査報告書第7集
- 23 助岩手県埋蔵文化財センター 1978 『二戸市沢内B遺跡(昭和53年度)』岩手県埋文センター文
化財調査報告書7集
- 24 助岩手県埋蔵文化財センター 1982 「曲田I遺跡」『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(昭和56年
度分)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第33集
- 25 助岩手県埋蔵文化財センター 1982 『上の山館遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化
財調査報告書第40集
- 26 本澤慎輔氏の御教示による
- 27 助岩手県埋蔵文化財センター 1979 「繫III遺跡」『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書』岩手
県埋文センター文化財調査報告書第13集
- 28 岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XIII—太田方八丁遺跡
(志波城跡)一』岩手県文化財調査報告書第68集
- 29 昆野 靖 1981 「大瀬川館」『東北地方北部の中世城郭発表資料』岩手県北上市立博物館
- 30 岩手県教育委員会 1981 「古館遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書VII(石鳥谷・
花巻地区)』岩手県文化財調査報告書第56集
- 31 本堂寿一 1981 「丸子館」『東北地方北部の中世城郭発表資料』岩手県北上市立博物館
- 32 助岩手県埋蔵文化財センター 1979 「玉貫遺跡」『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(昭和53年度
分)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第6集
- 33 秋田県教育委員会から『東北縦貫自動車道発掘調査報告書VIII』として刊行予定
- 34 青森県教育委員会 1976 「浅瀬石遺跡」『黒石市牡丹平南遺跡・浅瀬石遺跡発掘調査報告書』青
森県埋蔵文化財調査報告書第26集
- 35 秋田県教育委員会 1979 『ほ場整備地域内(鹿角北東地区)遺跡分布地図』
- 36 塩谷順耳 1979 「鹿角地方の館」『秋田県立博物館研究報告』第3号 秋田県立博物館及び塩
谷順耳 1981年「由利諸党と館一下村・玉米領を中心に一」『秋田地方史論集』
半田市太郎教授退官記念会編

引用・参考文献

- 福田友之 1981 「溝状ピット」研究に関する覚書『弘前大学考古学研究』第1号 弘前大学考古学研究会
- 本澤慎輔 1981 「岩手県における中世方形竪穴遺構の検出例」『東北地方北部の中世城郭発表資料』岩手県北上市立博物館
- 工藤清泰 1980 『浪岡城跡Ⅱ—昭和53年度浪岡城跡発掘調査報告書—』浪岡町教育委員会
- 秋元信夫 1981 『新斗米館跡—鹿角市新斗米館跡第Ⅱ次発掘調査報告書—』鹿角市文化財調査資料 16 鹿角市教育委員会
- 工藤清泰 1981 『浪岡城跡Ⅳ—昭和55年度浪岡城跡発掘調査報告書—』浪岡町教育委員会

妻の神Ⅲ遺跡 発掘調査参加者名簿

調査員	桜田 隆					
調査補佐員	神田 公男	児玉 昭彦	池田 洋一	安保 廣	児玉 悦郎	
	阿部 明人	畠山 圭	奈良 義博	米田 哲	福本 雅治	
	鈴木 秋良					
発掘作業員	浅利善太郎	斎藤富仁郎	山口重次郎	川又権太郎	佐藤喜之丞	
	菊池 政吉	小田 幸吉	秋元 毅	安保 茂	大信田 学	
	菊池 トシ	成田 リエ	安保ヨシノ	安保 リウ	浅石十三子	
	浅石 キサ	工藤 ムラ	高橋 幸	阿部 キエ	成田 チギ	
	柳沢 ミエ	安村 英子	川又 サヨ	山本 キヌ	川又 エイ	
	米村 トメ	川又 ミヨ	木村 ヒデ	川又 テル	小沼 テル	
	木村 ミツ	児玉 春子	阿部アヤ子	佐藤 ミノ	川又ハチヨ	
	川又トキエ	金沢 リセ	川又 トシ	中村 リヨ	中村クニエ	
	関 ハギ	畠山千代美				
	整理作業員	阿部 香子	藤井富久子	木村 クリ		

IV 秋田県鹿角市妻の神Ⅰ・Ⅲおよび案内Ⅲ遺跡 出土の炭化穀類と豆の同定

笠原安夫

はじめに

秋田県鹿角市における東北縦貫自動車道路の予定線上に横たわる34の遺跡は、秋田県教育委員会によって昭和54～56年にかけて発掘された。うち、同市花輪字妻の神にある(1)妻の神Ⅰ(No.22)、(2)妻の神Ⅲ(No.24)遺跡は、陸中花輪駅の北東2.8kmの地点にあり、乳牛川右岸の盆地内段丘にあって、これらを合せて台地縁辺部を利用し中世の郭と堀がつけられている。(3)案内Ⅲ(No.34)遺跡は、同字案内にあり陸中花輪駅東方2.1kmに位置し、標高200mの台地、南と西側の斜面を立地に利用した遺跡である。

(1)妻の神Ⅰ遺跡は、昭和56年4月20日～8月12日の間に橋本高史文化財主事が発掘を担当し、平安時代竪穴住居跡(S I 003)の床面直上から焼炭化米が採集された。その炭化米の上に焼けた木皿が検出されている。

(2)妻の神Ⅲ遺跡は同年4月20日～8月31日の間に、桜田隆文化財主事が発掘を担当し、中世館跡の主要平坦面の大湯浮石(十和田a降下火山灰)層上面で、確認された掘立柱建物群の柱穴と考えられるピットの壙底から次の5資料を採集した。

- a) 13-Aグリッド pit 1229……ナタネ粒のような小粒炭化物の塊
- b) 13-Cグリッド pit 1138……炭化物塊で稲穂か
- c) 14-Eグリッド pit 中……こぶし大の炭化物塊で朶か
- d) pit 9999-1)……………ナタネのような小粒と茎葉の炭化物塊か
- e) pit 9999-2)……………焼けた小豆(アズキ)か

(3)案内Ⅲ遺跡は、同年4月20日～8月22日の間に小林克文化財主事が担当した発掘において、平安時代の竪穴住居跡(S I 010)の床面から炭化物を採集した。この試料は良好に保存されていた壁材、床材の焼材があり、この直上に櫃と思われる焼けた曲物に入った圧搾された焼米塊や、おにぎり状塊で出土し、また、焼炭化豆はバラバラの状態でも出土し、両炭化物は混在していたので、一応発掘者において炭化米と豆とを粒別した。

なお、(1)妻の神Ⅰ遺跡では、平安時代の竪穴住居跡33棟、フラスコ状ピット7基、土壙17基、

縄文土器、土師器、須恵器、鉄器、木器が、(2)妻の神Ⅲ遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡2棟、フラスコ状ピット1基、Tピット13基、中世の住居跡38棟、土壙86基、貨幣、銅鏡片、鉄製馬具や土器および(3)案内Ⅲ遺跡では縄文時代の竪穴住居跡5棟、同土壙15基、縄文前、後期の土器や、平安時代の土師器、須恵器の壺、鉄器(鋸、穂摘具、小刀、手斧)、銅鏡などが出土している。

筆者は、昭和57年2月に秋田県農業試験場須藤孝久氏を通じて、同県教育委員会文化課からこれら炭化種実の同定を依頼された。同年3月同県埋蔵文化財センター小林克氏から、(1)妻の神Ⅰおよび(3)案内Ⅲ遺跡の試料は、約0.6～1.4kgの炭化物を、(3)妻の神Ⅲ遺跡の5資料は、0.2～2.5gを送付された。なお、その後筆者はそれらの遺跡を視察し説明をうけた。

調査方法

(1)妻の神Ⅰ遺跡の試料は、第1表のように100gを任意5区分し全部で約11,000粒を、(3)案内Ⅲ遺跡の炭化物は第3表のように約90gの試料を炭化米2,000粒づつ数えながら混入している炭化豆(中、小、半片粒)と膨張粒に分け、粒数と重量を計った。以上の試料は1粒づつルーペで見ながらより分けた。なお、(1)、(3)遺跡とも、一部を細長、普通、丸粒にわけ走査電子顕微鏡で撮影した。また、案内Ⅲ炭化豆は第4表のように、1)サンプルは約220gを標準篩(4mm、2.5mm、1mm)を用いて篩別し(粒幅によって分けられる)たものと、2)、3)はサンプルは肉眼またはルーペで見ながら炭化米と豆を膨張粒、大、中、小、半片粒に5区分し、粒数と重量を調べた。(2)妻の神Ⅲ遺跡の5資料は、第2表のようにルーペまたは実体顕微鏡下で各炭化塊の表面にある粒数を数えた。なお、粳、米とくに豆については、代表的な粒形のもを現生豆類と比較して同定のため走査電子顕微鏡で調査した。また第5表には妻の神Ⅰ、案内Ⅲの焼けた米を、第6表には焼けた豆を大中小粒にわけて粒の大きさを測定した。

調査結果と考察

佐藤敏也氏の「日本の古代米」には、各地遺跡から出土した古代米について多くの米粒の大きさが測定され、米粒の混合パターン(姿)の検索表の報告がある。それによれば、**日本型の米**(*Oryza sativa subsp japonica*)には、米粒の長さが3.2～5.3mmのものを第Ⅰ群とし、粒長が5.3mm以上のものを第Ⅱ群とした。そして第Ⅰ群を粒幅によってAは2.8～3.7mm、Bは2.1～2.8mm、Cは2.1mm未満としてグループし、粒の長幅指数(長/幅)が日本型の米はいずれも1.3～2.0mmの間に介在し、各地遺跡の出土米の細粒、丸粒の混合のパターンがわかり、それによって古代米の系列が示されるとした。第5表妻の神Ⅰの炭化米パターンはⅠA(50%)、Ⅱb(30%)、Ⅲ(20%)で、案内ⅢのそれはⅠA(50%)、ⅡA(50%)である。すなわち、前者がやや大粒であり、長幅比は平均1.6～1.7で、それは20粒では、1粒づつを除き、両者日本型に属している。前者は玄米で、

後者は胚を欠く搗精米が多い（カラー1図a, b, 第1、2、4、5、6図）。

妻の神Ⅰ遺跡の出土米には、第1表に示されたように焼粃米が平均粒比6.3%、(重比7.3)あり、取扱中に粃殻が破れ易いのでこの比はさらに大きかったと思われ、玄米での貯蔵であろうが、粃摺程度は現在のものより悪かった。それが臼で搗いての脱穀か粃摺具があったのか不明であるが、炭化粃殻の表面は摩擦の段階がいろいろある(カラー1、2図、第1、3、4、5図)。熱のための膨張粒(第3図)は平均8.6%であり、炭化米の1,000粒重は平均8.6gである。また、1、2粒のマメ片は床上で混ったか、この周辺で豆栽培があったと考えられる。

第2表に示された妻の神Ⅲ遺跡の炭化物のうちナタネのような小粒炭化物はアワ粒が固ったものであり、pit 1229のものは木材片を伴い、pit 9999-①にはアワの茎葉の1部分とみえるものが混在し、また14-Eのpit中に出土した炭化物にはアワと粃米の塊が認められた。それらのアワ粒の拡大では、その粒の特徴である山脈型の乳頭が確認できる(カラー3図、第7、8図)。また14-E pit中から初めアワ粒と間違った破片が、後でエゴマまたはシソの粒形の不明瞭な破片とわかった。それは傷ついた粒面と内表皮の多孔と厚膜細胞の穴が見える(第9図)。pit 1138出土の粃米は穂軸を混じえて粃が穂の状態と並んでいる。おそらく、穂刈りして穂が束ねられたものの一部が火災に遭って焼かれて落ちたもので種粃用の保存かと思われる。(カラー3図b、第4図)、またpit 9999-②の炭化豆には粒の大小はあるが、かなり揃っていてアズキの炭化粒と考えられた(カラー2図)。

案内Ⅲ遺跡の出土炭化物は、曲物の櫃内に入っていた炭化米塊と炭化豆が散乱し、周辺に稲藁で編れた筵状の炭化物が出土している(カラー4図a~d)。それらは一応発掘者において豆粒と米粒を区別し送付されたが、第3表に示されているように、なお炭化米には肉眼では米粒と区別できないような小さい豆が混入していた。それを小中粒と半分づつに分離した半片粒と膨張炭化物(大部分は米粒だが若干豆も混入)に分け、粒数比と重量100分比を示した。その比はサンプル別でかなり違いがあるが、炭化米が粒数で平均81.9%、重量で平均68.8%であり(第6図)、豆ではそれぞれ15.1と26.6%である。第4表の①サンプルでは、粒数重量比とも中粒のものが最大で全体の%を占め、ついで半片粒と熱での膨張粒で、炭化米、大・小粒豆は少なかった。同②サンプルでは中・小粒が多く、ついで半片粒、膨張粒、大粒炭化米であった。これら炭化豆は大小、粒形が不揃いであり、うち大・中粒は現在アズキ粒に似ている(第10~13図)。しかし、最も小粒のものは現生アズキにはない(カラー4図c、d、第14、15図)。おそらく、この時代には雑多な品種で多系統が混在しているため、このような極小形のものまであったのではなかろうか。現在のものでも筆者が20年前、岡山県中北部のアズキ畑で農家が品質不良のものとして除去していた、やや早産で小草本のもの(筆者は雑草アズキと呼んだ)は、種子の大きさは中粒であるが、第19図に示したように、本出土品

とかなり似たものがある。また、小・中粒のものは、リョクトウやケツルアズキなどの栽培種にその粒形が似たものもある。しかし、その表面の拡大写真に網状細胞がなく確認できなかった(第14、17、18図)。また栽培型とされるツルアズキのような細長粒のものはなかった(第25図)。野性種のヤブツルアズキ(アズキの原種?)と似た粒はあるが(第21図)、他の野生豆のツルマメ、ノアズキ、ヤブマメに似たものはなかった。また第4表の1,000粒調査で、膨張粒が大、中粒よりも30~70%も重い。これは、大中粒が加熱で容積の増すことは考えられても重量の加重は考えにくい。アズキの大粒以外に重いダイズ粒の混在があったと考え、へそのある膨張粒を丹念に探した結果、数粒のアズキより短かいへそをもち、へその中央が大きく裂目のある粒が見付かったので、ダイズの膨張粒と推定した(カラー第4図c d、第22~24図)。

近藤萬太郎博士の『農林種子学(後)』にはアズキ、リョクトウ、ダイズなどの種子の記述がある。備中緑豆が長さ3.5~5.1mm、幅2.8~3.9mm、厚さ2.7~3.9mm、1,000粒重35.4gであり、小粒の備中白アズキが長さ3.7~6.2mm、幅2.7~4.4mm、厚さ2.5~4.2mm、1,000粒重51.4gと大粒には朝鮮産大納言が長さ5.2~8.3mm、幅3.8~6.4mm、厚さ3.3~6.0mm、1,000粒重129gとある。ダイズ粒のへそはアズキなどとちがって、種瘤がなく、へその中央に裂目があり、粒の重さは最小が1,000粒重90gで、最大は250gのように変種、品種による違いが大きい、とある。

第6表に示されたように、案内Ⅲの大・中粒は、アズキ、リョクトウに相当する大きさや形のものはあるが、小粒のものは現生の小形アズキやリョクトウよりもさらに小さい。また大形の膨張粒と同形のものが、前述の佐藤氏の書には秋田城跡南方地区第1号竪穴住居跡から出土した大豆様遺物としての描図・写真がある。その焼ふくれ粒には、A粒長7mm、幅5.5mm、厚さ5mm、B粒長7.7mm、幅5.5mm、厚さ5mm、しかし、へそが見えないので、同定は困難であるが、脂肪の多いダイズの膨れ方はアズキやインゲンと違っているのでダイズ粒と推定されている。

アズキ (*Phaseolus angularis*) は、『佐藤正巳氏の『有用植物分類学』には、中国または日本の原産と言われる1年生作物で日本では極めて古くから栽培されている。種子の色はいわゆる小豆色の他に白、淡黄、黒、黒斑などの変異がある。赤飯、餡、汁粉、羊かんなどの原料とするなど日本人の食生活と深い関係がある。また、星川清親氏の書には、アズキは中国、朝鮮、日本原産で中国では2,000年前から栽培され、日本でも農耕文化が始ったところからの作物で中国から渡来したと推測される。アズキは日本人以外にはあまり好まれないらしく、中国、朝鮮でも歴史が古いわりには栽培は少なく、もっぱら日本への輸出用である。リョクトウはインド原産、一部は栽培される *P. radiatas* から変ったと見られ、野生はない。中国南部には古くから入り、中国北部へはB.C.5世紀に栽培された。日本へは中国から入った。最近まで各地方に広く作られていたが、今はほとんど栽培されなくなった。

渡部忠世、森脇晩氏らの報文には、インド亜大陸のリョクトウ (*Phaseolus aureus*) と類似種ケツルアズキ (*P. mungo*) の諸系統をインド各地で採集し、日本で栽培結果から、系統的な諸特性を報告されている。

ダイズ (*Glycine max*) は、前述の二書にその栽培化は、中国北部、シベリア、日本に自生するツルマメ (ノマメ *G. soja*) が原生種で、大古から人間の食料とされ、東アジアの北部で栽培されるようになり、今日の栽培ダイズが発祥らしい。それがやがて中国へ伝播し、五穀の一つとして重要視された。日本では縄文時代の遺跡からダイズが出土しているが、たぶん、野生ノマメを採集したもので、作物としては弥生初期に中国から伝来したものであろう。記紀には大豆が明記され、すでに普及していた。種子は、蛋白質や脂肪に富み、日本人の食生活に欠くことのできない重要な食品であり、現在は世界的な食品になりつつある。

筆者はアズキ・ダイズやリョクトウなどの出土種子同定の対照のため、森脇氏より前述の2種の他に沖縄県産のアカマミやダイズなどを、また、宮崎大学藤原宏志氏から宮崎県椎葉村の焼畑のダイズ・アズキの分譲をうけた。それらと栽培種のツルアズキおよび野生種のヤブツルアズキ、雑草と見られるアズキなどの種子表面構造の走査電顕像を示し、出土炭化豆と現生アズキやそれらと比較した結果、たとえば、アカマミは種子表皮に星状様の低に乳頭が並び他と違いが大きいようである(第20図b)。それほどは目立たないが、現生アズキおよび出土の妻の神Ⅲ、案内Ⅲの表皮の500~1,500倍の拡大図にも乳頭が見える(第11、15、16図)。一方、リョク豆、ケツルアズキには200~1,000倍の拡大で表皮に顕著な短形の網状、後者は皿状細胞が見え、この点アズキ、アカマミとリョクトウ、ケツルアズキの区別点となろう(第17、18図)。またダイズの粒面には穴が並列している(第22、23図)。さらにこれら現生マメ類と出土の種皮表面を1,000~2,500倍に拡大し顕鏡して見るにいずれも表皮下には錯綜した網状細胞がぎっしりつまっている(第13、16、17、18、19、25図)。

アワ (*Setaria italica*) は、戸荻義次、管六郎氏の“食用作物、および佐藤正巳氏の前掲書には、欧亜大陸に広く野生しているエノコログサから発したと考えられる作物で、北支を中心として極めて古くから栽培されている。一部にはインド原産説があるが、Roxburgh がインドにはエノコログサが分布しないし、Körnickerらもインドが原産でなく北方の、しかも冬の厳寒でない地とした。Vavilowの原産地は日本を含む東部アジアであり、キビの原産地とほぼ一致するか、キビよりは冬の温暖な海洋の気候の地域とした。中尾佐助氏の“栽培植物の世界”には、キビは近縁野生種かインドにあるので、そうしたものが中国や近東で見出されないことなどからインドで栽培化されたと結論して問題はないが、アワは事情が違い、中国説が一般だが、しかし、中国のアワが最初からキビと相伴っていたという事実を重く見て、アワもキビについてインドで栽培化したとみる方が説明しやすいとしている。

筆者は先に、大分県二本遺跡弥生後期の住居跡の焼けた家屋の床上からバラバラに散らばった多重の塊状炭化物の中から若干のへそのあるアズキ粒を見付け走査電顕検査で同定した。また現時点で最初の水田遺構と言われている唐津市菜畑遺跡の縄文晩期山の寺層から稲籾穀の他に炭化したアワ粒、アズキ粒、ゴボウ粒、未炭化の雑草メロン（マクワウリ）種子などを同定している。それ以前の遺跡として福井県鳥浜貝塚縄文前期層から西田正規、松本豪氏らによってリョクトウとされた豆を、その翌年の発掘された同期層から一粒の炭化豆を検出した。その粒は本報告の小粒の豆（第14図c）と同形で、その種皮の網状斑文は、本報告リョクトウの表皮（第17図b）と同じであった。一応発表時にはリョクトウ(?)としたが、網状斑文からリョクトウとしてよい。なお同遺跡からエゴマ、シソの炭化・未炭化粒を検出した。それは従来、長野県縄文中期農耕遺跡でアワの証拠品とされたタール状炭化物がエゴマ・シソ粒の特有な果表面の網目と流線文、内果皮の多孔細胞、肥厚細胞の配列穴および種皮の“わらじ細胞”の発見から、松谷氏と筆者によって、エゴマ・シソ粒であることを確認した。本報告の妻の神Ⅲ14-Eグリッドのpit 中からの小破片には、種皮の“わらじ細胞”は見られないが、炭化粒（はじめアワ粒と誤認）の拡大像が松谷氏による大石遺跡のエゴマ粒面や筆者のなすな原出土エゴマの内果皮に酷似した。すなわち、炭化内果皮の多孔および肥厚細胞の穴の配列が見られた（第9図）。おそらくこの周辺で栽培または生えていたものを収穫後に焼け、pit に落ち込んだ炭化片が一部のこぶし大に塊った籾米やアワ粒塊に付着していたものであろう。

炭化米や畑作物の炭化豆は、縄文・弥生時代に出土しているが、貯えられた状態での発掘例は弥生後期～中世時代に多い。たとえば筆者は中世の尾道市街地の埋甕遺跡から焼けたアワ、ソバ、コメ、オームギを、大分県二本木弥生後期遺跡のアズキの焼粒を同定している。また、東北地方でも早くから青森県田舎館村垂柳遺跡で土器での籾痕や炭化米の出土が報ぜられていたが、300枚近い弥生時代の水田跡が発掘されたのは昨年（1982年）のことである。中世における本遺跡からの多量の米、豆（アズキ・ダイズ）や少量だがエゴマ（シソ）が揃って出土は当時の農耕文化の貴重な資料と考えられる。

ま と め

本報告では、古代中世の住居跡で焼落ちたと見られた炭化材や柱穴から採集された米・アワ・豆類を同定した。それらは炭化物塊または、ばらばらの粒として、貯蔵用の櫃、木皿の内やその周囲の床上に散在していた。なお、周囲には焼かれた稲藁で作られた筥があった。送られた妻の神Ⅰの焼（炭化）米と案内Ⅲの同じく炭化米と豆、および妻の神Ⅲの塊状のアワ、玄米をサンプリングして、量的調査と粒形の走査電顕像（写真）と現生種実とを比較し同定した。

妻の神Ⅰ遺跡の炭化米には6～8%の炭化籾が混じり、搗精また籾擣のよくない玄米を貯えた

ようであり、火事による膨張米が3～11%であった。案内Ⅲ遺跡の炭化米には、粒数で平均15%、重量で27%の炭化豆を混じているし、炭化豆では粒数で8%、重量で3%の炭化米を混えている。これはもともと別々に貯えられたものが火災時に混合したのか、玄米の膨張粒は2～7%、豆では8～13%あり、相当強い火力で膨張したものと思われる。炭化米の大きさの測定で、粒の長幅比から日本型であるが、妻の神Ⅰが案内Ⅲの米より少し大粒であり、前者は玄米であるが、後者は胚の欠けた粒が多く、膨張粒に横の割目があり、搗精米の貯えではなかったか、案内Ⅲの粒が小さいにも拘らず1,000粒重がやや重いのは、粒に黄褐色の土粉が付着していると考えられる。なお炭化米はどちらも細粒、丸粒を含み、不揃であった。

炭化豆にも大小さまざまなものがあつたが、案内Ⅲのものの大・中粒は形、大きさ、残された僅かのへその形、表皮細胞の低い乳頭などからアズキと同定した。しかし、現生アズキ品種には見られないような極小粒のものがあるが、品種、系統が雑多なままの栽培と考えた。なお膨張粒は最初はアズキが火災のため膨大したと考えられたが、1,000粒重が大きいところから大粒で重いダイズの混入がへその形から推定された。また小粒のものにリョクトウ、ケツルアズキの混入はあるかどうか、出土粒には表皮細胞に網状が見付からず、今のところアズキの小粒と考えざるを得ない。

また妻の神Ⅲの塊状粒には、表面に山脈状の乳頭が並んでいるのでアワ粒と同定した。なお古くから五穀とされているキビ・ヒエ粒がないかと小粒種子を丹念にしらべてみたがこれらの中には見当らなかつた。しかし、エゴマまたはシソの破片が認められた。

いづれにしても、この遺跡周辺にこれらが栽培、貯蔵されていたことが確実であり、粳米がフェノール反応で水稲か陸稲かの調査は炭化粒のためできなかった。なお、アズキの小粒に近似するヤブツルアズキは混入が考えられるが、焼畑に栽培されていたと考えられる細長粒のツルアズキの種子はなく、また野生のツルマメ（ノマメ）、ノアズキ、ヤブマメなどは粒形、表皮細胞模様から見てなかつたようである。

謝 辞

本調査試料を送付いただいた秋田県教育委員会ならびに発掘担当された小林克氏をはじめ各位および、本試料の対照として各種のリョクトウ・ダイズ類種子の送付をいただいた京都大学農学部森脇勉氏・宮崎大学農学部藤原宏志氏ならびに前秋田農業試験場の須藤孝久氏、走査電子顕微鏡で本試料の撮影に協力を得た岡山大学農業生物研究所藤沢浅氏、調査に援助された武田満子氏などに本文を草するに当り感謝いたします。

1983、2、14、

農学博士 元岡山大学農業生物研究所教授

第1表 妻の神Ⅰ（SⅠ003）の炭化物

サンプル	炭化米	炭化粳	炭化膨脹米	炭化豆	計
1) 粒 g	1193(90.2) [※] 10.1(84.9)	84(6.3) [※] 0.8(6.7)	45(3.4) [※] 1.0(8.4)	1(0.1) [※]	1323(100) [※] 11.9(100)
2) 粒 g	3080(89.1) 25.1(82.6)	159(4.6) 2.0(6.6)	215(6.2) 3.3(10.9)	4(0.1)	3458(100) 30.4(101)
3) 粒 g	2248(89.7) 18.2(87.5)	184(7.3) 1.9(9.1)	75(2.9) 0.7(3.4)	3(0.1)	2507(100) 20.8(99.9)
4) 粒 g	2071(87.6) 17.3(82.7)	196(8.3) 1.6(7.7)	92(3.8) 2.0(9.6)	4(0.2)	2363(99.9) 20.9(100)
5) 粒 g	1082(88.9) 9.2(82.9)	65(5.3) 0.7(6.3)	68(5.6) 1.2(10.8)	2(0.2)	1217(100) 11.1(100)
計 粒 g	9679(89.1) 9.2(83.9)	688(6.3) 7.0(7.3)	495(4.6) 8.2(8.6)	14(0.1)	10868(101) 95.2(99)

備考 1) 約100gの試料を採り、任意5試料にわけ、炭化米、炭化粳、炭化膨脹米、炭化豆を数えそれぞれ重量をしらべた。

2) その他、各粒 $\frac{1}{3}$ 以下で粒形が不明の炭化粉屑が全部で6.2gあった。

3) 炭化米1,000粒重は8.0～8.7g、炭化粳は9.0～10.4g

第2表 妻の神Ⅲの炭化物

- a) 13-Aグリッドpit 1229……………炭化アワ粒が2×2.5cm塊ぐらいの一面に約270粒が認められ(カラー3図)、炭化材片を共存している(第8図)。炭化塊の中の各粒は約1.3×1.6mm、1.4×1.8mm。
- b) 13-Cグリッドpit 1138……………穂刈りしたままの粳穂を貯えていたものが、火災にあったらしく、2～2.5cmの炭化塊に粳米、粳殻跡が95粒と約1～2cmの穂軸が12つについて(カラー3図、第4図)アワ粒は多分120粒ぐらいの塊である(カラー3図a)。
- c) 14-Eグリッドpit中……………1.5～2cmの炭化塊は、元はこぶし大の粳米とアワ粒塊があった。(カラー3図c、第3図)粒形は不明瞭だが破片の電顕像からシソ属(エゴマまたはシソ)が少数ある(第9図)。
- d) pit 9999-(1)……………2～2.5cmの炭化アワ粒がアワ稈をはさんで1～数列に並び、一面に約80粒が見られる(カラー3図d、第7図)。
- e) pit 9999-(2)……………炭化アズキ粒18粒(大粒1、中粒3、小粒5、半片9粒)がある(カラー2図)。

第3表 案内Ⅲの炭化物（その1）

	炭化米	炭化豆	炭化豆の区分			膨張炭化物 (米・豆)	粃 米	
			中粒	小粒	半片粒			
1) 粒 g	2000 (87.3) 19.4 (77.6)	196 (8.6) 4.1 (16.4)	27 (1.2) 0.8 (3.2)	107 (4.7) 1.9 (7.6)	62 (2.7) 1.4 (5.6)	93 (4.1) 1.5 (6.0)	3	2292 (100) 25.0 (100)
2) 粒 g	2000 (74.3) 19.1 (57.2)	632 (23.5) 12.8 (38.3)	120 (4.5) 4.1 (12.3)	300 (11.1) 6.0 (18.0)	212 (7.8) 2.7 (8.0)	59 (2.1) 1.5 (4.5)	2	2693 (99.9) 33.4 (100)
3) 粒 g	2000 (85.4) 18.3 (72.6)	279 (11.9) 5.1 (20.2)	33 (1.4) 1.0 (4.0)	181 (7.7) 3.1 (12.3)	65 (2.8) 1.0 (4.0)	60 (2.6) 1.8 (7.2)	1	2340 (99.9) 25.2 (100)
計 粒 g	6000 (81.9) 56.8 (68.8)	1107 (15.1) 22.0 (26.6)	180 (2.5) 5.9 (7.1)	588 (8.0) 11.0 (13.3)	339 (4.6) 5.1 (6.2)	212 (2.9) 1.8 (4.6)	6	7325 (99.9) 82.6 (100)

- 備考 1) 試料から炭化米 2,000 粒を数えながら、その中から炭化米と膨張炭化物にわけて、それぞれ粒数、重量を計った。その他、炭化屑が全部で 6.2 g であった。
- 2) 炭化米 1,000 粒重は 9.5、9.6、9.0、9.3、9.5 g、平均 9.4 g である。
- 3) 炭化豆の 500 粒重は中粒 20.1 g、小粒 11.3 g、半片粒 6 g である。
- 4) 本遺跡の出土炭化物塊、米、豆には 黄褐色の土がかなりまぶれていた。

第4表 案内Ⅲの炭化物（その2）

1)	炭 化 豆					炭化米	計
	膨張粒 (4 mm 以上)	大粒 (4 mm 以上)	中粒 (2.5-4 mm)	小粒 (1-2.5 mm)	半片粒		
粒 g	675 (7.8) 27.8 (12.8)	334 (3.9) 17.6 (8.2)	5340 (61.9) 141.5 (65.6)	268 (3.1) 3.5 (1.6)	1222 (14.2) 18.9 (8.8)	789 (8.1) 6.5 (3.0)	8628 (100) 215.8 (100)
2)	炭 化 豆					炭化米	計
膨張粒	大粒	中粒	小粒	半片粒			
粒 g	47 (11.0) 3.7 (28.2)	22 (5.1) 1.0 (7.6)	114 (26.7) 3.8 (29.0)	138 (32.3) 3.2 (24.4)	87 (20.4) 1.2 (9.2)	19 (4.4) (1.5)	427 (100) 13.1 (100)

炭 化 豆 1000 粒重 (500 粒重 × 2)

3)	膨張粒	大粒	中粒	小粒	半片粒
g	60.6	46.7	35.5	21.2	15.4

- 備考 1) サンプル 220 g を篩でおろし、膨張、半片、炭化米をより出した。
- 2) 膨張粒の多くがダイズ、その他はアズキの炭化豆と推定できる。

第5表 焼（炭化）米粒の大きさ測定

サンプル	妻ノ神 I				案内 III				備考
	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長／幅	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長／幅	
1	4.8	2.5	2.2	1.9	4.5	2.5	2.0	1.8	両試料とも無傷の粒約200粒の中から細丸、普通粒を採って測定した。
2	5.3	3.9	2.5	1.4	4.1	3.0	2.1	1.4	
3	5.0	3.0	2.3	1.7	4.0	2.5	2.2	1.6	
4	5.4	2.7	2.1	2.0	4.0	3.1	2.2	1.3	
5	5.5	3.8	2.5	1.4	4.2	2.2	2.1	1.9	
6	3.8	2.2	2.0	1.7	4.5	2.5	2.0	1.8	
7	5.5	3.1	2.4	1.8	3.8	2.8	2.0	1.9	
8	4.5	3.1	2.1	1.5	4.3	3.0	2.3	1.4	
9	4.3	3.7	2.2	1.2	4.5	3.0	2.5	1.5	
10	5.0	3.0	2.1	1.7	4.1	2.8	2.0	1.5	
平均	4.9	3.1	2.2	1.6	4.2	2.7	2.1	1.6	
11	4.7	3.0	2.1	1.6	4.9	2.6	2.4	1.9	
12	4.9	2.5	1.9	2.0	4.7	2.8	2.3	1.7	
13	3.8	2.4	2.1	1.6	3.8	3.0	2.7	1.3	
14	3.9	2.3	2.1	1.7	4.0	3.4	2.2	1.2	
15	5.0	2.6	2.1	1.9	4.3	2.4	2.1	1.8	
16	4.1	3.0	2.0	1.4	4.5	3.1	2.3	1.5	
17	4.8	3.0	2.1	1.6	4.3	2.2	2.0	2.0	
18	5.2	3.0	2.2	1.7	3.8	2.2	2.0	1.7	
19	5.4	2.7	2.5	2.0	4.1	2.2	2.1	1.9	
20	5.1	2.6	2.4	1.9	3.9	2.3	2.1	1.7	
平均	4.7	2.7	2.2	1.7	4.2	2.6	2.2	1.6	

第6表 焼（炭化）豆の大きさ測定

サンプル	大粒			中粒			小粒		
	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長さ mm	幅 mm	厚さ mm
1	7.0	5.5	5.0	5.0	3.2	3.0	4.0	3.0	2.7
2	7.0	5.3	4.8	5.1	3.1	3.0	3.1	2.7	2.5
3	7.0	5.0	4.5	5.0	3.1	3.0	4.0	3.1	3.1
4	7.5	5.5	5.5	4.0	3.5	3.1	3.7	3.0	2.2
5	7.2	5.1	5.0	4.5	3.2	3.0	4.0	2.6	2.5
6	7.0	5.0	4.8	4.6	3.2	3.1	4.1	3.0	2.8
7	8.3	7.5	5.5	5.2	4.0	3.5	3.1	2.7	2.5
8	8.7	5.7	5.5	4.2	4.1	3.5	3.8	2.8	2.7
9	7.5	6.0	5.4	4.1	3.1	3.1	3.1	3.0	2.9
10	7.0	5.2	4.8	5.0	3.5	3.2	3.5	2.3	2.4
平均	7.4	5.6	5.1	4.77	3.4	3.2	3.6	2.8	2.6

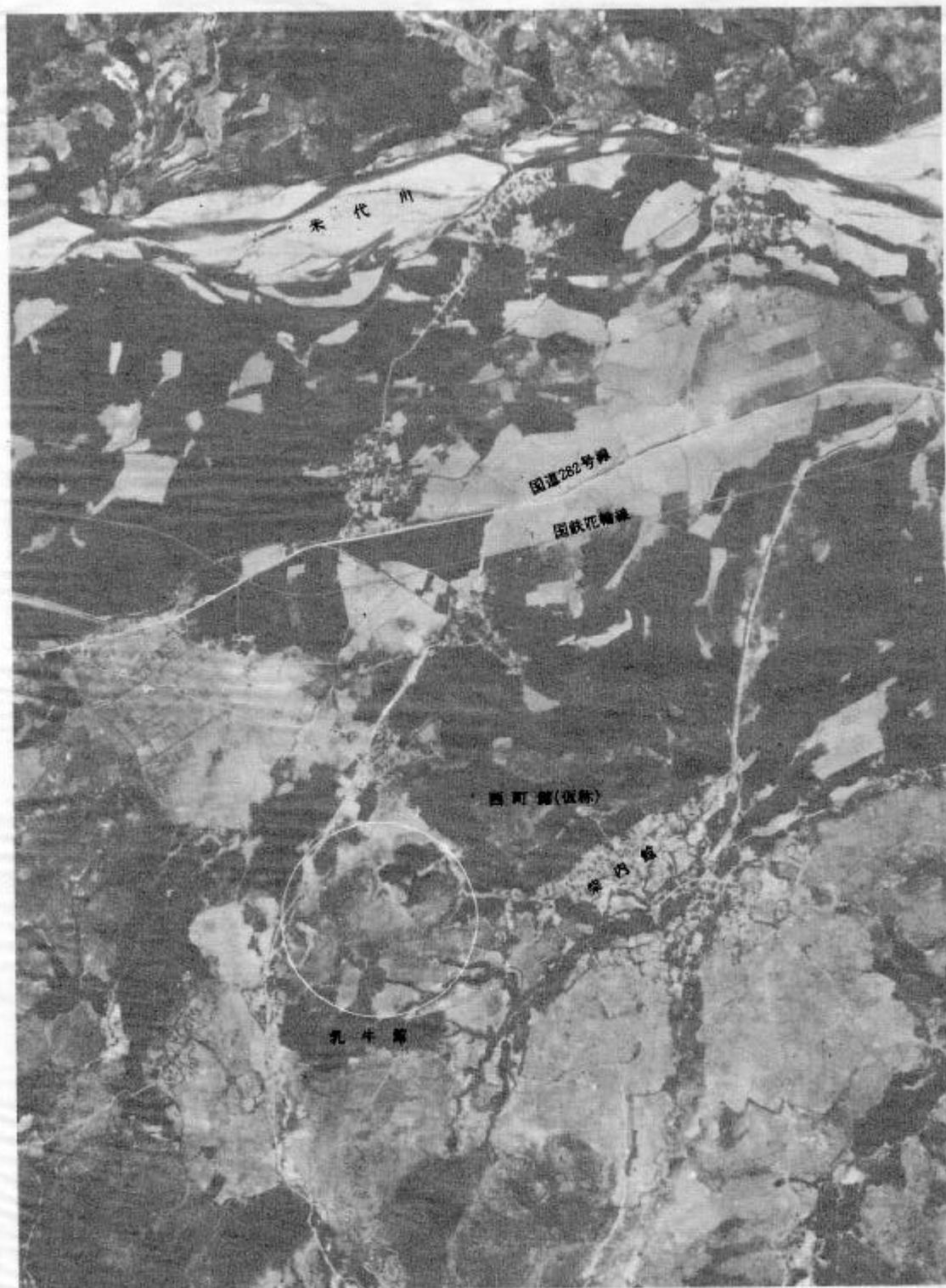
備考 炭化豆は大中小粒の500粒重測定の中から平均的な粒を測定した。

文 献

- 星川清親；栽培植物の起源と伝播，P 275，（1977），二宮書店
- 笠原安夫；二本木遺跡、33号住居跡内出土のアズキ状種子について
大野原の遺跡 P 233～234，（1980）
- 笠原安夫；走査電子顕微鏡で見た雑草種実の造形，P 130，（1976），養賢堂
- 笠原安夫；鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実・タール状塊について
鳥浜貝塚 P 65～87（1981），1980年度発掘調査概報，福井県教育委員会
- 笠原安夫；草戸千軒町遺跡および尾道市街地地下遺跡における種実の検出・同定について
第28，29次草戸千軒町発掘調査概要 P 98～162 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
（1980）
- 笠原安夫、武田満子；岡山県津島遺跡の出土種実の種類同定の研究
— 日本各地遺跡間の残存種実の比較とそれから見た農耕の伝播と形態の推定 —
農学研究 58巻，3，4号，P 117～179，（1979）
- 近藤萬太郎；日本農林種子学，後編，P 885（1934），養賢堂
- 前田和美；縄文遺跡出土の豆類，とくにリョクトウについて、文部省特定研究
「古文化財」シンポジウム“縄文農耕の実証性”，1月20日 東京中野サンプラザにて（1981）
- 松谷暁子、笠原安夫；縄文農耕出土タール状小種子塊を炭化エゴマと同定するまでの経過と各地
出土のアワ、ヒエ、キビの灰像および走査電顕図について
文部省特定研究「古文化財」1980年次報告書 P 128～134（1981）
- 松本 豪；緑豆，鳥浜貝塚，第3節，P 162～163（1979）福井県教育委員会
- 中尾佐助；栽培植物の世界，P 250，中央公論社，（1975）
- 佐藤敏也；日本の古代米，P 346，雄山閣
- 西田正規；植物遺体，鳥浜貝塚，第3節，P 162～163（1979）福井県教育委員会
- 佐藤正己；有用植物分類学 P 530（1957）養賢堂
- 菅原清康；焼畑農法における雑草防除対策，雑草研究 25（4）P 300～303（1980）
- 戸蒔義次、菅六郎；食用作物 P 497（1957）養賢堂
- 渡辺忠世、森脇勉；インド亜大陸産リョクトウ類の栽培学的諸特性 P 47～92（1977）
日本豆類基金協会
- 垂柳遺跡 昭和57年度発掘調査会議資料（1982）青森県埋蔵文化財調査センター
- 笠原安夫；菜畑縄文晩期（山の寺）層から出土の炭化ゴボウ，アズキ，エゴノキと未炭化メロン
種子の同定 P 447～463，唐津市菜畑遺跡（1983）唐津市教育委員会

写 真 图 版

妻の神Ⅲ遺跡 図版1 航空写真(1)



昭和20年代に撮影されたもので、米代川氾濫原・館地形・旧村落の状況がよく理解できる。



妻の神田遺跡

図版1

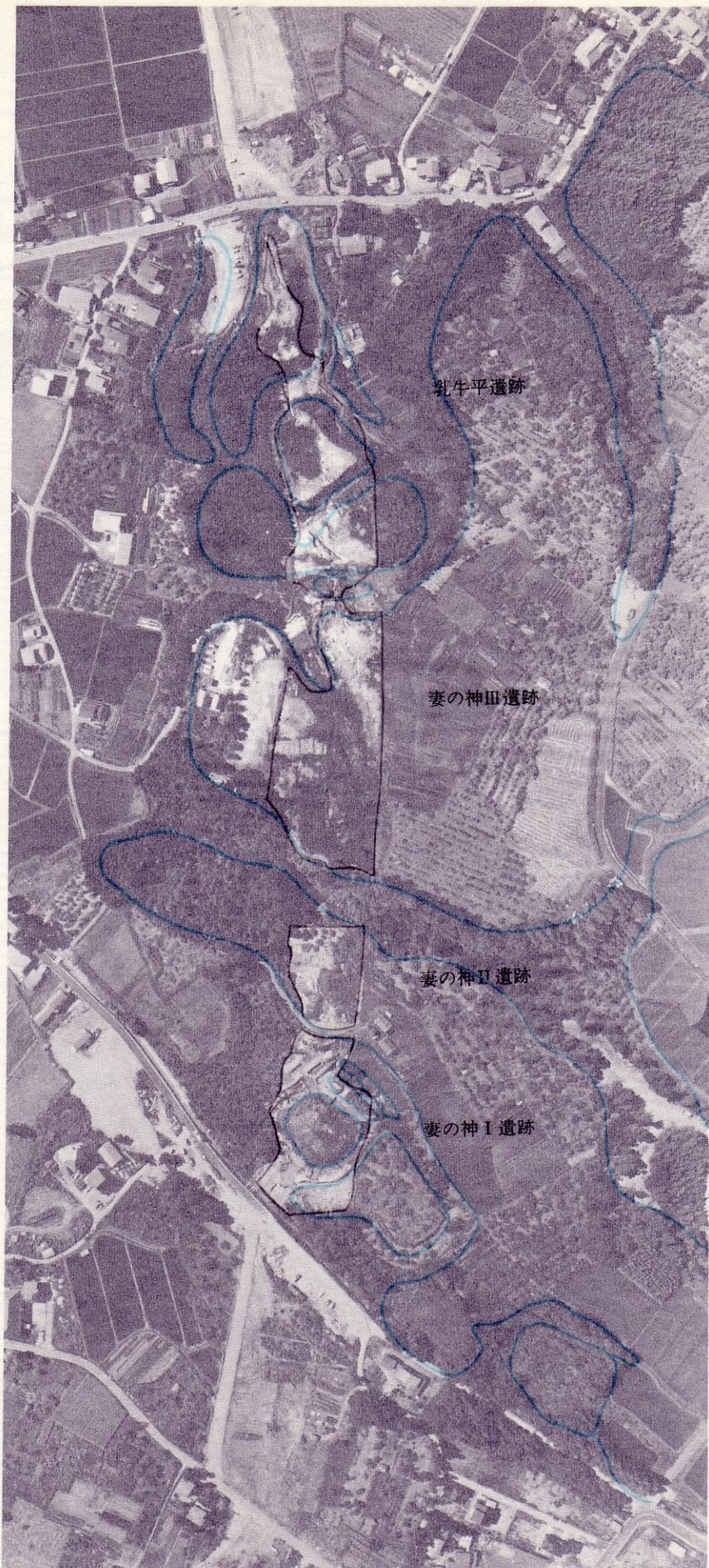
航空写真(1)

昭和20年代に撮影されたもので、米代川氾濫原・館地形・旧村落の状況がよく理解できる。

妻の神Ⅲ遺跡

図版2

航空写真(2)



妻の神Ⅲ遺跡
図版2
航空写真(2)





0～8ライン間の粗掘り作業



8ライン以南の粗掘り作業

妻の神田遺跡

図版4

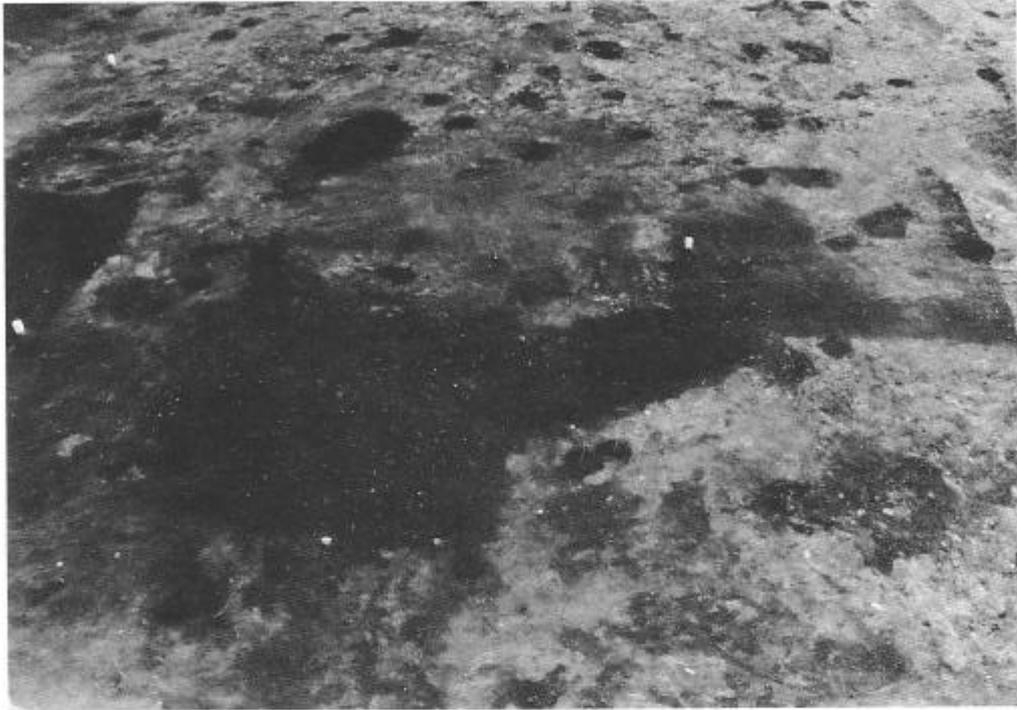
竪穴遺構(1)



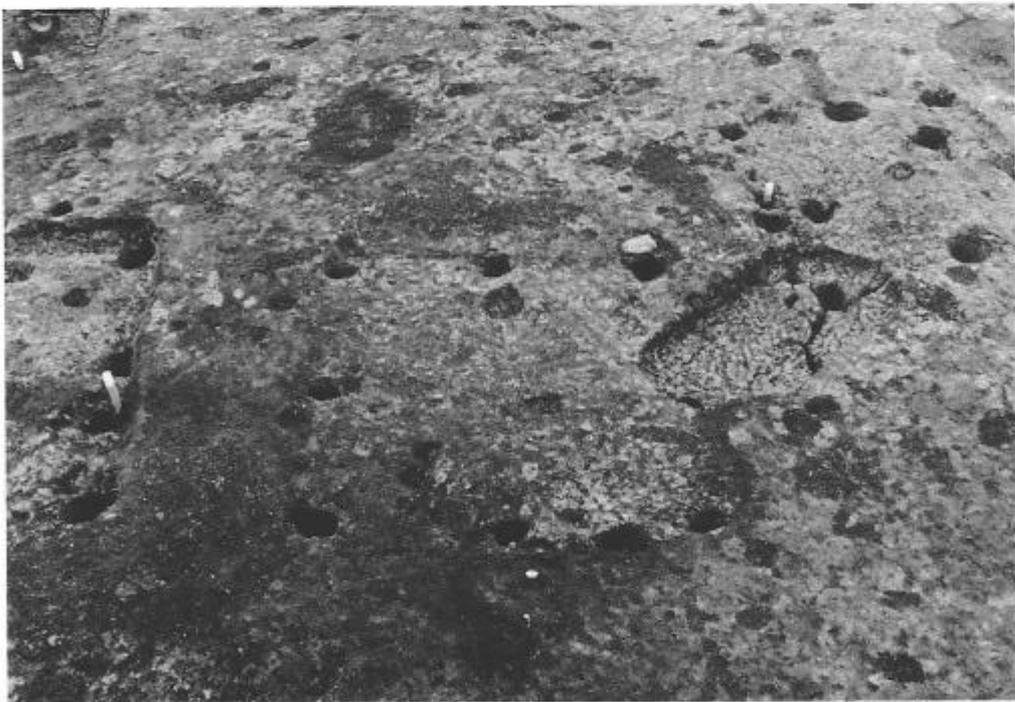
S I 01プラン確認状況



S I 01完掘状況



S I 02・S I 03プラン確認状況

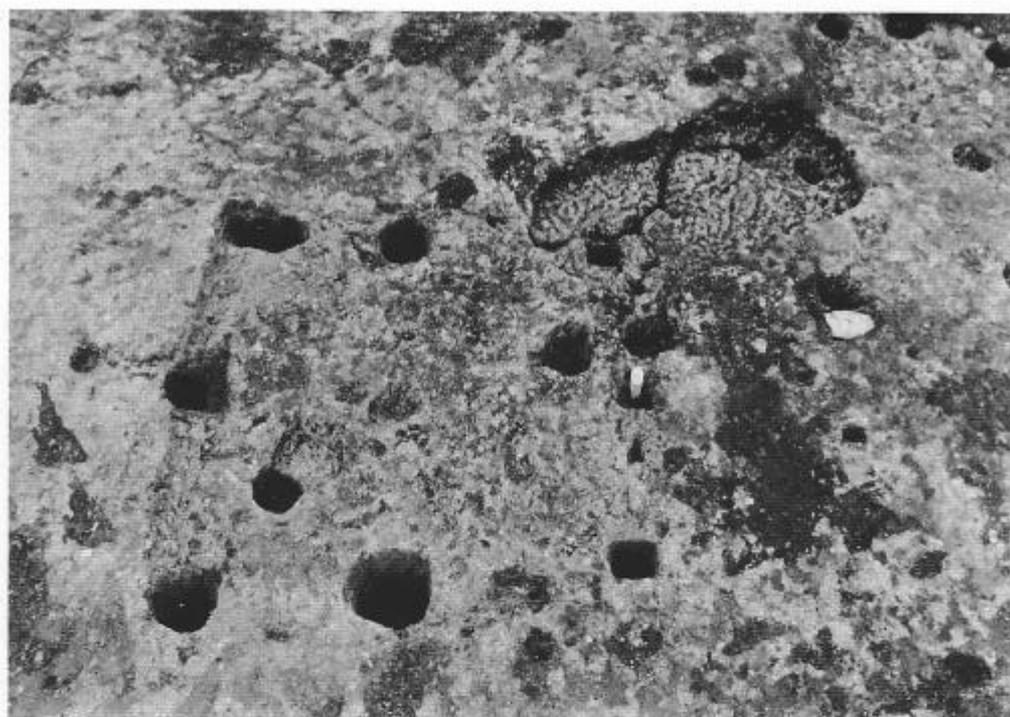


S I 02完掘状況

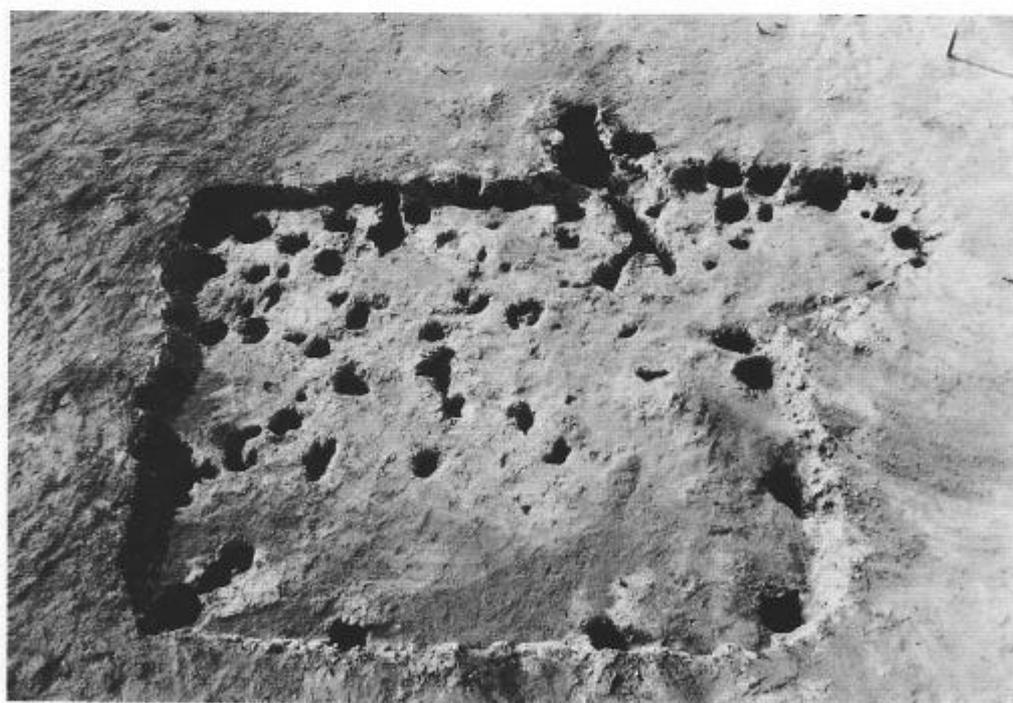
妻の神田遺跡

図版 6

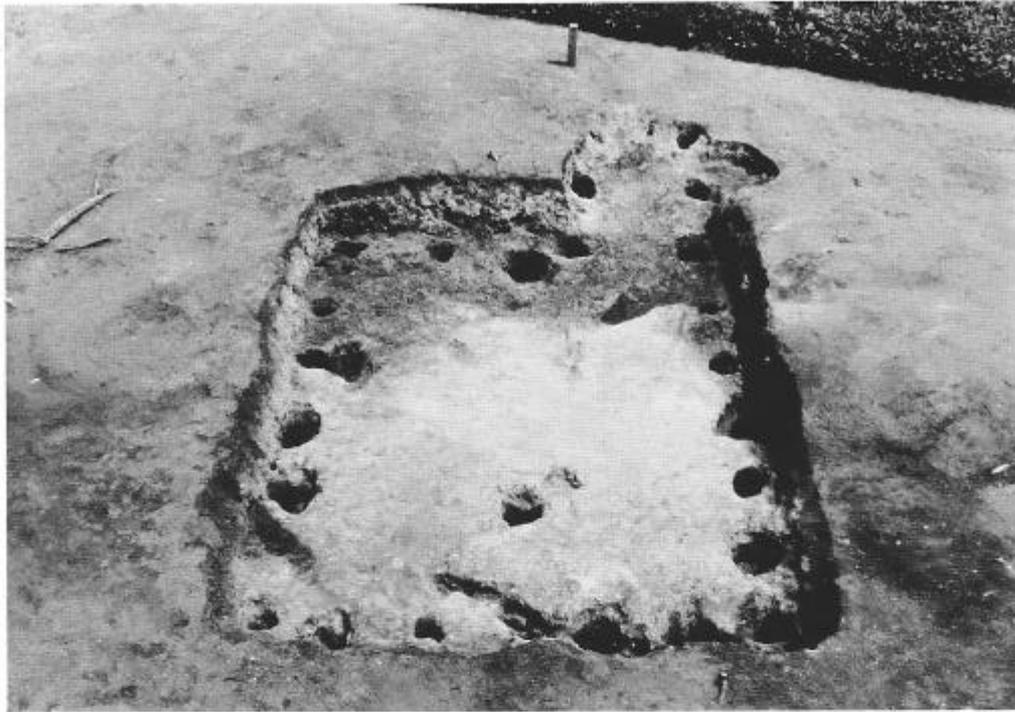
竪穴遺構(3)



S I 03完掘状況



S I 04完掘状況

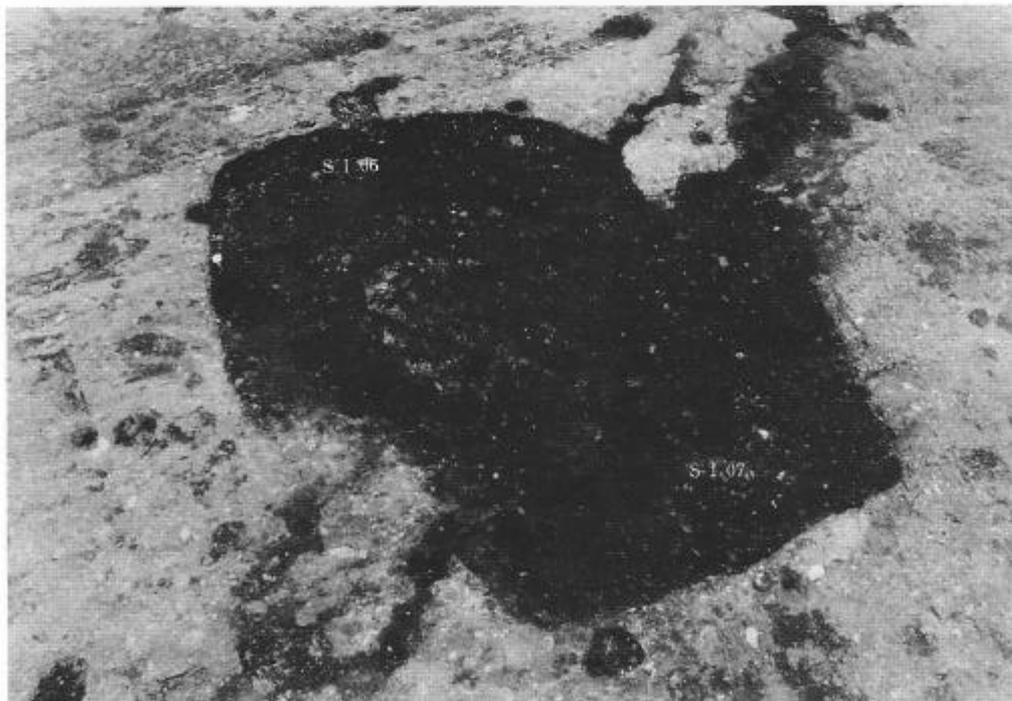


妻の神Ⅲ遺跡

図版7

竪穴遺構(4)

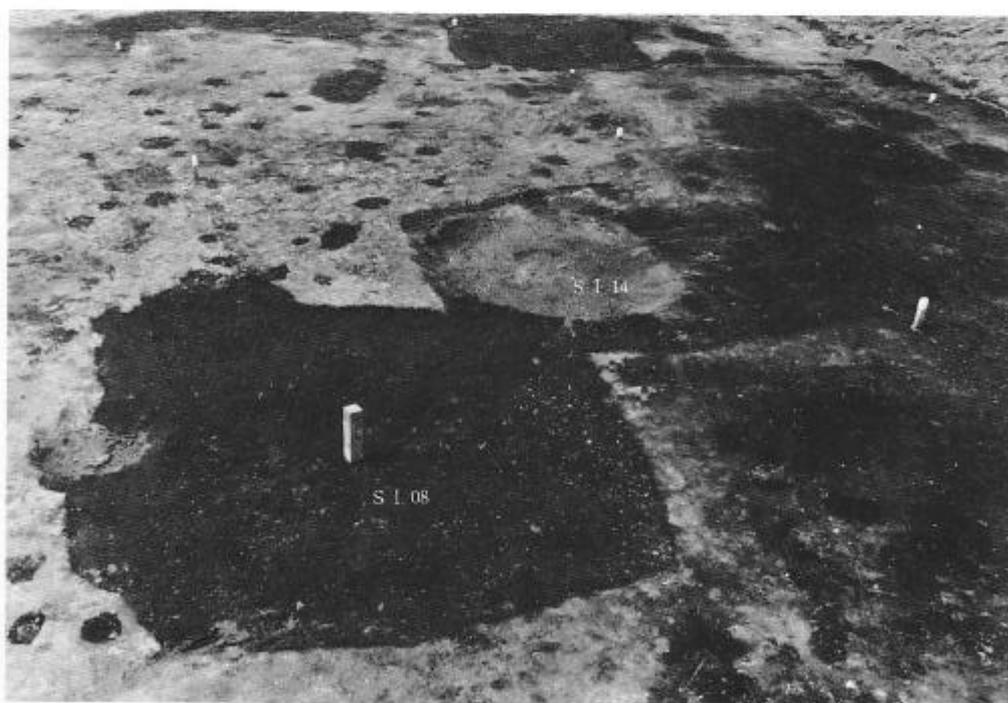
S I 05完掘状況



S I 06・S I 07プラン確認状況



S I 06・S I 07完掘状況



S I 08・S I 14プラン確認状況



妻の神Ⅲ遺跡

図版 9

竪穴遺構(6)

S I 08・S I 14精査状況

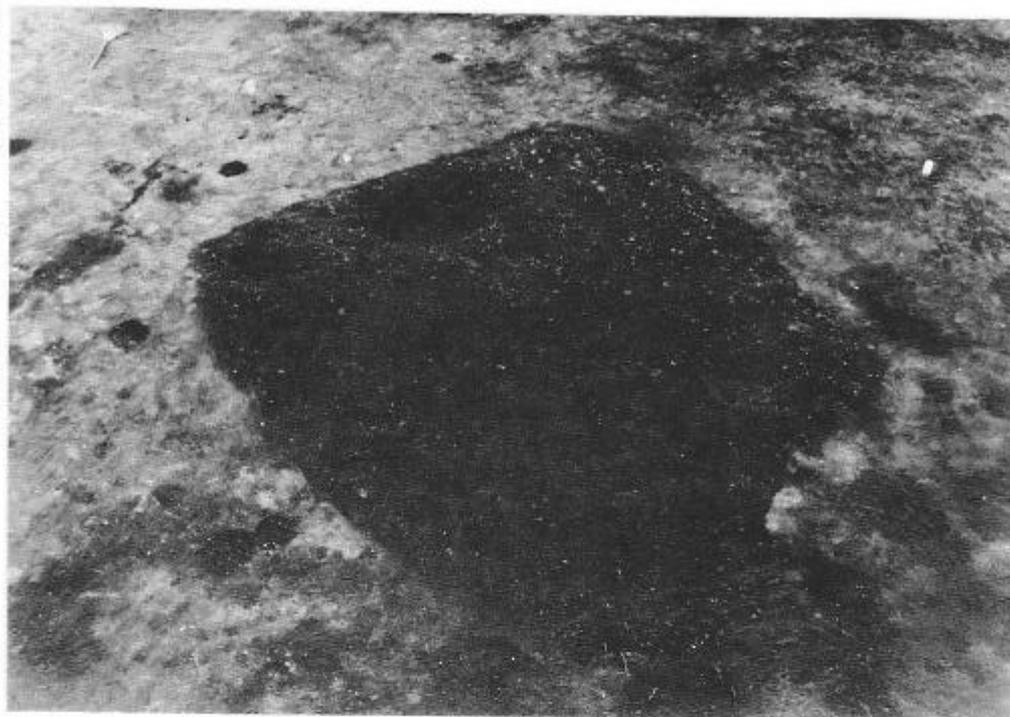


S I 08完掘状況

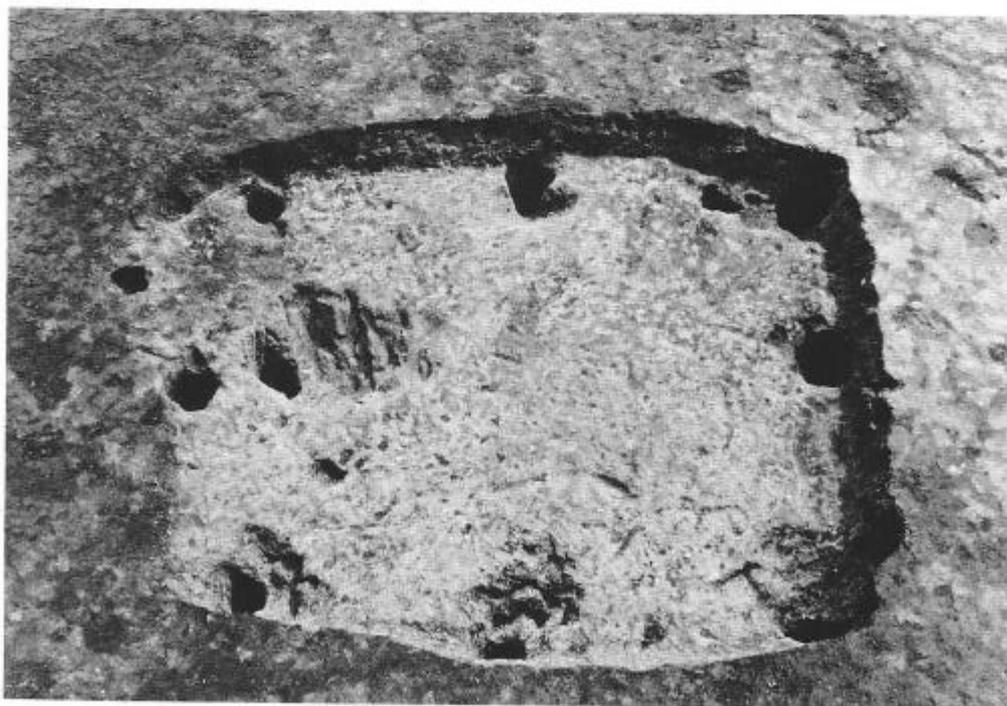
妻の神Ⅲ遺跡

図版10

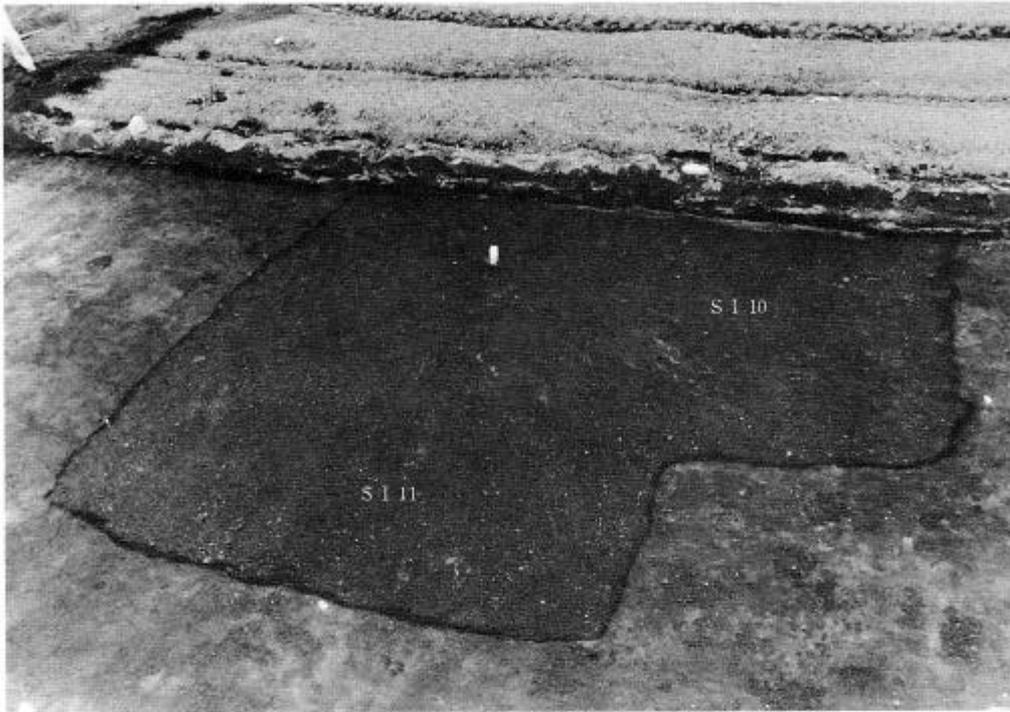
竪穴遺構(7)



S I 09プラン確認状況



S I 09完掘状況



S I 10・S I 11プラン確認状況

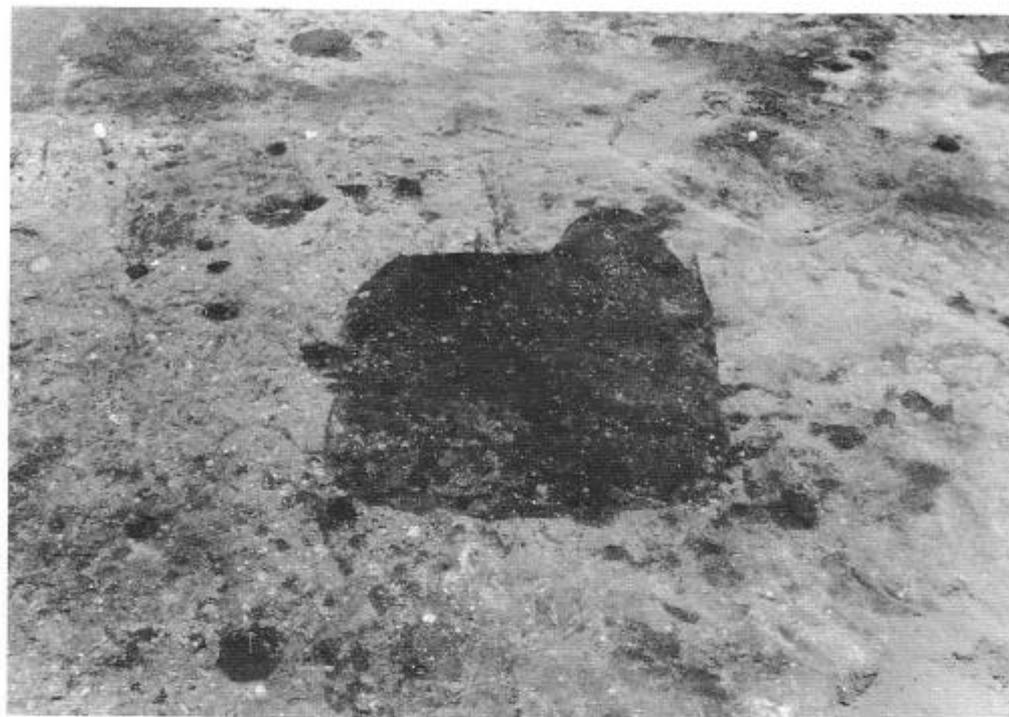


S I 10・S I 11完掘状況

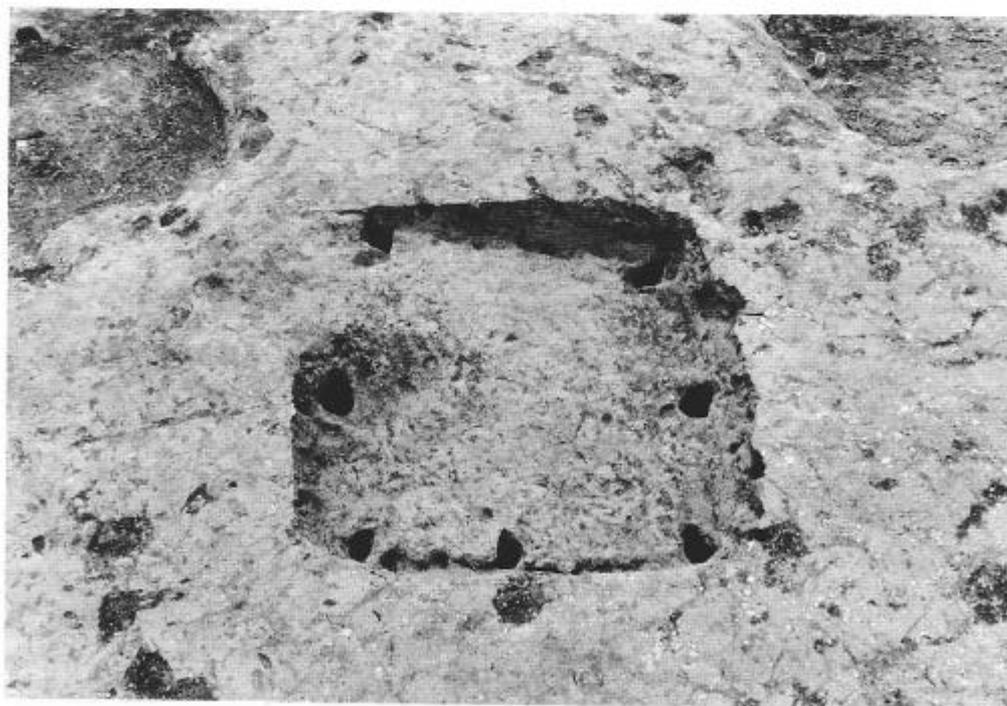
妻の神Ⅲ遺跡

図版12

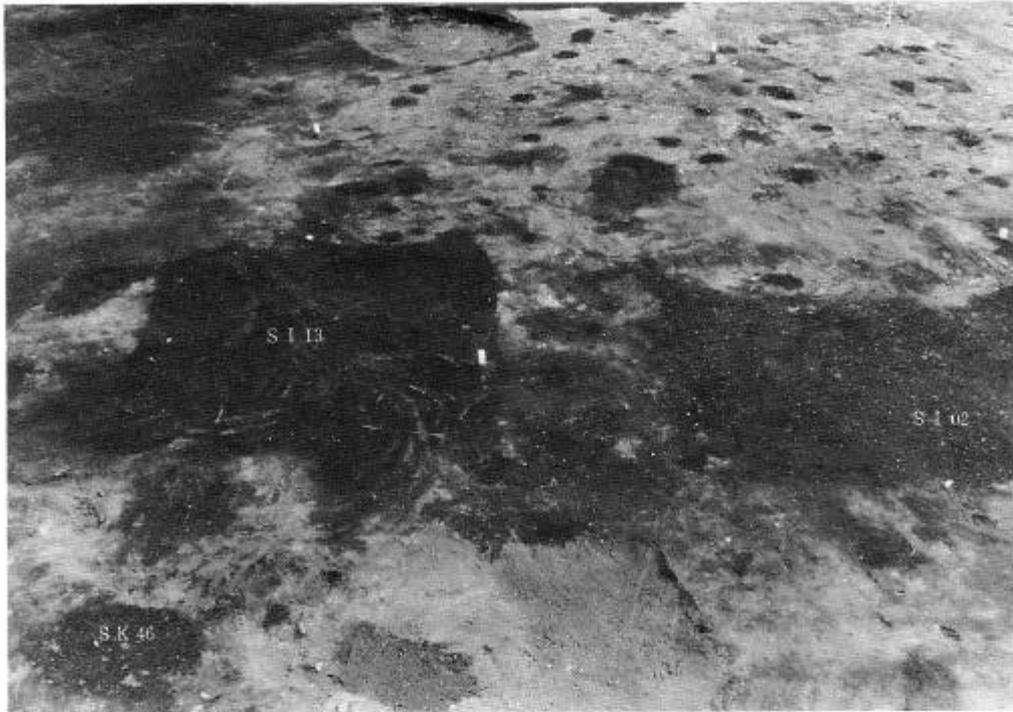
竪穴遺構(9)



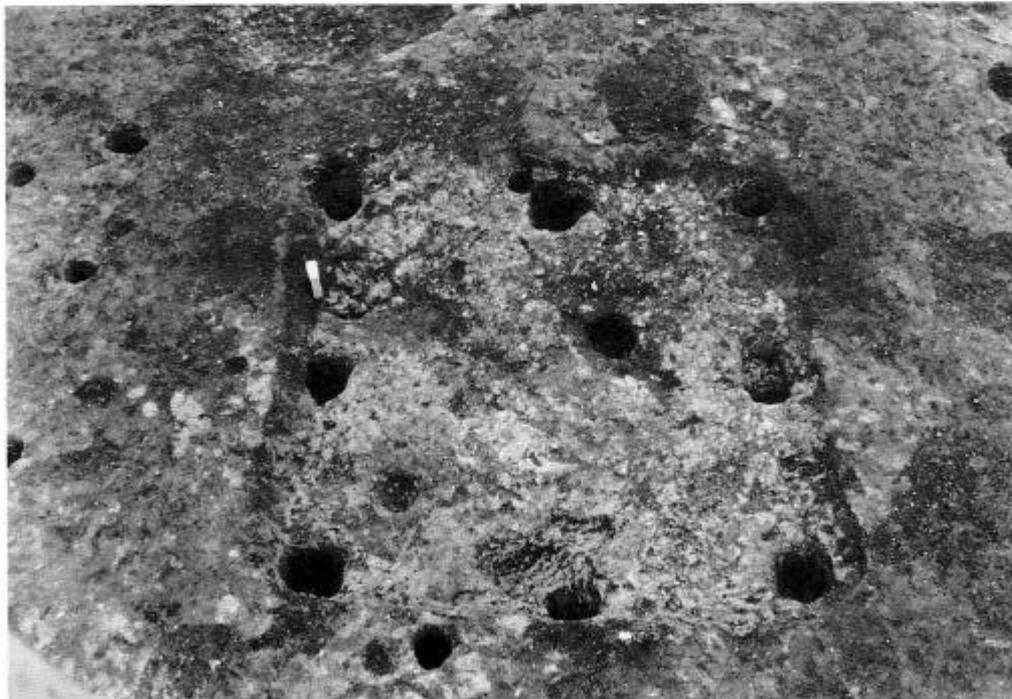
S I 12プラン確認状況



S I 12完掘状況



S I 13プラン確認状況



S I 13完掘状況

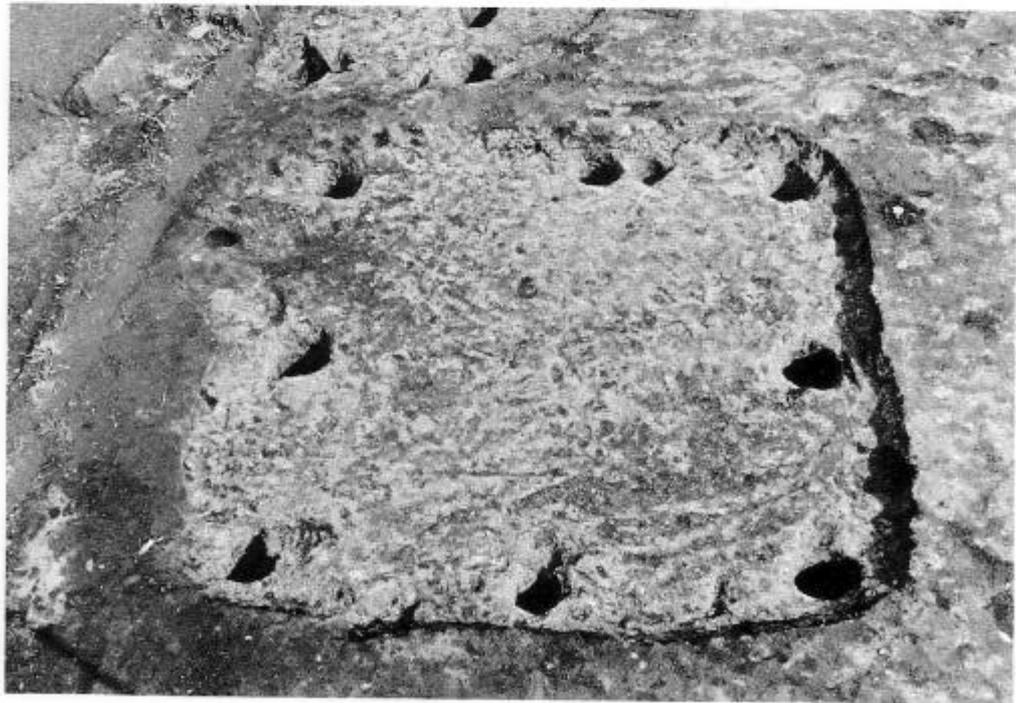
妻の神Ⅲ遺跡

図版14

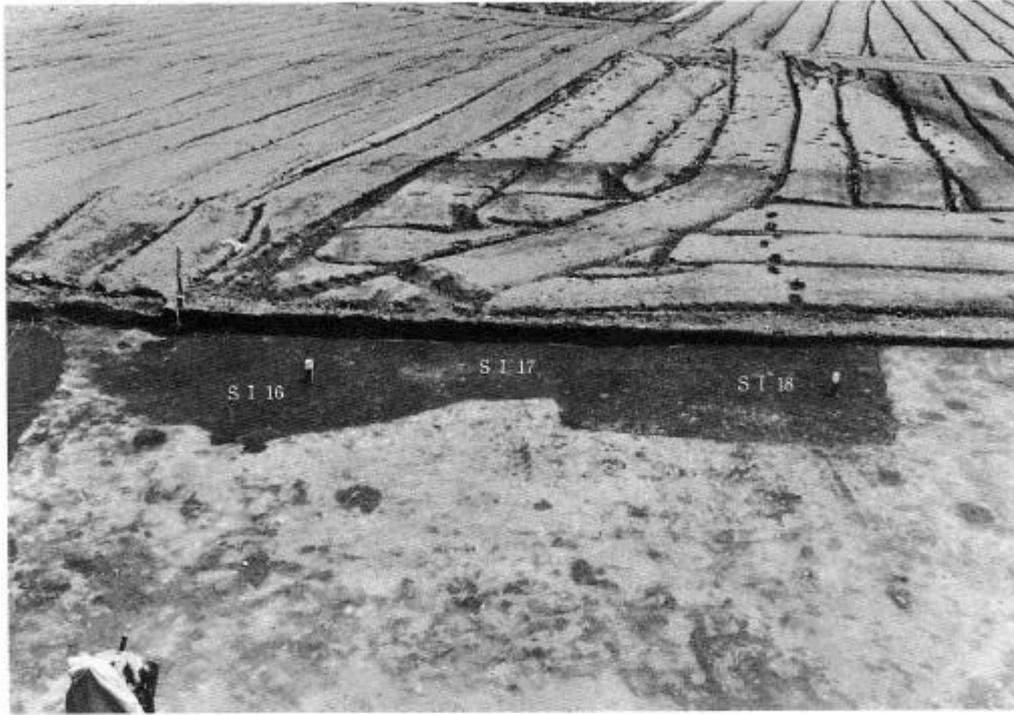
竪穴遺構(Ⅱ)



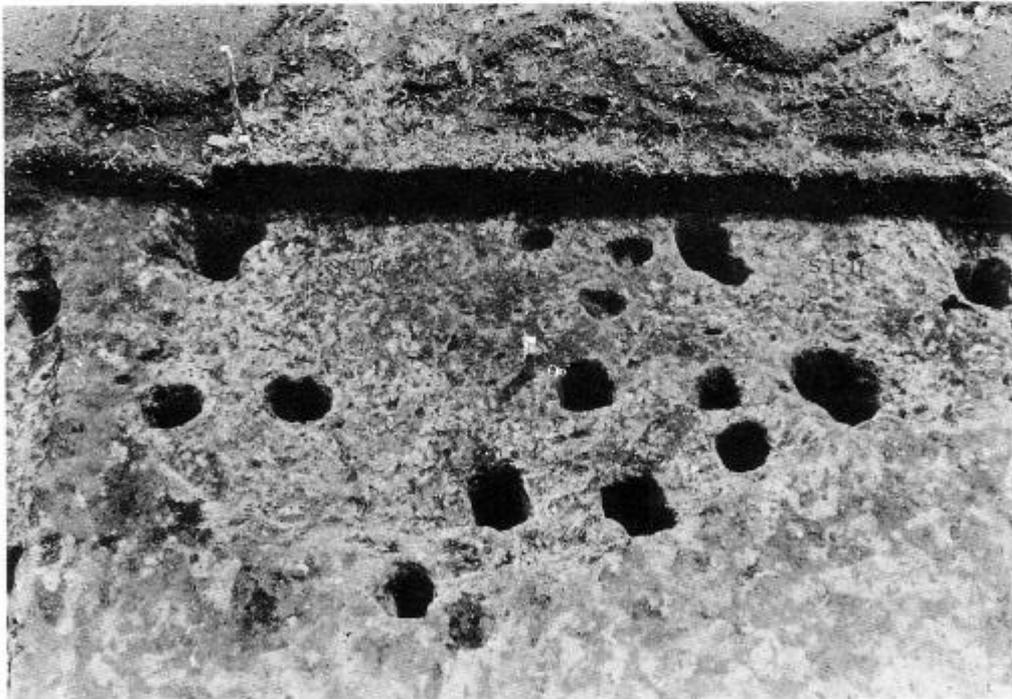
S I 14完掘状況



S I 15完掘状況



S I 16・S I 17・S I 18プラン確認状況

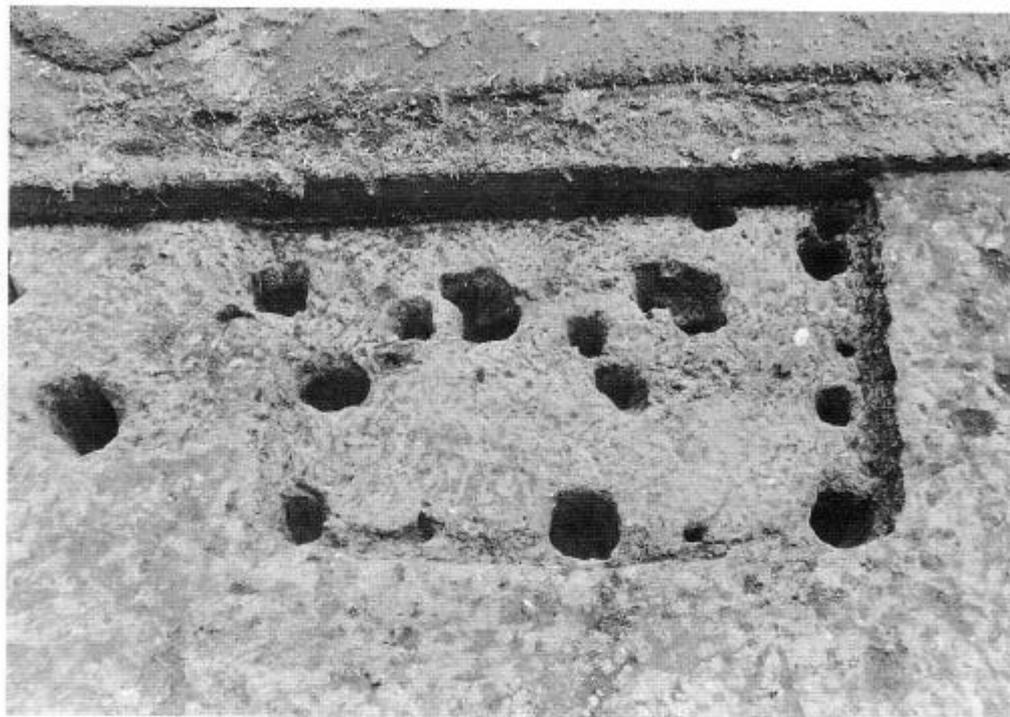


S I 16・S I 17完掘状況

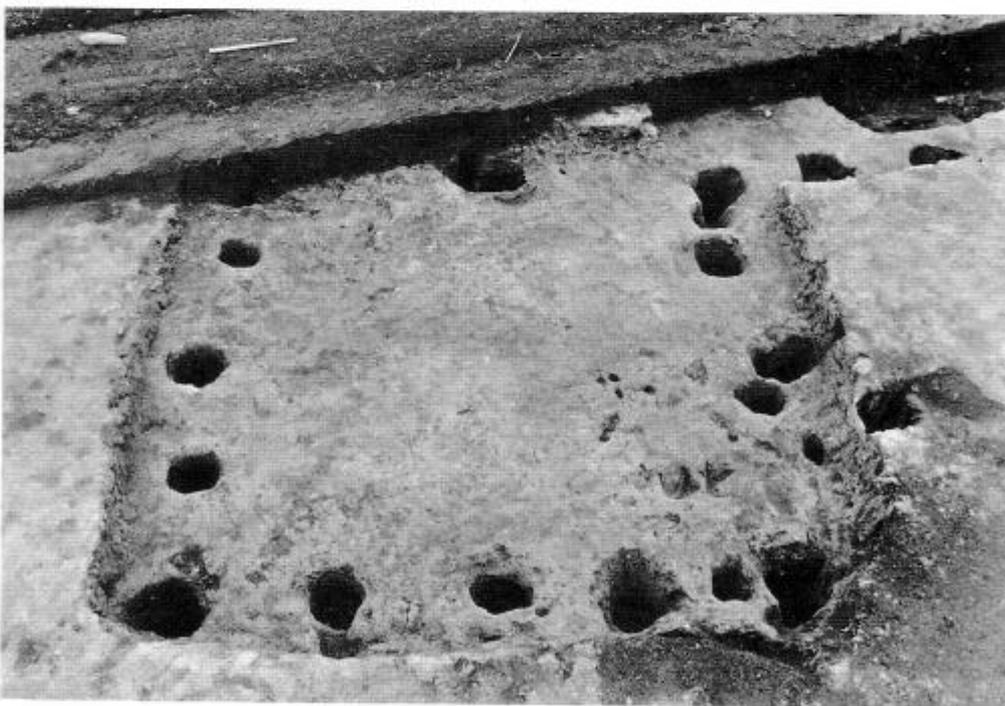
妻の神Ⅲ遺跡

図版 16

竪穴遺構(13)



S I 18完掘状況



S I 19完掘状況



S I 20・S I 21・S I 22・S I 23完掘状況

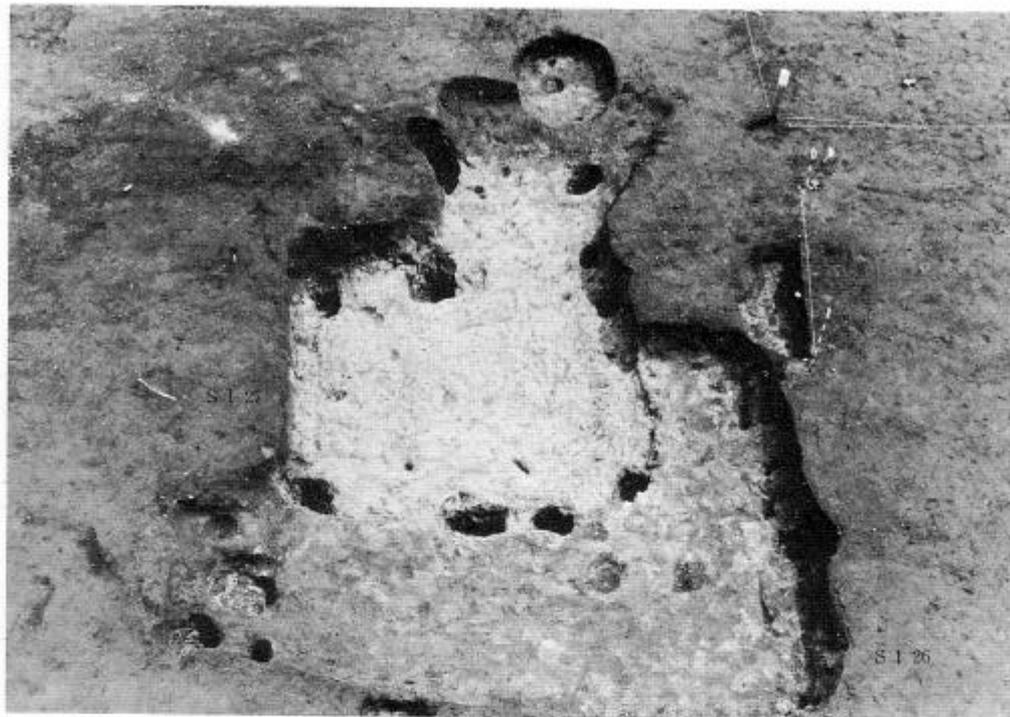


S I 24完掘状況

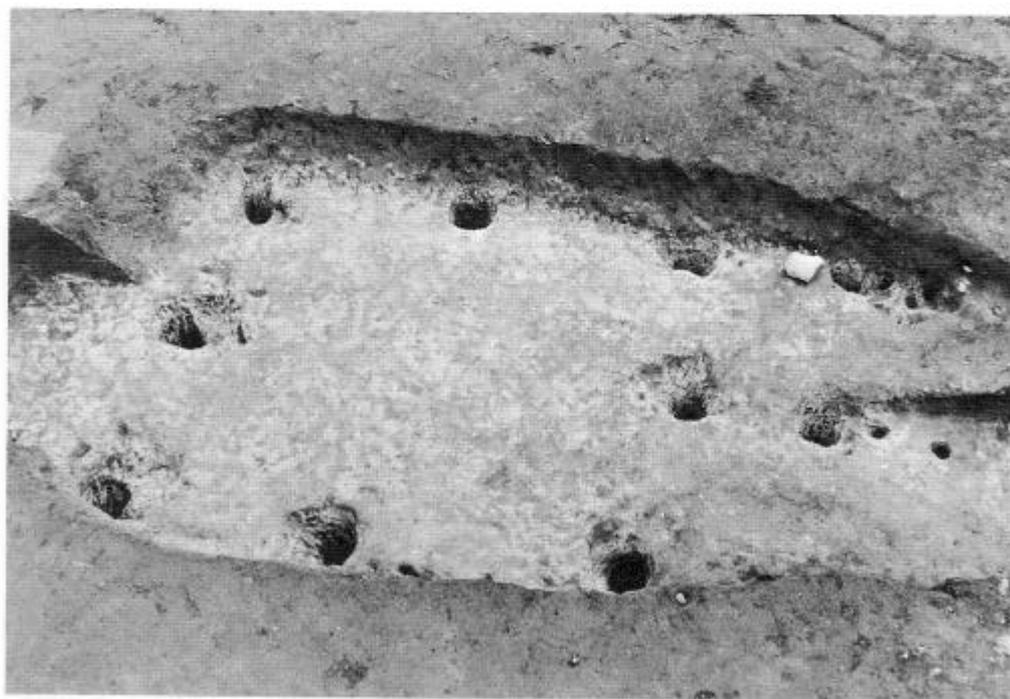
妻の神Ⅲ遺跡

図版18

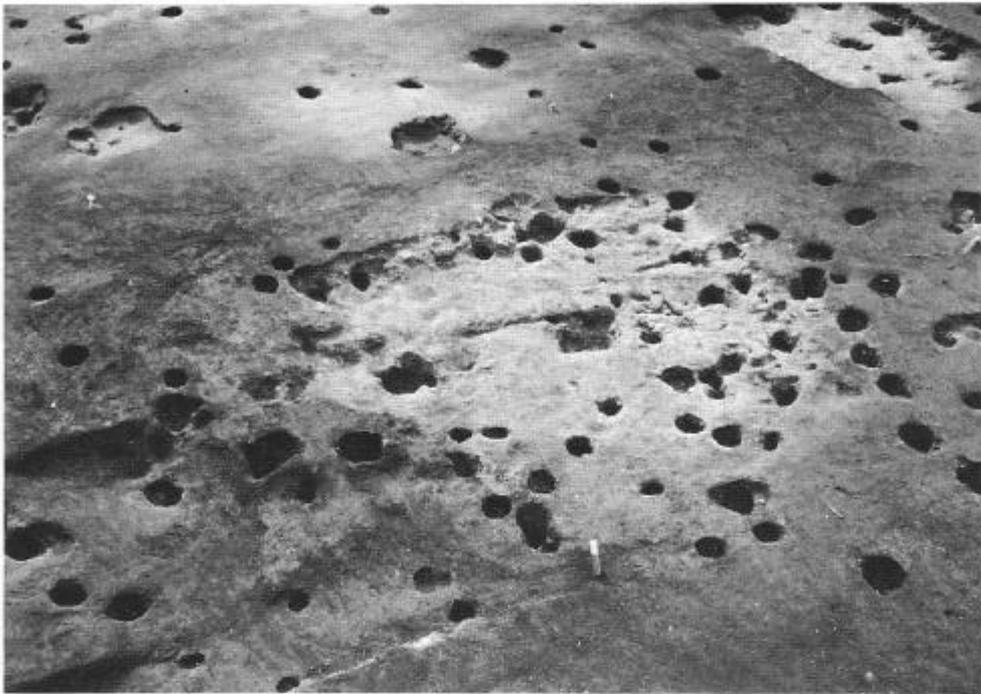
竪穴遺構(5)



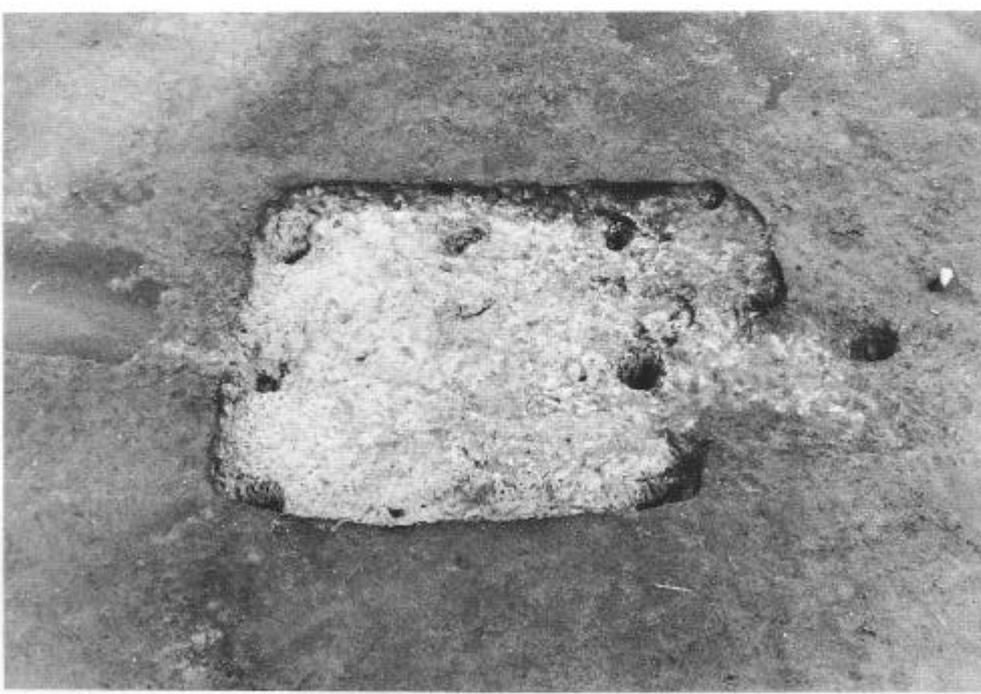
S I 26・S I 27完掘状況



S I 28完掘状況



S I 29完掘状況



S I 30完掘状況

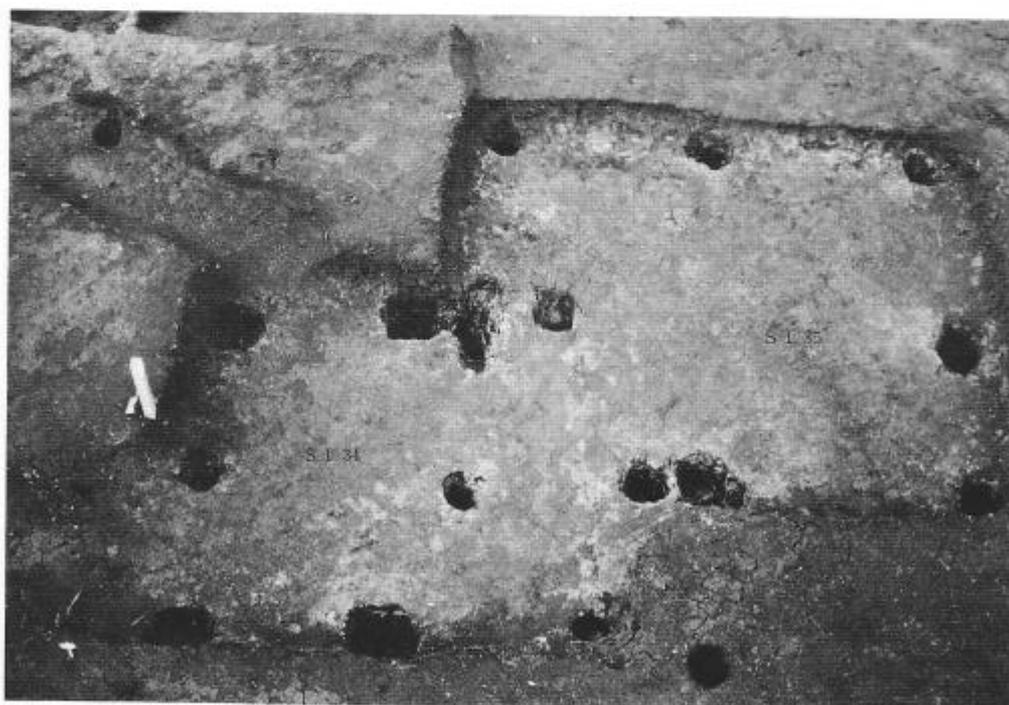
妻の神Ⅲ遺跡

図版20

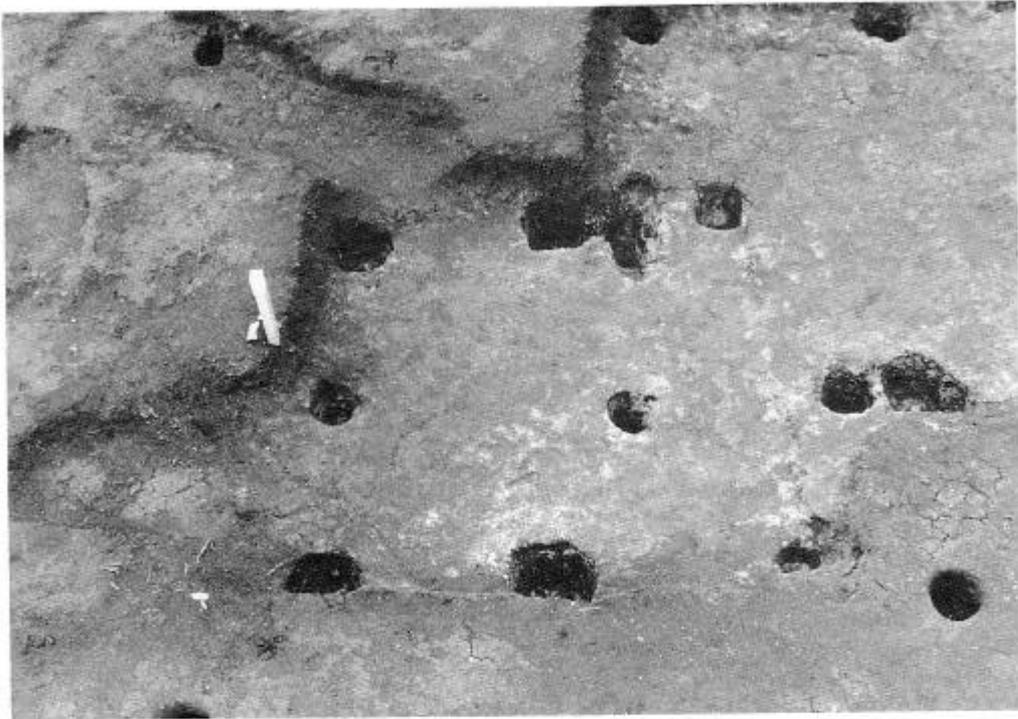
竪穴遺構(17)



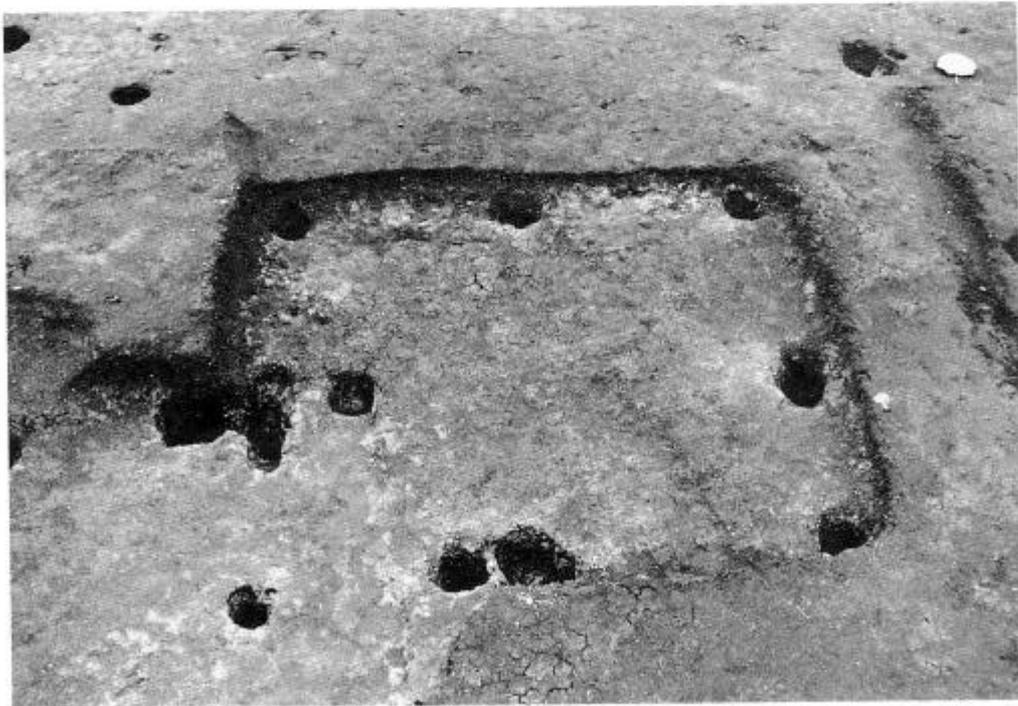
S I 31・S I 32完掘状況



S I 34・S I 35完掘状況



S I 34完掘状況



S I 35完掘状況

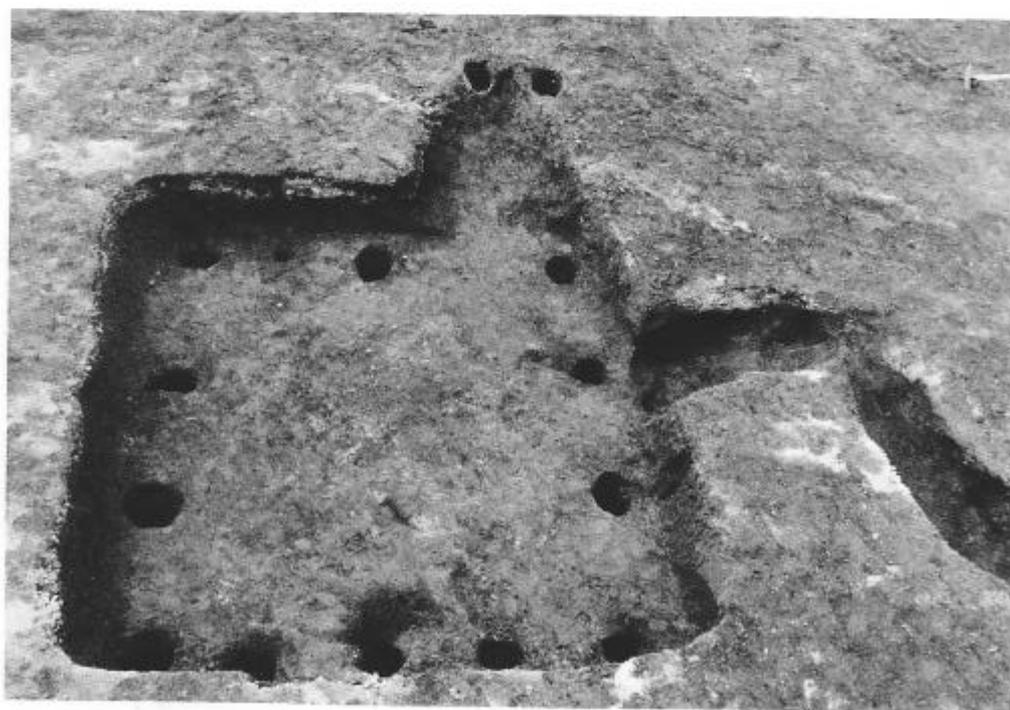
妻の神Ⅲ遺跡

図版22

竪穴遺構(19)



S I 35炭化材出土状況



S I 36完掘状況



S I 37完掘状況

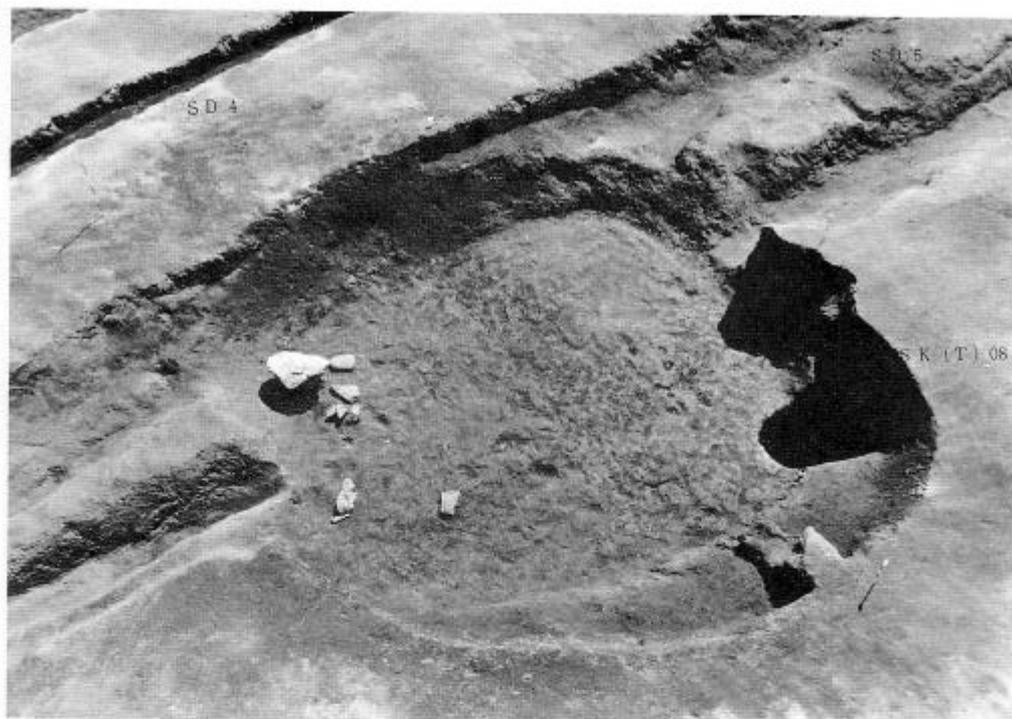


S I 38完掘状況

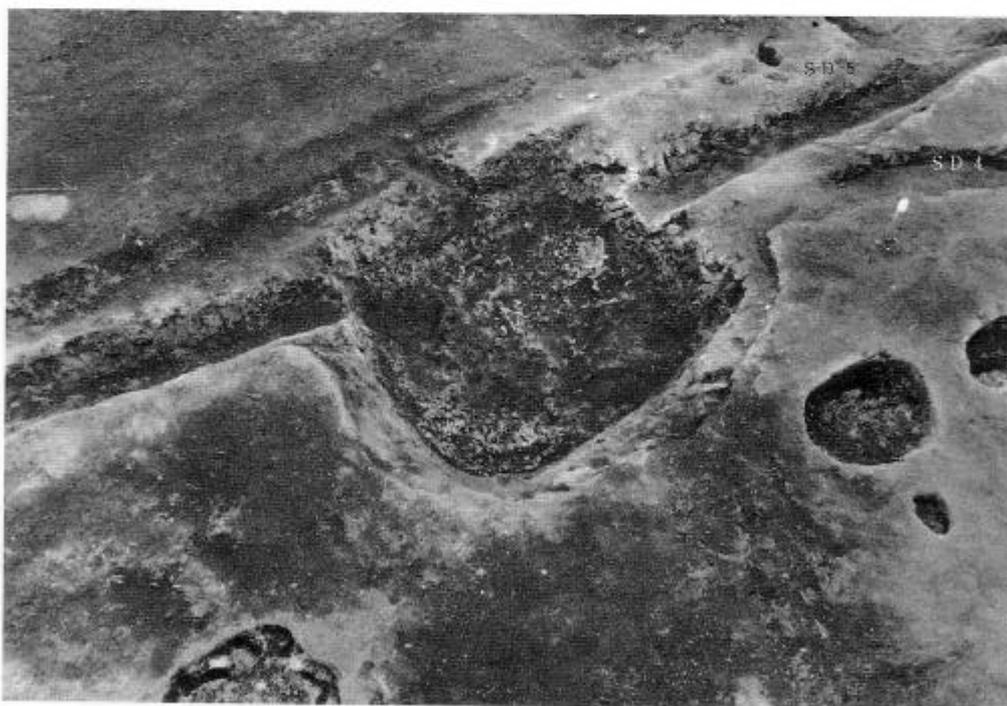
妻の神Ⅲ遺跡

図版 24

竪穴遺構(2)



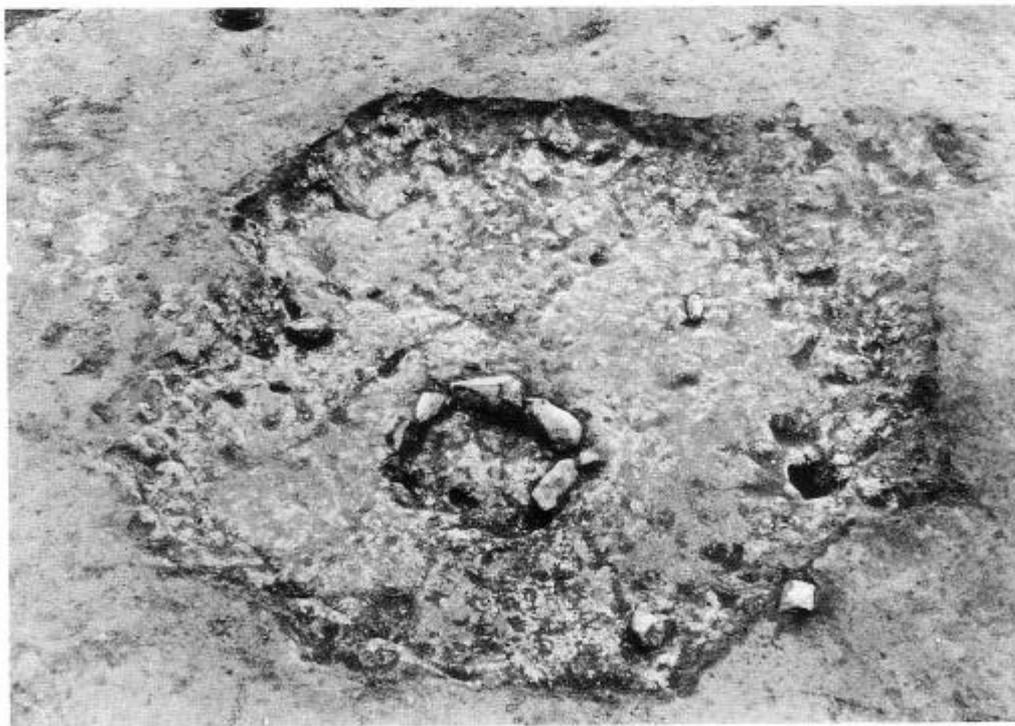
S I 40完掘状況



S I 41完掘状況



S I 42プラン確認状況

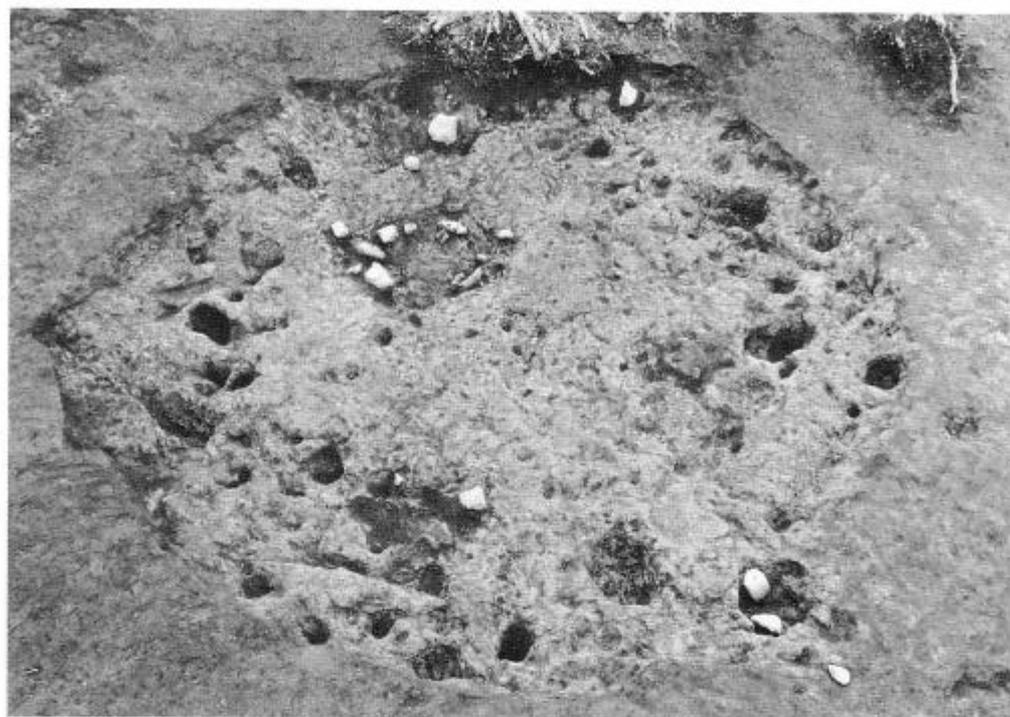


S I 42完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版 26

竪穴住居跡(2)



S I 43完掘状況



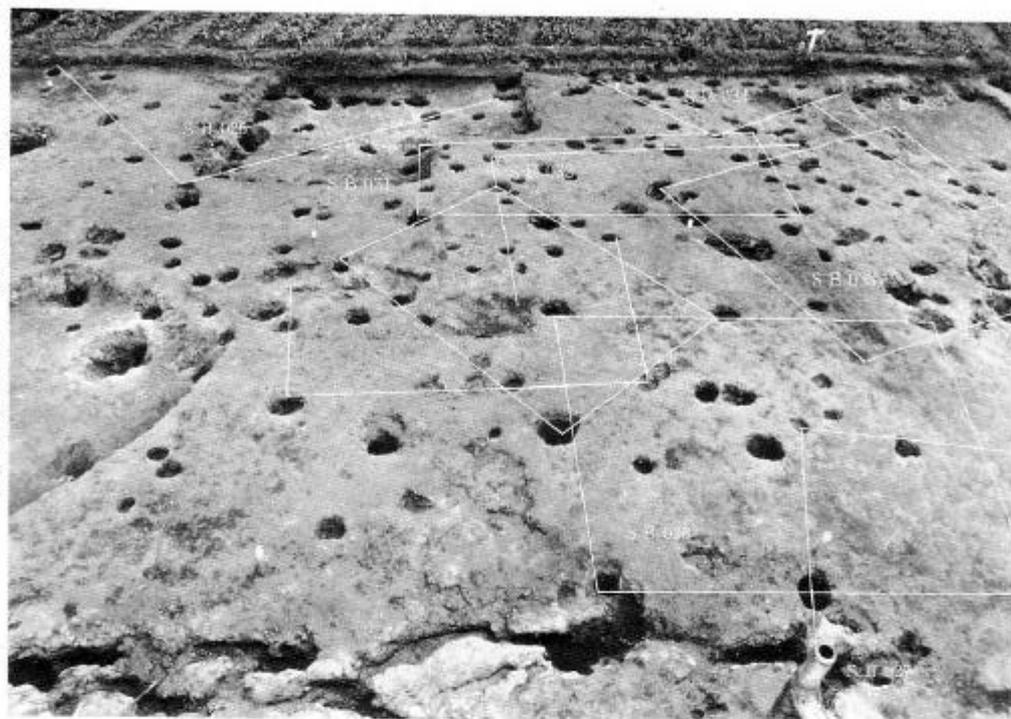
S I 43床面遺物出土状況



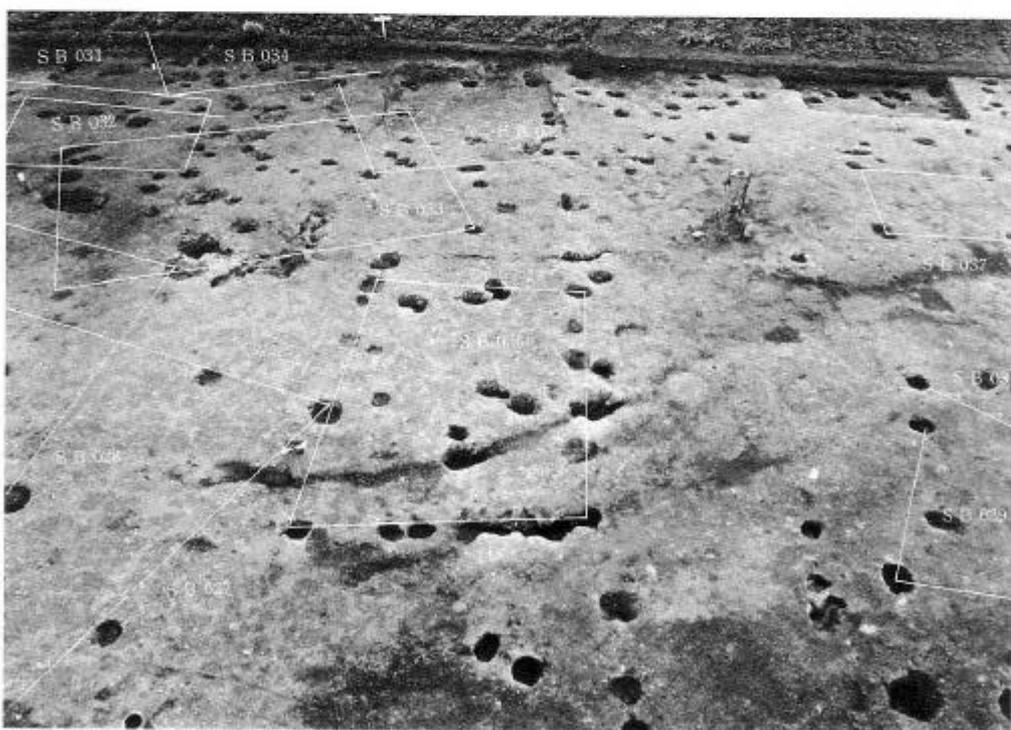
8ライン北側遺構検出状況



S B 027・S B 028・S B 029・S B 030・S B 032・S B 033・S B 034・S B 035・S B 036
配置状況



S B 026 · S B 027 · S B 028 · S B 031 · S B 032 · S B 033 · S B 034 · S B 035 配置状況



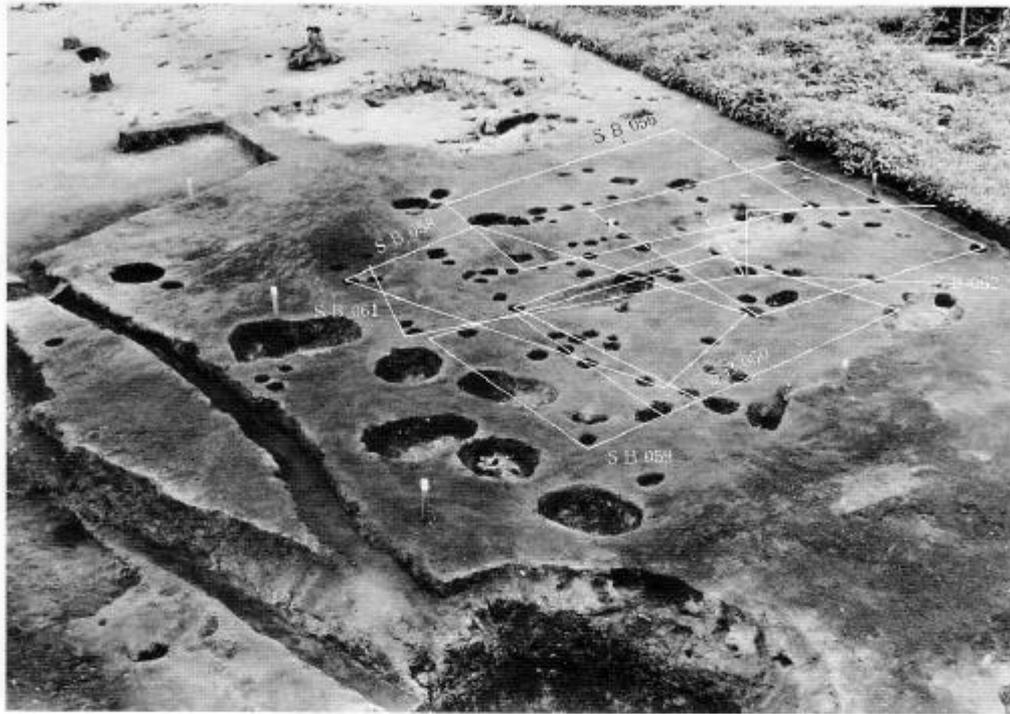
S B 027 · S B 028 · S B 031 · S B 032 · S B 033 · S B 034 · S B 035 · S B 036 · S B 037
S B 038 · S B 039 配置状況



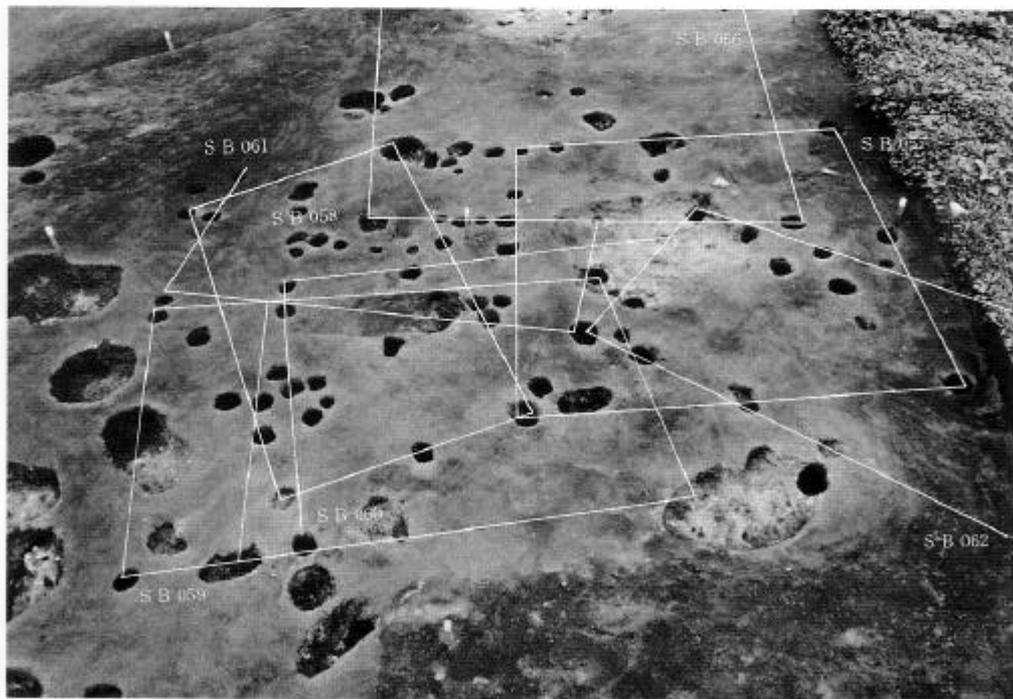
S B 026・S B 027・S B 028・S B 029・S B 030・S B 031・S B 032・S B 033・S B 034
S B 035・S B 036 配置状況



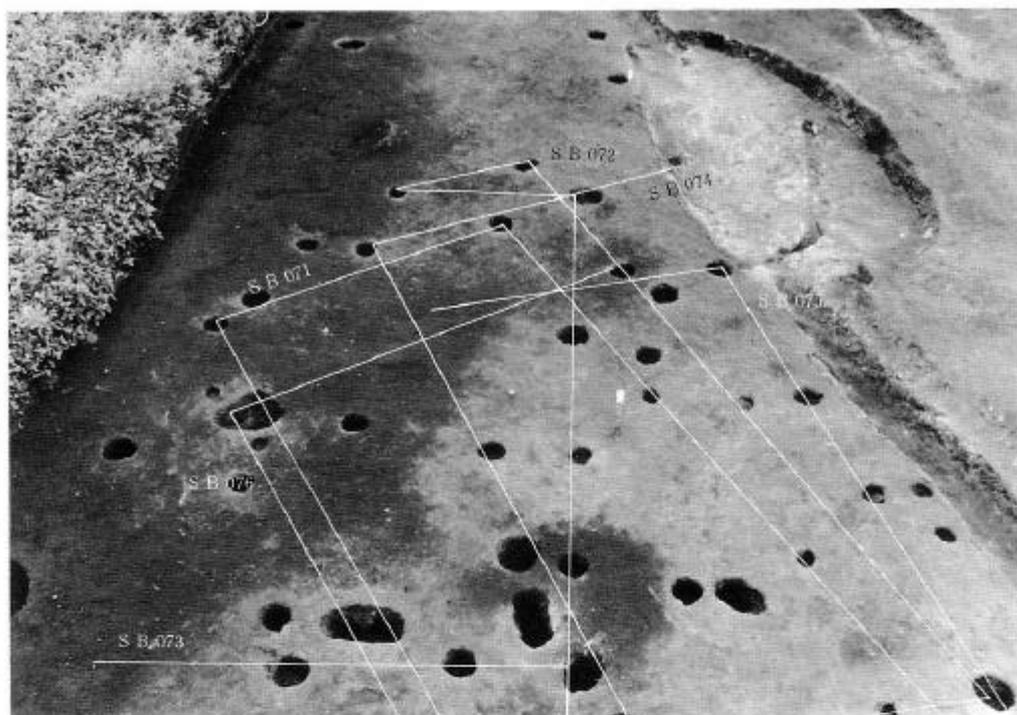
S B 040・S B 041・S B 042・S B 043・S B 044・S B 045・S B 046・S B 047・S B 048
S B 049・S B 050・S B 051・S B 052・S B 053 配置状況



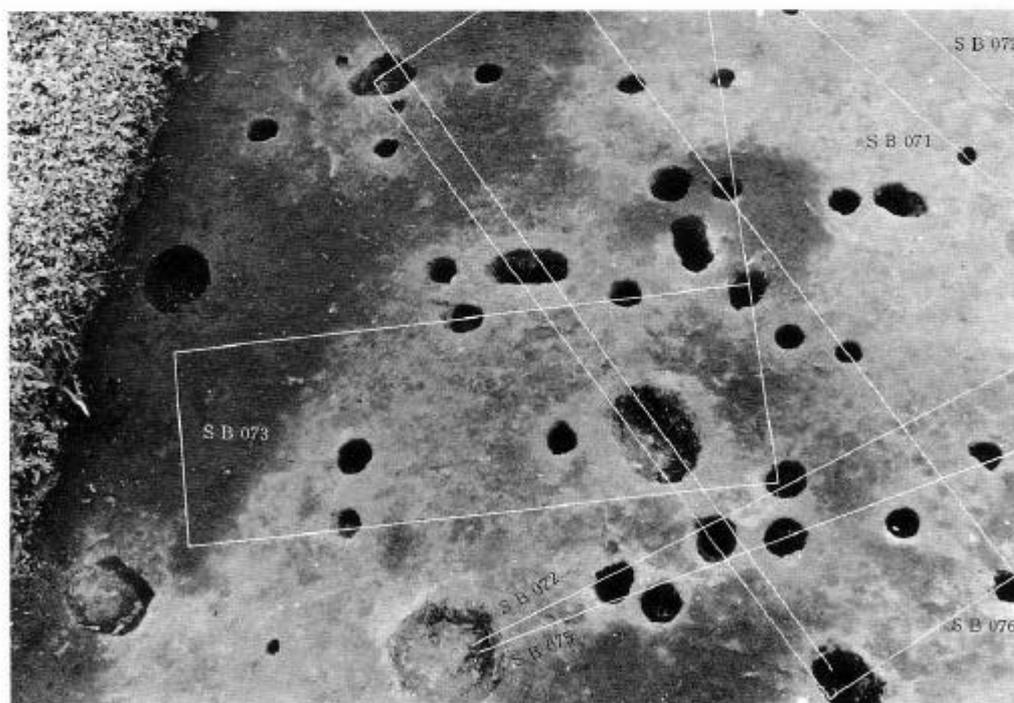
S B 056 ・ S B 057 ・ S B 058 ・ S B 059 ・ S B 060 ・ S B 061 ・ S B 062 配置状況



S B 056 ・ S B 057 ・ S B 058 ・ S B 059 ・ S B 060 ・ S B 061 ・ S B 062 配置状況



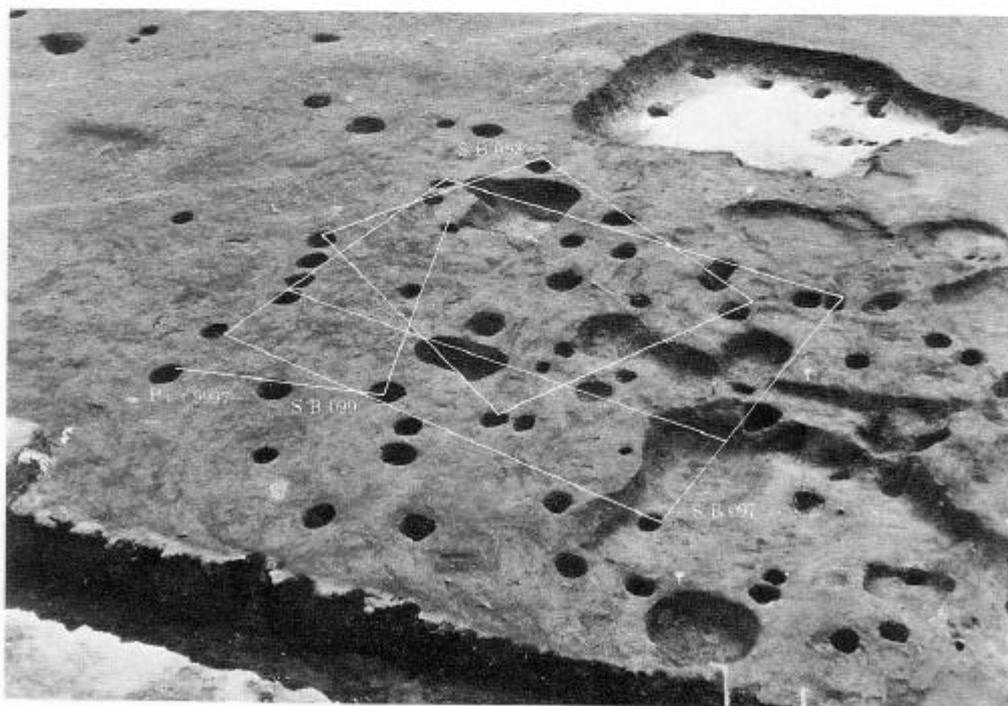
S B 071・S B 072・S B 073・S B 074・S B 075・S B 076 配置状況



S B 071・S B 072・S B 073・S B 074・S B 075・S B 076 配置状況



S B 095・S B 096 配置状況



S B 097・S B 098・S B 099 配置状況 (P i t 9997は炭化穀類出土)



S B 097・S B 098・S B 099・S B 100 配置状況



S B 092・S B 094 配置状況

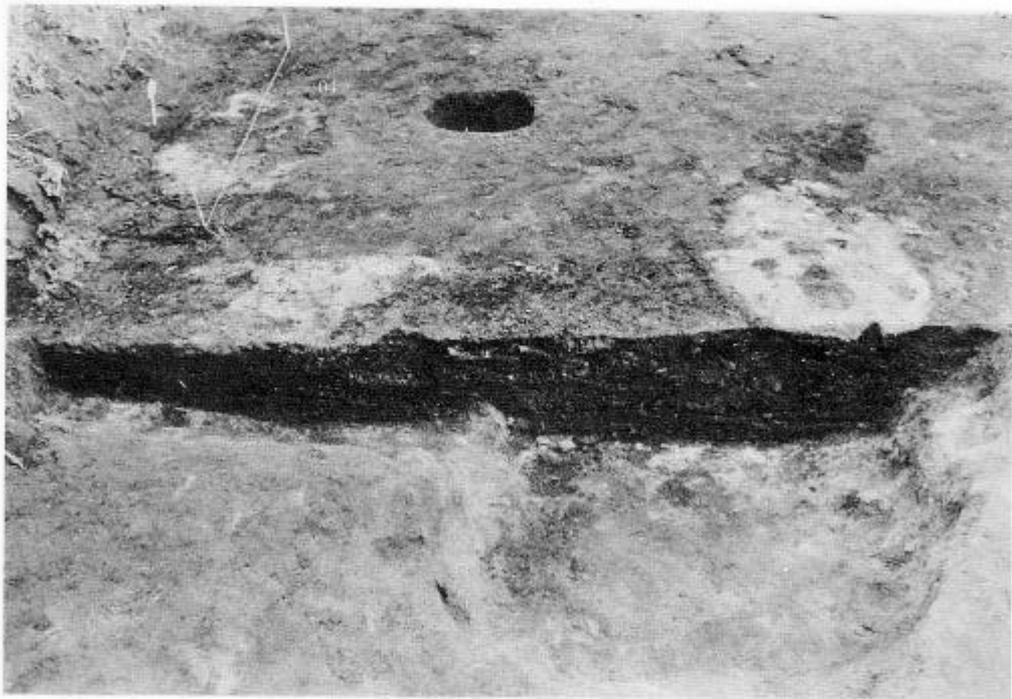
妻の神Ⅲ遺跡

図版34

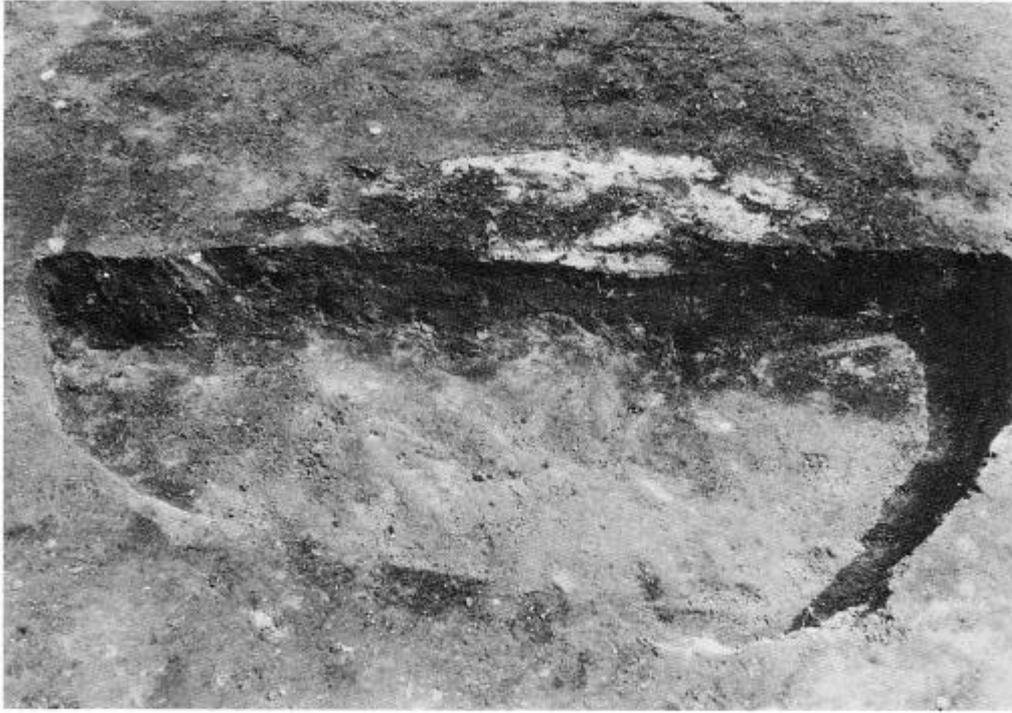
焼土遺構(1)



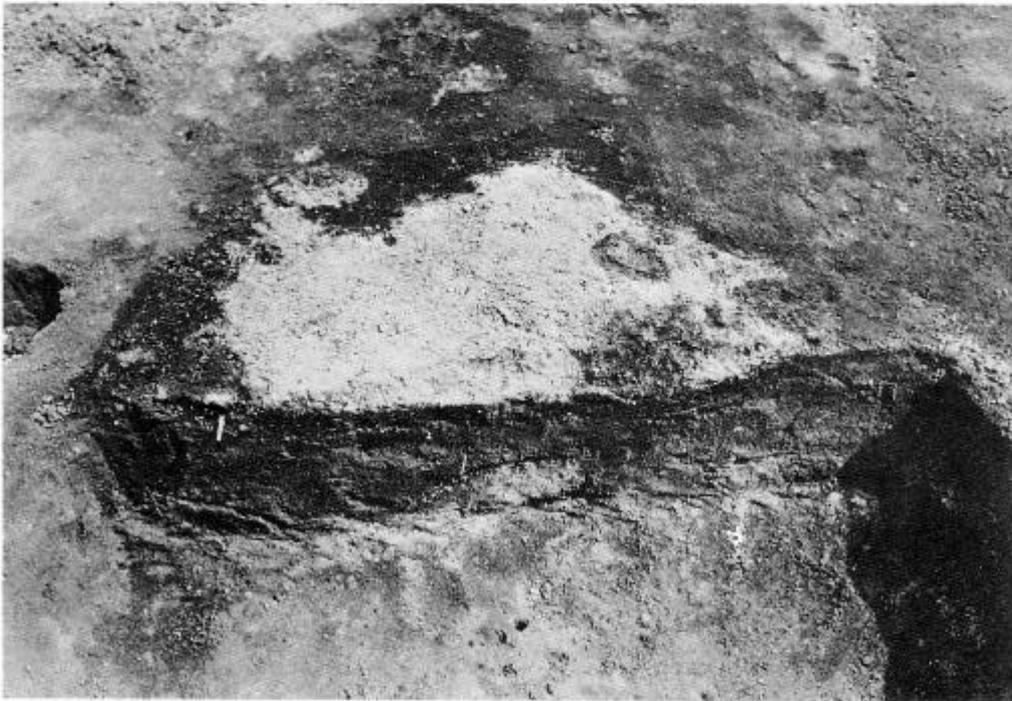
SX(F) 01・SX(F) 02・SX(F) 03・SX(F) 04プラン確認状況



SX(F) 01土層堆積状況



S X (F) 02土層堆積状況

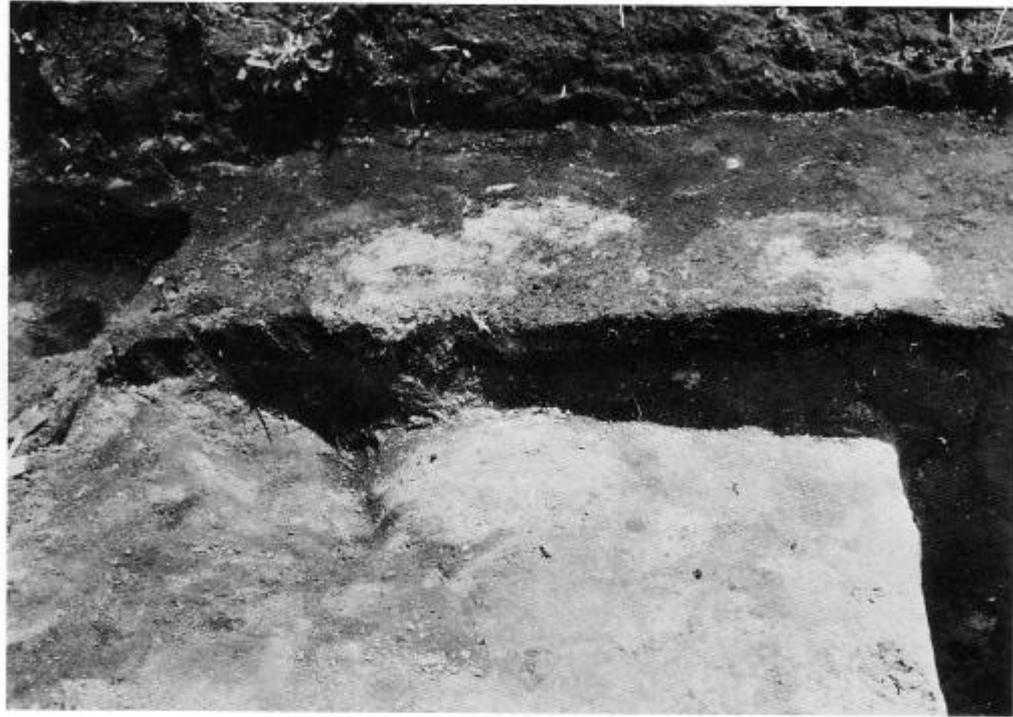


S X (F) 03土層堆積状況

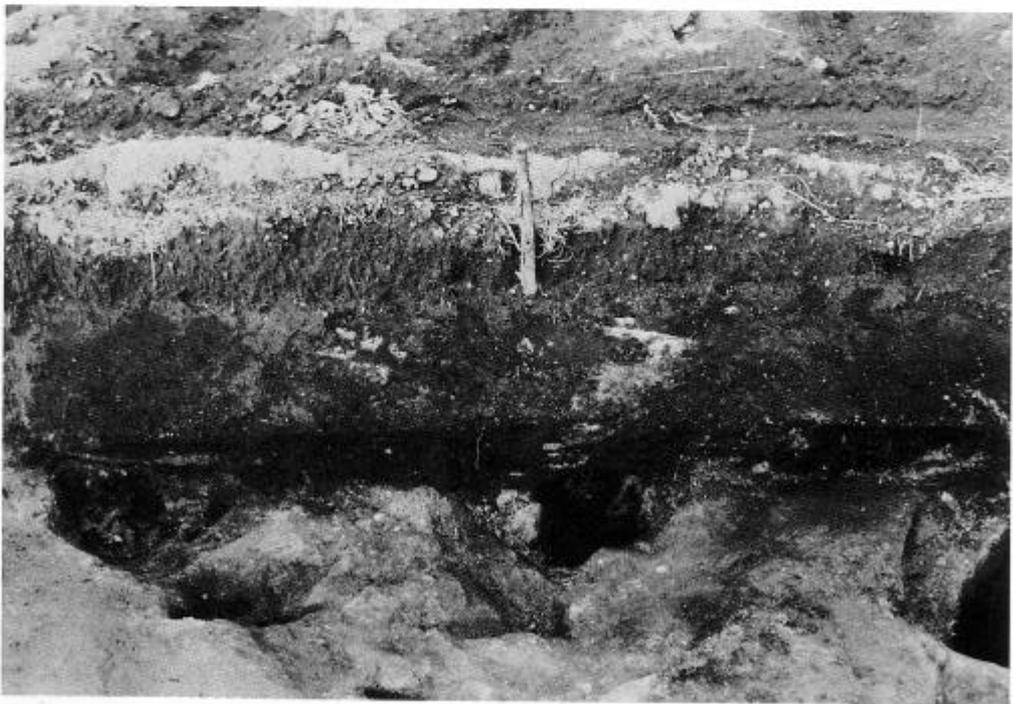
妻の神Ⅲ遺跡

図版 36

焼土遺構(3)



S X (F) 04土層堆積状況



S X (F) 05土層堆積状況



妻の神Ⅲ遺跡
図版37 焼土遺構(4)

S X (F) 06土層堆積状況

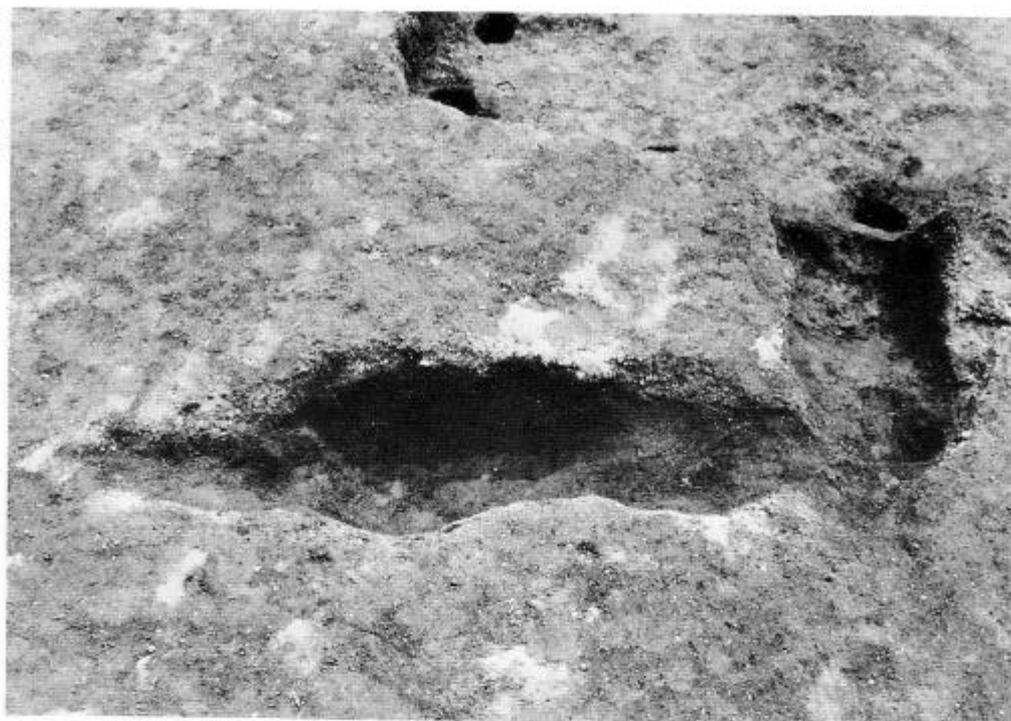


S X (F) 07土層堆積状況

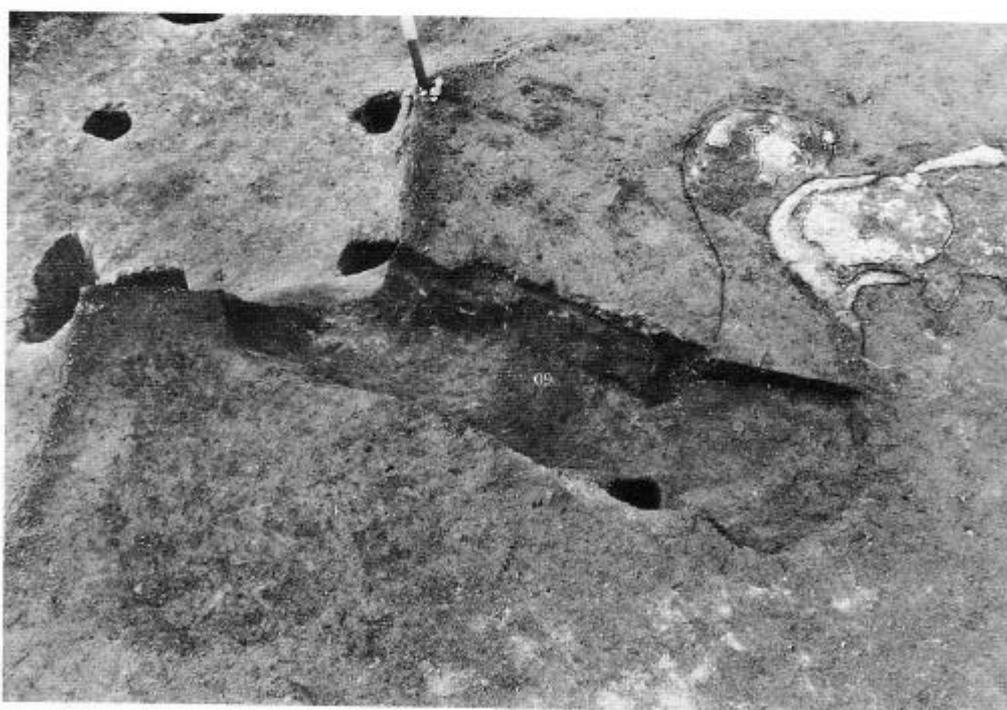
妻の神Ⅲ遺跡

図版 38

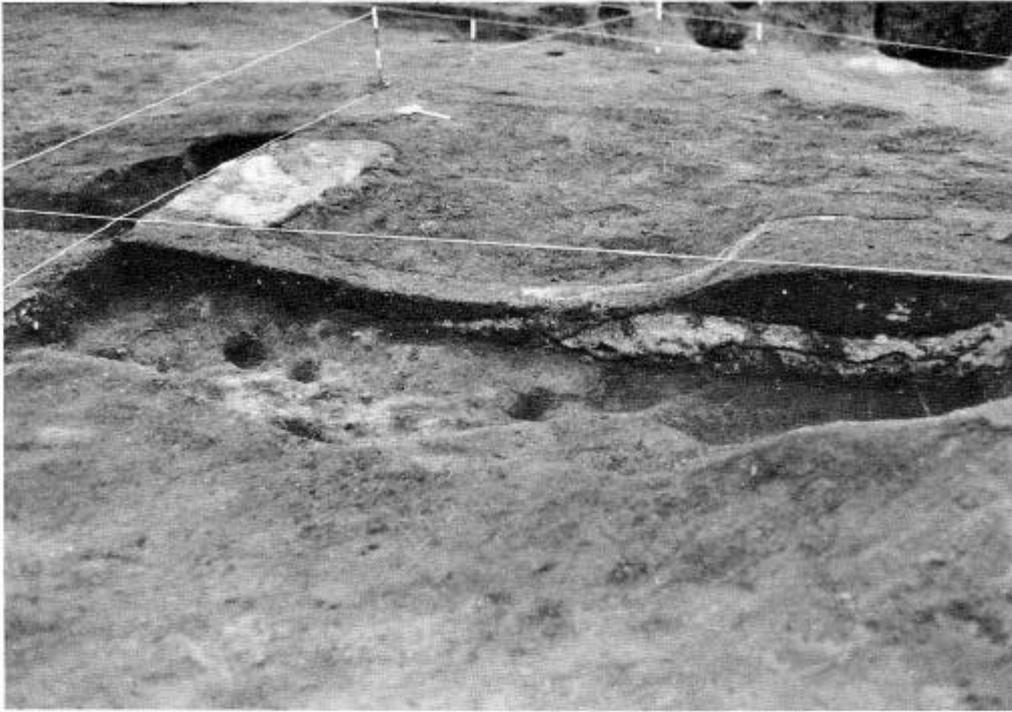
焼土遺構(5)



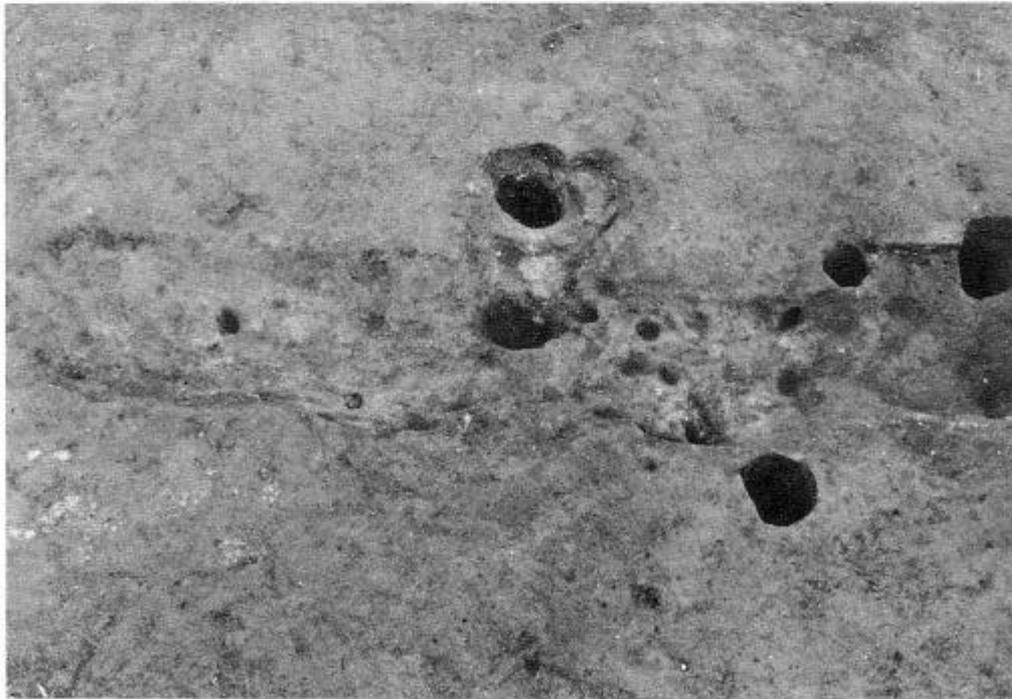
S X (F) 08完掘状況



S X (F) 09完掘状況



S X (F) 10土層堆積状況



S X (F) 10完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版40

焼土遺構(7)



S X (F) 11土層堆積状況



S X (F) 12プラン確認状況



SX(F) 14・SX(F) 15・SX(F) 16・SX(F) 18・SX(F) 60・SX(F) 61
プラン確認状況



SX(F) 25プラン確認状況

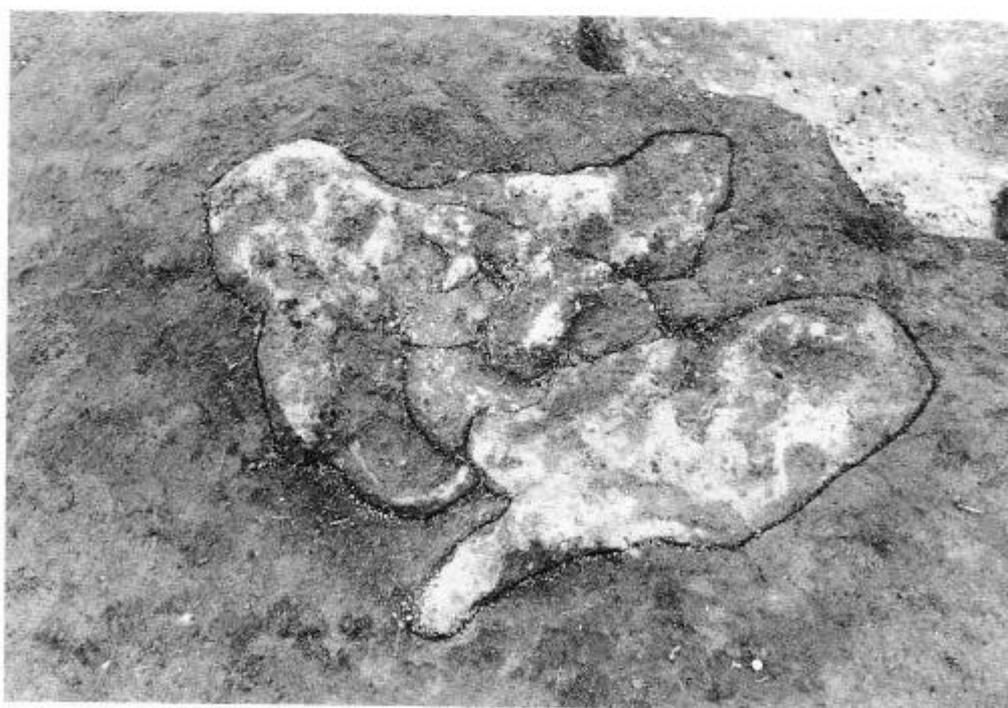
妻の神Ⅲ遺跡

図版42

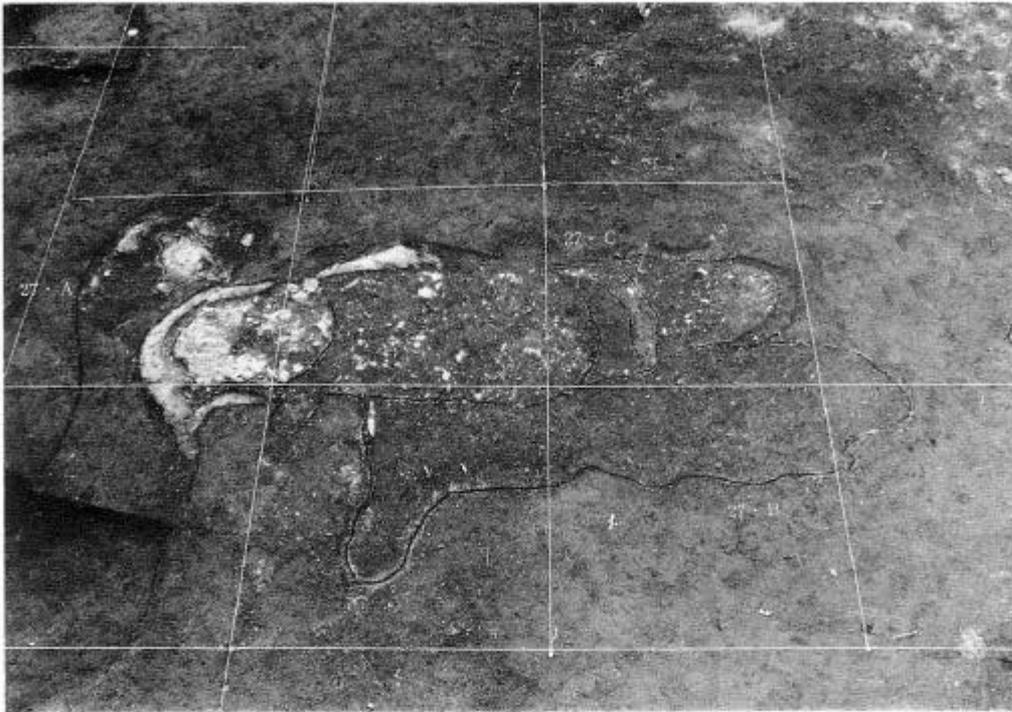
焼土遺構(9)



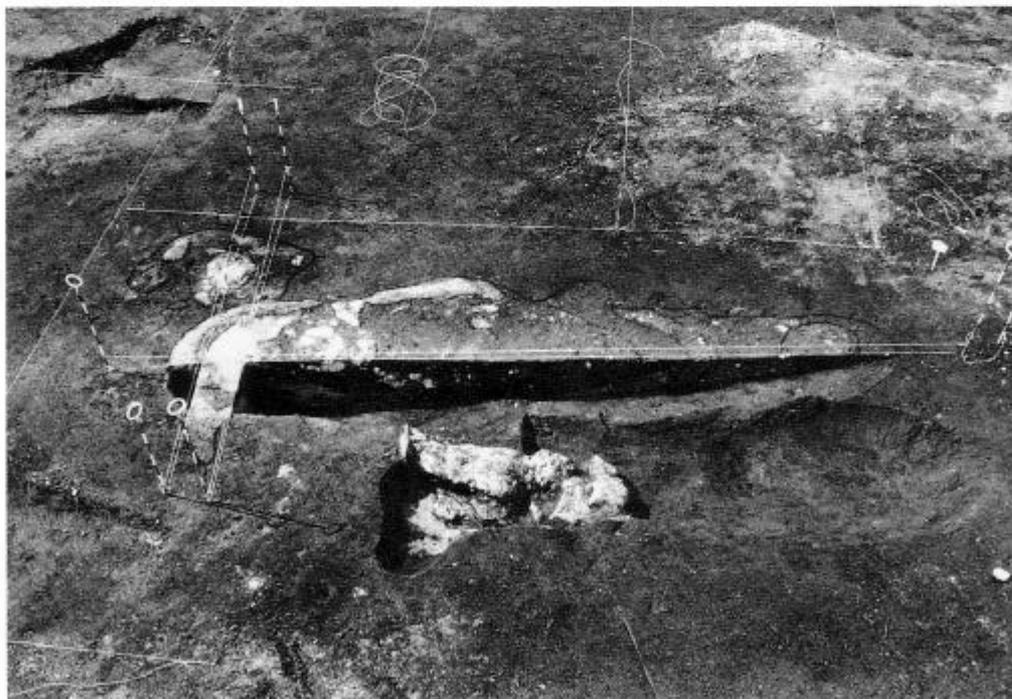
S X (F) 25土層堆積状況



S X (F) 26プラン確認状況



SX (F) 27プラン確認状況

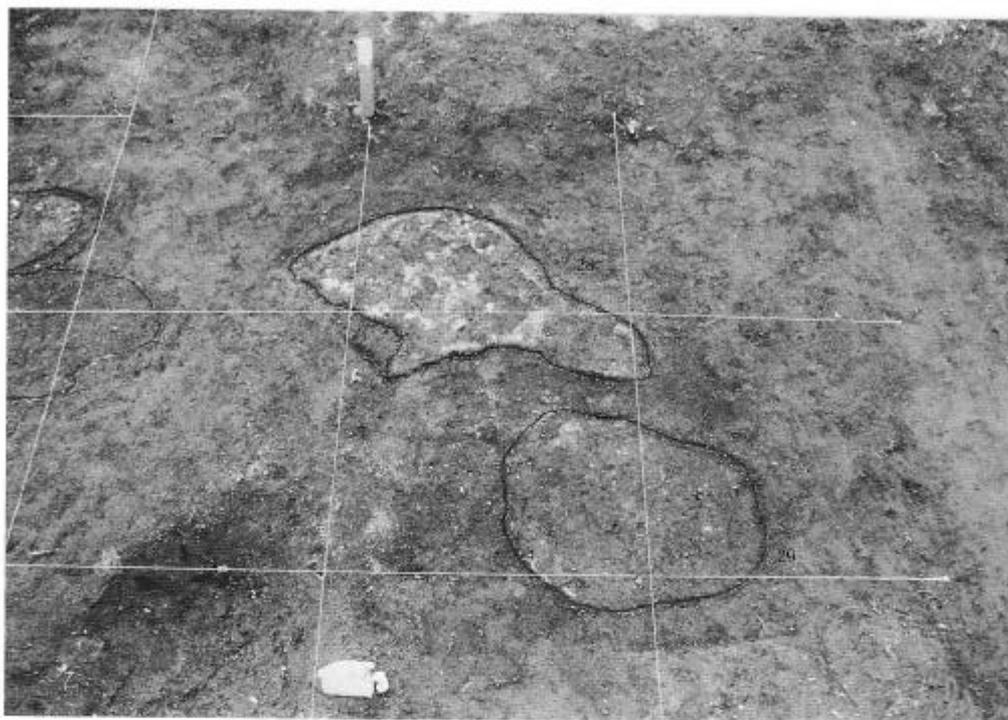


SX (F) 27土層堆積状況

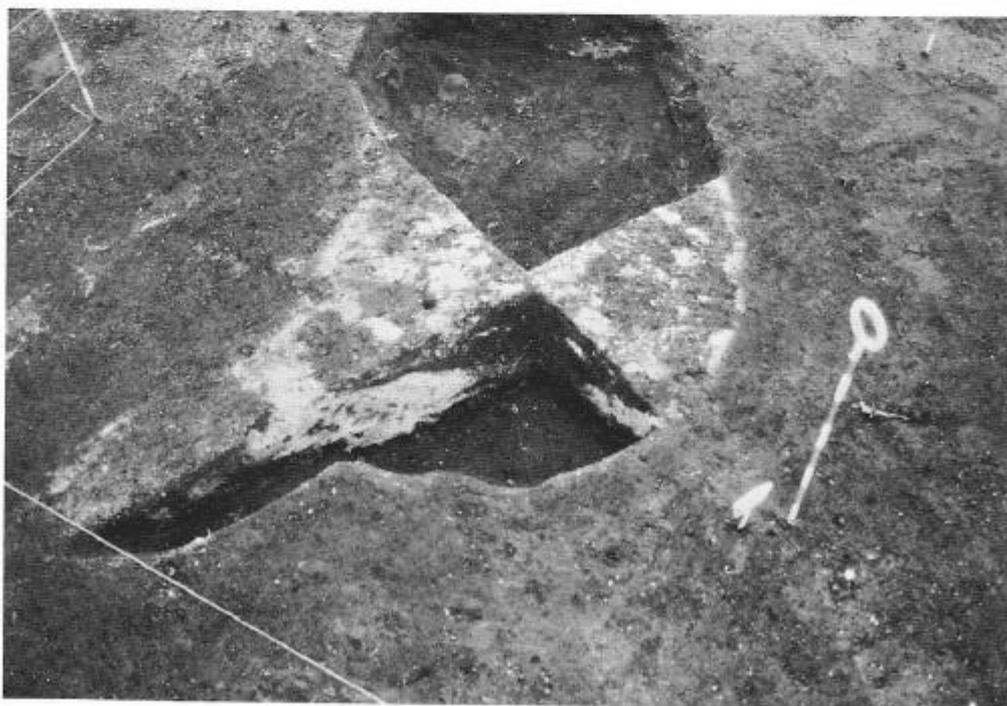
妻の神Ⅲ遺跡

図版44

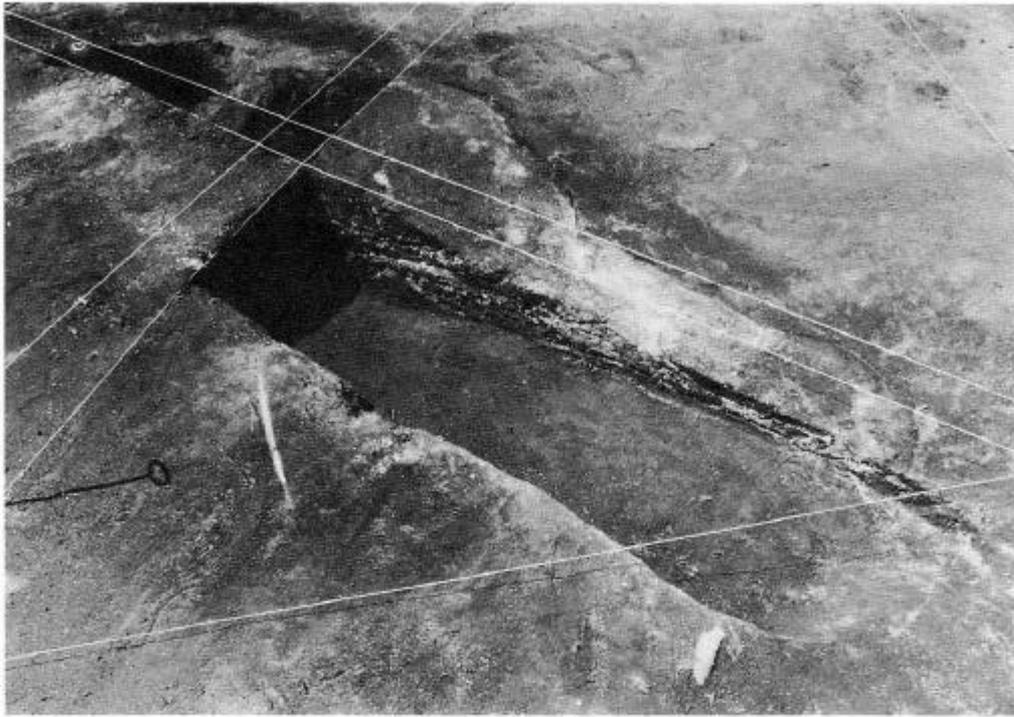
焼土遺構(1)



S X (F) 28 ・ S X (F) 29プラン確認状況



S X (F) 28土層堆積状況



S X (F) 30土層堆積状況



S X (F) 30完掘状況

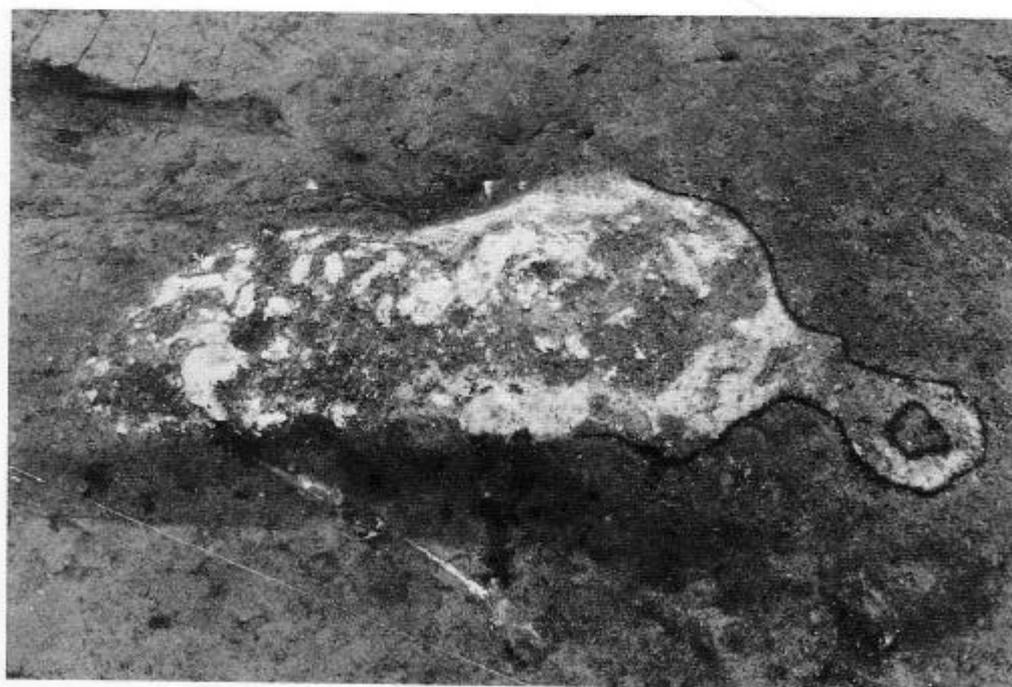
妻の神Ⅲ遺跡

図版46

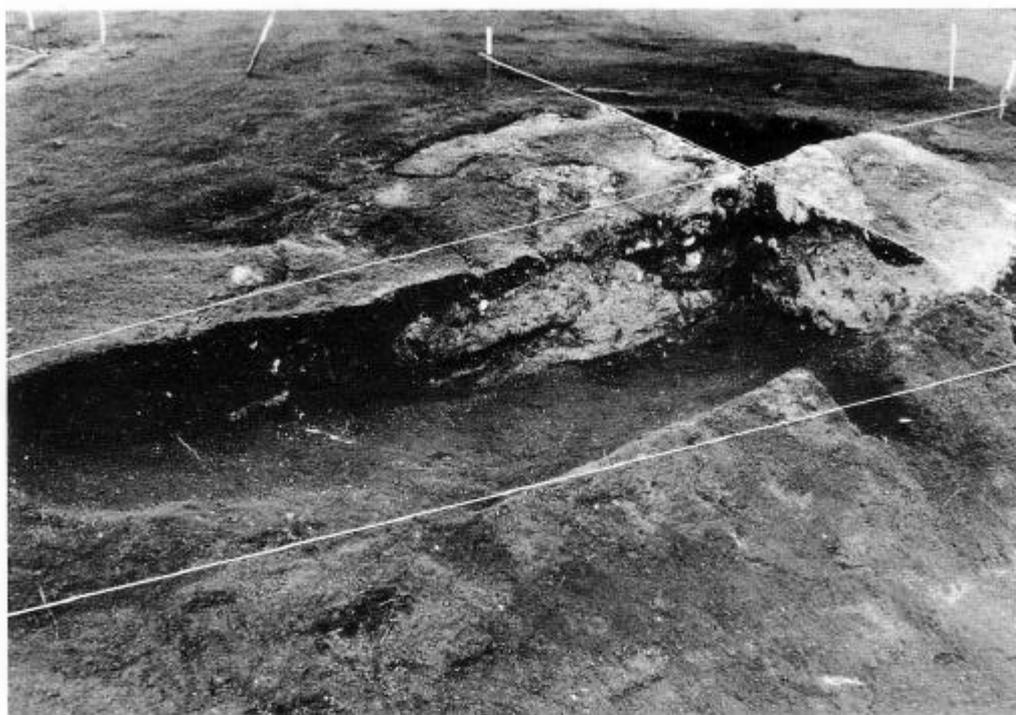
焼土遺構(13)



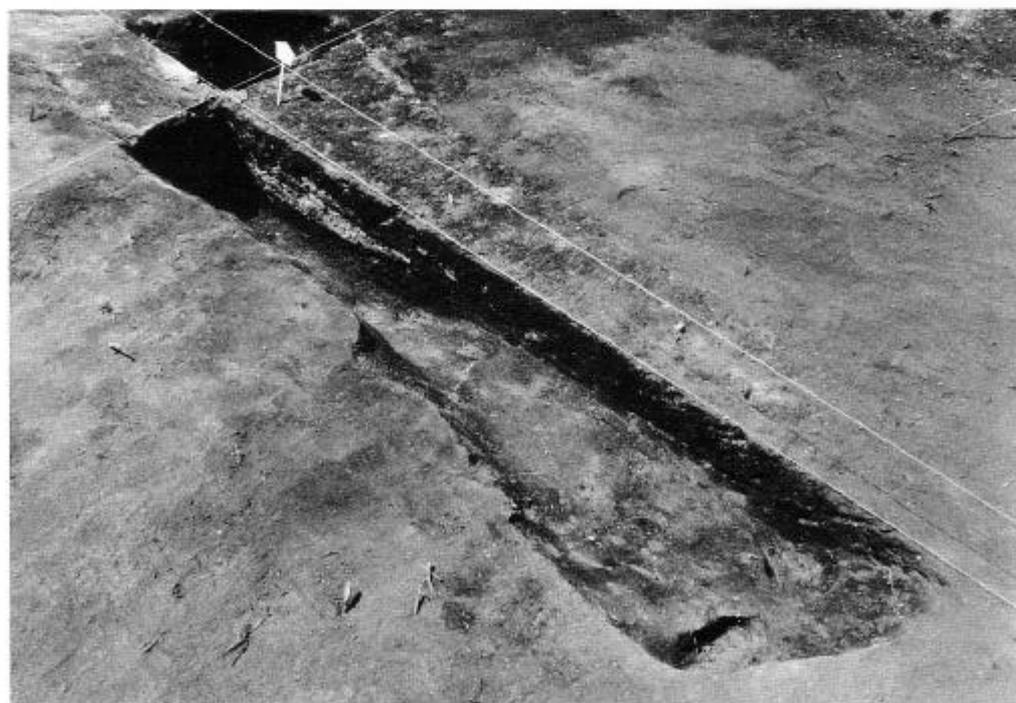
S X (F) 32土層堆積状況



S X (F) 33プラン確認状況



S X (F) 34土層堆積状況

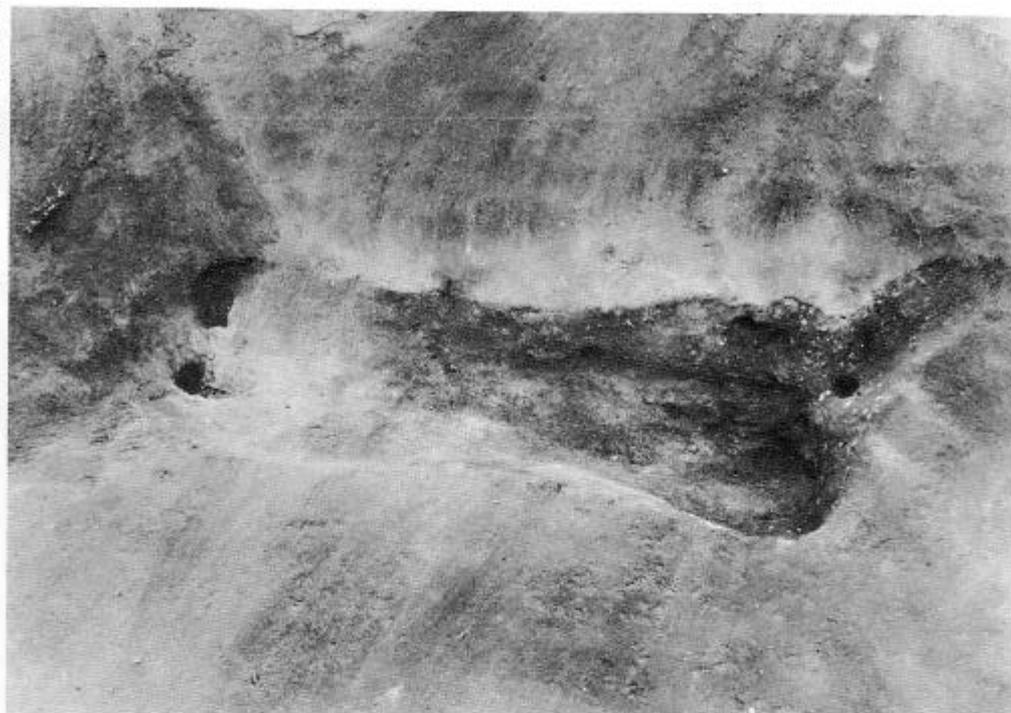


S X (F) 36土層堆積状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版48

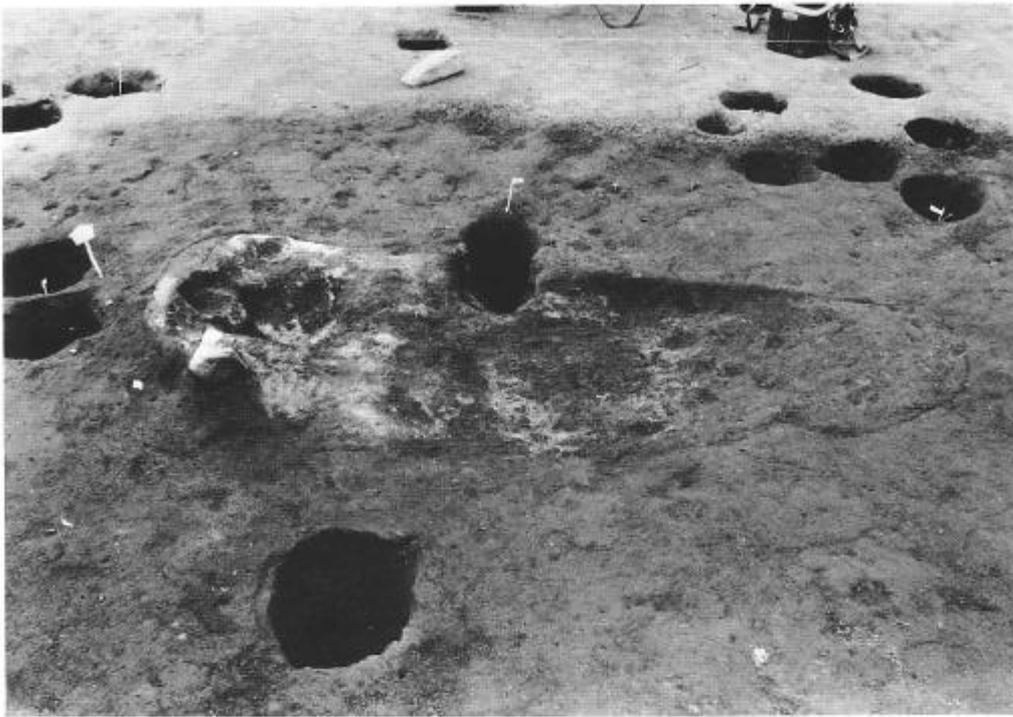
焼土遺構(5)



(上) SX(F)36
完掘状況



SX(F)41
プラン確認状況



SX(F) 41精査状況



SX(F) 41土層堆積状況

妻の神田遺跡

図版 50

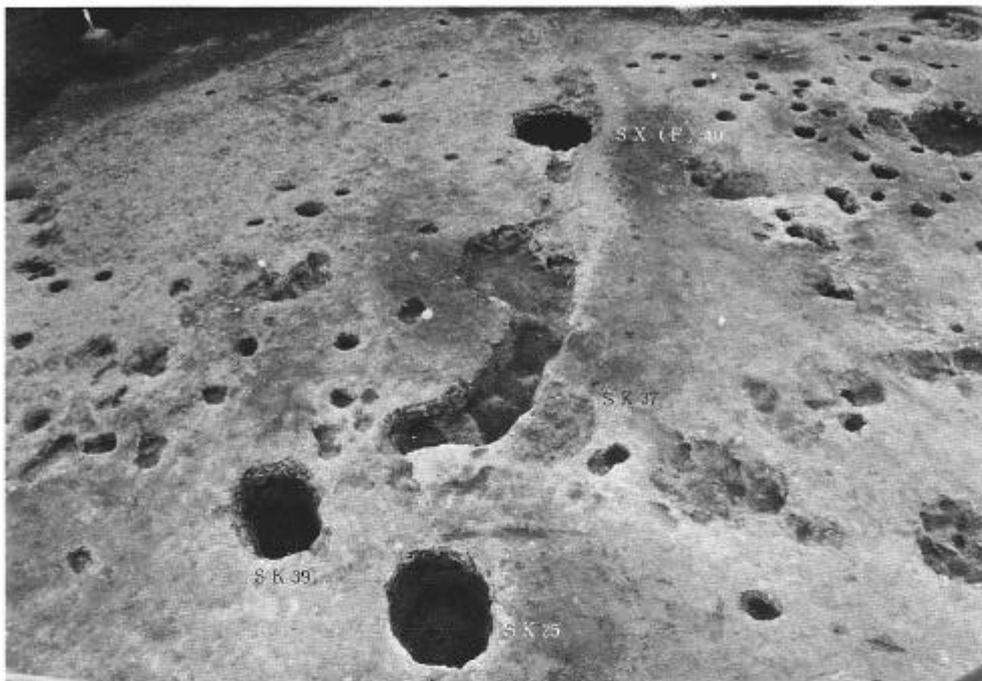
焼土遺構 (7)



(上)
SX (F) 42・SX (F) 45
プラン確認状況



(下)
SX (F) 45完掘状況



(上)
SD 3 完掘状況



SD 4・SD 5 完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版 52

溝状遺構(2)



S D 5・S I 40完掘状況

S D 6完掘状況





SD 8・SD 9 配置状況

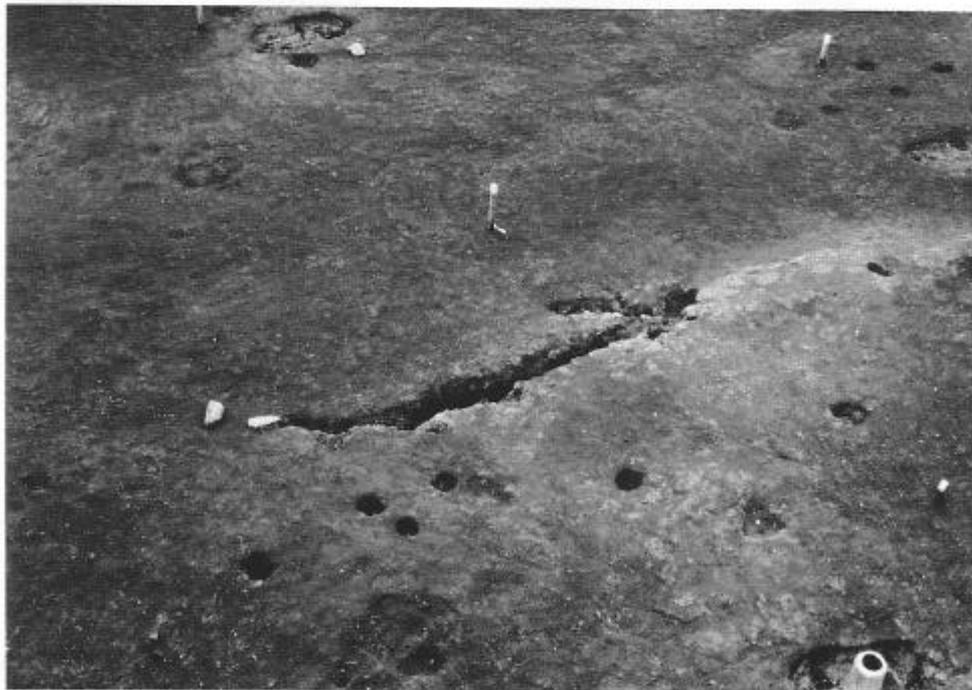
妻の神Ⅲ遺跡

図版 53

溝状遺構 (3)

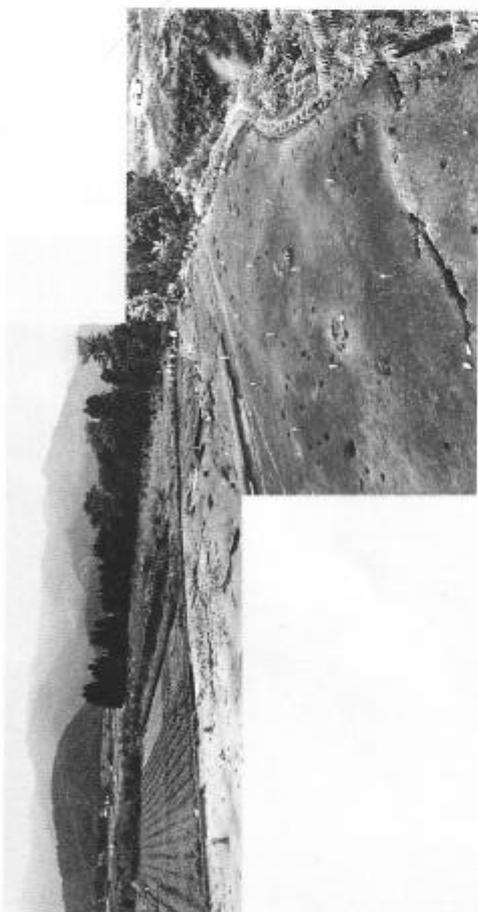
(SD 9はSA 1の延長部と考えられる)

(下)
SD11完掘状況



妻の神Ⅲ遺跡

図版54
冊列跡



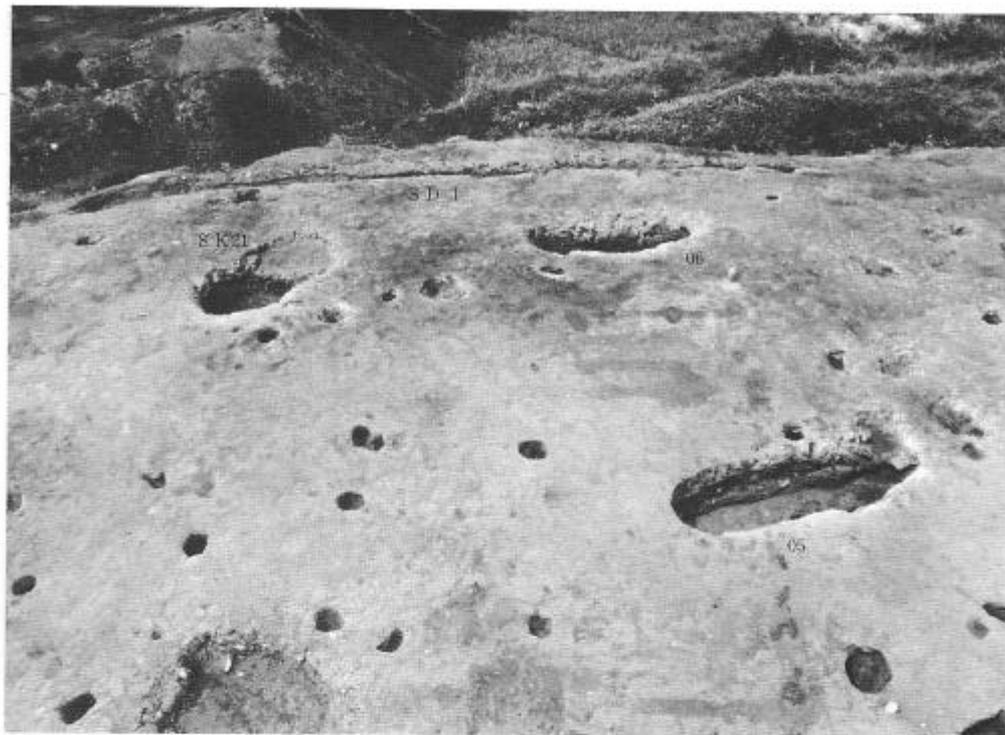
SA 1は柱穴列と溝状遺構が対をなしている。



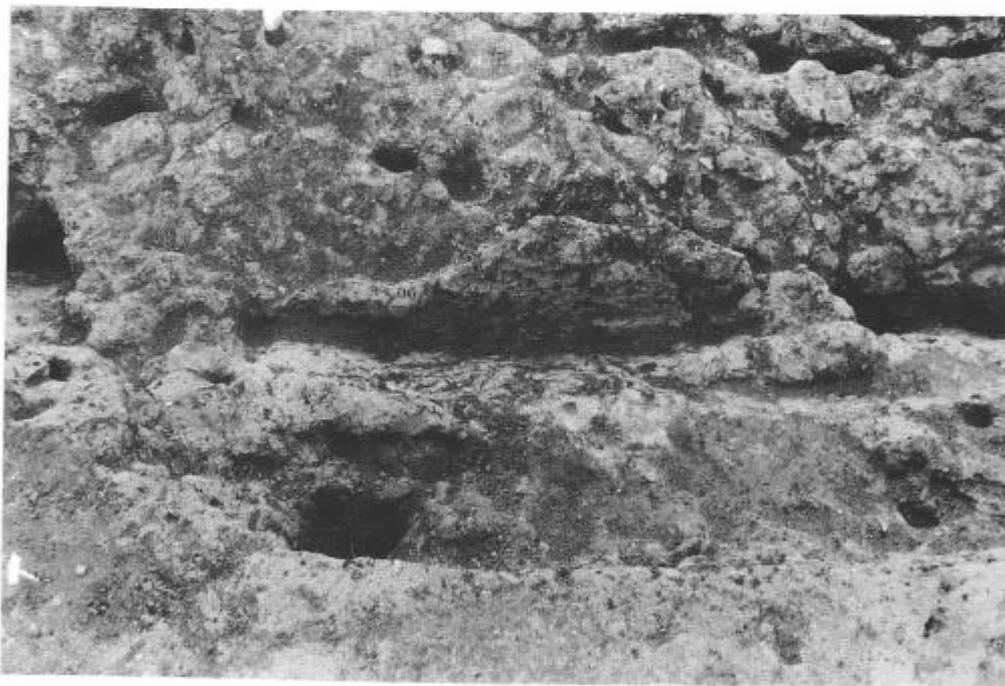


(上)
SK(T) 01・SK(T) 02・SK(T) 04
配置状況

SK(T) 02完掘状況



S K (T) 05 ・ S K (T) 06配置状況



S K (T) 06完掘状況



S K (T) 07 ・ S K (T) 08 ・ S K (T) 09配置状況



S K (T) 09完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版58

Tピット(4)



S K (T) 10完掘状況



S K (T) 11完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡 Tピット(4) S K (T) 10完掘状況 S K (T) 11完掘状況



S K (T) 13完掘状況



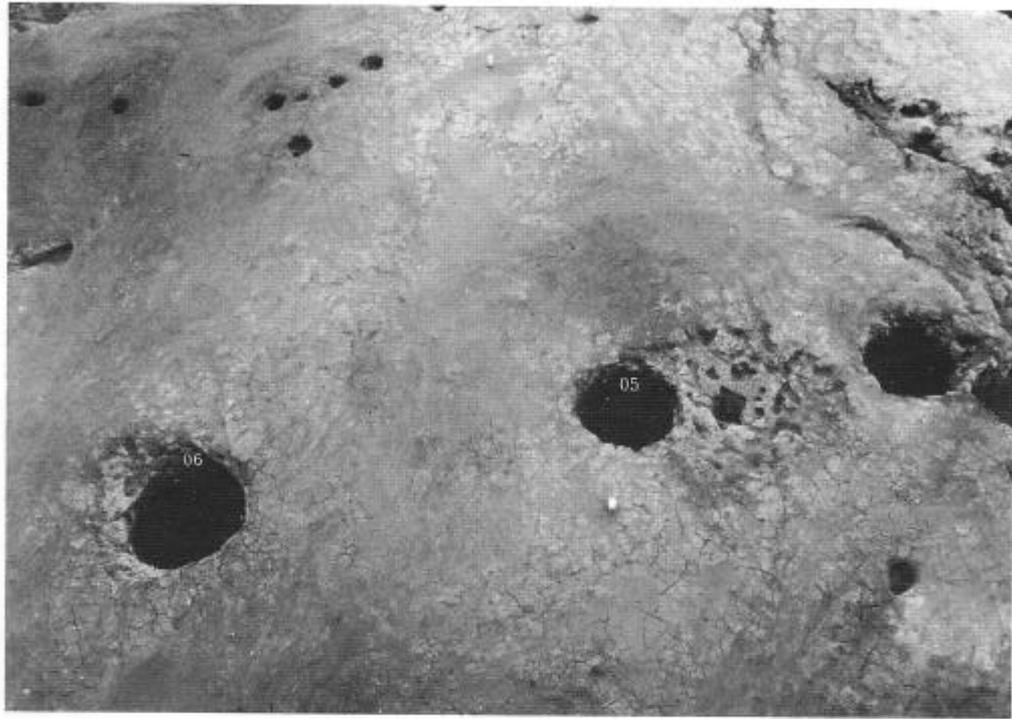
作業状況 (25ライン~27ラインの東側)

妻の神Ⅲ遺跡

図版
60

土

壙
(1)

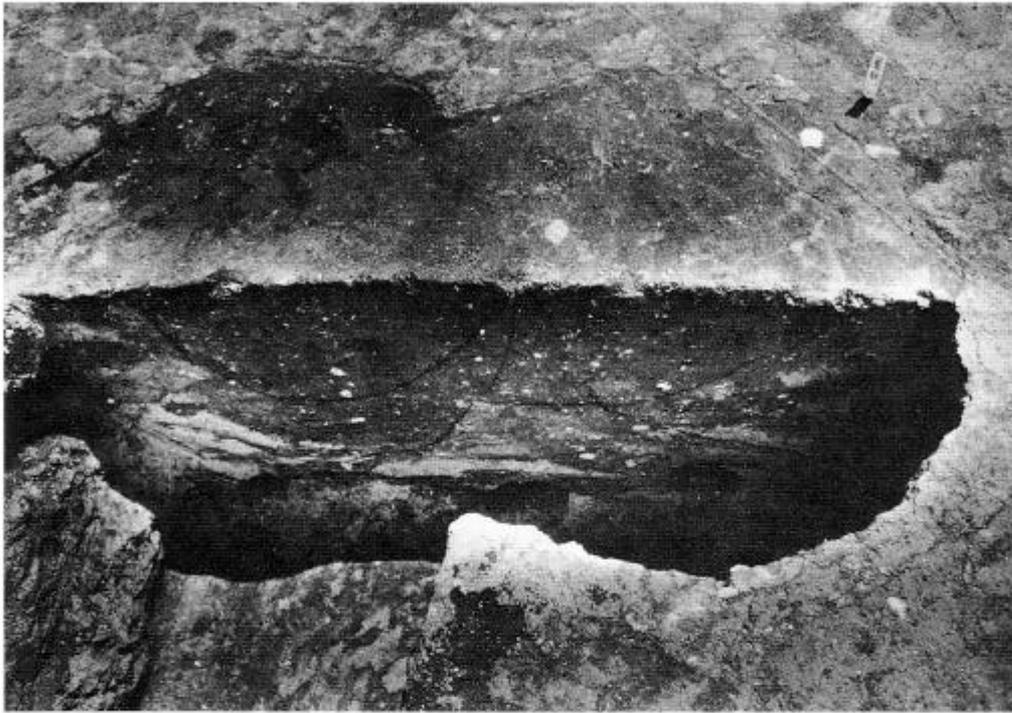


S K 01・S K 05・S K 06配置状況



S K 01完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡 土壙 (1) S K 01 完掘状況



S K 03覆土堆積状況



S K 05完掘状況

妻の神Ⅲ遺跡

図版62

土

壇(3)



S K 07完掘状況



S K 07・S K 42・S K 52・S K 59・S K 60配置状況

妻の神Ⅲ遺跡



S K (S) 53土壙墓人骨出土状況 (南側から撮影)



S K (S) 54土壙墓人骨出土状況 (南側から撮影)

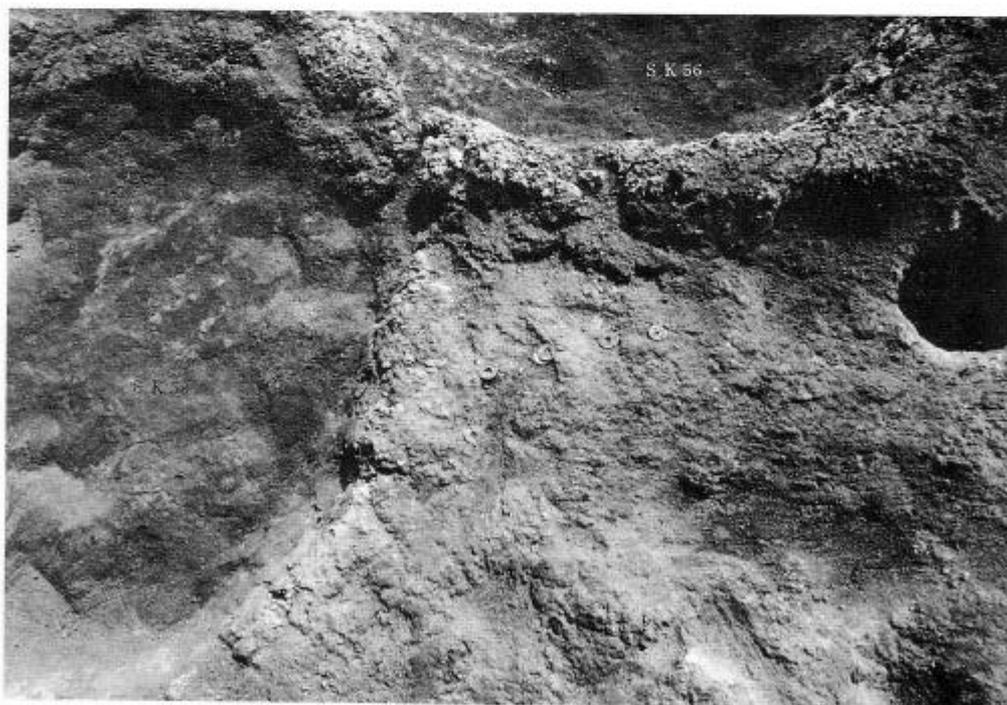
妻の神Ⅲ遺跡

図版64

土壙墓(2)

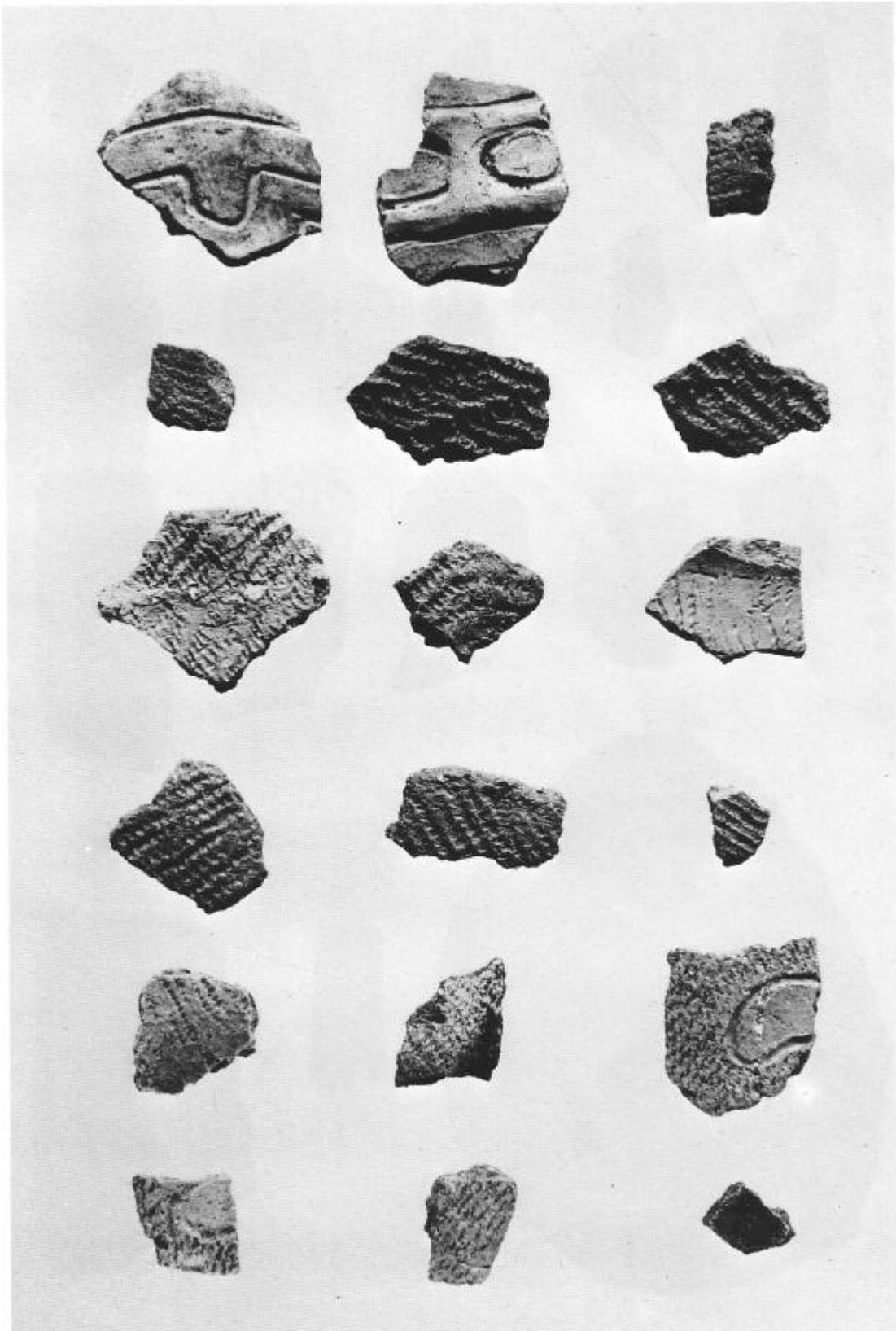


S K (S) 57土壙墓



S K (S) 57土壙墓埋納貨幣出土状況

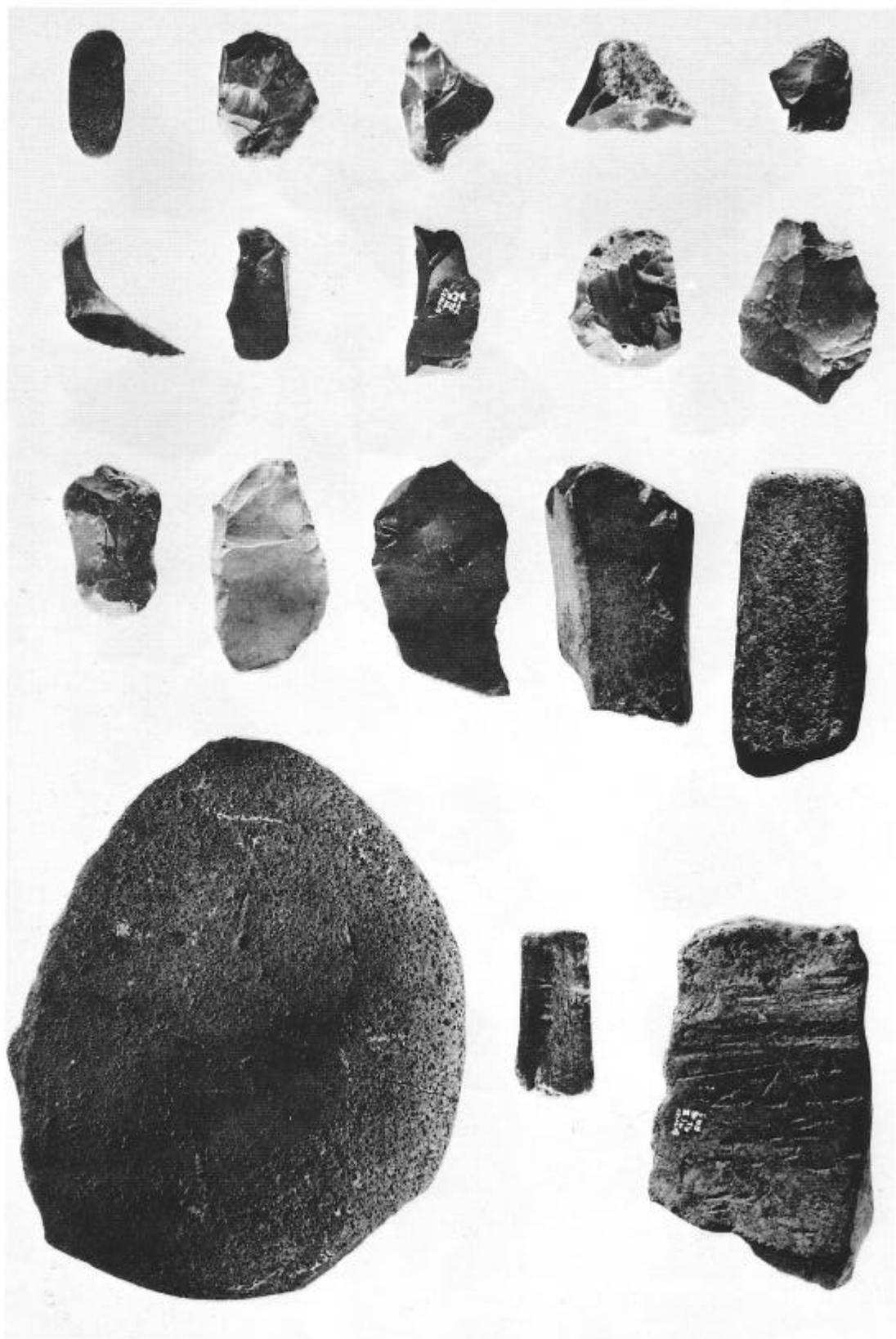
妻の神Ⅲ遺跡
図版65
遺構内出土土器



妻の神Ⅲ遺跡

図版 66

遺構内出土石器・剥片・礫



妻の神Ⅲ遺跡出土石器・剥片・礫



S 1 05-RM 1



S 1 05-RM 1



S 1 05-RM 1



14-G



S 1 05-RM 1



S 1 05RM 1



9-A



12-C



18-B



18-B



18-B



4-E



14-B



14-B



18-E



18-E



20-B



20-B



S 1 05-1



S 1 15



S K (S) 54



S 1 05-2



S 1 36



S K (S) 57-1



S 1 05-3



S K (S) 53-1



S K (S) 57-2



S 1 05-4



S K (S) 53-2



S K (S) 57-3



S 1 05-5



S K (S) 53-3



S K (S) 57-4



S 1 05-6



S K (S) 53-4



S K (S) 57-5



S K (S) 57-6

妻の神Ⅲ遺跡

図版 68

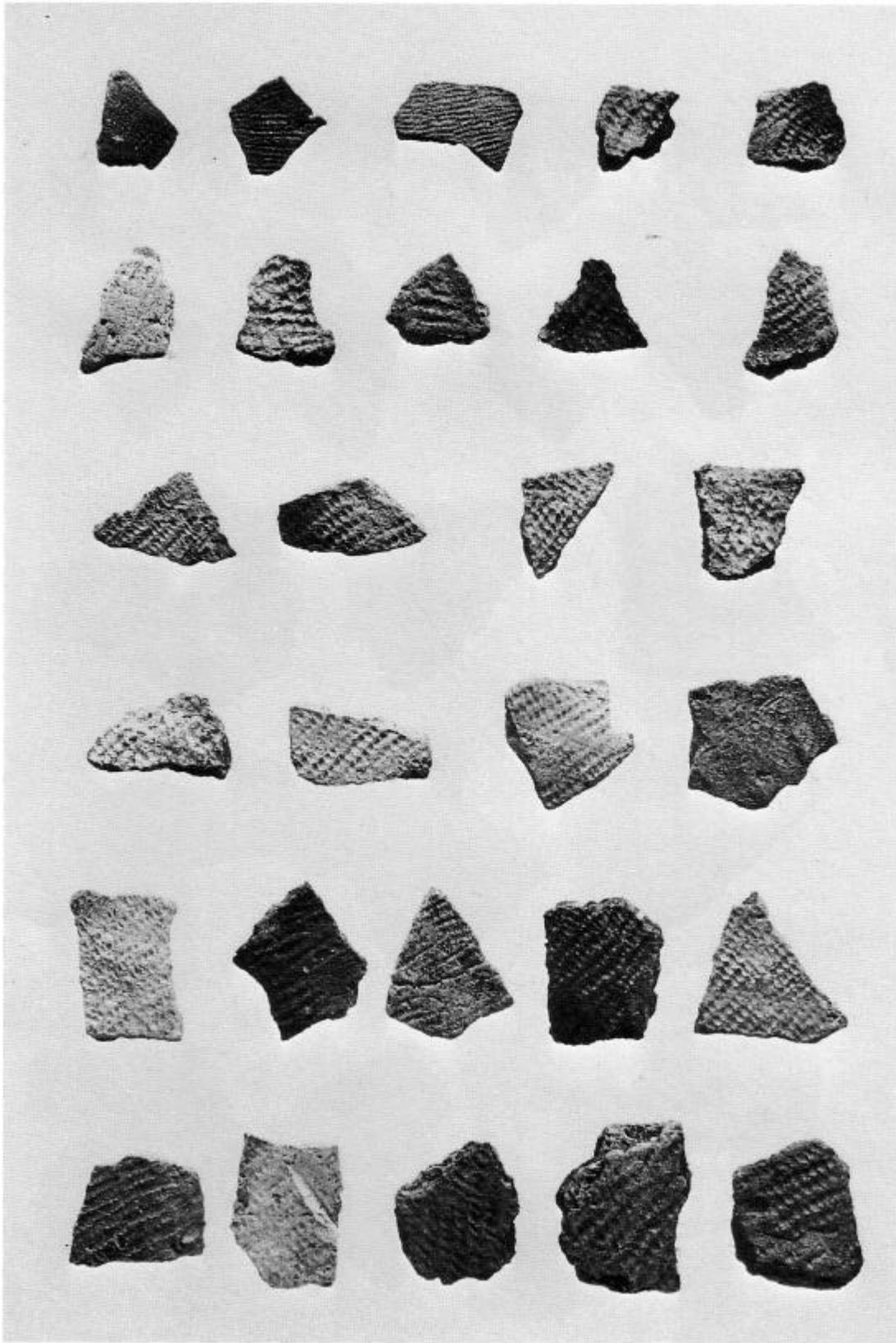
出土土器(1)



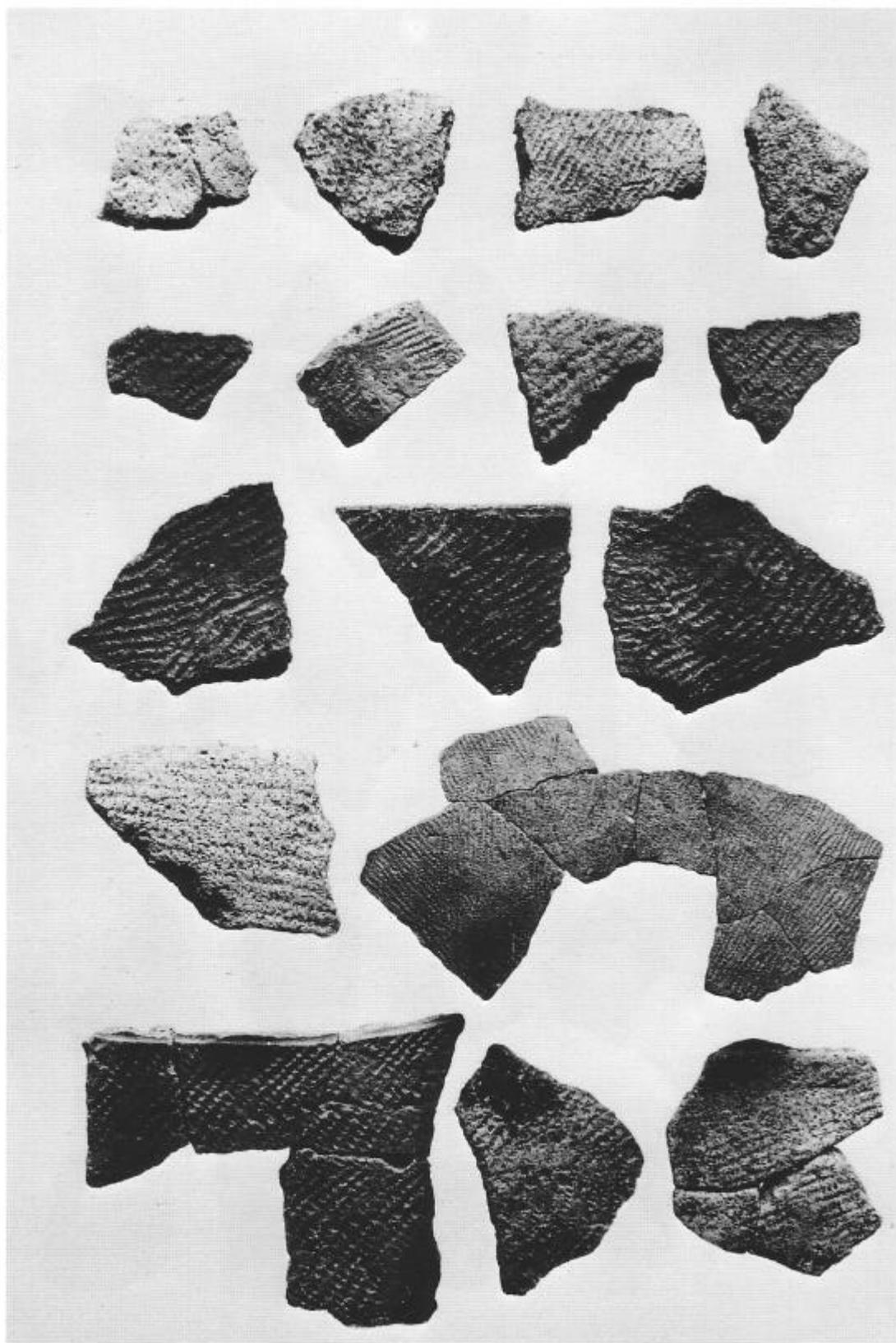
妻の神Ⅲ遺跡

図版69

出土土器(2)

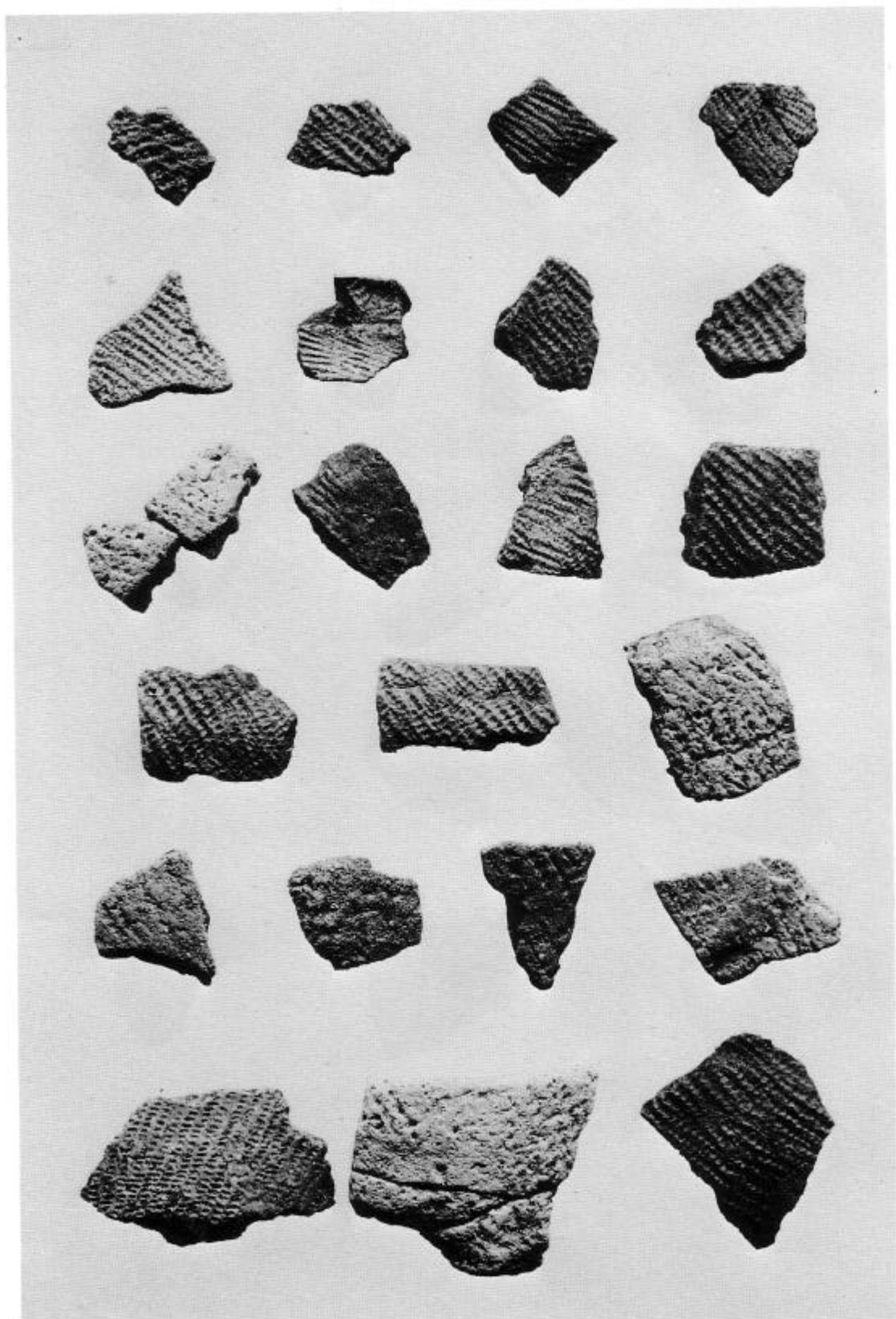


妻の神Ⅲ遺跡 図版70 出土土器(3)



妻の神Ⅲ遺跡 出土土器(3) 図版70

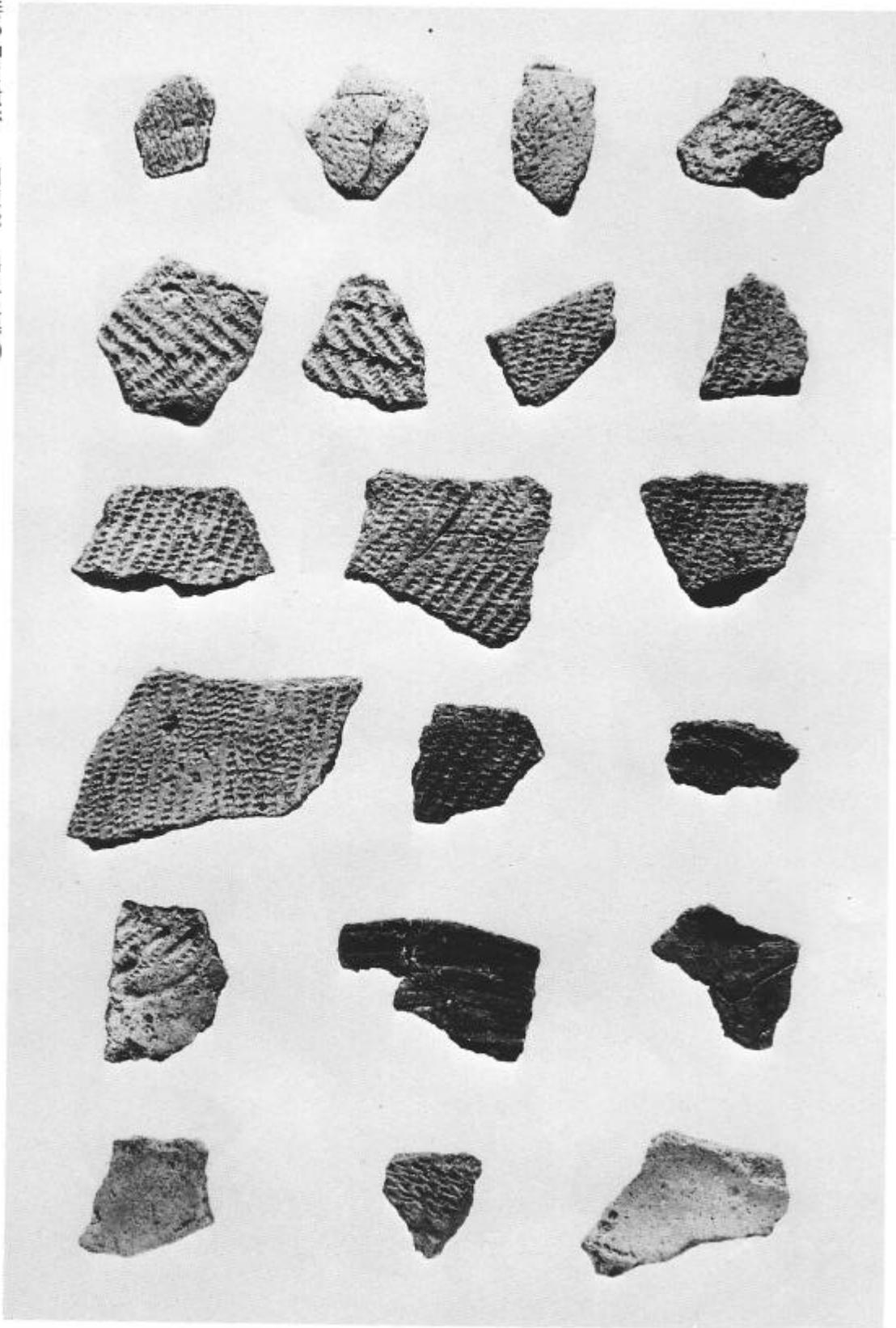
妻の神Ⅲ遺跡 図版71 出土土器(4)



妻の神Ⅲ遺跡

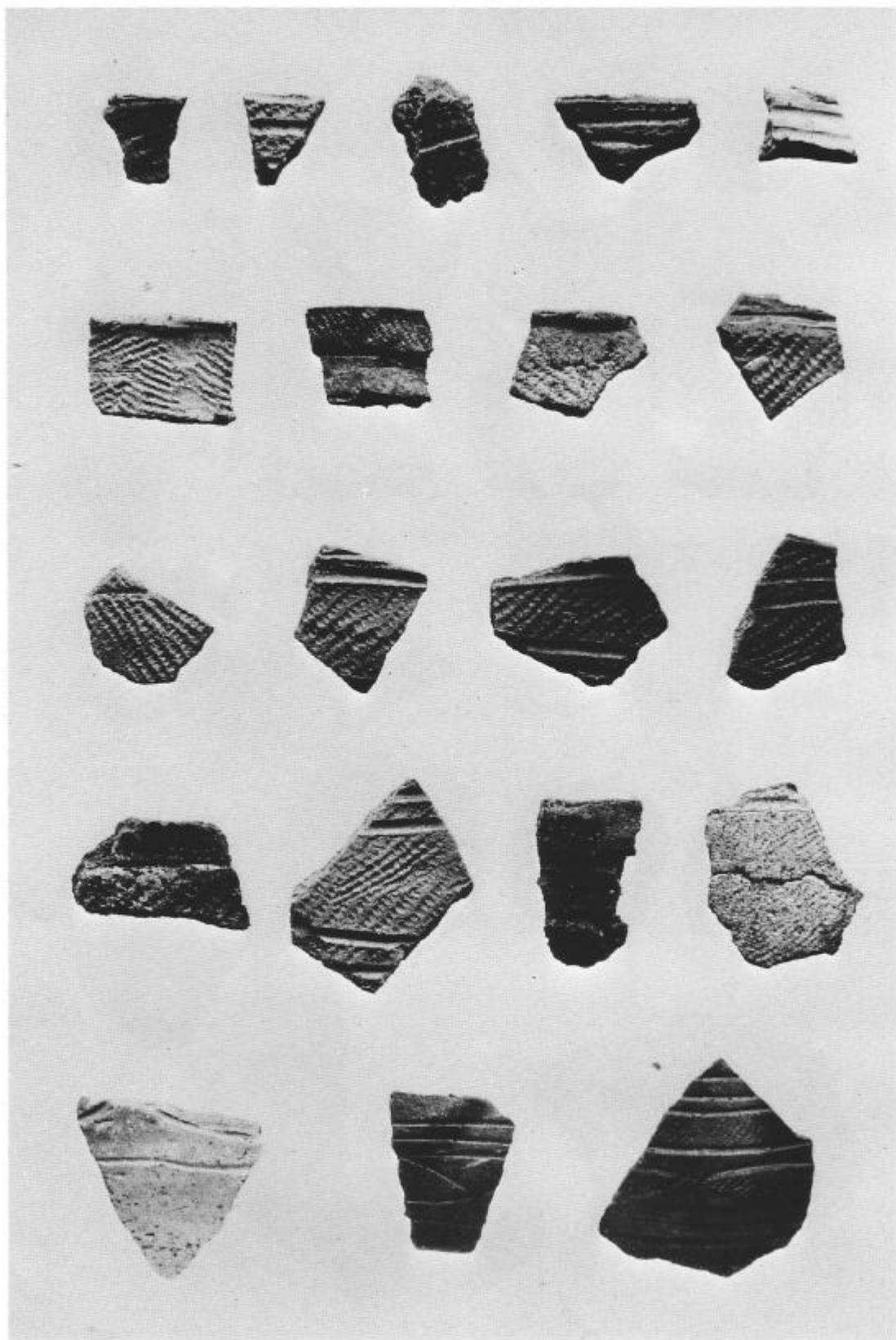
図版
72

出土土器
(5)



妻の神Ⅲ遺跡出土土器(5) 図版72

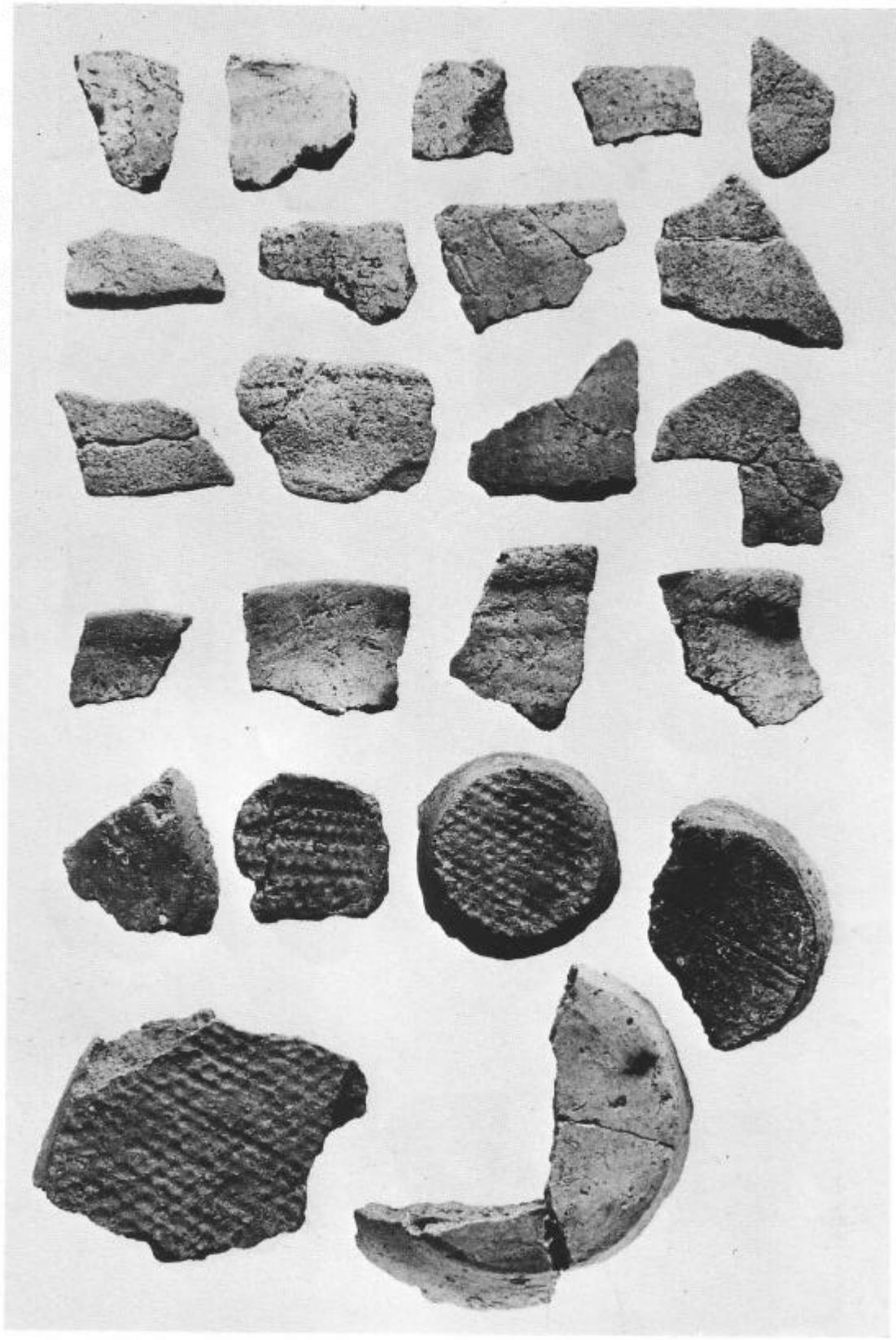
妻の神Ⅲ遺跡 図版73 出土土器(6)



妻の神Ⅲ遺跡

図版 74

出土土器(7)



妻の神Ⅲ遺跡出土土器(7) 図版74

妻の神Ⅲ遺跡 図版75 遺構外出土石器・剥片



カラー1図 妻の神Ⅰ出土炭化粒

a 焼粃米



b 焼玄米



カラー2図 妻の神Ⅲ出土

a 焼アズキ



カラー3図 妻の神Ⅲ出土

a 焼アワ粒塊



b 焼稲穂塊



c 焼粃米とアワ粒塊



d 焼アワ粒と茎葉(稈)塊



カラー4図 案内Ⅲ出土炭化粒

a 焼米塊



b 焼米塊



c 焼豆



膨脹粒

大粒



中粒

小粒

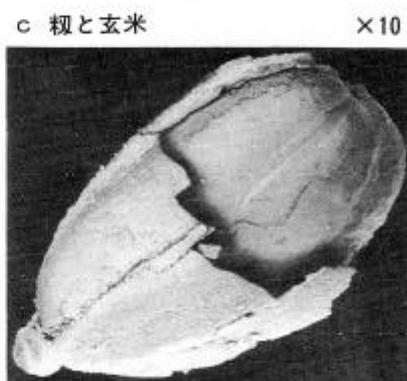
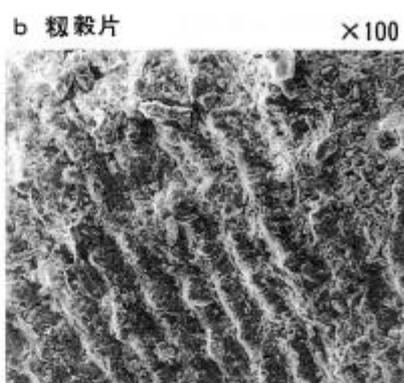
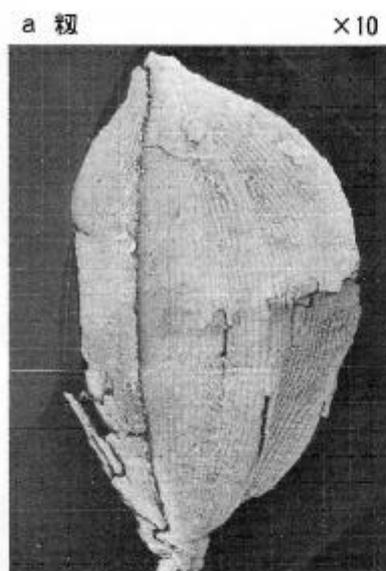
d 焼豆の篩別け



4 mm以上

2.5~4 mm

第1図 妻の神I 出土炭化粒

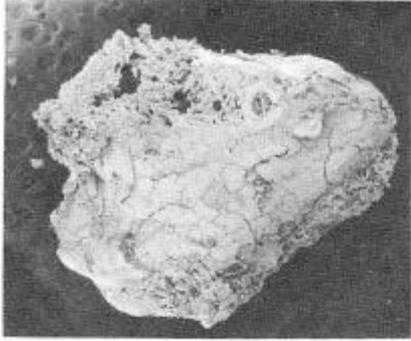


第2図 妻の神I 出土炭化粒

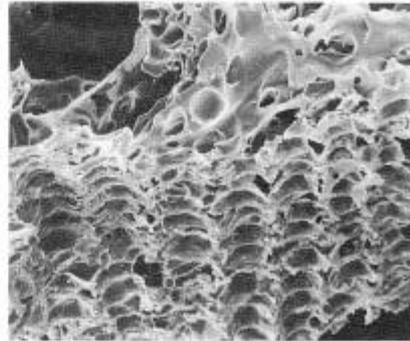


第3図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

a 粳片のある膨脹米 $\times 10$

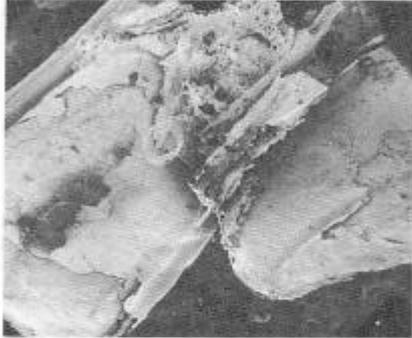


b 同左の粳片 $\times 100$

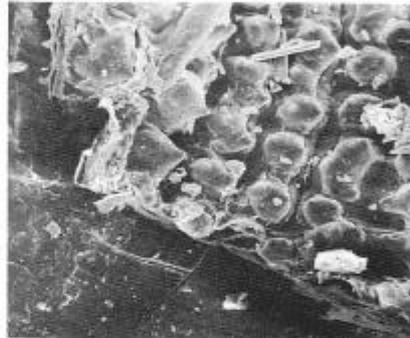


第4図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

a 穂軸と粳米 $\times 10$

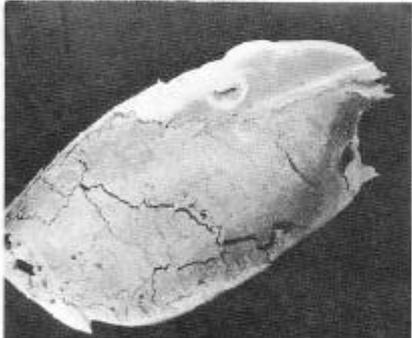


b 同左の粳片

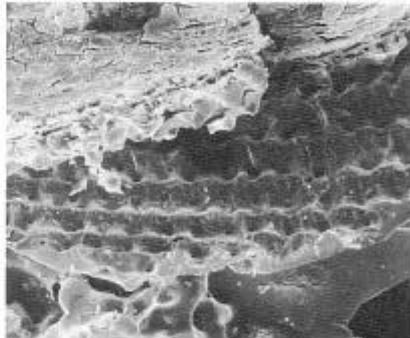


第5図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

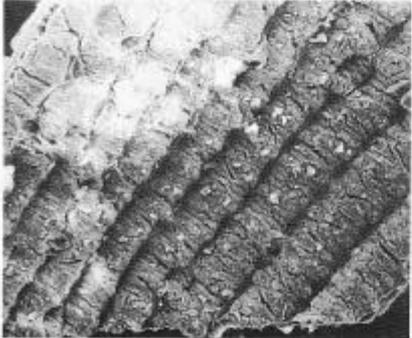
a 玄米と粳片 $\times 10$



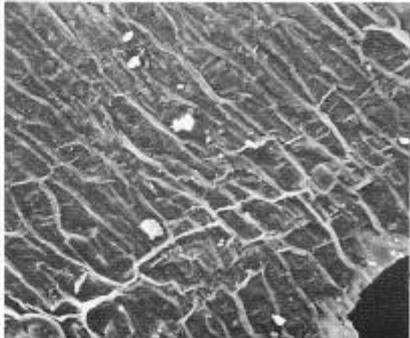
b 同左の粳片 $\times 100$



c 同上の粳片 $\times 100$



d 同上の玄米の部分 $\times 200$



第6図 案内Ⅲ出土炭化粒

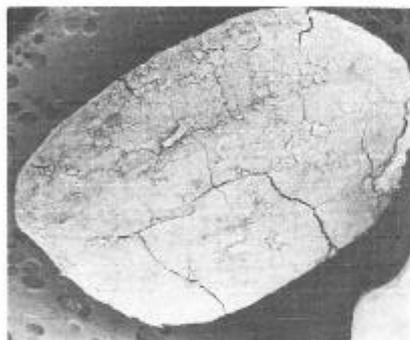
a 玄米と粳片 ×10



b 玄米と粳片 ×500



c 玄米 ×10

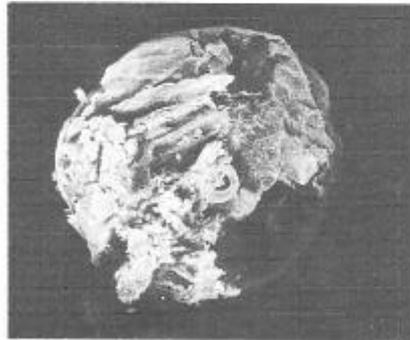


d 膨脹玄米 ×10

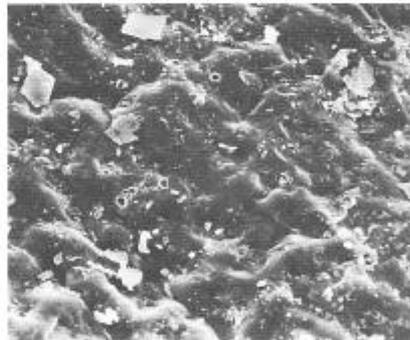


第7図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

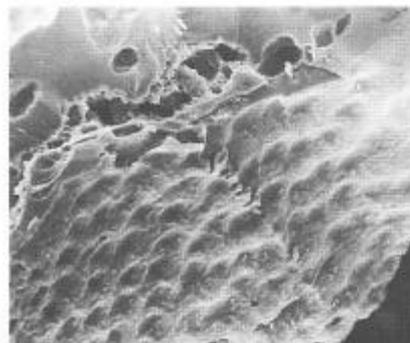
a アワ ×25



b 同左 ×500



c 同上 ×150

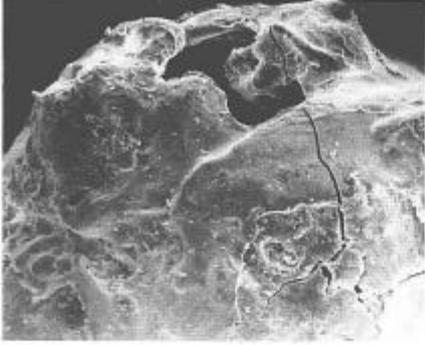


d 同左 ×500



第8図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

a アワ ×50



b 同左 ×250



c アワ塊 ×10

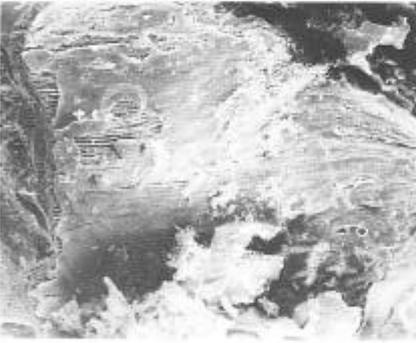


d 炭化木片 ×200

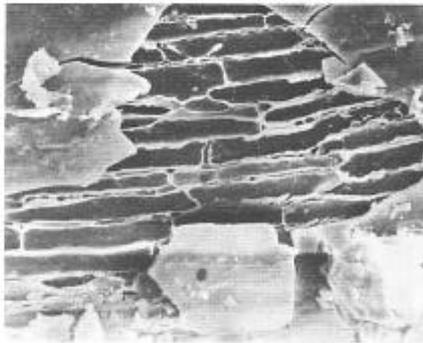


第9図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

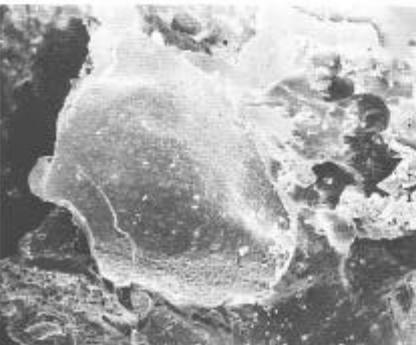
b シソ類の粒片の表面 ×50



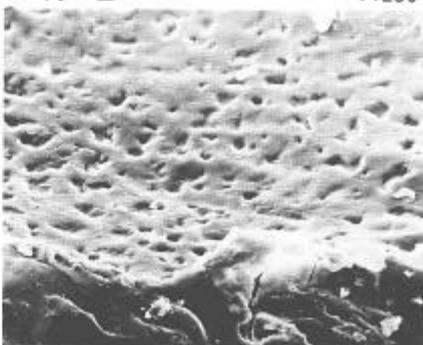
b 同左 ×250



c シソ類粒の内果皮片 ×50

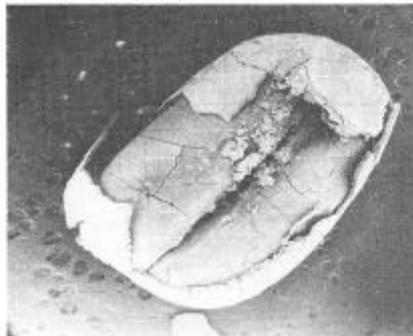


d 同左 ×250



第10図 案内Ⅲ出土炭化粒

a アズキ(小粒) ×10



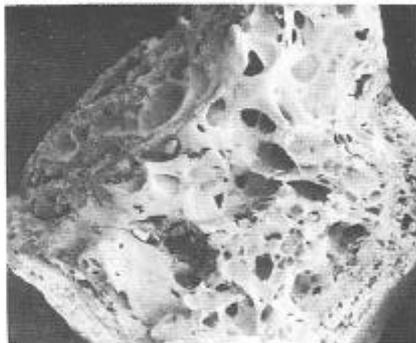
b アズキ(中粒) ×10



c アズキ(膨脹粒) ×10



d ダイズ?(膨脹粒) ×10



第11図 妻の神Ⅲ出土炭化粒

a アズキ(大粒) ×10

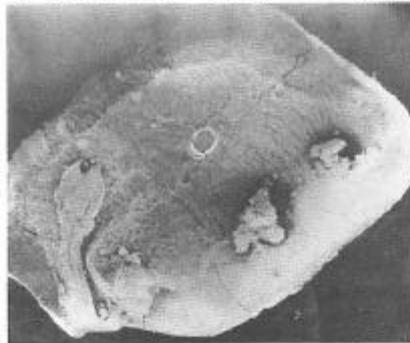


b 同左 ×1000



第12図 案内Ⅲ出土炭化粒

a アズキ(幼芽・子葉) ×10



b 同左(子葉) ×250

